

青森県埋蔵文化財調査報告書第143集

富ノ沢(2)遺跡Ⅴ

発掘調査報告書(2)

平成3年度

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書第143集

富ノ沢(2)遺跡Ⅴ

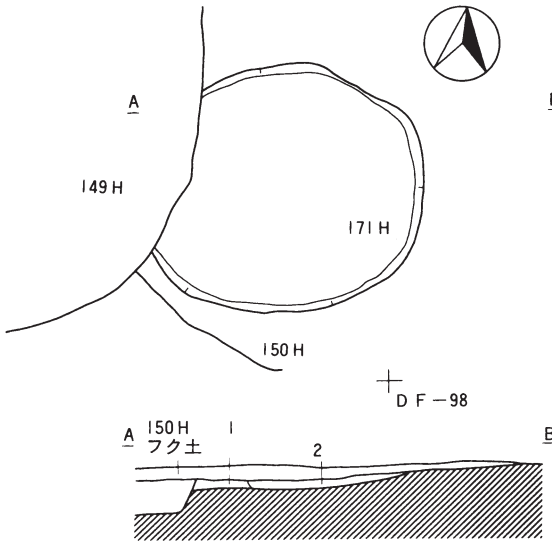
発掘調査報告書(2)

平成3年度

青森県教育委員会

第171号住居跡（第382図）

〈位置と確認〉 調査区ほぼ中央のD F-98グリッドに位置している。第105号住居跡の床面下に黒褐色土の落ち込みを確認した。



第171号住居跡土層注記
第1層 暗褐色 (10Y R $\frac{2}{5}$) 10mm L・B少量
第2層 暗褐色 (10Y R $\frac{3}{5}$) ローム粒少量

第382図 第171号住居跡

〈重複〉 第149号、150号住居跡と重複しており本住居跡はいずれの住居跡より古い。

〈平面形・規模〉 径2mの不整な円形である。床面積は推定で3.09㎡である。

〈壁・床面〉 各壁ともに床面から緩やかに立ち上がる。床面は、全面に貼り床がなされ堅緻な造りである。

〈壁溝〉 認められなかった。

〈柱穴〉 認められなかった。

〈炉〉 認められなかった。

〈特殊施設〉 認められなかった。

〈堆積土〉 重複により薄い、2層に分層できた。人為的堆積の可能性が高い。

〈出土遺物〉 出土しなかった。

〈小結〉 本住居跡は重複関係から円筒上層c式期～榎林式期に構築された可能性が高い。
(三浦 孝仁)

第173号住居跡（第383～385図）

〈位置と確認〉 調査区DE・D F-135・136グリッドに位置している。第IV層を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

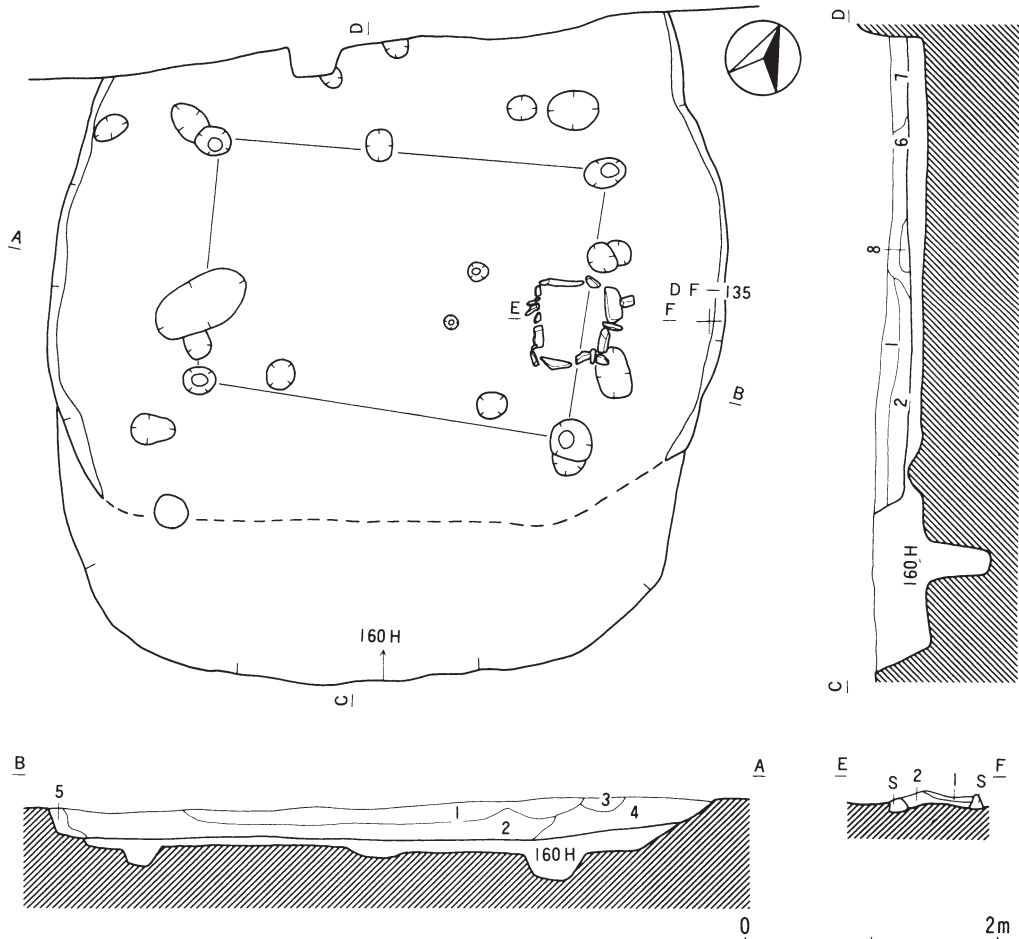
〈重複〉 第160号住居跡と重複し、新旧関係は本住居跡が新しい。

〈平面形・規模〉 残存部から推定すると、方形を呈すると思われる。規模は、長軸(5m32cm)・短軸(3m82cm)を測る。

〈壁・床面〉 上端から床面にかけて傾斜しており、軟らかい造りである。壁高は、東壁22cm・西壁21cm・南壁24cm・北壁は不明である。

〈柱穴〉 ピット1～4の4本が主柱穴と思われる。他のピットは第160号住居跡のピットかどうか判断できなかった。

〈炉〉 東壁寄りに位置している。礫(丸みのある安山岩)を用い方形に組んだ石囲炉であ



第173号住居跡土層注記

- | | |
|------------------|-----------------|
| 第1層 暗褐色 10 Y R% | ローム粒若干含む |
| 第2層 暗褐色 10 Y R% | ローム粒少量含む |
| 第3層 褐色 7.5 Y R% | ローム粒少量、炭化物若干含む |
| 第4層 黒褐色 10 Y R% | ローム粒多量・炭化物若干含む |
| 第5層 黄褐色 10 Y R% | ローム粒、炭化物少量含む。 |
| 第6層 暗褐色 7.5 Y R% | ロームブロック混入、焼土粒含む |

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 第7層 にぶい 黄褐色 10 Y R% | 暗褐色土混入、ローム粒少量含む |
| 第8層 暗褐色 10 Y R% | 焼土を全体に含む |

第173号住居跡炉土層注記

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 第1層 暗褐色 10 Y R% | 焼土粒、ローム粒を若干含む |
| 第2層 黒褐色 10 Y R% | 炭化物、焼土粒、ローム粒を少量含む |

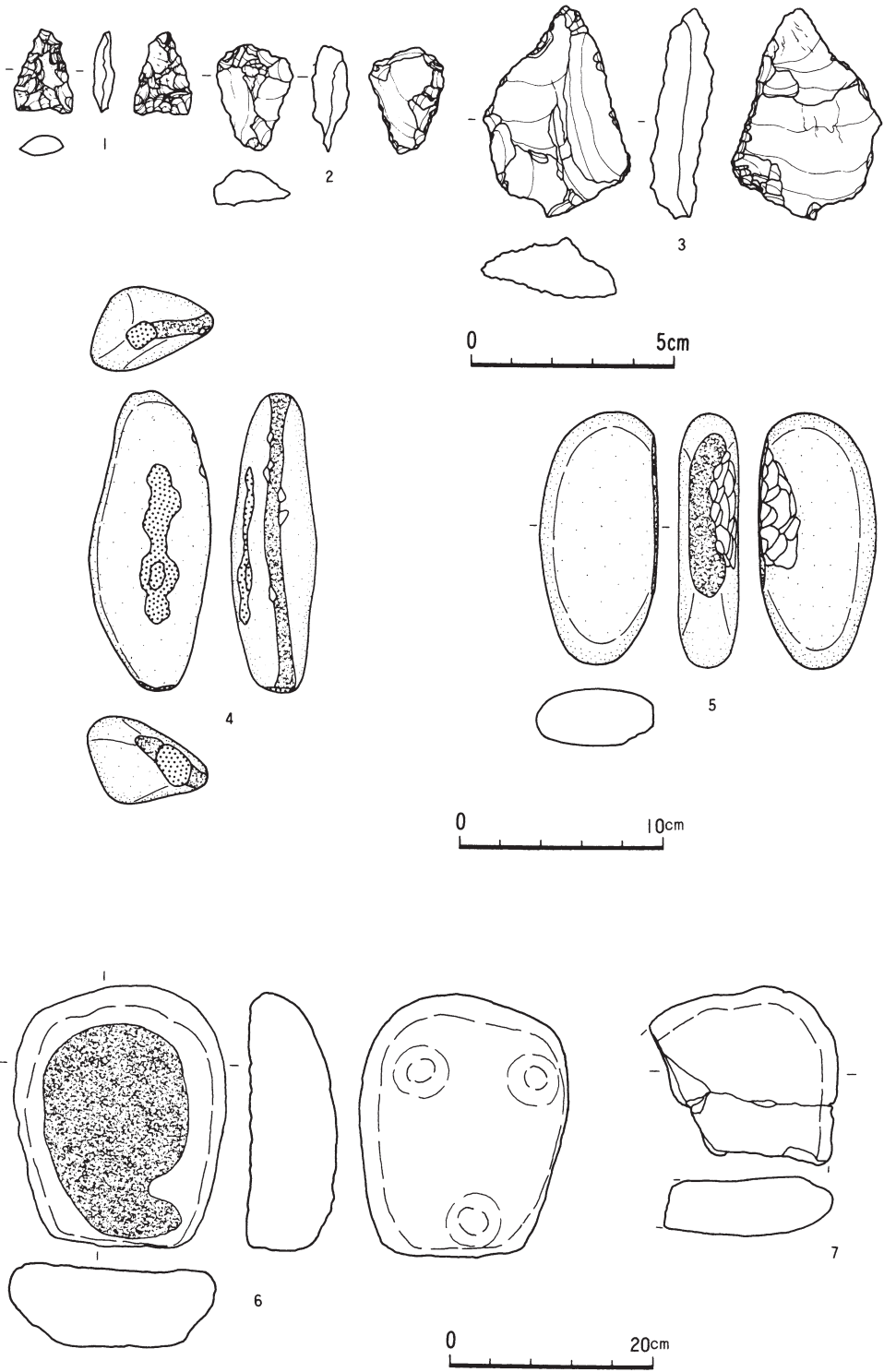
第383図 第173号住居跡(1)

る。規模は、長径74cm・短径67cm・深さ11cmを測る。

<特殊施設> 認められなかった。

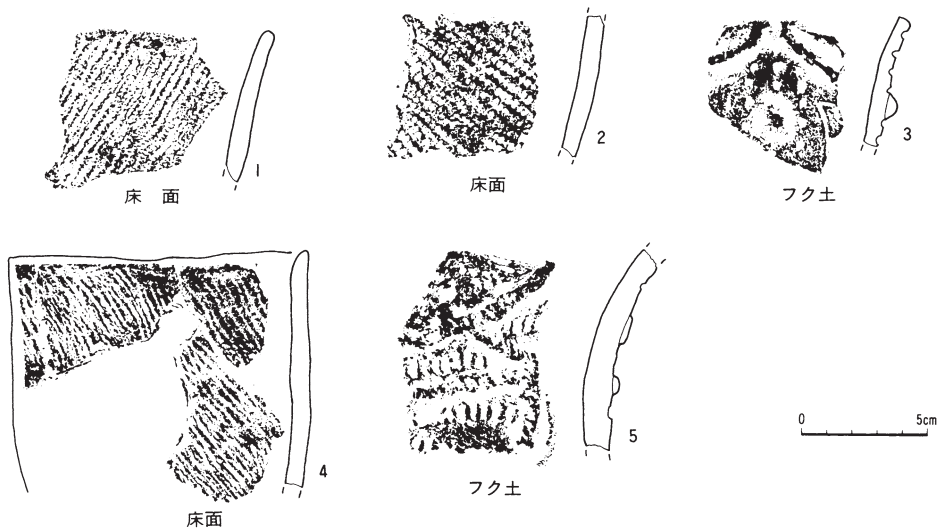
<堆積土> 8層に分層できた。堆積土中にローム・ロームブロックを多く含んでおり、人為堆積と思われる。

<出土遺物> 床面・床直から(1・2・4)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は、覆土から石鏃1点・不定形石器2点・敲磨器類1点・台石石皿2点、床直から敲磨器類1点が出土し、炉戸に台石・石皿類1点を使用している。出土石器の総数は8点である。



第384图 第173号住居跡2)

〈小結〉 床面出土の土器は、粗製の深鉢形土器であるが最花式か弥栄平(1)式に相当すると思われる。(成田 滋彦)



第385図 第173号住居跡(3)

第174号住居跡 (第386～389図)

〈位置と確認〉 本調査区ほぼ中央の平坦部CY-134、135グリッドに位置する。第Ⅲ層下面で暗褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 第432号、433号土壇と重複しており、本住居跡が新しい。

〈平面形・規模〉 南北に長い不整な隅丸長方形で、規模は、長軸5m30cm、短軸4m20cmである。

〈壁・床面〉 各壁ともほぼ垂直に立ち上がり堅緻である。壁高は、東壁62cm、西壁60cm、南壁95cm、北壁30cmである。床面はほぼ全面に貼り床がなされ、平坦で堅緻である。一部南側に段をもつ。この段は床面から15cm高く、長軸120cm、短軸30cmの規模である。

〈壁溝〉 途切れる部分もあるが、壁に沿って確認された。幅は15cm程で、深さは5、6cm程である。

〈柱穴〉 各柱の間隔が狭いもののP₁～P₈が支柱穴の可能性が高い。深さはP₁…167cm、P₂…49cm、P₃…71cm、P₄…64cm、P₅…27cm、P₆…63cm、P₇…38cm、P₈…47cmである。

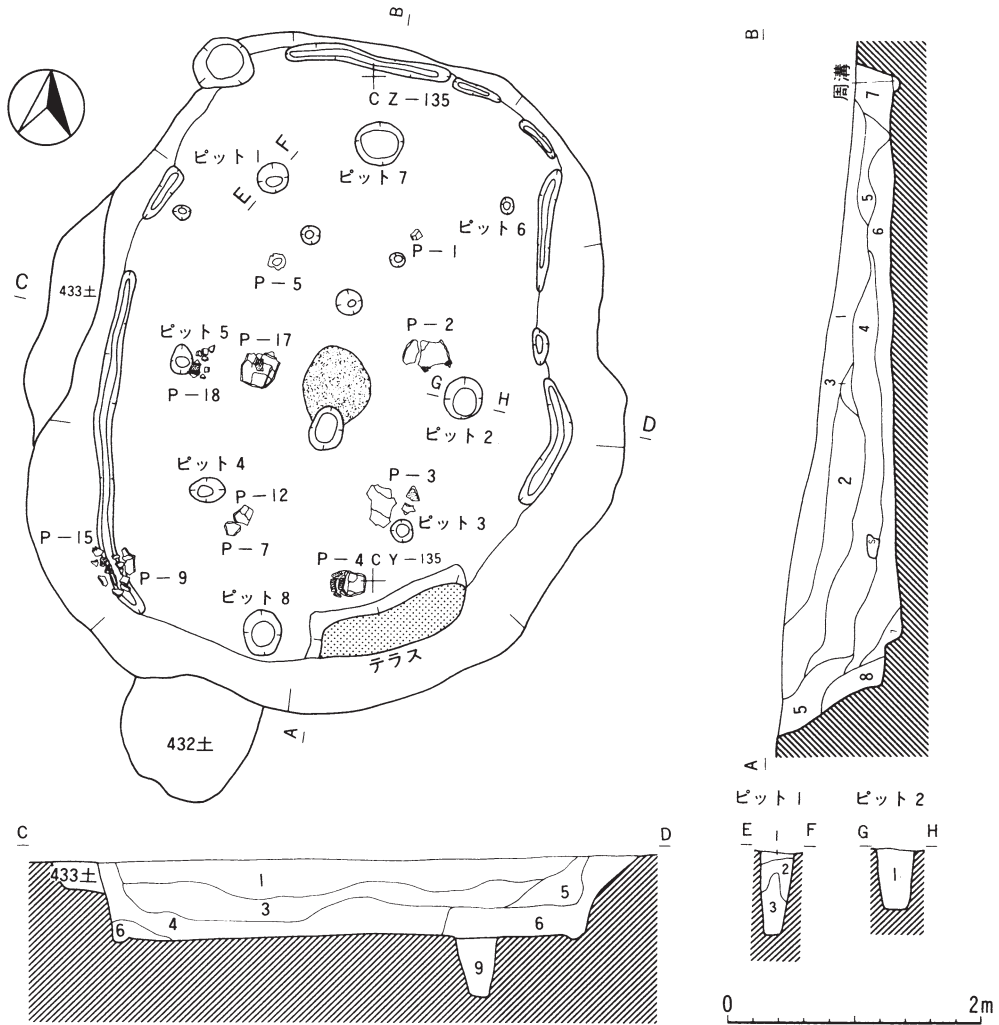
〈炉〉 住居のほぼ中央で焼土が確認された。規模は長軸65cm、短軸53cm、焼土の厚さは8cmである。

〈特殊施設〉 認められなかった。

〈堆積土〉 覆土下層に炭化粒を多く含む。人為的堆積の可能性が高い。

<出土遺物> 床面から円筒上層d式土器が出土している。石器は床面から不定形石器1点、
 敲磨器類2点、床面直上から石斧1点、敲磨器類1点、覆土から石鏃2点、石錐1点、不定形
 石器7点、石斧1点、敲磨器類4点、総数20点出土している。

<小結> 本住居跡は円筒上層d式期に構築されたと思われる。 (三浦 孝仁)



第174号住居跡土層注記

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 第1層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$ | 5~10mm L. B 微量 |
| 第2層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$ | 10~25mm L. B 少量 |
| 第3層 黒褐色 10Y R $\frac{3}{2}$ | ローム粒中量 |
| 第4層 黒褐色 10Y R $\frac{3}{2}$ | ローム粒、炭化粒少量 |
| 第5層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$ | 50~150mm L. B まばら |
| 第6層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$ | 5~10mm L. B 少量 |
| 第7層 褐色 10Y R $\frac{3}{4}$ | 30~50mm L. B 多量 |
| 第8層 黒褐色 10Y R $\frac{3}{2}$ | 20~50mm L. B まばら |
| 第9層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$ | ローム粒多量 |

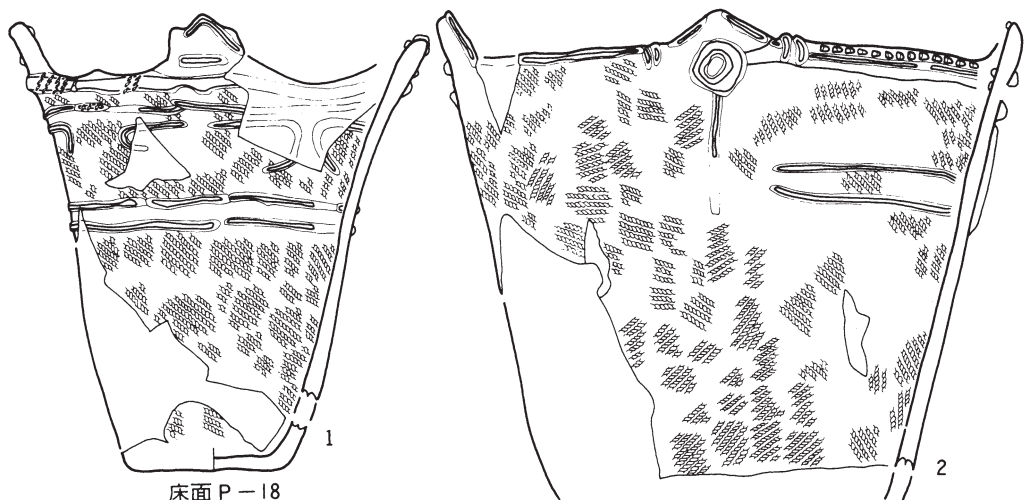
第174号住居跡ピット1土層注記

- | | |
|-----------------------------|---------|
| 第1層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$ | ローム粒中量 |
| 第2層 黄褐色 10Y R $\frac{5}{6}$ | 黒褐色土まばら |
| 第3層 黒褐色 10Y R $\frac{3}{2}$ | ローム粒微量 |

第174号住居跡ピット2土層注記

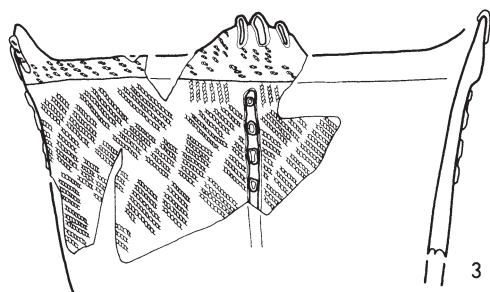
- | | |
|-----------------------------|--------|
| 第1層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$ | ローム粒多量 |
|-----------------------------|--------|

第386図 第174号住居跡(1)

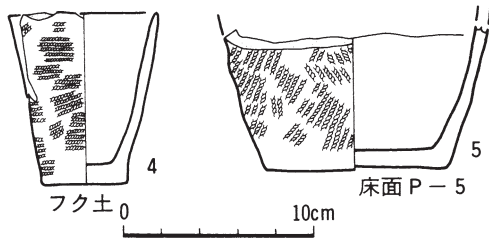


床面 P-18

フク土 P-2



フク土 P-1



フク土 0

床面 P-5

10cm



フク土



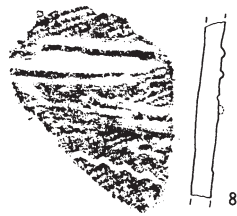
6



フク土



7



床面 P-5

8



フク土



9



フク土



10

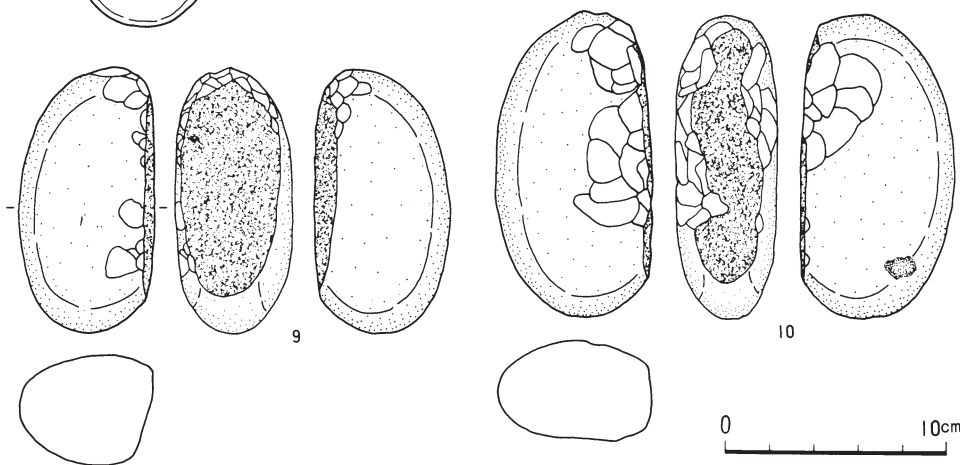
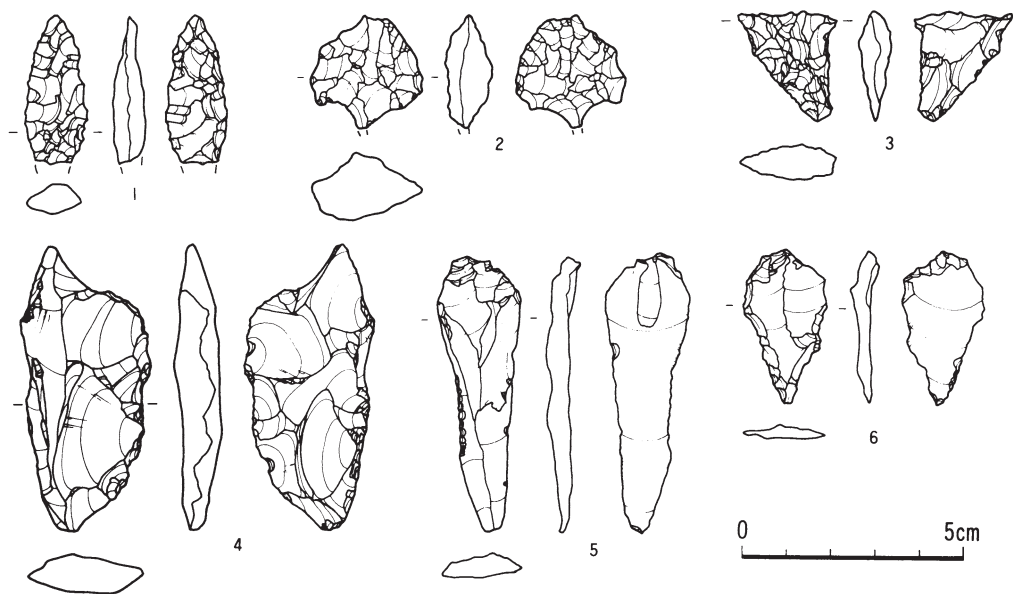
0 5cm



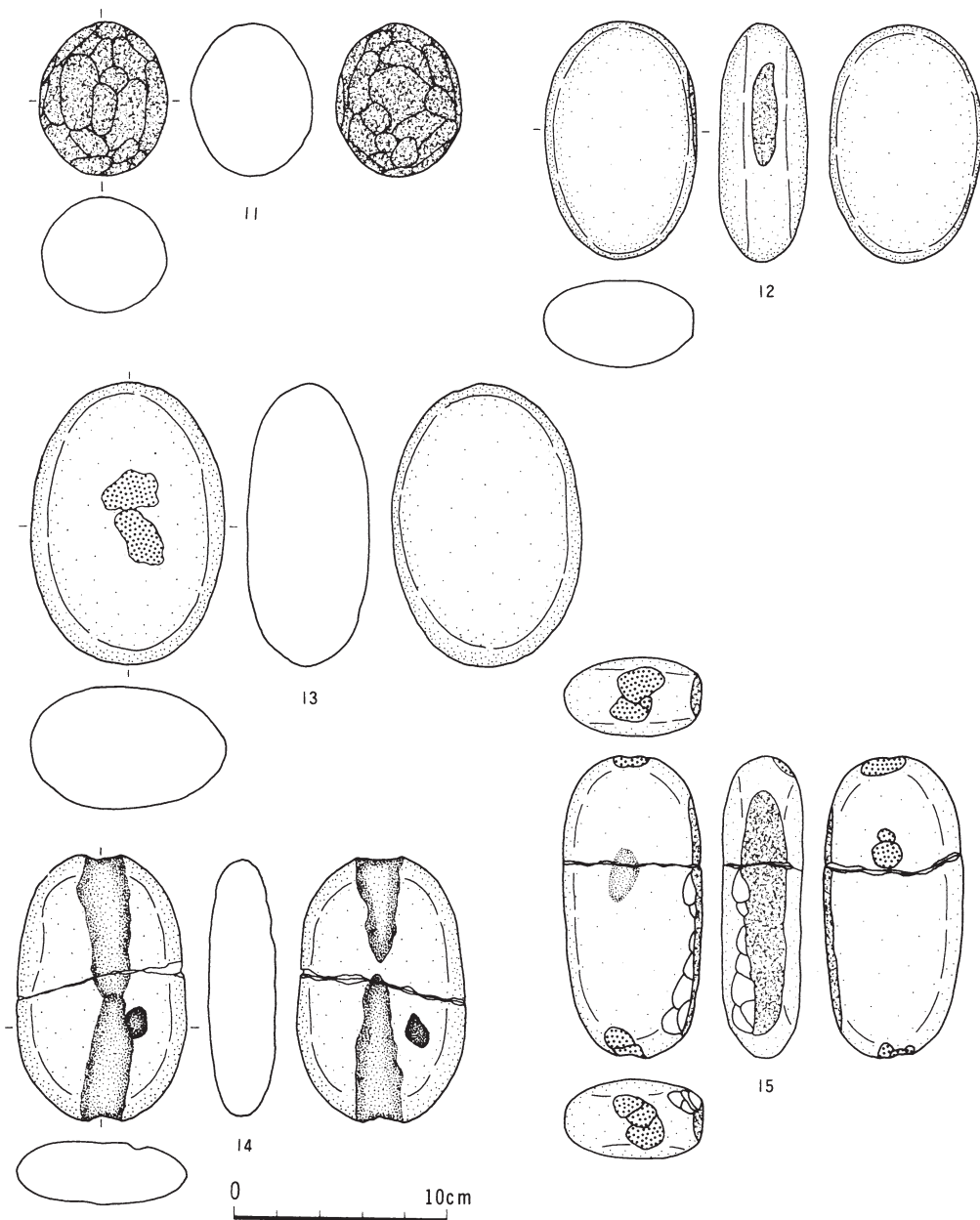
床面 P-5

11

第387図 第174号住居跡2)



第388图 第174号住居跡(3)



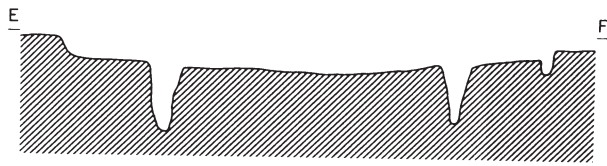
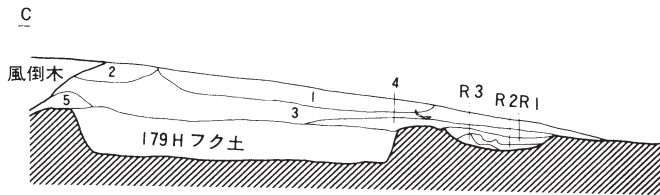
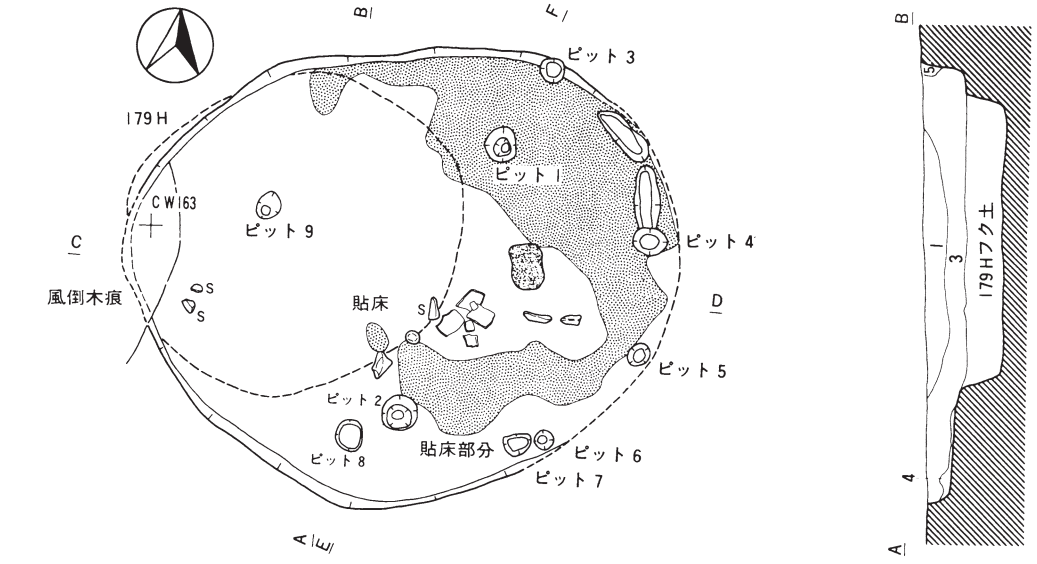
第389図 第174号住居跡(4)

第176号住居跡 (第390・391図)

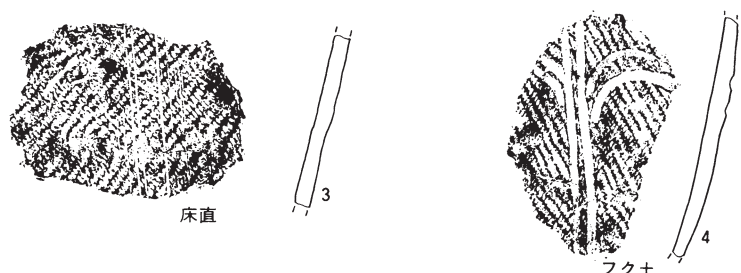
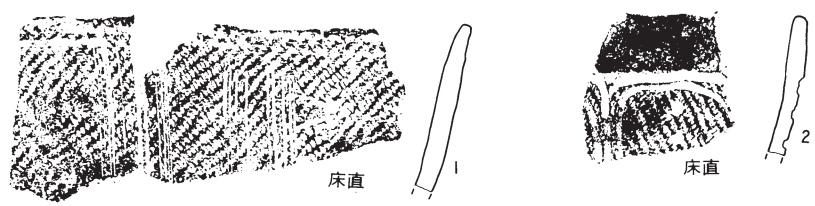
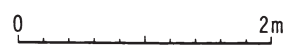
<位置と確認> CW-162グリットに位置し、暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 第179号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

<平面形・規模> 長軸4.4m、短軸3.7mの楕円形を呈する。床面積は11.87㎡である。



- 第176号住居跡土層注記
- D 第1層 暗褐色 10 Y R 3/5
ローム粒微量。
 - 第2層 黒褐色 10 Y R 2/3
ローム粒微量。
 - 第3層 褐色 10 Y R 4/4
ローム粒多量。
 - 第4層 褐色 10 Y R 4/4
ローム粒少量。
 - 第5層 褐色 10 Y R 4/4
ローム粒少量、ロームブロックあり
- 第176号住居跡内炉土層注記
- 第R1層 暗褐色 10 Y R 3/5
ローム粒微量、焼土ブロックあり
 - 第R2層 褐色 10 Y R 4/4
ローム粒少量
 - 第R3層 明褐色 2.5 Y R 5/6
ローム粒少量



第390図 第176号住居跡(1)

<壁・床面> 壁の立ち上がりは急で、壁高は西壁36cm、南壁18cm、北壁34cmである。床面は、炉の東側が堅緻である。

<壁溝> 住居跡の東側に検出され、幅20cm、深さ5～7cmである。

<柱穴> 床面及び床下から8個検出され、 $P_1 \cdot P_2 \cdot P_5 \cdot P_9$ の4本が主柱穴と考えられる。床面からの各ピットの深さは $P_1 \cdots 47\text{cm}$ 、 $P_2 \cdots 52\text{cm}$ 、 $P_3 \cdots 8\text{cm}$ 、 $P_4 \cdots 18\text{cm}$ 、 $P_5 \cdots 14\text{cm}$ 、 $P_6 \cdots 8\text{cm}$ 、 $P_7 \cdots 8\text{cm}$ 、 $P_8 \cdots 7\text{cm}$ 、 $P_9 \cdots 46\text{cm}$ である。

<炉> 住居跡の中央東寄りに、焼土と2個の礫を検出し、石囲炉と考えられる。(掘り方は、確認できなかった。)

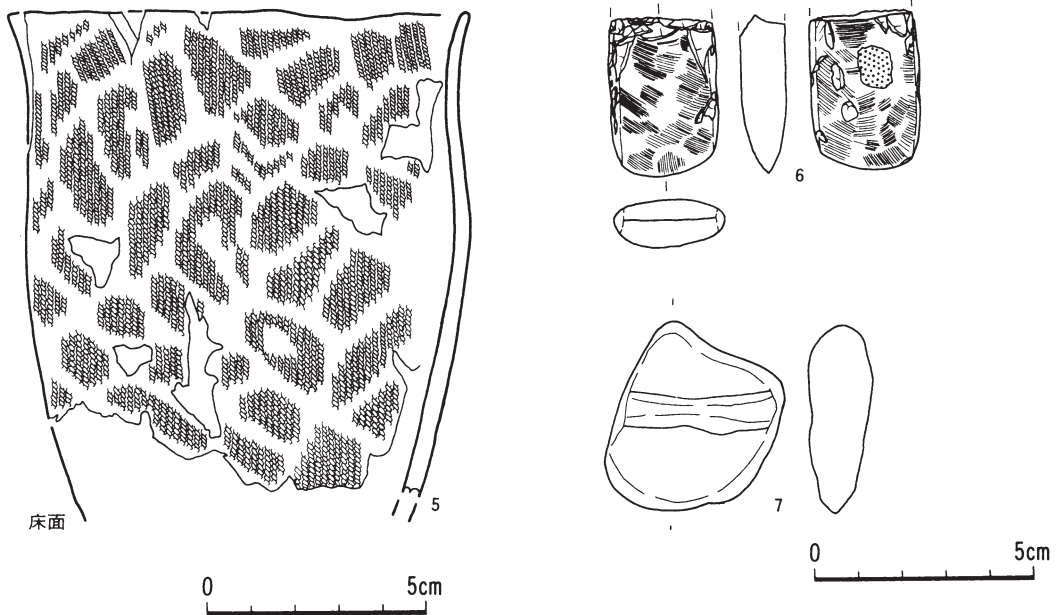
<特殊施設> 確認できなかった。

<堆積土> 5層に分層され、西側部分を風倒木によって攪乱されていた。

<出土遺物> 土器は1～3・5は床面・床面直上から出土し、他は覆土からの出土である。石器は覆土から磨製石斧1点、砥石1点出土している。

<小結> 床面直上から最花式期の土器が出土しているため、その時期又はそれ以前の住居跡と考えられる。

(長崎 勝巳)

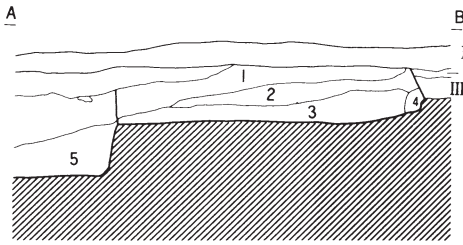
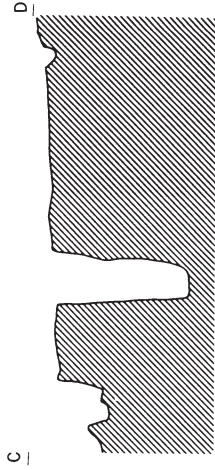
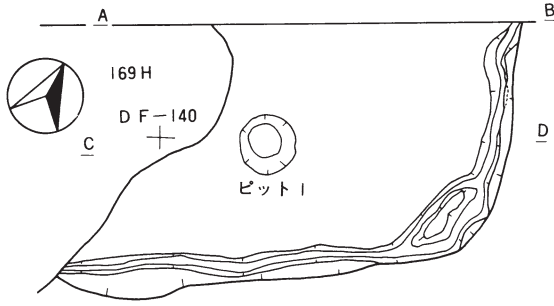


第391図 第176号住居跡(2)

第177号住居跡 (第392・393図)

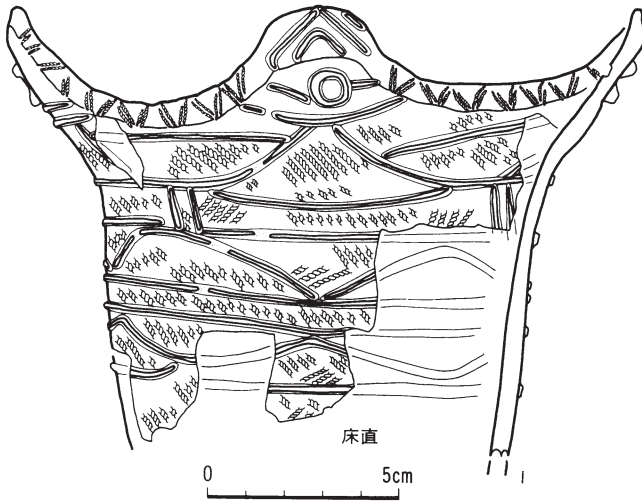
<位置と確認> 調査区域の西側北端の平坦部、DE-139に位置し、第Ⅲ層上面で楕円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 第169号住居跡と重複し、本遺構が古い。



第177号住居跡土層注記

- | | | | |
|-----|-----|-----------|------------------------|
| 第1層 | 黒褐色 | 10Y R 3/2 | ローム粒、ロームブロック、炭化粒、焼土粒少量 |
| 第2層 | 黒褐色 | 10Y R 3/2 | ローム粒、炭化粒、焼土粒多量 |
| 第3層 | 黒褐色 | 10Y R 3/2 | ローム粒多量、炭化粒、焼土粒少量、炭化物微量 |
| 第4層 | 暗褐色 | 10Y R 3/3 | ローム粒多量、炭化粒少量 |



第392図 第177号住居跡(1)

〈平面形・規模〉 第169号住居跡に切られているので、南壁・東壁の一部を残すのみである。したがって全体の平面形は不明であるが東西に長軸をもつ隅丸長方形と考えられる。残存部分は東西（3 m30cm）、南北（2 m10cm）で、床面積は不明である。

〈壁・床面〉 壁は床面からやや外側に開きながら直線的に立ち上がる。床面は壁溝より内側は貼り床が施されて、軟質である。壁高は東壁10cm、南壁15cmである。

〈壁溝〉 残存している南壁・東壁に巡る。規模は、幅10～20cm、深さ5～15cmである。

〈柱穴〉 床面から支柱穴を構成すると考えられるものが1個検出された。深さはP₁…100cmである。

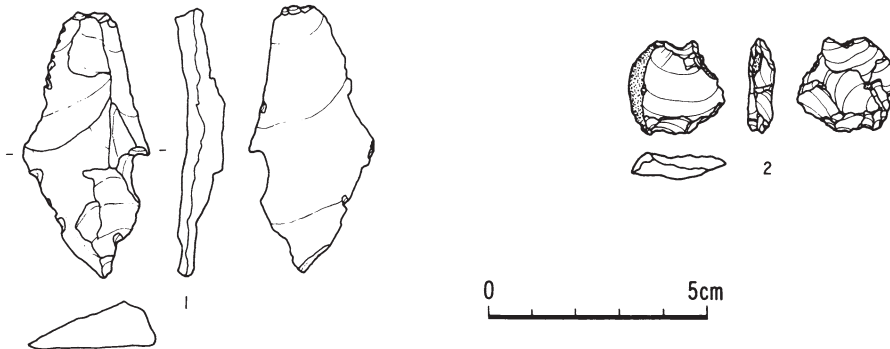
〈炉〉 検出されなかった。

〈特殊施設〉 検出されなかった。

〈堆積土〉 4層に分層した。層全体にローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む。自然堆積と考えられる。

〈出土遺物〉 床面から円筒上層d式土器が出土した。石器は出土しなかった。

〈小結〉 本住居跡は円筒上層d式の時期と思われる。 (岡田 康博)



第393図 第177号住居跡(2)

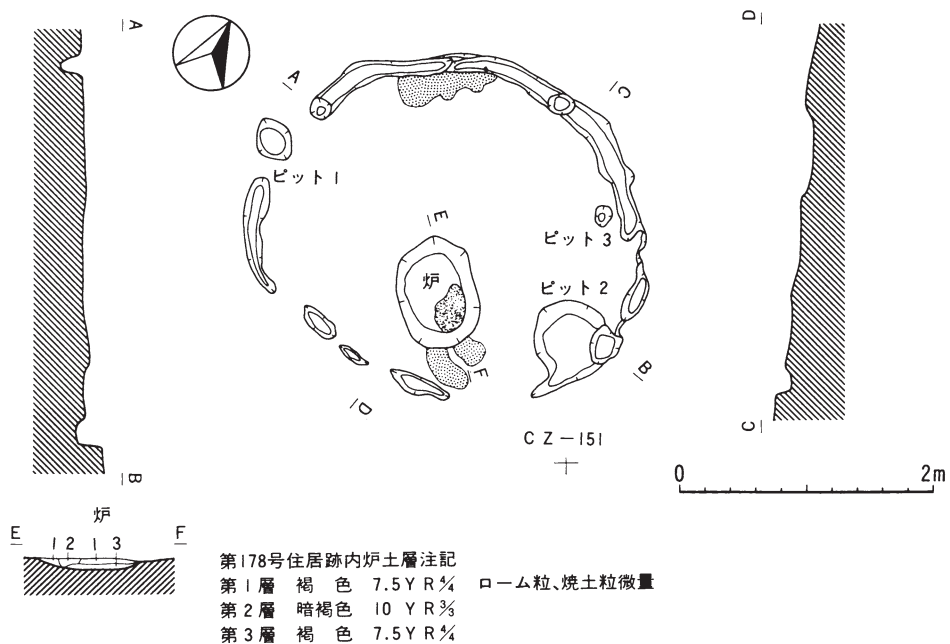
第178号住居跡 (第394図)

〈位置と確認〉 調査区域西側の平坦部、C Z - 151に位置し、第Ⅲ層上面で円形に巡る壁溝と炉を確認した。

〈重複〉 なし。

〈平面形・規模〉 東西に長軸をもつ楕円形で長軸（3 m20cm）、短軸（2 m70cm）、床面積は（5.89㎡）である。

〈壁・床面〉 壁は残存しない。床面は軟質で、炉の南側と北壁際の一部に貼り床が残存して



第394図 第178号住居跡

いる。

<壁溝> 南側と柱穴部分で途切れるものの一周する。規模は、幅10~15cm、深さ3~15cmである。

<柱穴> 床面から3個検出され、P₁・P₂が主柱穴と考えられる。深さは、P₁…15cm、P₂…5cm、P₃…15cmである。

<炉> 短軸線上の中央から南壁寄りに竪穴炉が構築されている。規模は長径約90cm、短径60cmの楕円形である。

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> なし。

<出土遺物> 遺物は出土しなかった。

(岡田 康博)

第179号住居跡 (第395図)

<位置と確認> CW-162グリットに位置し、第176号住居跡の床面で確認した。

<重複> 第176号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

<平面形・規模> 直径2.5m程の円形を呈する。床面積は4.38㎡である。

<壁・床面> 第IV層を壁面とし急な立ち上がりで、東壁25cm、西壁36cm、南壁32cm、北壁32cmである。床面はやや軟らかく、ほぼ平坦になっている。

<壁溝> 確認されなかった。

<柱穴> 床面から6個検出された。ほとんどが壁寄りに、検出されている。床面からの各ピットの深さは、P₁…4cm、P₂…8cm、P₃…13cm、P₄…6cm、P₅…4cm、P₆…11cmで、壁柱穴の可能性はある。

<炉> 確認されなかった。

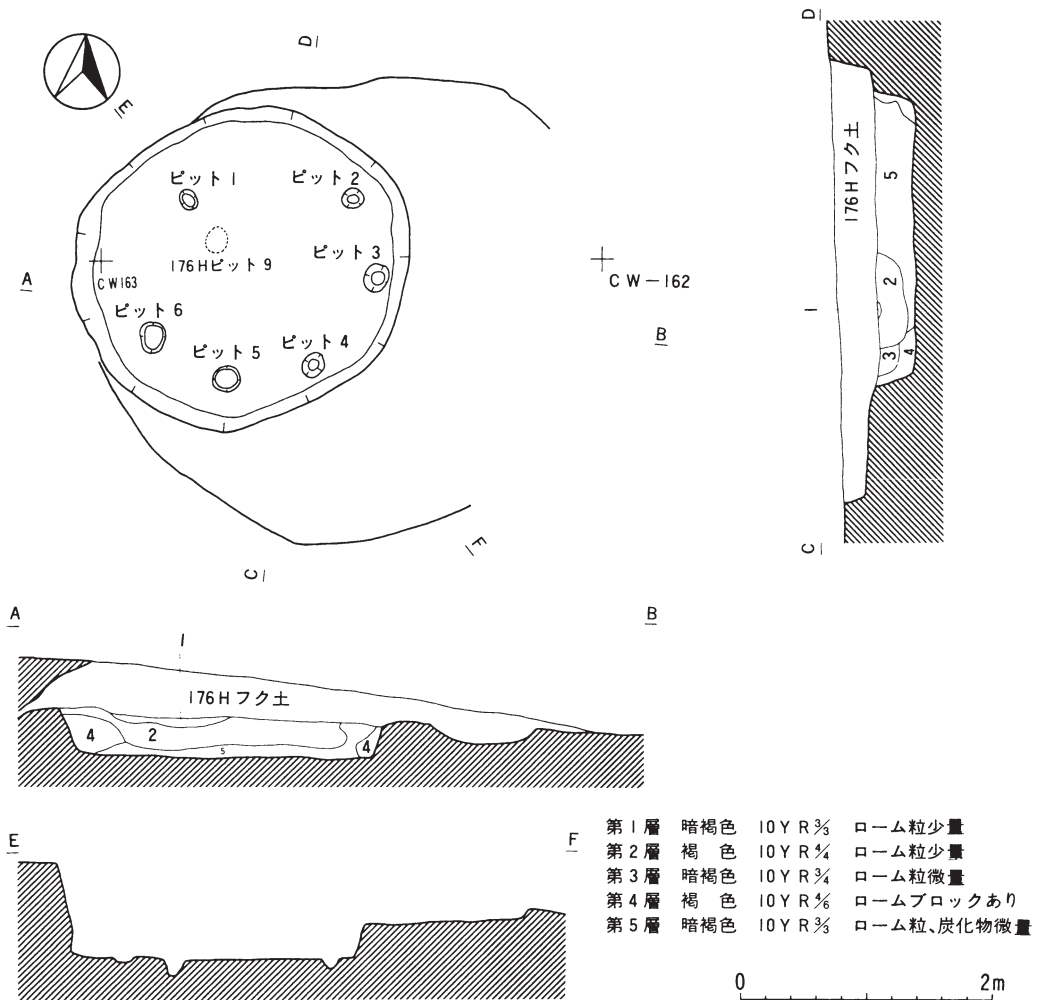
<特殊施設> 確認されなかった。

<堆積土> 褐色土が主体で、5層に分層された。ロームの混入が多い。

<出土遺物> 遺物は出土していない。

<小結> 第176号住居跡の床面直上から最花式期の土器が出土し、その時期より古い。

(長崎 勝巳)



第395図 第179号住居跡

第180号住居跡（第396・397図）

<位置と確認> C Z-166グリットに位置し、黒褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 認められなかった。

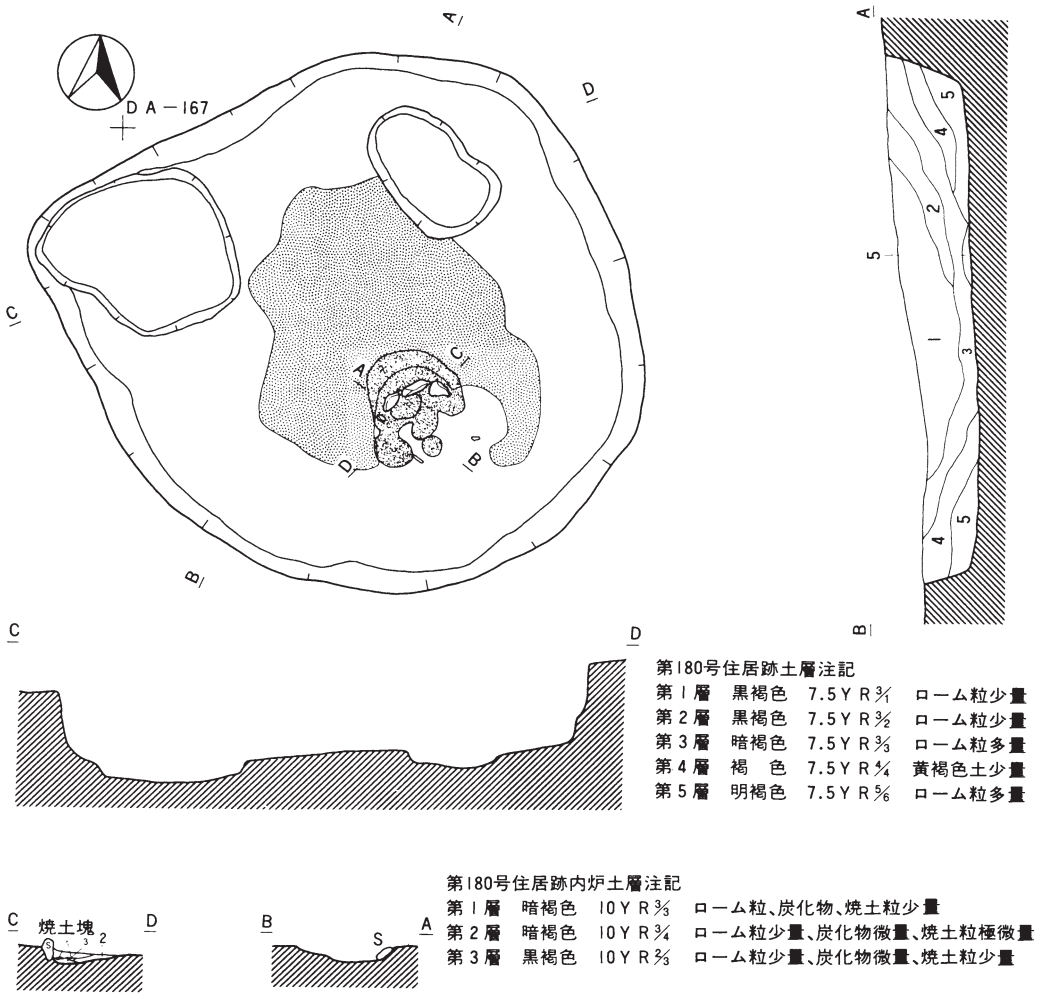
<平面形・規模> 直径4.2m程の不整円形を呈する。

<壁・床面> 第IV層を壁面とし緩やかに立ち上がる。壁高は、東壁62cm、西壁54cm、南壁40cm、北壁60cmである。床面は、中央部に貼り床が検出されたが、壁際は軟らかくなっている。

<壁溝> 確認されなかった。

<柱穴> 確認されなかったが、北壁際と西壁際に10cm程凹むピットがある。

<炉> 住居跡中央南側に、石囲炉を検出した。焼土部分の北側で、礫を検出したが、他は不



第396図 第180号住居跡(1)

0 2m

明で掘り方も確認されなかった。

〈特殊施設〉 確認されなかった。

〈堆積土〉 5層に分層され、黒褐色土を主体とする。ロームの混入が多く、人為的堆積の様相が強い。

〈出土遺物〉 土器はすべて床面直上から出土し、石器は出土していない。 (長崎 勝巳)



第397図 第180号住居跡(2)

第182号住居跡 (第398図)

〈位置と確認〉 調査区域の西側の南斜面、C S - 140に位置し、第Ⅲ層上面で不整な暗褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 なし。

〈平面形・規模〉 南壁は風倒木痕により残存していないものの、東西に長軸をもつ楕円形の可能性が高い。長軸 (2 m40cm)、短軸 (1 m20cm) で、床面積は不明である。

〈壁・床面〉 壁は床面から外側にやや開きながら直線的に立ち上がる。床面は中央部に貼り床が施されている。壁高は東壁2cm、西壁4cm、北壁32cmである。

〈壁溝〉 検出されなかった。

〈柱穴〉 床面から支柱穴2個を検出した。深さは、P₁…15cm、P₂…22cmである。

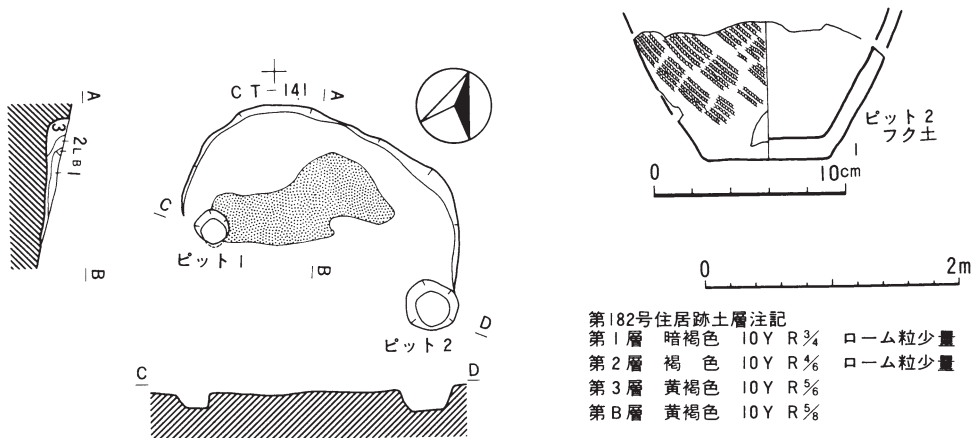
〈炉〉 検出されなかった。

〈特殊施設〉 検出されなかった。

〈堆積土〉 3層に分層した。層全体にローム粒子を含む。人為的に埋め戻された可能性が高い。

〈出土遺物〉 ピット2から粗製の深鉢形土器が出土した。石器は出土しなかった。

(岡田 康博)



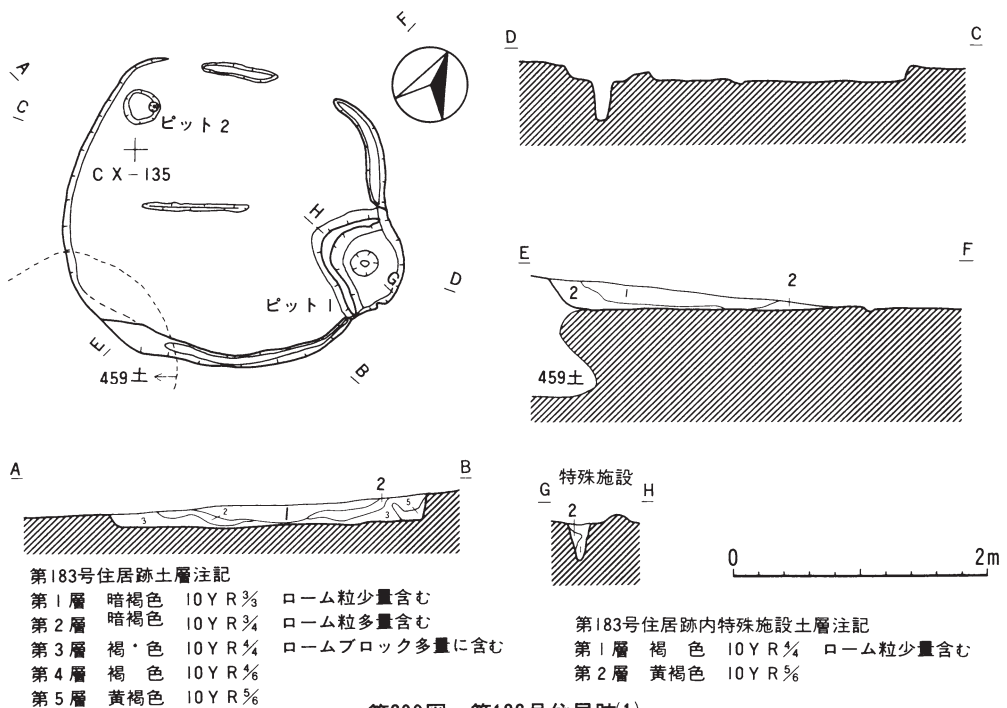
第398図 第182号住居跡

第183号住居跡 (第399・400図)

〈位置と確認〉 調査区CW・CX-134・135グリッドに位置している。第IV層を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 住居跡の南側で第459号土層と重複し、新旧関係は本住居跡が新しい。

〈平面形・規模〉 全体的に丸みを有する方形である。規模は、長軸2 m80cm・短軸2 m37cm・



第399図 第183号住居跡(1)

床面積 (4.53) m²の小型な住居跡である。

〈壁・床面〉 北壁は確認できなかったが、上端から床面にかけて傾斜しており軟らかい造りである。壁高は東壁21cm・西壁10cm・南壁22cm・北壁は不明である。床面は、ほぼ平坦で住居跡の中央部が固い。

〈壁溝〉 壁よりに幅13cm・深さ4cmの浅い周溝を巡らしている。北側では一部途切れており西側では検出しなかった。

〈柱穴〉 ピットは2個検出した。ピット1については特殊施設の項目で記載する。ピット2は、西壁よりに位置し円形で長径26cm・深さ13cmの円形ピットである。

〈炉〉 認められなかった。

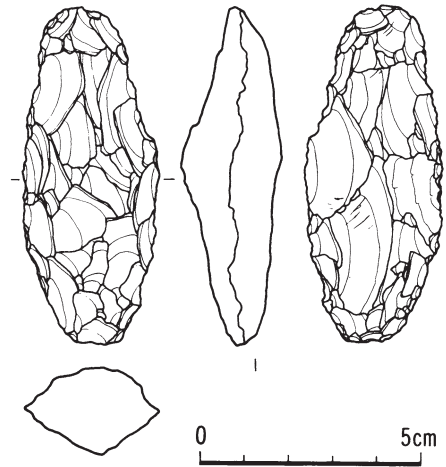
〈特殊施設〉 住居跡の東壁よりに幅21cm・高さ7cmの弧状の盛土をもつピットを検出した。ピットの内部には1個の小ピットを有する。

〈その他の施設〉 住居跡の中央部には長径83cm・幅6cm・深さ4cmの溝を検出した。間仕切りの用途とも考えられるが断定できない。

〈堆積土〉 5層に分層できた。断面観察等から自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉 土器は出土しなかった。石器は、覆土から石槍1点が出土した。

(神山温子・成田滋彦)



第400図 第183号住居跡2)

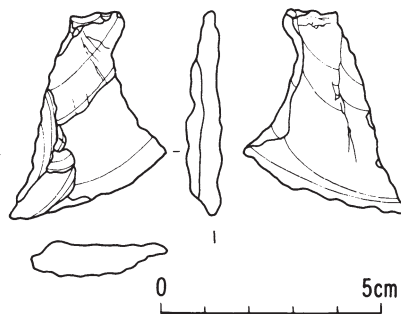
第184号住居跡 (第401~403図)

〈位置と確認〉 調査区CV・CW-135・136グリッドに位置している。

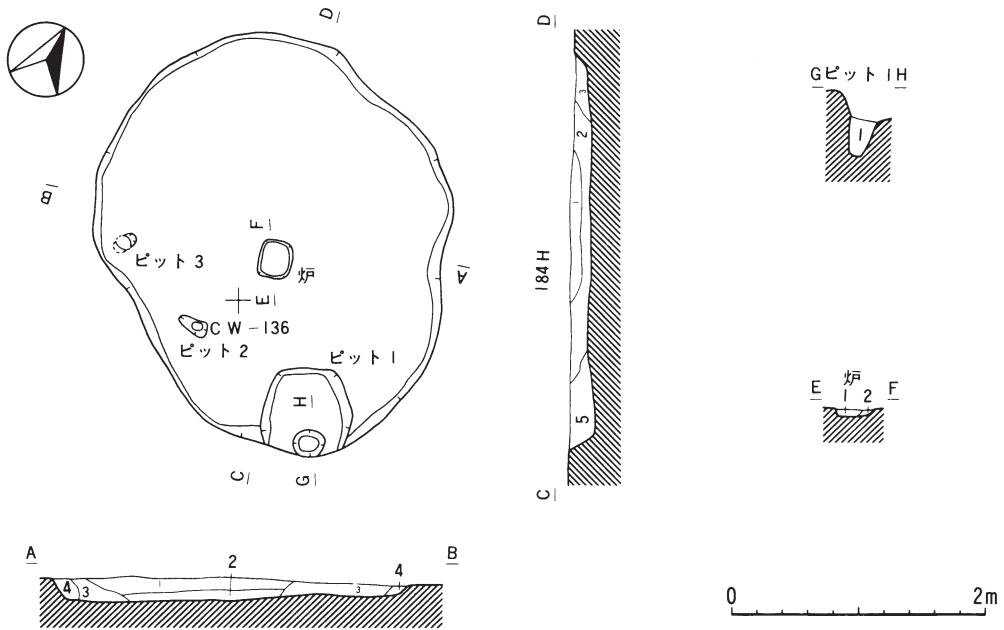
〈重複〉 認められなかった。

〈平面形・規模〉 東・西側が張り出す楕円形のプランである。規模は長軸3m41cm・短軸2m83cm・床面積6.46m²を測る。

〈壁・床面〉 すべての壁は上端から床面にかけてゆるやかに傾斜しており、柔らかい造りである。壁高は東壁10cm・西壁13cm・南壁16cm・北壁9cmを測る。床面は、ほぼ平坦であり壁同様に柔らかい造りである。



第401図 第184号住居跡1)



第184号住居跡土層注記

- 第1層 黒褐色 7.5 Y R ½ 炭化物、ローム粒若干含む
- 第2層 暗褐色 7.5 Y R ¾ ローム粒を多量に含む
- 第3層 暗褐色 7.5 Y R ¾ ロームがブロック状に混入
- 第4層 褐色 7.5 Y R ¾ 暗褐色土混入
- 第5層 褐色 7.5 Y R ¾ 炭化物若干、パミスを含む

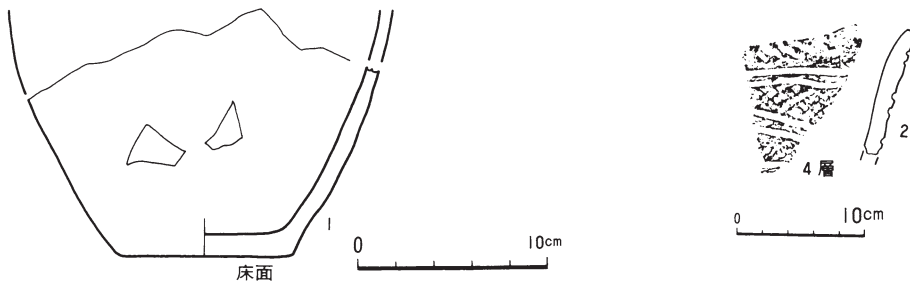
第184号住居跡炉土層注記

- 第1層 暗褐色 7.5 Y R ¾ ローム粒、焼土粒を含む
- 第2層 褐色 7.5 Y R ¾ 暗褐色土混入

第184号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 暗褐色 7.5 Y R ¾ 炭化物若干、パミスを多量に含む

第402図 第184号住居跡2)



第403図 第184号住居跡3)

<柱穴> ピットは3個検出された。ピット1については特殊施設の項目で記載する。2個のピットの位置は、住居跡の西側に位置している。形態等から柱穴と思われる。

<炉> 炉は住居跡のほぼ中央部に位置し、長径30cm・短径22cm・深さ5cmの方形の地床炉である。

<特殊施設> 南側で長径70cm・深さ4cmの浅い方形のピットを検出した。ピットの内部には

円形で深さ34cmの小ピットを有する。

<堆積土> 堆積土は5層に分層できた。断面観察等から自然堆積と思われる。

<出土遺物> 土器は、(1)が床面で他は覆土の出土である。石器は、覆土から不定形石器2点
が出土した。

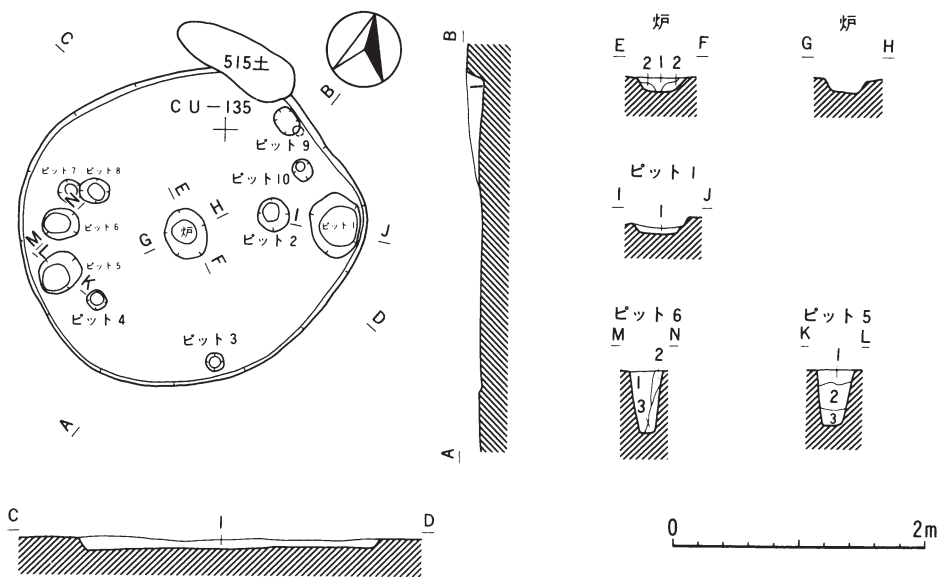
<小結> 床面から無文の深鉢形土器が出土したのみで、時期は特定でない。(成田 滋彦)

第186号住居跡 (第404・405図)

<位置と確認> 調査区の西側台地最高部CT・CU-134・135グリッドに位置する。第IV層
上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 本住居跡は、北側で第515号土壌と重複している。新旧関係は本住居跡が第515号土
壌よりも古い。

<平面形・規模> ほぼ円形である。長軸2m60cm・短軸2m50cm、床面積は、4.99m²である。



第186号住居跡土層注記

第1層 褐色 10Y R% ローム粒、炭化物を少量含む

第186号住居跡炉土層注記

第1層 褐色 10Y R% ローム粒少量、炭化物、焼土粒
をやや多く含む
第2層 黄褐色 10Y R% ローム粒、炭化物をやや多く含
む、褐色土混入

第186号住居跡ピット1土層注記

第1層 褐色 10Y R% ローム粒をやや多く、炭化物を
少量含む

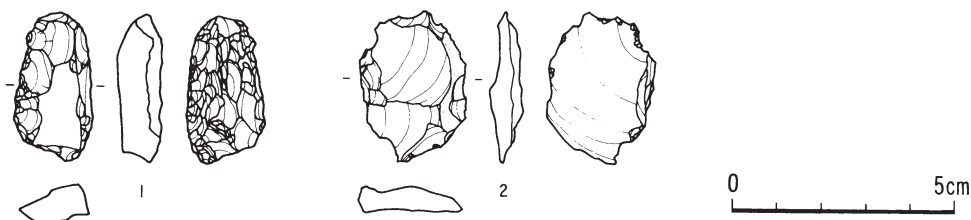
第186号住居跡ピット5土層注記

第1層 にぶい黄褐色 10Y R% ローム粒を少量含む
第2層 褐色 10Y R% ローム粒を少量含む
第3層 暗褐色 10Y R% ローム粒を少量含む

第186号住居跡ピット6土層注記

第1層 暗褐色 10Y R% ローム粒を少量含む
第2層 褐色 10Y R% ローム粒を少量含む
第3層 黒褐色 10Y R% ローム粒を微量に含む

第404図 第186号住居跡(1)



第405図 第186号住居跡(2)

〈壁・床面〉 第IV層を壁面とし、各壁ともにやや緩やかに立ち上がり、堅緻な構築である。壁高は、各壁とも6～15cm程度である。床面は起伏が少なく全般的に平坦で、堅く締まっている。

〈壁溝〉 検出されなかった。

〈柱穴〉 住居跡内から9個のピットが検出された。柱穴と考えられるのは、P₆(深さ52cm)のみで、その他の柱穴および配置については不明である。

〈炉〉 住居跡のほぼ中央部に位置する。地床炉で、平面形は南北に長い楕円形である。規模は、長軸40cm・短軸32cm、深さ12cmである。堆積土は2層に区分でき、第1層上面が火床面である。

〈特殊施設〉 検出されなかった。

〈堆積土〉 褐色土層のみである。

〈出土遺物〉 遺物は、住居跡東側の覆土から多く出土した。土器は、ほとんど出土しなかった。石器は、覆土から、不定形石器2点が出土した。

〈小結〉 本住居跡は、重複および時期を決定する土器が出土していないので時期は不明である。
(中嶋 友文)

第187号住居跡 (第406・407図)

〈位置と確認〉 調査区の西側最高部CV・CW-134・135グリッドに位置する。第IV層上面で黒褐色土の落ち込みと焼土を確認した。

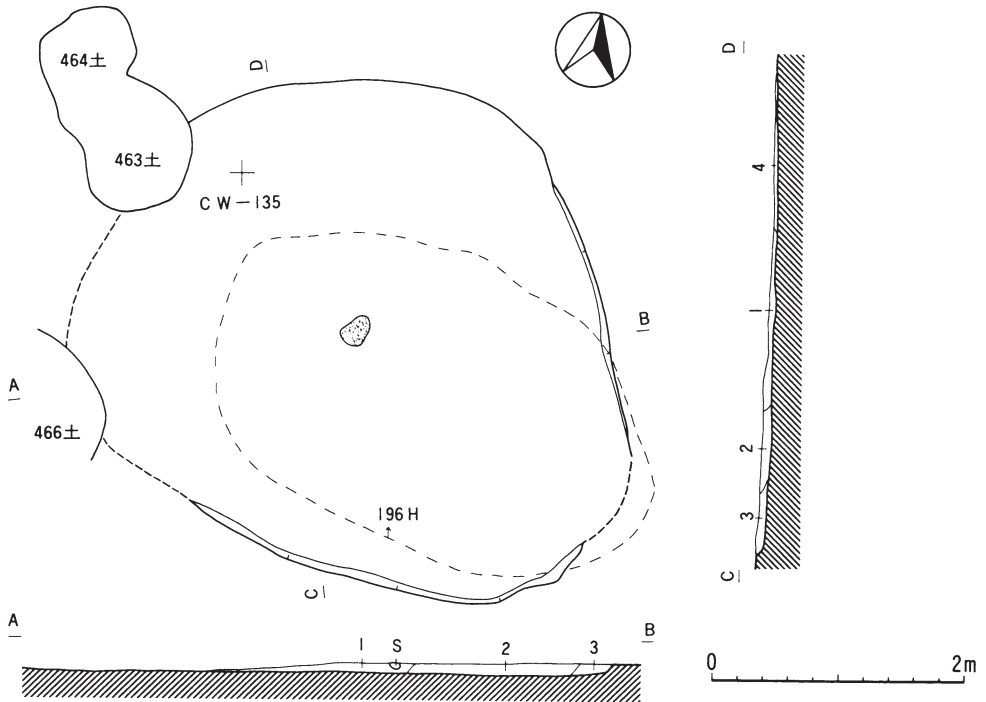
〈重複〉 本住居跡は、床面で第196号住居跡、西側で第463土壌・第466土壌と重複している。新旧関係は以下のとおりである。

(新) —————→ (旧)

第464号土壌→第463号土壌→本住居跡→第196号住居跡

〈平面形・規模〉 西側が張り出す不整楕円形と考えられる。規模は、長軸4m58cm・短軸3m99cm、床面積は、13.88㎡である。

〈壁・床面〉 第IV層を壁面とし、西壁と北壁は確認できないが東壁と南壁は緩やかに立ち上がり、やや堅緻な構築である。壁高は、東壁9cm・南壁12cmである。床面は起伏が少なく全般的に平坦で、強く締まっている。



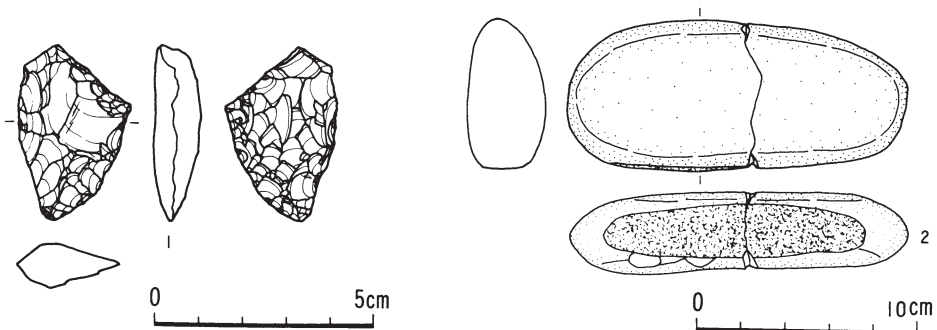
第187号住居跡土層注記

- 第1層 黒褐色 10 Y R 2/4 ローム粒少量、炭化物を微量に含む、暗褐色土混入
- 第2層 暗褐色 10 Y R 3/4 ローム粒、炭化物を少量含む
- 第3層 褐色 10 Y R 4/4 ローム粒少量、炭化物を微量に含む、暗褐色土混入
- 第4層 にびい 黄褐色 10 Y R 5/4 ローム粒・炭化物を少量含む、褐色土混入。

第406図 第187号住居跡(1)

〈壁溝〉・〈柱穴〉 検出されなかった。

〈炉〉 炉として構築されていないが、貼り床の上に焼土が認められる。



第407図 第187号住居跡(2)

＜特殊施設＞ 検出されなかった。

＜堆積土＞ 4層に分層でき、各層にローム粒・炭化物を含む。自然堆積と思われる。

＜出土遺物＞ 遺物は、住居跡の中央部の覆土から出土した。土器は、ほとんど出土しなかった。石器は、覆土から不定形石器1点、1層から敲磨器類1点が出土し、総数2点である。

＜小結＞ 本住居跡は、第196号住居跡（円筒上層e式）との重複関係からそれと同じか新しい円筒上層e～榎林式期と思われる。 (福士敦子・中嶋友文)

第188号住居跡（第408～413図）

＜位置と確認＞ 調査区域西側台地の最高部CT・CU-130・131グリッドに位置している。

第IV層上面を精査中に黒色土の落ち込みを確認した。

＜重複＞ 本住居跡は、第276号住居跡の堆積土を掘り込んで構築されており、新旧関係は、本住居跡が新しい。

＜平面形・規模＞ 東西に長軸を持つ楕円形である。規模は、長軸5m35cm・短軸3m95cm、床面積は、14.88㎡である。

＜壁・床面＞ 壁は、第276号住居跡の堆積土を掘り込んで構築しているため軟弱な造りで緩く立ち上がる。壁高は45～60cmである。床面は平坦ではあるが、壁同様に軟弱で、貼り床は濁っている。

＜壁溝＞ 検出されなかった。

＜柱穴＞ 本住居跡内から2個のピットが検出されたが、いずれも柱穴とは考えにくい。

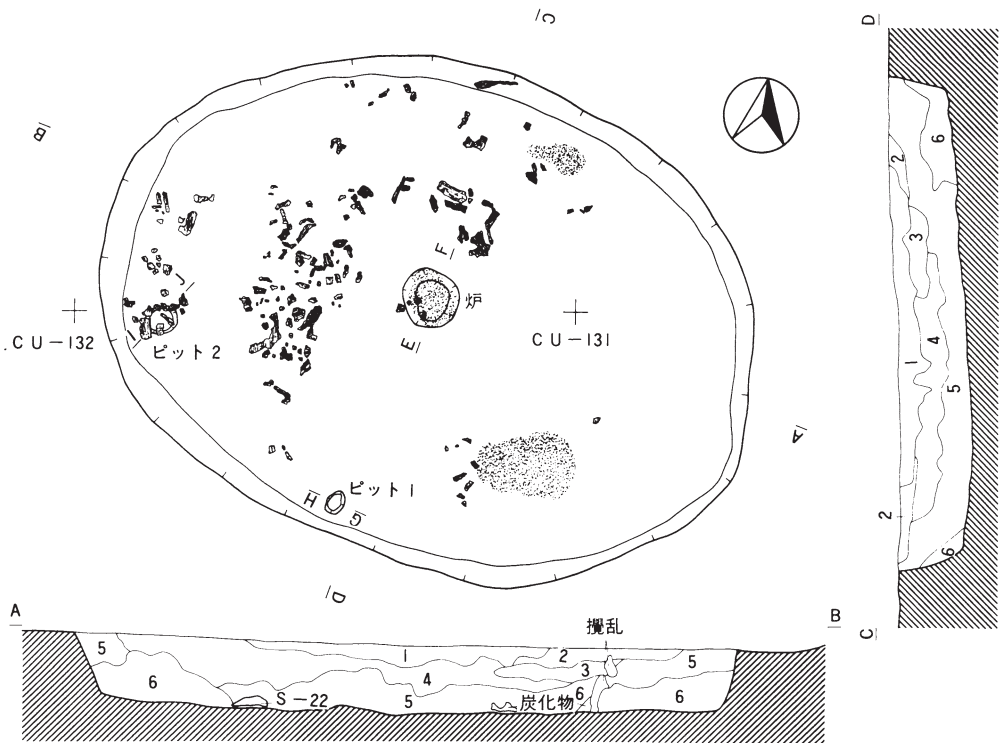
＜炉＞ 地床炉で住居跡のほぼ中央部に位置する。規模は、長軸50cm・短軸45cm、深さ7cmである。堆積土は2層に区分され、1層上面が火床面である。

＜特殊施設＞ 認められなかった。

＜堆積土＞ 6層に分層できた。5層から多量の炭化材が検出された。自然堆積と思われる。

＜出土遺物＞ 遺物は、住居跡東側の覆土から多く出土した。土器は、床面・床直から（2・7・13・15・18・22・23・32・38・39）が出土し、他は、覆土からの出土である。石器は、覆土から石鏃6点、石槍3点、石匙2点、石筥1点、不定形石器33点、石棒類2点、床直から敲磨器類1点、床面から石鏃1点、石匙1点、不定形石器3点、石斧1点、敲磨器類1点、台石・石皿類1点が出土した。総数55点である。

＜小結＞ 本住居跡は西側からやや多くの炭化材が検出されたことから焼失家屋と考えられる。また、床面出土の土器片(22)から、榎林式期と思われる。 (木村 功・中嶋友文)



第188号住居跡土層注記

- 第1層 黒色 10Y R 2/4 ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
- 第2層 黒褐色 10Y R 3/4 ローム粒をやや多く、炭化物を少量含む
- 第3層 褐色 10Y R 4/4 ローム粒・L.B.を多量、炭化物を微量に含む。暗褐色土混入。
- 第4層 暗褐色 10Y R 5/4 ローム粒・炭化物を少量、焼土粒を微量に含む
- 第5層 暗褐色 10Y R 6/4 ローム粒・炭化物をやや多く、焼土粒を少量含む
- 第6層 褐色 10Y R 7/4 ローム粒を少量、炭化物微量に含む。

第188号住居跡炉土層注記

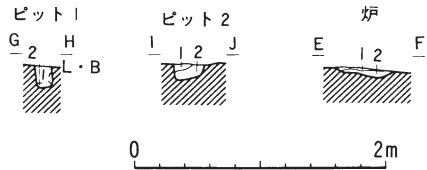
- 第1層 明赤褐色 5Y R 8/4 (焼土層)
- 第2層 褐色 7.5Y R 8/4 暗褐色土混入

第188号住居跡ピット1土層注記

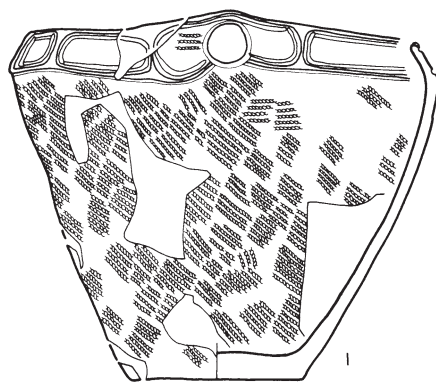
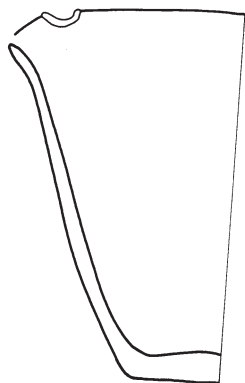
- 第1層 暗褐色 10Y R 3/4 ローム粒・炭化物を少量含む
- 第2層 暗褐色 10Y R 4/4 ローム粒を少量含む

第188号住居跡ピット2土層注記

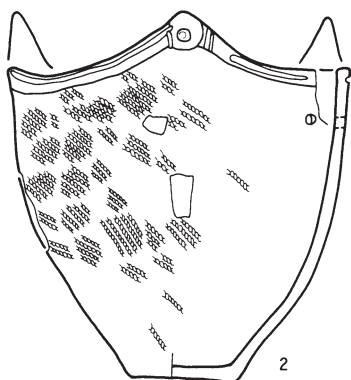
- 第1層 黒褐色 10Y R 2/4 ローム粒・炭化物を少量含む
- 第2層 暗褐色 10Y R 3/4 ローム粒・炭化物を少量含む



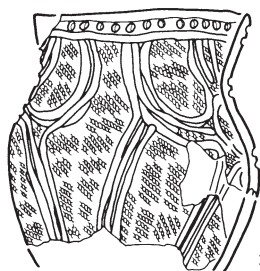
第408図 第188号住居跡(1)



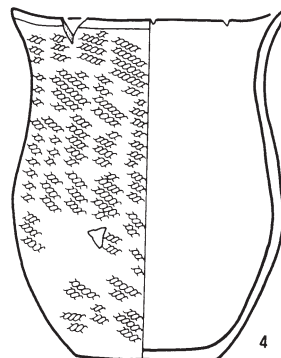
フク土



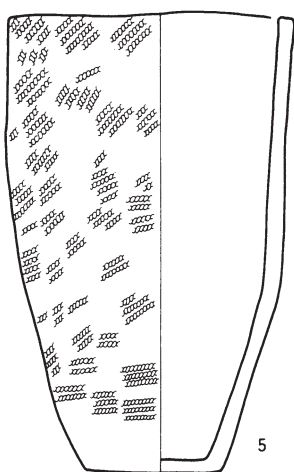
床直



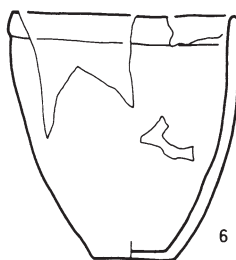
フク土



フク土



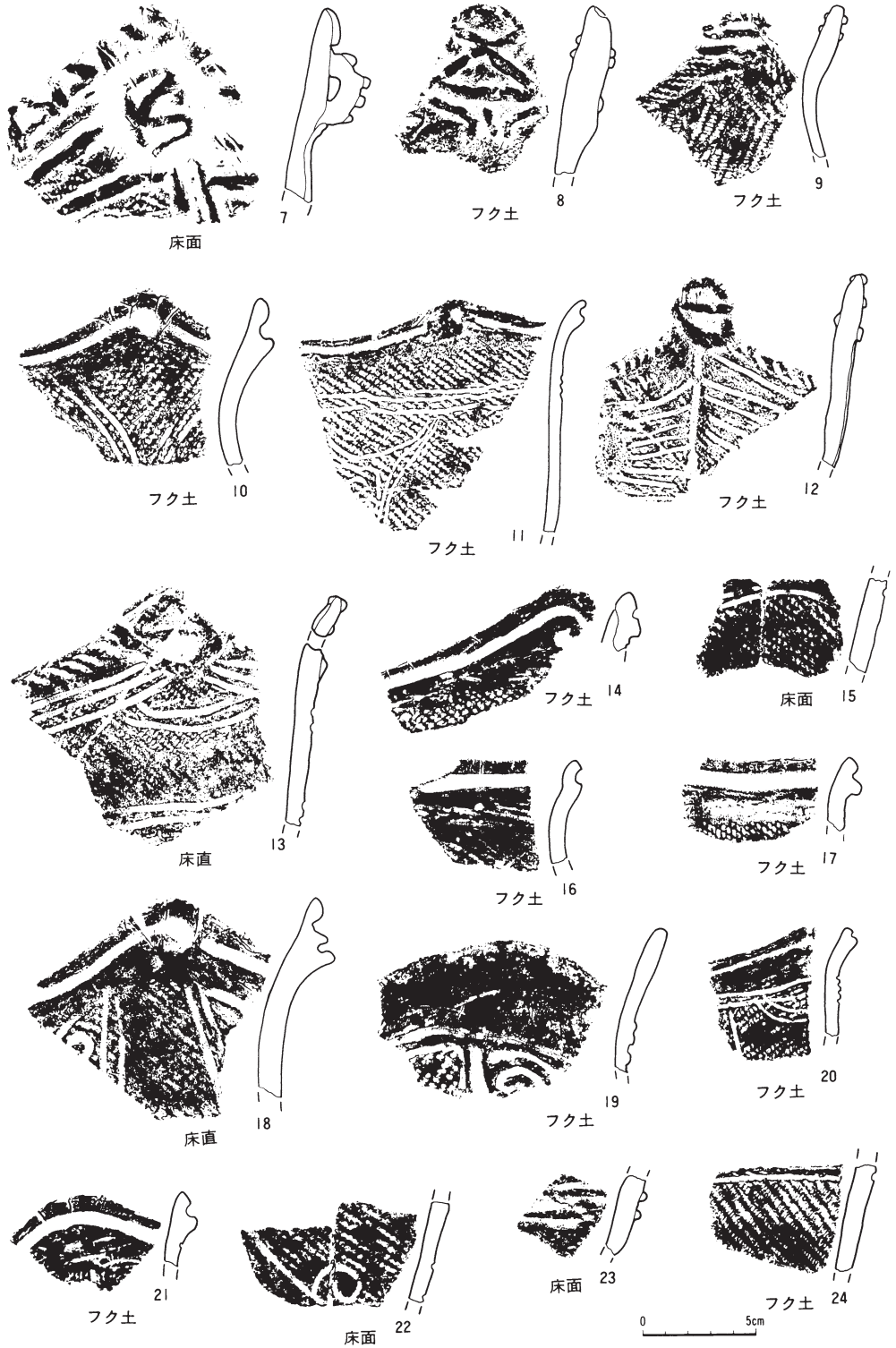
4層



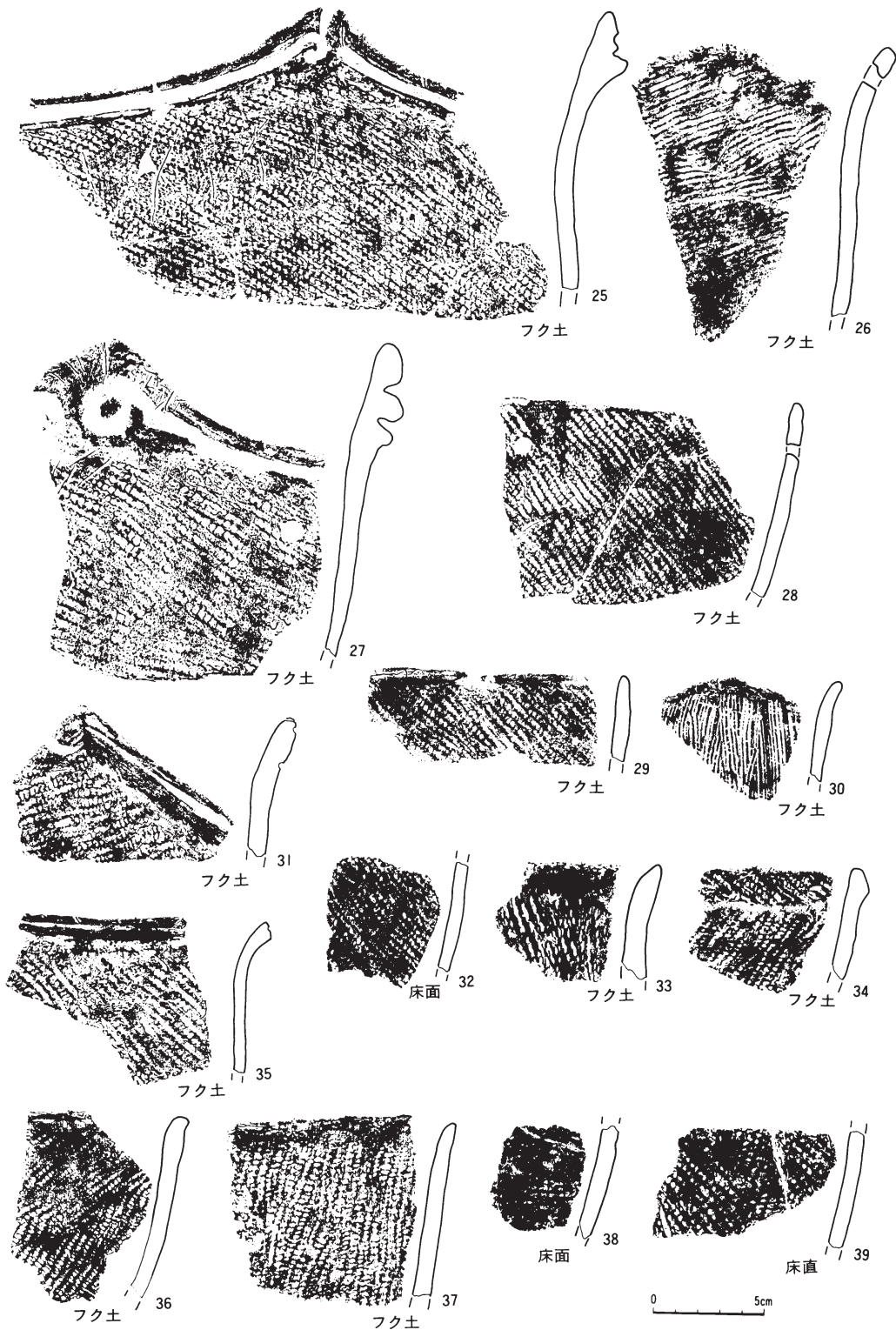
フク土



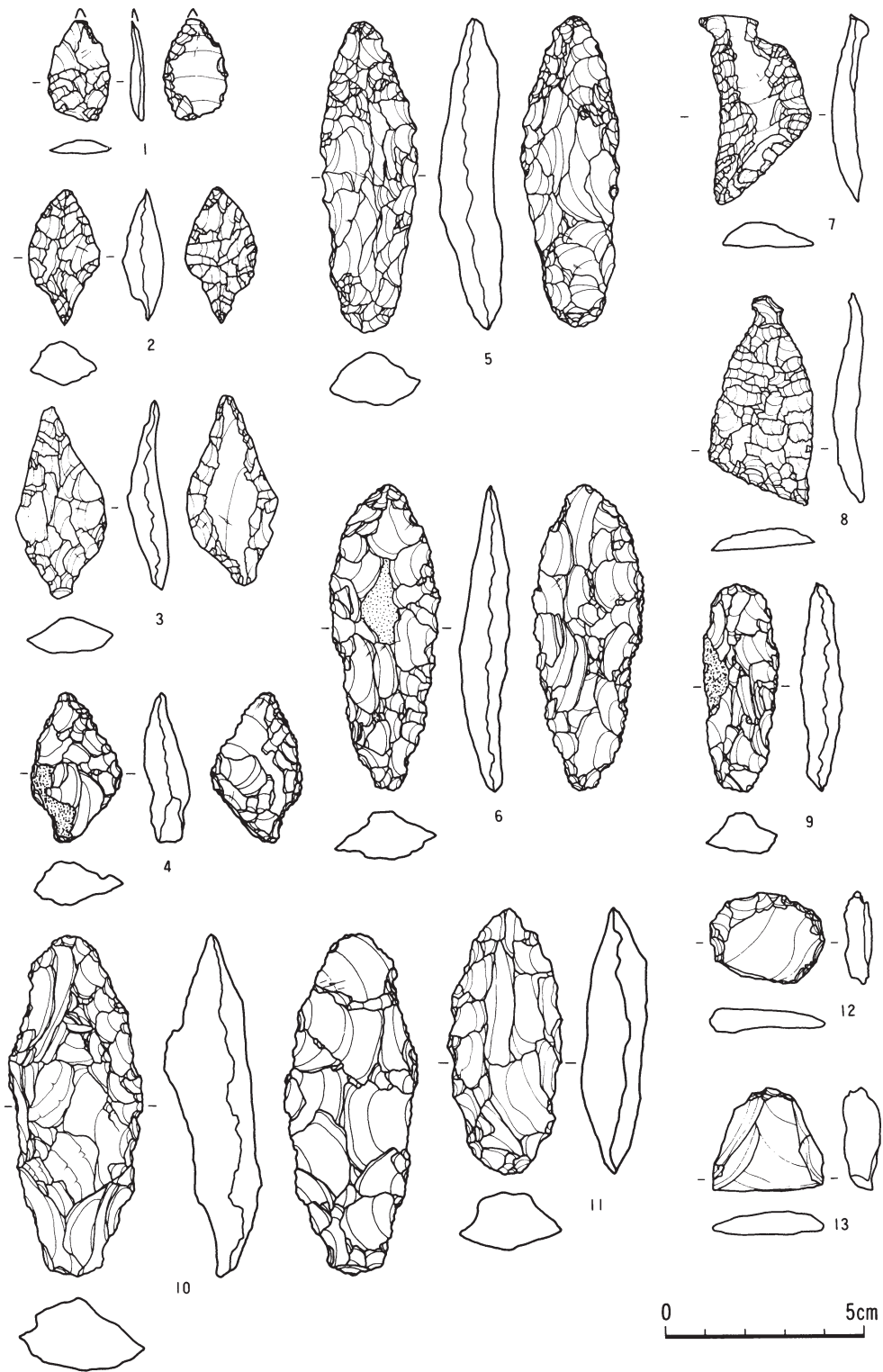
第409図 第188号住居跡(2)



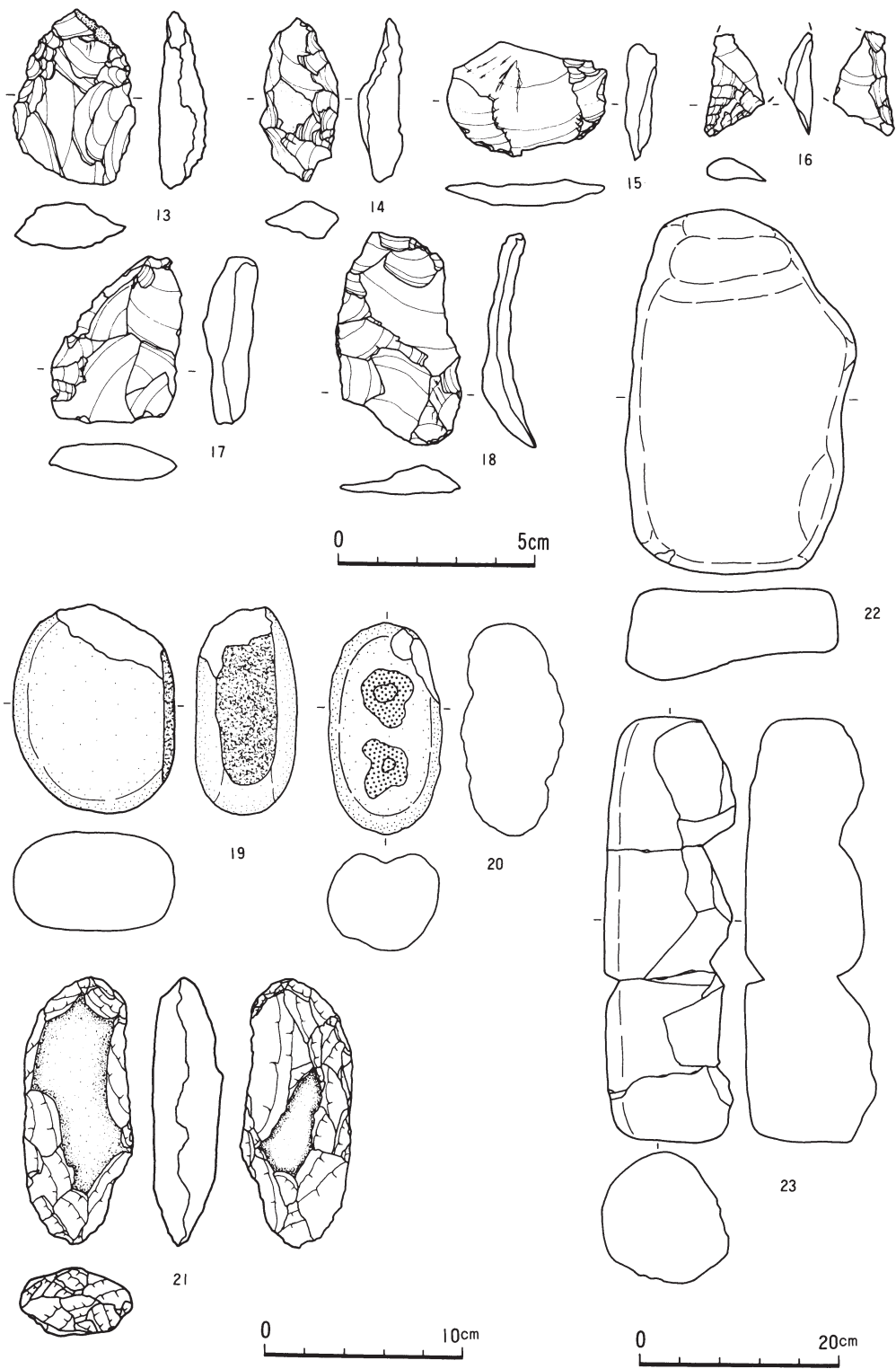
第410図 第188号住居跡3)



第411図 第188号住居跡(4)



第412图 第188号住居跡(5)

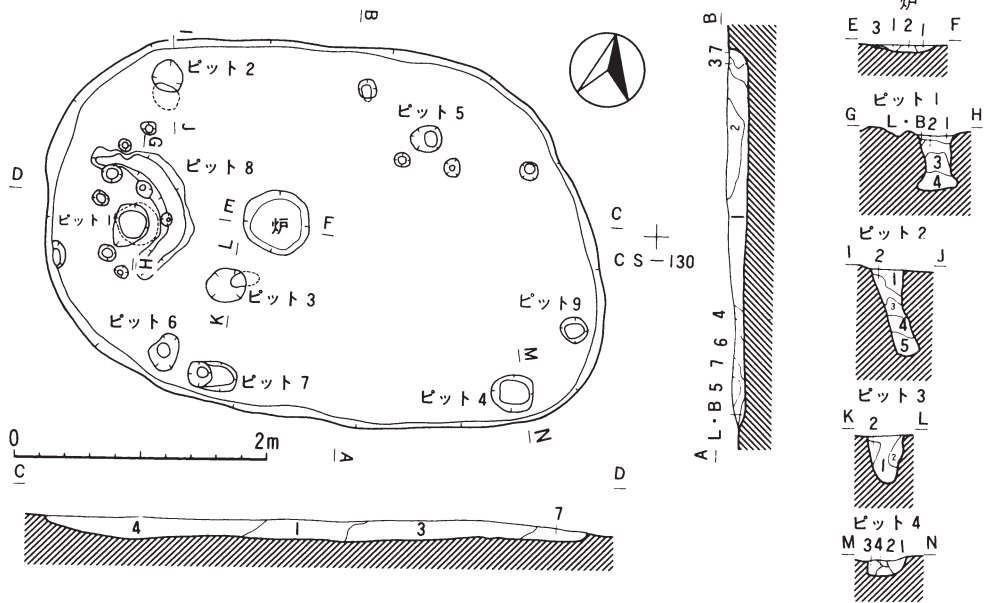


第413图 第188号住居跡6)

第189号住居跡 (第414~416図)

<位置と確認> 調査区のCR・CS-130・131グリッドに位置する。第IV層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 重複は認められなかった。



第189号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR 3/4 ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
- 第2層 暗褐色 10YR 3/4 ローム粒を少量、炭化物・焼土粒をやや多く含む
- 第3層 暗褐色 10YR 3/4 ローム粒・炭化物を少量、焼土粒を微量に含む
- 第4層 褐色 10YR 5/6 ローム粒を多量、炭化物を微量に含む
- 第5層 褐色 10YR 5/6 ローム粒を多量、炭化物を微量に含む。暗褐色土混入。
- 第6層 暗褐色 10YR 3/4 ローム粒・炭化物を少量、焼土粒を微量に含む
- 第7層 褐色 10YR 5/6 ローム粒を多量、炭化物を微量に含む。黄褐色土混入

第189号住居跡炉土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR 3/4 ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
- 第2層 褐色 10YR 5/6 ローム粒を少量、炭化物・焼土粒を多量に含む
- 第3層 黄褐色 10YR 7/6 炭化物を微量に含む。暗褐色土混入

第189号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR 3/4 ローム粒・炭化物を少量含む。
- 第2層 褐色 10YR 5/6 ローム粒多量、炭化物を少量含む。
- 第3層 暗褐色 10YR 3/4 ローム粒を少量、炭化物・焼土粒を微量に含む
- 第4層 暗褐色 10YR 3/4 ローム粒を少量、炭化物を微量に含む

第189号住居跡ピット2土層注記

- 第1層 褐色 10YR 5/6 ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
- 第2層 褐色 10YR 5/6 炭化物を少量含む。暗褐色土混入
- 第3層 褐色 10YR 5/6 黒色土混入
- 第4層 黄褐色 10YR 7/6 暗褐色土混入

第189号住居跡ピット3土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR 3/4 ローム粒・炭化物を少量含む
- 第2層 褐色 10YR 5/6 炭化物を少量含む。暗褐色土混入

第189号住居跡ピット4土層注記

- 第1層 褐色 10YR 5/6 ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
- 第2層 褐色 10YR 5/6 ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
- 第3層 黄褐色 10YR 7/6 ローム粒を少量、炭化物を微量に含む

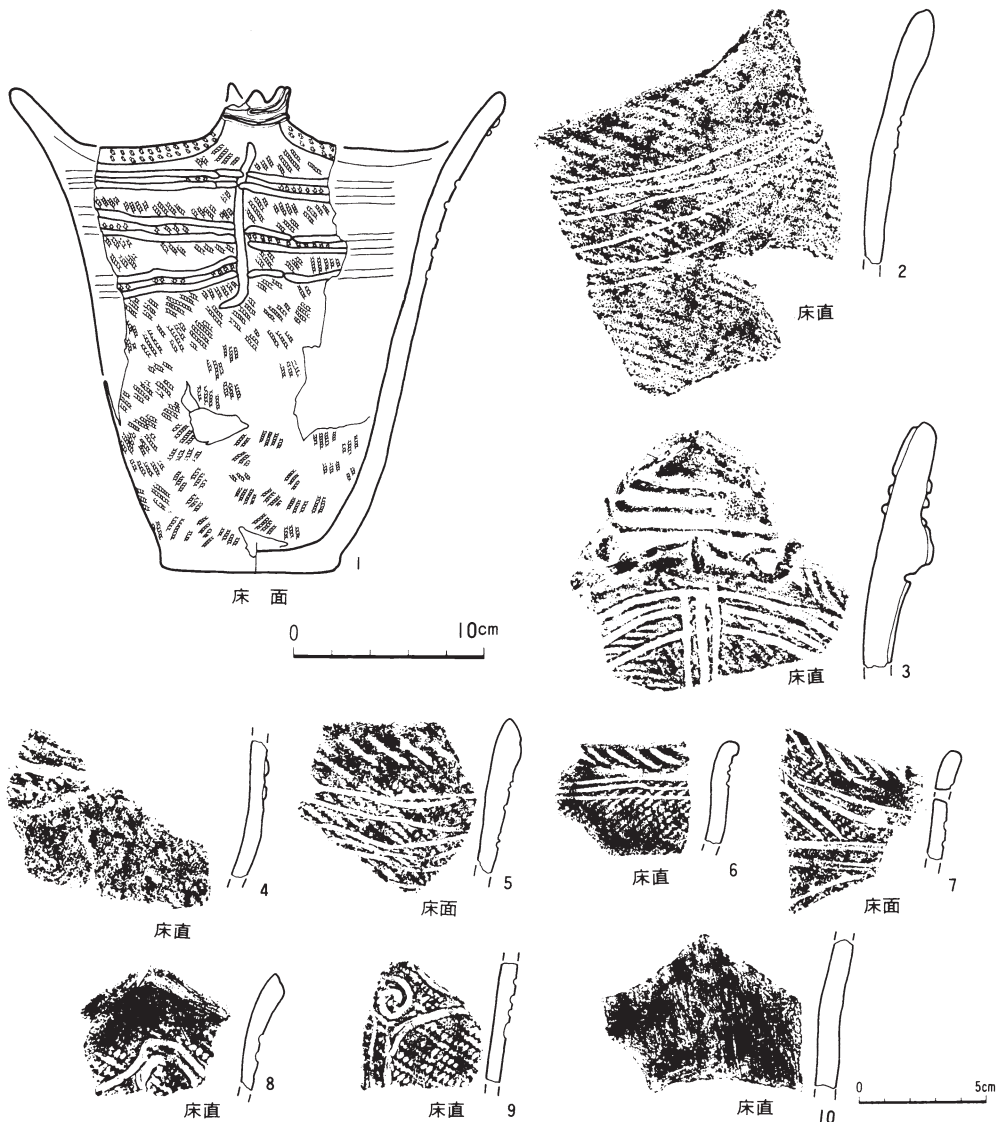
第414図 第189号住居跡(1)

〈平面形・規模〉 東西に長い楕円形である。長軸4 m43cm・短軸3 m5 cm、床面積は、10.77 m²である。

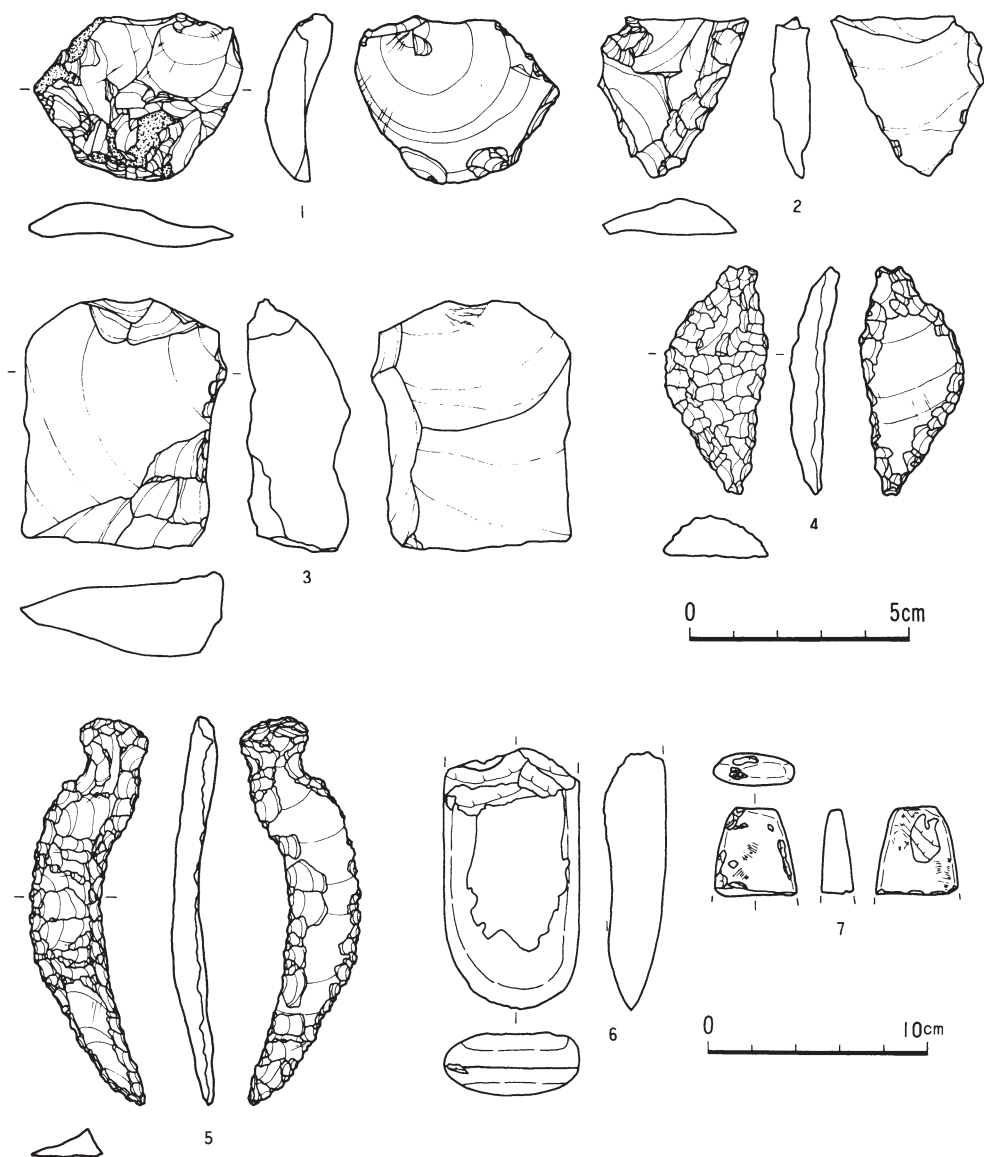
〈壁・床面〉 第IV層を壁面とし、各壁はともに緩やかに立ち上がり、堅緻な構築である。壁高は、東壁13cm・西壁6 cm・南壁6 cm・北壁12cmである。床面は起伏が少なく全般的に平坦で、堅く締まっている。

〈壁溝〉 検出されなかった。

〈柱穴〉 本住居跡内から21個のピットが検出された。このうち、長軸線上で対称になっているP₂(深さ41cm)とP₆(深さ42cm)が主柱穴と考えられる。その他の柱穴および配置については



第415図 第189号住居跡(2)



第416図 第189号住居跡3)

不明である。P₁については、特殊施設の項目で述べる。

〈炉〉 地床炉で、住居跡の中央から西寄りに位置する。平面形は円形、断面は鍋底状である。規模は、開口部で直径50cm、底面で直径40cm、深さ5cmである。堆積土は3層に区分でき、第1層上面が火床面である。

〈特殊施設〉 住居跡西壁近くでピットを検出した。このピットの周辺は低い盛土（高さ3cm前後）となっており、その周辺の床面は非常にかたく、しまりがある。ピットは円形で、開口

部で直径53cm・深さ72cmである。ピットの周辺には深さ4～20cmの小ピットがあり、これに伴うものと考えられる。堆積土は、4層に分層され、土層の観察から自然堆積と思われる。

＜堆積土＞ 7層に分層できた。各層にわたってローム粒・炭化物を含んでいる。自然堆積と思われる。

＜出土遺物＞ 遺物は、主に住居跡の東側から出土した。土器は、床面（1・5・7）と床直（2～4・6・8～10）からの出土である。石器は、床直から不定形石器3点、石斧2点、台石・石皿類1点、床面から石匙1点、不定形石器1点が出土し、総数8点である。

＜小結＞ 本住居跡は、床面出土の土器(1)からみて円筒上層e式期と思われる。

(福土敦子・中嶋友文)

第190号住居跡（第417～423図）

＜位置と確認＞ 調査区西側台地の最高部CR・CS-131～133、CT-131・132グリッドに位置する。第IV層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。

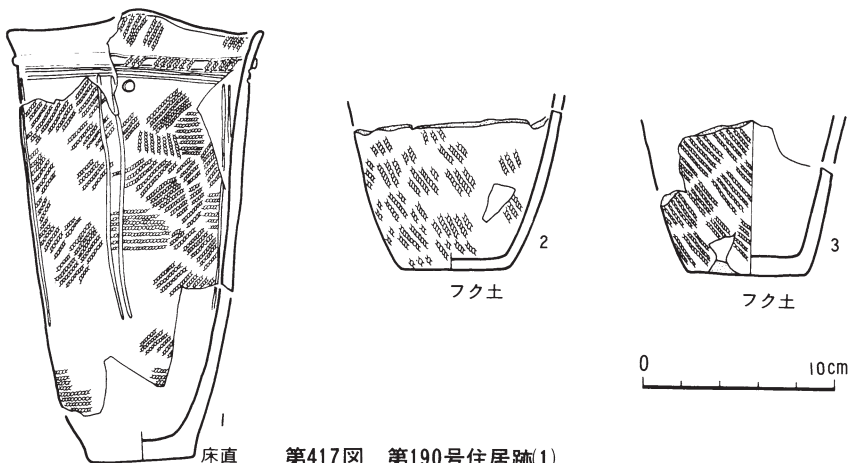
＜重複＞ 住居跡の南側で風倒木痕と切り合っており、本住居跡が古い。

＜平面形・規模＞ 東西に長い隅丸長方形である。規模は、長軸8 m93cm・短軸5 m93cm、床面積は、46.84㎡である。

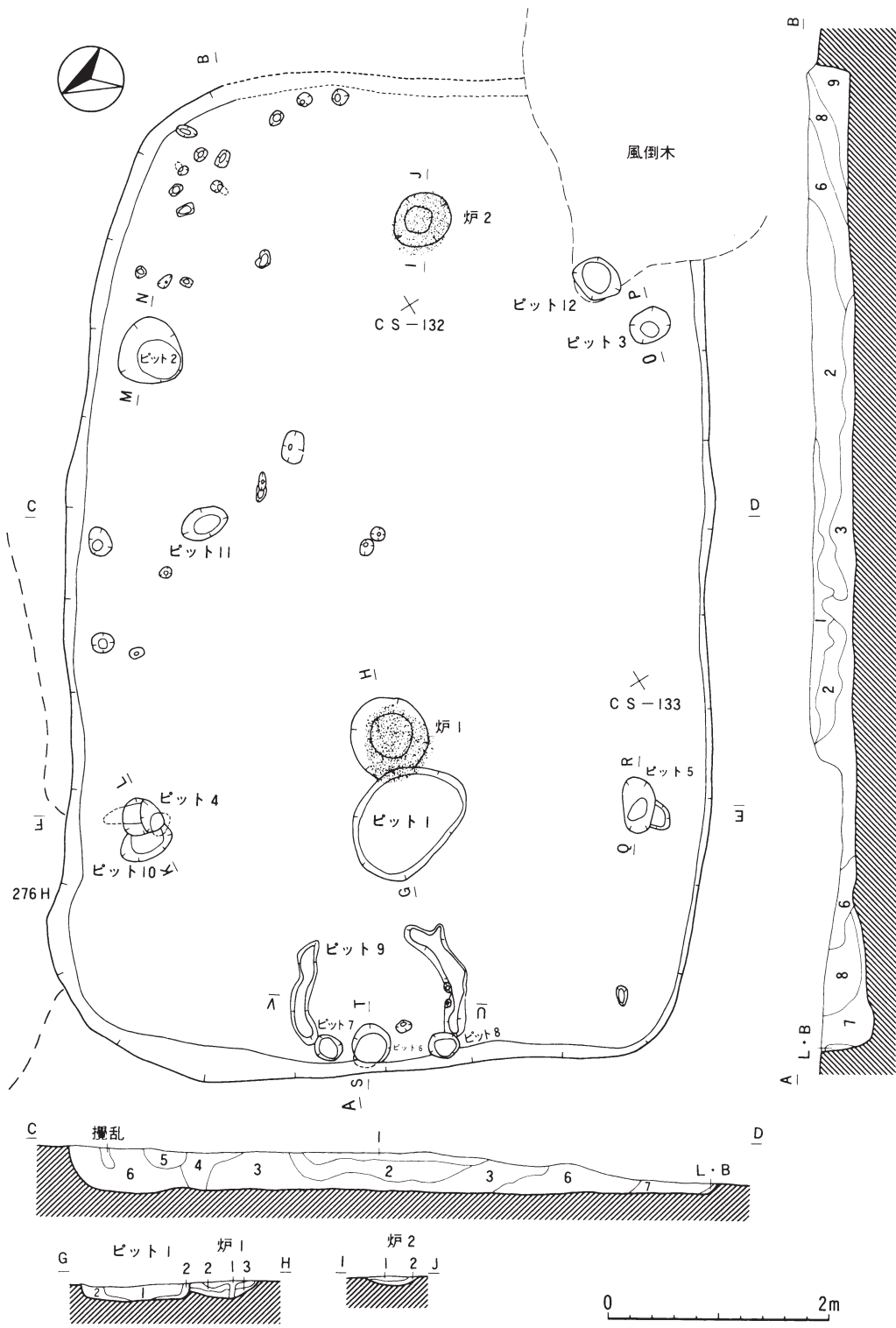
＜壁・床面＞ 第IV層を壁面とし、東壁を除いて各壁ともほぼ垂直に立ち上がり、堅緻な構築である。壁高は、西壁35cm・南壁9 cm・北壁28cmである。床面は起伏が少なく、全般的に平坦で、強く締まっている。

＜壁溝＞ 検出されなかった。

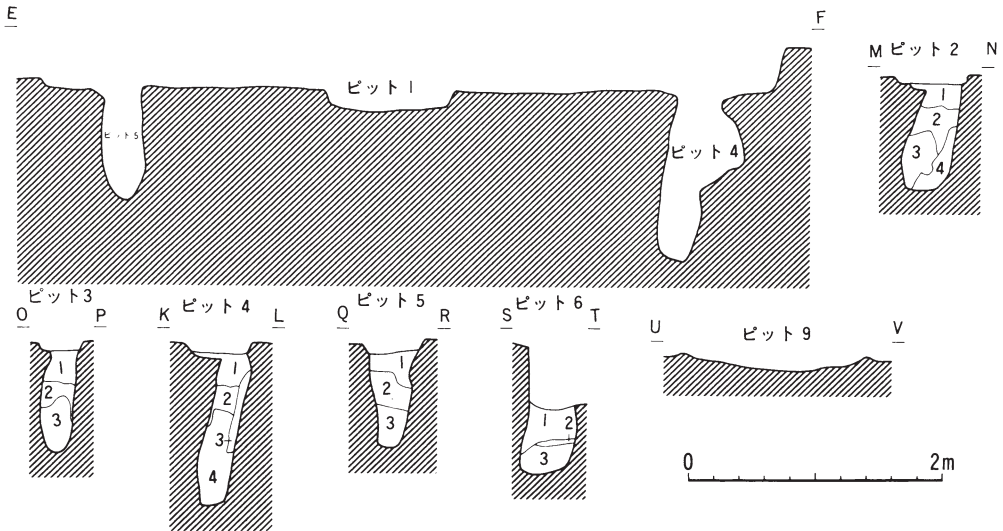
＜柱穴＞ 本住居跡内から多数のピットが検出された。このうち、長軸線上で対称になっているP₂～P₅（深さP₂…92・P₃…99・P₄…138・P₅…91cm）が主柱穴と考えられる。



第417図 第190号住居跡(1)



第418図 第190号住居跡(2)



第190号住居跡土層注記

- 第1層 黒褐色 10 Y R ¾ ローム粒を少量含む。黒色土混入
- 第2層 暗褐色 10 Y R ¾ ローム粒・炭化物を少量含む
- 第3層 暗褐色 10 Y R ¾ ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
- 第4層 暗褐色 10 Y R ¾ ローム粒・炭化物・焼土粒を微量に含む
- 第5層 褐色 10 Y R ¾ ローム粒を微量、炭化物を少量、焼土粒を微量に含む
- 第6層 暗褐色 10 Y R ¾ ローム粒を多量、炭化物を少量含む
- 第7層 黒褐色 10 Y R ¾ ローム粒を中量、炭化物を少量含む
- 第8層 褐色 10 Y R ¾ ローム粒を多量、炭化物を少量含む
- 第9層 褐色 10 Y R ¾ ローム粒を中量、炭化物を少量含む

第190号住居跡1号炉土層注記

- 第1層 褐色 10 Y R ¾ 炭化物を微量、焼土粒を少量含む
- 第2層 明褐色 5 Y R ¾ 黄褐色土との混合土
- 第3層 黄褐色 10 Y R ¾ 黒色土を微量に含む

第190号住居跡2号炉土層注記

- 第1層 明褐色 7.5 Y R ¾ 暗褐色土を少量含む
- 第2層 明褐色 7.5 Y R ¾ 黒色土を微量に含む

第190号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 褐色 7.5 Y R ¾ ローム粒・炭化粒を少量含む
- 第2層 褐色 10 Y R ¾ ローム粒・L、B、を少量、炭化物を微量に含む。暗褐色土混入

第190号住居跡ピット2土層注記

- 第1層 暗褐色 10 Y R ¾ ローム粒を中量、炭化物を少量含む
- 第2層 褐色 10 Y R ¾ ローム粒を中量、炭化物を少量含む
- 第3層 黄褐色 10 Y R ¾ ローム粒を多量に含む

第190号住居跡ピット3土層注記

- 第1層 暗褐色 10 Y R ¾ ローム粒・炭化物を少量含む
- 第2層 褐色 10 Y R ¾ ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
- 第3層 黄褐色 10 Y R ¾ 暗褐色土混入

第190号住居跡ピット4土層注記

- 第1層 褐色 10 Y R ¾ ローム粒を少量、炭化物を中量含む
- 第2層 黄褐色 10 Y R ¾ ローム粒を多量、炭化物を少量含む
- 第3層 黄褐色 10 Y R ¾ ローム粒を多量に含む。暗褐色土混入
- 第4層 褐色 10 Y R ¾ ローム粒を中量含む。暗褐色土混入

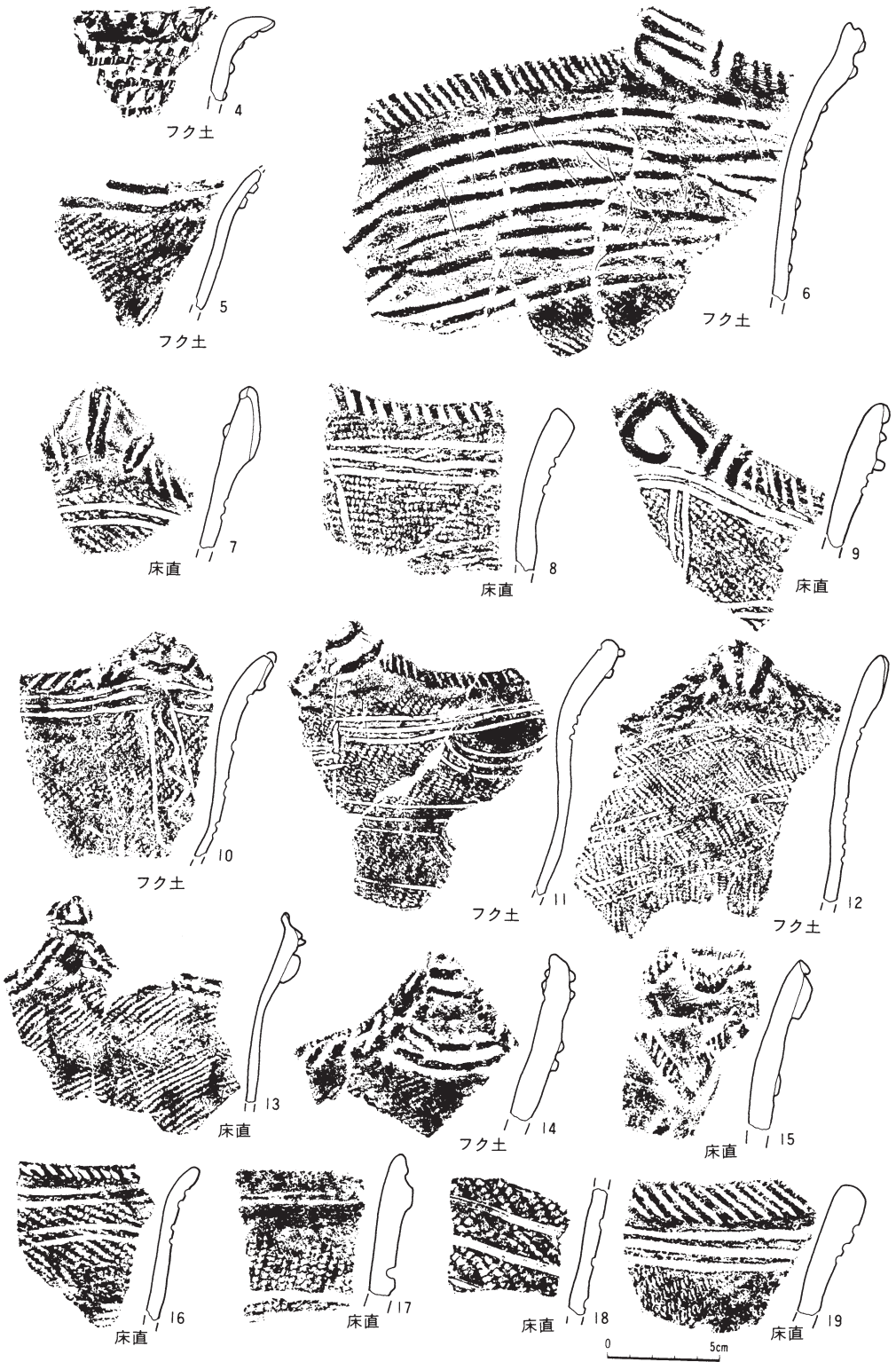
第190号住居跡ピット5土層注記

- 第1層 暗褐色 10 Y R ¾ ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
- 第2層 暗褐色 10 Y R ¾ ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
- 第3層 褐色 10 Y R ¾ ローム粒を少量、炭化物を微量に含む。黒色土を少量混入

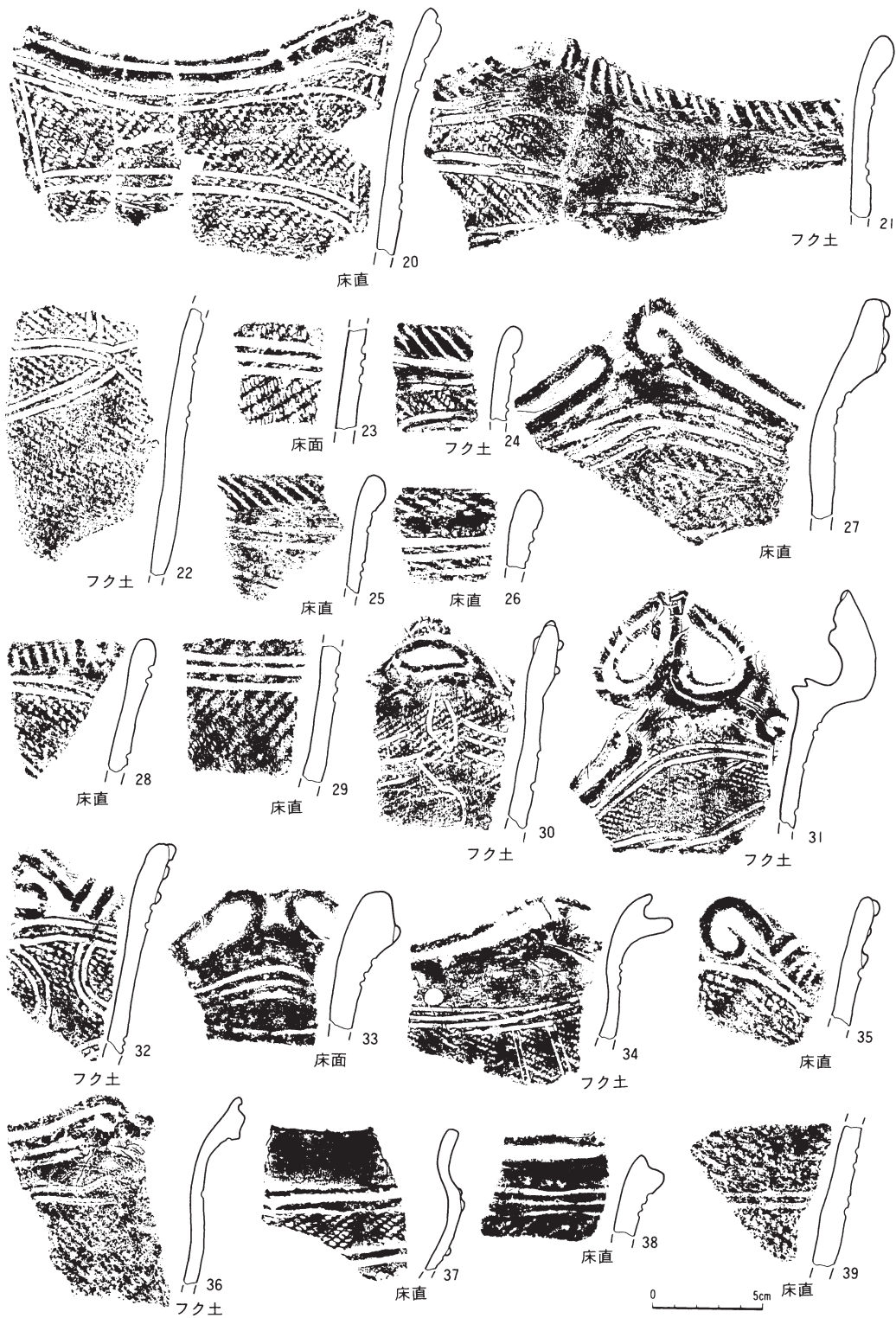
第190号住居跡ピット6土層注記

- 第1層 褐色 10 Y R ¾ ローム粒、L、B、を少量含む。黒色土を少量混入
- 第2層 暗褐色 10 Y R ¾ ローム粒を少量含む。黒色土を微量混入
- 第3層 褐色 7.5 Y R ¾ 黒色土を微量に含む

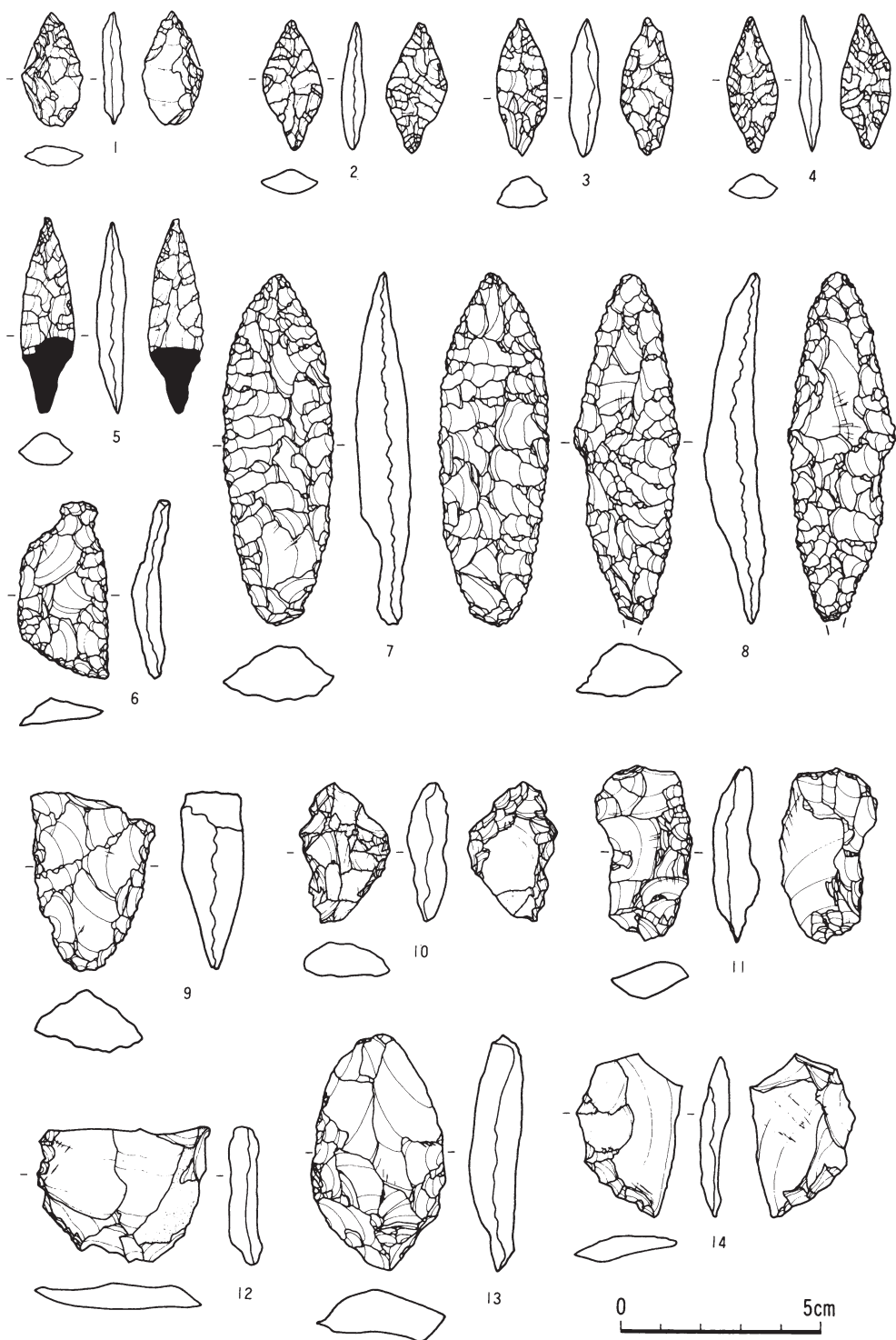
第419図 第190号住居跡(3)



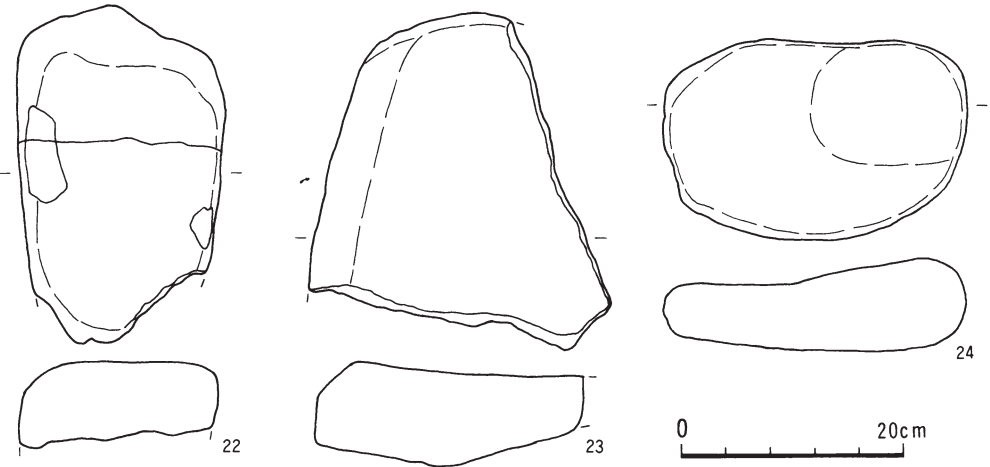
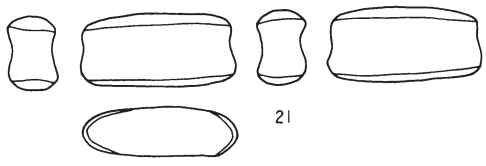
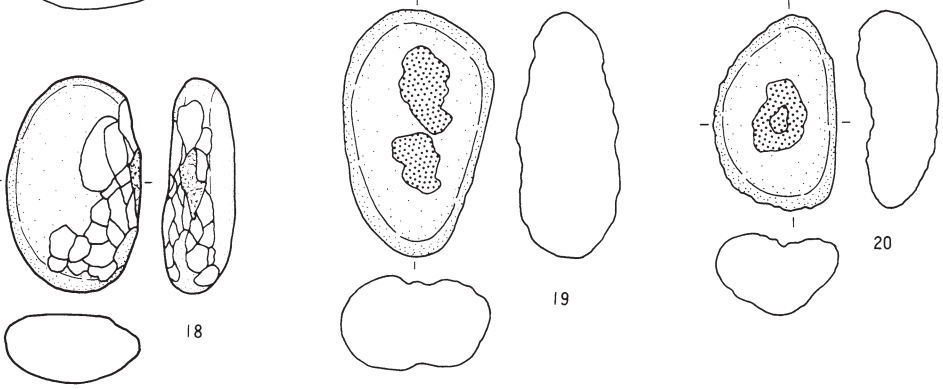
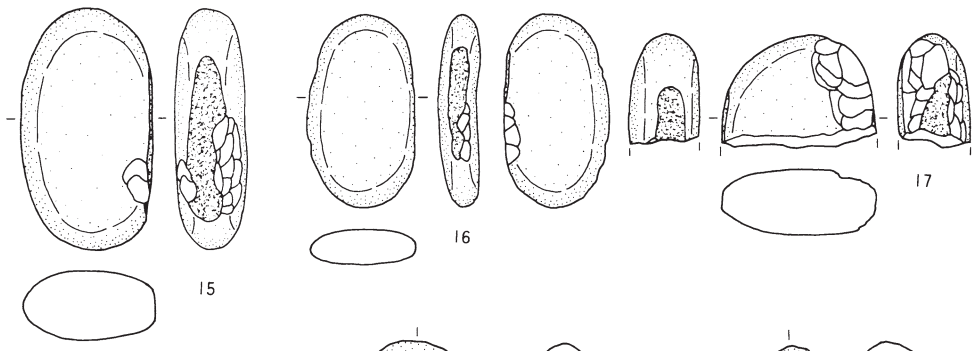
第420図 第190号住居跡(4)



第421図 第190号住居跡(5)



第422图 第190号住居跡(6)



第423图 第190号住居跡(7)

＜炉＞ 住居跡の長軸線上で2基検出され、地床炉である。いずれも平面形は円形、断面は鍋底状を呈する。規模は、第1号炉が直径70cm、深さ17cm、堆積土は3層に区分でき、第2層上面が火床面である、第2号炉は直径60cm、深さ10cm、堆積土は2層に区分でき、第1層上面が火床面である。第1号炉は、ピットに切られていることから途中で使用しなくなったと考えられる。

＜特殊施設＞ 住居跡西壁近くにピットを検出した。ピット周辺はゆるい盛土(高さ5cm前後)となっており、東側の一部が欠けている。その周辺の床面は非常にかたく、しまりがある。平面形は円形を呈し、開口部で直径162cm・深さ10cmである。壁寄りにP₆(深さ60cm)とその両側にP₇(深さ19cm)とP₈(深さ19cm)があり、これに伴うものと考えられる。

＜堆積土＞ 9層に分層できた。各層にわたってローム粒・炭化物を含んでいる。自然堆積と思われる。

＜出土遺物＞ 遺物は、住居跡の中央部の床面直上から多く出土した。土器は、床面(23・33)・床直(1・7～9・13・15～19・20・25～29・35・37～39)から出土し、他は、覆土からの出土である。石器は、覆土から石鏃8点、石匙1点、不定形石器12点、石斧2点、敲磨器類2点、台石・石皿類2点、軽石1点、ピット2から不定形石器2点、床直から石鏃3点、石槍2点、不定形石器2点、敲磨器類3点、床面から不定形石器1点、敲磨器類1点、台石・石皿類2点、軽石1点が出土した。総数46点である。

＜小結＞ 本住居跡は、床面から出土した土器(23)・(33)から榎林式期と思われる。

(木村 功・中嶋友文)

第191号住居跡(第424・425図)

＜位置と確認＞ 調査区の西側台地最高部C T-133・134グリッドに位置する。第IV層上面で褐色土の落ち込みを確認した。

＜重複＞ 本住居跡は、北側で第511号土壌と重複し、本住居跡が古い。

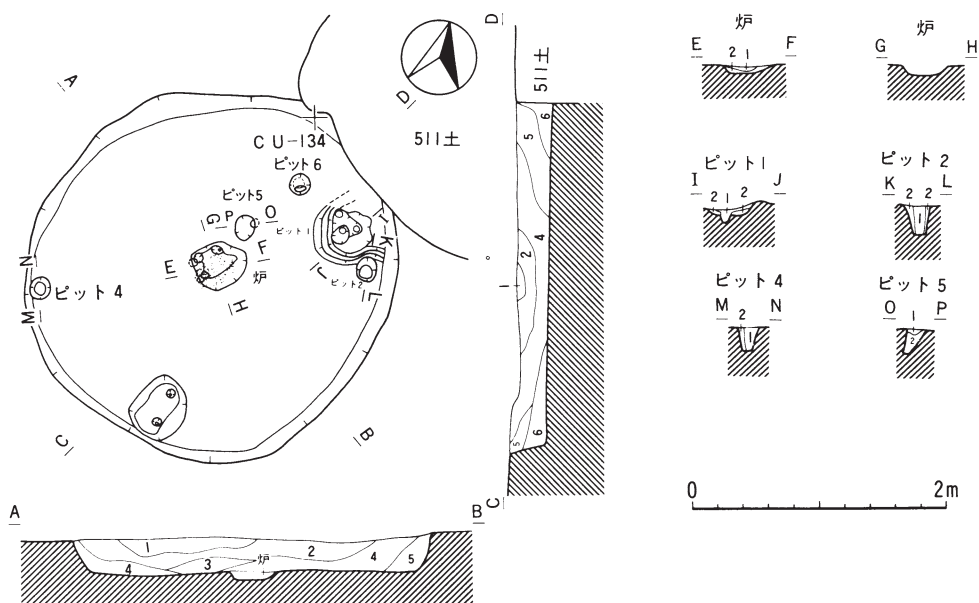
＜平面形・規模＞ ほぼ円形を呈し、規模は、長軸2m95cm、短軸2m80cm、床面積5.83m²である。

＜壁・床面＞ 壁は、緩やかに立ち上がり堅緻な構築である。床面は全体的にほぼ平坦であるが、炉の周辺は堅く締まっている。

＜壁溝＞ 検出されなかった。

＜柱穴＞ 本住居跡内から6個のピットが検出された。支柱穴はP₂・P₄(深さP₂…21・P₄…24cm)と考えられる。P₁については、特殊施設の項目で述べる。

＜炉＞ 地床炉で、住居跡中央に位置する。平面形は不整楕円形で、規模は、長軸42cm・短軸



第191号住居跡土層注記

- 第1層 明黄褐色 10Y R% ローム質土
- 第2層 褐色 10Y R% ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
- 第3層 暗褐色 10Y R% ローム粒を多量に含む、黒色土混入
- 第4層 ぶい黄褐色 10Y R% ローム粒、L Bを多量、炭化物を少量に含む
- 第5層 褐色 10Y R% ローム粒をやや多く含む
- 第6層 ぶい黄褐色 10Y R% ローム粒、L Bを多量に含む

第191号住居跡炉土層注記

- 第1層 褐色 10Y R% ローム粒を少量、焼土粒、炭化物を多量に含む
- 第2層 黄褐色 10Y R% ローム粒をやや多く、炭化物を少量含む

第191号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 褐色 10Y R% ローム粒、炭化物、焼土粒を少量に含む
- 第2層 黄褐色 10Y R% ローム質土

第191号住居跡ピット2土層注記

- 第1層 褐色 10Y R% ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
- 第2層 黄褐色 10Y R% ローム質土

第191号住居跡ピット5土層注記

- 第1層 褐色 10Y R% ローム粒を少量に含む
- 第2層 黄褐色 10Y R% ローム質土

第191号住居跡ピット4土層注記

- 第1層 褐色 10Y R% ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
- 第2層 黄褐色 10Y R% ローム質土

第424図 第191号住居跡(1)

35cm、深さ6cmである。底面には深さ7～10cmのピットを3基検出した。堆積土は2層に区分でき、第2層上面が火床面である。

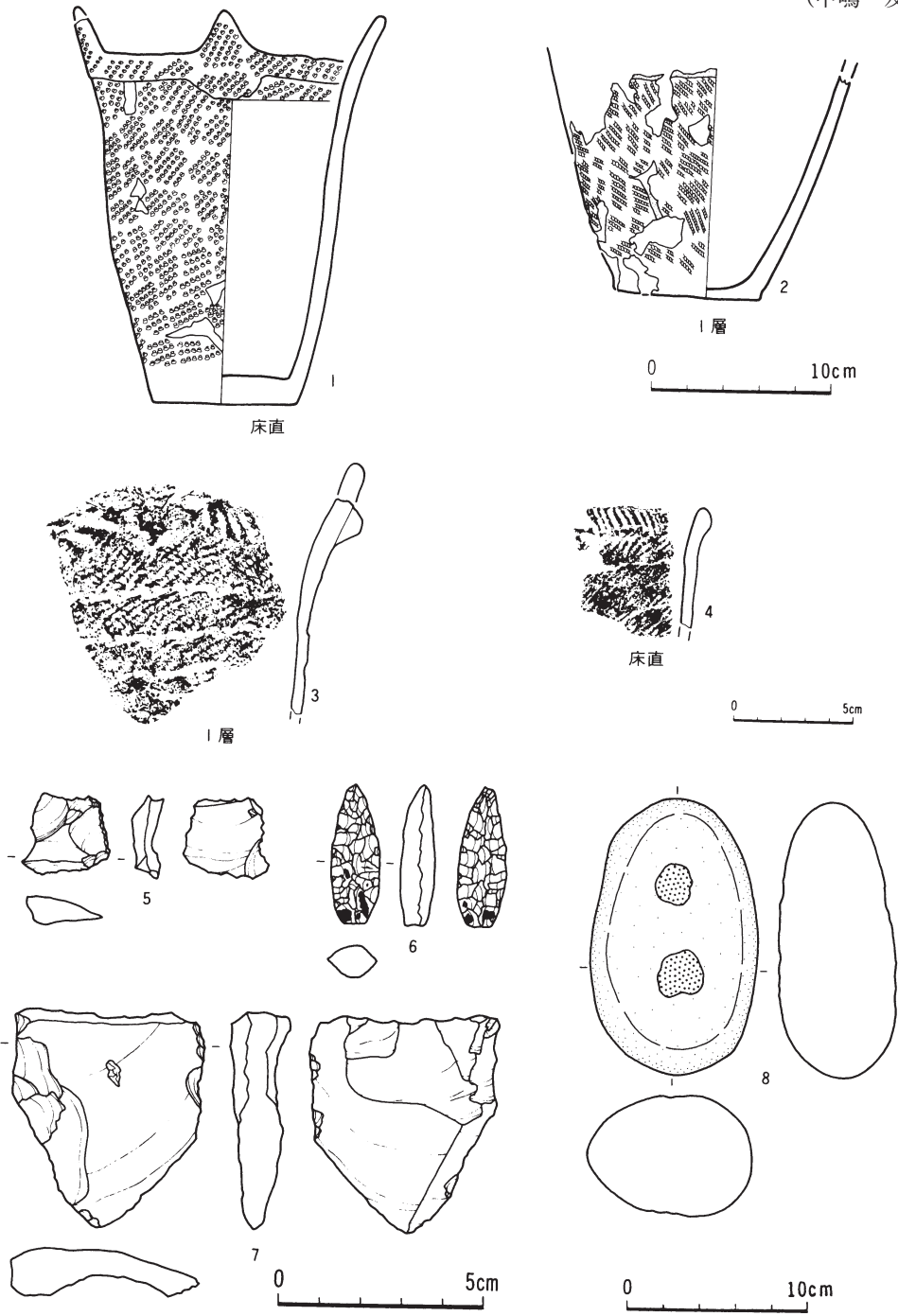
〈特殊施設〉 住居跡東壁直下からピットを1基検出した。ピットの周辺は盛り土(高さ2～3cm)になっている。平面形は馬蹄形状を呈し長軸56cm、短軸48cm・深さ7cmである。中央部からやや西寄りには直径10cm前後のピットが3基あり、伴うかどうかは不明である。

〈堆積土〉 6層に分層できた。各層にわたってローム粒を含んでいる。自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉 遺物は、住居跡の中央部から出土した。土器は、床面(1)・床直(1)から出土し、他は、覆土からの出土である。石器は、覆土から不定形石器8点、床直から石鏃1点、敲磨器類1点が出土した。総数10点である。

<小結> 本住居跡は、床面から出土した土器(1)からみて円筒上層d・e式期と思われる。

(中嶋 友文)



第425図 第191号住居跡(2)

第192号住居跡 (第426・427図)

〈位置と確認〉 調査区の西側台地最高部CU-133グリッドに位置する。第IV層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。

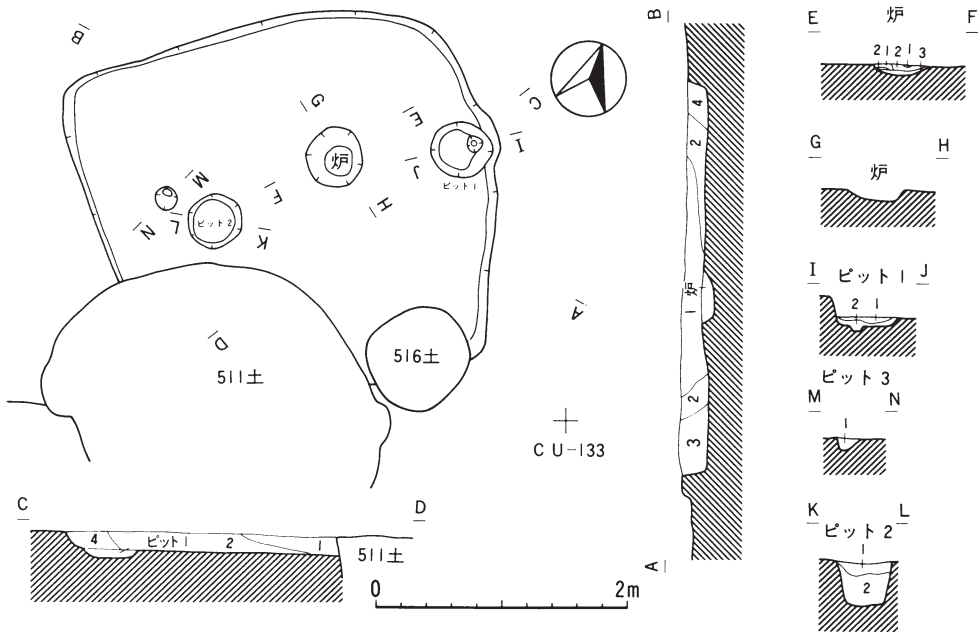
〈重複〉 本住居跡は、南側が第511号土壌・第516号土壌と重複し、本住居跡が古い。

〈平面形・規模〉 本住居跡は、南側を土壌に壊されているが残存部分から西側が膨らむ隅丸方形と思われる。規模は、長軸3 m10cm、短軸2 m95cm、床面積7.87㎡である。

〈壁・床面〉 東壁から北壁にかけては、緩やかに立ち上がり堅緻な構築であるが、西壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。南壁は確認できない。床面は全体的にほぼ平坦であるが、炉の周辺を除くと軟弱なつくりである。

〈壁溝〉 検出されなかった。

〈柱穴〉 本住居跡内から3個のピット (P₁…39、P₂…29、P₃…36cm) が検出された。いずれも柱穴かどうか不明である。



第192号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色 10Y R ¾ ローム粒多量、炭化物を少量含む
- 第2層 褐色 10Y R % ローム粒、炭化物多量に含む
- 第3層 褐色 10Y R % ローム粒、炭化物を少量含む
- 第4層 黄褐色 10Y R % ローム粒多量、炭化物を少量含む
- 第5層 黒褐色 10Y R % ローム粒、炭化物多量に含む

第192号住居跡炉土層注記

- 第1層 褐色 10Y R ¾ ローム粒、炭化物多量に含む
- 第2層 赤褐色 2.5Y R ¾ (焼土層)
- 第3層 明黄褐色 10Y R %

第192号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 褐色 10Y R % ローム粒、炭化物多量に含む
- 第2層 明黄褐色 10Y R % 褐色土混入。

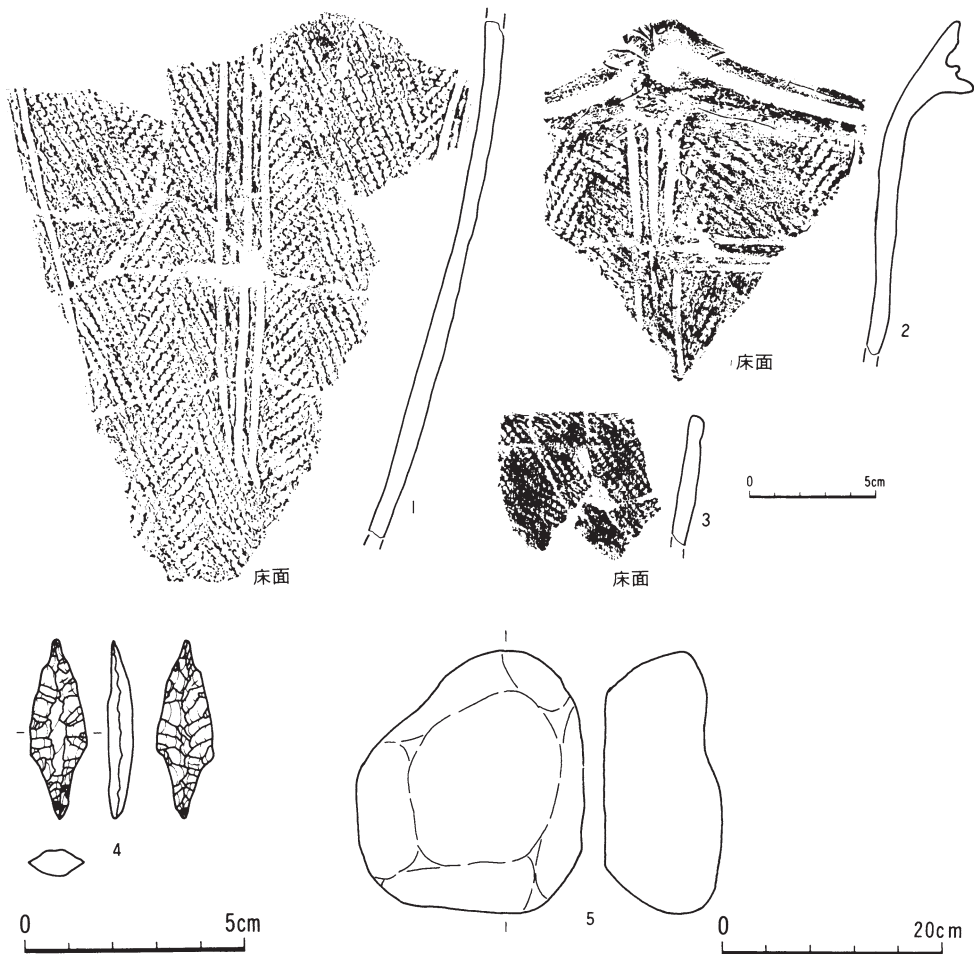
第192号住居跡ピット2土層注記

- 第1層 暗褐色 10Y R ¾ ローム粒多量、炭化物を少量含む
- 第2層 褐色 10Y R % ローム粒多量に含む

第192号住居跡ピット3土層注記

- 第1層 褐色 10Y R % ローム粒多量に含む

第426図 第192号住居跡(1)



第427図 第192号住居跡(2)

＜炉＞ 地床炉で、住居跡中央からやや北寄りに位置する。平面形は円形を呈する。規模は、長軸46cm・短軸45cm、深さ10cmである。堆積土は3層に区分でき、第2層上面が火床面である。

＜特殊施設＞ 検出されなかった。

＜堆積土＞ 3層に分層できた。各層にわたってローム粒・炭化物を含んでいる。自然堆積と思われる。

＜出土遺物＞ 遺物は、住居跡の中央部から出土した。土器は、床面（1～3）から出土し、（1）と（2）は同一個体であると思われる。石器は、覆土から石鏃2点、床面から台石・石皿類1点が出土した。総数3点である。

＜小結＞ 本住居跡は、床面から出土した土器片（1）・（2）から榎林式期と思われる。

（中嶋友文）

第193号住居跡（第428～430図）

＜位置と確認＞ 調査区CV・CW-133・134グリッドに位置している。第268号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

＜重複＞ 住居跡の北側で第268号住居跡と重複し、新旧関係は本住居跡が古い。

＜平面形・規模＞ 残存部から推定して丸みのある円形のプランを呈すると思われる。規模は、長軸3m83cm・短軸（3m52cm）・床面積（9.12）㎡を測る。

＜壁・床面＞ 上端から床面にかけて傾斜しており堅緻なつくりである。壁高は、東壁35cm・西壁46cm・南壁31cm・北壁55cmを測る。床面は、ほぼ平坦で固い造りである。

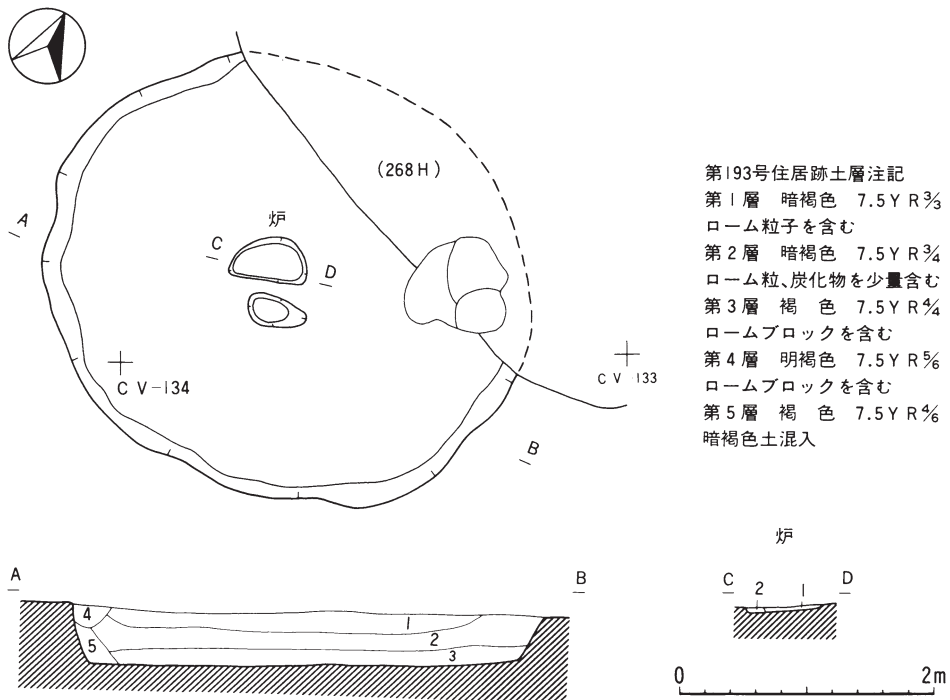
＜柱穴＞ 中心部から南側に長径46cm・短径25cm・深さ18cmの楕円形のピットを検出した。柱穴かどうかは判断できなかった。

＜炉＞ 住居跡の中央部に長径59cm・短径26cm・深さ6cmの浅い地床炉が位置している。

＜特殊施設＞ 認められなかった。

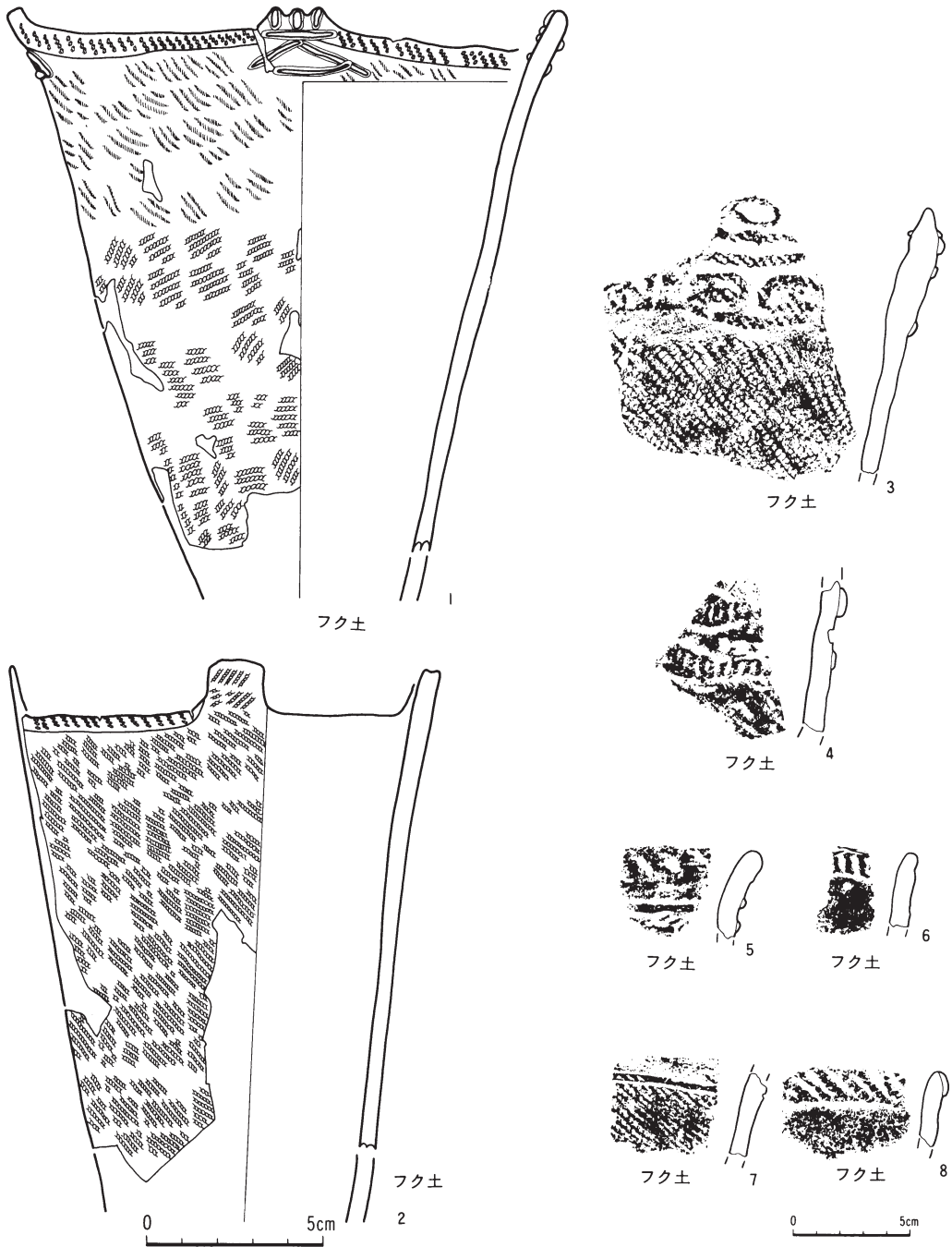
＜堆積土＞ 5層に分層できた。断面観察等から自然堆積と思われる。

＜出土遺物＞ 遺物は、住居跡の北側から多く出土した。土器は、すべて覆土からの出土である。石器は、覆土から石鏃3点・石槍1点・不定形石器6点・磨製石斧2点、床直から石槍2点・不定形石器1点の総数15点が出土した。

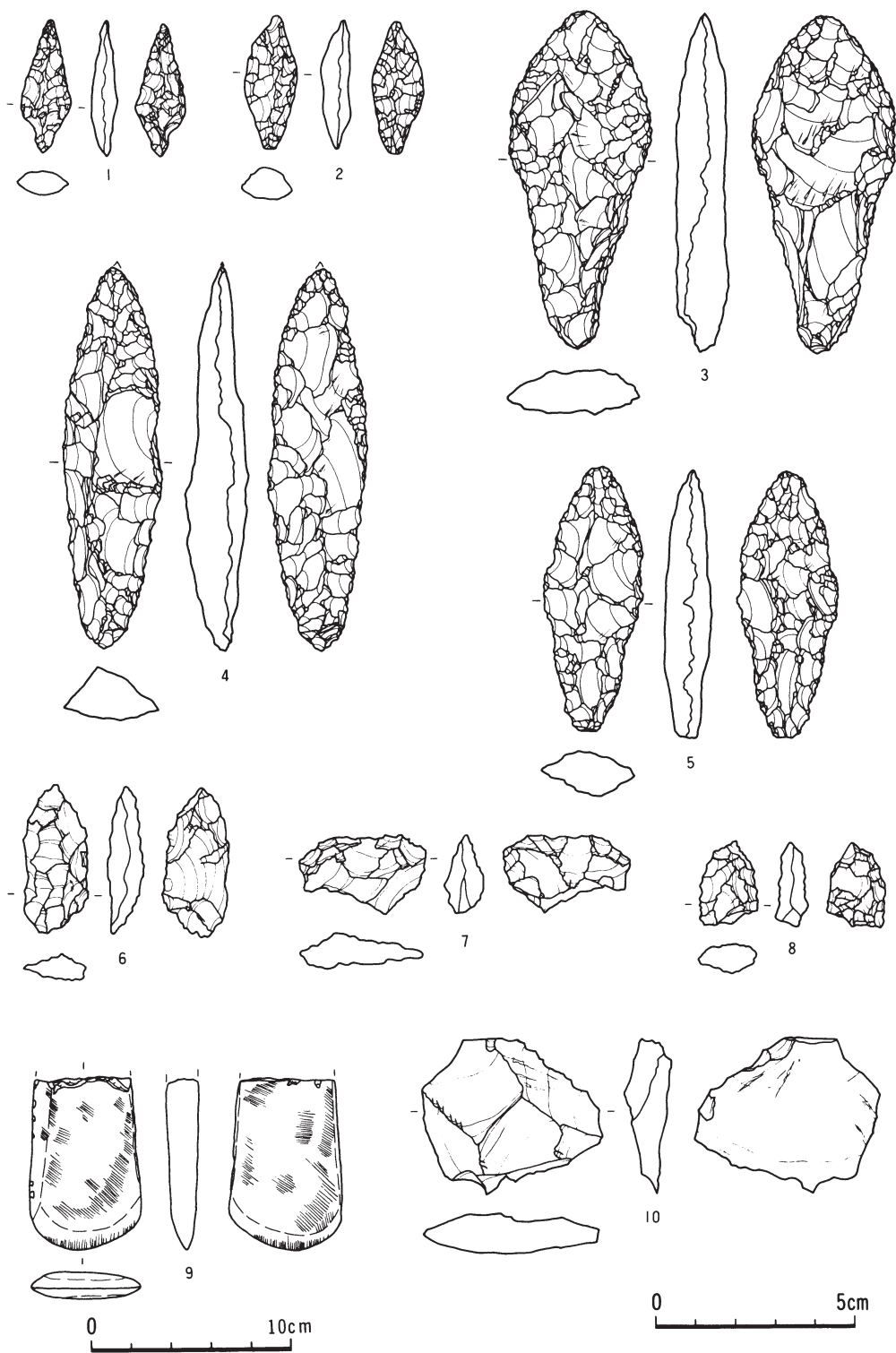


第428図 第193号住居跡(1)

<小結> 住居跡の覆土から円筒上層c・d式土器が出土しており、ほぼこの時期に住居跡が構築されたものと思われる。 (成田 滋彦)



第429図 第193号住居跡(2)



第430图 第193号住居跡(3)

第194号住居跡（第431図）

＜位置と確認＞ 調査区CV-138グリッドに位置している。第193号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

＜重複＞ 第193・195号住居跡・第467号土壇と重複し、新旧関係は下記の変遷である。

(旧) → (新)

第195号住居跡 → 本住居跡 → 第193号住居跡
↓
第467号土壇

＜平面形・規模＞ 北側が切られているため残存部から推定すると、楕円形のプランを呈すると思われる。規模は、長軸（2m52cm）・短軸（2m04cm）・床面積は（3.89）㎡で小型の住居跡である。

＜壁・床面＞ 上端から床面にかけて傾斜しており、堅緻なつくりである。壁高は、東壁10cm・西壁5cm・南壁16cm・北壁は不明である。床面は、ほぼ平坦で貼り床を施している。

＜柱穴＞ 認められなかった。

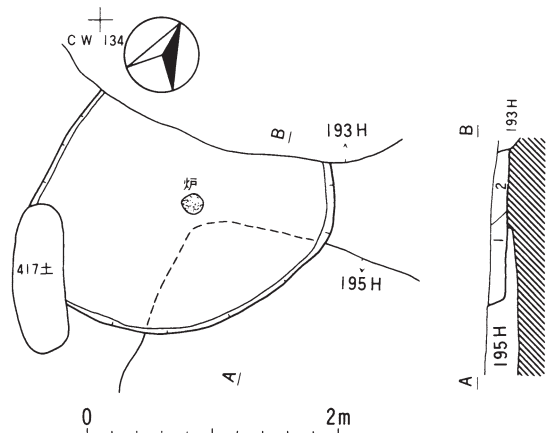
＜特殊施設＞ 認められなかった。

＜炉＞ 住居跡の中央部から、15cmの範囲で焼土を検出したが、炉かどうか判断できなかった。

＜堆積土＞ 2層に分層できた。人為か自然堆積かどうかは判断できなかった。

＜出土遺物＞ 遺物は出土しなかった。

（成田 滋彦）



第194号住居跡土層注記

第1層 暗褐色 7.5 Y R 7/4 炭化物、ローム粒を含む

第2層 暗褐色 7.5 Y R 7/4 炭化物少量含む

第431図 第194号住居跡

第195号住居跡（第432・433図）

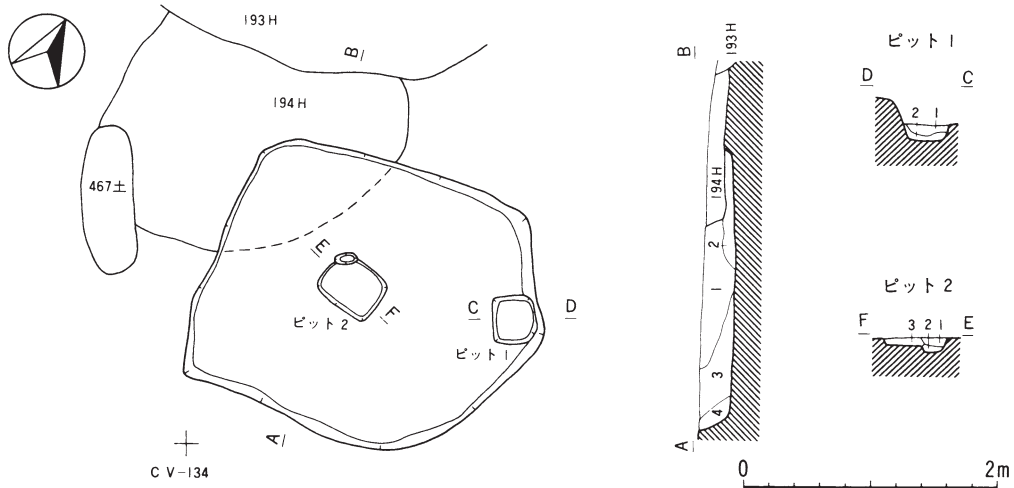
＜位置と確認＞ 調査区CV-133グリッドで、調査区中央部の台地緩斜面に位置している。第194号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

＜重複＞ 北側で第194号住居跡と重複し、新旧関係は本住居跡が古い。

＜平面形・規模＞ 東側部分が張り出した方形のプランである。規模は、長軸2m54cm・短軸2m34cm・床面積は4.61㎡の小型な住居跡である。

＜壁・床面＞ 上端から床面にかけて傾斜しており、堅緻な造りである。壁高は、東壁23cm・西壁21cm・南壁23cm・北壁16cmを測る。床面は、ほぼ平坦で壁同様に固い。

＜柱穴＞ 認められなかった。



第195号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 暗褐色 7.5Y R $\frac{3}{4}$ 炭化物多量、ローム粒少量含む
- 第2層 明褐色 7.5Y R% 暗褐色土混入

第195号住居跡ピット2土層注記

- 第1層 暗褐色 7.5Y R $\frac{3}{4}$ 炭化物を多量に含む
- 第2層 明褐色 7.5Y R% 炭化物若干含む
- 第3層 明褐色 7.5Y R% 暗褐色土混入

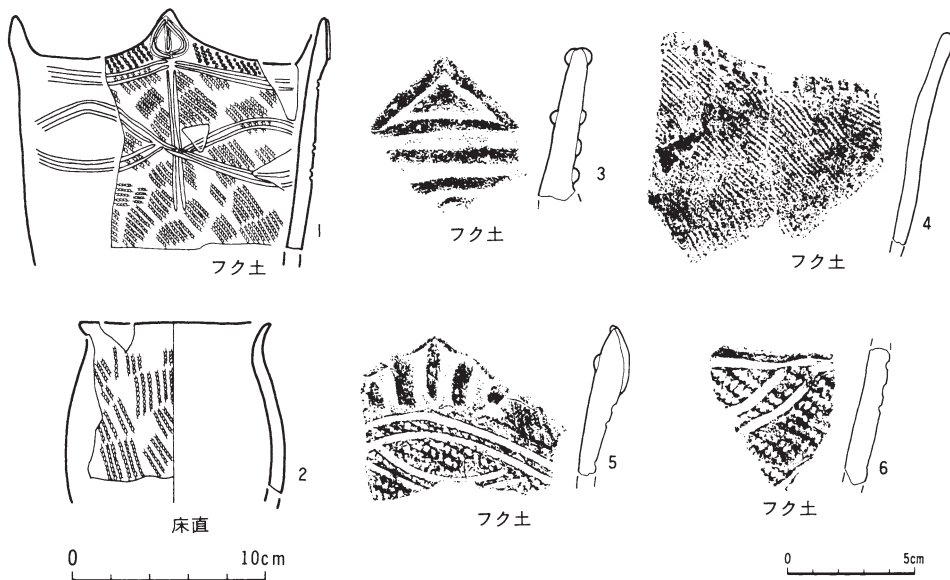
第195号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色 7.5Y R $\frac{3}{4}$ 炭化物、ローム粒を全面に含む
- 第2層 暗褐色 7.5Y R $\frac{3}{4}$ 炭化物若干含む、ロームブロック混入
- 第3層 褐色 7.5Y R $\frac{4}{4}$ ローム粒、ロームブロックを全面に含む
- 第4層 明褐色 7.5Y R% 暗褐色土混入

第432図 第195号住居跡(1)

〈炉〉 認められなかった。

〈その他の施設〉 住居跡の西壁よりに長径28cm・短径25cmのピット1と、中央部に位置し長径47cm・短径44cm・深さ9cmのピット2を検出した。両ピット共に方形のプランで浅く堆積土



第433図 第195号住居跡(2)

中に炭化物を多く含んでいる。

<堆積土> 4層に分層できた。堆積土中にローム粒・ロームブロックを多量に含んでおり、人為堆積と思われる。

<出土遺物> 遺物は、炉から西側にかけて出土した。土器は、すべて覆土から出土した。石器は、覆土から台石石皿1点が出土した。

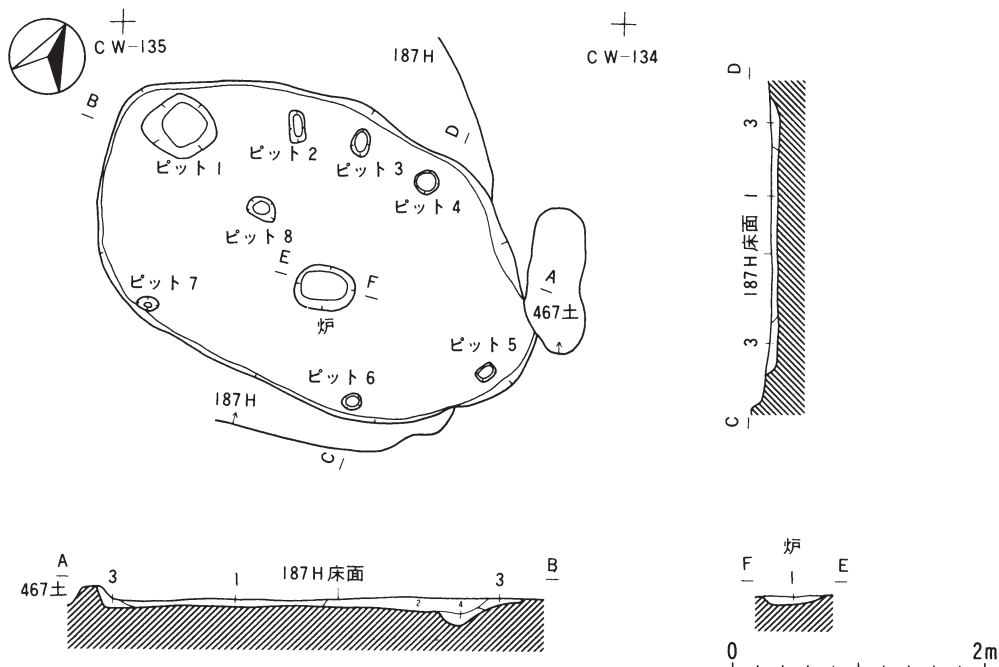
<小結> 覆土の土器は、円筒上層d・e式である。 (成田 滋彦)

第196号住居跡 (第434・435図)

<位置と確認> 調査区CV-134・135グリッドに位置している。第187号住居跡を精査中に確認した。

<重複> 第187号住居跡・第467号土壇と重複し、新旧関係は本住居跡が古い。

<平面形・規模> 全体に丸みを有する楕円形のプランである。規模は、長軸3m77cm・短軸2m37cm・床面積6.58㎡を測る。



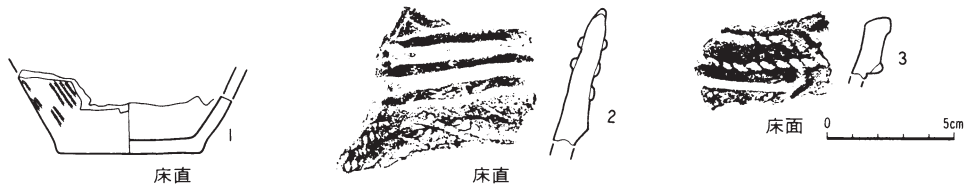
第196号住居跡土層注記

第1層 暗褐色 7.5Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒少量、炭化物若干含む
第2層 黒褐色 7.5Y R $\frac{2}{4}$ ローム粒、炭化物少量含む
第3層 褐色 7.5Y R $\frac{1}{4}$ 暗褐色土混入
第4層 褐色 7.5Y R $\frac{1}{4}$ 炭化物、ローム粒少量含む

第196号住居跡炉土層注記

第1層 褐色 7.5Y R $\frac{1}{4}$ 焼土小ブロックを多量に含む

第434図 第196号住居跡(1)



第435図 第196号住居跡(2)

〈壁・床面〉 上端から床面にかけてなだらかに傾斜しており、柔らかい造りである。壁高は、東壁6cm・西壁5cm・南壁7cm・北壁6cmを測る。床面は、ほぼ平坦で堅緻な造りである。

〈柱穴〉 ピットは8個検出した。配置はピット8が西側に、他は壁寄りに配置している。P₃～P₇は壁柱穴と思われる。

第196号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	方形	47×45	8	2	方形	27×12	8	3	楕円形	19×14	5
4	円形	19×19	4	5	方形	16×11	5	6	円形	14×13	8
7	楕円形	16×9	5	8	不整形	23×12	10				

〈炉〉 住居跡の中央部に位置し、長径48cm・短径35cm・深さ7cmの浅い楕円形の地床炉である。

〈特殊施設〉 認められなかった。

〈堆積土〉 4層に分層できた。自然か人為堆積かどうか判断できなかった。

〈出土遺物〉 土器は、床面・床直から出土した。石器は出土しなかった。

〈小結〉 床面の土器から円筒上層e式期の住居跡と思われる。 (成田 滋彦)

第197号住居跡 (第436～438図)

〈位置と確認〉 調査区CZ・DA-133・134グリッドに位置している。

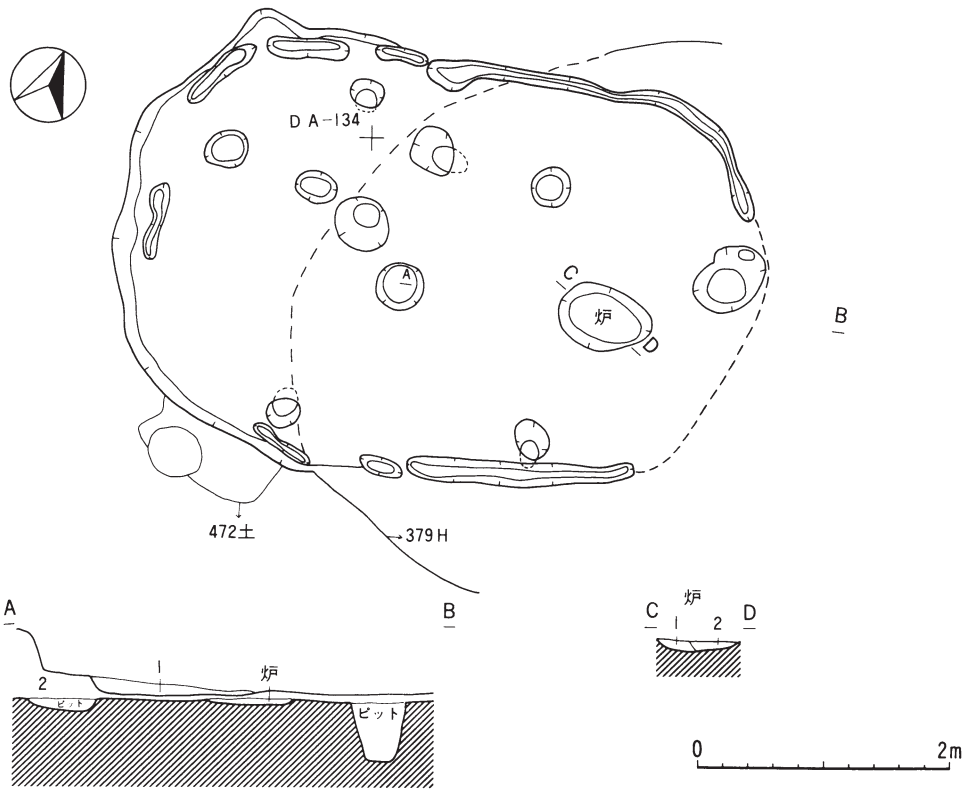
〈重複〉 住居跡の東側で第379号住居跡・第472号土壙と重複し、新旧関係は、本住居跡が新しい。

〈平面形・規模〉 南・北側が直線的な楕円形の形態を呈する。規模は長軸(5m18cm)・短軸3m46cm・床面積(14.87)㎡を測る。

〈壁・床面〉 上端から床面にかけてなだらかに傾斜しており、軟らかい造りである。壁高は、東壁10cm・西壁23cm・南壁23cm・北壁4cmを測る。床面は、第379号住居跡の覆土2層面に貼り床をし床面としている。

〈壁溝〉 幅12cm・深さ6cmの溝が巡っており、東・西側の一部で溝は途切れている。

〈柱穴〉 ピットは10個検出され、壁寄りに多く配置している。形態等から柱穴と思われるが主



第197号住居跡土層注記

第1層 暗褐色 10Y R ¾ 焼土粒多量、炭化物若干含む
 第2層 明黄褐色 5 Y R ¾ 炭化物若干含む

第197号住居跡土層注記

第1層 暗褐色 7.5Y R ¾ ロームブロックと炭化物を含む
 第2層 暗褐色 7.5Y R ¾ 炭化物多量、ローム粒少量含む

第436図 第197号住居跡(1)

柱穴は判断できなかった。

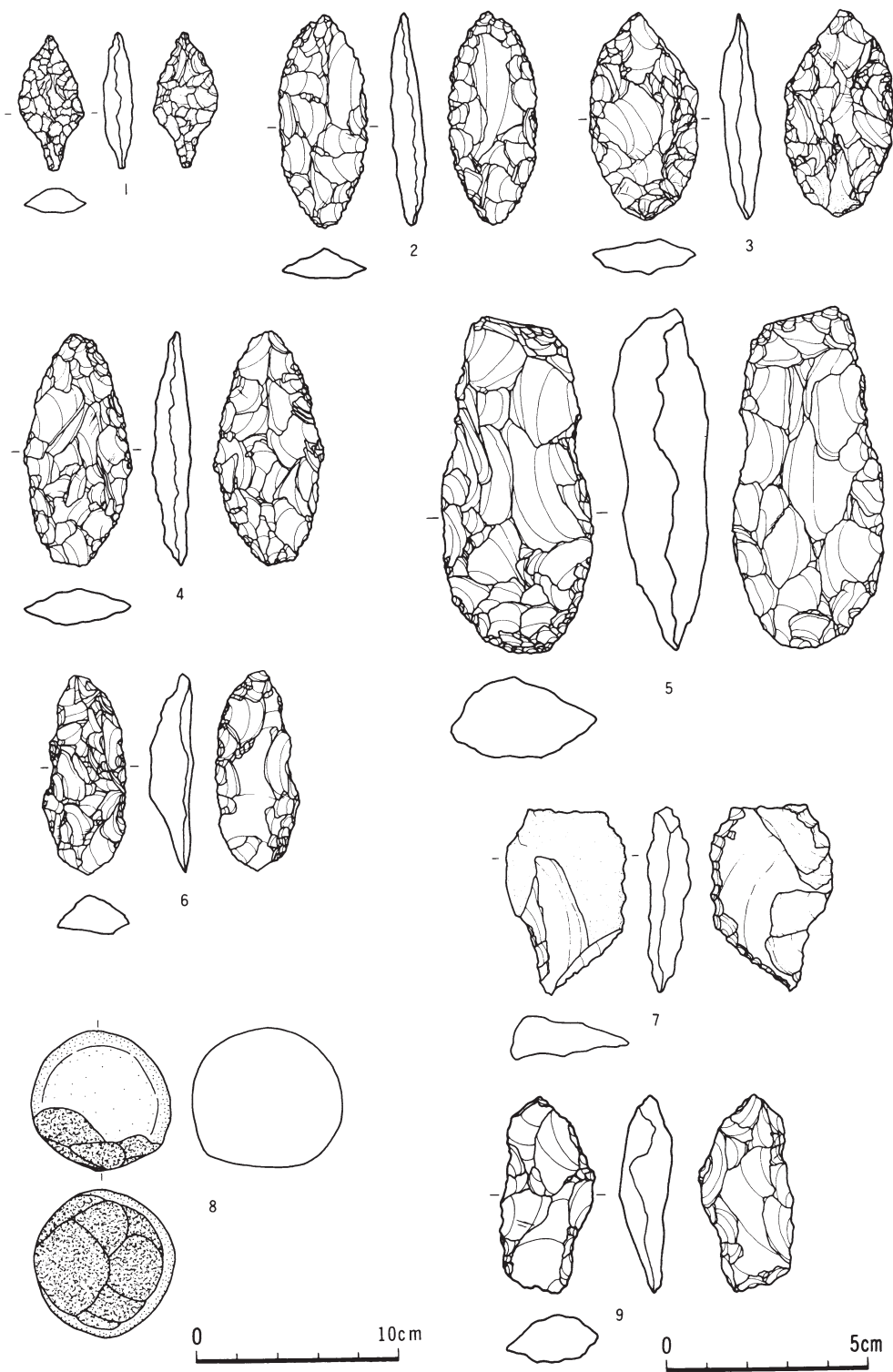
〈炉〉 住居跡の東側に位置し、長径73cm・短径48cm・深さ9cmの浅い楕円形の地床炉である。

〈特殊施設〉 認められなかった。

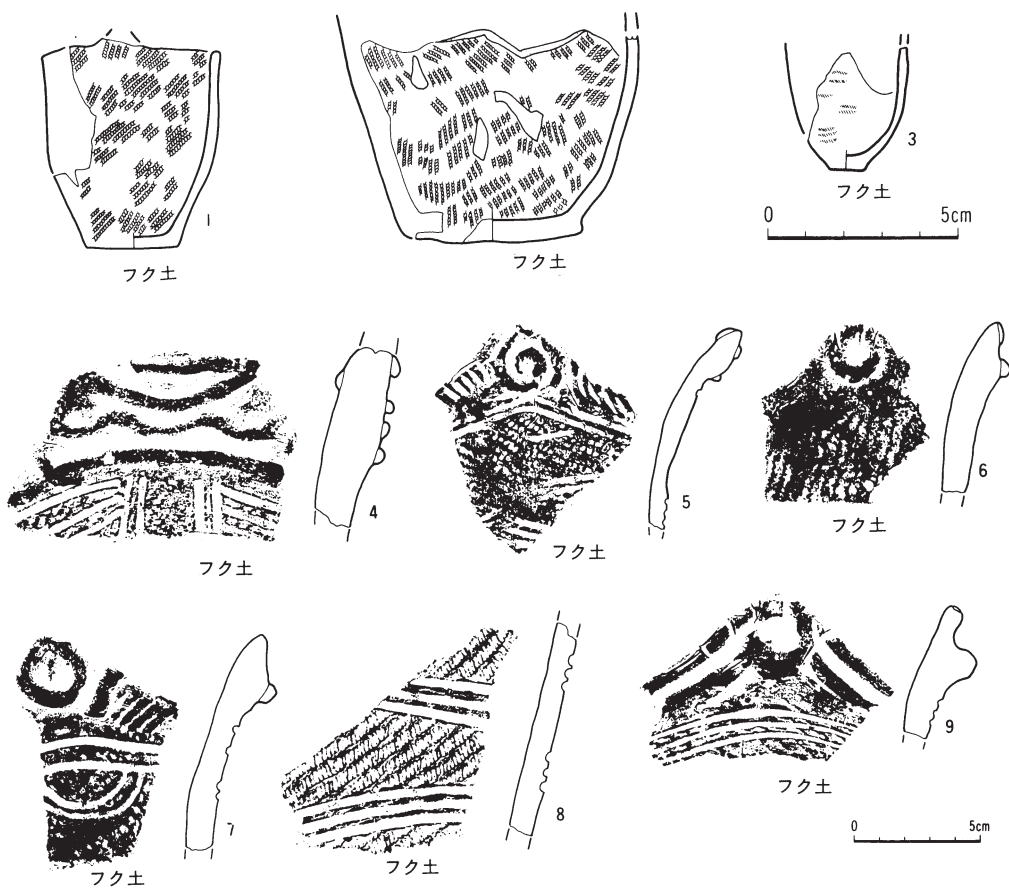
〈堆積土〉 2層に分層できた。自然か人為堆積かどうか判断できなかった。

〈出土遺物〉 遺物は、住居跡の西側の覆土から多く出土した。土器は、すべて覆土からの出土である。石器は、覆土から石鏃1点・石槍3点・石筥2点・不定形石器8点・敲磨器類1点が出土した。

〈小結〉 土器は、覆土から円筒上層e・榎林式が出土している。 (成田 滋彦)



第437图 第197号住居跡(2)



第438図 第197号住居跡(3)

第200号住居跡（第439図）

＜位置と確認＞ 調査区CU・CV-126・127グリッドに位置している。第IV層を精査中に炉と貼り床を検出し、住居跡と確認した。

＜重複＞ 第244・397号住居跡、第824号土壇と重複し、新旧関係は本住居跡が古い。

＜平面形・規模＞ 炉と貼り床のみの検出のため、平面形・規模は不明である。

＜壁・床面＞ 壁は確認できなかった、床面は炉の西側と北側から貼り床を検出した。

＜柱穴＞ ピットは18個検出した。配置等から柱穴と思われる。

＜炉＞ 南側が切られているが、残存部から推定すると円形の地床炉である。

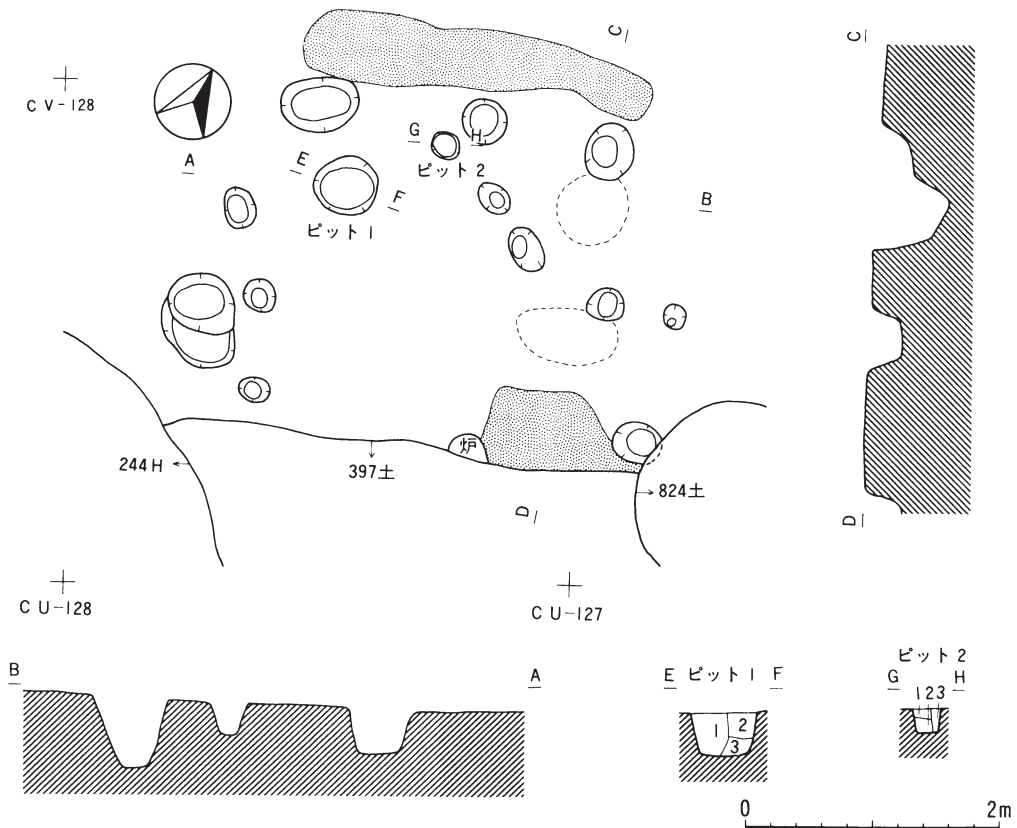
＜特殊施設＞ 認められなかった。

＜堆積土＞ 認められなかった。

＜出土遺物＞ 遺物は、土器が少量出土し、石器は出土しなかった。

＜小結＞ 土器が細片のため時期は不明である。

（成田 滋彦）



第200号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 褐色 10YR% ローム粒子少量、炭化物若干含む
- 第2層 黄褐色 10YR% ローム粒子多量に含む
- 第3層 黄褐色 10YR% ローム粒子量、炭化物若干含む

第200号住居跡ピット2土層注記

- 第1層 褐色 10YR% 炭化物若干含む
- 第2層 明黄褐色 10YR%
- 第3層 暗褐色 10YR% ローム粒少量含む

第439図 第200号住居跡

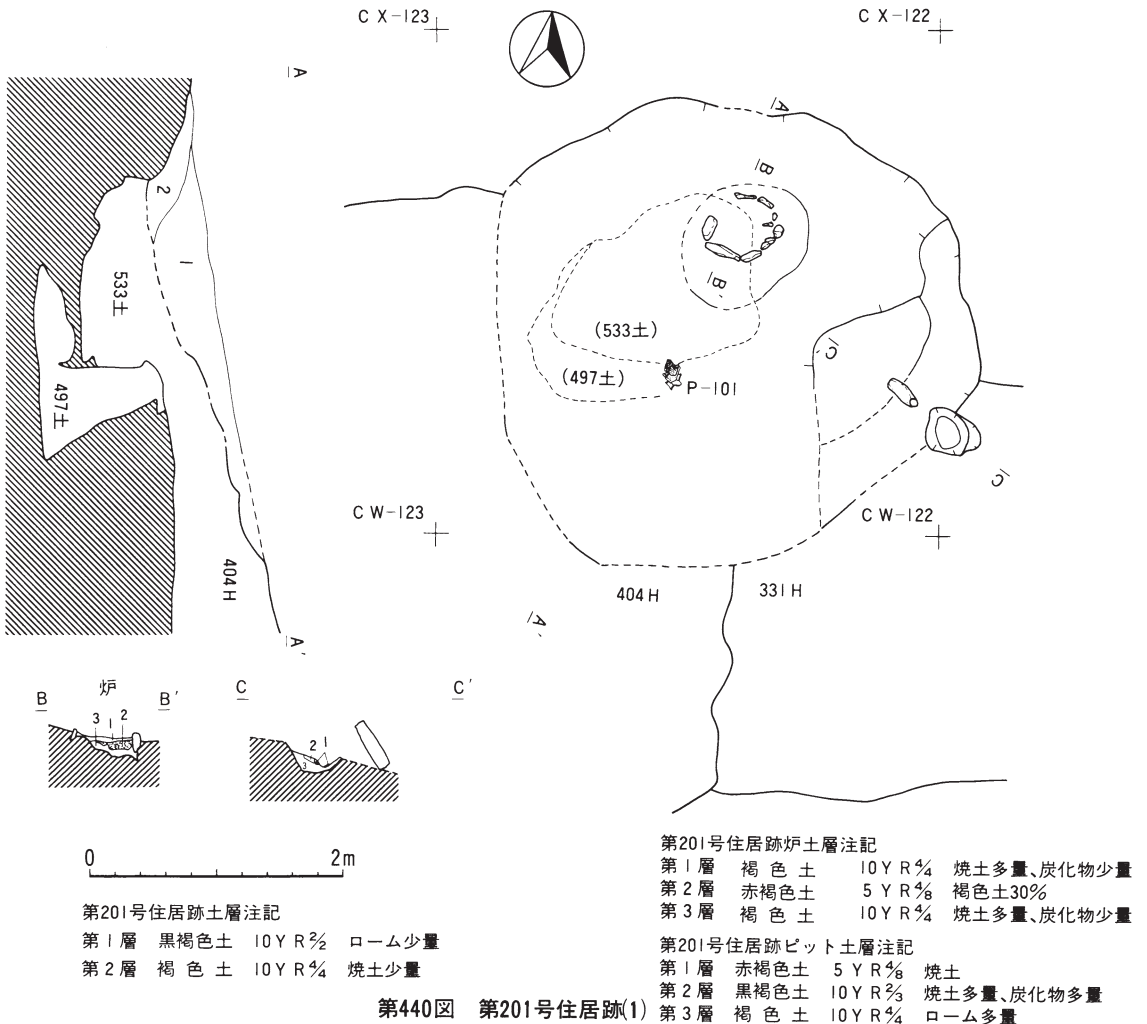
第201号住居跡（第440～442図）

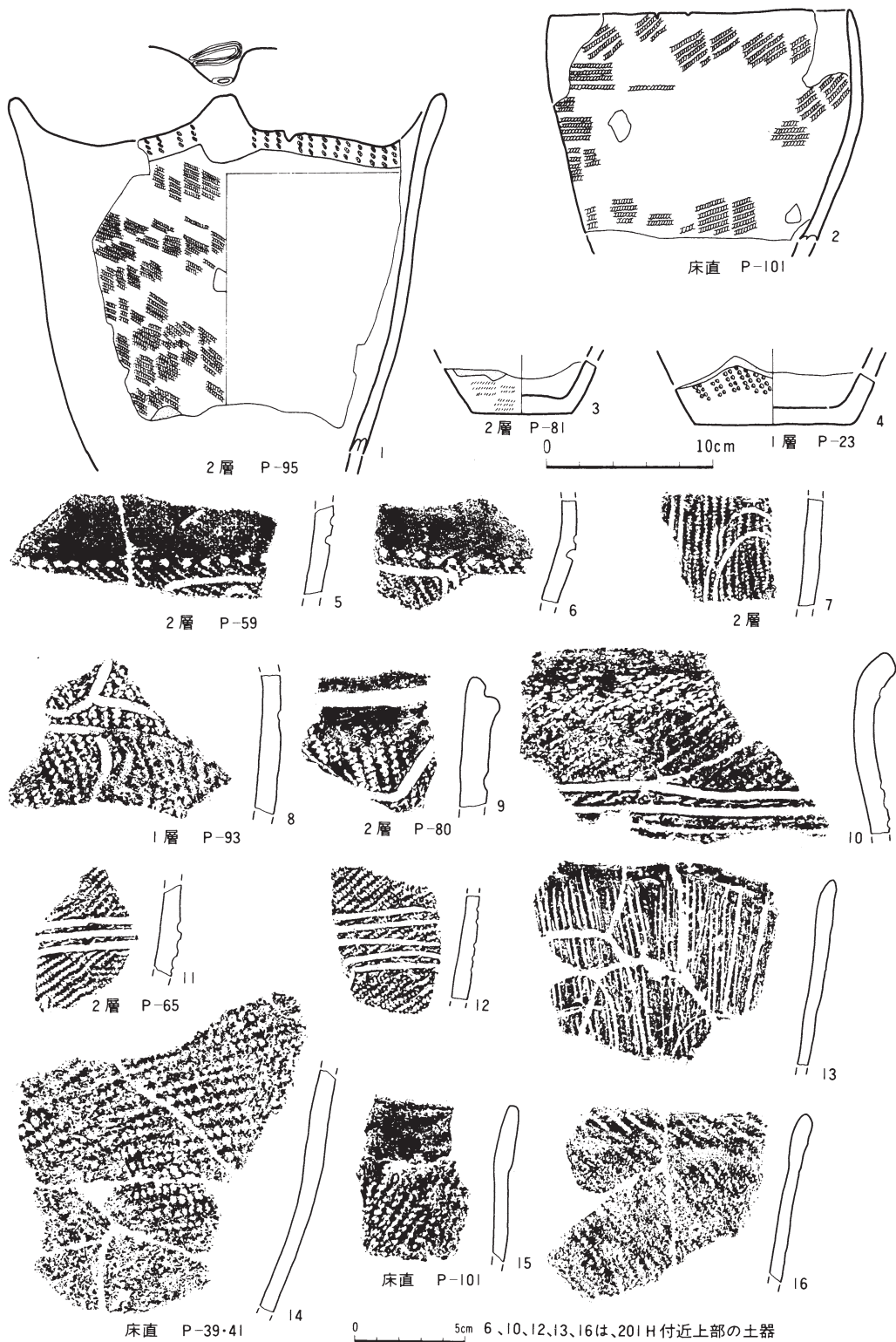
＜位置と確認＞ CW-122グリッドに位置する。CW-122グリッドからその南側一帯の第IV層中で黒褐色土の落ち込みを確認した。このうち不明瞭ではあるが輪郭が最も新しいと見られるものである。セクションベルトに沿ってトレンチを掘り進んでも一部北側に傾斜する第IV層の壁を除いて壁や床は不明瞭であった。更に掘り進むと、下部に住居跡や土壌があり、これらにかかるセクションから本住居跡の範囲を推定した。

＜重複＞ 第331号・第404号住居跡、第497号・第533号土壌と重複しており、いずれの遺構よりも新しいと考えられる。

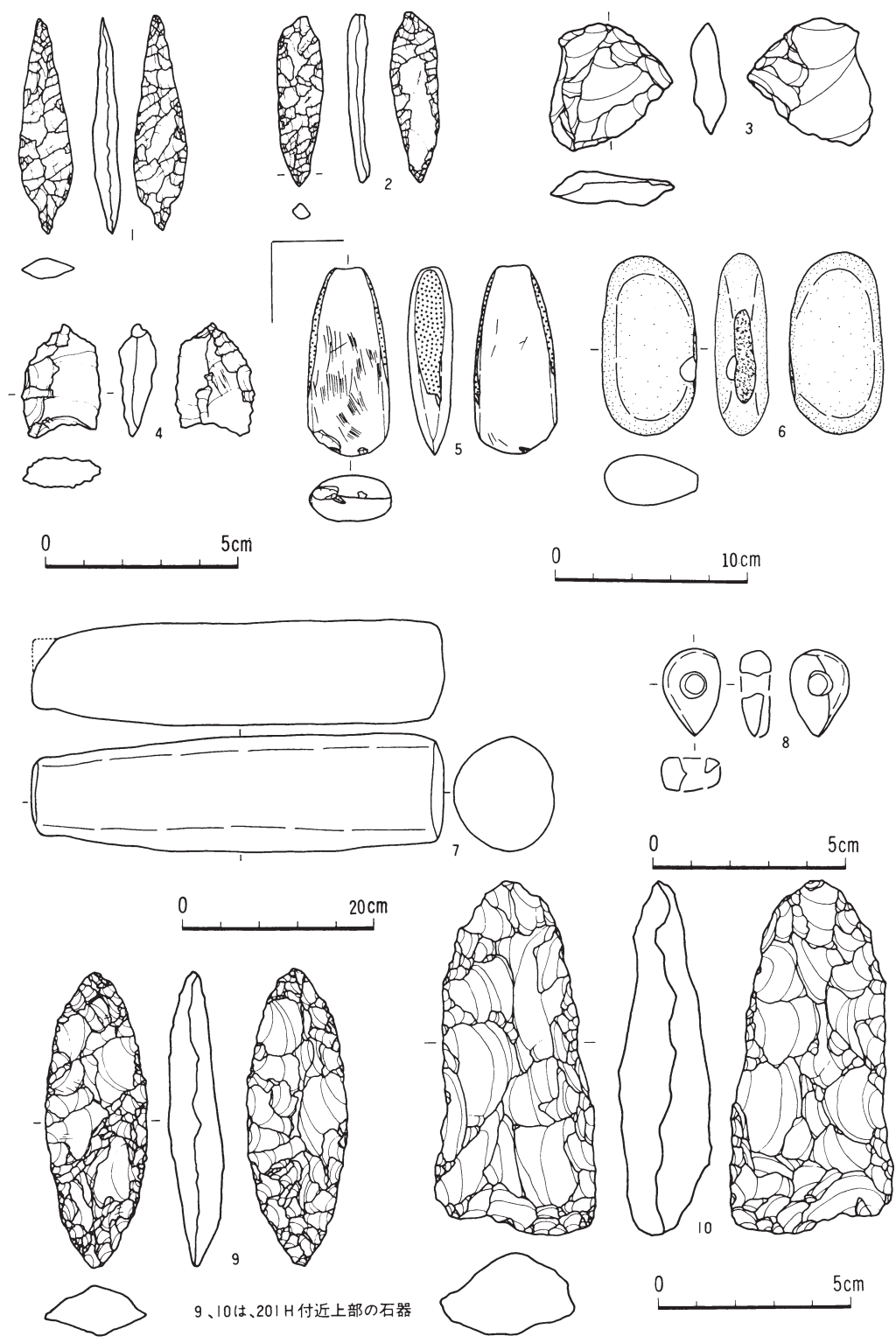
＜平面形・規模＞ セクションから推定して直径4m程の円形と考えられる。

＜壁・床面＞ 壁面及び床面は前述のように北側の一部しか明瞭でないが、セクションから見





第441図 第201号住居跡(2)



9、10は、201H付近上部の石器

第442図 第201号住居跡(3)

ると、炉を中心に斜めに外へ立ち上がり、壁面と床面が連続しており区分できない。セクションベルトに残った南側の床面ないし壁面部分はやや堅さがあるようであった。東側にやや平坦なテラス状の部分がある。確認面からの深さは炉の部分で50cm弱である。

＜壁溝＞ 検出されなかった。

＜柱穴＞ 検出されなかった。

＜炉＞ 北寄りにある。扁平な礫で組まれた石囲炉である。

＜特殊施設＞ 東側のテラス状の部分で石棒の先端を住居の外側に向けて、やや傾位に立っていた。また、この外側には上部に焼土を含み、ゆるく凹むピットがあった。

＜堆積土＞ ほぼ黒褐色土で、北側に焼土混じりの褐色土がある。

＜出土遺物＞ 覆土から円筒上層 e 式土器、榎林式土器、最花式土器が出土している。石器は覆土から石鏃 1 点、石槍 2 点、石錐 1 点、石篋 1 点、ピエス・エスキーユ 1 点、不定形石器 6 点、石斧 2 点、敲磨器類 1 点、石皿・台石類 1 点、石棒 1 点、また石棒は東壁際からも 1 点出土している。石器の総数は 19 点である。第 2 層からはヒスイの玉が出土している。

(坂本 洋一)

第202号住居跡 (第443～448図)

＜位置と確認＞ 本調査区南斜面の上がり際の CW、CX-119、120グリッドに位置する。第 II 層下面で黒色土の楕円形の落ち込みを確認した。

＜重複＞ 第212号住居跡、第542号土壙と重複しており、本住居跡が新しい。

＜平面形・規模＞ 重複により北側の平面形は明確に確認できなかったが、残存部から楕円形と思われる。規模は長軸 5 m50cm、短軸 4 m40cmである。床面積は 20.41m²である。

＜壁・床面＞ 確認できた南側の壁は、ほぼ垂直に立ち上がり堅緻である。南東、南西部ではテラスが確認された。北側におけるテラスの有無は確認できなかった。床面は中央部に貼り床がなされ堅緻であるが、周辺部は明確でなかった。

＜壁溝＞ 確認できなかった。

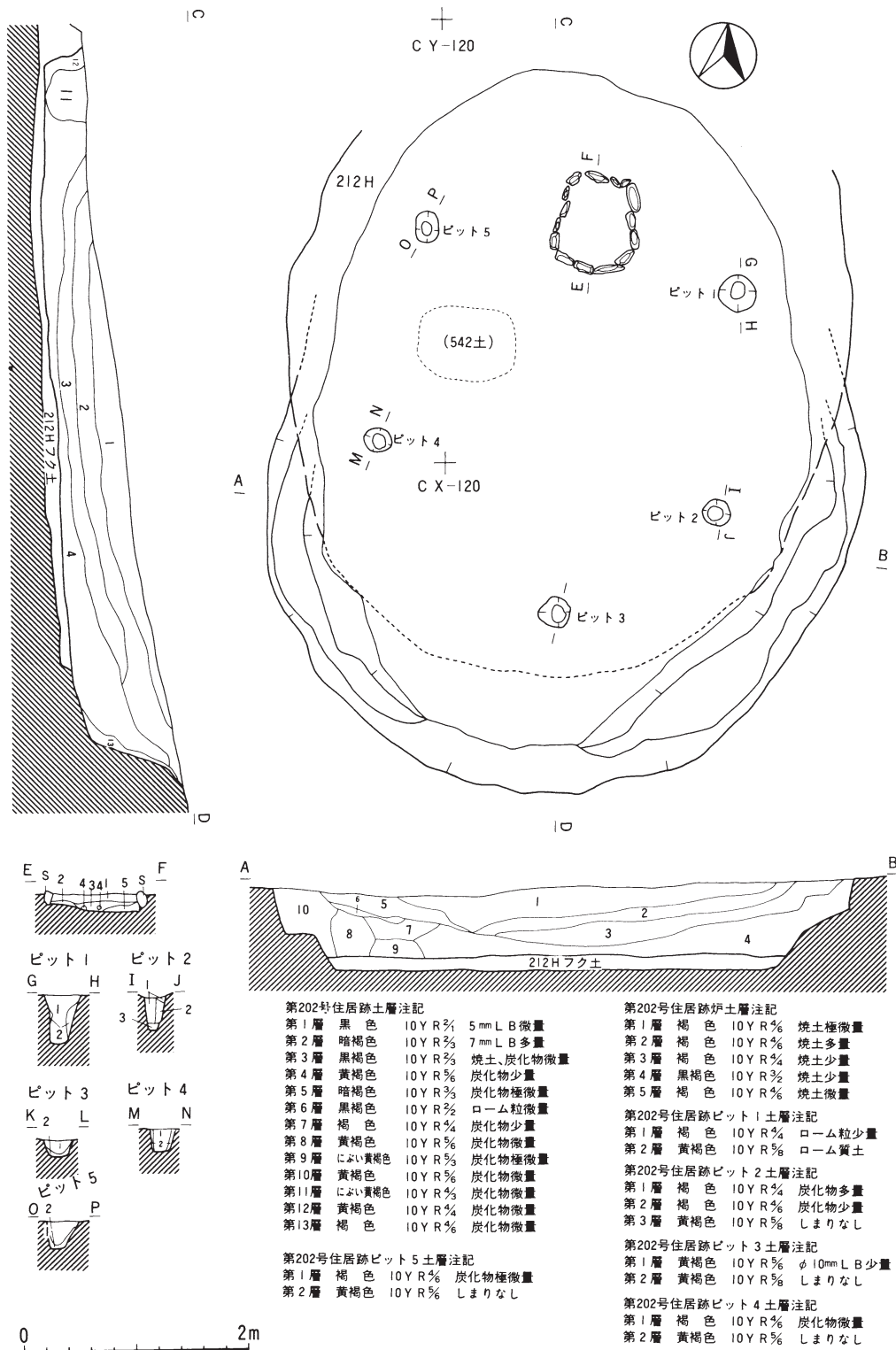
＜柱穴＞ 本住居跡の床面から 5 個のピットを確認した。これらのピットは支柱穴と思われる深さは P₁…43cm、P₂…33cm、P₃…25cm、P₄…23cm、P₅…25cmである。

＜炉＞ 石囲炉が中央から北側寄りに 1 基確認された。規模は長軸94cm、短軸73cm、深さは14cmである。

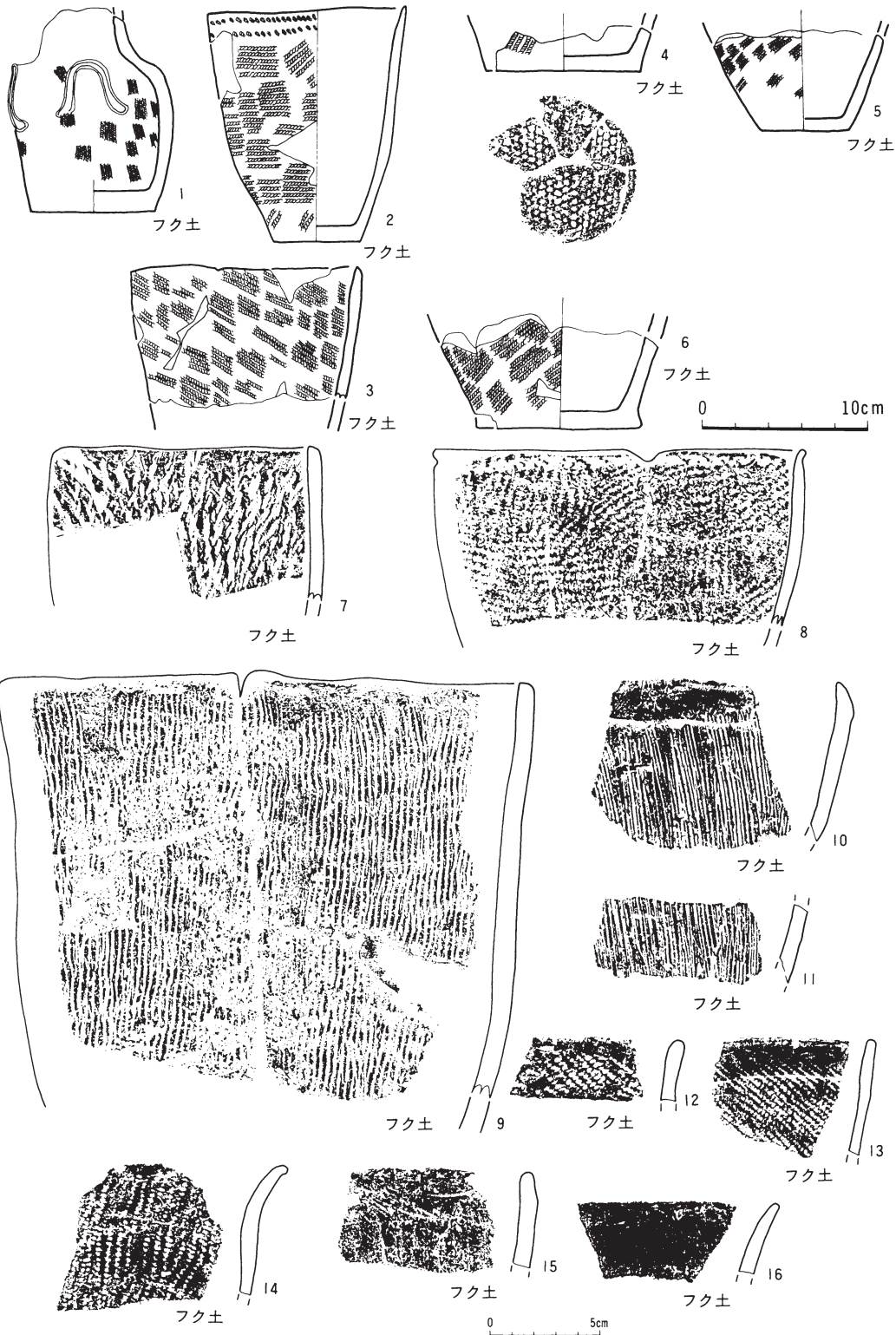
＜特殊施設＞ 認められなかった。

＜堆積土＞ 全体的にレンズ状に堆積しており自然堆積と思われる。

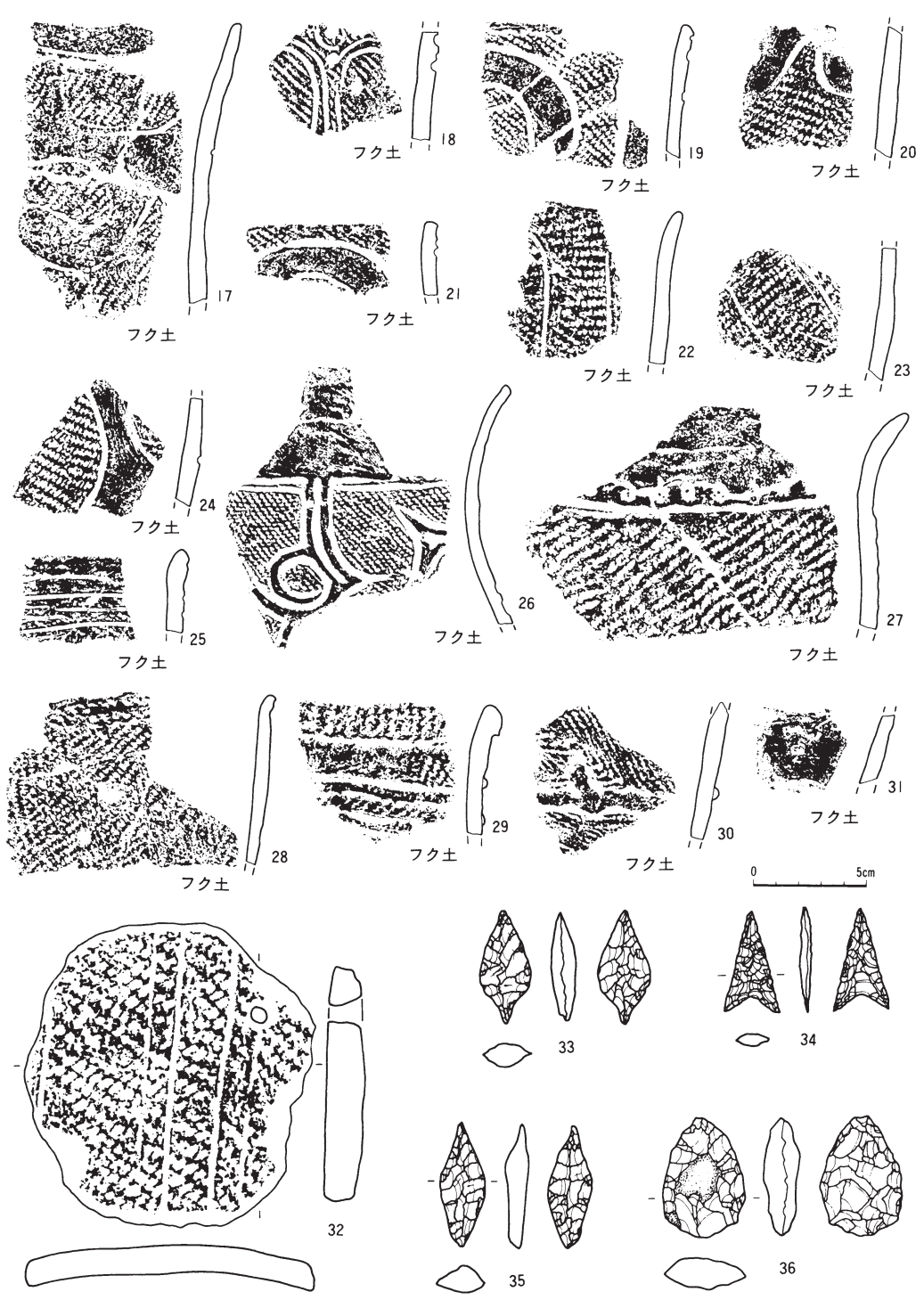
＜出土遺物＞ 覆土から円筒上層 d 式土器、榎林式土器、最花式土器、弥栄平(1)式土器が出土



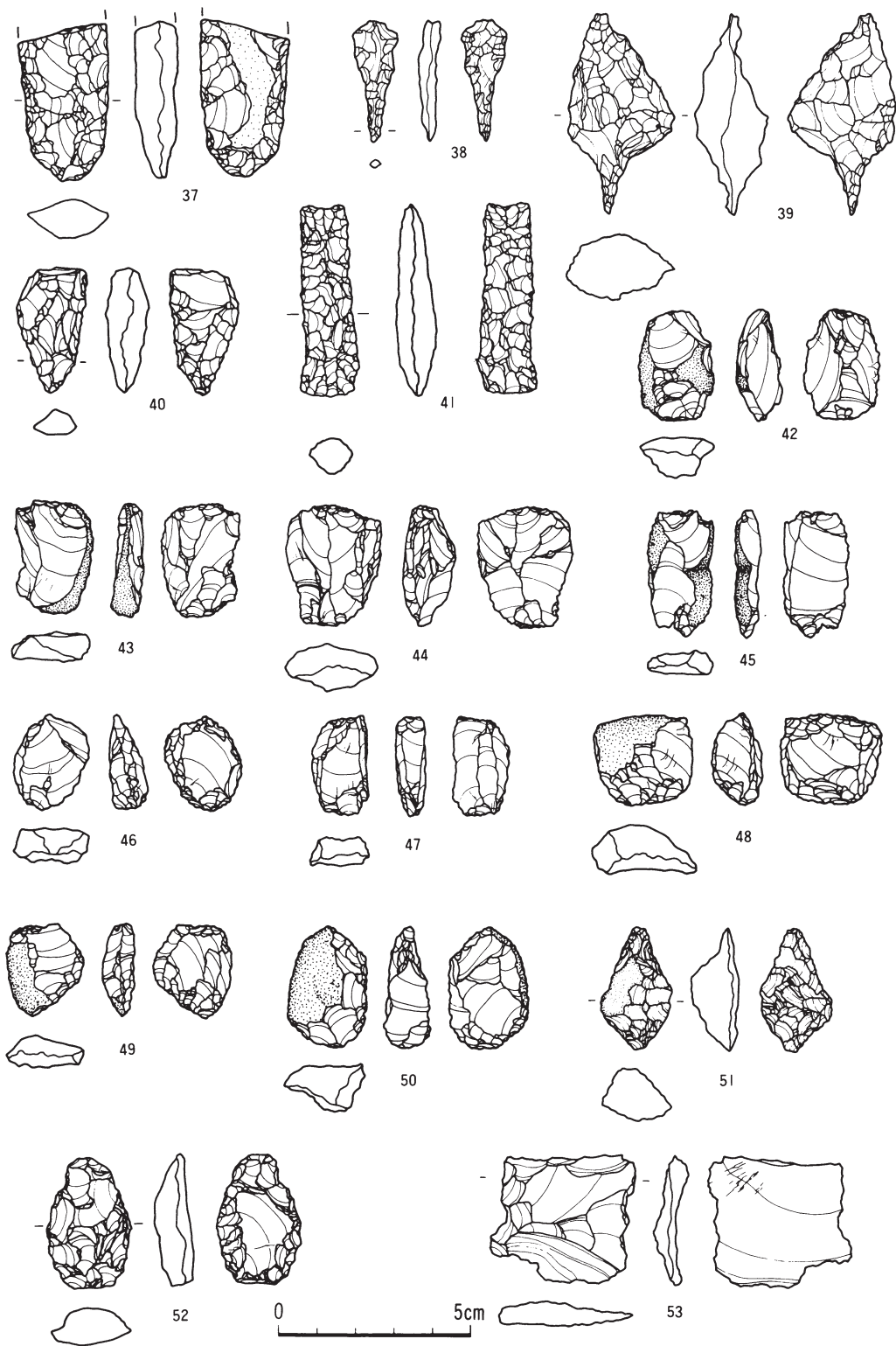
第443図 第202号住居跡(1)



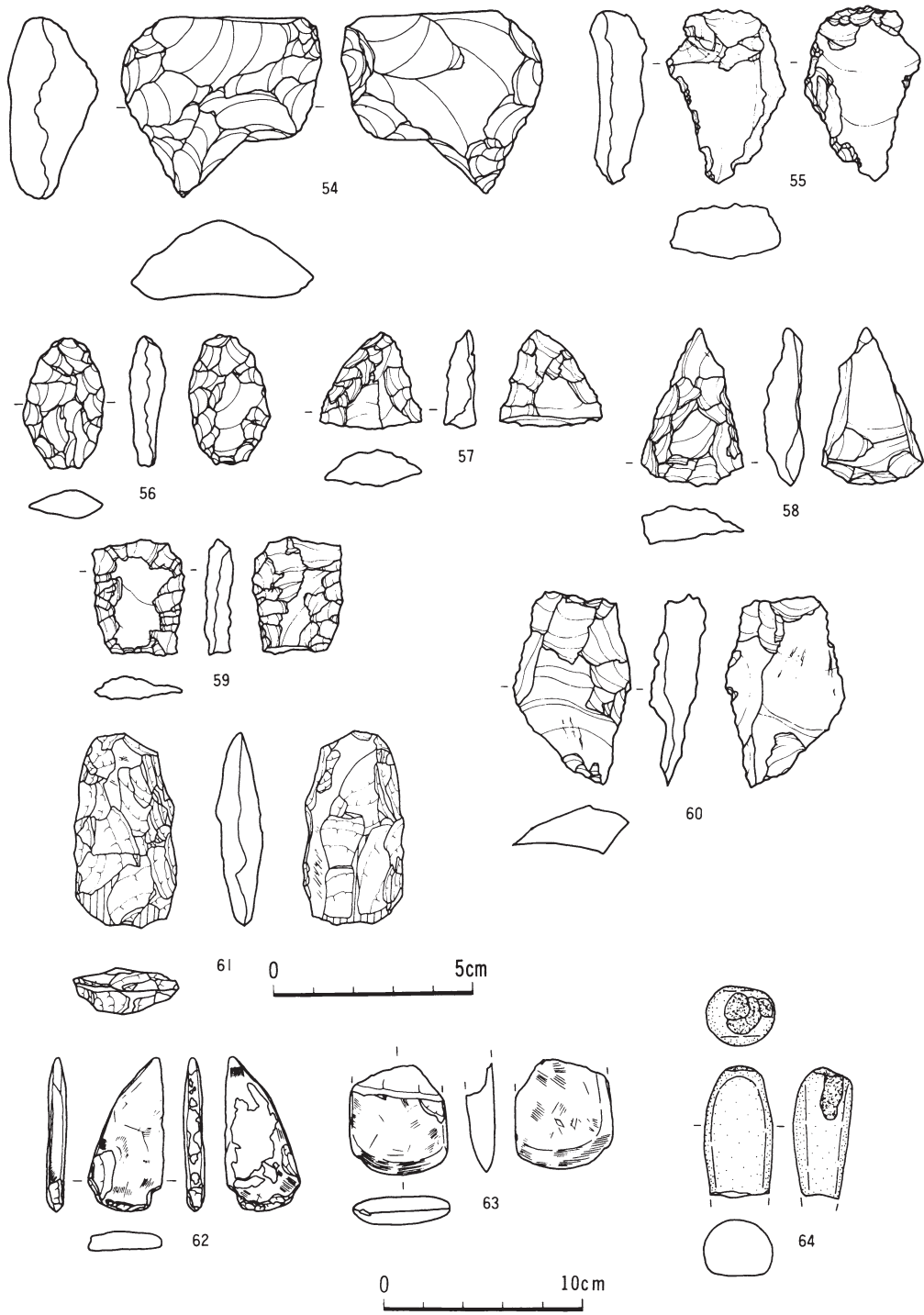
第444図 第202号住居跡(2)



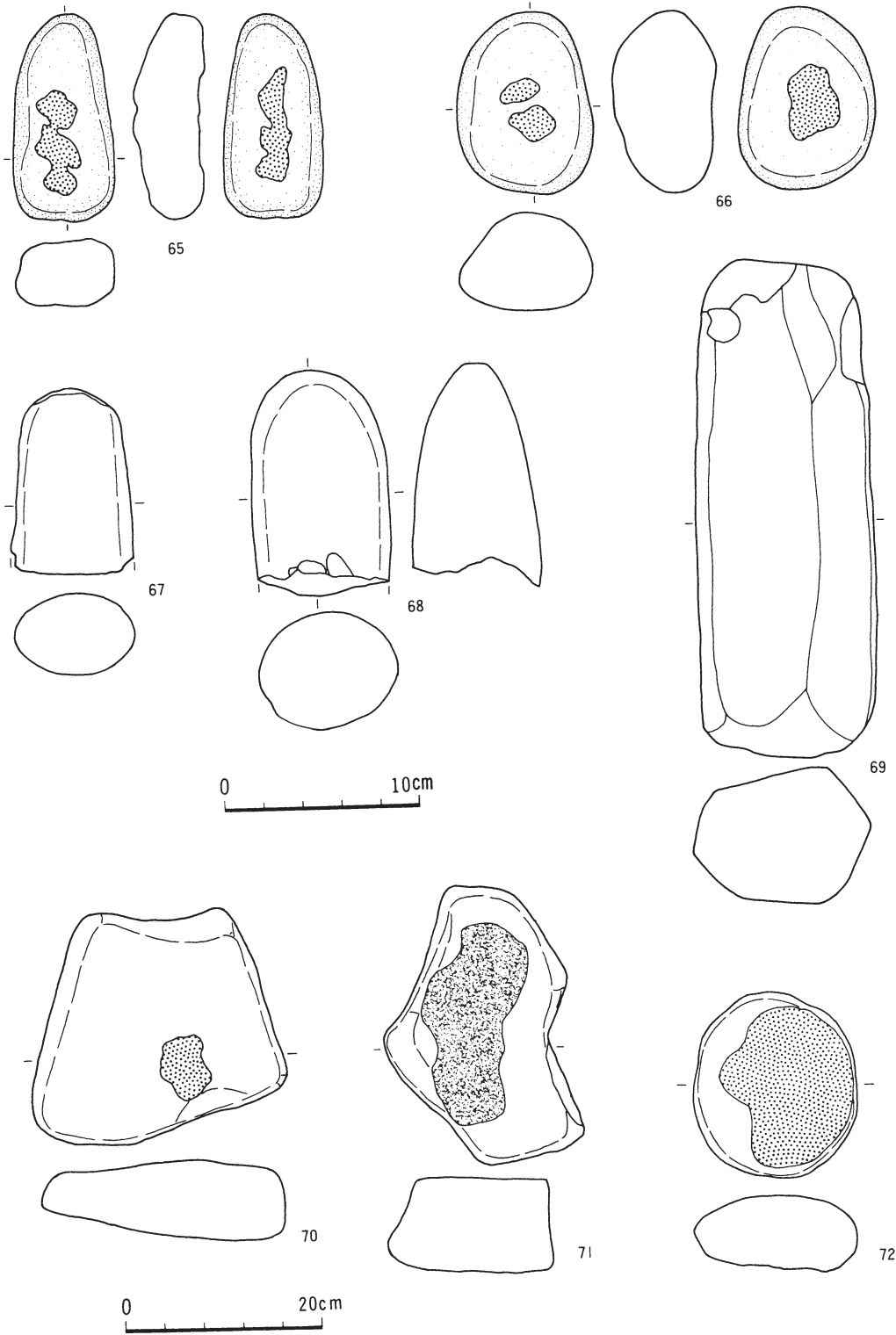
第445図 第202号住居跡(3)



第446图 第202号住居跡(4)



第447图 第202号住居跡(5)



第448图 第202号住居跡(6)

している。石器は床面から石皿・台石類1点、床面直上から石棒1点、石皿・台石類1点、覆土から石鏃12点、石槍1点、石錐4点、石筥1点、ピース・エスキューユ11点、不定形石器30点、石斧5点、敲磨器類3点、石棒2点、石皿・台石類2点、総数74点出土している。また土器片利用製品が1点覆土から出土している。

〈小結〉 床面から本住居跡の構築時期を判断する土器は出土していないが、重複関係から最花式期以降と思われる。(三浦 孝仁)

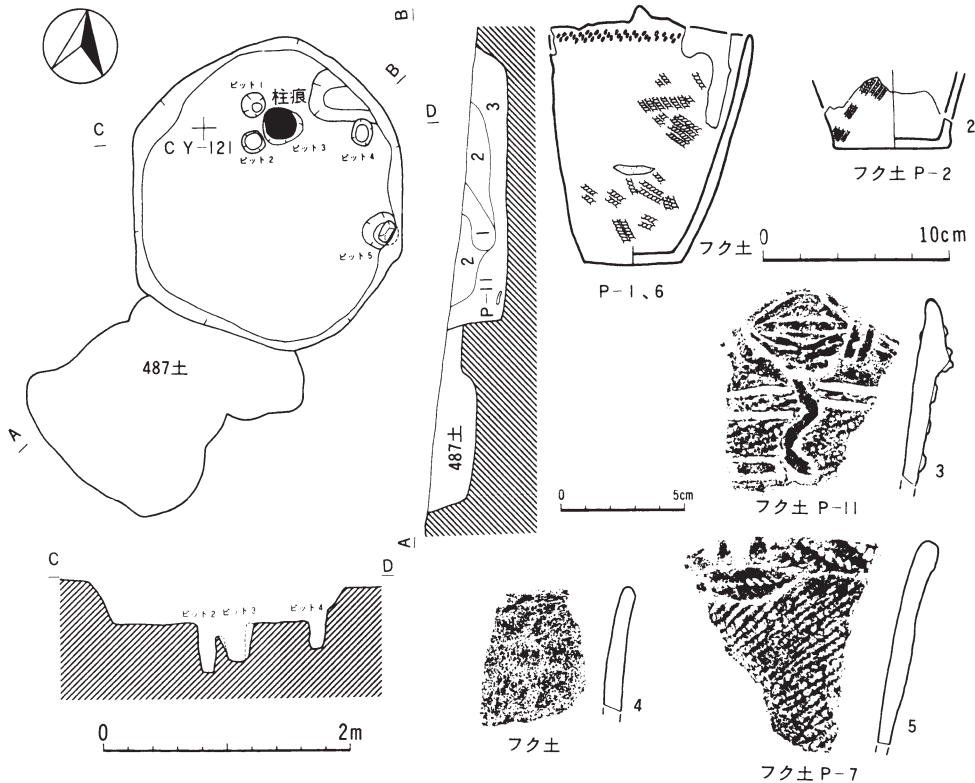
第203号住居跡 (第449・450図)

〈位置と確認〉 ほぼCX-120グリッドに位置している。第IV層で南北に長い暗褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 第487号土壙と重複しているが、新旧関係は不明である。

〈平面形・規模〉 長軸2m50cm、短軸2m20cmの楕円形である。床面積は3.68㎡である。

〈壁・床面〉 壁高は南側でおよそ40cm、北側でおよそ20cmである。床は南側がやや低い。



第203号住居跡土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R 4 焼土粒、炭化物少量、L B 多量
- 第2層 暗褐色土 10Y R 3 焼土粒、炭化物中量、L B 少量
- 第3層 褐色土 10Y R 6 焼土粒、炭化物少量、L B 中量

第449図 第203号住居跡(1)

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 床面の南側で5個のピットを確認した。深さはP₁…19cm、P₂…40cm、P₃…31cm、P₄…21cm、P₅…22cmでいずれも柱穴と考えられる。このうちP₃は柱痕が確認された。

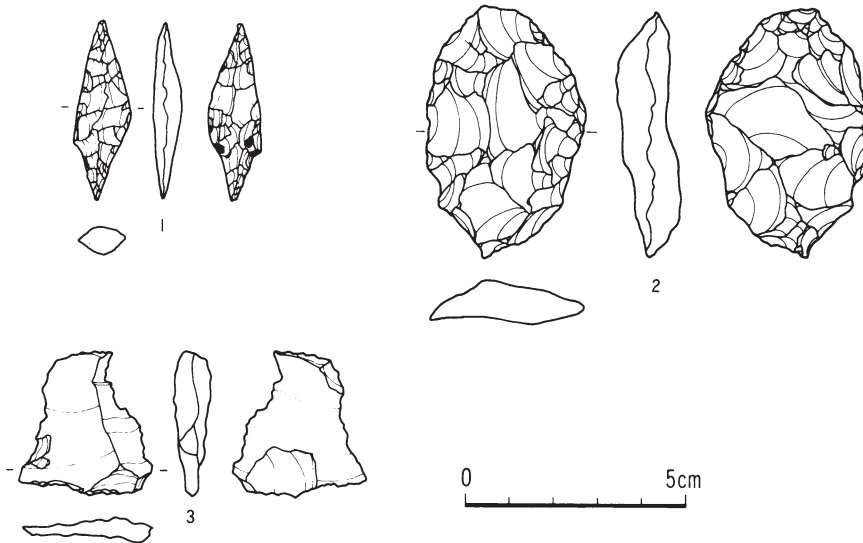
<炉> 検出されなかった。

<特殊施設> 床面の北端に貼り床部分があり、この下部は深さ5cm程にゆるく窪んでいた。

<堆積土> やや焼土粒を混入する褐色土ないし暗褐色土である。

<出土遺物> 覆土から円筒上層e式土器が出土している。石器は覆土から石鏃1点、不定形石器3点出土している。

(坂本 洋一)



第450図 第203号住居跡(2)

第204号住居跡 (第451・452図)

<位置と確認> ほぼDA-122グリッドに位置している。楕円形状に暗褐色土が落ち込みを確認した。当初は重複のない1基の遺構とみられた。

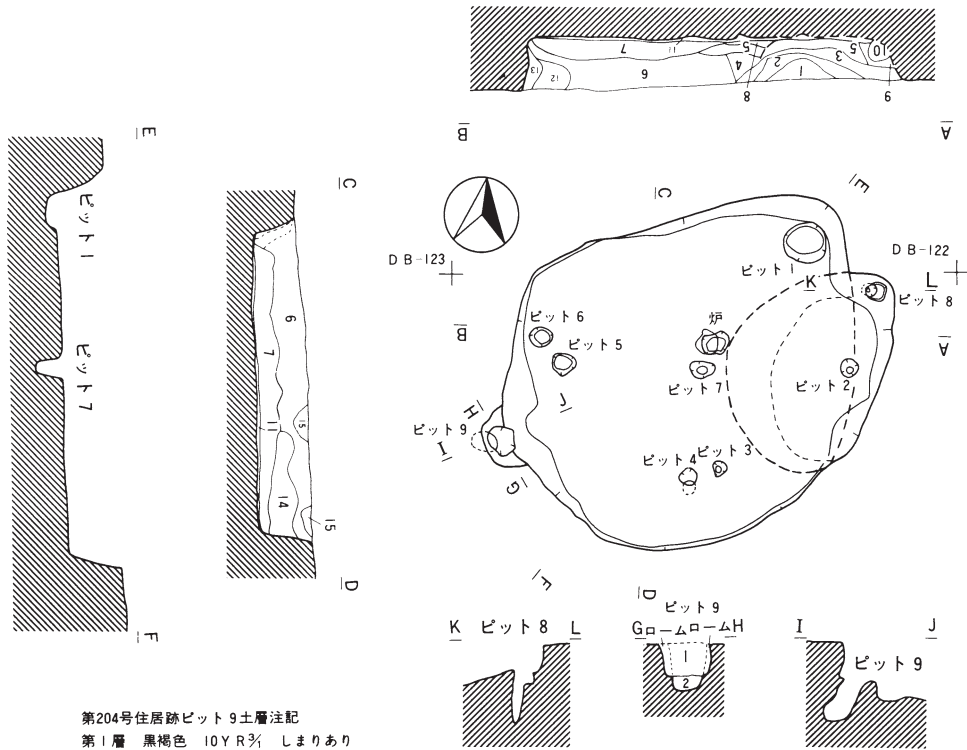
<重複> セクションから見て第847号土壇と重複していると推定される。本住居跡が古い。

<平面形・規模> 北東側が土壇と重複しているため確認できないが、長軸3m20cm、短軸2m70cmの不整楕円形と思われる。床面積は推定で5.59㎡である。

<壁・床面> 壁高は30~40cmである。

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 床面の南側で9個のピットを確認した。この内P₂、P₈、P₉は住居の範囲外にあり、本住居跡に伴うものか不明である。深さはP₁…12cm、P₂…13cm、P₃…20cm、P₇…22cm、P₈…40cm、P₉…30cm(深さ10cm程度以上のもの)でこれらが柱穴と考えられる。



第204号住居跡ピット9土層注記

- 第1層 黒褐色 10Y R 3/4 しまりあり
- 第2層 黒褐色 10Y R 3/2 ローム多量

第204号住居跡・第847号土層注記

- 第1層 暗褐色 10Y R 3/4 ローム少量
- 第2層 暗褐色 10Y R 3/2 ローム少量
- 第3層 黒褐色 10Y R 3/2 ローム少量
- 第4層 黒褐色 10Y R 3/2 ローム中量
- 第5層 暗褐色 10Y R 3/2 ローム中量
- 第6層 暗褐色 10Y R 3/2 ローム中量
- 第7層 暗褐色 7.5Y R 3/2 ローム少量
- 第8層 黒褐色 10Y R 3/2 ローム極少量
- 第9層 暗褐色 10Y R 3/4 ローム少量
- 第10層 d黒褐色 10Y R 3/4

- 第11層 黒褐色 10Y R 3/2 ローム多量
- 第12層 暗褐色 10Y R 3/4 ローム少量
- 第13層 褐色 10Y R 3/2 暗褐色土ブロック状
- 第14層 暗褐色 10Y R 3/2 ローム中量、φ 1~2cm L B 少量
- 第15層 暗褐色 10Y R 3/4 ローム少量

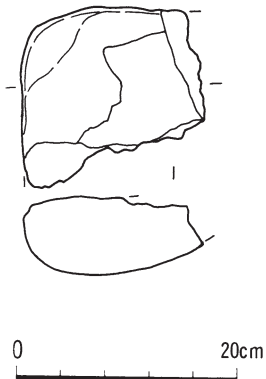
1、2、3、5、9、10は第847号土壌の堆積土

第451図 第204号住居跡(1)

<炉> 直径20cm程の不整楕円形の地床炉である。下部に2cm程の浅い掘り込みがあった。

<特殊施設> P₉のある壁はやや外に張り出しており、これが本住居跡に伴うとすれば何らかの施設とも考えられるが、定かではない。

<堆積土> ローム混じりの暗褐色土ないし黒褐色土であるが、やや乱れた堆積状態である。床面全体に黒褐色土の薄層の堆積が見られた。



第452図 第204号住居跡(2)

〈出土遺物〉 石器は第1層から敲磨器類1点、覆土から石皿・台石類が1点出土している。またローム層中に含まれており入り込んだと思われる礫と小片の土器が出土した。

(坂本 洋一)

第206号住居跡 (第453・454図)

〈位置と確認〉 調査区平坦部のCY-119グリッドに位置する。第II層下面で石囲炉と貼り床の一部を確認した。

〈重複〉 第211号住居跡と重複しており、本住居跡が新しい。

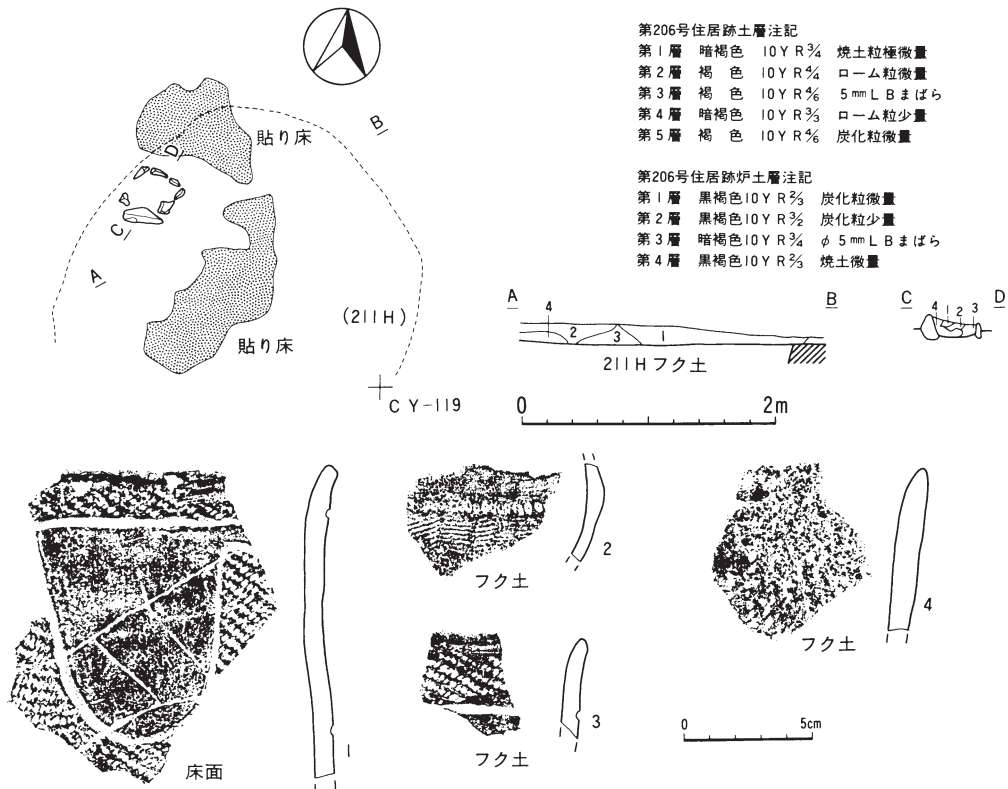
〈平面形・規模〉 炉と貼り床を確認したのみで平面形、規模ともに不明である。

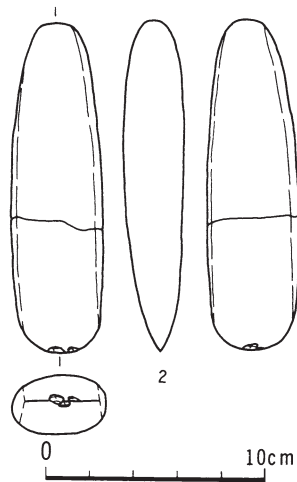
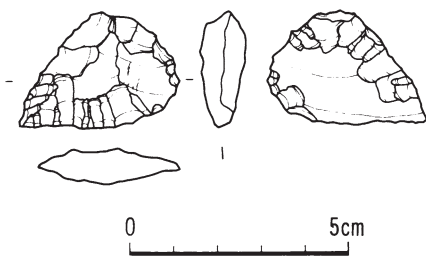
〈壁・床面〉 床面が地山まで掘り込まれておらず、壁は確認できなかった。床面は一部貼り床がなされ、凹凸が激しい。

〈壁溝〉 確認できなかった。

〈柱穴〉 確認できなかった。

〈炉〉 炉石をコの字状に配置した石囲炉が1基確認された。火床面は明確でなかった。規模





第454図 第206号住居跡(2)

は長軸45cm、短軸38cmである。

<特殊施設> 確認できなかった。

<出土遺物> 床面から弥栄平(1)式土器が出土している。石器は覆土から不定形石器1点、石斧1点出土している。

<小結> 床面の土器から、本住居跡の構築時期は弥栄平(1)式期と思われる。(三浦 孝仁)

第207号住居跡 (第455・456図)

<位置と確認> ほぼCZ-122グリッドに位置している。第IV層で暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 第490号土壇・柱穴と重複している。第490号土壇よりは新しく、柱穴との新旧関係は不明である。

<平面形・規模> 長軸1m90cm、短軸1m50cmの隅丸長方形である。床面積は2.16㎡である。

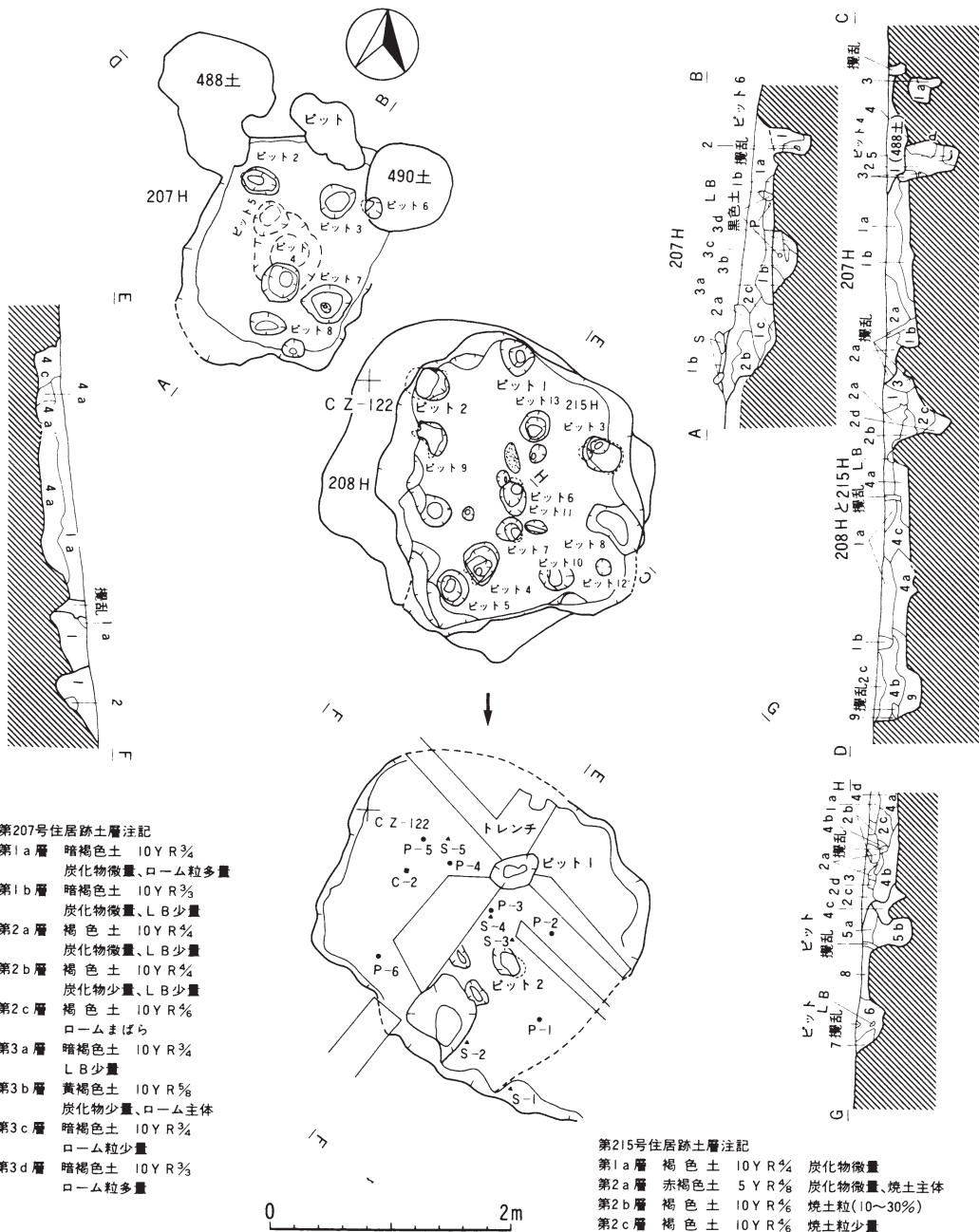
<壁・床面> 壁高は北側で10cm、南側で20cm、西側で28cm程である。

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 9個のピットを検出した。深さはP₁…22cm、P₂…26cm、P₃…22cm、P₄…20cm、P₅…28cm、P₆…22cm、P₇…10cm、P₈…12cm(深さ10cm程度以上のもの)である。なおP₄・P₅は床を削平した後、検出された。

<炉> 検出されなかった。

<特殊施設> 検出されなかった。



第207号住居跡土層注記

- 第1a層 暗褐色土 10Y R ¾
炭化物微量、ローム粒多量
- 第1b層 暗褐色土 10Y R ¾
炭化物微量、L B少量
- 第2a層 褐色土 10Y R ¾
炭化物微量、L B少量
- 第2b層 褐色土 10Y R ¾
炭化物少量、L B少量
- 第2c層 褐色土 10Y R ¾
ロームまばら
- 第3a層 暗褐色土 10Y R ¾
L B少量
- 第3b層 黄褐色土 10Y R ¾
炭化物少量、ローム主体
- 第3c層 暗褐色土 10Y R ¾
ローム粒少量
- 第3d層 暗褐色土 10Y R ¾
ローム粒多量

ピット4土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R ¾ 炭化物微量 (488土)
- 第2層 褐色土 10Y R ¾ 焼土微量、炭化物少量
- 第3層 黄褐色土 10Y R ¾ ローム主体、褐色土しみ状
- 第4層 黄褐色土 10Y R ¾ 炭化物少量
- 第5層 黄褐色土 10Y R ¾ 炭化物微量

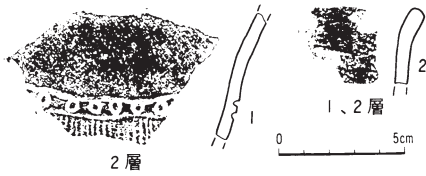
ピット6土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R ¾ ローム多量
- 第2層 褐色土 10Y R ¾ ローム主体

第215号住居跡土層注記

- 第1a層 褐色土 10Y R ¾ 炭化物微量
- 第2a層 赤褐色土 5Y R ¾ 炭化物微量、焼土主体
- 第2b層 褐色土 10Y R ¾ 焼土粒(10~30%)
- 第2c層 褐色土 10Y R ¾ 焼土粒少量
- 第3層 黒褐色土 10Y R ¾ 焼土粒中量
- 第4a層 褐色土 10Y R ¾ 炭化物微量
- 第4b層 黄褐色土 10Y R ¾ 焼土粒少量、炭化物微量
- 第4c層 黄褐色土 10Y R ¾ ローム主体
- 第4d層 暗褐色土 10Y R ¾
- 第4e層 褐色土 10Y R ¾ 炭化物微量
- 第5a層 黄褐色土 10Y R ¾ 炭化物微量
- 第5b層 黄褐色土 10Y R ¾ 炭化物微量
- 第6層 褐色土 10Y R ¾
- 第7層 褐色土 10Y R ¾
- 第8層 黄褐色土 10Y R ¾
- 第9層 黄褐色土 10Y R ¾ 炭化物少量、ローム主体

第455図 第207・208・215号住居跡



第456図 第207号住居跡

〈堆積土〉 ローム混じりの暗褐色土ないし褐色土でしまりが強くややブロック状を呈している。

〈出土遺物〉 覆土から最花式土器が出土している。 (坂本 洋一)

第208号住居跡 (第455・457図)

〈位置と確認〉 ほぼCY-121グリッドに位置している。第IV層で褐色土の落ち込みを確認した。第215号住居跡の上面に構築されていて、床面等が不明瞭であるが、やや堅い床状の面と炉の可能性のある焼土の存在から住居跡とした。

〈重複〉 第215号住居跡・柱穴と重複している。第215号住居跡の上部に構築されている。柱との新旧関係は不明である。

〈平面形・規模〉 壁が低く、南東側が柱穴と切り合っており、不明瞭であるが、長軸2m70cm、短軸2m40cmの隅丸台形である。床面積は推定で4.82㎡である。

〈壁・床面〉 壁高は数cmしか残存せず、特に北西はほとんど壁を確認できなかった。床面は、不明瞭で凹凸が激しい。

〈壁溝〉 検出されなかった。

〈柱穴〉 5個のピットを確認した。深さはP₁…10cm、P₂…17cm (深さ10cm程度以上のも)であるが、いずれも柱穴とは考えられない。

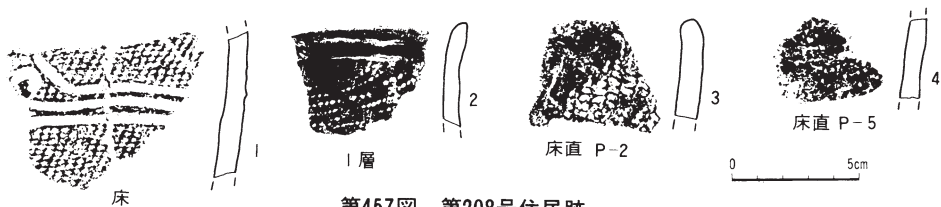
〈炉〉 東側の壁際に焼土があるが、層がやや乱れており、必ずしも炉とは断定できない。

〈特殊施設〉 検出されなかった。

〈堆積土〉 褐色土主体である。

〈出土遺物〉 床面から榎林式土器が出土している。石器は出土しなかった。炭化材を確認した。

〈小結〉 本住居跡は床面の土器から榎林式期に構築されたと思われる。 (坂本 洋一)

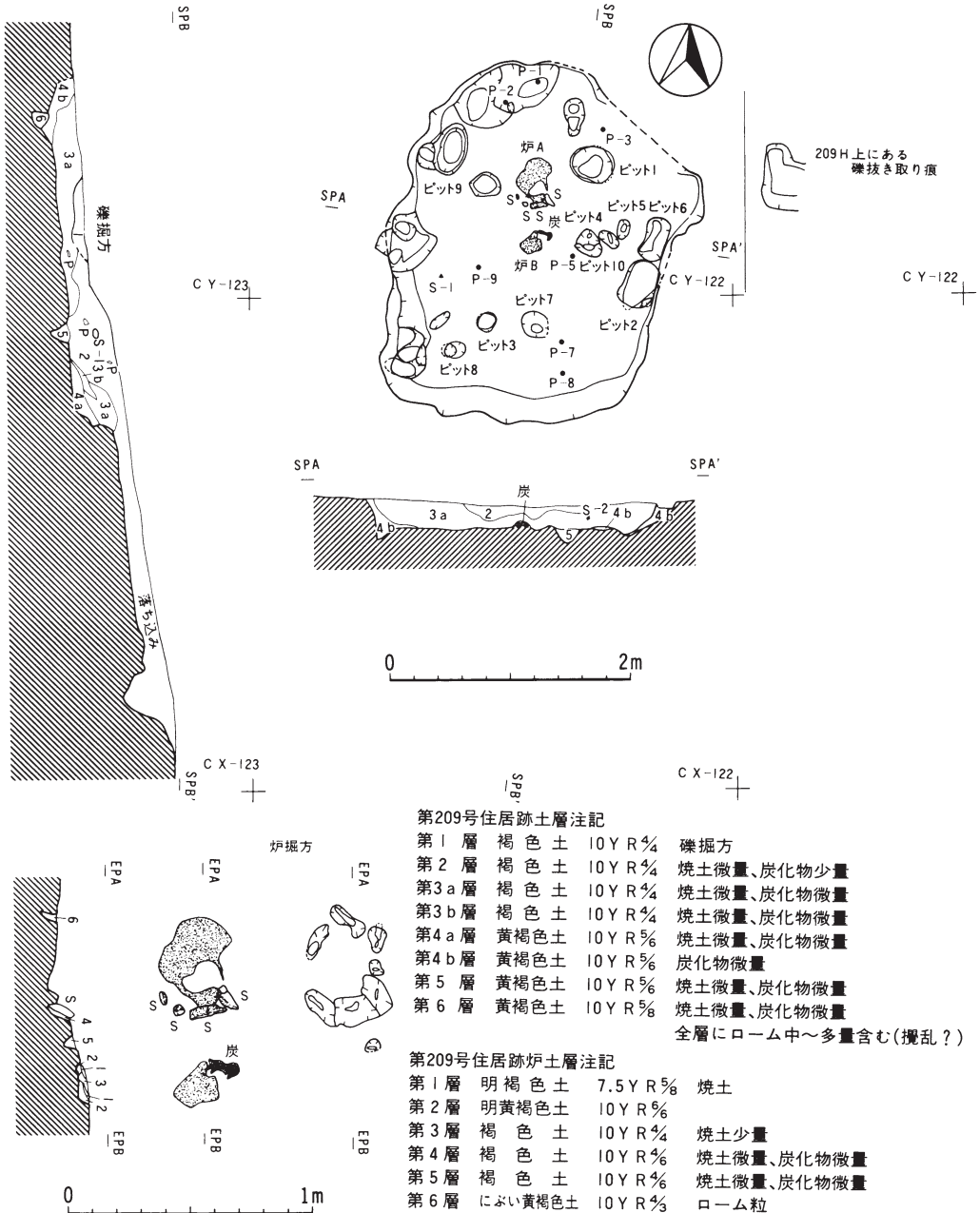


第457図 第208号住居跡

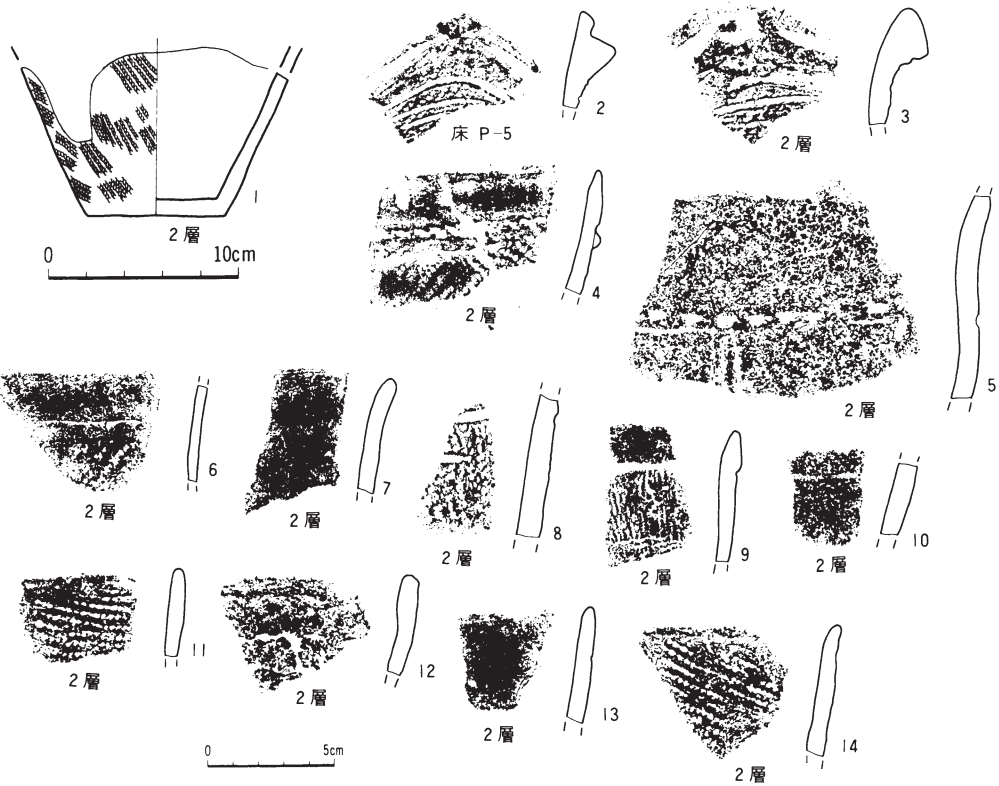
第209号住居跡（第458～460図）

<位置と確認> ほぼCX・CY-122グリッドに位置している。第IV層中に褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 南側の落ち込みと重複している。この落ち込みは第663号土壌等の上面にあるもので

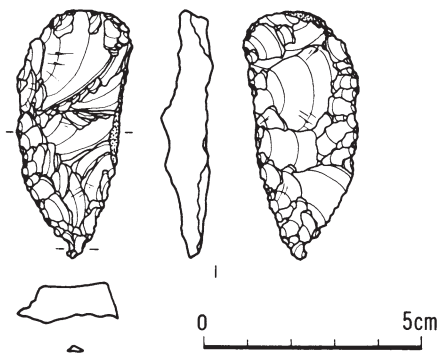


第458図 第209号住居跡(1)



第459図 第209号住居跡(2)

あるが、人為的な遺構とは言えない。また、確認面中央やや北寄りに配石の礫の抜き取り痕あるいは掘り方と思われる落ち込みがあった。



第460図 第209号住居跡(3)

〈平面形・規模〉 長軸3m、短軸2m30cmの隅丸五角形である。床面積は推定で4.90㎡である。

〈壁・床面〉 壁高は北側で10cm、南側で35cm程である。床は北側が南側に比べて十数cm低い。

〈壁溝〉 検出されなかった。

〈柱穴〉 21個のピットを検出した。深さはP₁…25cm、P₂…10cm、P₃…35cm、P₄…18cm、P₆…13cm、P₇…10cm、P₈…14cm、P₉…15cm、P₁₀…12cm(深さ10cm程度以上のもの)である。な

おP₄は上面にロームを貼っている。

〈炉〉 床面の2か所に赤変した部分があり、北から炉A、炉Bとした。炉Aは40cm程の範囲

に広がっている。南側に扁平な礫が埋設されていた。炉Bは20cm程の広がりであり、脇に炭化材があった。

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> ローム混じりの褐色土が主体でレンズ状の堆積である。

<出土遺物> 床面から榎林式土器が出土している。石器は覆土から石錐が1点出土した。

<小結> 本住居跡は、床面から出土した土器から榎林式期に構築されたものと思われる。

(坂本 洋一)

第210号住居跡 (第461～467図)

<位置と確認> 調査区の緩斜面で、CX・CY-116・117グリッドに位置している。第II層を精査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 本住居跡は、第344・348・349・417・420・441・457号住居跡、第690号土壇と切り合っており、いずれの遺構より新しい。また、本住居跡の北側には、風倒木による攪乱があり新旧関係は不明である。

<平面形・規模> 北側の一部を確認できなかったが、残存部から推定すると南北がやや長めの円形と思われる。規模は、長軸が(445)cm・短軸が413cmで床面積は(11.64)m²である。

<壁・床面> 壁は、北壁が残存しないがその他は、床面から上端にかけてほぼ垂直に立ち上がり堅緻な構築である。壁高は、東壁48cm・西壁50cm・南壁87cmである。床は、北側の一部が若干軟弱であるがその他は、ほぼ平坦で堅緻な造りである。

<壁溝> 住居跡北側の一部を除く壁際で検出した。幅10cm前後で深さは約5cmである。

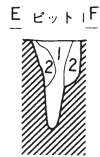
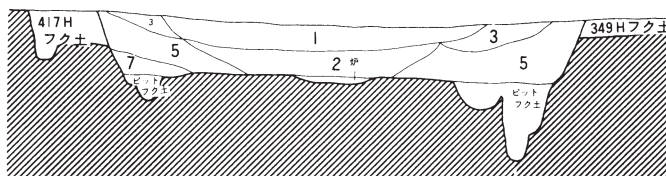
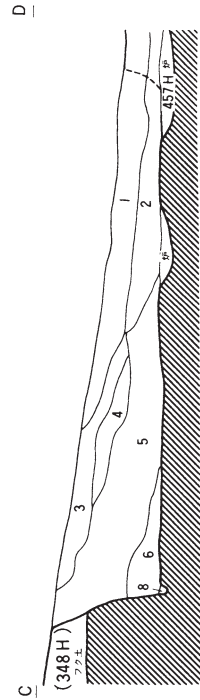
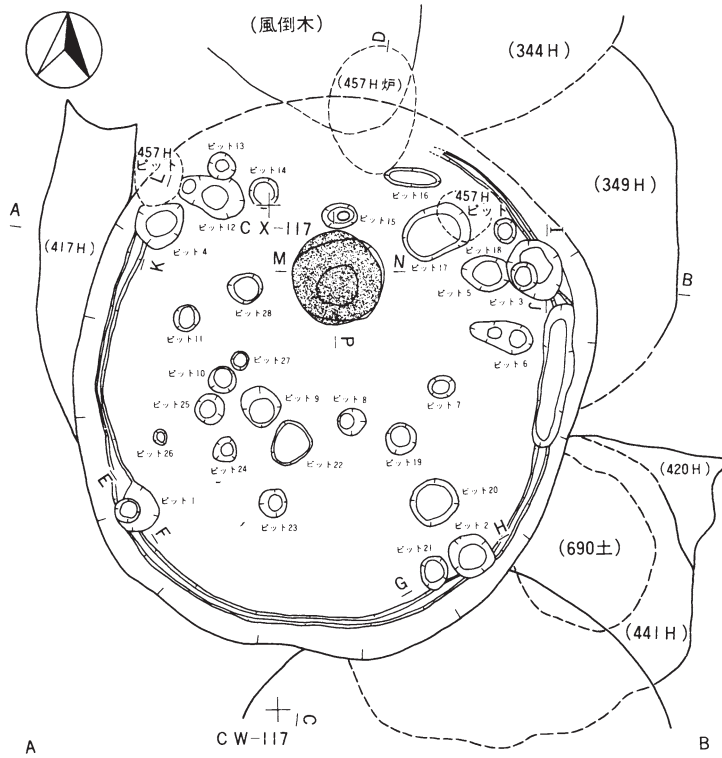
<柱穴> ピットは28個検出した。規模や配置等からP₁～P₄が主柱穴である。深さは、P₁…73cm・P₂…66cm・P₃…61cm・P₄…70cmである。また、住居跡中央部から北側にかけて柱穴群が存在し、P₅～P₁₂は半円形に並び深さも22～40cmで、本住居跡よりも古い住居跡があった可能性が高い。

<炉> 地床炉で、住居跡の中央部から若干北寄りに位置する。規模は、長軸74cm・短軸65cmである。堆積土は1層のみである。

<特殊施設> 床面東壁際に長軸113cm・短軸25cmで深さ44cmの壁溝の延長線上に壁溝とは用途を異にするとと思われる溝が存在する。

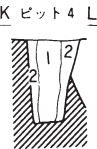
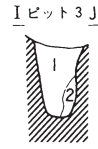
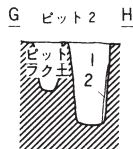
<堆積土> 8層に分層できた。自然堆積と思われる。

<出土遺物> 土器は、住居跡の床面から中期の榎林式が出土し、覆土からは中期の榎林式・最花式・大木10式が出土した。石器は、床面から石鏃4点・石篋1点・不定形石器1点・敲磨器類1点・石斧1点、覆土からは、石鏃7点・石槍2点・石錐3点・ピエス・エスキュー2点・



第210号住居跡土層注記

- 第1層 黒褐色 10Y R 4/6 黒色土を多少、LBを若干含む
- 第2層 褐色 10Y R 4/6 炭化物、LBを含む
- 第3層 褐色 10Y R 4/6 炭化物、暗褐色土、LBを含む
- 第4層 褐色 10Y R 4/6 炭化物、LBを若干含む
- 第5層 褐色 10Y R 4/6 炭化物、LBを若干含む
- 第6層 褐色 10Y R 4/6 炭化物、LBを若干含む
- 第7層 褐色 10Y R 4/6 ロームを多量に含む
- 第8層 暗褐色 10Y R 4/6 炭化物、黄褐色土を若干含む



第210号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 暗褐色 10Y R 4/6 LBを含む
- 第2層 黄褐色 10Y R 6/6 暗褐色土を若干含む

第210号住居跡ピット2土層注記

- 第1層 褐色 10Y R 4/6 炭化物、ロームを含む
- 第2層 黄褐色 10Y R 6/6 褐色土を微量含む

第210号住居跡ピット3土層注記

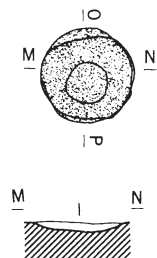
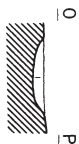
- 第1層 褐色 10Y R 4/6 炭化物、暗褐色土を若干含む
- 第2層 暗褐色 10Y R 4/6 LBを若干含む

第210号住居跡ピット4土層注記

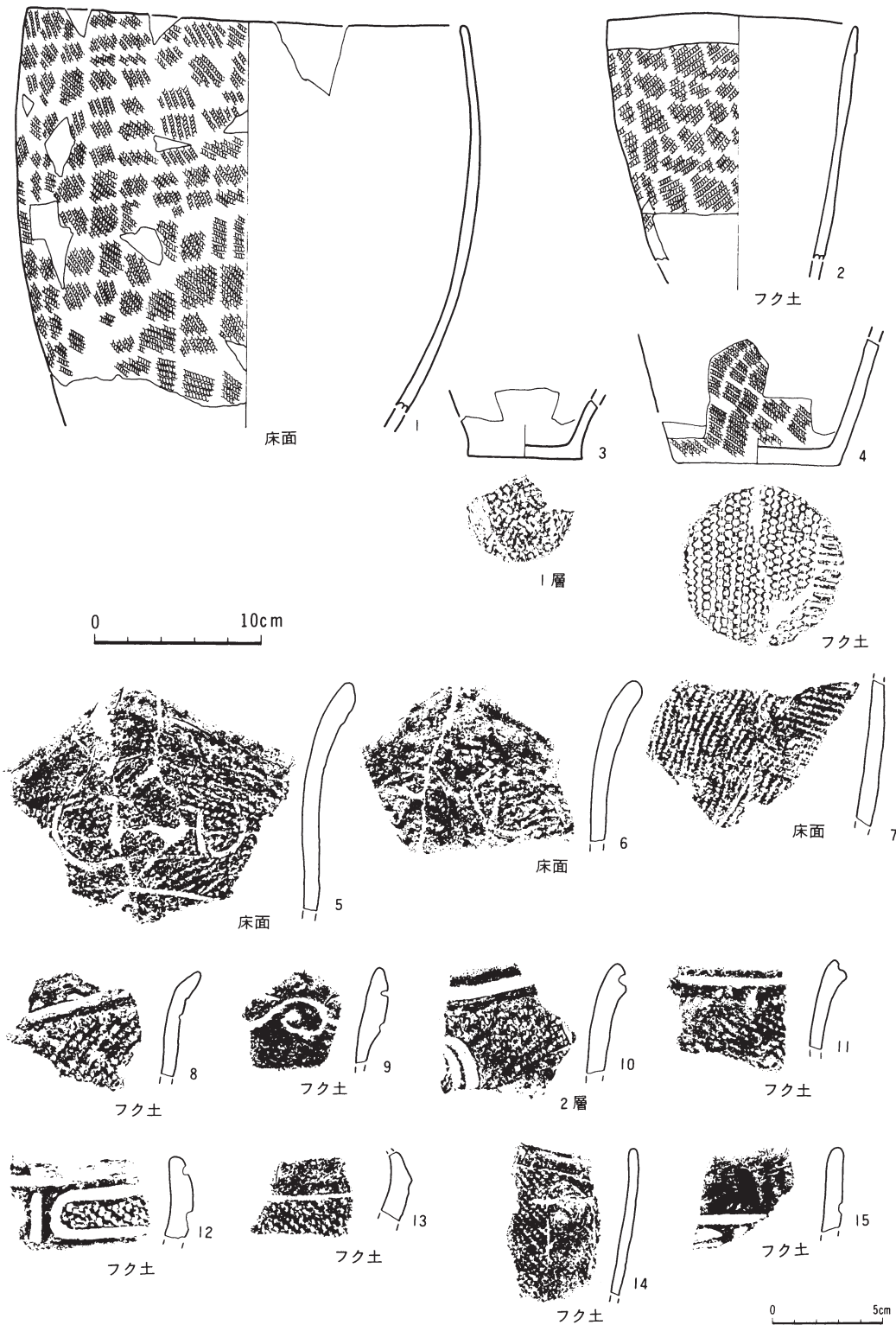
- 第1層 褐色 10Y R 4/6 炭化物、ロームを若干含む
- 第2層 黄褐色 10Y R 6/6 褐色土を若干含む

第210号住居跡炉土層注記

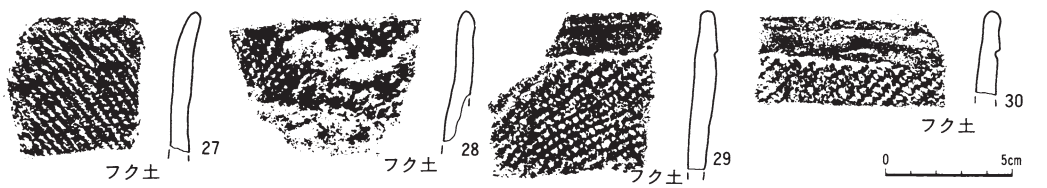
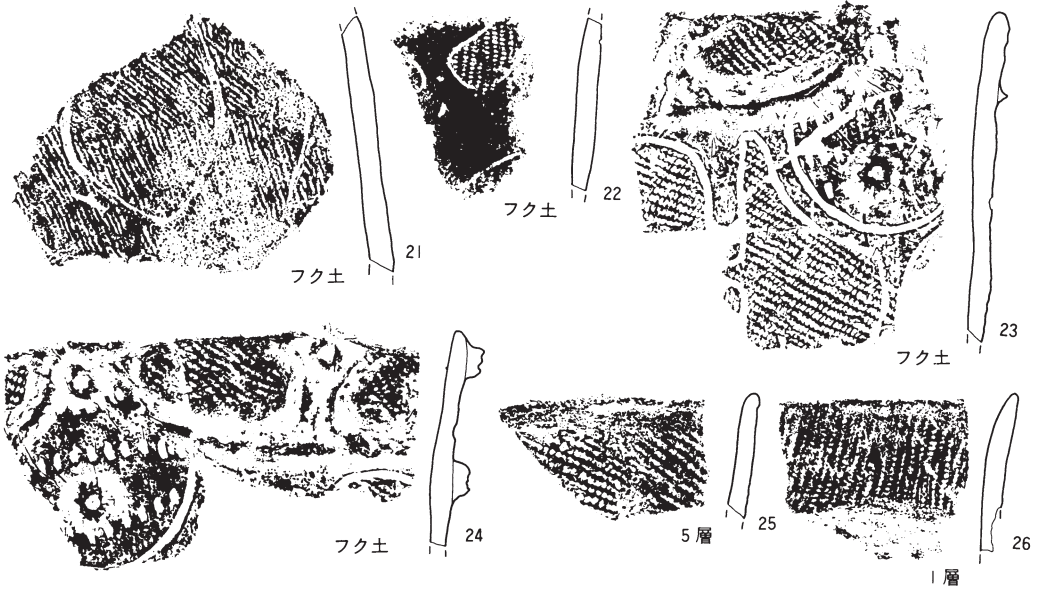
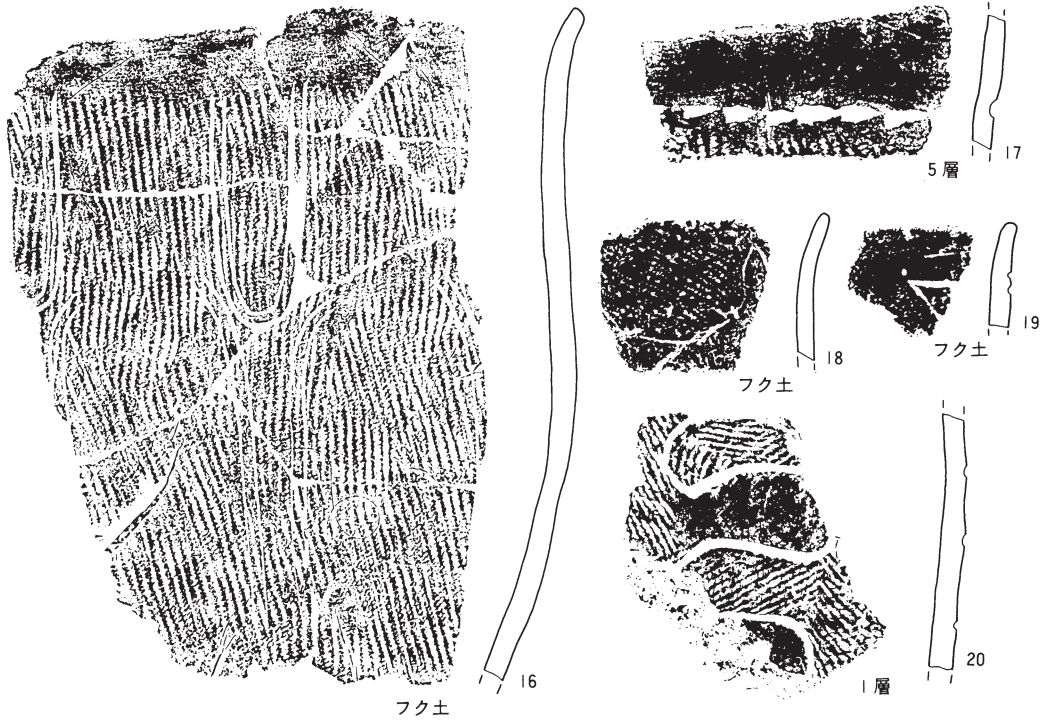
- 第1層 褐色 10Y R 4/6 炭化物、焼土ブロックを含む



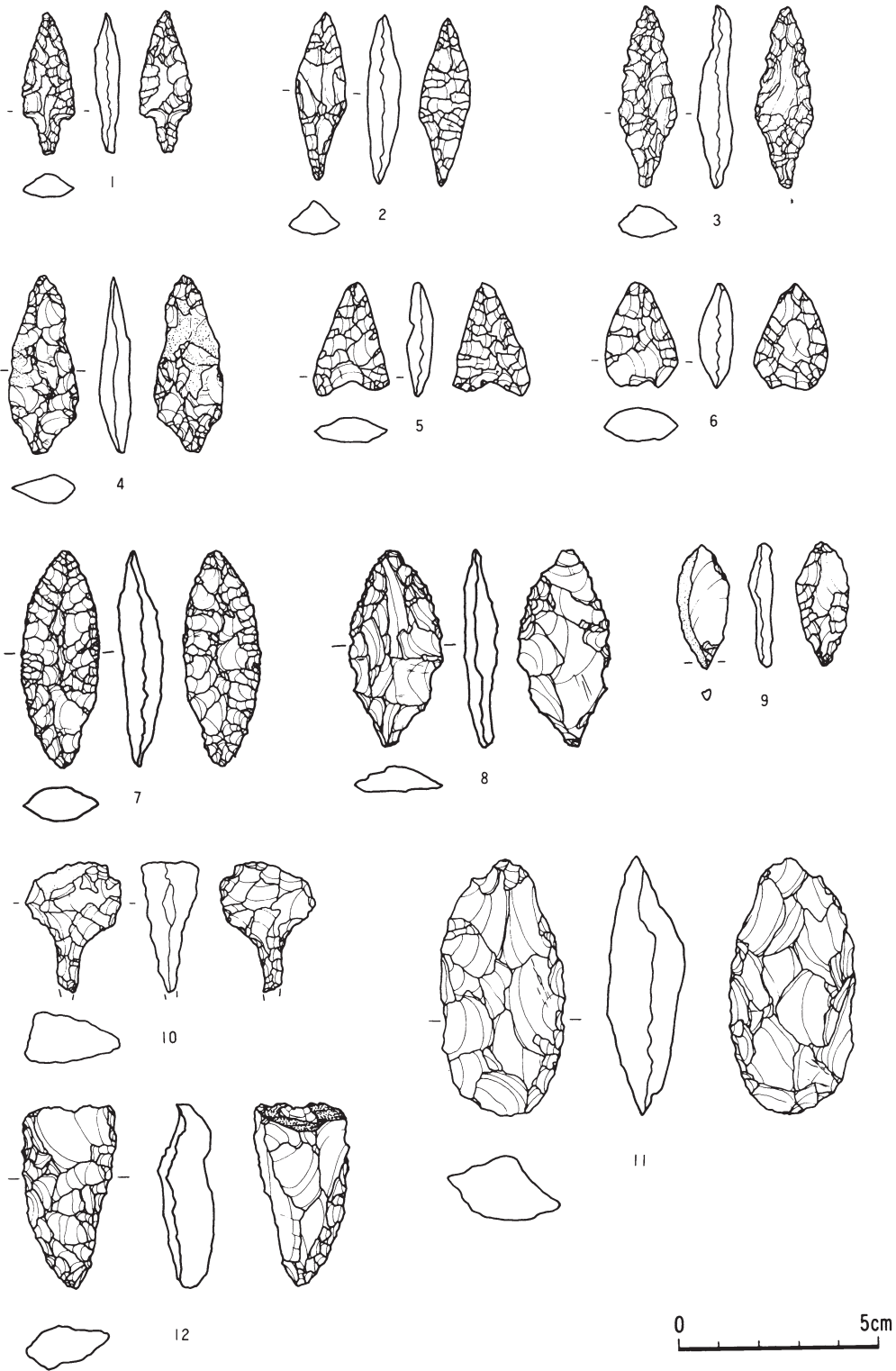
第461図 第210号住居跡(1)



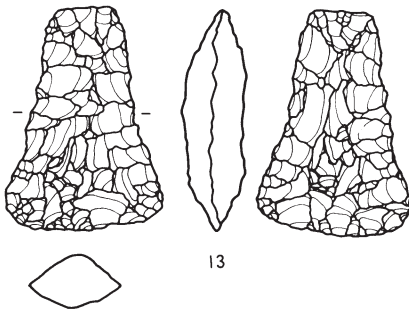
第462図 第210号住居跡(2)



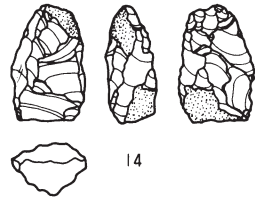
第463図 第210号住居跡(3)



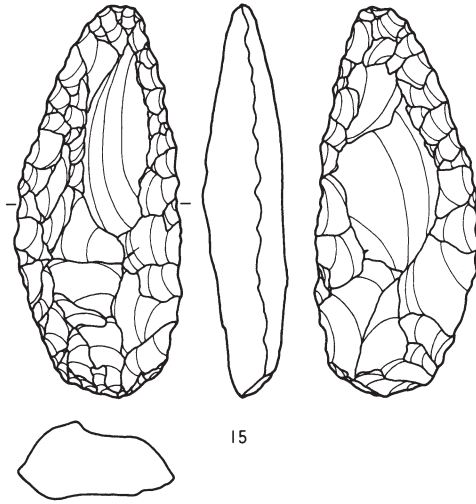
第464图 第210号住居跡(4)



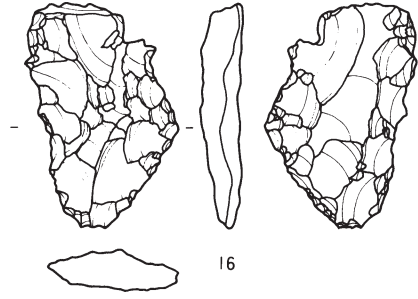
13



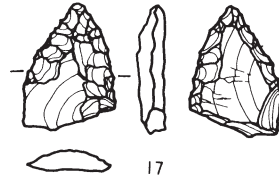
14



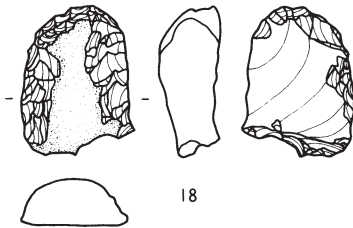
15



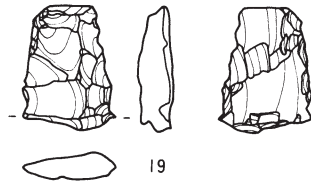
16



17

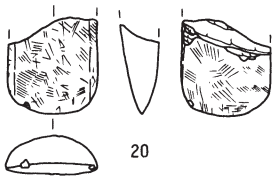


18

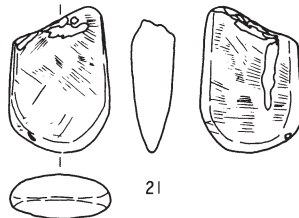


19

0 5cm



20



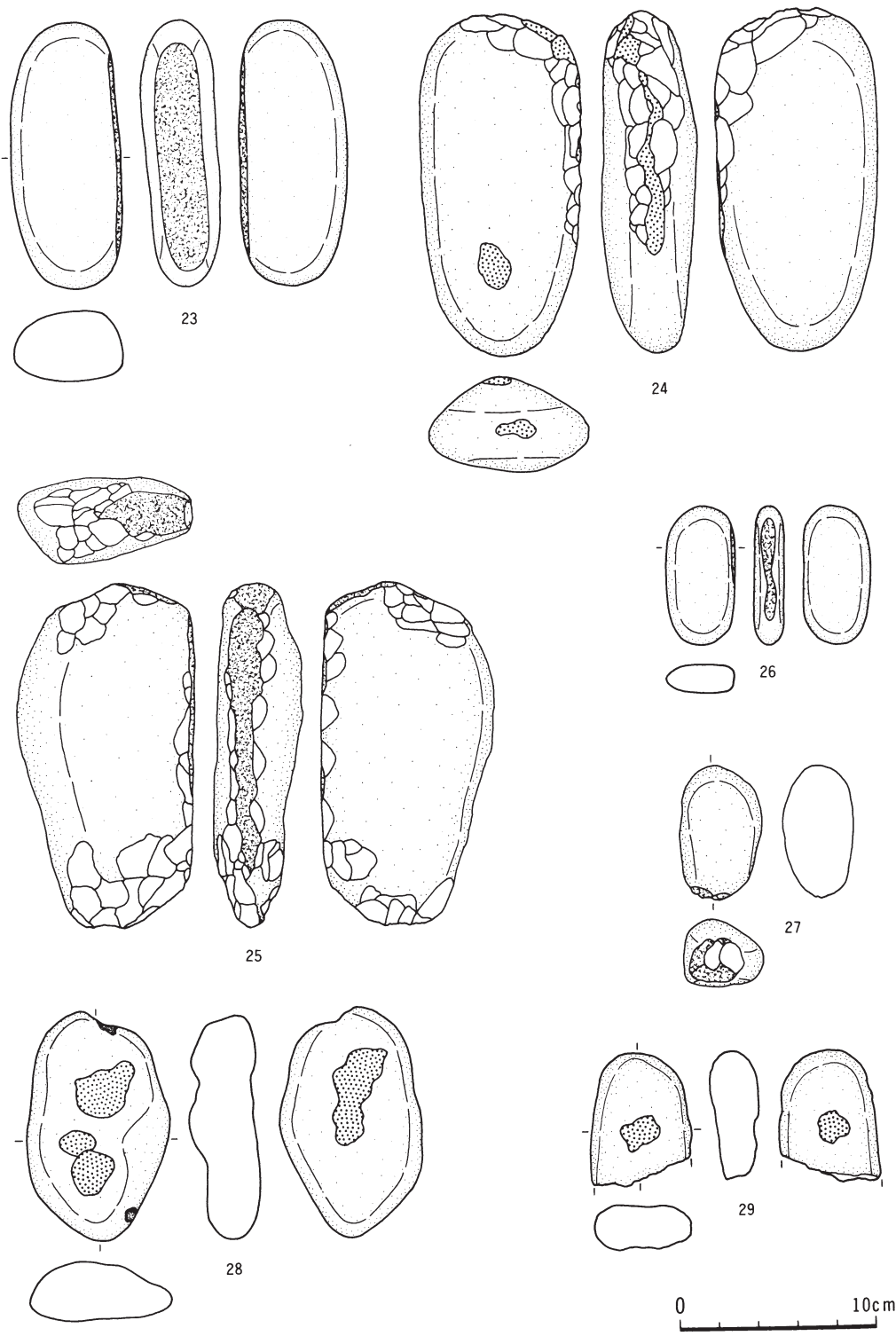
21



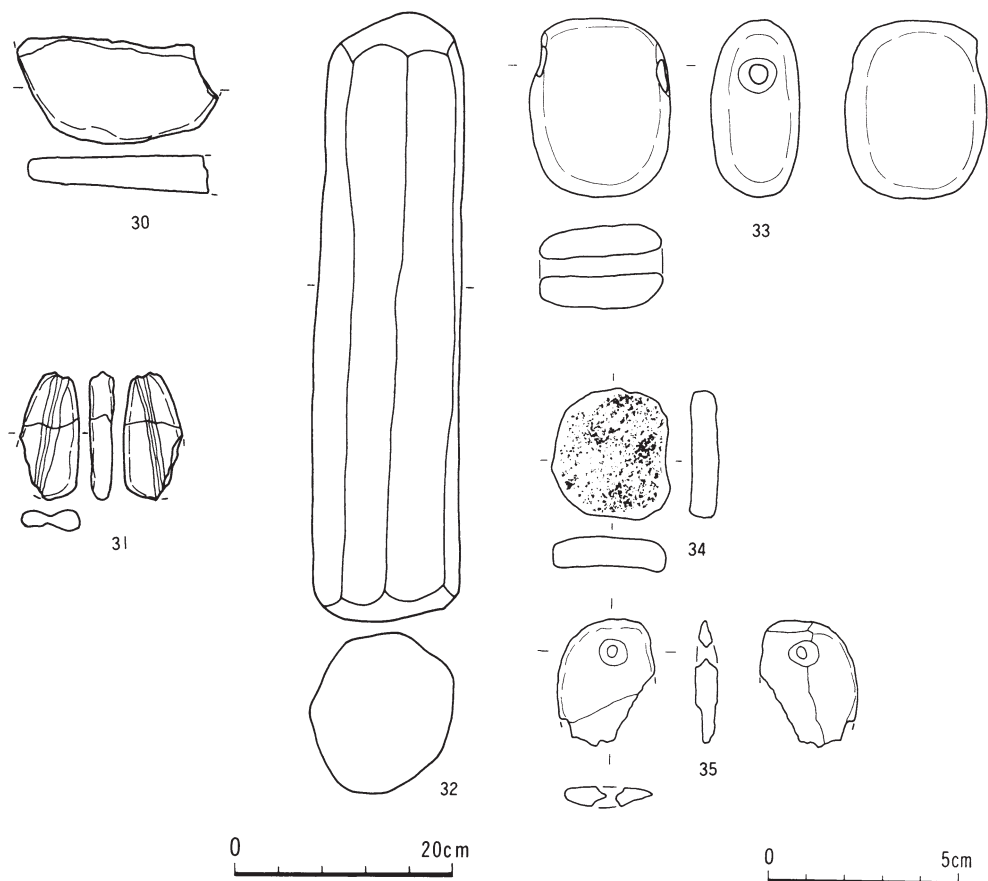
22

0 10cm

第465图 第210号住居跡(5)



第466图 第210号住居跡(6)



第467図 第210号住居跡(7)

不定形石器20点・敲磨器類6点・石棒1点・石斧2点・石皿類2点の総数55点が出土した。また、床面から土製品1点、覆土から土製品1点・有孔石製品1点が出土した。

〈小結〉 本住居跡は、床面から中期の榎林式土器が出土しているため、この時期に構築されたと思われる。 (成田 悟)

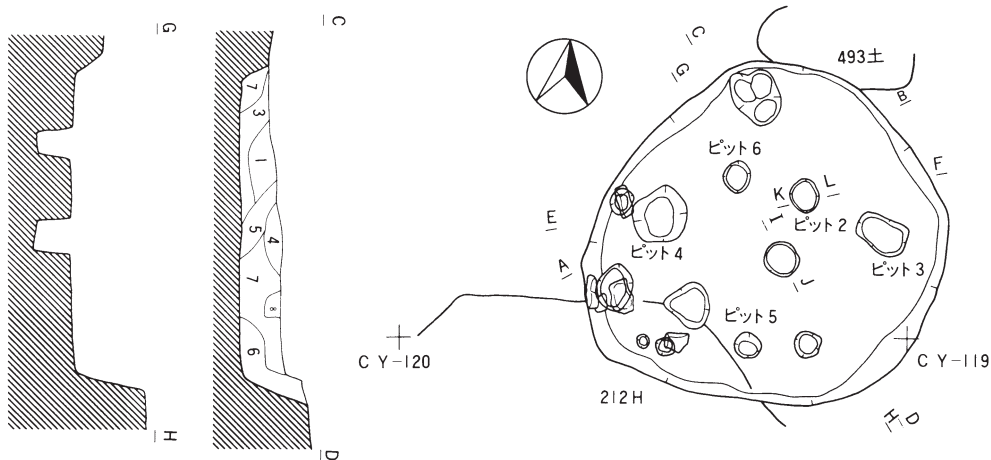
第211号住居跡 (第468・469図)

〈位置と確認〉 本調査区の平坦部CY-119グリッドに位置する。第206号住居跡の床面で褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 第202、206号住居跡、第493号土壌と重複しており、本住居跡は第493号土壌より新しく、第202、206号住居跡より古い。

〈平面形・規模〉 不整な円形で、規模は長軸2m60cm、短軸2m40cmである。床面積は5.12㎡である。

〈壁・床面〉 各壁とも緩やかに立ち上がる。壁高は東壁40cm、西壁25cm、南壁50cm、北壁21



第211号住居跡土層注記

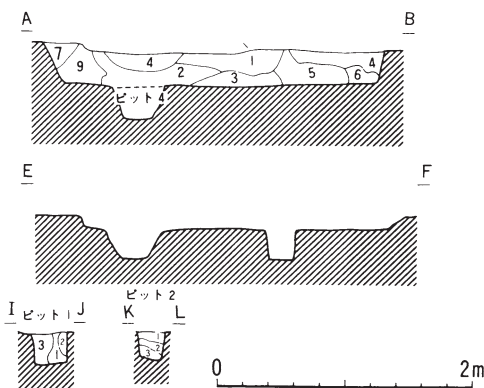
- 第1層 褐色 10Y R 4/1 10mm炭化材所々
- 第2層 黒褐色 10Y R 3/5 5mm L Bまばら
- 第3層 暗褐色 10Y R 3/4 5mm炭化材微量
- 第4層 暗褐色 10Y R 3/4 5mm炭化材極微量
- 第5層 暗褐色 10Y R 3/4 5~10mm L Bまばら
- 第6層 暗褐色 10Y R 3/4 ローム粒少量
- 第7層 明黄褐色 10Y R 6/8 ローム質土
- 第8層 褐色 10Y R 4/6 10mm L Bまばら
- 第9層 褐色 10Y R 4/6 10~20mm L B中量

第211号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 褐色 10Y R 4/6 5mm炭化材まばら
- 第2層 褐色 10Y R 4/6 5~10mm L B少量
- 第3層 褐色 10Y R 4/6 5~10mm L B中量

第211号住居跡ピット2土層注記

- 第1層 褐色 10Y R 4/6 3~5mm炭化材微量
- 第2層 褐色 10Y R 4/6 5mm L B所々
- 第3層 褐色 10Y R 4/6 5mm L B所々、ローム粒少量



第468図 第211号住居跡(1)

cmである。床面は平坦で堅緻である。

〈壁溝〉 確認できなかった。

〈柱穴〉 本住居跡の床面から大小15個のピットを確認した。配置、深さ等からP₅、P₆が支柱穴の可能性が高い。深さはP₁…20cm、P₂…14cm、P₃…11cm、P₄…11cm、P₅…28cm、P₆…28cmである。

〈炉〉 認められなかった。

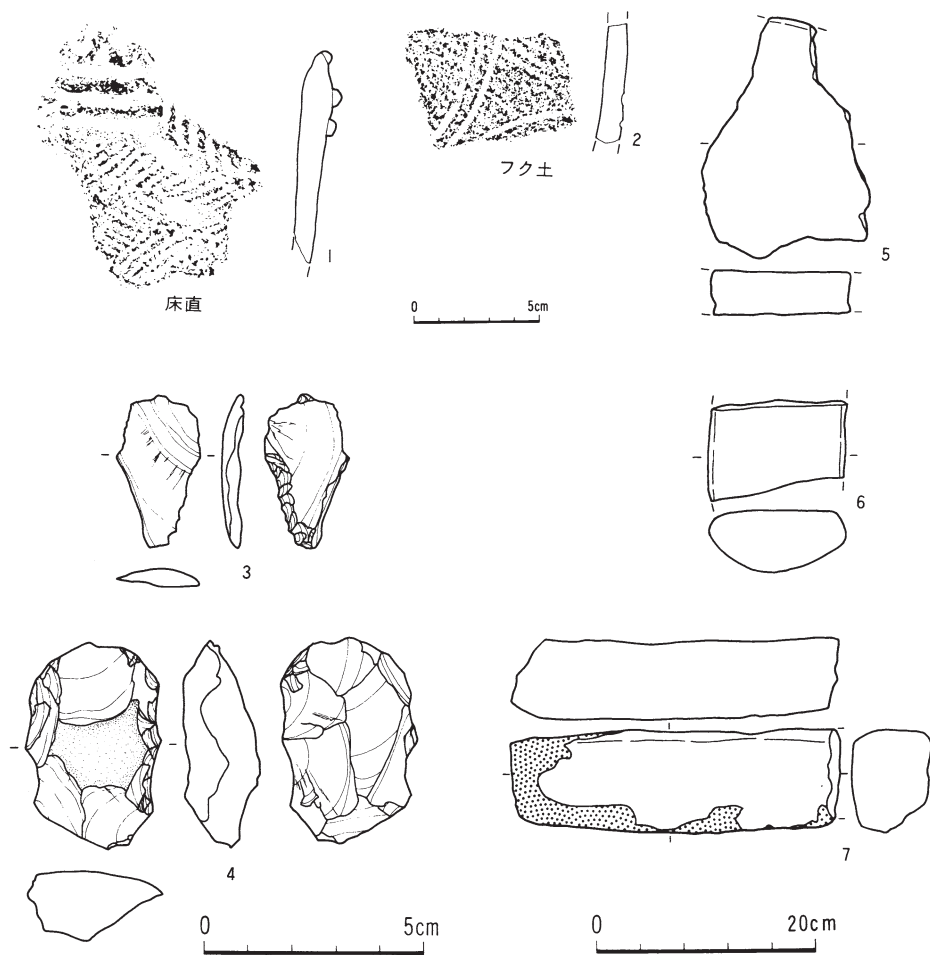
〈特殊施設〉 認められなかった。

〈堆積土〉 覆土上層に炭化粒を多く含む。人為的堆積の可能性が高い。

〈出土遺物〉 土器は床面直上から円筒上層d式土器が出土している。石器は床面から不定形石器2点、石皿・台石類1点、床面直上から不定形石器3点、石皿・台石類1点、覆土から不定形石器4点、石棒1点、総数12点出土している。

〈小結〉 本住居跡は、床面直上出土の土器から円筒上層d式期に構築された可能性が高い。

(三浦 孝仁)



第469図 第211号住居跡(2)

第212号住居跡 (第470・471図)

〈位置と確認〉 調査区の南斜面の上がり際の際のCW、CX-119、120グリッドに位置する。第202号住居跡の床面で褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 第202、211号住居跡、第542号土壌と重複しており、本住居跡は第211号住居跡、第542号土壌より新しく、第202号住居跡より古い。

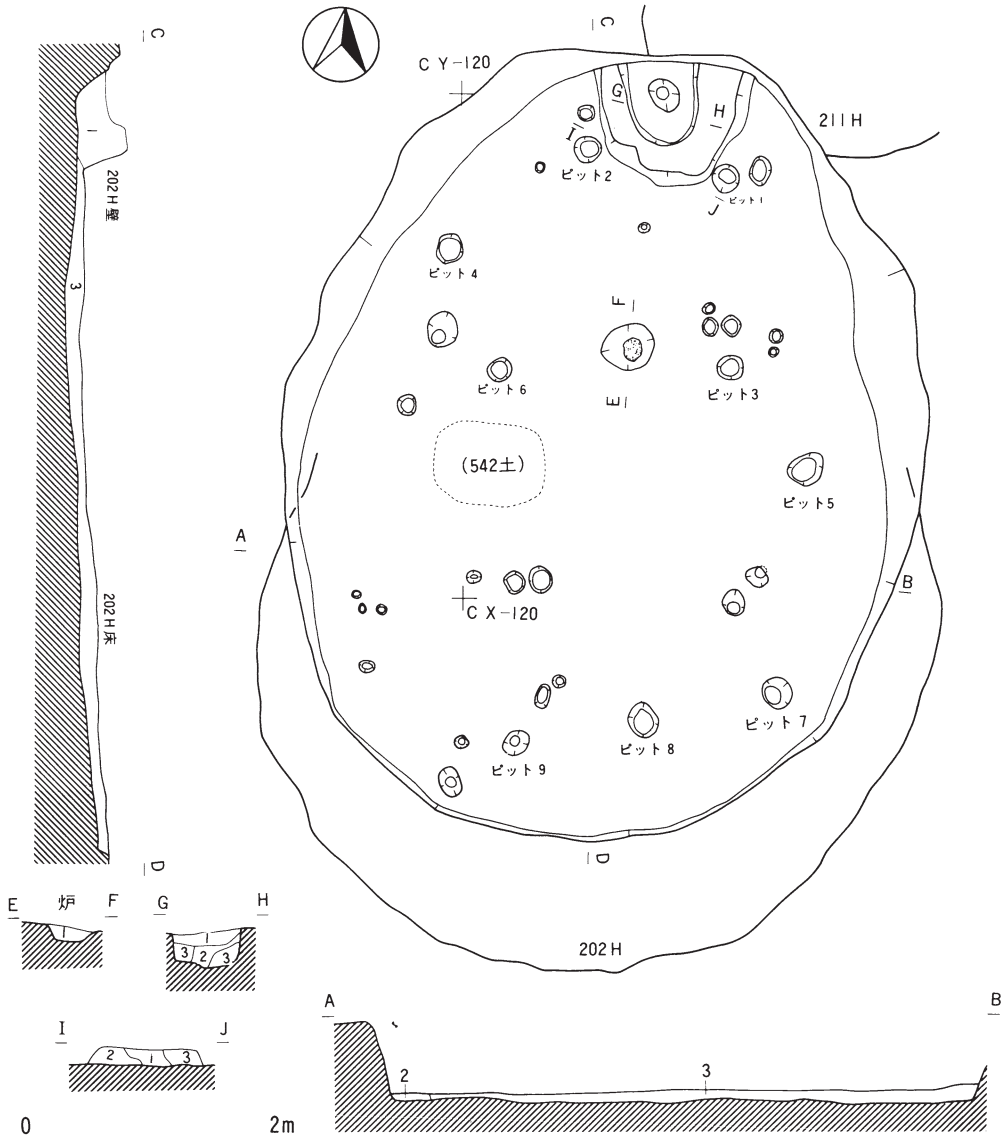
〈平面形、規模〉 南北に長い楕円形で、規模は、長軸6 m30cm、短軸4 m50cmである。床面積は(21.98㎡)である。

〈壁・床面〉 重複により南壁は不明であるが、他の壁は比較的緩やかに立ち上がる。壁高は東壁48cm、西壁53cm、北壁30cmである。床は凹凸が激しいものの堅緻である。

<壁溝> 認められない。

<柱穴> 本住居跡の床面上から多数のピットを確認したが、支柱穴の配置等明確ではない。

深さはP₁…48cm、P₂…36cm、P₃…17cm、P₄…18cm、P₅…10cm、P₆…33cm、P₇…10cm、P₈…16cm、P₉…7cmである。



第212号住居跡土層注記

- 第1層 黄褐色 10Y R 5% ローム粒多量
- 第2層 暗褐色 10Y R 3/4 ローム粒極微量
- 第3層 褐色 10Y R 3/4 ローム粒多量

第212号住居跡特殊施設ピット土層注記

- 第1層 にぶい黄褐色 10Y R 3/3 焼土極微量
- 第2層 にぶい黄褐色 10Y R 3/4 10mm L B 多量
- 第3層 褐色 10Y R 3/4 ローム帯入

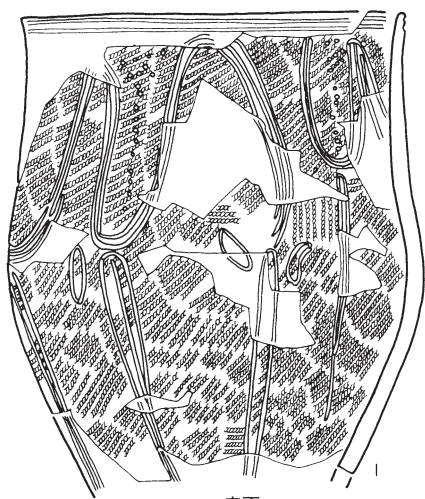
第212号住居跡炉土層注記

- 第1層 褐色 10Y R 3/4 焼土多量

第212号住居跡特殊施設土層注記

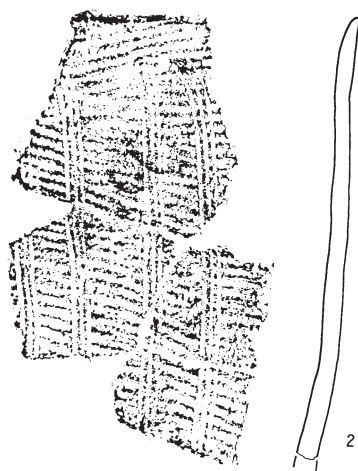
- 第1層 黄褐色 10Y R 5% 10~20mm L B
- 第2層 褐色 10Y R 3/4 ローム粒多量
- 第3層 褐色 10Y R 3/4 10~20mm L B 所々

第470図 第212号住居跡(1)



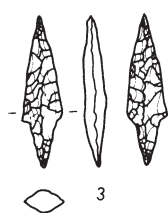
床面

0 10cm

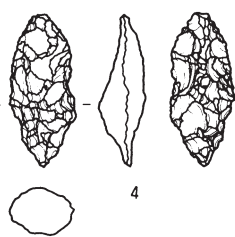


床直

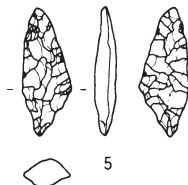
0 5cm



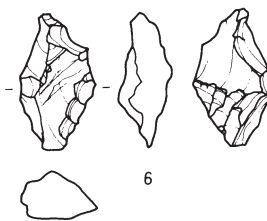
3



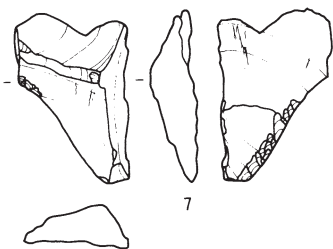
4



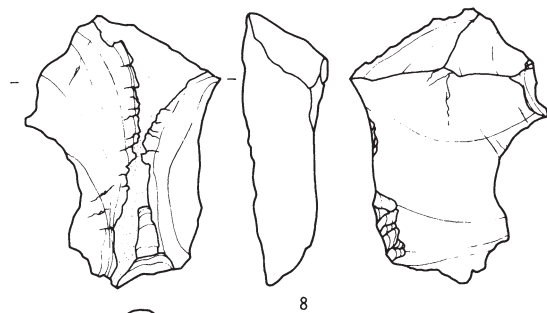
5



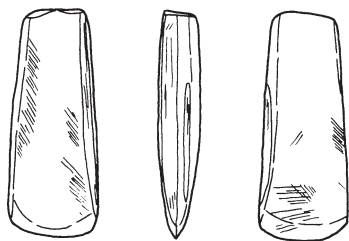
6



7



8



9

0 5cm

第471图 第212号住居跡(2)

＜炉＞ 中央部から北側にずれて地床炉を1基確認した。規模は長軸40cm、短軸38cm、深さは13cmである。

＜特殊施設＞ 北側で黄褐色土を半円状に貼り付けた特殊施設が認められた。中のピットの深さは22cmである。

＜堆積土＞ 重複により観察できる部分が少ない。

＜出土遺物＞ 重複により本住居跡の遺物は少ないが、床面から最花式土器が出土している。石器は床面直上から石鏃3点、石錐1点、不定形石器4点、石斧1点、覆土から不定形石器1点、総数10点出土している。

＜小結＞ 本住居跡は、床面出土の土器から最花式期に構築されたものと思われる。

(三浦 孝仁)

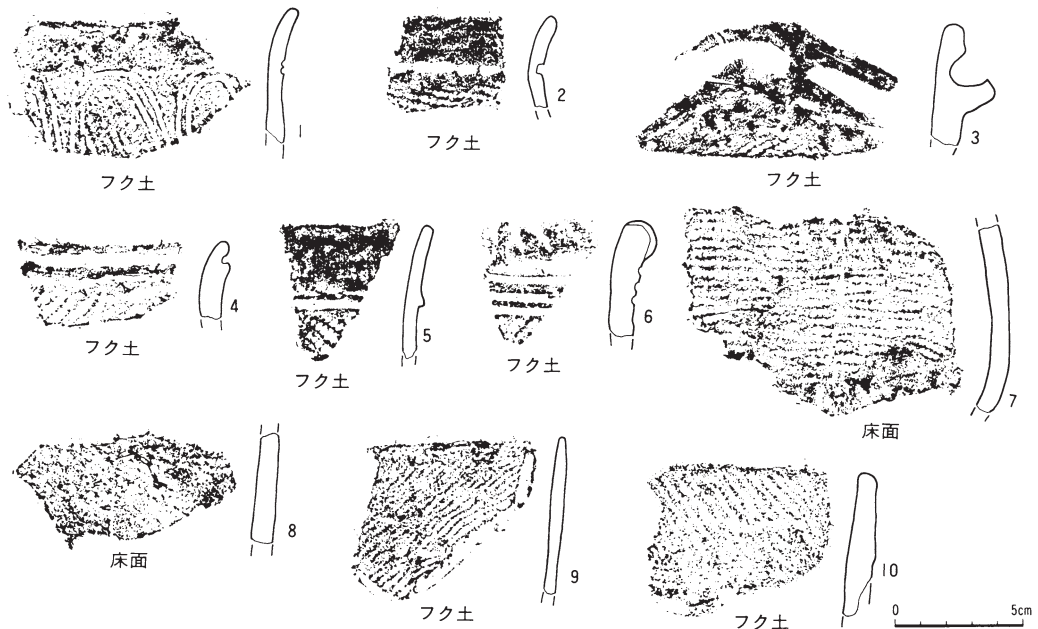
第214号住居跡 (第472～474図)

＜位置と確認＞ 調査区の南側斜面の上がり際の際のCX-117、118グリッドに位置する。第Ⅲ層下面で褐色土の不整な落ち込みを確認した。

＜重複＞ 第500号土壙と重複しており、本住居跡が古い。

＜平面形・規模＞ 東西に長い不整な楕円形で、規模は長軸3m50cm、短軸2m90cmである。床面積は8.84㎡である。

＜壁・床面＞ 各壁ともほぼ垂直に立ち上がり、堅緻である。壁高は東壁75cm、西壁64cm、南



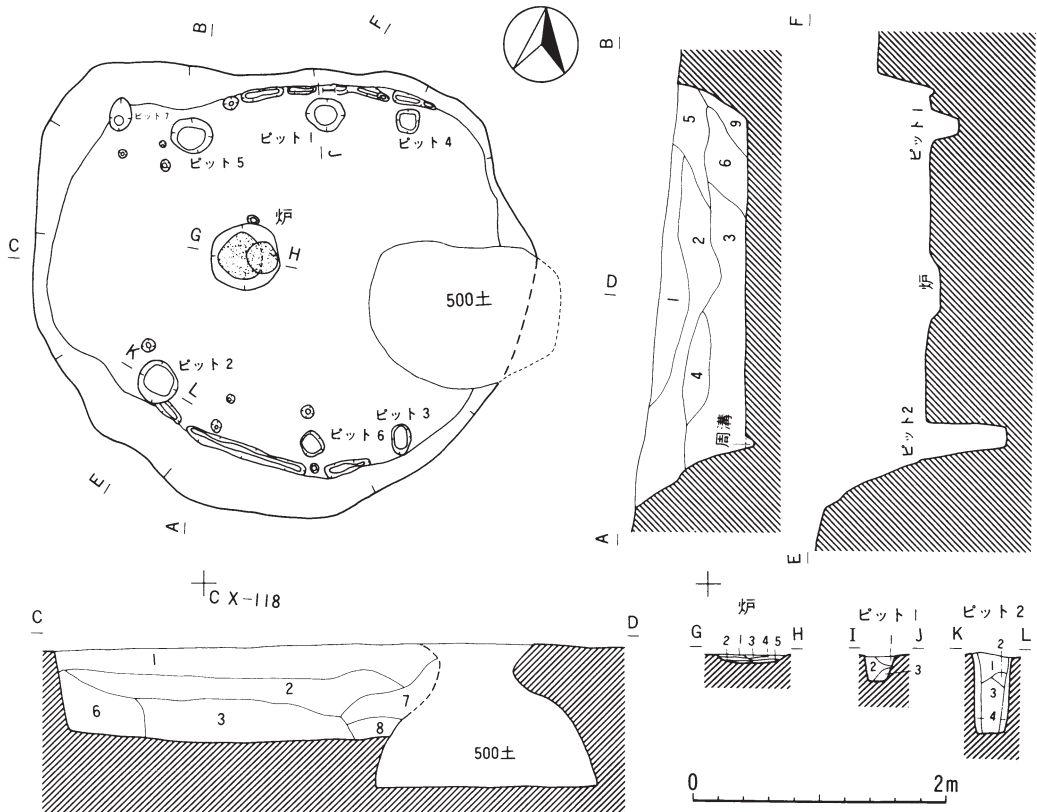
第472図 第214号住居跡(1)

壁85cm、北壁58cmである。床面は平坦で堅緻である。

<壁溝> 北壁と南壁で途切れ途切りの壁溝を確認された。幅20cm、深さ7cmである。

<柱穴> 住居跡の規模及び柱穴の配置、深さ等から支柱穴はP₂~P₅の可能性が高い。深さはP₁…25cm、P₂…66cm、P₃…51cm、P₄…20cm、P₅…56cm、P₆…25cmである。

<炉> 第4層下面と第5層下面に火床面があり、炉を造り替えた可能性が高い。改築前の規模は長軸54cm、短軸52cm、深さは5cmで、改築後の規模は長軸24cm、短軸33cm、深さは4cmである。



第214号住居跡土層注記

- 第1層 褐色 10Y R% 5mm炭化材まばら
- 第2層 褐色 10Y R% 5~10mm炭化材まばら
- 第3層 褐色 10Y R% 10mm炭化材まばら
- 第4層 褐色 10Y R% 2mm炭化材まばら
- 第5層 黄褐色 10Y R% 5mm炭化材極微量
- 第6層 黄褐色 10Y R% 褐色土微量
- 第7層 褐色 10Y R% 5mm炭化材所々
- 第8層 褐色 10Y R% 5mm焼土微量
- 第9層 褐色 10Y R% 炭化材少量

第214号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 褐色 10Y R% 5mm炭化材少量
- 第2層 黄褐色 10Y R% 炭化粒少量
- 第3層 黄褐色 10Y R% ローム粒少量

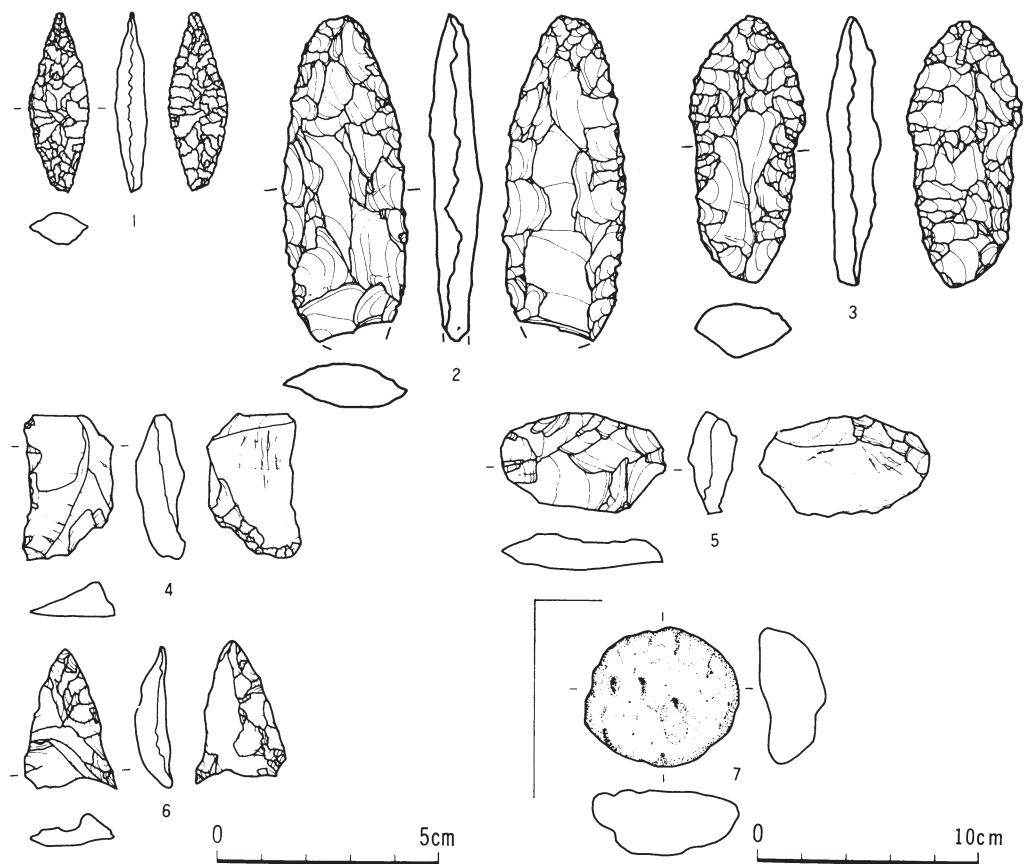
第214号住居跡炉土層注記

- 第1層 褐色 10Y R% ローム粒少量
- 第2層 褐色 10Y R% 焼土少量
- 第3層 黄褐色 10Y R% 焼土中量
- 第4層 褐色 10Y R% 焼土少量
- 第5層 黄褐色 10Y R% 焼土多量

第214号住居跡ピット2土層注記

- 第1層 黄褐色 10Y R% 5mm炭化材少量
- 第2層 黄褐色 10Y R% 10~20mm L B少量
- 第3層 黄褐色 10Y R% 炭化粒中量
- 第4層 橙色 7.5Y R% 白色ブロックまばら

第473図 第214号住居跡(2)



第474図 第214号住居跡(3)

〈特殊施設〉 認められなかった。

〈堆積土〉 堆積土全体がレンズ状に堆積しており、自然堆積の可能性が高い。

〈出土遺物〉 覆土から円筒上層e式土器、榎林式土器、最花式土器が出土している。7、8は榎林式期、最花式期の粗製土器と思われる。石器は覆土から石鏃1点、石槍3点、不定形石器7点、総数11点出土している。また覆土から軽石が出土している。

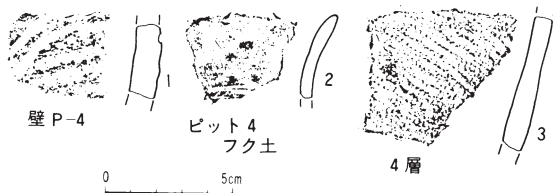
〈小結〉 本住居跡は榎林式期～最花式期に構築された可能性が高い。 (三浦 孝仁)

第215号住居跡 (第455・475図)

〈位置と確認〉 ほぼCY-121グリッドに位置している。第208号住居跡の下部から検出した。

〈重複〉 第208号住居跡と重複している。第208号住居跡より古い。

〈平面形・規模〉 長軸2m40cm、短軸2m10cmの隅丸五角形である。床面積は3.50㎡である。



第475図 第215号住居跡

<壁・床面> 壁高は北側で15cm、南側で30cm程である。

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 17個のピットを検出した。深さはP₁…42cm、P₂…16cm、P₃…26cm、P₄…25cm、P₅…25cm、P₆…38cm、

P₇…30cm、P₈…13cm、P₉…10cm、P₁₃…32cm(深さ10cm程度以上のもの)で、P₁は柱痕が確認された。

<炉> 床中央の長軸25cm、短軸10cmの楕円形の範囲に赤変しているところが炉と思われる。

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> ローム混じりの褐色土と黄褐色土がブロック状に堆積する層である。

<出土遺物> 覆土から榎林式土器が出土している。壁際から不定形石器が1点出土した。

<小結> 第208号住居跡との重複関係から榎林式期かそれ以前と思われる。(坂本 洋一)

第216号住居跡 (第476～492図)

<位置と確認> CS・CT-120～123グリッドに位置している。一帯に復原可能な土器が出土し、その下部にはローム主体の堅い床状の部分(この部分は旧遺構番号第213号住居跡)が広がっていた。そして更にこの下の遺構として、トレンチにより確認した。

<重複> 第339号・第403号・第432号・第454号、第339号住居跡より古く、第403号・第432号・第454号住居跡より新しい。また炭化材の残り方からみて第432号、第434号住居跡より新しいのではないと思われる。

<平面形・規模> 長軸11m、短軸6m20cmの隅丸長方形である。床面積は推定で57.76㎡である。

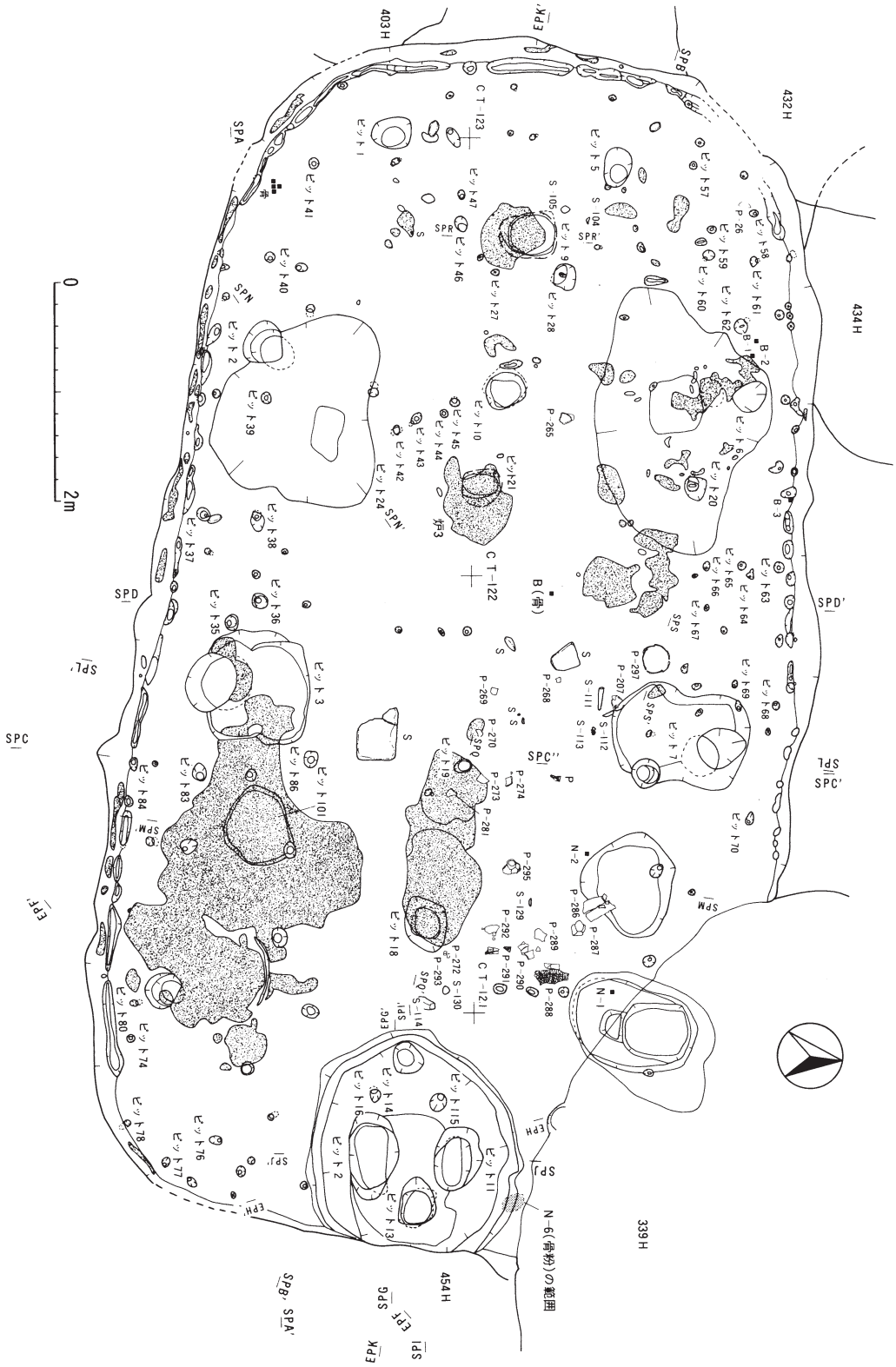
<壁・床面> 壁高は北側が40cm程、南側が50cm程である。床はほぼ水平である。一部大型ピットの埋土上部の床は数cm下がっていた。

<壁溝> 継続的に検出された。幅10～15cm程で、深さは2～13cmである。なお、南東側では壁から50cm程中央寄りにも壁溝と同様の溝が検出された。

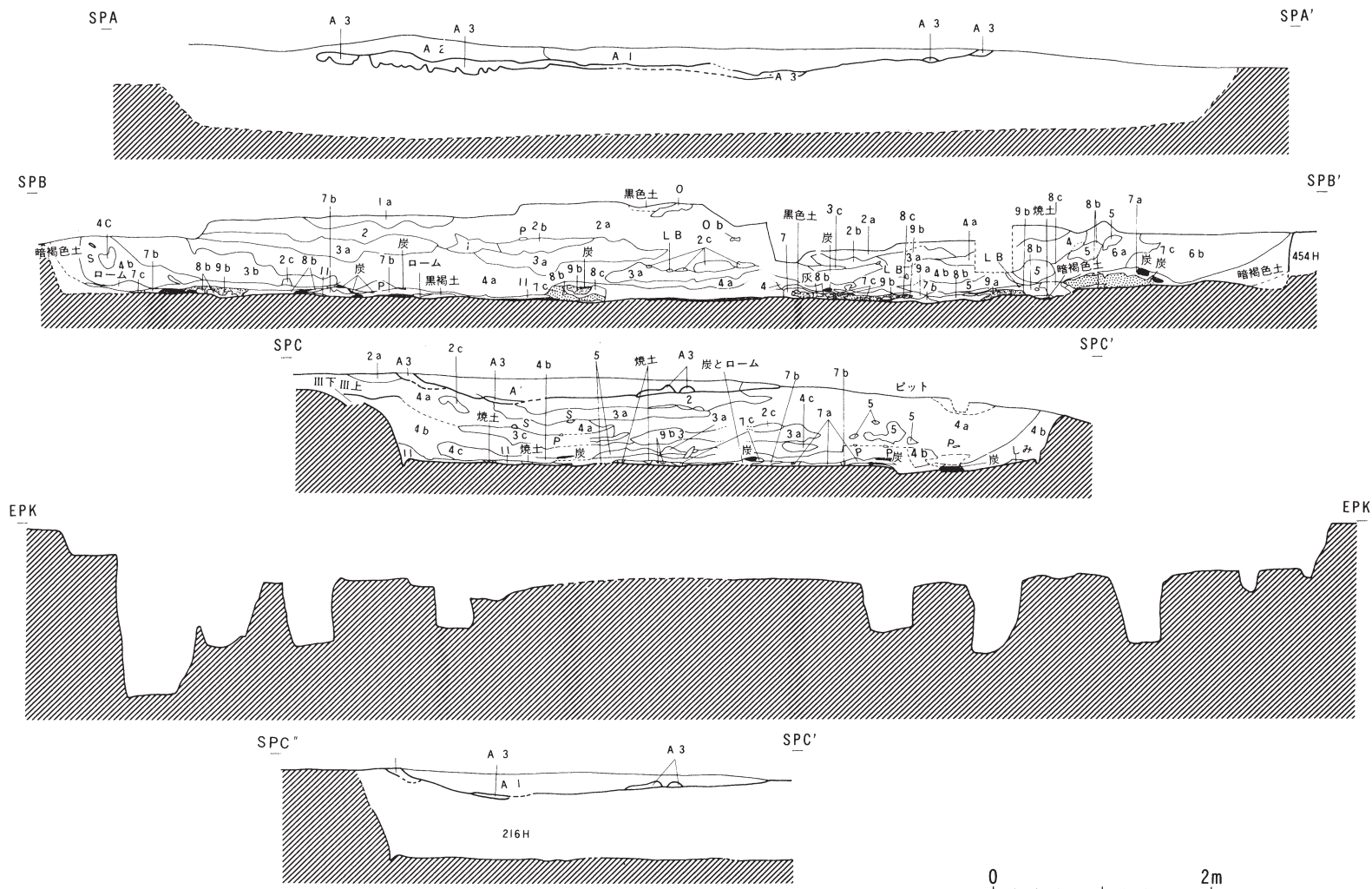
<柱穴> 百数十個のピットを検出した。深さはP₁…70cm、P₂…139cm、P₃…131cm、P₄…132cm、P₅…78cm、P₆…130cm、P₇…137cm、P₁₀…67cm、P₁₁…63cm、P₁₂…62cm、P₁₃…121cm、P₁₄…66cm、P₁₅…33cm、P₁₆…28cm、P₁₇…67cm、P₁₈…43cm、P₁₉…26cm、P₂₀…50cm、P₂₁…50cm、P₂₂…130cm、P₂₃…99cm、P₂₄…123cm、P₂₅…33cm、P₂₆…101cm、P₂₇…38cm、P₂₈…47cm、P₂₉…104cm、P₃₀…111cm、P₃₂…55cm、P₃₃…45cm、P₃₄…74cm、P₃₅…24cm、P₃₆…29cm、P₃₇



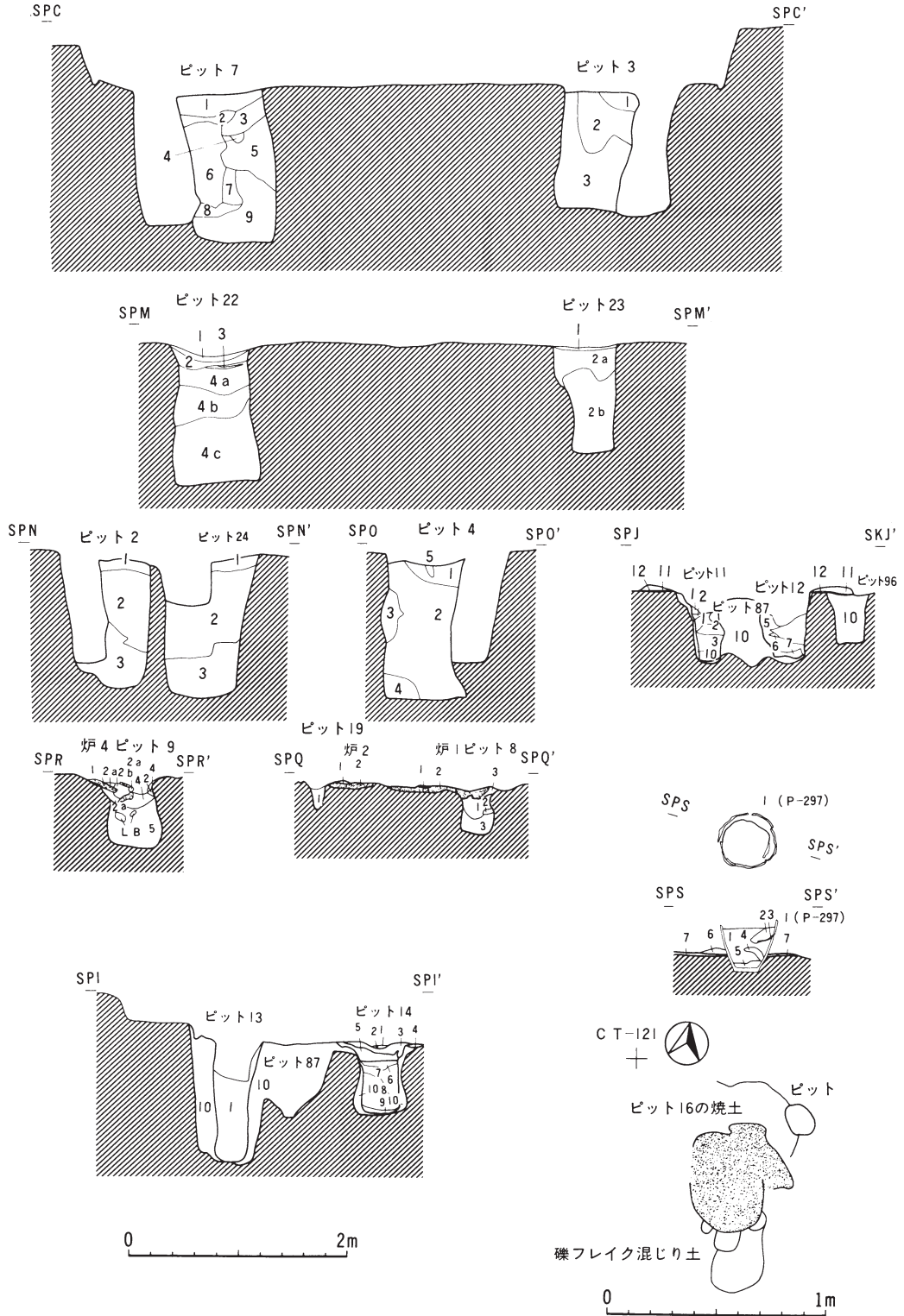
第476図 第216号住居跡(1)



第477図 第216号住居跡(2)



第478図 第216号住居跡(3)



第479図 第216号住居跡(4)

第216号住居跡土層注記

第1層	黄褐色	10Y R %	ローム主体 暗褐色土多量
第2a層	褐色	10Y R %	ローム多量、焼土少量
第2b層	暗褐色	10Y R %	ローム粒多量、焼土微量、炭化物中量
第2c層	暗褐色	10Y R %	ローム粒多量
第3a層	黒褐色	10Y R %	ローム粒中量
第3b層	黒褐色	10Y R %	ローム粒中量、焼土少量
第3c層	黒褐色	10Y R %	ローム粒少量
第4a層	暗褐色	10Y R %	ローム粒多量
第4b層	暗褐色	10Y R %	ローム粒多量
第4c層	暗褐色	10Y R %	ローム粒多量
第4d層	暗褐色	10Y R %	ローム粒多量
第5層	黄褐色	10Y R %	ローム主体
第6a層	暗褐色	10Y R %	ローム粒多量
第6b層	褐色	10Y R %	ローム多量
第7a層	褐色	10Y R %	ローム、炭化物、焼土粒混合
第7b層	黄褐色	10Y R %	ローム粒多量
第7c層	明褐色	10Y R %	ローム粒多量
第7d層	黄褐色	10Y R %	炭化物多量
第8a層	褐色	7.5Y R %	ローム粒多量
第8b層	明褐色	7.5Y R %	ローム粒多量、炭化物
第8c層	褐色	7.5Y R %	ローム粒多量、炭化物
第9a層	明褐色	7.5Y R %	炭化物少量
第9b層	明赤褐色	5Y R %	炭化物少量
第10層	黒褐色	10Y R %	焼土粒少量、ローム粒含む
第11層	黒色	7.5Y R %	焼土粒少量
第12層	褐色	7.5Y R %	ローム粒多量、焼土主体
第A1層	褐色	10Y R %	ローム粒多量、ロームブロック中量、炭化物少量
第A2層	暗褐色	10Y R %	ローム粒多量、ロームブロック中量
第A3層			ロームブロック主体 褐色土多量

第216号住居跡P-297土層注記

第1層	褐色	10Y R %	骨粉少量
第2層	褐色	10Y R %	焼土微粒多量、骨粉少量
第3層	褐色	10Y R %	骨粉多量
第4層	黒褐色	10Y R %	ローム多量
第5層	黒褐色	10Y R %	炭主体
第6層	黒色	7.5Y R %	焼土粒少量
第7層	赤褐色	5Y R %	床の焼け

第216号住居跡ビット7土層注記

第1層	黄褐色	10Y R %	炭化物少量、ローム粒多量
第2層	褐色	10Y R %	炭化物中量、ローム粒多量
第3層	黄褐色	10Y R %	炭化物少量、ローム粒多量
第4層	黄褐色	10Y R %	炭化物微量、LB微量
第5層	黄褐色	10Y R %	炭化物少量、ローム粒多量
第6層	黄褐色	10Y R %	炭化物極微量、ローム粒多量
第7層	黄褐色	10Y R %	炭化物微量、ローム粒多量
第8層	黄褐色	10Y R %	炭化物中量、ローム粒多量
第9層	黄褐色	10Y R %	炭化物極微量、ローム粒多量

第216号住居跡ビット22土層注記

第1層	黄褐色	10Y R %	黒褐色土中量
第2層	暗褐色	10Y R %	炭化物少量
第3層	赤褐色	5Y R %	焼土
第4a層	黄褐色	10Y R %	4b層よりしまりあり
第4b層	黄褐色	10Y R %	4c層よりしまりあり
第4c層	黄褐色	10Y R %	

第216号住居跡ビット2土層注記

第1層	黄褐色	10Y R %	炭化物多量、焼土少量
第2層	黄褐色	10Y R %	炭化物少量
第3層	黄褐色	10Y R %	炭化物多量

第216号住居跡炉1土層注記

第1層	明褐色	7.5Y R %	
第2層	明赤褐色	5Y R %	焼土
第3層	明黄褐色	10Y R %	ローム

第216号住居跡炉2土層注記

第1層	明黄褐色	10Y R %	ローム
第2層	明赤褐色	5Y R %	

第216号住居跡ビット18土層注記

第1層	暗褐色	10Y R %	炭化材多量
第2層	炭		
第3層	黄褐色	10Y R %	

第216号住居跡ビット19土層注記

第1層	明黄褐色	10Y R %	ローム
-----	------	---------	-----

第216号住居跡ビット13・14土層注記

第1層	黒色	10Y R %	ローム微量
第2層	明赤褐色	5Y R %	焼土
第3層	黄褐色	10Y R %	ローム塊
第4層	褐色	10Y R %	ローム多量
第5層	黒褐色	10Y R %	ローム多量
第6層	明赤褐色	5Y R %	焼土
第7層	黄褐色	10Y R %	ローム
第8層	黄褐色	10Y R %	骨粉微量、暗褐色土多量
第9層	黄褐色	10Y R %	粘土
第10層	黄褐色	10Y R %	黒色土まじり
第11層	暗褐色	10Y R %	炭化物中量

第216号住居跡炉4、ビット9土層注記

第1層	明赤褐色	5Y R %	焼土
第2a層	黒色	10Y R %	焼土粒多量、黒褐色土多量
第2b層	黒褐色	10Y R %	焼土多量、ローム中量
第3層	明赤褐色	5Y R %	焼土
第4層	暗褐色	10Y R %	ローム多量
第5層	褐色	10Y R %	ローム多量

第216号住居跡ビット3土層注記

第1層	黄褐色	10Y R %	炭化物、焼土中量
第2層	黄褐色	10Y R %	炭化物少量
第3層	黄褐色	10Y R %	ローム、微量の炭化物

第216号住居跡ビット23土層注記

第1層	赤褐色	5Y R %	黒褐色土中量
第2a層	黄褐色	10Y R %	黒褐色土微量
第2b層	黄褐色	10Y R %	黒褐色土少量、ローム粒まじり

第216号住居跡ビット4土層注記

第1層	黄褐色	10Y R %	炭化物少量
第2層	黄褐色	10Y R %	炭化物多量
第3層	褐色	10Y R %	炭化物微量
第4層	黄褐色	10Y R %	ローム質層
第5層	暗赤褐色	5Y R %	ローム粒、焼土、炭化粒

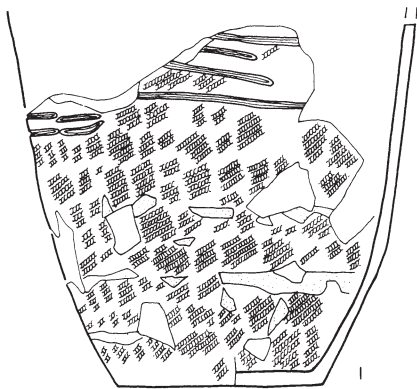
第216号住居跡ビット24土層注記

第1層	黄褐色	10Y R %	炭化物多量、焼土少量
第2層	黄褐色	10Y R %	炭化物少量
第3層	黄褐色	10Y R %	炭化物多量

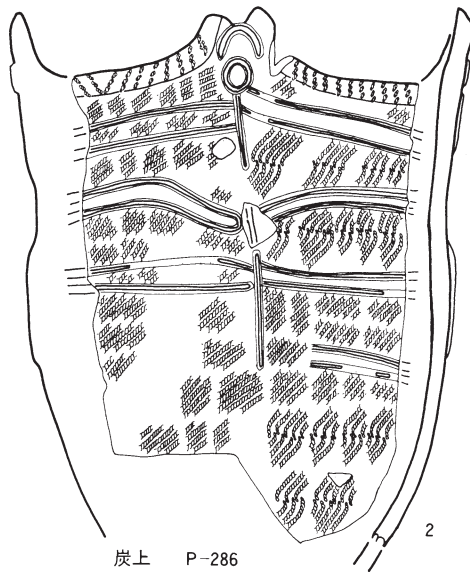
第216号住居跡ビット11、12土層注記

第1層	暗褐色	10Y R %	炭化物中量、焼土少量
第2層	黄褐色	10Y R %	ローム
第3層	褐色	10Y R %	ローム多量、炭化物少量
第4層	暗褐色	10Y R %	炭化物少量
第5層	黄褐色	10Y R %	ローム
第6層	黒色	10Y R %	炭化物
第7層	褐色	10Y R %	ローム多量
第8層	黄褐色	10Y R %	黒色土まじり
第9層	黄褐色	10Y R %	ローム塊
第10層	褐色	10Y R %	ローム多量

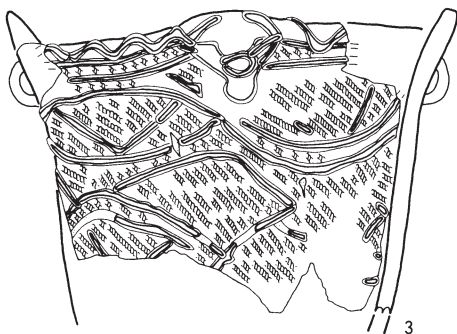
第479図 第216号住居跡(4)



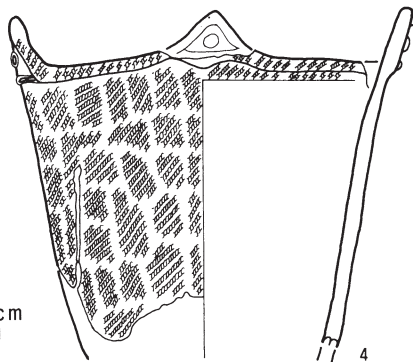
床面 P-297



炭上 P-286



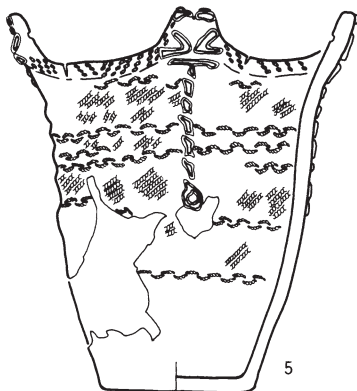
2層 P-131, 225



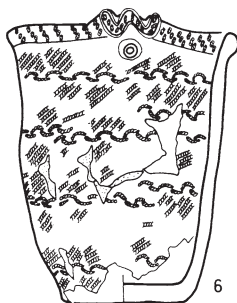
2層、4層
P-37·42·45



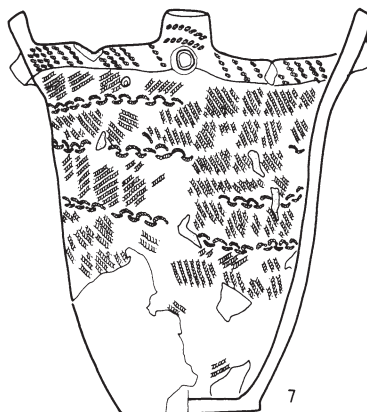
0 10cm



4層 P-275·P-289~292

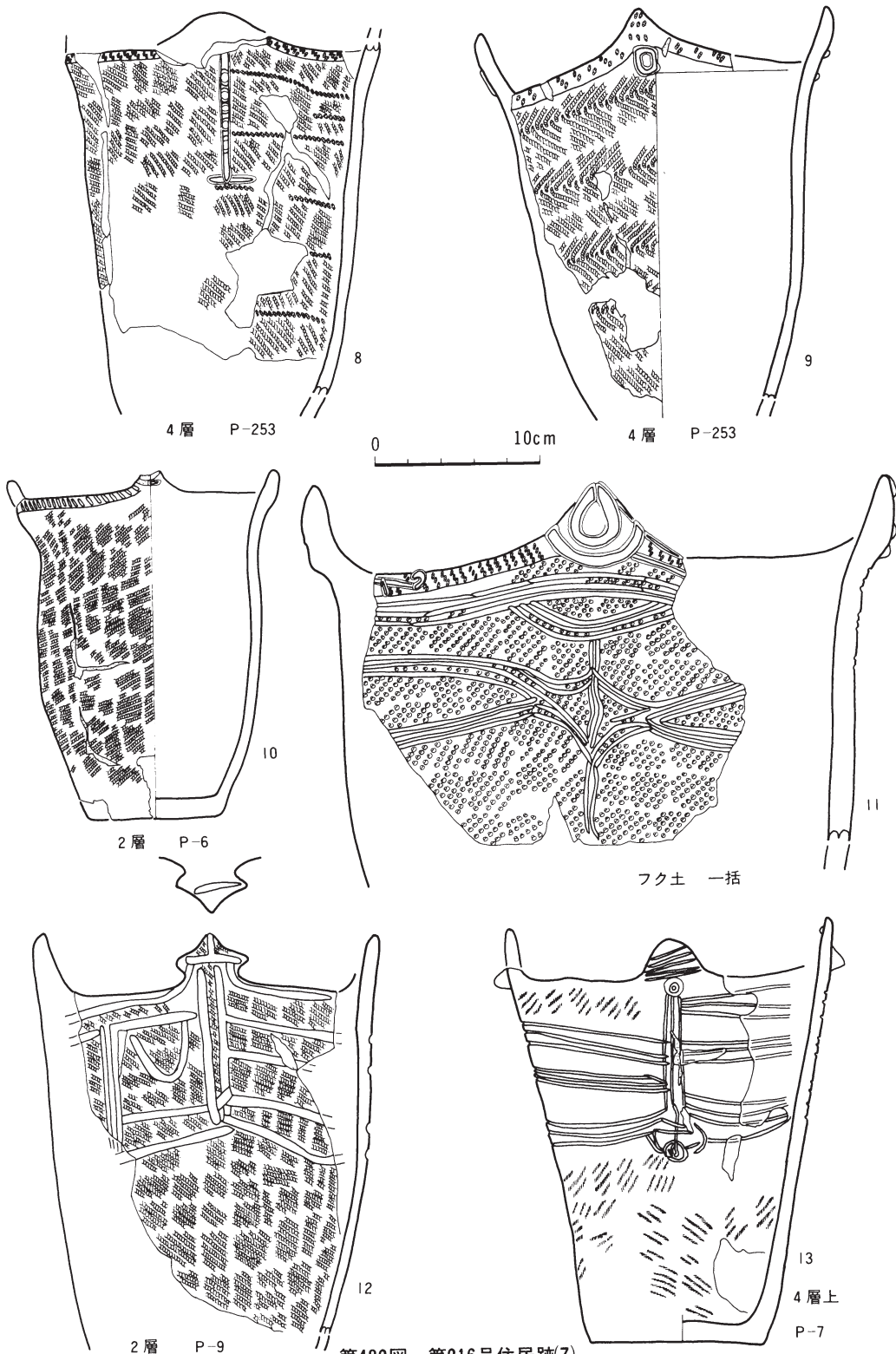


4層 P-117

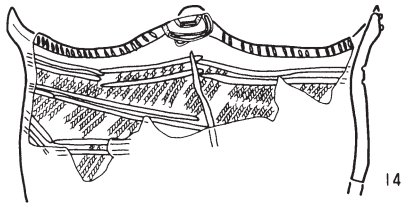


4層 P-200

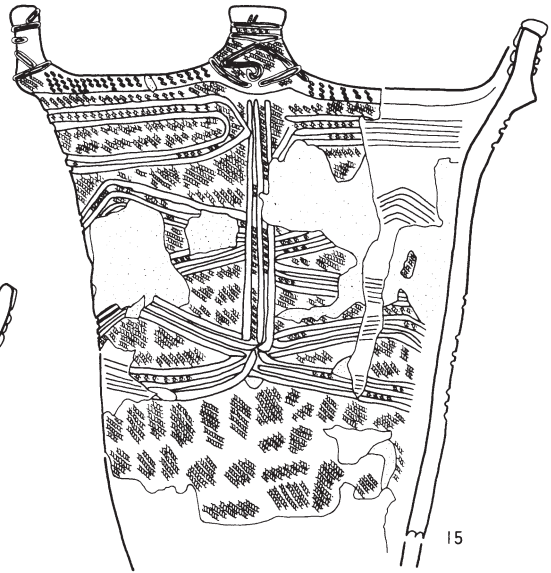
第481図 第216号住居跡(6)



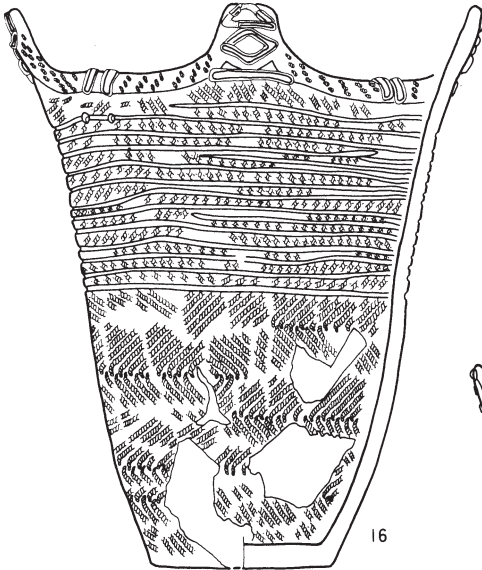
第482図 第216号住居跡(7)



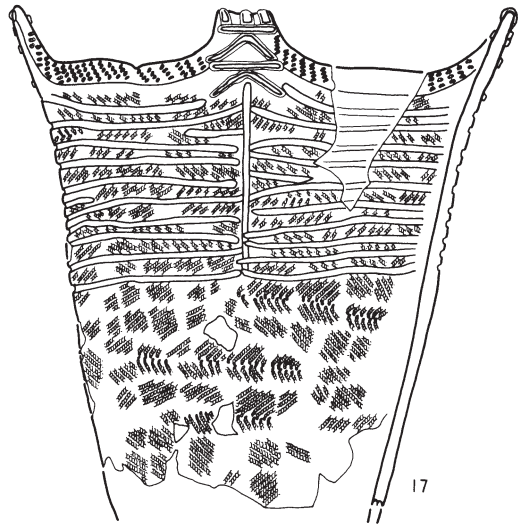
2層 P-102~104・P-106・P-111



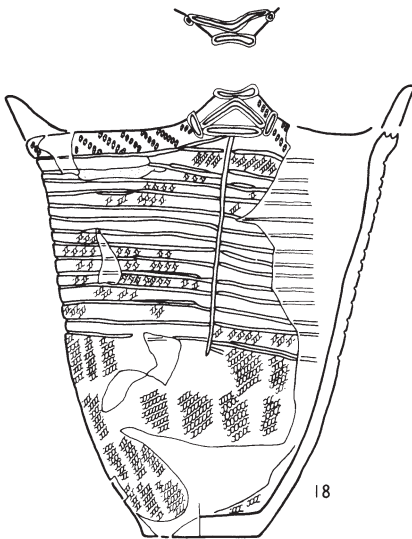
2層 P-5・P-2



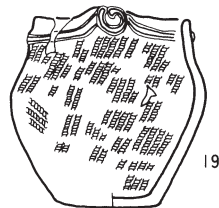
4層 P-2



2層 P-4



2層 P-92~94・99

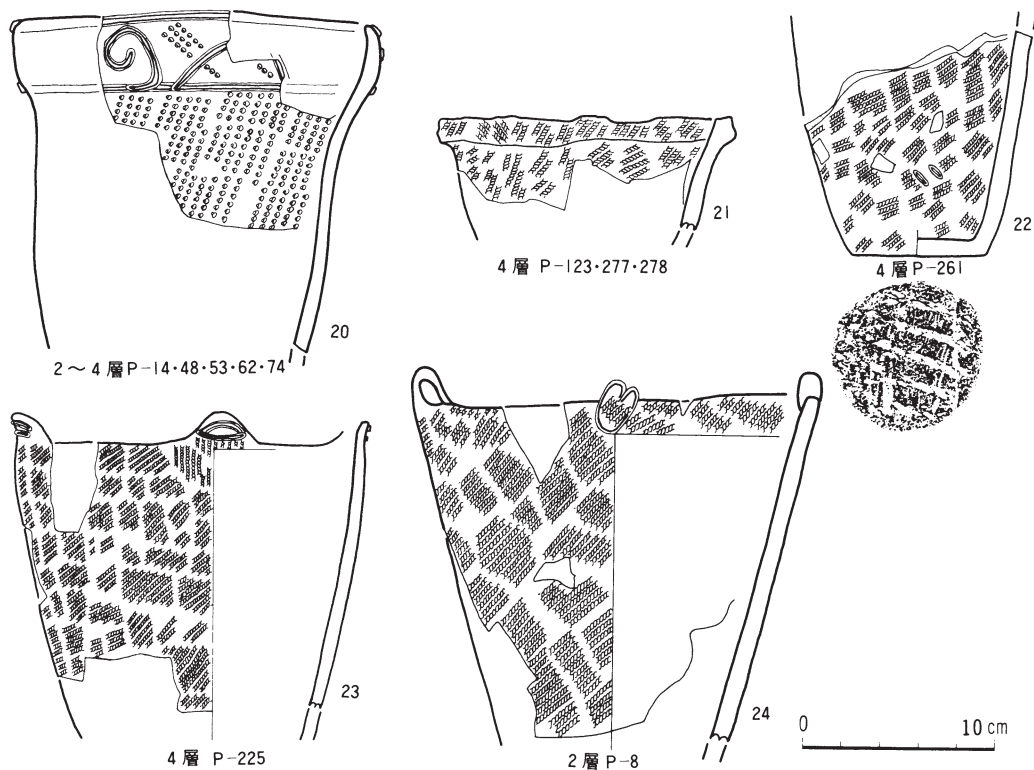


2層 P-105・107・109・149

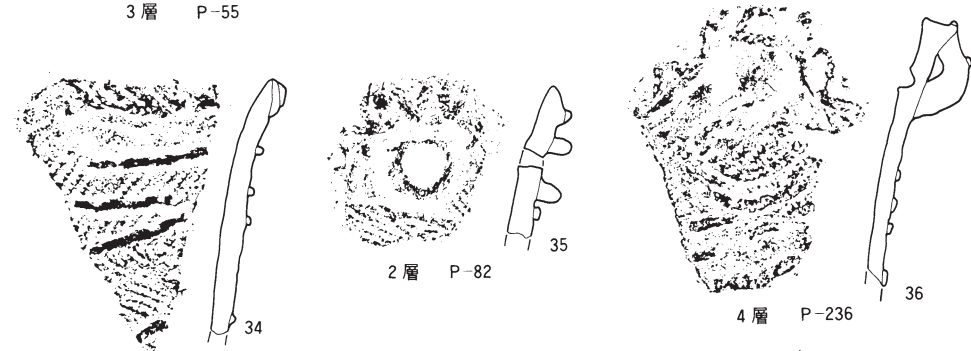
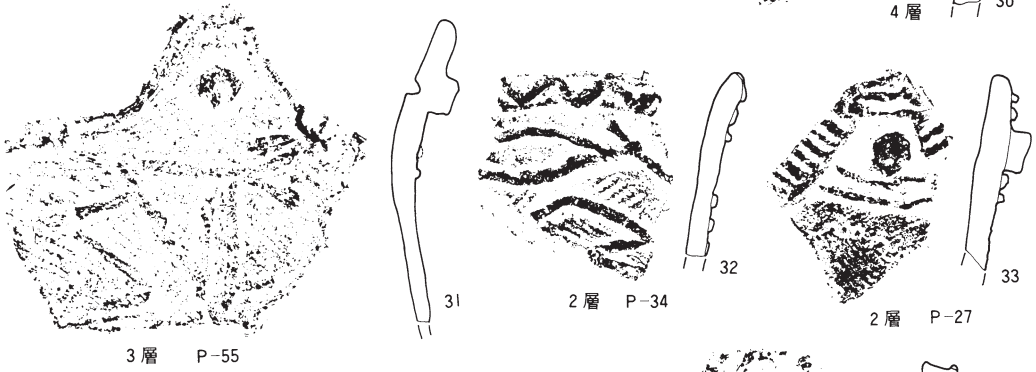
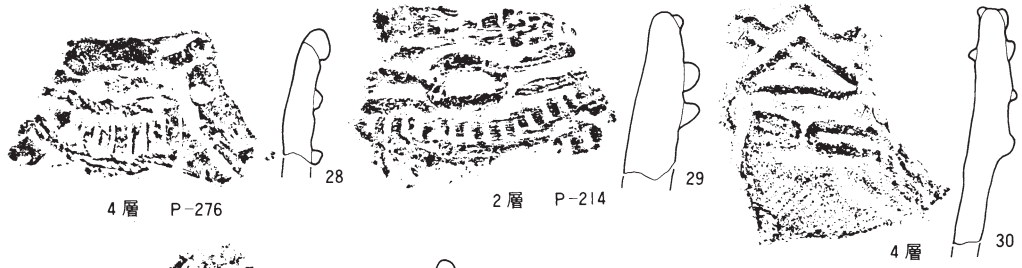
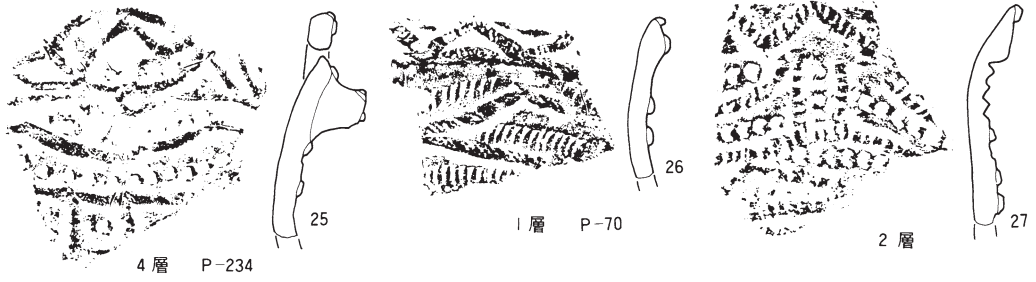


第483图 第216号住居跡(8)

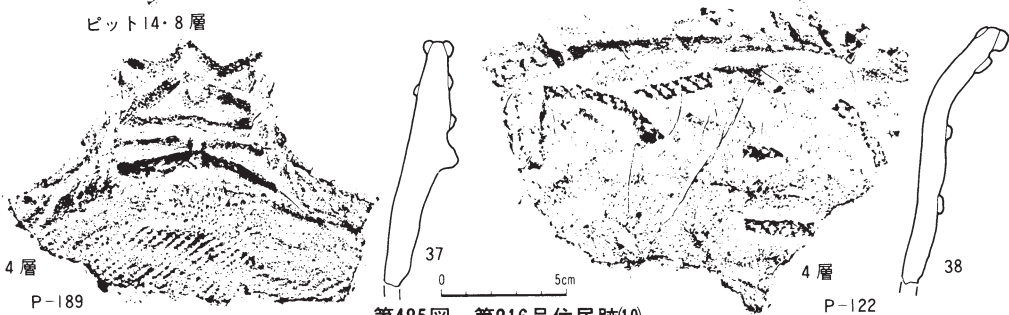
…22cm, P₃₈…21cm, P₃₉…33cm, P₄₀…16cm, P₄₁…13cm, P₄₂…11cm, P₄₃…10cm, P₄₄…10
 cm, P₄₅…17cm, P₄₆…17cm, P₄₇…14cm, P₄₈…12cm, P₄₉…10cm, P₅₀…17cm, P₅₁…15cm,
 P₅₂…18cm, P₅₃…14cm, P₅₄…13cm, P₅₅…10cm, P₅₆…15cm, P₅₇…10cm, P₅₈…12cm, P₅₉…22
 cm, P₆₀…12cm, P₆₁…14cm, P₆₂…17cm, P₆₃…16cm, P₆₄…17cm, P₆₅…12cm, P₆₆…24cm,
 P₆₇…11cm, P₆₈…11cm, P₆₉…11cm, P₇₀…14cm, P₇₁…21cm, P₇₂…29cm, P₇₃…29cm, P₇₄…11
 cm, P₇₅…12cm, P₇₆…17cm, P₇₇…11cm, P₇₈…10cm, P₇₉…18cm, P₈₀…11cm, P₈₁…11cm,
 P₈₂…19cm, P₈₃…11cm, P₈₄…11cm, P₈₅…25cm, P₈₆…17cm, P₈₇…70cm, P₈₈…14cm, P₉₀…16
 cm, P₉₁…11cm, P₉₂…59cm, P₉₃…89cm, P₉₄…13cm, P₉₅…22cm, P₉₆…48cm, P₉₇…66cm,
 P₉₈…53cm, P₉₉…15cm, P₁₀₀…22cm, P₁₀₁…20cm (深さ10cm程度以上のもの)である。浅く形
 態のいびつなP₄₃・P₄₆・P₄₈・P₅₅・P₅₉・P₆₀・P₇₀・P₇₅・P₇₈・P₈₀・P₈₁・P₈₃を除いて柱
 穴の可能性の強いものである。これらの内P₁₃・P₂₂・P₂₃・P₂₄・P₂₅・P₂₆・P₂₇・P₂₉・P₃₀・
 P₃₂・P₃₃・P₈₇・P₈₉~P₉₄は床を剥いでから検出し、P₉₆~P₉₉は特殊施設の周囲の土手状の
 盛り土の下から検出した。P₁~P₁₀・P₁₃~P₁₆・P₂₀・P₂₀・P₂₈・P₃₄・P₅₉・P₈₈は床を剥ぐ
 前に柱痕を確認し、その後、掘り方を検出した。また、P₁₃は上面のロームを剥いで柱痕を確認
 し、さらに掘り方を検出したピットである。P₁~P₇では柱痕の覆土上部で炭化材を検出した。



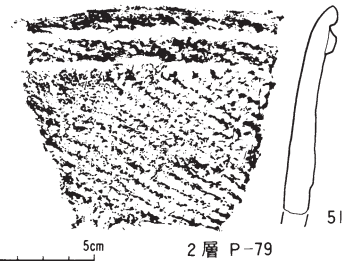
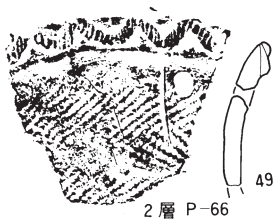
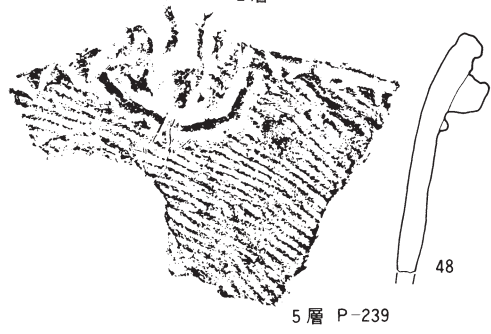
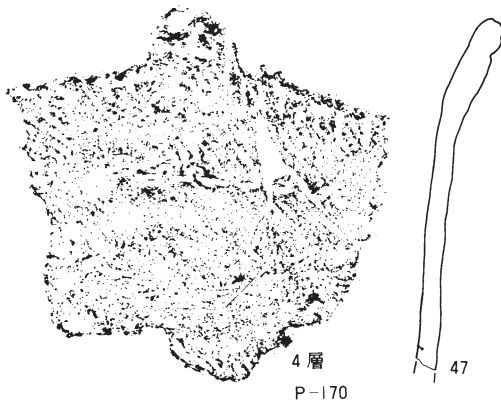
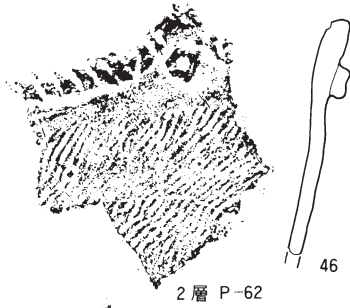
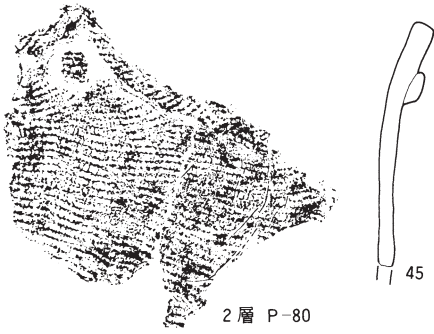
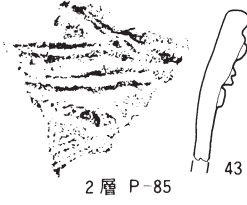
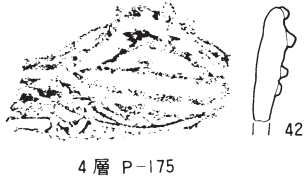
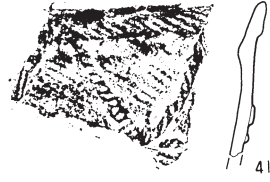
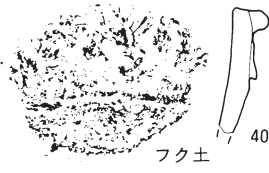
第484図 第216号住居跡(9)



ビット14・8層

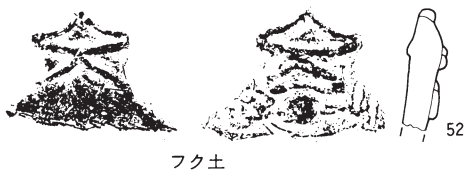


第485図 第216号住居跡(10)

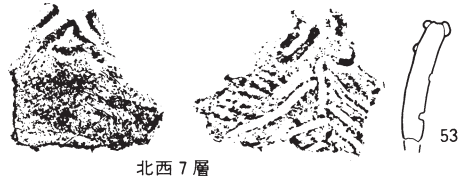


0 5cm

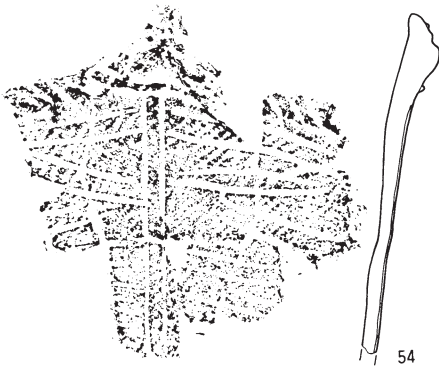
第486図 第216号住居跡(1)



フク土



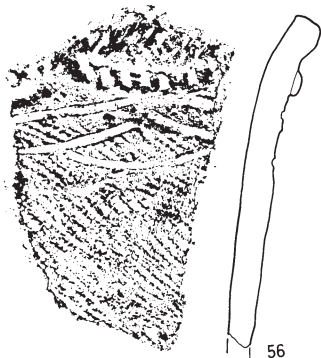
北西7層



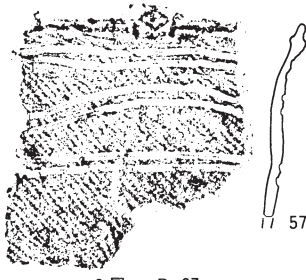
4層 P-225



2層 P-78



2層 P-61



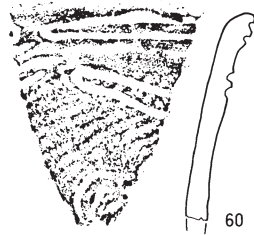
2層 P-27



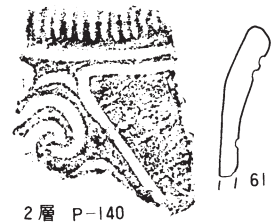
4層 P-225



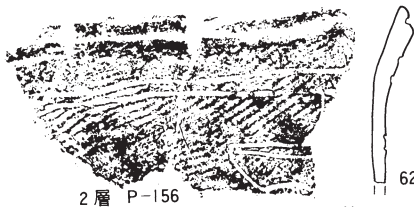
2層 P-1



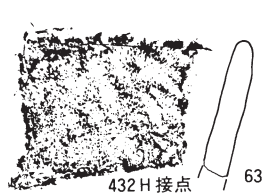
フク土 中央北



2層 P-140



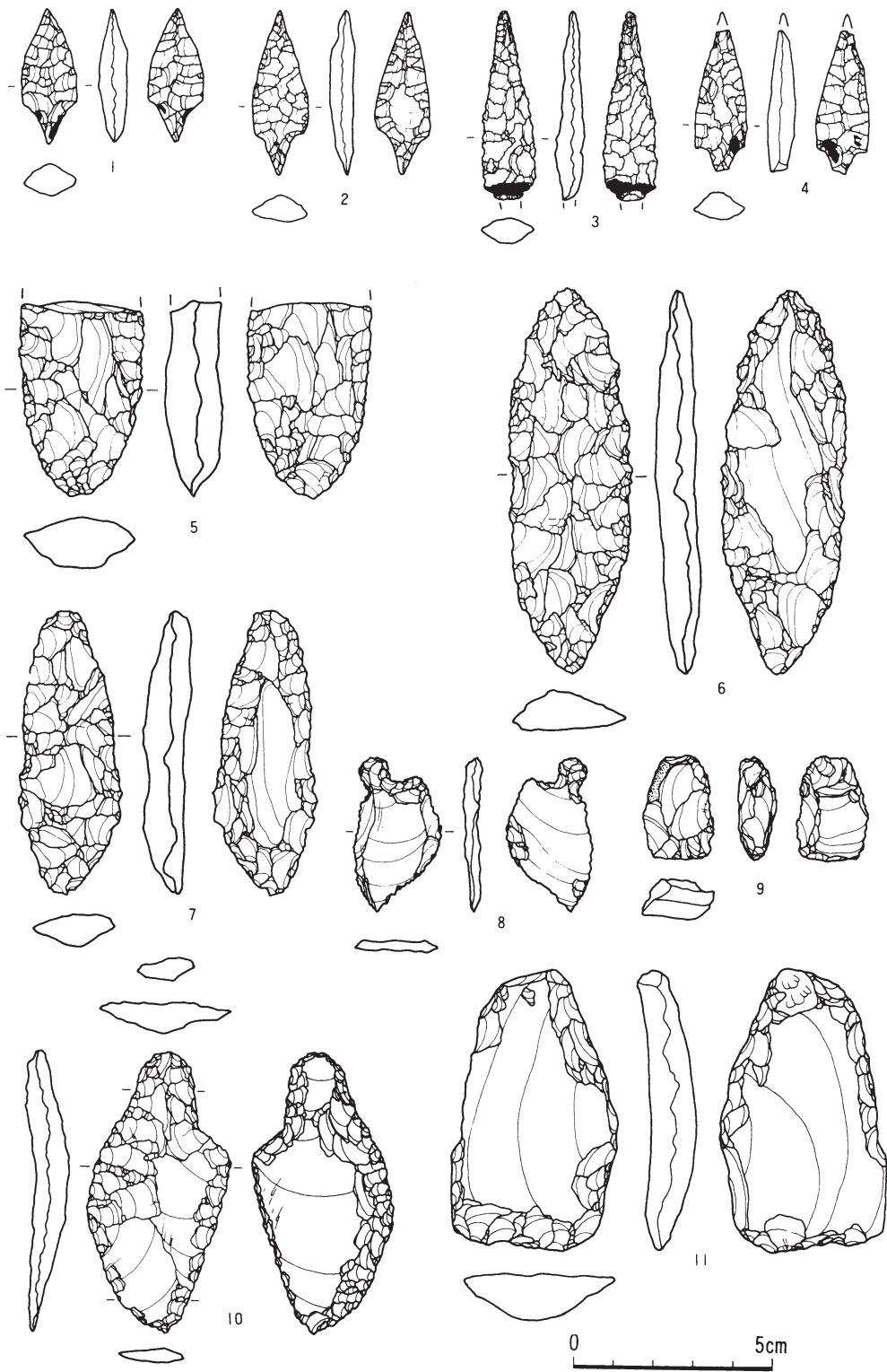
2層 P-156



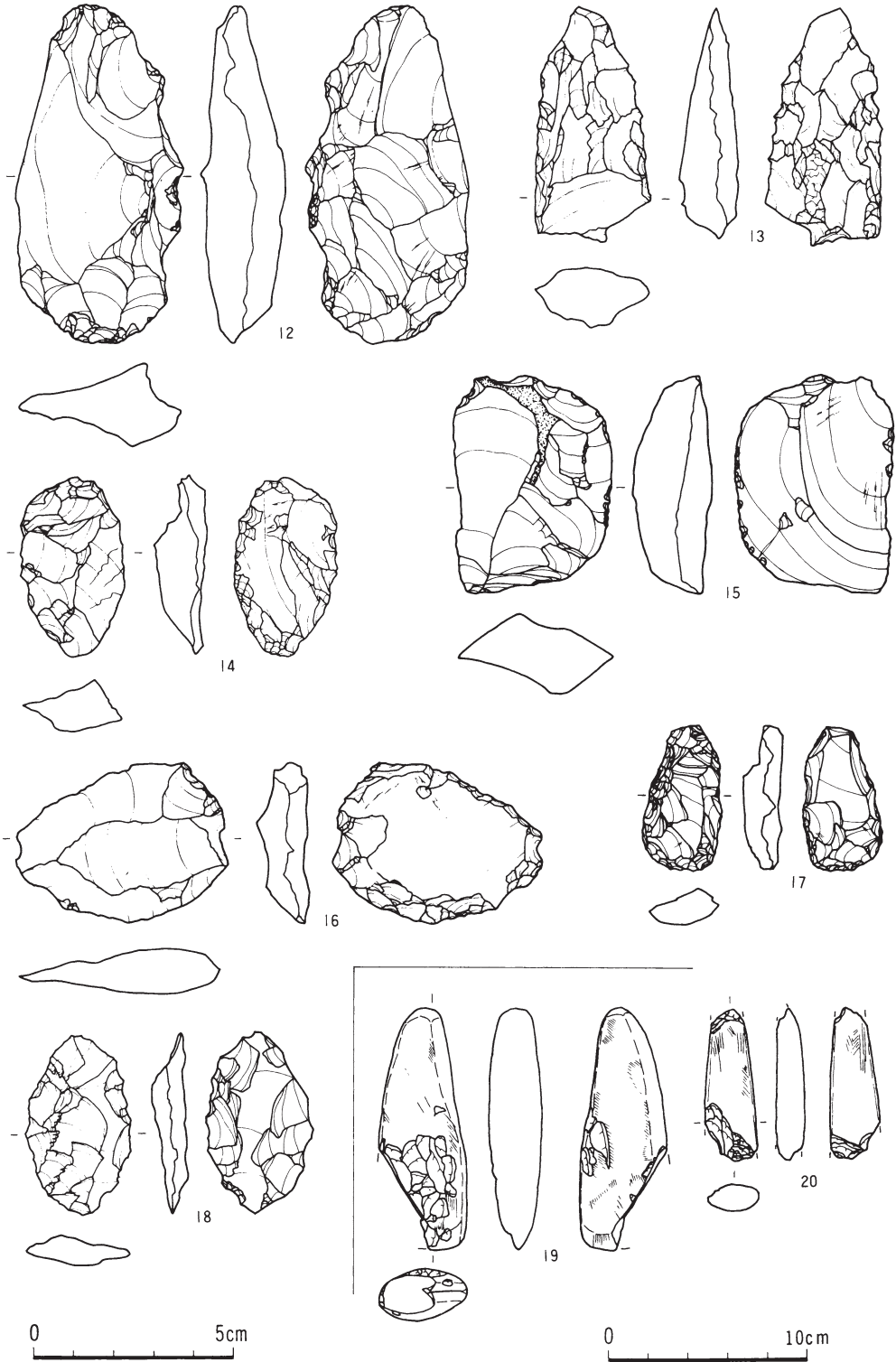
432H 接点



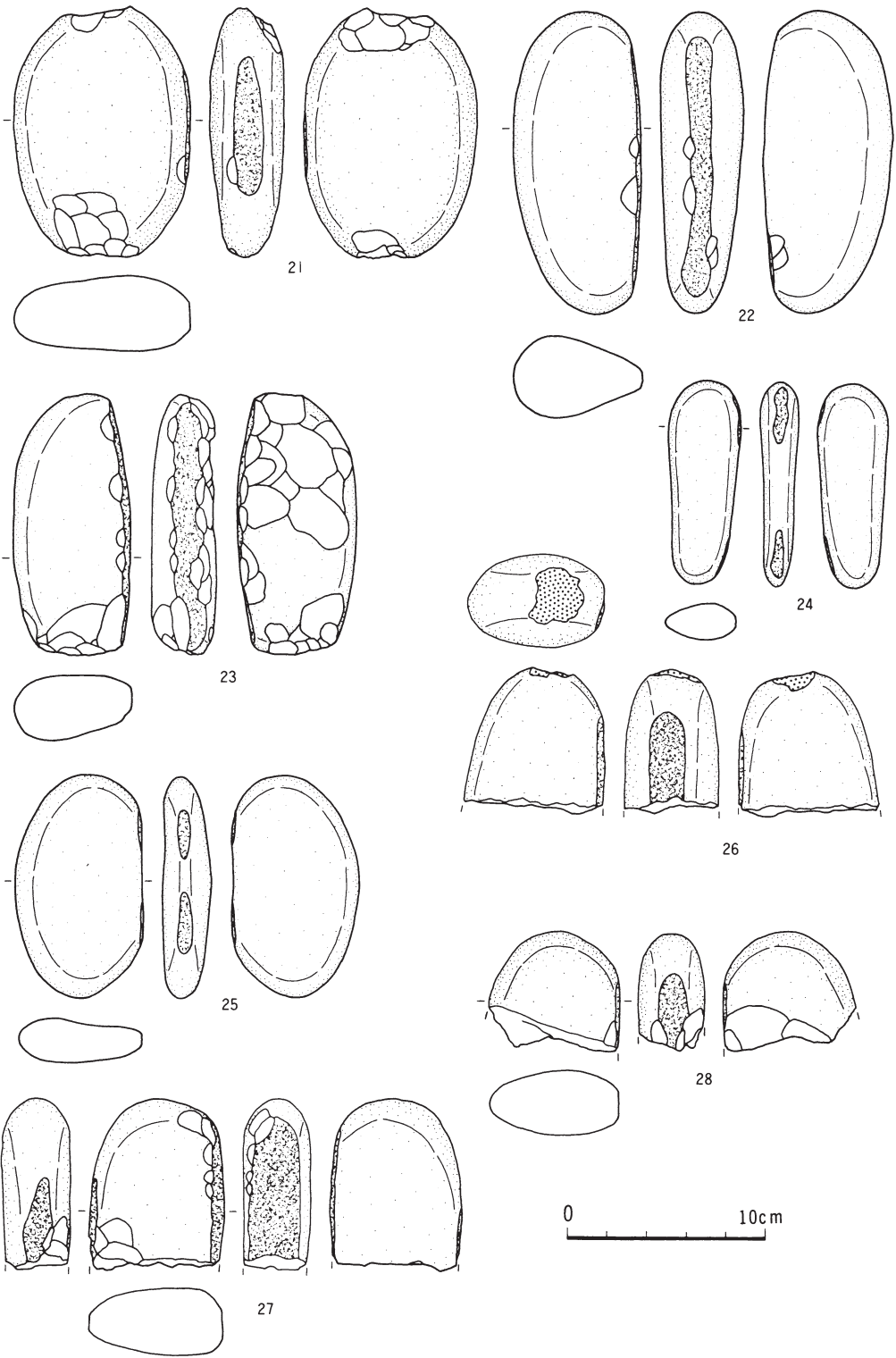
第487図 第216号住居跡(2)



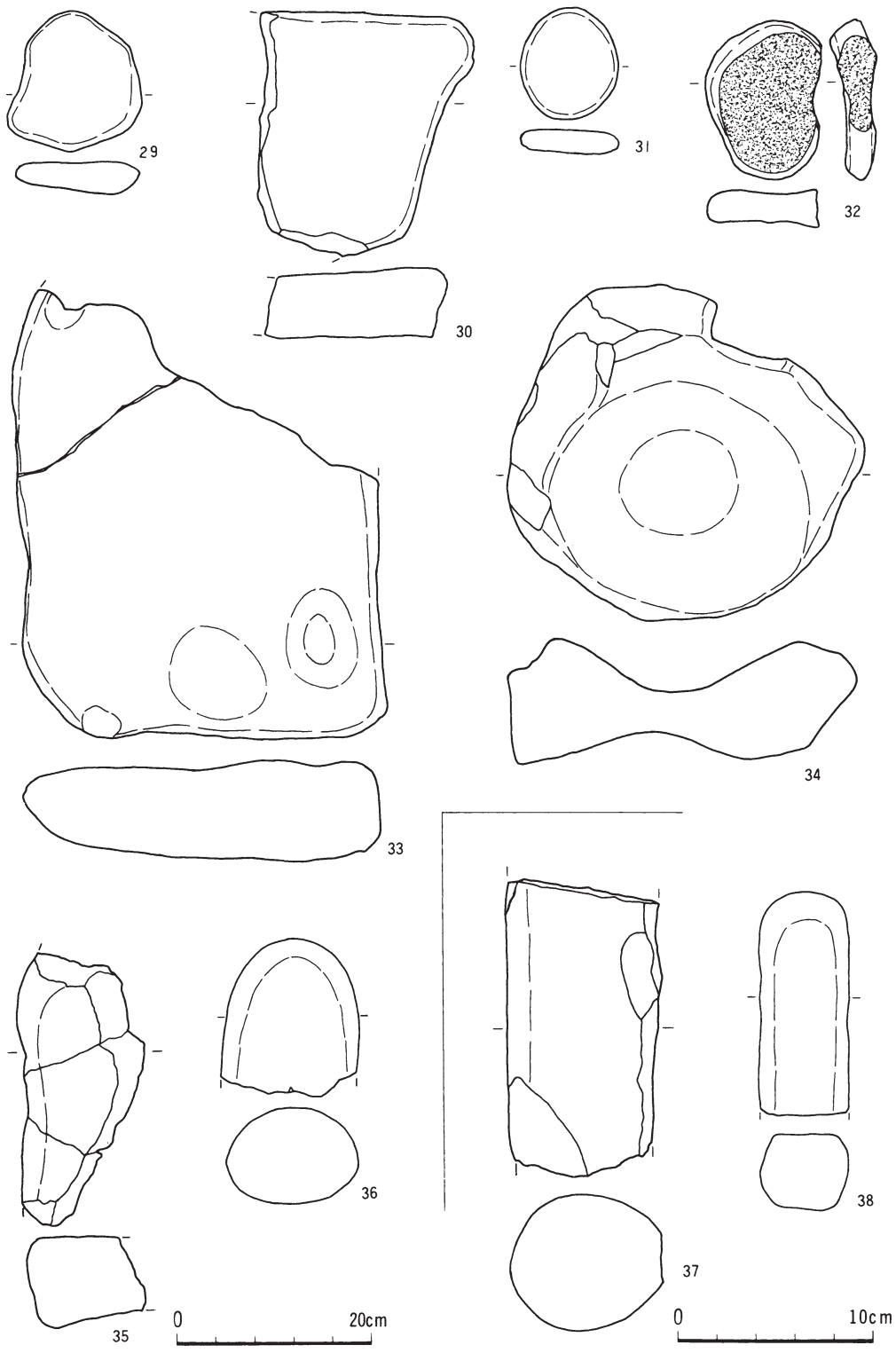
第488图 第216号住居跡(13)



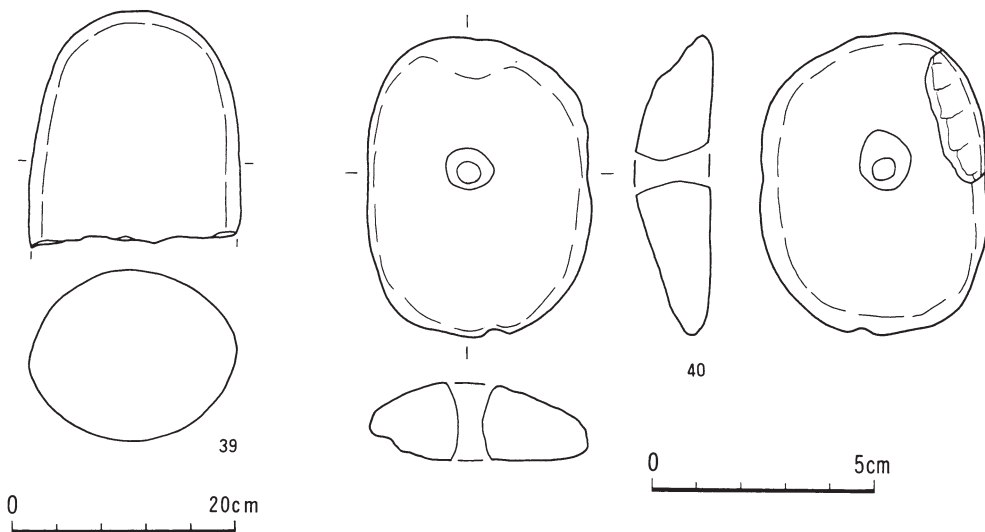
第489图 第216号住居跡(14)



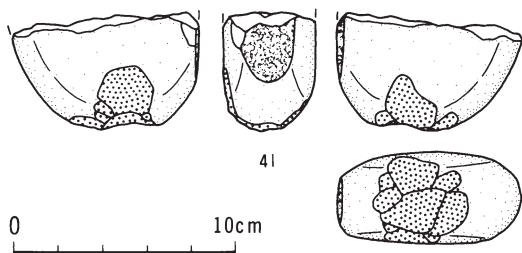
第490图 第216号住居跡(15)



第491图 第216号住居跡(16)



第216号付近上部の石器



第492図 第216号住居跡(17)

このうちP₁・P₃は焼土も伴っていた。なお、P₃は第339号住居跡のピットと重複しているものである。

P₁₁～P₁₆・P₈₇は特殊施設内部のピットでこれに伴うと思われるものである。P₁₁・P₁₂・P₁₃は柱痕はそれぞれ独立しているがP₈₇を含めて掘り方では連続している。P₁₄は上部に堅いロームの層（3層）があり、その西側が土手の一部となっている。このためこの層の下は特殊施設構築以前のものと考えられる。この層の中央上面は7cm程窪んで緩いピットとなっている。特殊施設内部のピットの覆土にはP₁₆を除いていずれも炭化材を含んでいる。特にP₁₁・P₁₂では大形の炭化材がピット内から外へ出ている。また、P₁₃を除き、焼土も含んでいる。

＜炉＞ 床の長軸線上に位置する地床炉であり、4基検出された。東側から炉1・炉2・炉3・炉4とした。このうち炉1・炉3・炉4はそれぞれP₁₈・P₂₀・P₉の上に構築されている。また、炉2はP₁₉によって切られており、上面には貼り床がなされていた。

＜特殊施設＞ 東側に半円状の貼り付けとピットを持つ特殊施設がある。

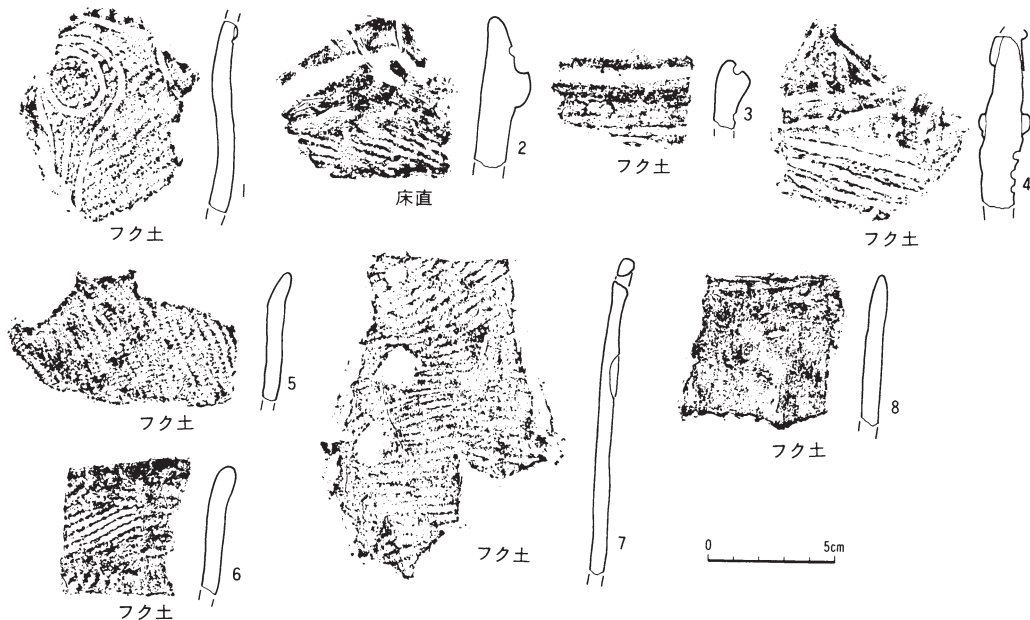
＜堆積土＞ おもにローム混じりの黒褐色土と暗褐色土が互層をなしレンズ状に堆積しており下部と壁際にはローム主体の層がある。また、床面直上には焼土の層がある。

<出土遺物> 覆土中から復原可能土器を含む多量の土器・石器が出土した。床面には遺物は少なかったが、埋設土器や石皿・擦り石・石鏝等が出土した。埋設土器の内部や特殊施設の北側などからは骨粉も出土した。石器は、床面から石鏝1点、敲磨器類3点、石皿・台石類1点、床面直上から石鏝1点、不定形石器1点、石斧1点、覆土から石鏝6点、石槍3点、石匙1点、石篋2点、ピエス・エスキュー1点、不定形石器23点、石斧2点、敲磨器類1点、石皿・台石類9点、特殊施設より石鏝1点、不定形石器1点、第4層から敲磨器類3点、石棒3点、第2層より敲磨器類1点、第1層から石棒1点、確認面より石鏝1点、ピットから石鏝1点、総数68点出土している。また第2、3層より軽石が2点ずつ、第4層より石製品1点出土している。床面直上からは多量の炭化材が出土した。炭化材は床面全体にみられたが、床南半の中央から西側は比較的まばらである。そしてこの辺りの床はよく焼けている。炭化材には丸太状・板状のものが多く、茅状のものもあった。東壁から南壁の東側には、壁に向かって放射状に、主に板状の炭化材があり、これらは壁側が高く中央側が低くなっていた。南側壁の東寄りでは壁面にほぼ接して、直立するように板状・丸太状の炭化材があった。床面中央西側には二股状の材に別の材が組み合さったものが2か所にみられた。

<小結> 1の土器から本住居跡は円筒上層e式期に構築されたと思われる。(坂本 洋一)

第218号住居跡 (第493~495図)

<位置と確認> 本調査区の南側斜面のCV-119、120グリッドに位置する。第Ⅲ層下面で褐

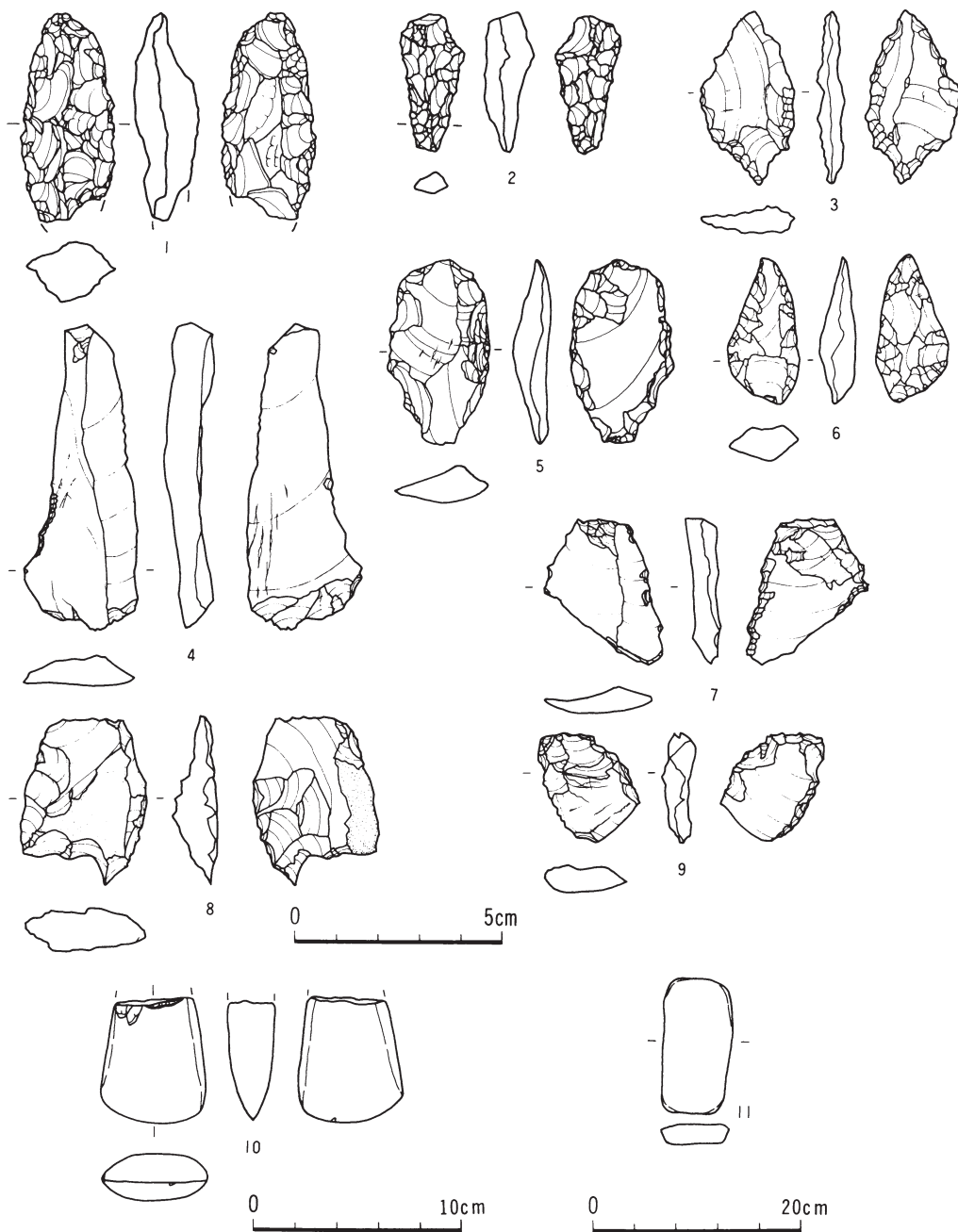


第493図 第218号住居跡(1)

色土の楕円形の落ち込みを確認した。

<重複> 第219号住居跡と重複しており、本住居跡が新しい。

<平面形・規模> 隅丸方形で、規模は長軸2m70cm、短軸2m60cmである。床面積は5.26㎡である。



第494図 第218号住居跡(2)

〈壁・床面〉 西壁、南壁はほぼ垂直に立ち上がり比較的堅緻であるが、他の壁は比較的軟弱で緩やかに立ち上がる。壁高は東壁73cm、西壁62cm、南壁90cm、北壁58cmである。床面は平坦で堅緻である。

〈壁溝〉 認められなかった。

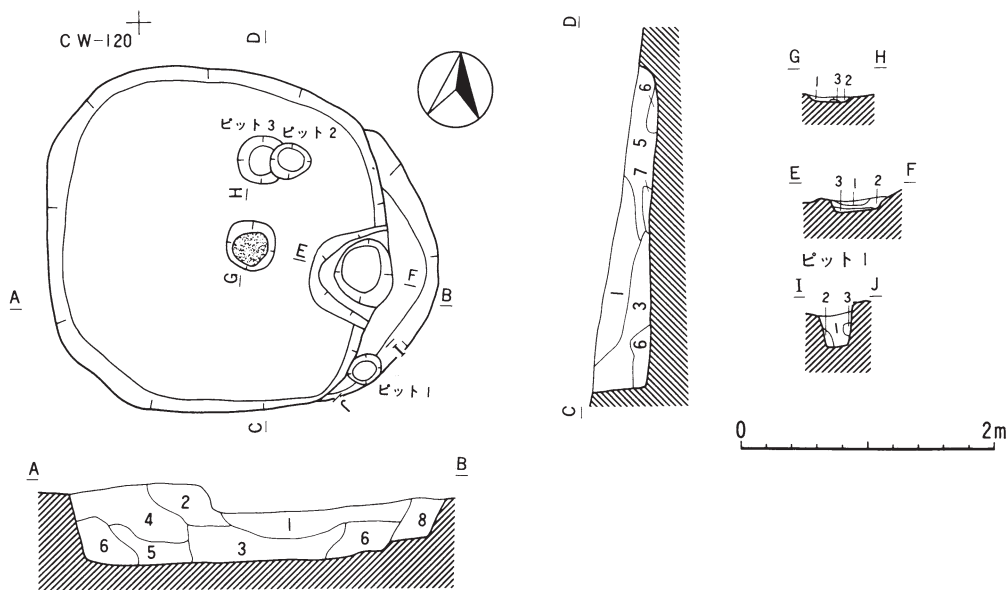
〈柱穴〉 本住居跡の床面から2個のピットを確認した。新旧関係からP₂が本住居跡のピットと思われる。他は確認できなかった。P₂の深さは38cmである。

〈炉〉 中央から多少東側にずれた所で地床炉が1基確認された。第3層下面が火床面である。規模は長軸40cm、短軸38cm、深さ9cmである。

〈特殊施設〉 住居跡の東側で半円状の貼り付け（盛土）と内側にピット状にくぼんでいる特殊施設が認められた。内側のピットの深さは床面から5cmである。

〈堆積土〉 7層に分層できた。壁際にロームが堆積している。人為的堆積の可能性が高い。

〈出土遺物〉 床面直上から榎林式土器が出土している。石器は床面から不定形石器1点、覆



第218号住居跡炉土層注記

- 第1層 黄褐色 10Y R% 焼土粒中量
- 第2層 黄褐色 10Y R% 5mm L B 微量
- 第3層 赤褐色 5Y R% 焼土粒多量

第219号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 黄褐色 10Y R% 炭化粒少量
- 第2層 黄褐色 10Y R% 10mm L B 少量
- 第3層 黄褐色 10Y R% ローム粒多量

第218・219号住居跡土層注記

- 第1層 褐色 10Y R% 焼土粒微量
- 第2層 褐色 10Y R% ローム粒極微量
- 第3層 褐色 10Y R% 5mm L B 少量
- 第4層 褐色 10Y R% 5~10mm L B 所々
- 第5層 褐色 10Y R% 焼土粒微量
- 第6層 黄褐色 10Y R% ローム粒多量
- 第7層 褐色 10Y R% 焼土粒多量
- 第8層 褐色 10Y R% ローム粒中量

第218号住居跡特殊施設土層注記

- 第1層 黄褐色 10Y R% 炭化粒微量
- 第2層 褐色 10Y R% 5mm炭化材所々
- 第3層 明黄褐色 10Y R% 黒褐色土少量

第495図 第218・219号住居跡

土から石槍1点、石錐3点、不定形石器18点、石斧2点、石皿・台石1点、総数26点出土した。

<小結> 小型住居跡である。本住居跡は床面直上から出土した土器から榎林式期に構築された可能性が高い。

(三浦 孝仁)

第219号住居跡 (第495図)

<位置と確認> 調査区の南側斜面のCV-119グリッドに位置する。第III層下面で褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 第218号住居跡と重複しており、本住居跡が古い。

<平面形・規模> 第218号住居跡と重複しており、平面形、規模ともに判然としないが、残存部から判断すると小型の住居跡であることは間違いない。

<壁・床面> 残存している壁は緩やかに立ち上がり堅緻である。残存の床面は平坦であるが軟弱である。

<壁溝> 認められなかった。

<柱穴> P₁とP₃が本住居跡のピットである可能性が高い。このピットを主柱穴にしたか不明である。深さはP₁…27cm、P₃…(50cm)である。

<炉> 残存部には認められない。

<特殊施設> 残存部には認められない。

<出土遺物> 遺物は出土していない。

(三浦 孝仁)

第220号住居跡 (第496・497図)

<位置と確認> 調査区の南側斜面のCW-118グリッドに位置する。第II層下面で褐色土の不整な落ち込みを確認した。

<重複> 第341、343号住居跡、第544、543号土壙と重複し、これより新しい。

<平面形・規模> 貼り床を確認したのみで平面形、規模ともに明確ではない。貼り床の範囲は長軸3m00cm、短軸2m40cmである。

<壁・床面> 壁は確認できなかった。床面は重複によるためか凹凸が激しい。炉のまわりは極めて堅緻である。

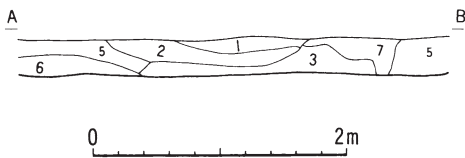
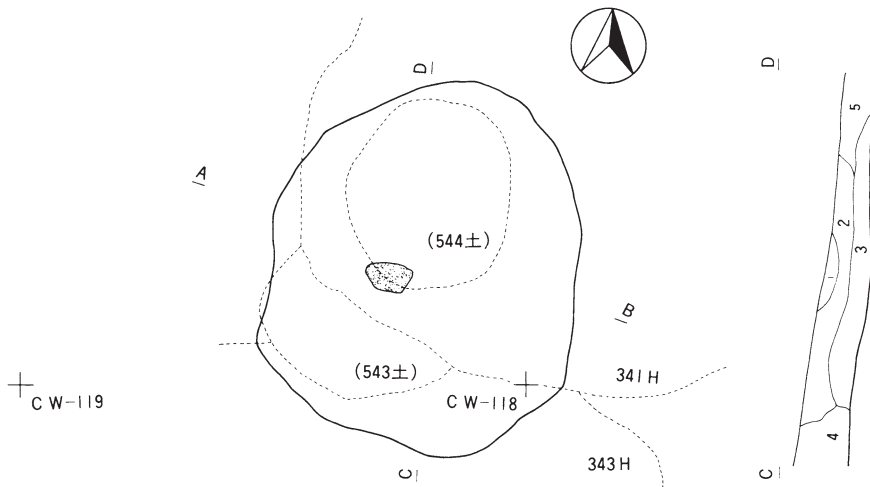
<壁溝> 認められなかった。

<柱穴> 確認できなかった。

<炉> 貼り床のほぼ中央で地床炉を1基確認した。長軸35cm、短軸24cmである。

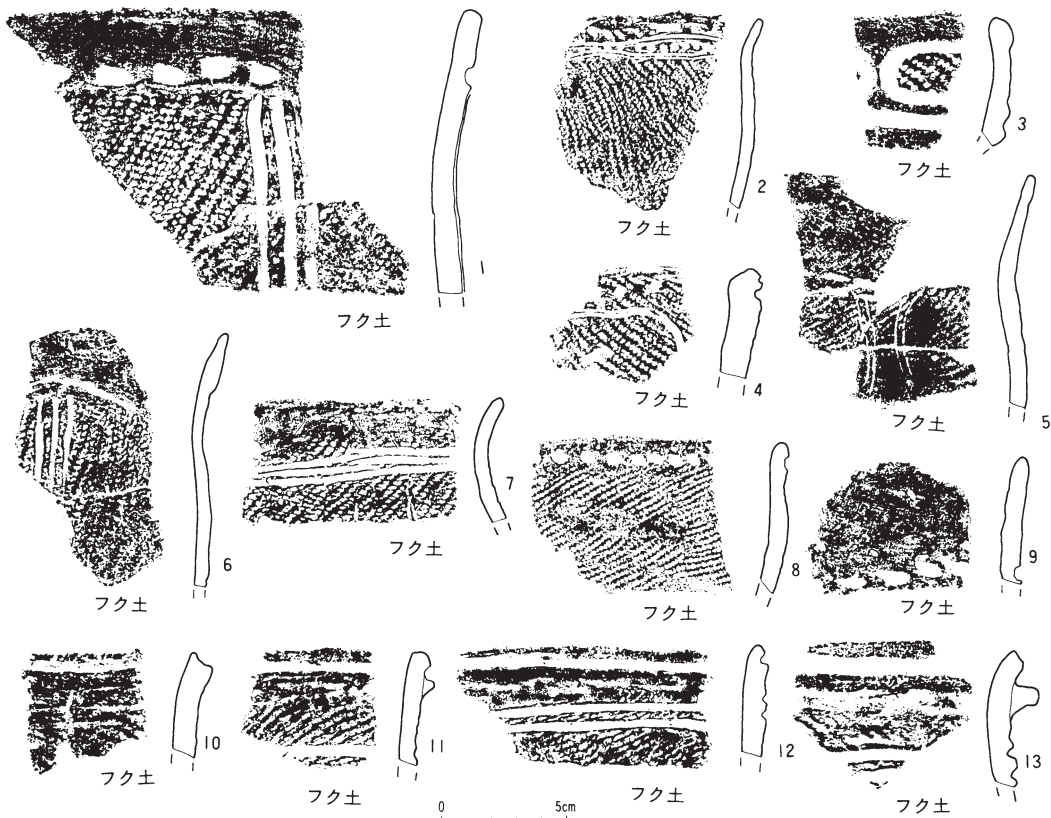
<特殊施設> 認められない。

<堆積土> 7層に分層した。炭化材や焼土を含む層が多い。人為的堆積の可能性が高い。

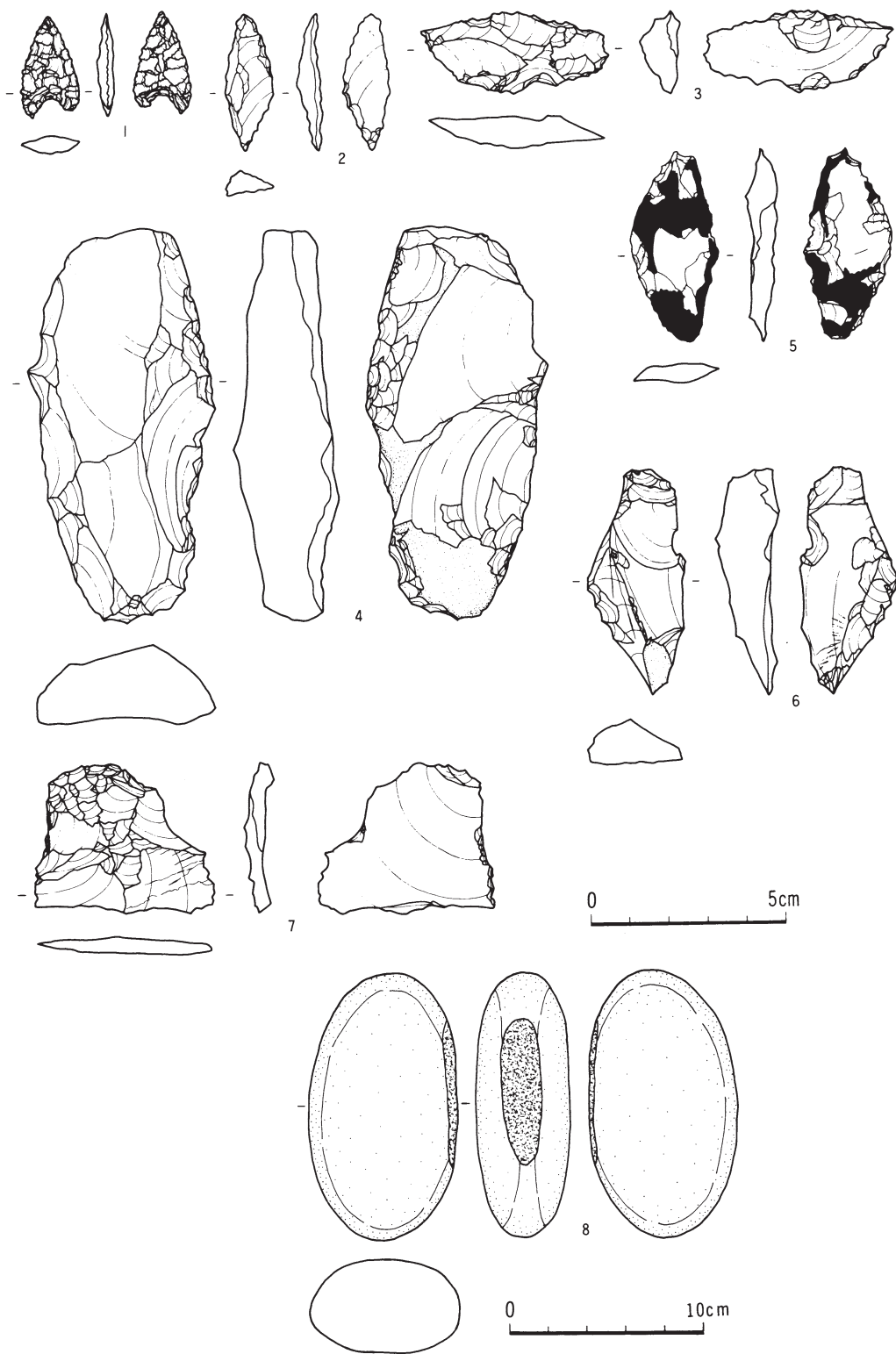


第220号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色 10Y R% 炭化粒少量
- 第2層 褐色 10Y R% 5~10mm炭化材所々、焼土粒微量
- 第3層 褐色 10Y R% 5mm炭化材少量
- 第4層 暗褐色 10Y R% 5mm炭化材少量
- 第5層 褐色 10Y R% ローム粒少量
- 第6層 黄褐色 10Y R% 5~10mm L B所々
- 第7層 暗褐色 10Y R% 炭化粒少量



第496図 第220号住居跡(1)



第497图 第220号住居跡(2)

<出土遺物> 覆土から榎林式土器、最花式土器が出土している。石器は覆土から石鏃3点、石錐1点、不定形石器11点、石斧1点、敲磨器類1点、総数17点出土している。

<小結> 本住居跡は、覆土中の土器から榎林式期、最花式期に構築された可能性が高い。

(三浦 孝仁)

第221号住居跡 (第498～501図)

<位置と確認> CY・CZ-113・114グリッドに位置している。

<重複> 認められなかった。

<平面形・規模> 平面形は不明であるが、確認した貼り床の範囲から推定して、短軸3m10cm、長軸3m60cm前後の規模と思われる。

<壁・床面> 北壁だけ検出した。壁高は3～10cmである。床面は多少の凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 住居内及び近辺で約30個のピットを検出した。このうち本住居跡の柱穴配置は、P₅・P₁₁・P₁₃・P₁₈か、P₃・P₄・P₆・P₇・P₁₈・P₂₃の二通りが考えられる。主なピットの深さは、以下のとおりである。

P₂…46cm、P₃…20cm、P₄…23cm、P₅…50cm、P₆…27cm、P₇…30cm、P₈…33cm、P₉…33cm、P₁₂…28cm、P₁₃…47cm、P₁₇…10cm、P₁₈…64cm、P₂₃…36cm、P₂₅…26cm、P₂₆…33cm。

<炉> 中央から北に寄っている。五角形状の石囲炉で、北側が開いている。炉から石皿が出土している。

<特殊施設> 認められなかった。

<堆積土> 暗褐色土を主体とした堆積土が見られた。

<出土遺物> 覆土から床面にかけて弥栄平(1)式近辺の土器が若干出土した。石器は床面から敲磨器類1点、石皿1点、石棒類1点、炉から石錐1点、床下から石鏃1点、床面直上から磨製石斧2点、石皿2点、覆土からピエス・エスキュー1点、敲磨器類1点が出土した。

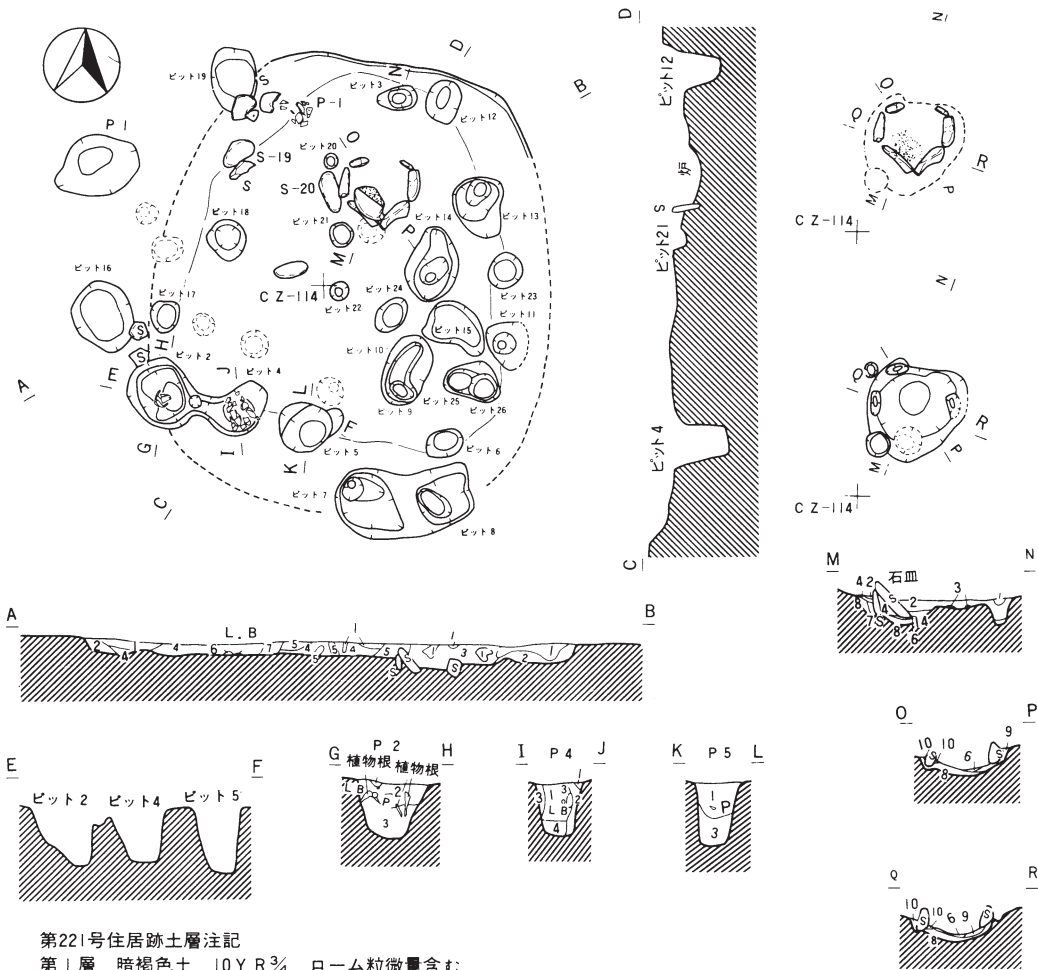
<小結> 本住居跡の堆積状況は人為的な様相が見られるものの、おおよそ弥栄平(1)式期と考えられる。

(畠山 昇)

第222号住居跡 (第502・503図)

<位置と確認> CW・CX-111グリッドで、粗掘り中に石囲炉を確認、周辺を調査したところ、床面の一部を検出した。

<重複> 認められなかった。



第221号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒微量含む
- 第2層 褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$ ローム粒多量含む
- 第3層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒少量、炭化物微量含む
- 第4層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒微量、炭化物微量含む
- 第5層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{2}$ ローム粒少量含む
- 第6層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒多量含む
- 第7層 黒褐色土 10Y R $\frac{2}{2}$ ローム粒微量含む

ピット2土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ しまりなし
- 第2層 褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$ LB多量含む
- 第3層 黄褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$ LBと黒色土との混合土

ピット4土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$ 焼土微量、炭化物微量含む
- 第2層 黄褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$ ロームと黒色土の混合土
- 第3層 黄褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$ ロームと黒色土の混合土
- 第4層 褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$ LB少量含む

ピット5土層注記

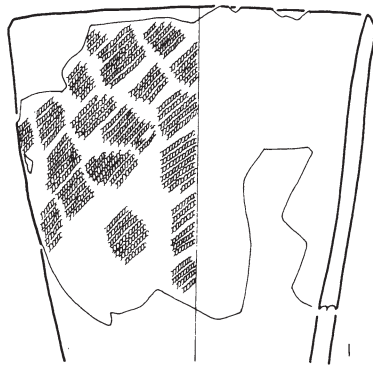
- 第1層 褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ 炭化物微量含む
- 第2層 褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$ 炭化物微量含む

第221号住居跡炉土層注記

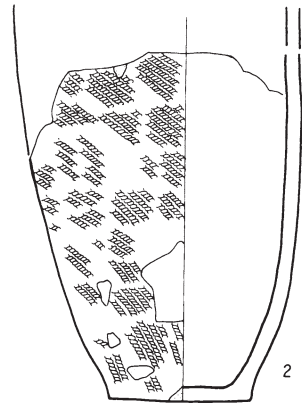
- 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$
- 第2層 褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$
- 第3層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$
- 第4層 褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$
- 第5層 褐色土 10Y R $\frac{1}{4}$
- 第6層 褐色土 7.5Y R $\frac{1}{2}$
- 第7層 黄褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$
- 第8層 褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$
- 第9層 褐色土 10Y R $\frac{1}{4}$
- 第10層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$

0 2m

第498図 第221号住居跡(1)



床直 P-2

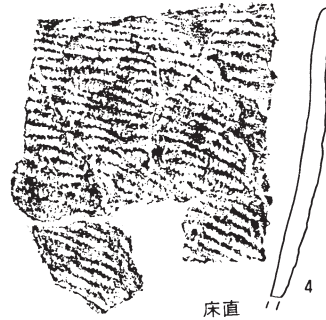


床直 P-1

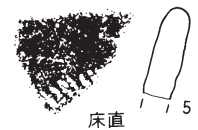
0 10cm



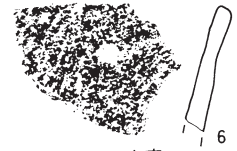
床直 3



床直 4



床直 5

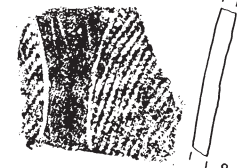


床直 6



7

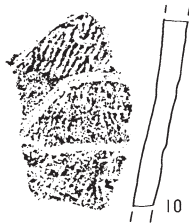
床直



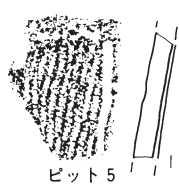
床面 8



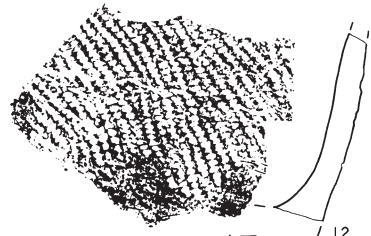
床面 9



床面 10



ピット 5



床下 12



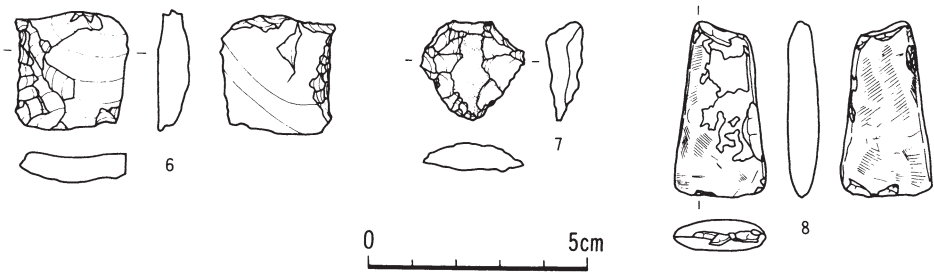
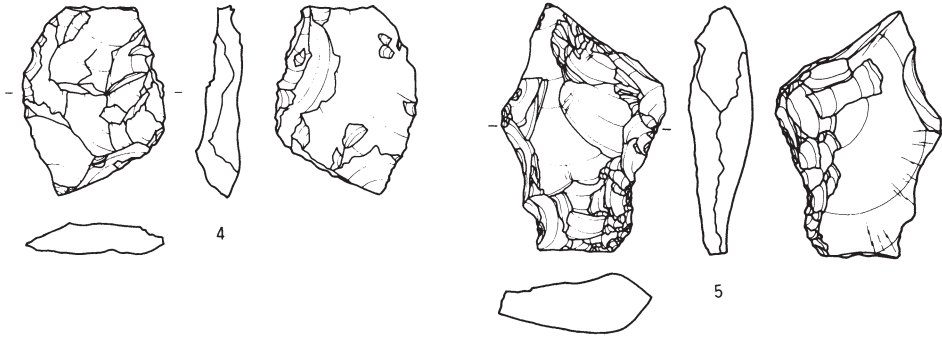
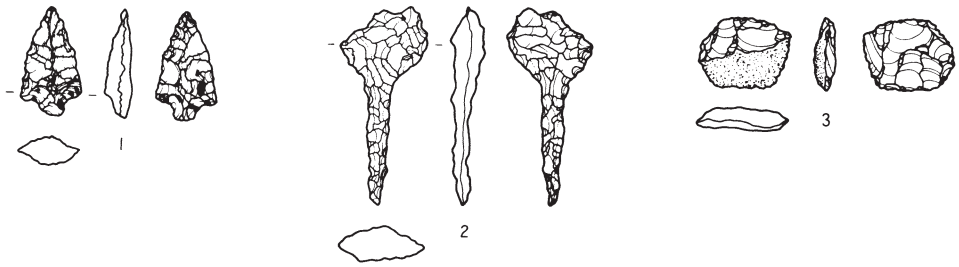
ピット 15



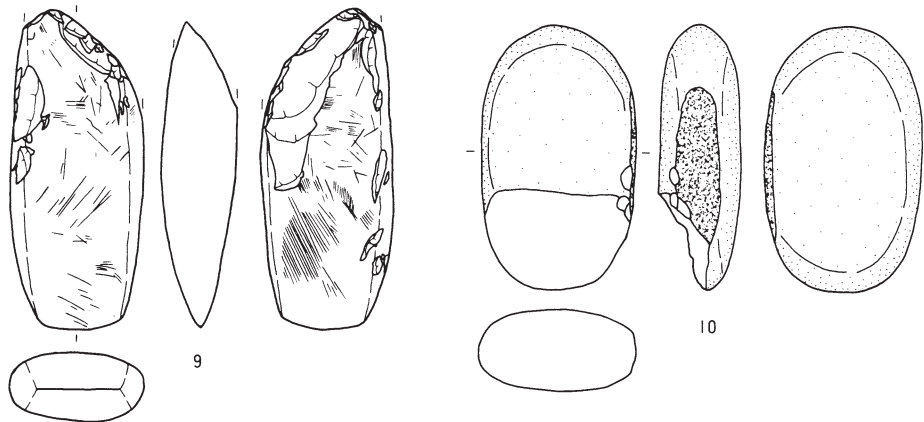
14
フク土

0 5cm

第499図 第221号住居跡(2)

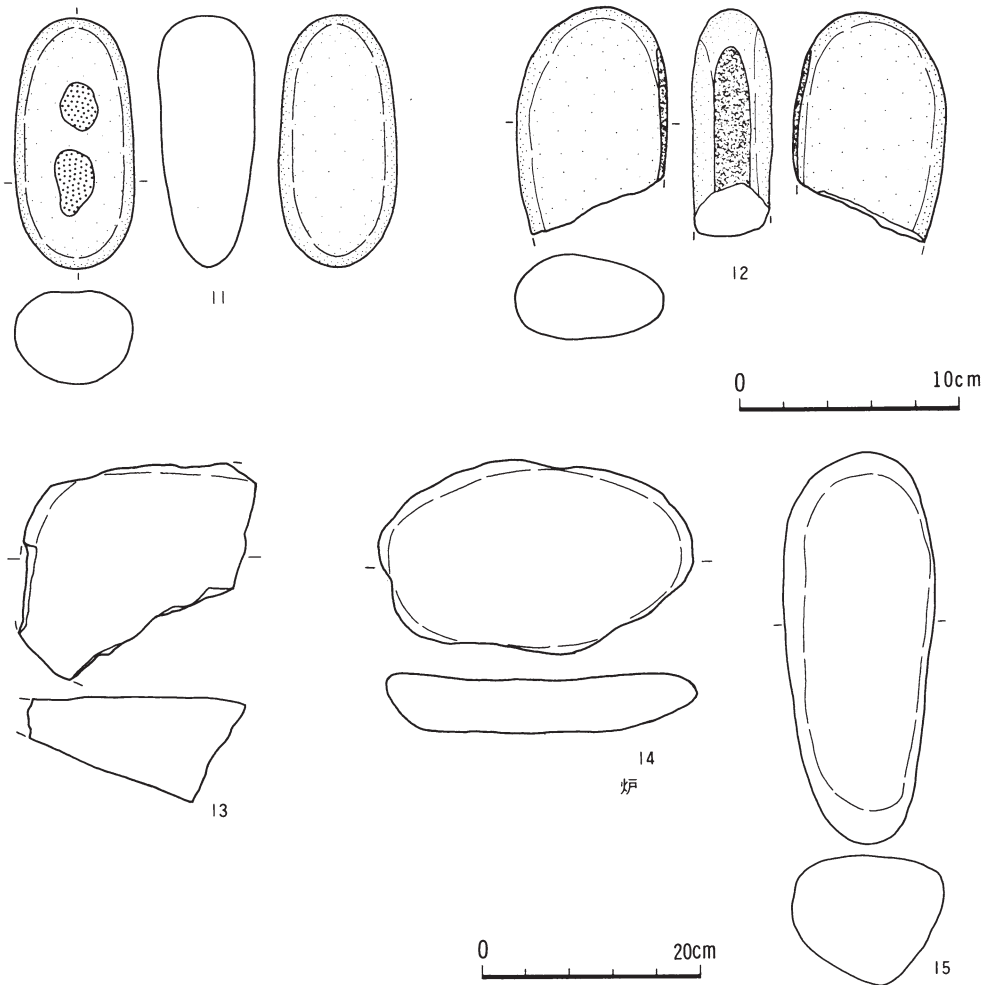


0 5cm



0 10cm

第500图 第221号住居跡(3)



第501図 第221号住居跡(4)

<平面形・規模> 不明であるが、確認した部分から推測して、直径3m20cm前後の円形と思われる。

<壁・床面> 壁高は、南壁で10cm前後である。床面は炉の周辺のごく一部と南西で、踏み締まった硬い床面を確認したのみである。

<壁溝> 検出できなかった。

<柱穴> 検出できなかった。

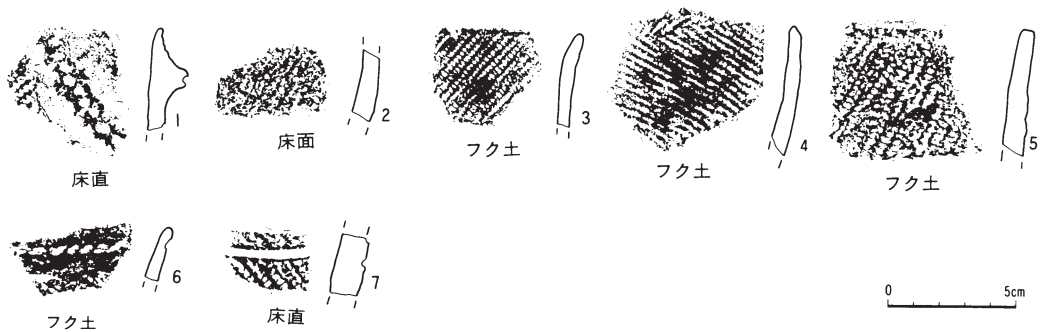
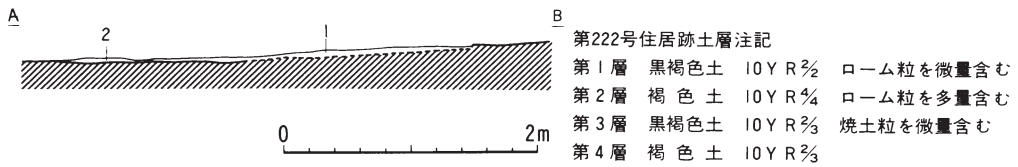
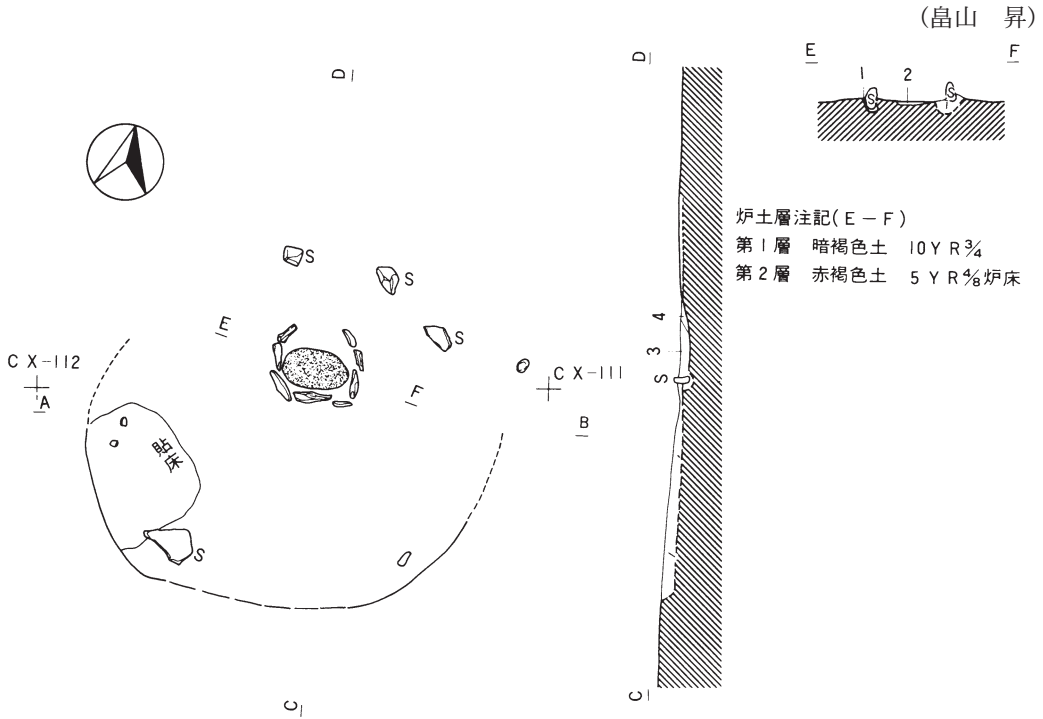
<炉> 石囲炉で、北側が開いている。

<特殊施設> 付設されていない。

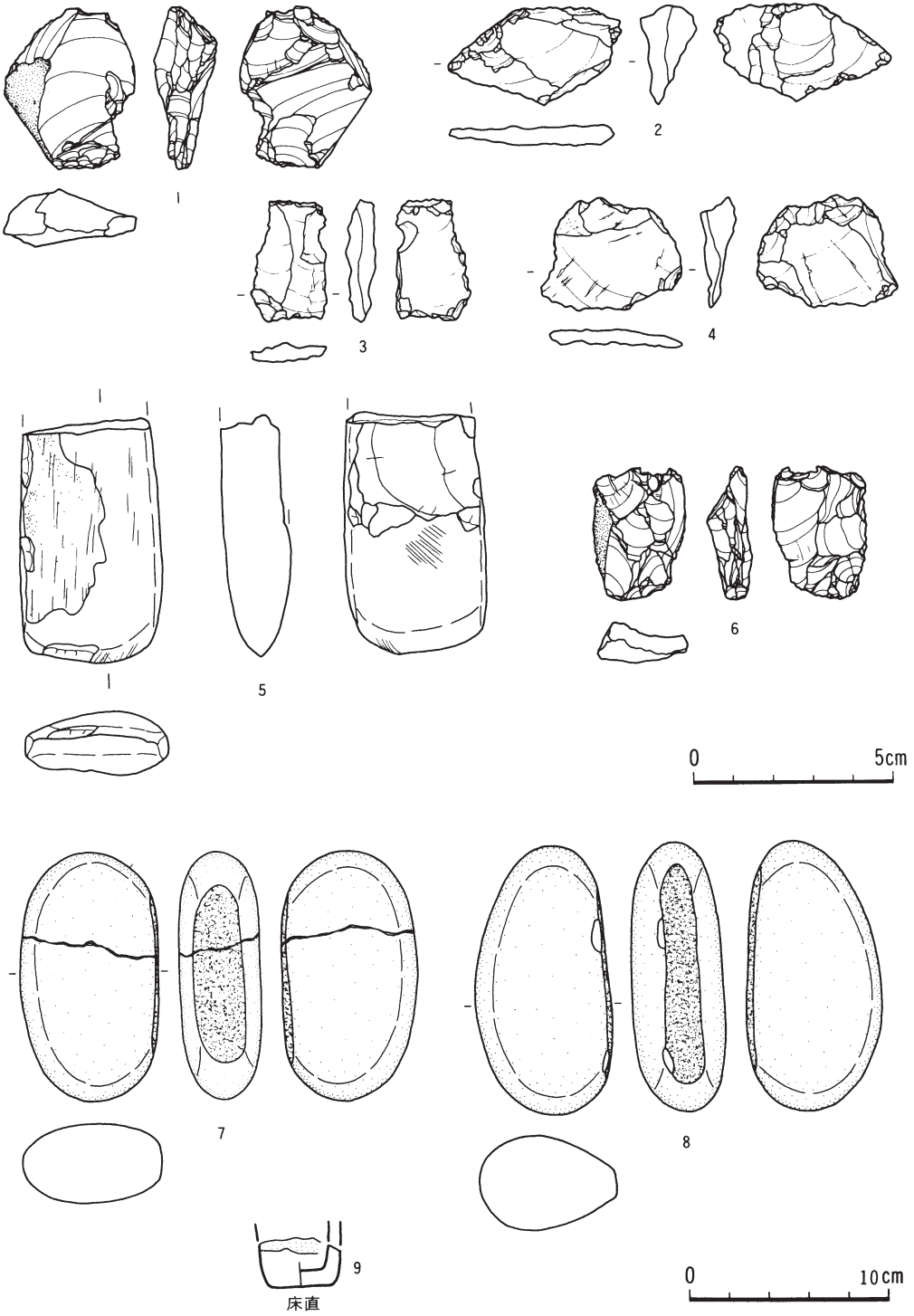
<堆積土> 掘り込みが浅いため、堆積土は主に黒褐色土の堆積が見られただけである。

<出土遺物> 土器は若干出土した。石器は、床面からピエス・エスキューユ2点、不定形石器3点、敲磨器類1点、床面直上から磨製石斧1点、敲磨器類1点が出土した。

<小結> 本住居跡の時期は不明であるが、おおよそ弥栄平(1)式期の近辺と思われる。



第502図 第222号住居跡(1)



第503图 第222号住居跡(2)

第223号住居跡（第504～517図）

<位置と確認> CT・CU・CV-114・115グリッドに位置し、第III層調査中に黒色土の落ち込みを確認した。

<重複> 第314・315・317・319・302・226号住居跡及び560号土壇と重複し第226住居跡・第560号土壇より古く、他住居跡より新しい。また、本住居跡自体AとBが重複している。

<平面形・規模> A（最終プラン）は長軸8m、短軸5m40cmの楕円形を呈する。長軸の北側は不明で推定の規模である。床面積は36.87㎡である。

Bは長軸7m、短軸4m70cmの楕円形と考えられる。床面積は23.27㎡である。

<壁・床面> 南壁は第III・IV層を壁面としているが、東・西壁は他住居跡の堆積土をそのまま壁としている。南壁70～80cm、東・西壁50～60cmである。床面は南側がやや高くなっている。中央部東側下面に第320号住居跡があるため幾分貼り床部分がくぼんでいる。

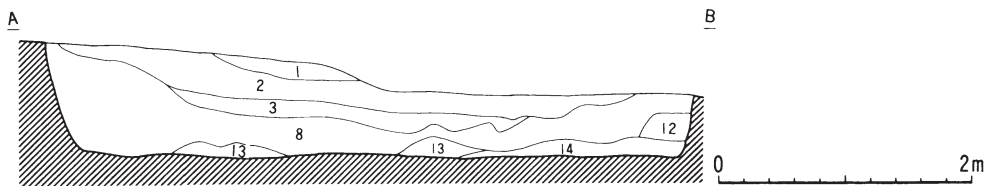
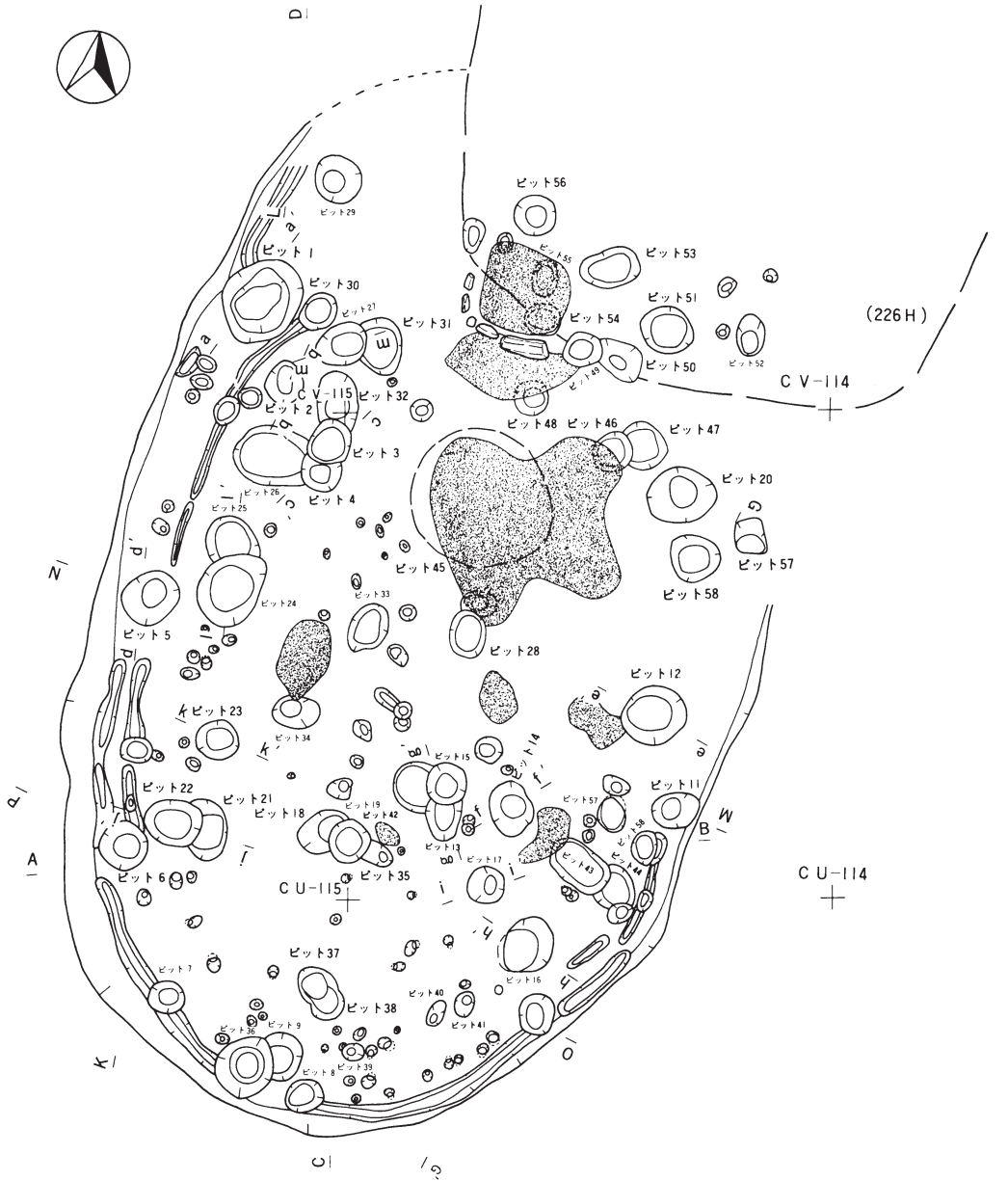
<壁溝> 内外に2条確認された。共に西壁側から南壁及び東壁の一部にかけて検出された。Aの壁溝は幅8～20cm、深さ8～13cm、Bの壁溝は幅4～14cm、深さ3～22cmである。南側の壁溝が深く、北側の壁溝がやや浅くなっている。

<柱穴> 床面及び床下より大小合わせて100個以上のピットが検出された。Aに伴う柱穴は、P₁-P₅₇・P₅-P₁₁・P₆-P₁₀・P₁₃-P₅₆の8本柱が想定される。Bは、P₂₇-P₂₀・P₂₄-P₁₂・P₂₂-P₁₆の6本柱かP₉-P₅₃を付け加えた8本柱が考えられる。また、Bの西側主柱穴には、P₃₁・P₂₅・P₂₀とすぐ脇に古い柱穴が検出されており、さらに建て替えが行われた形跡がみられる。各ピットの深さは、P₁…87cm・P₂…30cm・P₃…34cm・P₄…44cm・P₅…83cm・P₆…88cm・P₇…70cm・P₈…64cm・P₉…110cm・P₁₀…82cm・P₁₁…106cm・P₁₂…95cm・P₁₃…20cm・P₁₄…49cm・P₁₅…84cm・P₁₆…91cm・P₁₇…53cm・P₁₈…42cm・P₁₉…39cm・P₂₀…75cm・P₂₁…44cm・P₂₂…88cm・P₂₃…53cm・P₂₄…79cm・P₂₅…47cm・P₂₆…34cm・P₂₇…65cm・P₂₈…32cm・P₂₉…56cm・P₃₀…81cm・P₃₁…47cm・P₃₂…40cm・P₃₃…34cm・P₃₄…17cm・P₃₅…7cm・P₃₆…74cm・P₃₇…49cm・P₃₈…16cm・P₃₉…26cm・P₄₀…33cm・P₄₁…52cm・P₄₂…31cm・P₄₃…50cm・P₄₄…26cm・P₄₅…9cm・P₄₆…30cm・P₄₇…29cm・P₄₈…26cm・P₄₉…19cm・P₅₀…34cm・P₅₁…34cm・P₅₂…79cm・P₅₃…49cm・P₅₄…26cm・P₅₅…32cm・P₅₆…64cm・P₅₇…72cm・P₅₈…74cmである。

<炉> 住居跡の長軸線上北側に石囲炉を検出した。一辺80cm程で、方形状を呈している。また、石囲炉の南に直径110cmの円形の焼土を検出した。焼土の周囲から幅14～16cm、深さ10～16cmの掘り方が認められた。他に焼土が5基検出された。

<特殊施設> 確認されなかった。

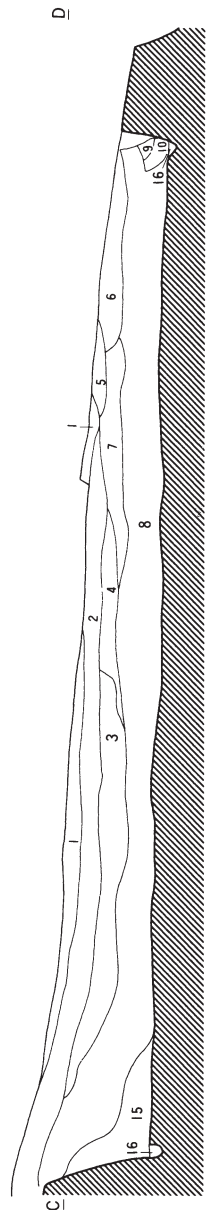
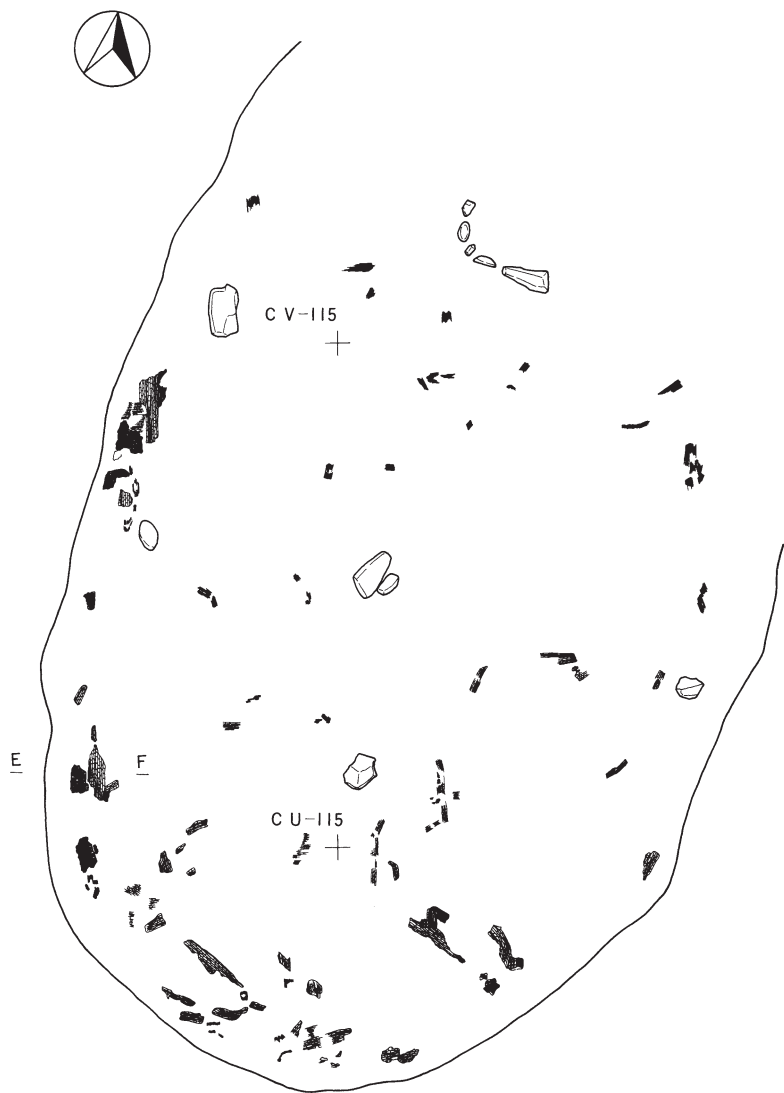
<堆積土> 黒褐色土を主体とし、16層に分層した。住居跡の床面及び床面直上からは焼土粒、



第504図 第223号住居跡(1)

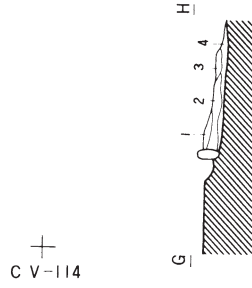
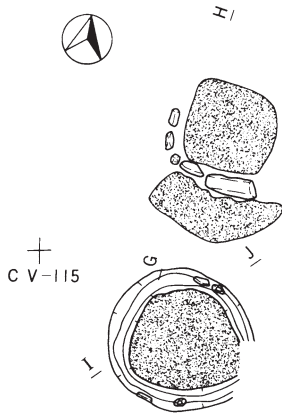
第223号住居跡土層注記

- | | | | |
|------|---------|------------|--------------------|
| 第1層 | 黒色土 | 10Y R 1/1 | |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10Y R 2/2 | ローム粒微量 |
| 第3層 | 暗褐色土 | 10Y R 3/3 | 炭化物微量、ローム粒微量 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10Y R 3/4 | 炭化物微量、ローム粒微量 |
| 第5層 | にぶい黄褐色土 | 10Y R 4/5 | 炭化物極微量 |
| 第6層 | 褐色土 | 10Y R 4/6 | 炭化物少量 |
| 第7層 | 褐色土 | 10Y R 4/6 | 炭化物極微量、ローム粒多量 |
| 第8層 | 褐色土 | 10Y R 4/6 | 炭化物、少量、ローム粒少量 |
| 第9層 | 褐色土 | 10Y R 4/6 | 焼土粒微量、炭化物微量、ローム粒微量 |
| 第10層 | 褐色土 | 10Y R 4/6 | 焼土粒少量、炭化物少量、ローム粒少量 |
| 第11層 | 褐色土 | 7.5Y R 6/6 | 焼土粒多量、炭化物少量 |
| 第12層 | 暗褐色土 | 10Y R 3/4 | 炭化物微量、ローム粒多量 |
| 第13層 | 黒褐色土 | 10Y R 3/2 | 焼土粒少量、炭化物少量 |
| 第14層 | 黒褐色土 | 10Y R 3/2 | 焼土粒少量、炭化物多量、ローム粒微量 |
| 第15層 | 黒褐色土 | 10Y R 3/2 | 炭化物多量 |
| 第16層 | 暗褐色土 | 10Y R 3/4 | 炭化物少量、ローム粒少量(壁溝) |



0 2m

第505図 第223号住居跡(2)



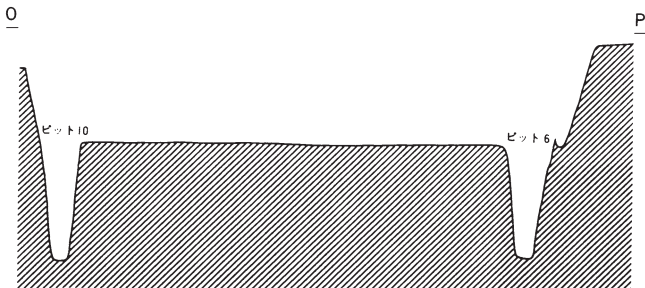
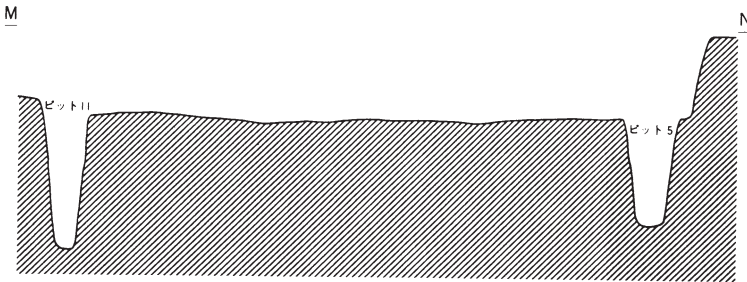
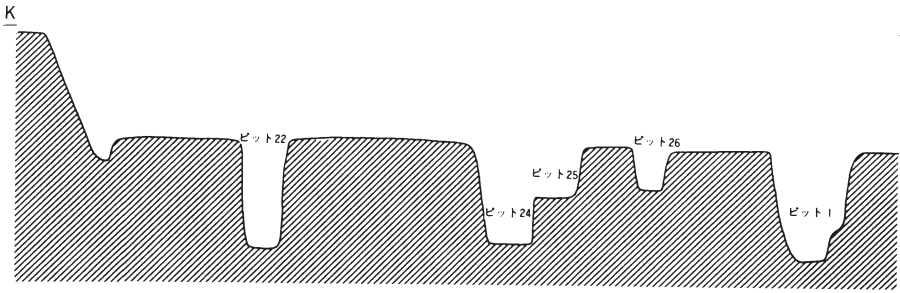
第223号地床炉・土層注記

- 第1層 赤褐色土 2.5Y R $\frac{3}{8}$ 焼土層
- 第2層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ 焼土粒少量



223H石囲炉

- 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ 焼土少量、炭化物少量
- 第2層 によい黄褐色土 10Y R $\frac{4}{3}$ 焼土微量、炭化物微量
- 第3層 褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ 焼土少量、炭化物微量
- 第4層 褐色土 10Y R $\frac{3}{8}$ 焼土微量、炭化物微量



第506図 第223号住居跡(3)

223H P 1土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物少量
- 第2層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物少量
- 第3層 褐色土 10Y R 3/4 ローム粒多量
- 第4層 黄褐色土 10Y R 3/4

223H P 2土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R 3/4
- 第2層 黄褐色土 10Y R 3/4

223H P 3、P 4土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R 3/4 ローム粒多量
- 第2層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒微量
- 第3層 暗褐色土 10Y R 3/4 焼土粒、炭化物微量
- 第4層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒微量

223H P 5土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R 3/4 炭化物少量
- 第2層 褐色土 10Y R 3/4
- 第3層 黄褐色土 10Y R 3/4

223H P 12土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4 焼土粒微量、ローム粒少量
- 第2層 褐色土 10Y R 3/4 ローム粒多量

223H P 14土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4 焼土、炭化物微量
- 第2層 明黄褐色土 10Y R 3/4
- 第3層 褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量

223H P 15土層注記

- 第1層 黄褐色土 10Y R 3/4
- 第2層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量
- 第3層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量
- 第4層 黄褐色土 10Y R 3/4 暗褐色土がBで混入。

223H P 16土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量
- 第2層 黄褐色土 10Y R 3/4
- 第3層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物少量、焼土微量

223H P 17土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4 焼土微量
- 第2層 褐色土 10Y R 3/4 ローム多量
- 第3層 黒褐色土 10Y R 3/4 ローム少量
- 第4層 褐色土 10Y R 3/4 ローム多量
- 第5層 褐色土 10Y R 3/4 ローム中量

223H P 21・P 22土層注記

- 第1層 黄褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量
- 第2層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量、ローム中量
- 第3層 黄褐色土 10Y R 3/4
- 第4層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量
- 第5層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量、ローム中量
- 第6層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム多量
- 第7層 黄褐色土 10Y R 3/4

223H P 23土層注記

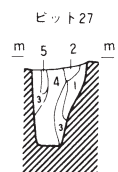
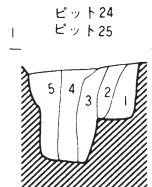
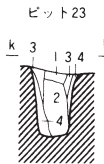
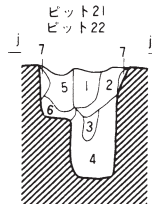
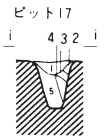
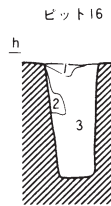
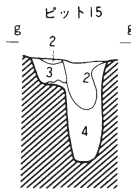
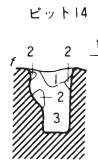
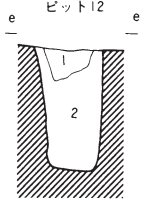
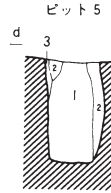
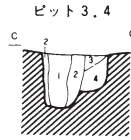
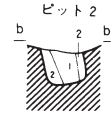
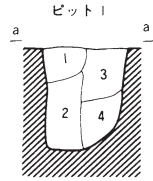
- 第1層 黒褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量、ローム多量
- 第2層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物少量、ローム中量
- 第3層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム少量
- 第4層 明黄褐色土 10Y R 3/4

223H P 24・P 25土層注記

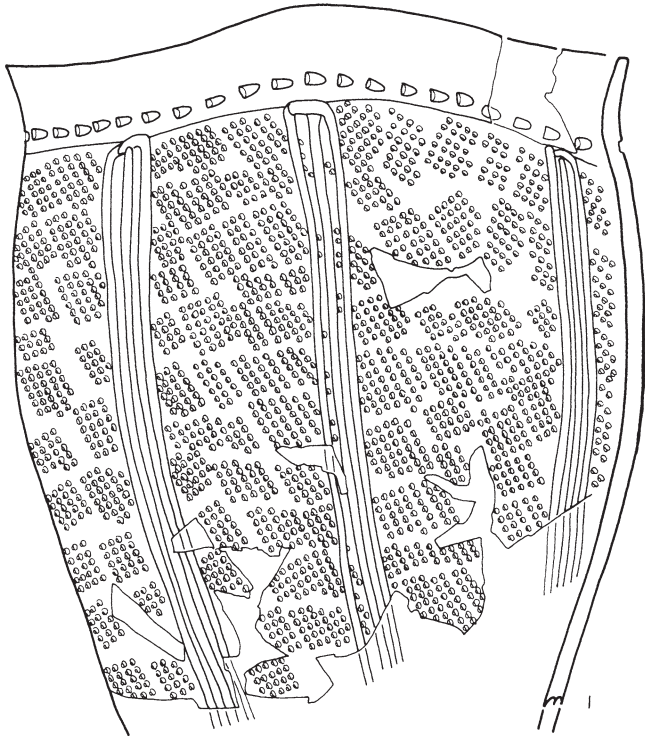
- 第1層 褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量
- 第2層 褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量
- 第3層 黄褐色土 10Y R 3/4
- 第4層 黒褐色土 10Y R 3/4 焼土粒、炭化物微量
- 第5層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量

223H P 27土層注記

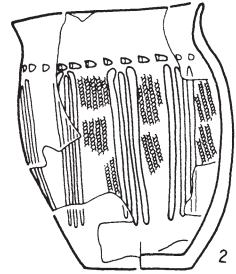
- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量
- 第2層 褐色土 10Y R 3/4 ローム中量
- 第3層 黄褐色土 10Y R 3/4
- 第4層 にぶい黄褐色土 10Y R 3/4 ローム少量
- 第5層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量



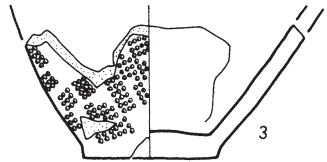
第507図 第223号住居跡(4)



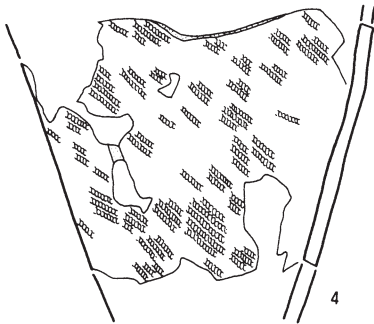
床面



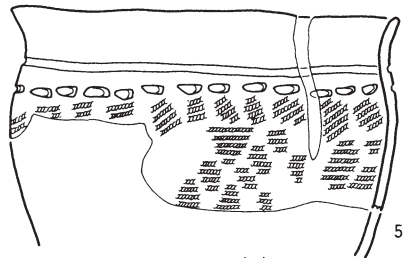
床直



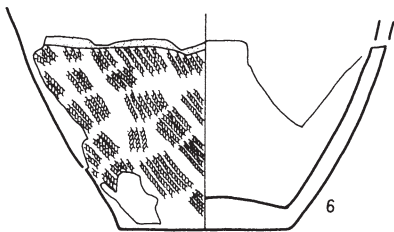
床面



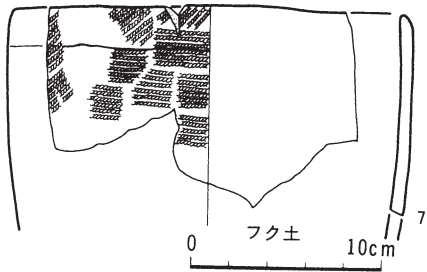
床面



フク土



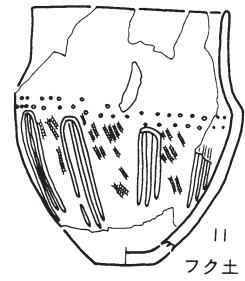
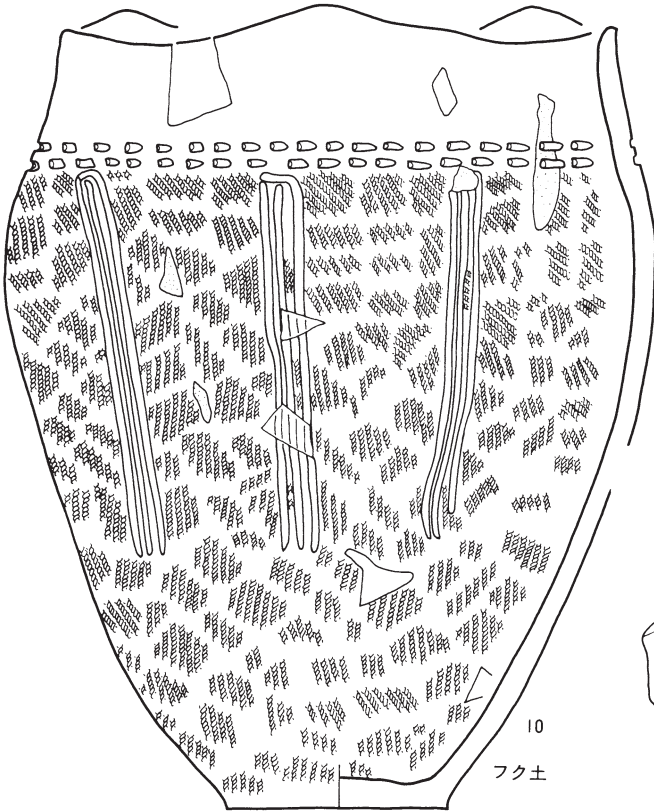
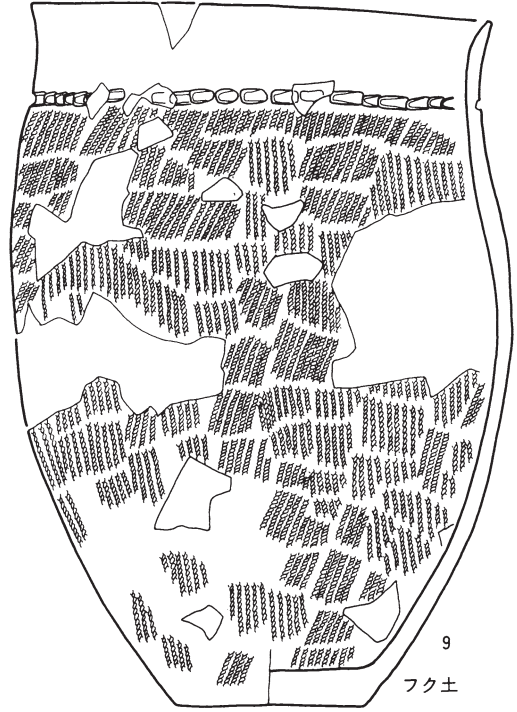
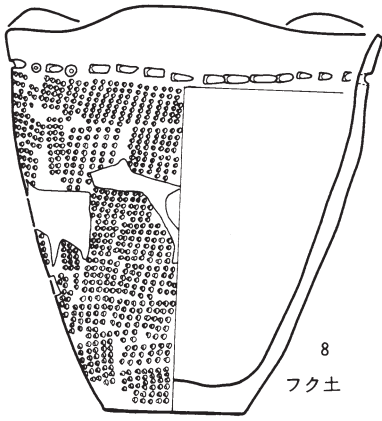
フク土



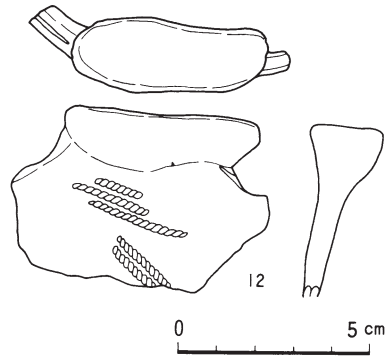
フク土

10cm

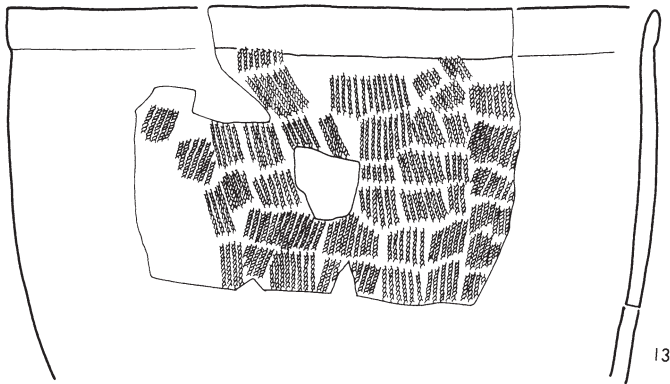
第508図 第223号住居跡(5)



0 10cm

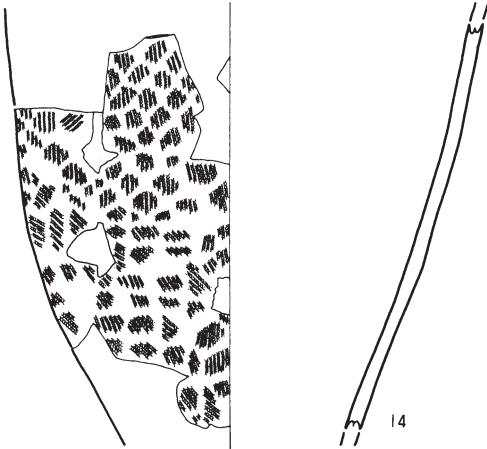


第509図 第223号住居跡(6)



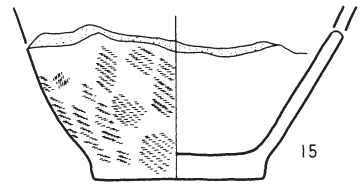
フク土

13



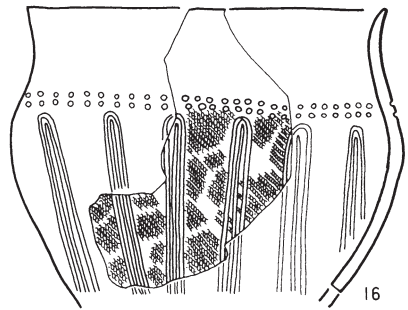
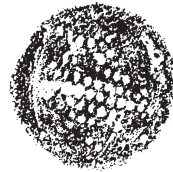
フク土

14



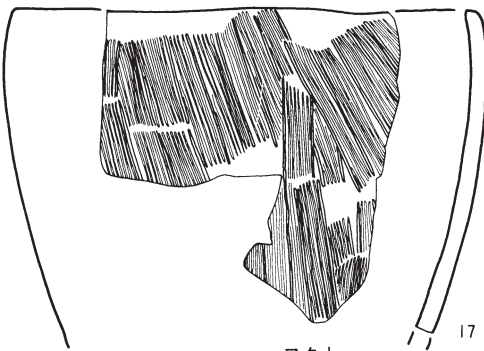
フク土

15



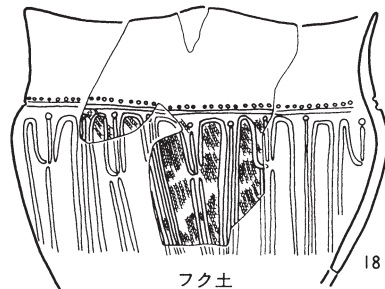
フク土

16



フク土

17

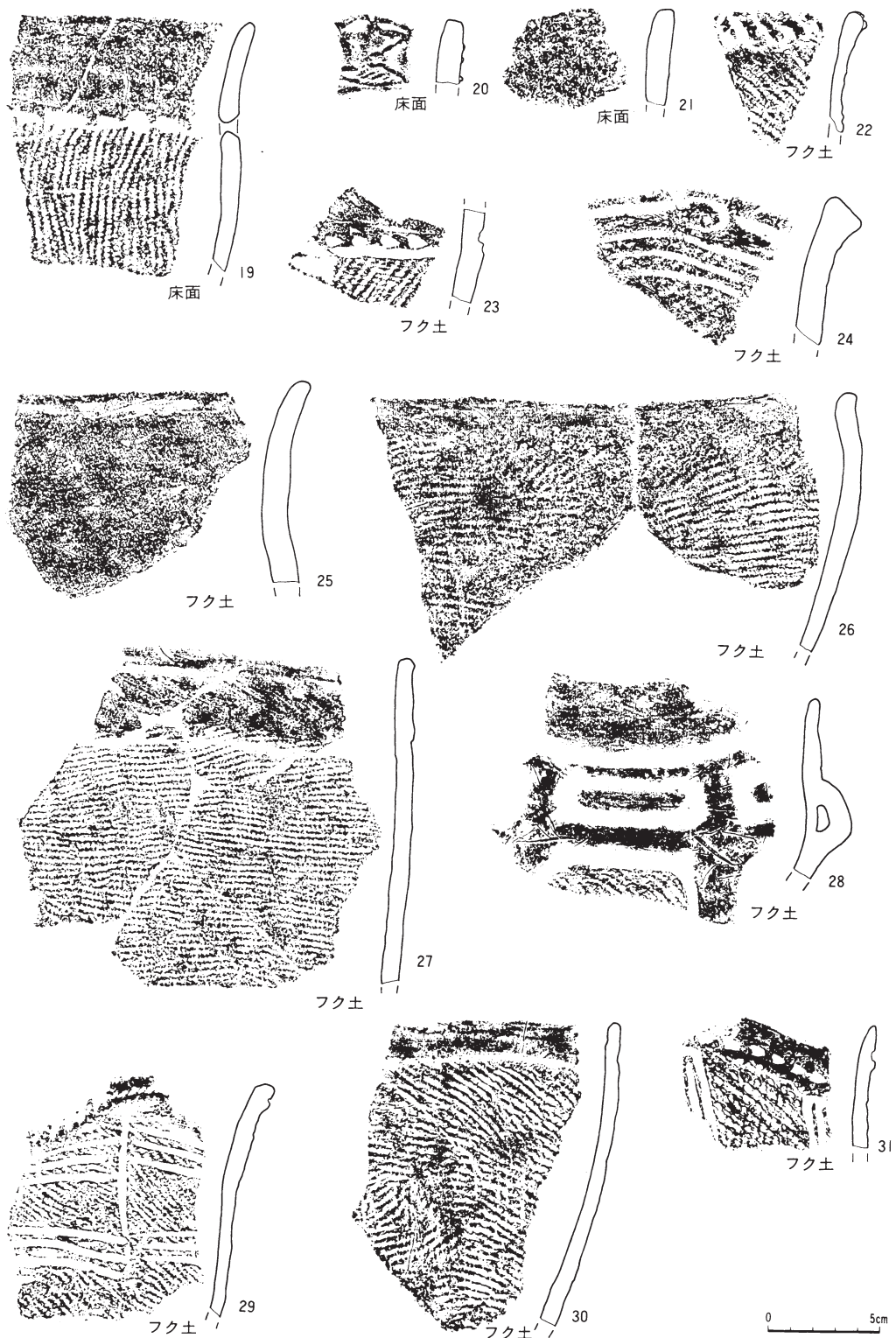


フク土

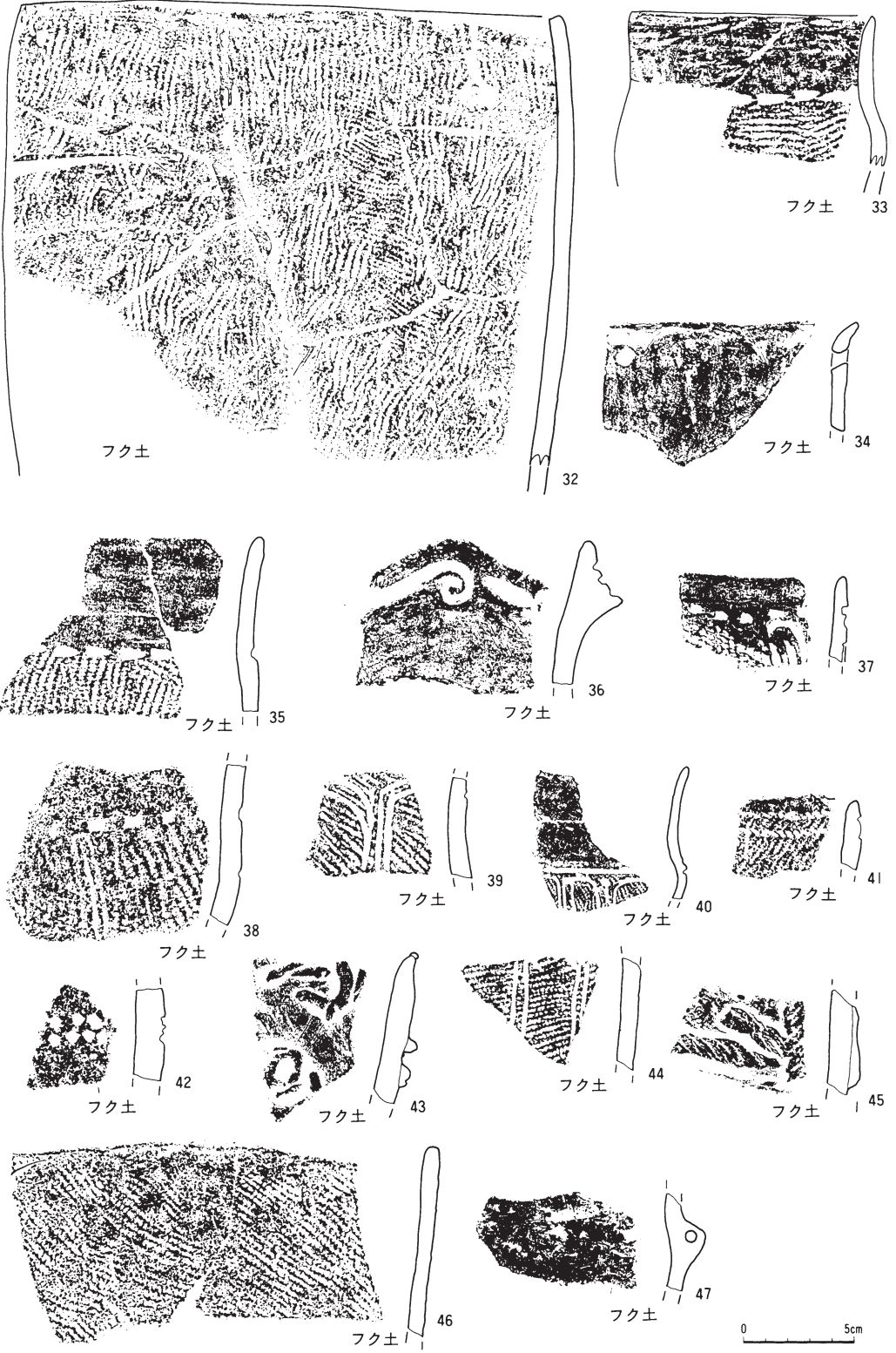
18

0 10cm

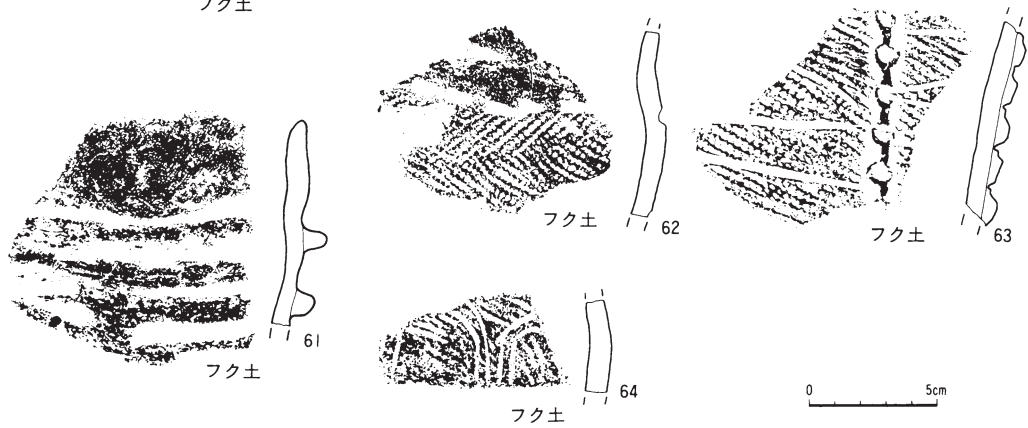
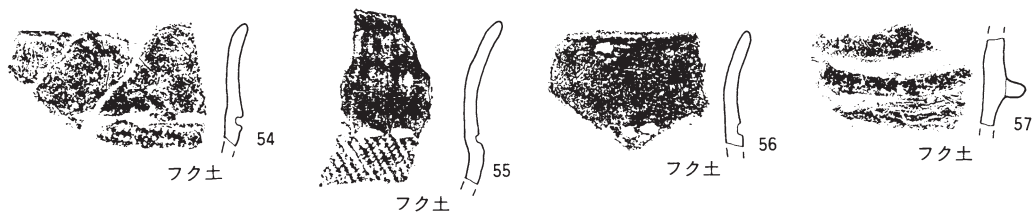
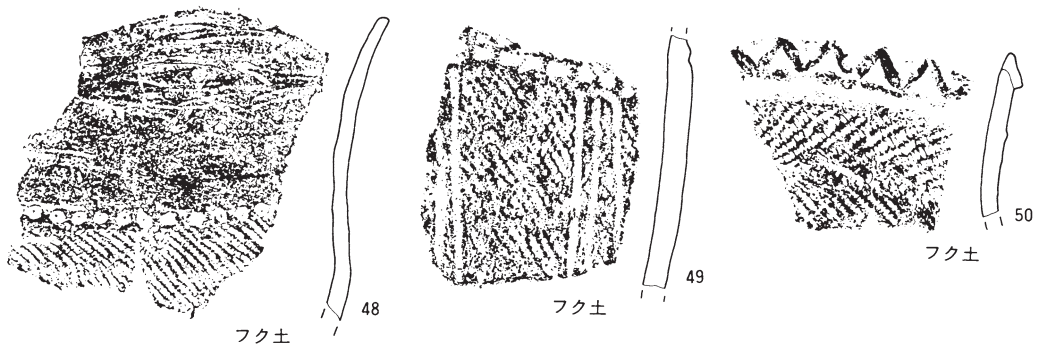
第510図 第223号住居跡(7)



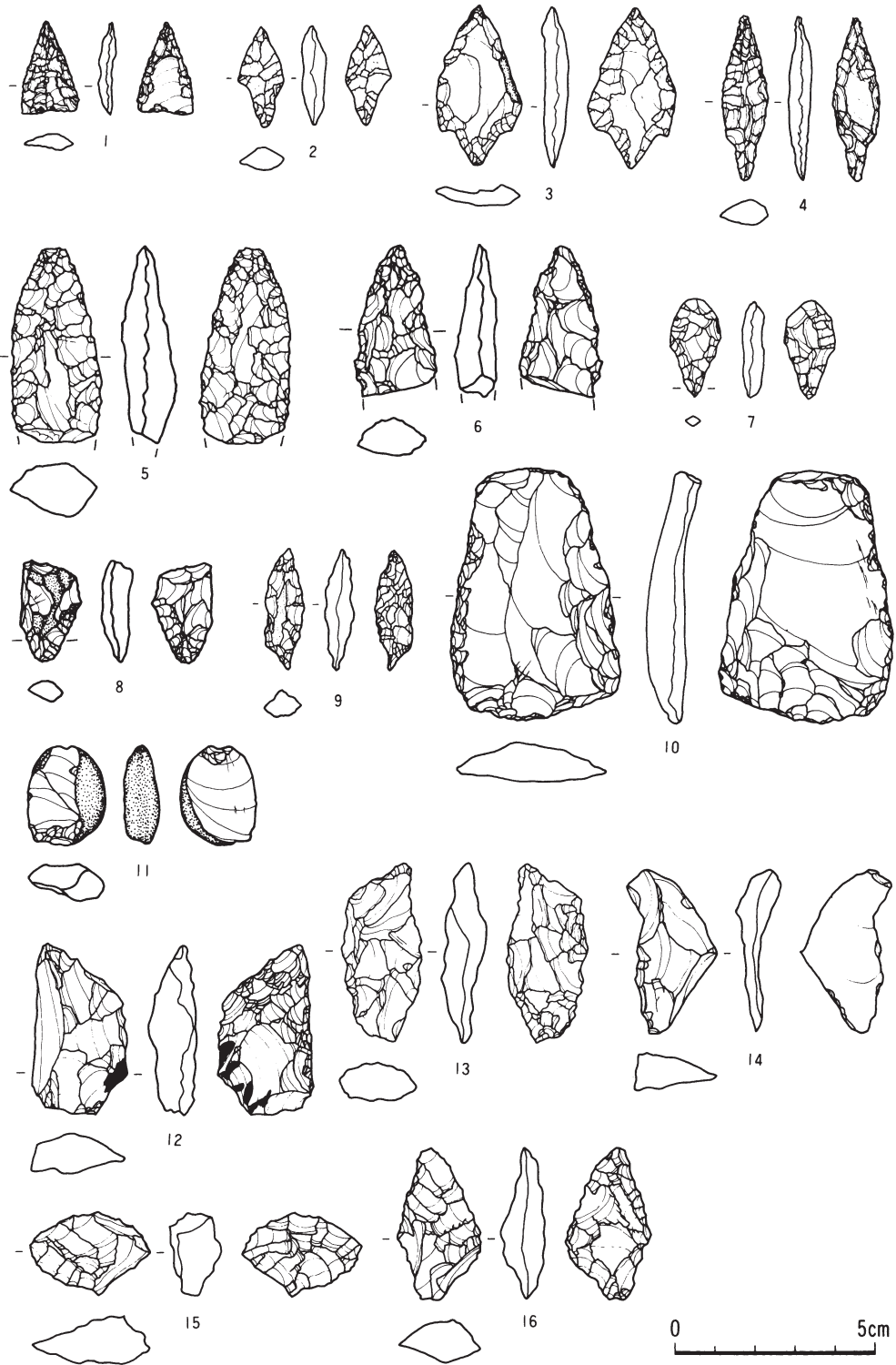
第511図 第223号住居跡(8)



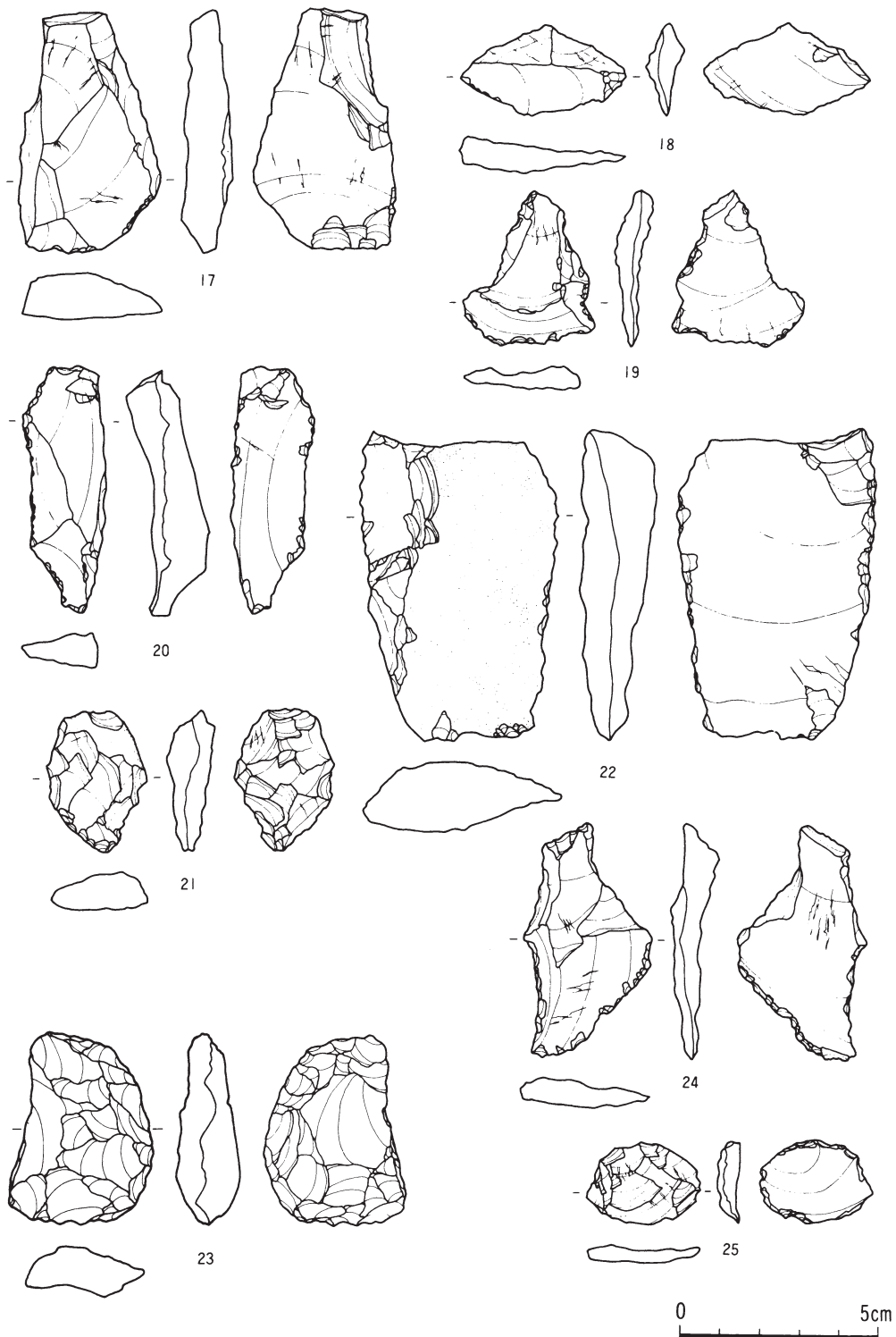
第512図 第223号住居跡(9)



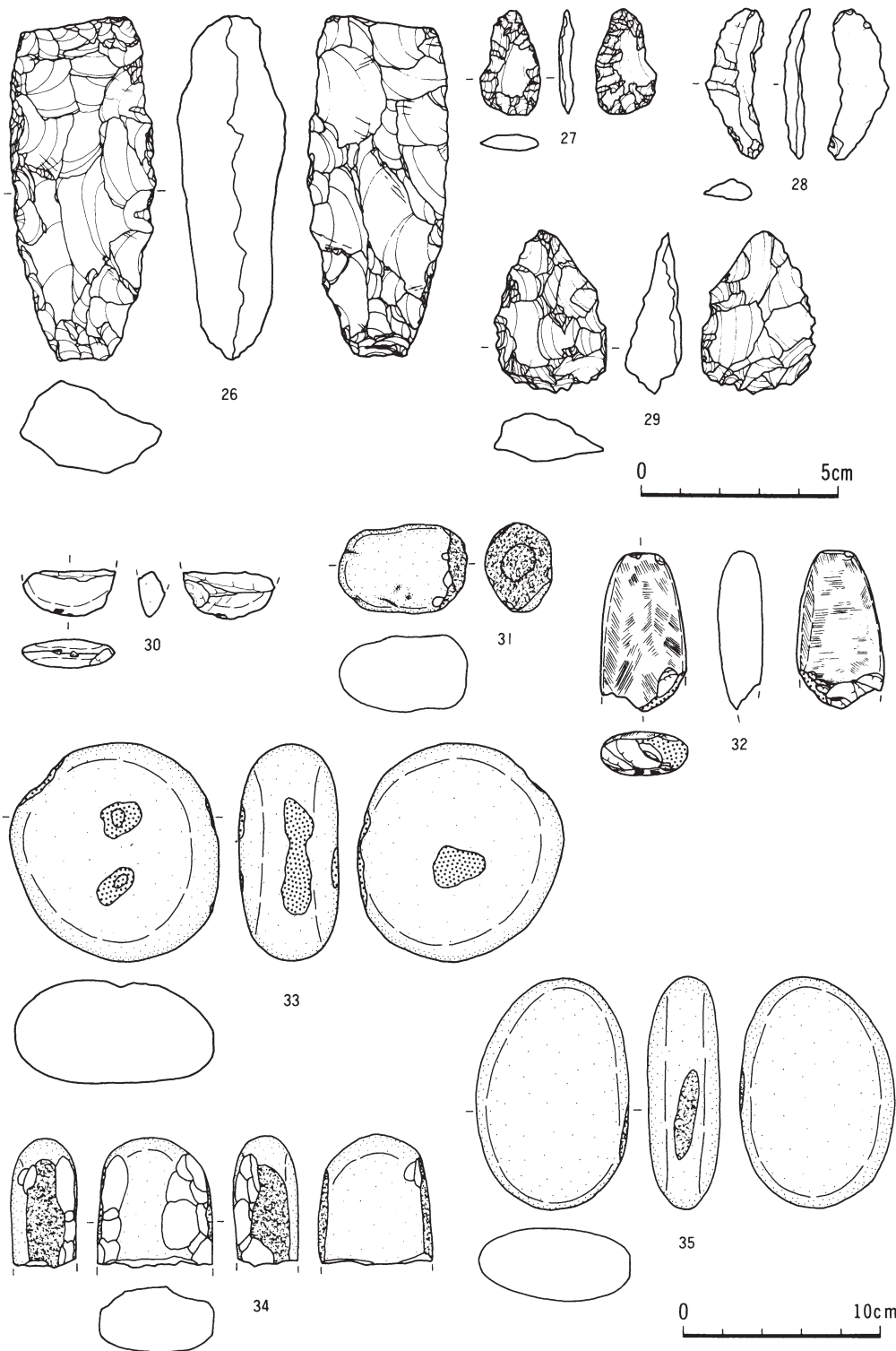
第513図 第223号住居跡(10)



第514图 第223号住居跡(1)



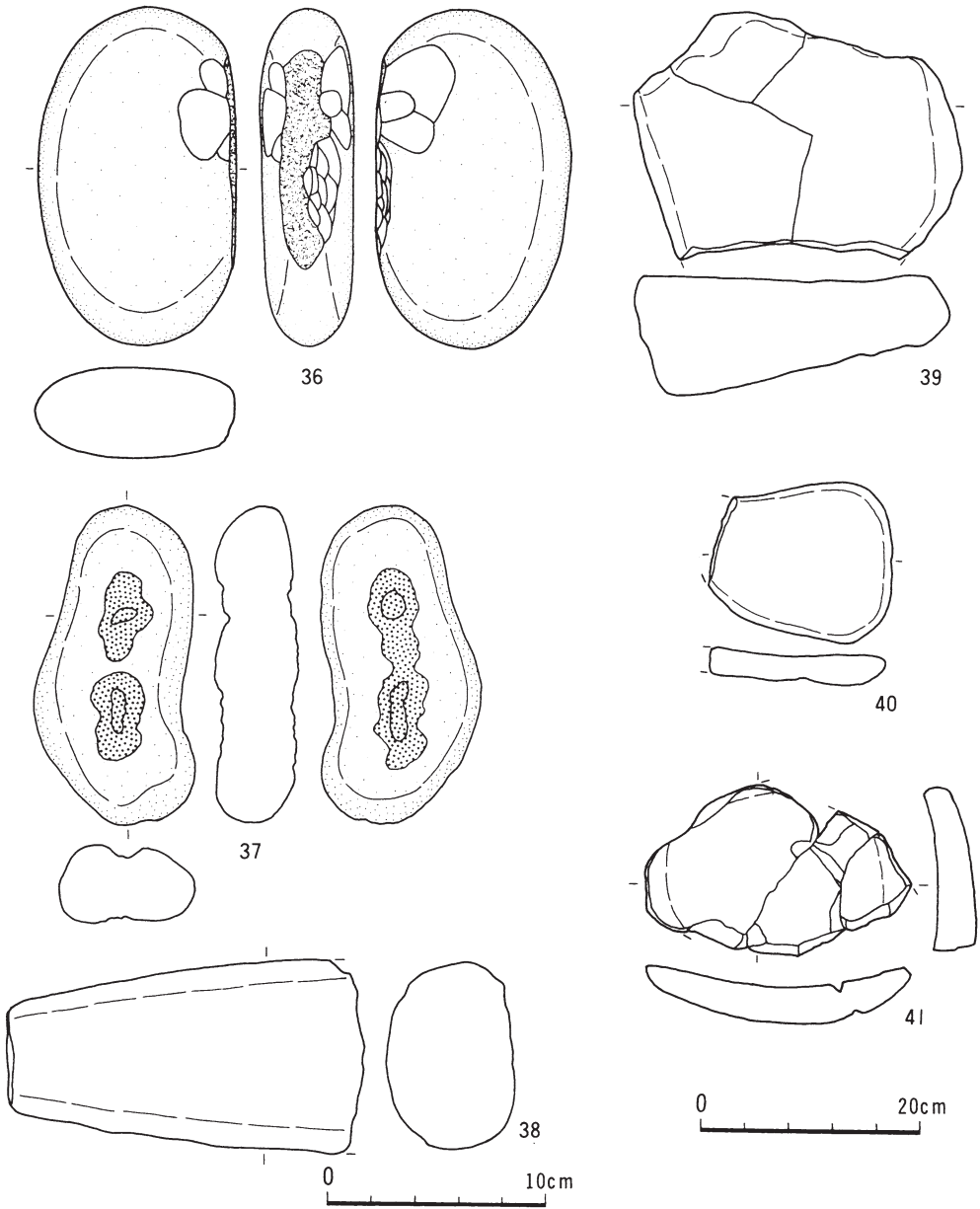
第515图 第223号住居跡(12)



第516图 第223号住居跡(13)

炭化物が多く出土した。

<出土遺物> 土器は床面・床面直上から(1~4・18~20)が出土し、他は覆土からの出土である。(18)は土製品である。石器は床面から石錐1点、敲磨器類1点、石皿・台石類2点、床面直上から不定形石器8点、覆土から石鏃15点、石槍2点、石錐4点、石篋1点、不定形石器43点、磨製石斧3点、敲磨器類4点、石皿・台石類3点、石棒1点、軽石3点が出土し、総数



第517図 第223号住居跡(14)

92点である。

〈小結〉 焼失家屋とみられる。また床面出土の土器から、最花式期の住居跡と考えられる。

(長崎 勝巳)

第226号住居跡 (第518～522図)

〈位置と確認〉 CV・CW-113・114グリッドに位置し、第Ⅲ層を調査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 第223・302号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〈平面形・規模〉 平面形は不明であるが、ほぼ楕円形になるものと考えられる。

〈壁・床面〉 第Ⅲ層を掘り込んで壁としている。壁高は東壁36cm、西壁16cm、南壁30cm、北壁30cmである。床面は暗褐色土で、石囲炉のまわりとその南側で検出した。全体的に起伏のある床面である。

〈壁溝〉 確認されなかった。

〈柱穴〉 確認されなかった。

〈炉〉 住居跡の中央やや南側で1辺65cm程の石囲炉を検出した。炉石は方形状に一周するものである。火床面は南側に片寄っていた。

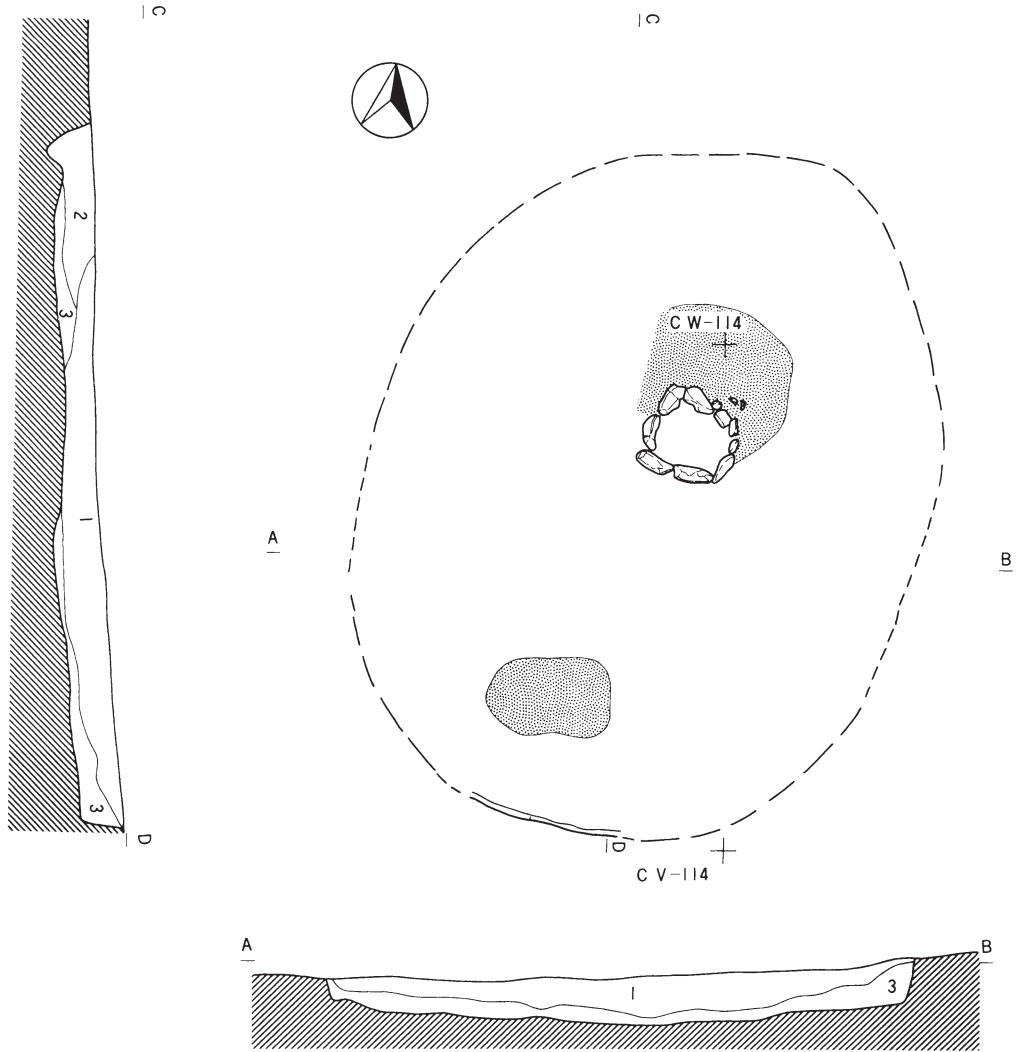
〈特殊施設〉 確認されなかった。

〈堆積土〉 黒褐色土を主体とし、3層に分層した。ローム粒、炭化物の混入の状況から人為堆積と考えられる。

〈出土遺物〉 土器は床面・床面直上から(1・4・5・15～18)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は、床面から石鏃1点、不定形石器5点、石皿・台石類2点、床面直上から石鏃7点、不定形石器2点、敲磨器類1点、炉から石鏃1点、石槍1点、不定形石器3点、覆土から石鏃5点、石槍1点、不定形石器15点、磨製石斧1点、総数45点である。

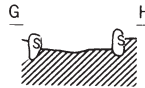
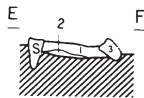
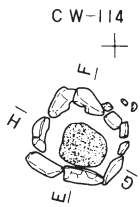


第518図 第226号住居跡(1)



第226号住居跡土層注記

- 第1層 黒褐色 10Y R 3/2 ローム粒少量
- 第2層 暗褐色 10Y R 3/4 炭化物、ローム粒少量
- 第3層 褐色 10Y R 4/4 炭化物、ローム粒微量

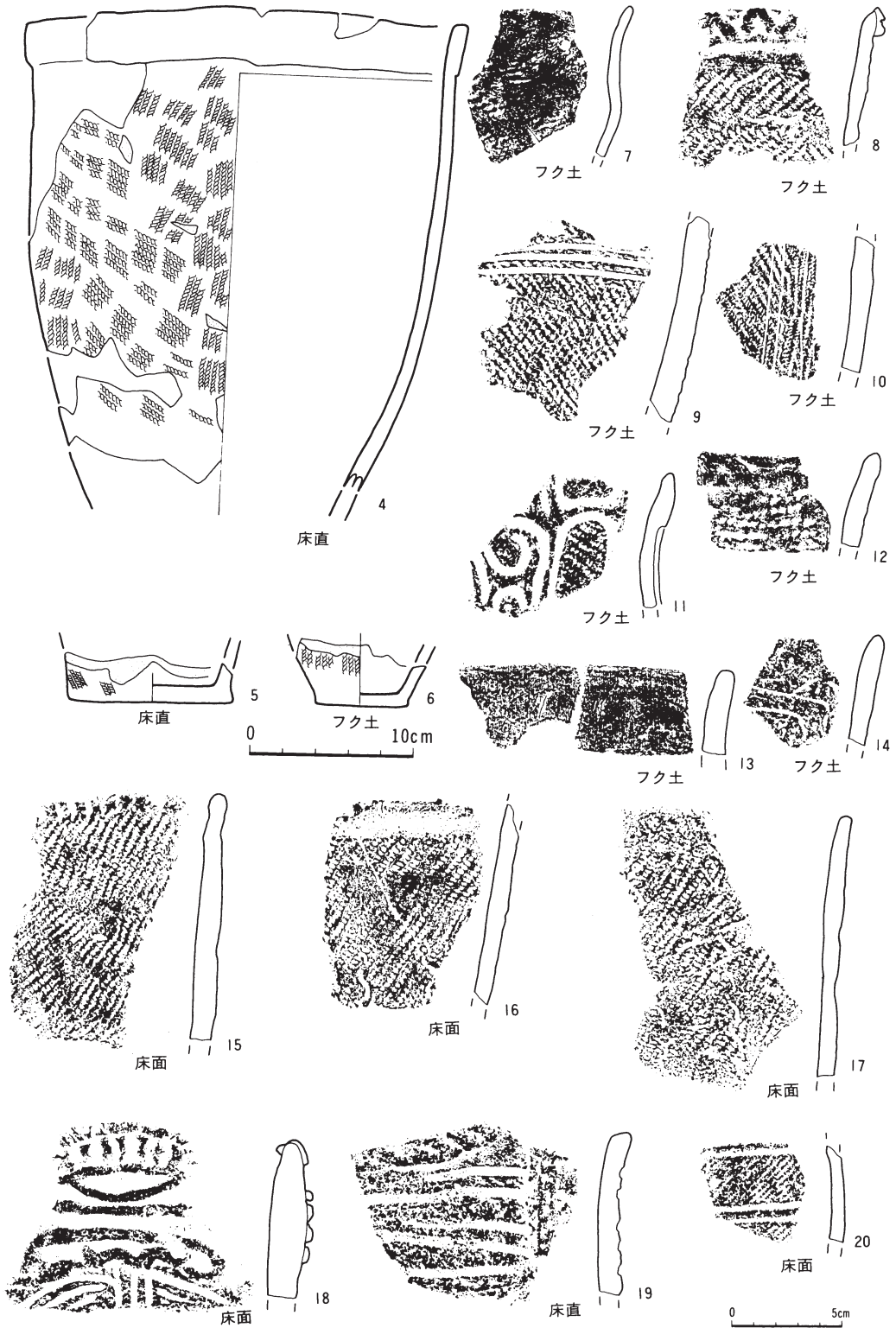


第226号住居跡炉土層注記

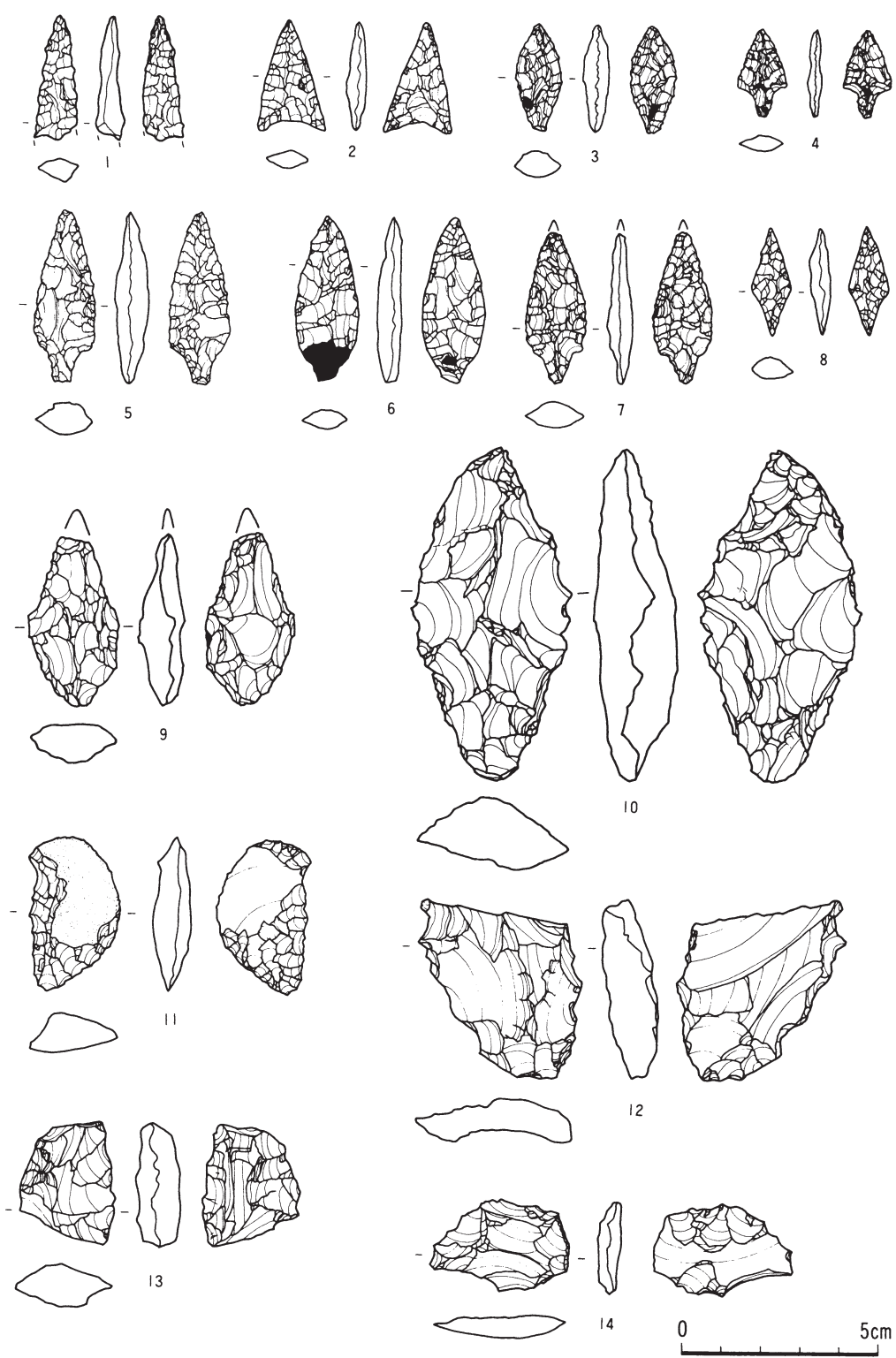
- 第1層 暗褐色 10Y R 3/4 骨粉、焼土粒、炭化物微量
- 第2層 赤褐色 5Y R 4/6 暗褐色土との混合層

0 2m

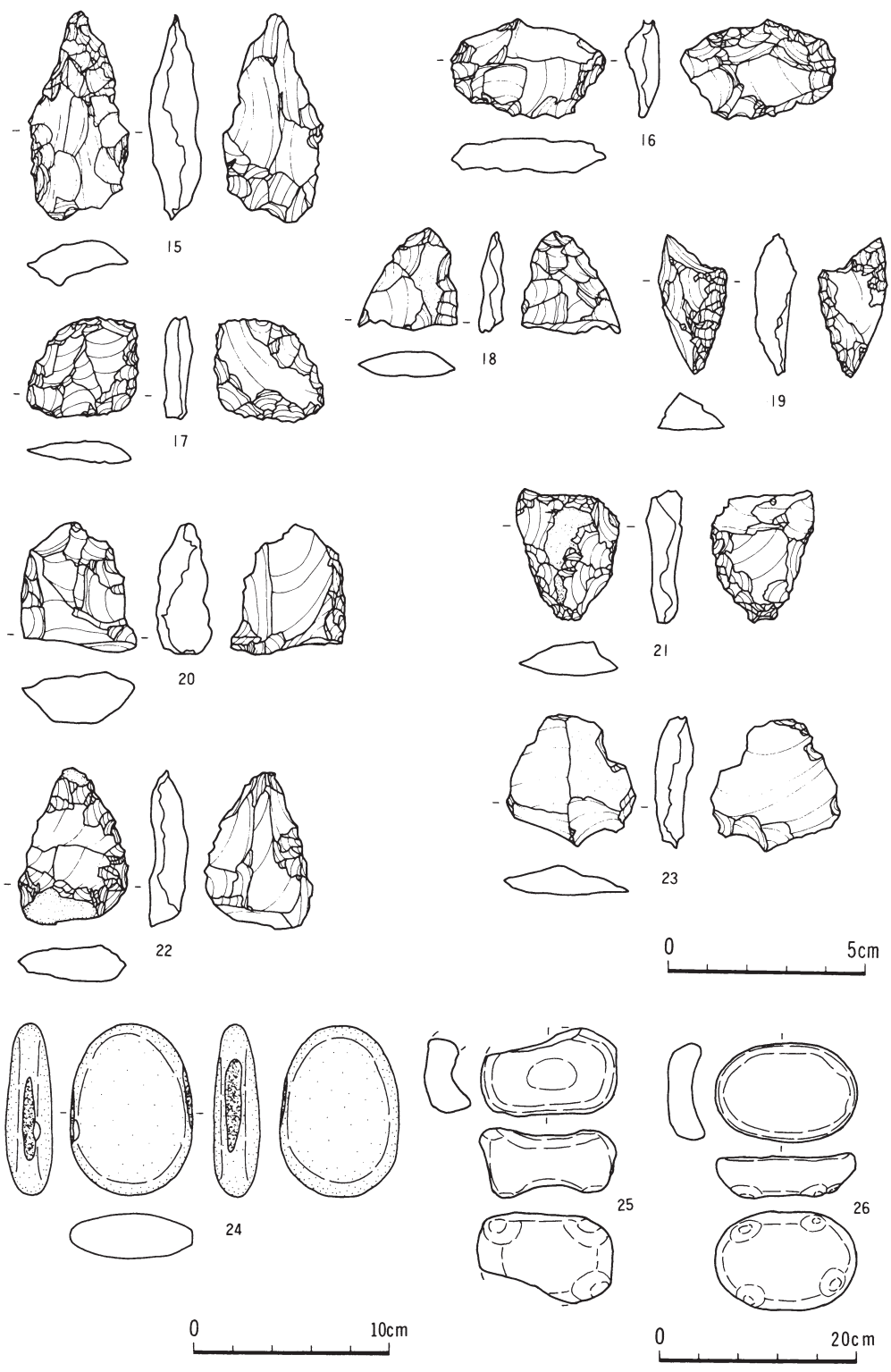
第519図 第226号住居跡(2)



第520図 第226号住居跡(3)



第521图 第226号住居跡(4)



第522图 第226号住居跡(5)

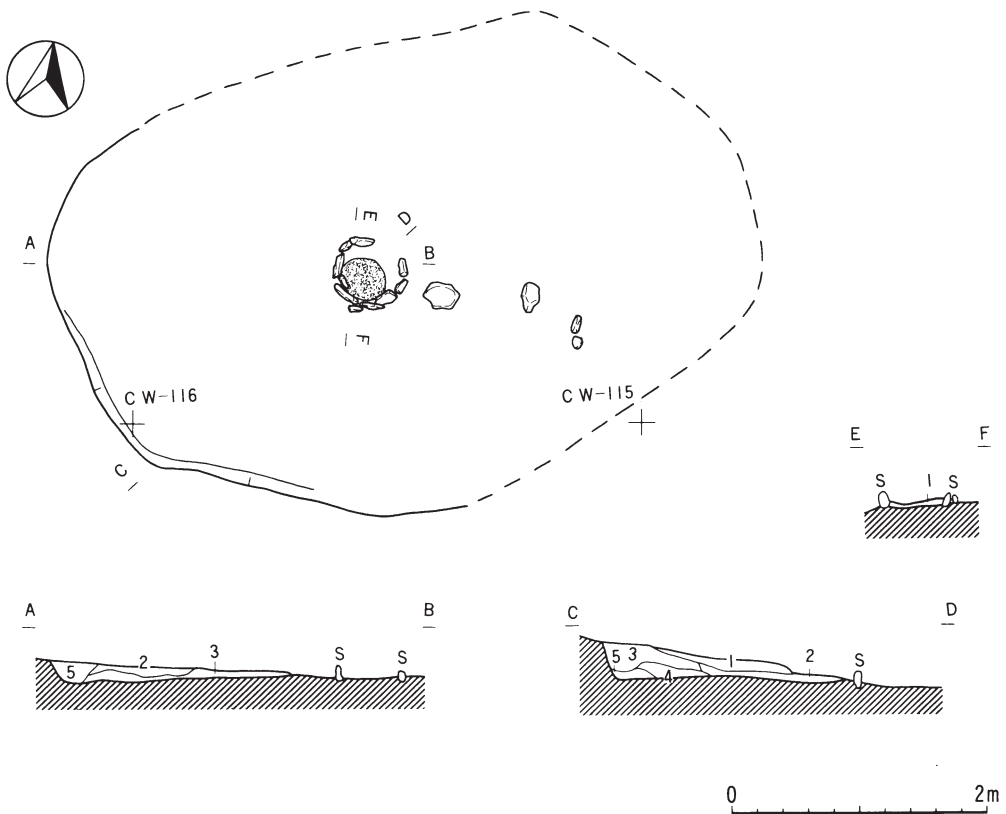
〈小結〉 床面出土の土器は円筒上層e式期のものであるが、土器が投棄された可能性が高く時期は不明である。(長崎 勝巳)

第227号住居跡 (第523～525図)

〈位置と確認〉 CW-115グリッドに位置し、第Ⅲ層を調査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 第228・300～304号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〈平面形・規模〉 平面形は東西に長軸をもち、長軸5m50cm、短軸3m70cmの楕円形を呈するものと考えられる。



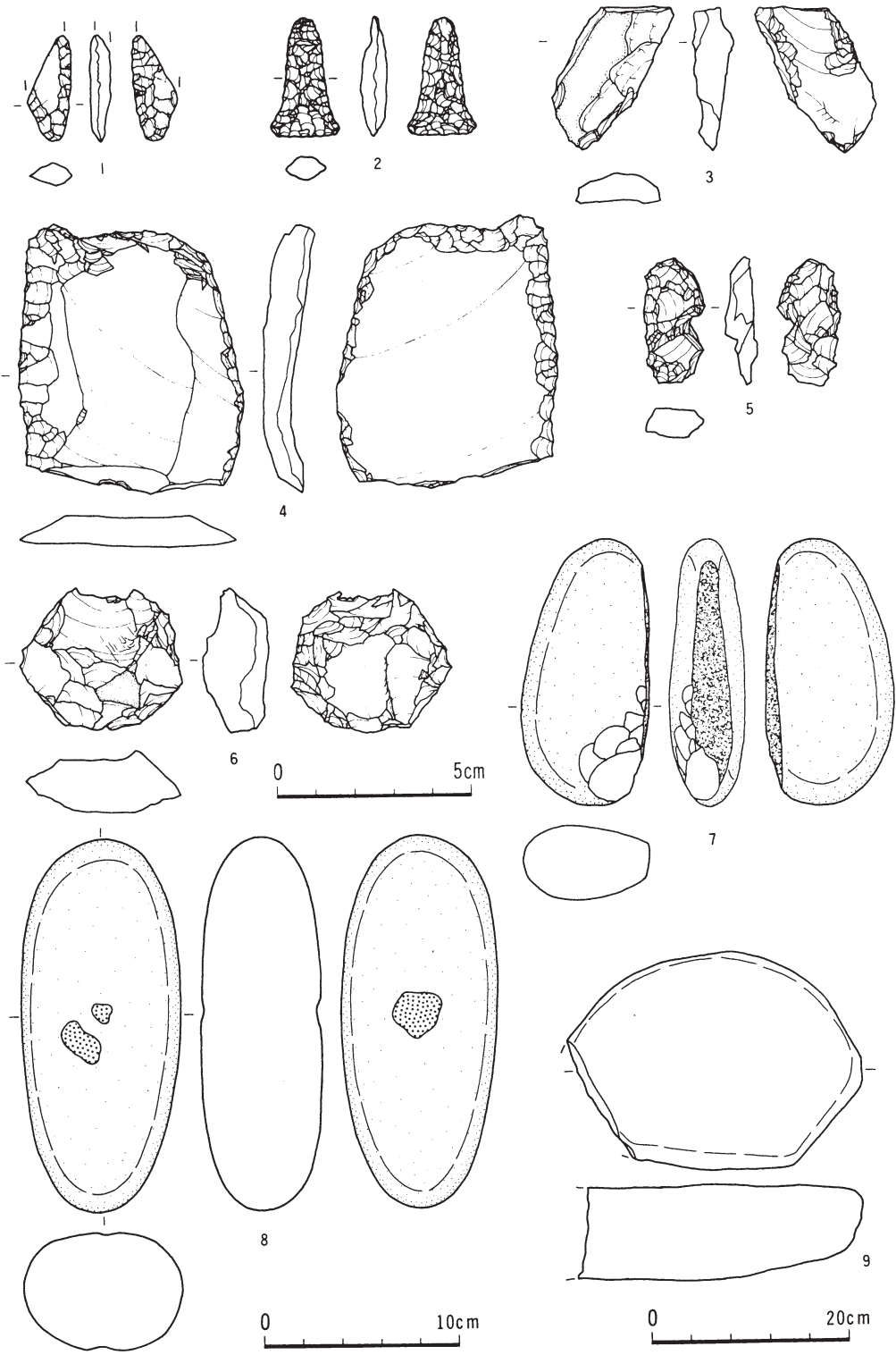
第227号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色 10Y R 3/6 ローム粒微量
- 第2層 褐色 10Y R 4/6 炭化物、ローム粒少量
- 第3層 暗褐色 10Y R 3/6 炭化物微量、ローム粒少量
- 第4層 暗褐色 10Y R 3/6 炭化物、ローム粒微量
- 第5層 褐色 10Y R 6/6 炭化物微量、ローム粒多量

第227号住居跡炉土層注記

- 第1層 褐色 7.5Y R 4/6 焼土粒微量、炭化物極微量、ローム粒少量

第523図 第227号住居跡(1)



第524图 第227号住居跡(2)

〈壁・床面〉 第三層を壁・床面としている。壁は北側の一部が検出され、高さは28cmである。床面は1～3cmのロームを貼りかためた貼り床と、下の堆積土をそのまま床面としたところがある。床面はほぼ平坦である。

〈壁溝〉 確認されなかった。

〈柱穴〉 確認されなかった。

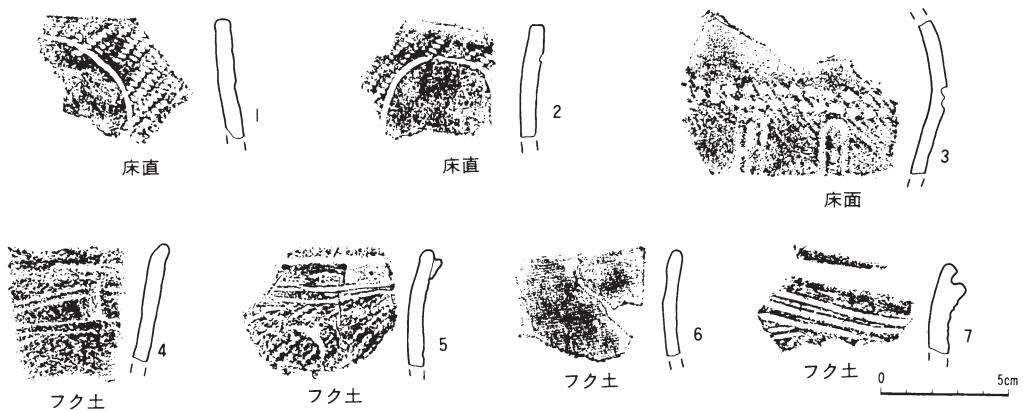
〈炉〉 住居跡のほぼ中央に、直径50cmの円形の石囲炉を検出した。北東側の炉石は約20cmにわたり検出されず開口部と思われる。火床面は開口部の奥である。

〈特殊施設〉 確認されなかった。

〈堆積土〉 暗褐色土を主体とし、5層に分層した。ローム及び炭化物の混入の状況から人為堆積と考えられる。

〈出土遺物〉 土器は床面・床面直上から(1～3)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は床面から不定形石器2点、覆土から石鏃2点、石筥1点、不定形石器3点、敲磨器類2点、石皿・台石類1点が出土し総数11点である。

〈小結〉 床面出土の土器は最花式期のものであるが、土器が投棄された可能性が高く、時期は不明である。
(長崎 勝巳)



第525図 第227号住居跡(3)

第228号住居跡 (第526～528図)

〈位置と確認〉 CW・CX-115グリッドに位置し、第三層を調査中に褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 第229・303号住居跡、第554号土壌と重複し、第303号住居跡より新しく、他の遺構より古い。

<平面形・規模> 確認した規模は、長軸3m30cm、短軸2mであり、楕円形を呈する。

<壁・床面> 第三層を掘り込んで壁として壁高は5～10cm程である。床は1～3cmのロームの貼り床である。北側がやや高くなっている。

<壁溝> 確認されなかった。

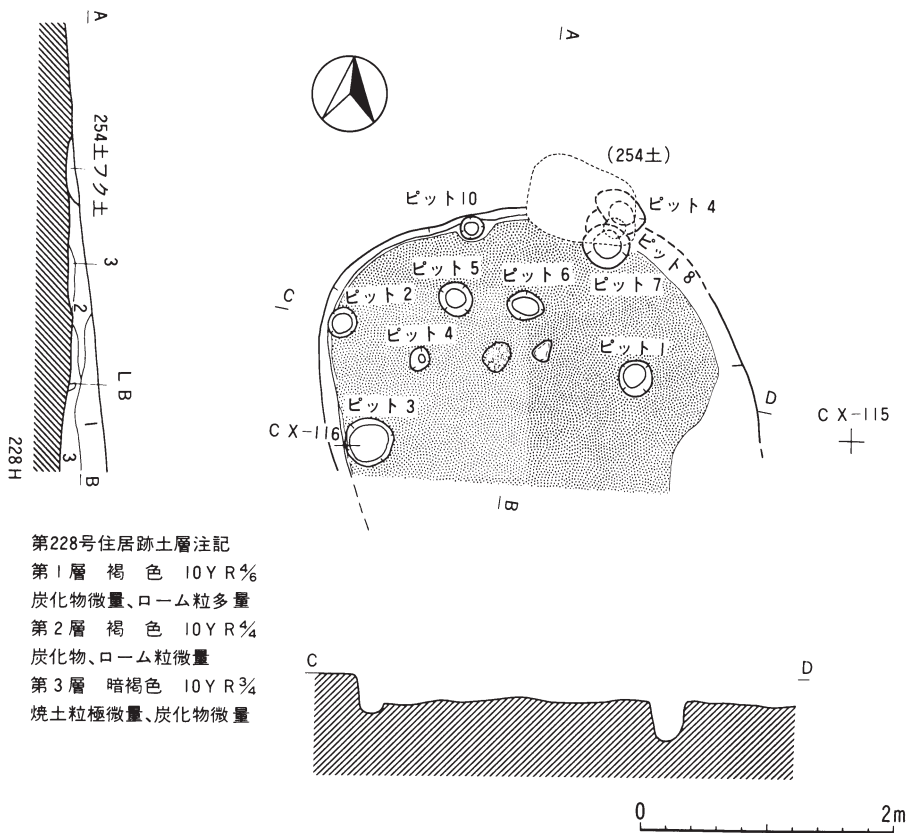
<柱穴> 床面及び床下から10個のピットを検出したが、支柱穴は不明である。各ピットの深さはP₁…29cm、P₂…7cm、P₃…17cm、P₄…10cm、P₅…5cm、P₆…17cm、P₇…35cm、P₈…36cm、P₉…36cm、P₁₀…6cmである。

<炉> 住居跡の中央部で焼土面が認められ、地床炉と考えられる。

<特殊施設> 確認されなかった。

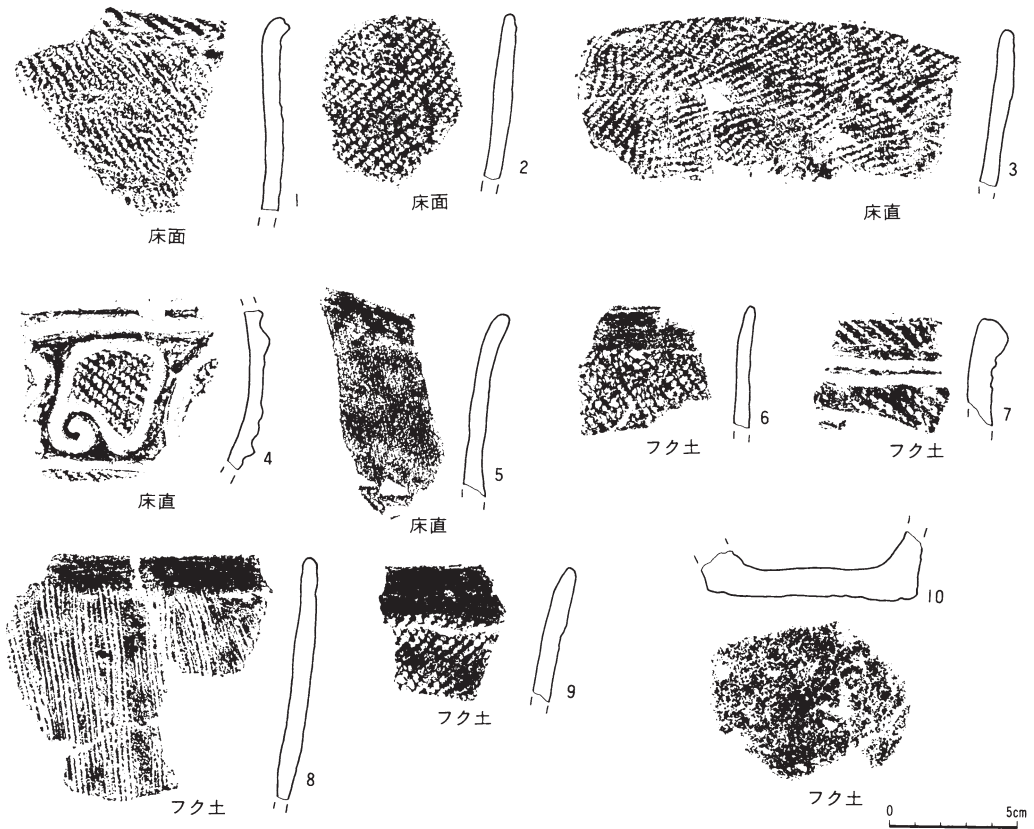
<堆積土> 褐色土を主体とし、3層に分層した。ロームの混入状況から、人為的堆積と考えられる。

<出土遺物> 土器は床面・床面直上から(1～5)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は床面直上から石鏃2点、石槍1点、覆土から不定形石器1点、敲磨器類2点が出土し、総数6点である。



第526図 第228号住居跡(1)

〈小結〉 床面・床面直上出土の土器は円筒上層d・e式期のものであるが、土器が廃棄された可能性が高く、時期は不明である。
 (長崎 勝巳)



第527図 第228号住居跡(2)

第229号住居跡 (第529～534図)

〈位置と確認〉 CX-114・115グリッドに位置し、第Ⅲ層を調査中に褐色土の落ち込みを確認した。

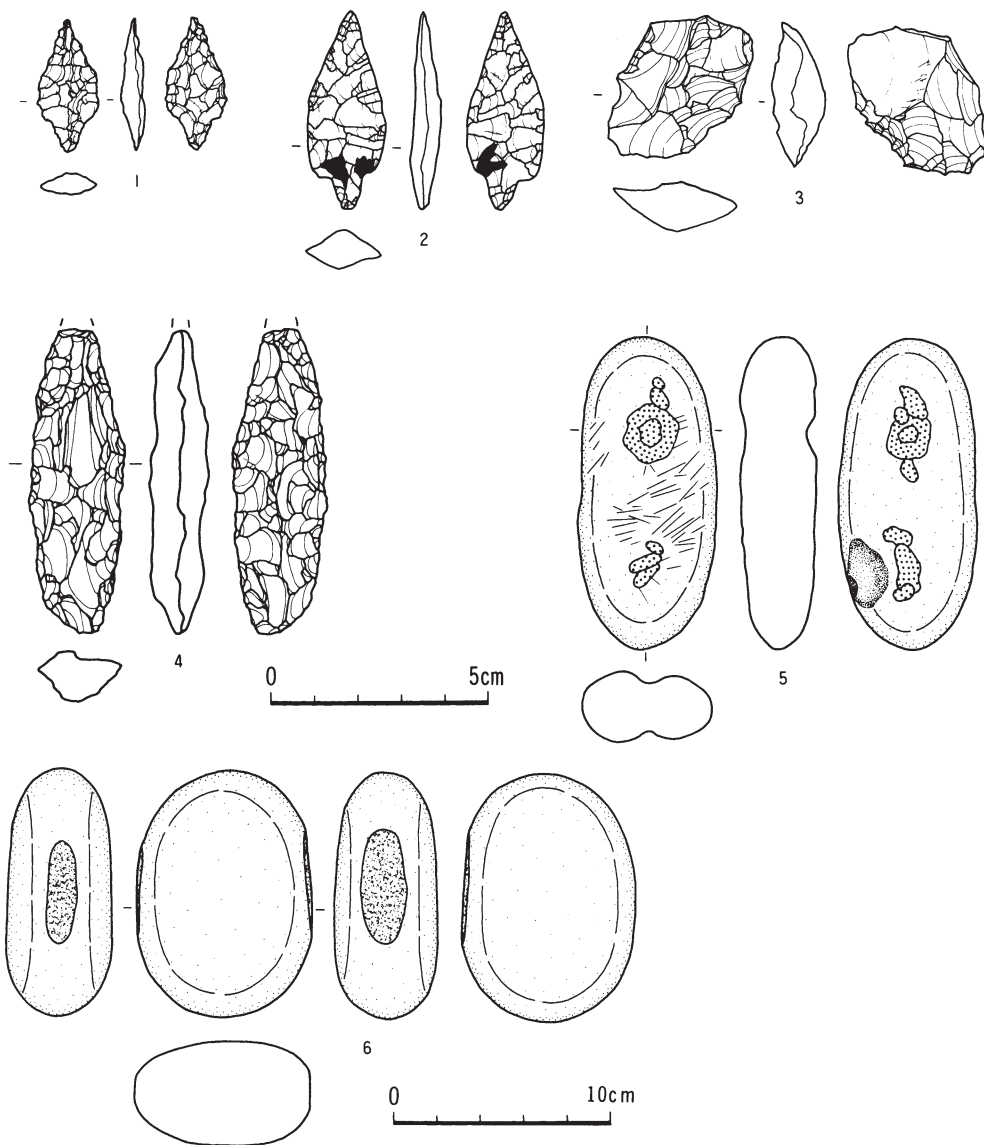
〈重複〉 第228号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〈平面形・規模〉 貼り床の範囲だけで、平面形は不明である。

〈壁・床面〉 第Ⅲ層を壁面とし、東壁10cm、南壁24cmである。床面は1～3cmのロームを貼り床として、南側がやや低くなっている。

〈壁溝〉 確認されなかった。

〈柱穴〉 ピットは床面から7個、床下から3個検出された。また貼り床の回りから11個検出した。主柱穴は不明である。各ピットの深さは、P₁…43cm、P₂…19cm、P₃…51cm、P₄…34cm、

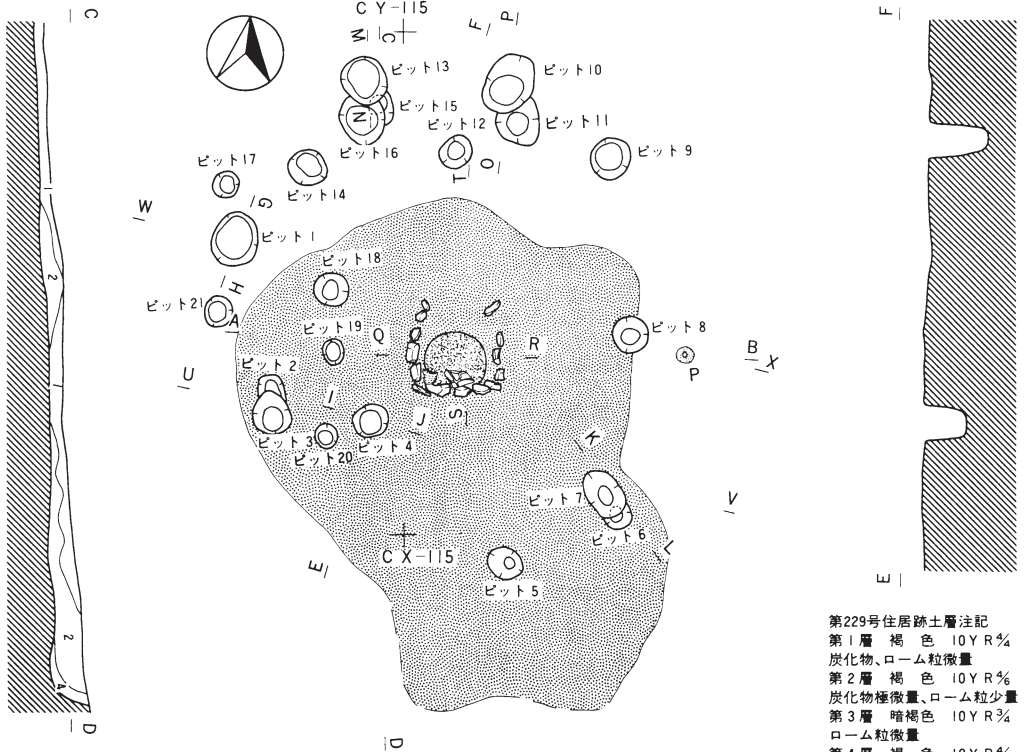


第528図 第228号住居跡(3)

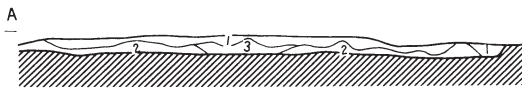
P₅…29cm、P₆…27cm、P₇…50cm、P₈…61cm、P₉…16cm、P₁₀…54cm、P₁₁…54cm、P₁₂…47cm、P₁₃…24cm、P₁₄…20cm、P₁₅…41cm、P₁₆…42cm、P₁₇…25cm、P₁₈…33cm、P₁₉…20cm、P₂₀…18cm、P₂₁…15cmである。

<炉> 住居跡内に位置し、1辺が70cm程の方形の石囲炉で、北側が開口部になっている。火床面は開口部の反対側になっている。

<特殊施設> 確認されなかった。



第229号住居跡土層注記
 第1層 褐色 10Y R%
 炭化物、ローム粒微量
 第2層 褐色 10Y R%
 炭化物極微量、ローム粒少量
 第3層 暗褐色 10Y R%
 ローム粒微量
 第4層 褐色 10Y R%
 第5層 黄褐色 10Y R%



229号住居跡土層注記

第1層 褐色 10Y R% 骨片微量、炭化物微量、ローム粒少量
 第2層 暗褐色 10Y R%
 第3層 褐色 10Y R% 焼土粒極微量、炭化物、ローム粒少量
 第4層 褐色 10Y R%

229号住居跡ピット4土層注記

第1層 暗褐色 10Y R% ローム粒少量
 第2層 褐色 10Y R% ローム粒多量

ピット1土層注記

第1層 暗褐色 10Y R% ローム粒多量
 第2層 褐色 10Y R% ローム粒少量

ピット7・6土層注記

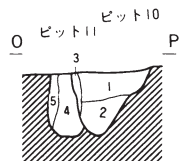
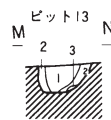
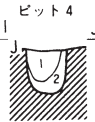
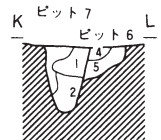
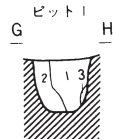
第1層 褐色 10Y R% ローム粒少量
 第2層 褐色 10Y R% ローム粒微量
 第3層 黄褐色 10Y R%
 第4層 褐色 10Y R% ローム粒微量
 第5層 褐色 10Y R% ローム粒少量

ピット13土層注記

第1層 暗褐色 10Y R% ローム粒微量
 第2層 褐色 10Y R%
 第3層 黄褐色 10Y R%

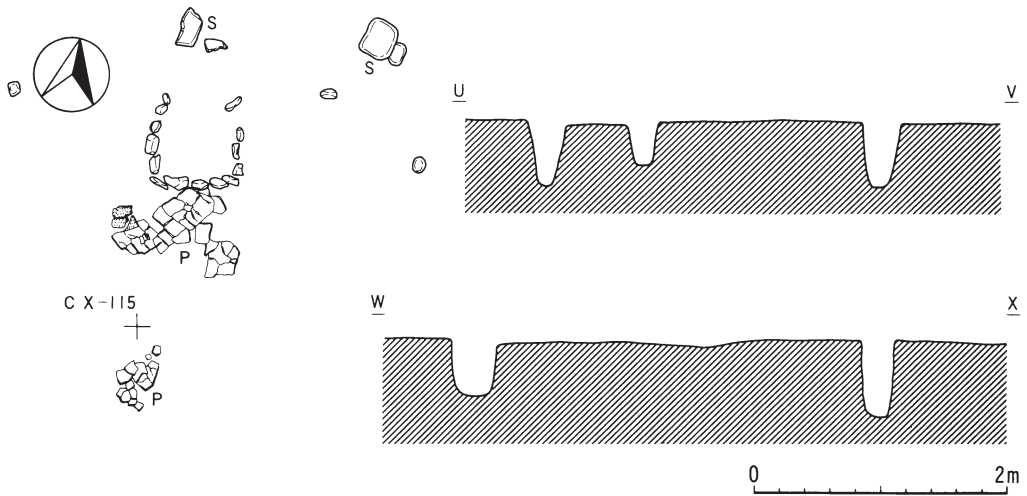
ピット11・10土層注記

第1層 褐色 10Y R% 炭化物極微量
 第2層 褐色 10Y R%
 第3層 褐色 10Y R%
 第4層 黄褐色 10Y R% 炭化物極微量
 第5層 黄褐色 10Y R%

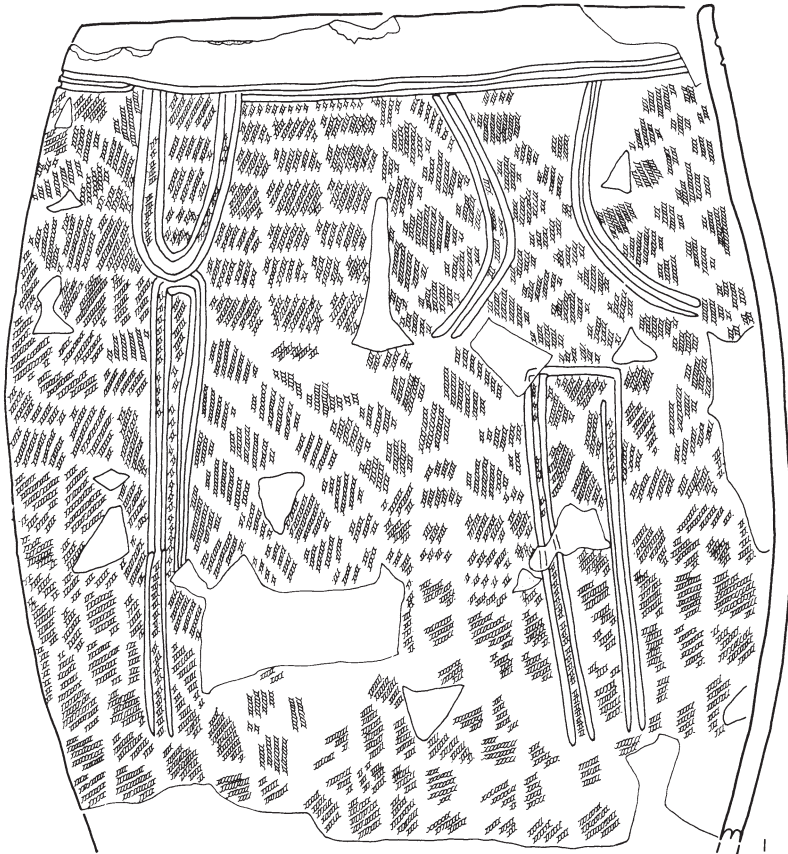


0 2m

第529図 第229号住居跡(1)



C X-115



フク土

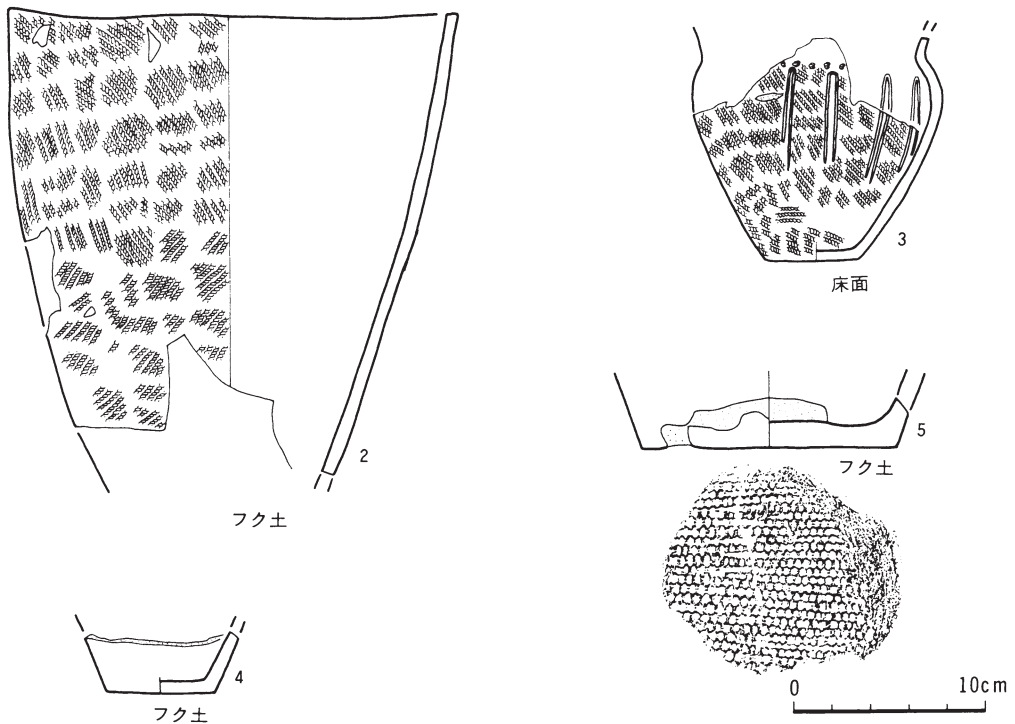
0 10cm

第530図 第229号住居跡(2)

<堆積土> 褐色土を主体とし、5層に分層した。ローム及び堆積状況から人為的堆積と考えられる。

<出土遺物> 土器は床面・床面直上(3・6~8)から出土し、他は覆土からの出土である。石器は床面から石鏃2点、不定形石器2点、石皿・台石類1点、琥珀1点、床面直上から石鏃1点、石錐1点、ピット2から石鏃2点、覆土から石鏃2点、石錐2点、ピエス・エスキュー3点、不定形石器4点、石斧2点、敲磨器類1点、石皿・台石類3点、石棒1点が出土し、総数で28点である。

<小結> 床面出土の土器(3)は、最花式期のものと思われるが、土器が投棄された可能性が考えられるため時期は不明である。(長崎 勝巳)



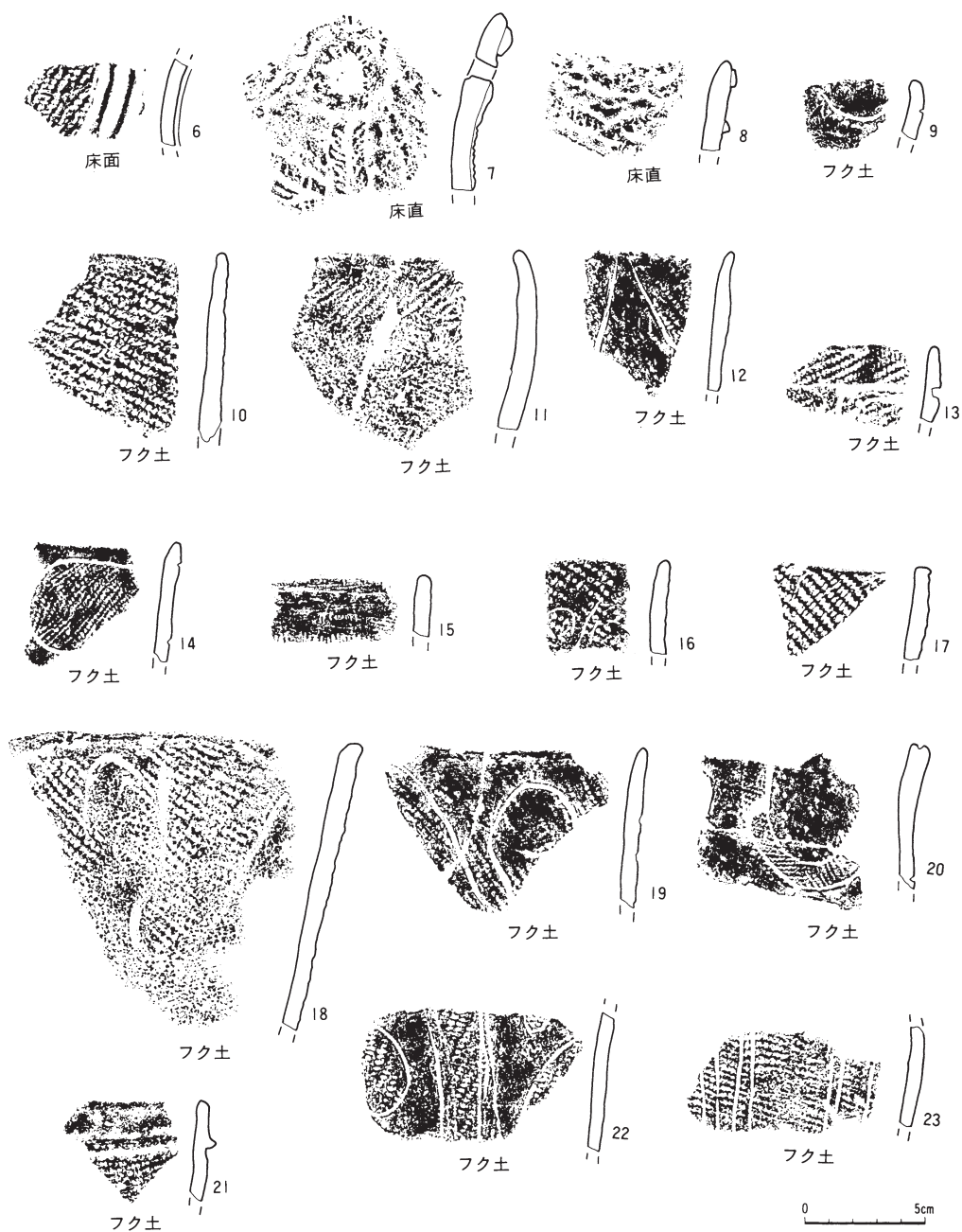
第531図 第229号住居跡(3)

第230号住居跡 (第535~536図)

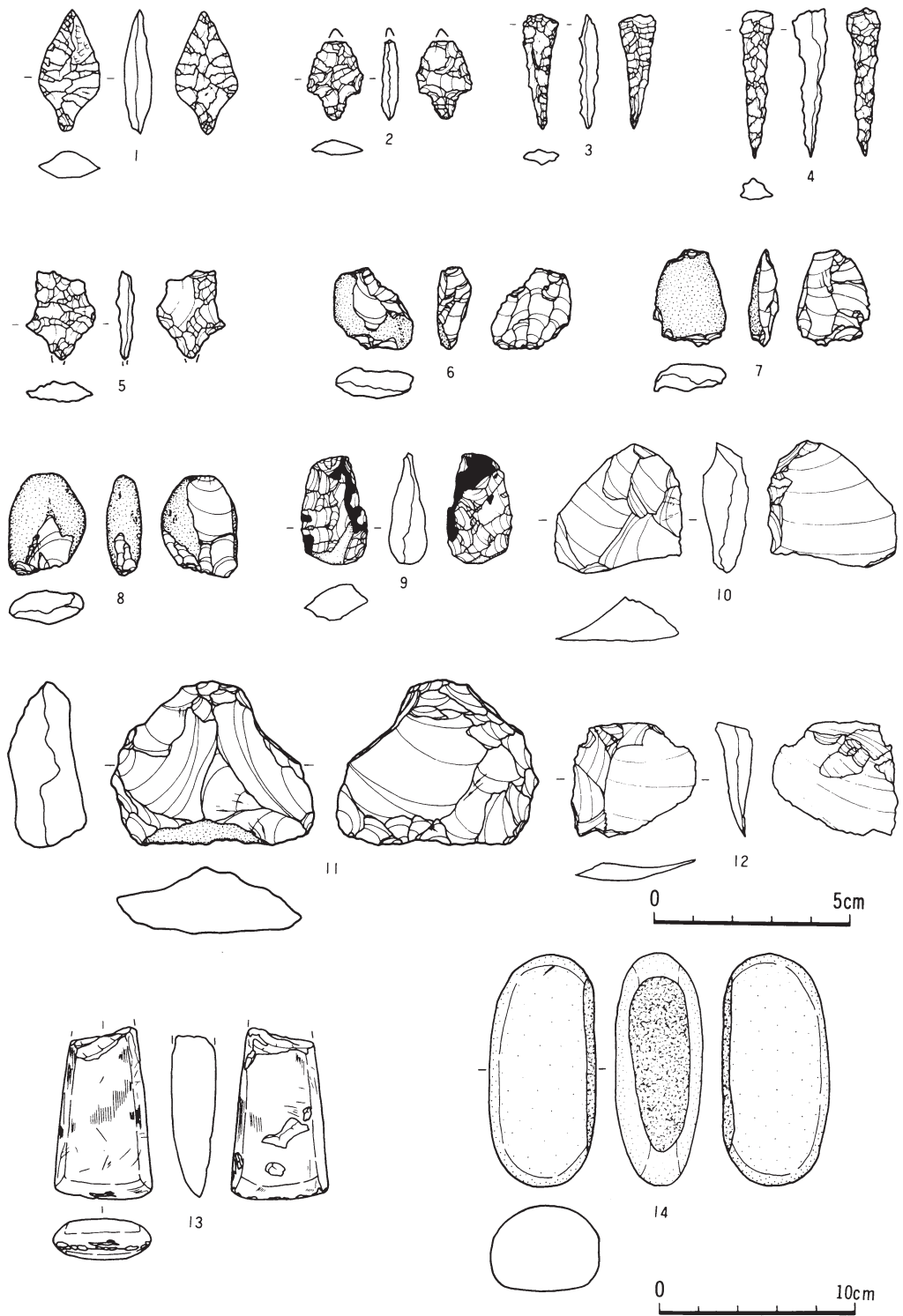
<位置と確認> CX・CY-114グリッドに位置する。

<重複> 小ピット群と第10号掘立柱建物跡と重複し新旧関係は不明である。

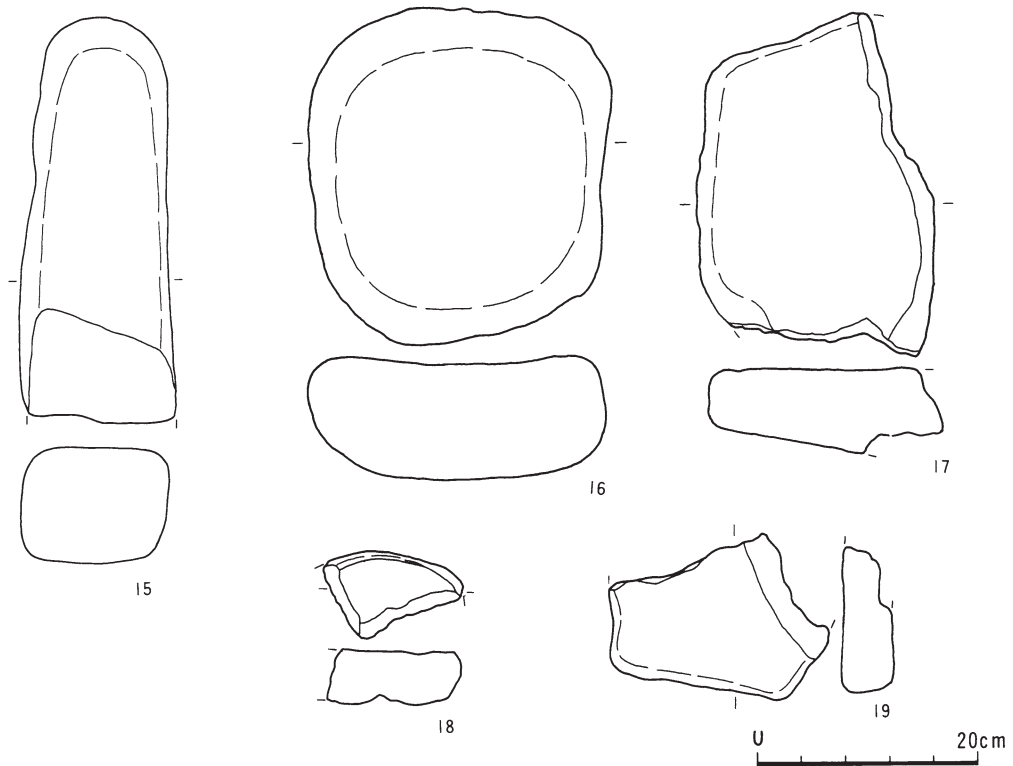
<平面形・規模> 焼土と貼り床だけで、平面形は不明である。



第532図 第229号住居跡(4)



第533图 第229号住居跡(5)



第534図 第229号住居跡(6)

〈壁・床面〉 壁は掘り込みが浅いため、壁は確認できなかった。また焼土のまわりから、暗褐色土を貼り固めた床を検出した。

〈壁溝〉 確認されなかった。

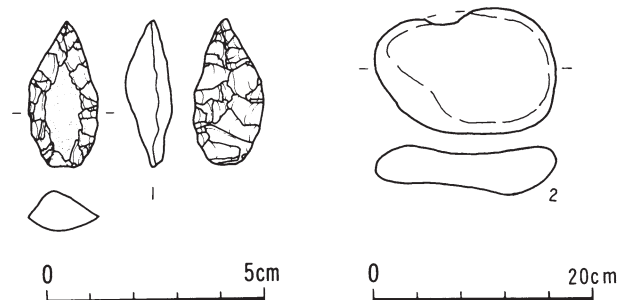
〈柱穴〉 床面の高さでは確認されなかったが、床下から多くのピットを検出した。(ピット番号を付けず深さを示した。)

〈炉〉 直径35cm程の焼土が2基検出された。北側の焼土が、床面より5cm低くなっている。

〈特殊施設〉 確認されなかった。

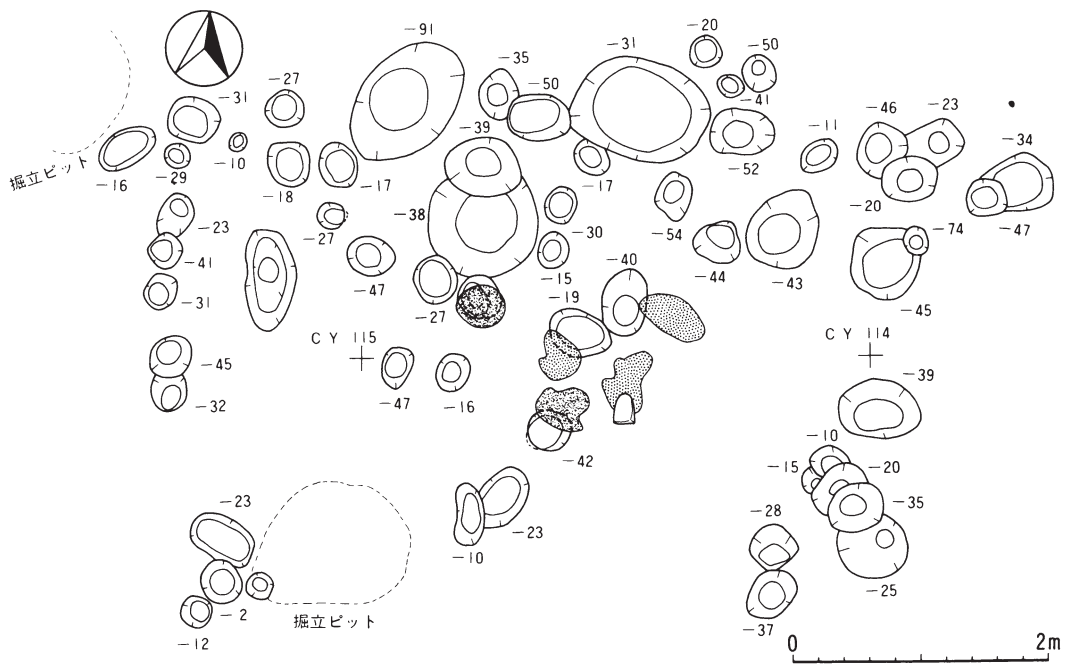
〈堆積土〉 掘り込みが浅いため確認できなかった。

〈出土遺物〉 土器は出土していない。石器は覆土から石鏃3点、石皿・台石類1点が出土している。



第535図 第230号住居跡(1)

(長崎 勝巳)



第536図 第230号住居跡(2)

第231号住居跡 (第537図)

〈位置と確認〉 C U-109グリッドに位置している。第38号住居跡の下位で確認した。

〈重複〉 第38・39号住居跡と重複しており、本住居のほうが古い。

〈平面形・規模〉 短軸2 m18cm、長軸2 m50cmの隅丸方形である。推定床面積は、4.2㎡である。

〈壁・床面〉 壁高は南壁8 cm、北壁4 cmで、第39号住居跡床面から5 cm前後低い。床面はほぼ平坦で、炉の周辺は若干堅い。

〈壁溝〉 確認できなかった。

〈柱穴〉 ピットは5個検出したが、柱穴配置は不明である。ピットの深さはP₁…8 cm、P₂…10cm、P₃…22cm、P₄…9 cm、P₅…15cmで浅い。

〈炉〉 床面のほぼ中央で、不整形な地床炉を検出した。

〈特殊施設〉 不明である。

〈堆積土〉 ローム粒を含む暗褐色土の堆積が見られた。

〈出土遺物〉 遺物は出土しなかった。

〈小結〉 本住居跡の時期は不明であるが、第38・39号住居跡より古いため、榎林式～最花式

期より以前に構築されたものと思われる。

(畠山 昇)

第232号住居跡 (第537・538図)

<位置と確認> C V-110グリッドで褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 北側を第233号住居跡、南西側で第289号住居跡と重複している。新旧関係は第233号住居跡より新しいが、第289号住居跡との新旧関係は把握できなかった。

<平面形・規模> 平面形は隅丸方形か円形に近いもので短軸1 m88cm、長軸1 m90cmで、長軸の北東端が20cmほど半円状に張り出している。推定床面積は、2.67㎡である。

<壁・床面> 壁高は、6～12cm前後で、掘り込みが浅い住居である。床面はほぼ平坦で、炉の周辺は硬く踏み締まっている。

<壁溝> 確認できなかった。

<柱穴> 7個のピットを検出した。いずれも浅いピットである。位置関係から柱穴と思われるのはP₂・P₄・P₇であるが、北側には、これと対応するピットは検出できなかった。ピットの深さは以下のとおりである。

P₁…10cm、P₂…23cm、P₃…15cm、P₄…7cm、P₅…10cm、P₆…11cm、P₇…21cm。

<炉> ほぼ中央で検出した。径25cm前後の円形を呈する小さな地床炉で、3cmほどくぼんでいる。北側にはロームの盛土(厚さ1cm)が馬蹄形状に囲っているのが見られた。

<特殊施設> 北東壁に張り出しが見られ、その部分は3～5cm前後くぼんでいる。

<堆積土> 褐色土を主体とした堆積が見られた。

<出土遺物> 床面および床面直上にかけて少量の遺物が出土した。土器は床面から、円筒上層e式土器が出土した。石器は床面直上から不定形石器1点、ピットから不定形石器3点が出土した。また床面から、石冠(第538図2)が出土した。

<小結> 本住居跡の時期は床面から出土した土器から、円筒上層e式期である。

(畠山 昇)

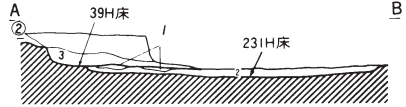
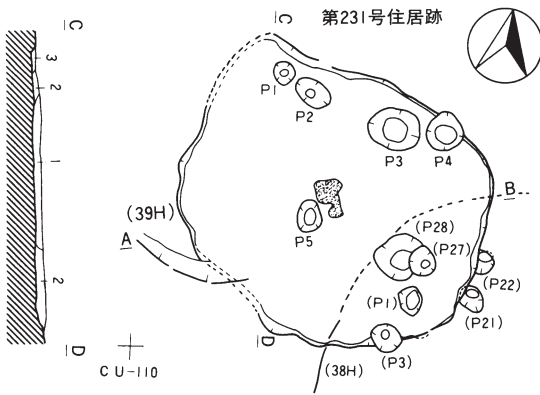
第233号住居跡 (第537・539図)

<位置と確認> C V・C W-110グリッドで、暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 南側が第232号住居跡と重複しており、本住居のほうが古い。

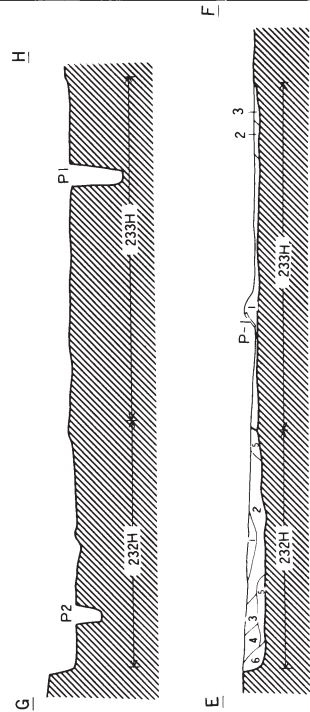
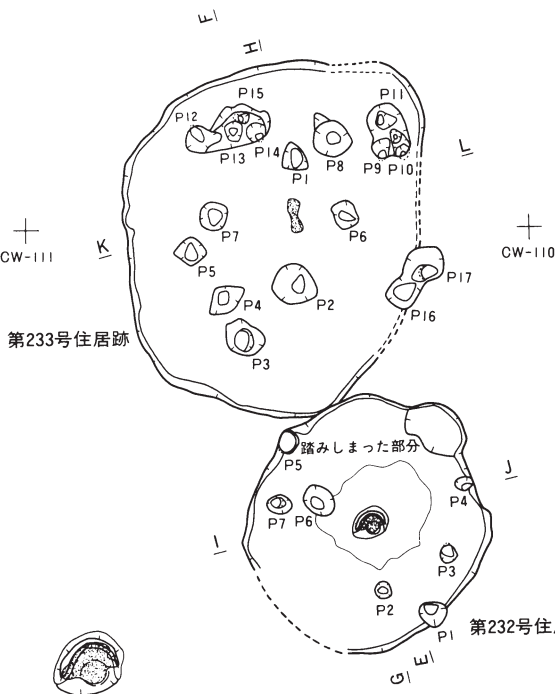
<平面形・規模> 東側の一部が確認できなかったが、短軸2 m30cm前後、長軸2 m97cmの不整楕円形もしくは五角形に近い形状である。推定床面積は、5.15㎡である。

<壁・床面> 壁高は南壁8cm、北壁3cmの浅い住居跡である。床面はほぼ平坦で、幾分軟らかである。



第231号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 □—△粒を少量含む
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 □—△粒を多量に含む
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 □—△粒少量含む。



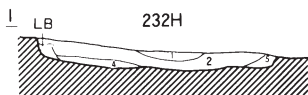
第232号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 □—△粒含む
- 第2層 褐色土 7.5YR4/4 □—△粒若干含む
- 第3層 褐色土 10YR4/6 □—△粒多量含む
- 第4層 黄褐色土 10YR5/8 □—△質
- 第5層 褐色土 10YR4/6 □—△粒若干含む
- 第6層 暗褐色土 7.5YR3/4 □—△粒若干含む

第233号住居跡土層注記

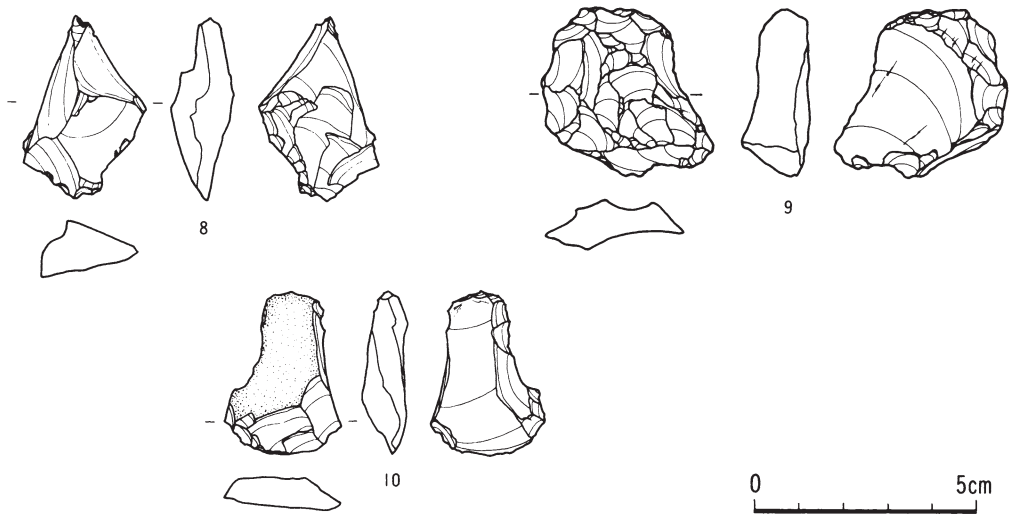
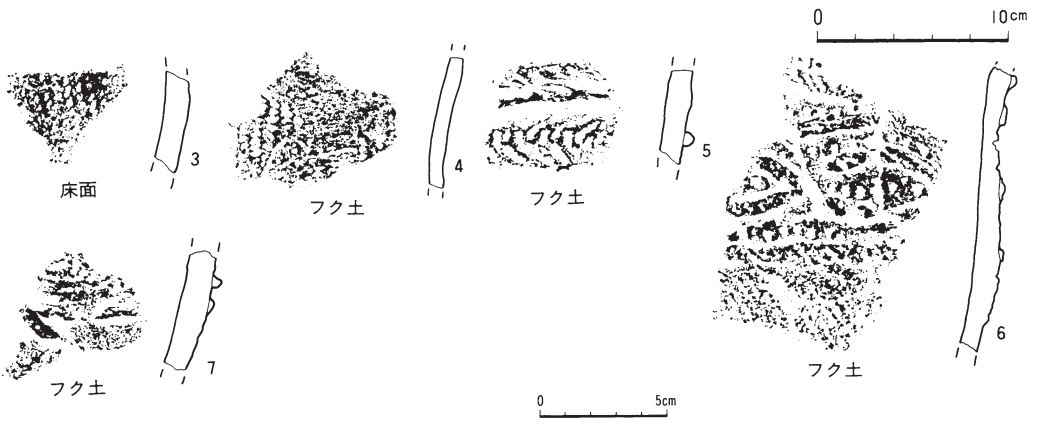
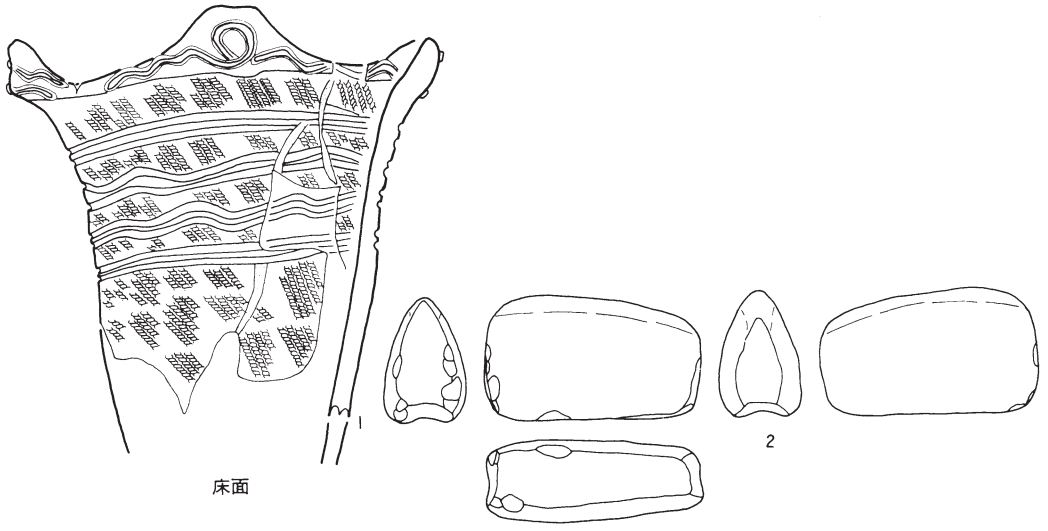
- 第1層 黄褐色土 10YR5/8 □—△粒多量含む
- 第2層 褐色土 10YR4/6 □—△粒多量含む
- 第3層 黄褐色土 10YR5/6 □—△粒多量含む

0 50cm

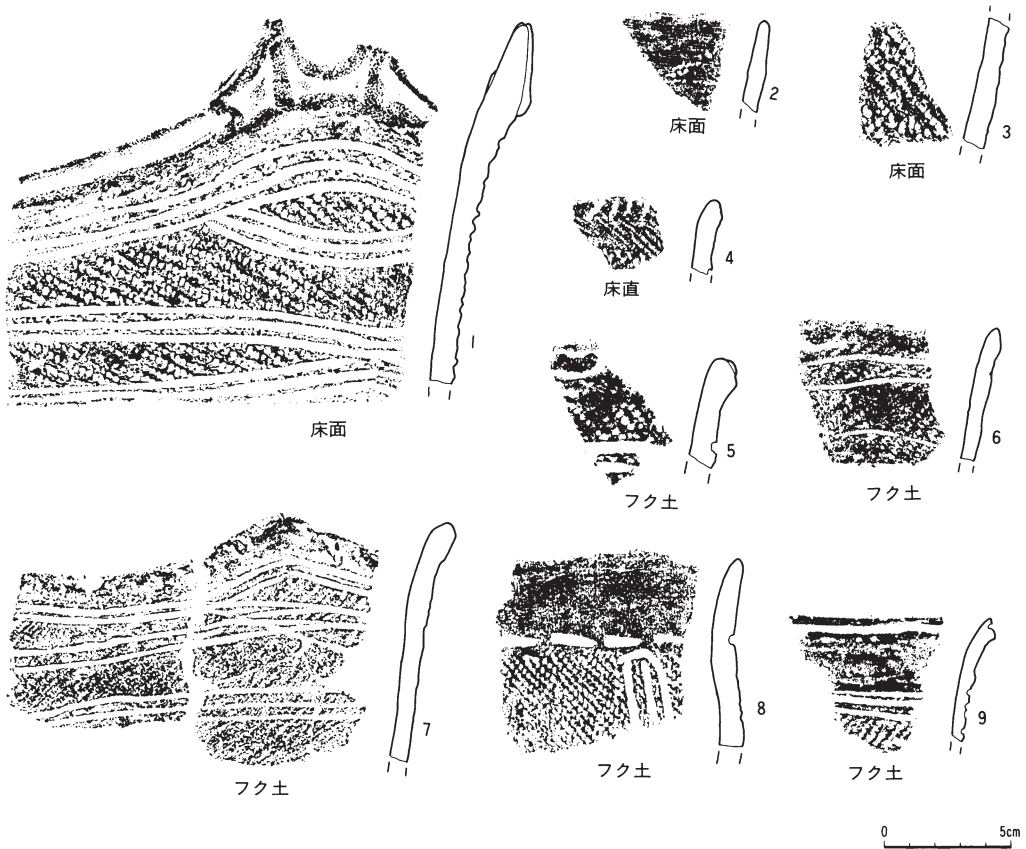


0 2m

第537図 第231・232・233号住居跡



第538図 第232号住居跡



第539図 第233号住居跡

<壁溝> 確認できなかった。

<柱穴> ピットは17個検出した。柱穴配置は不明である。各ピットの深さは、以下のとおりである。

P₁…32cm、P₂…28cm、P₃…29cm、P₄…26cm、P₅…18cm、P₆…11cm、P₇…26cm、P₈…54cm、P₉…39cm、P₁₀…22cm、P₁₁…41cm、P₁₂…34cm、P₁₃…31cm、P₁₄…17cm、P₁₅…18cm、P₁₆…13cm、P₁₇…48cm。

<炉> ほぼ中央で地床炉を検出した。

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> 全体に、ローム粒を多量に含む褐色～黄褐色土の堆積が見られた。

<出土遺物> 覆土から床面にかけて円筒上層e式～榎林式土器が少量出土した。

<小結> 本住居跡の時期は、円筒上層e式期と考えられる。

(畠山 昇)

第234号住居跡 (第540・541図)

<位置と確認> CX・CY-112・113グリッドで暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 第235・236・240号住居跡と重複しており、これらの住居跡より新しい。

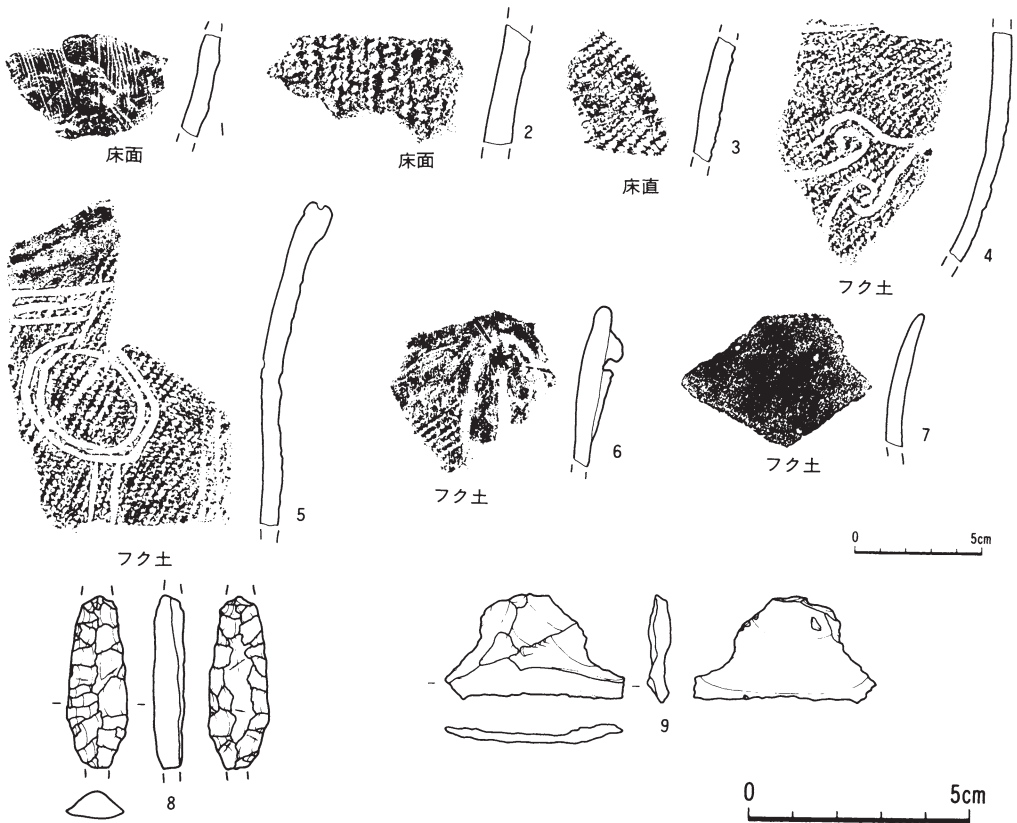
<平面形・規模> 東西に長軸を持つ楕円形で、短軸2m12cm、長軸2m60cmである。推定床面積は、4.12㎡である。

<壁・床面> 北側は第235住居の床面と5cm前後の高低差があるが、東西壁でははっきりしない。南側では緩やかに立ち上がり、第240号住居跡の床面より20cm低い。床面はほぼ平坦で、堅緻である。

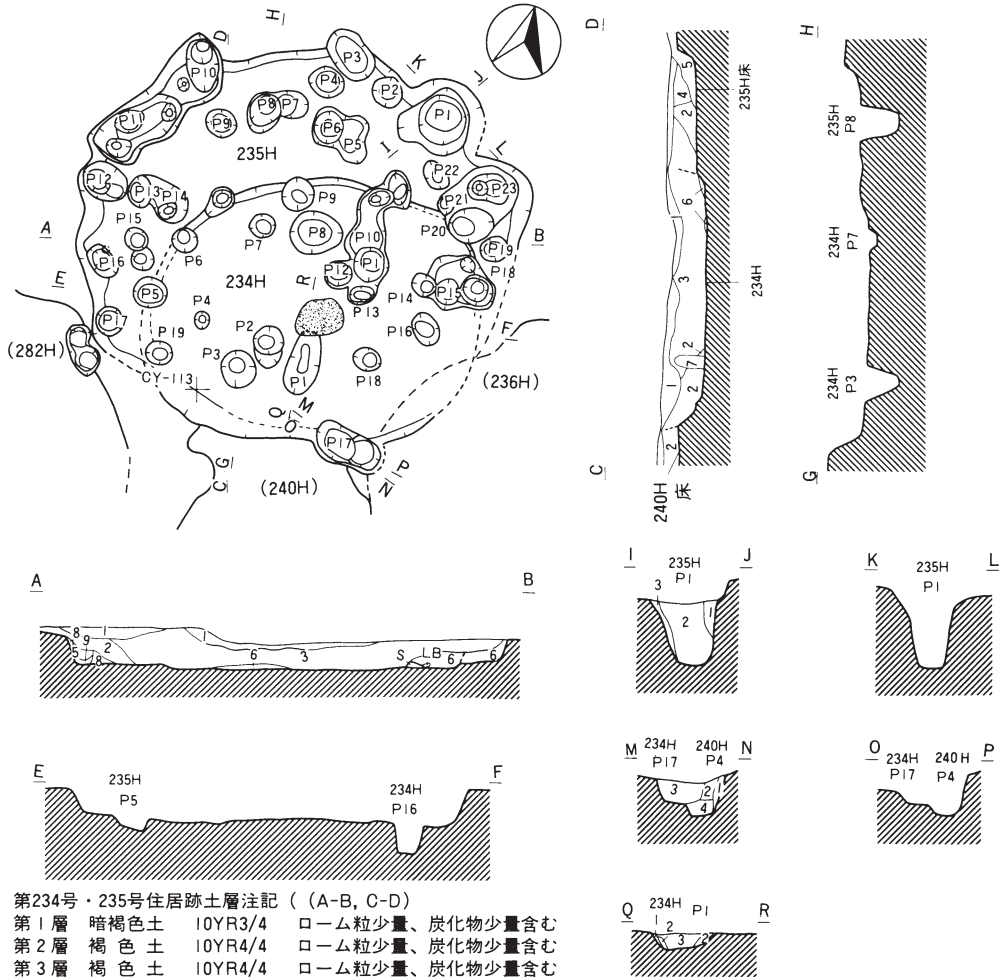
<壁溝> 検出できなかった。

<柱穴> 20個のピットを検出した。壁を切っているピットや、第235号住居跡のものもあるが、どのピットが本住居に伴うものか不明である。ピットの深さは以下のとおりである。

P₁…52cm、P₂…7cm、P₃…19cm、P₄…6cm、P₅…12cm、P₆…38cm、P₇…19cm、P₈…32cm、P₉…7cm、P₁₀…35cm、P₁₁…19cm、P₁₂…16cm、P₁₃…11cm、P₁₄…14cm、P₁₅…13cm、P₁₆…20cm、P₁₇…15cm、P₁₈…33cm。



第540図 第234号住居跡



第234号・235号住居跡土層注記 (A-B, C-D)

- | | | | |
|-----|------|---------|----------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒少量、炭化物少量含む |
| 第2層 | 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒少量、炭化物少量含む |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒少量、炭化物少量含む |
| 第4層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ローム粒多量、炭化物微量含む |
| 第5層 | 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒微量含む |
| 第6層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ローム粒多量含む |
| 第7層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒少量、炭化物少量含む |
| 第8層 | 黄褐色土 | 10YR5/6 | ロームに黒土が混じる |
| 第9層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ロームに黒土が混じる |

第235号住居跡 ビットI 土層注記 (I-J)

- | | | | |
|-----|------|---------|-------------|
| 第1層 | 黄褐色土 | 10YR5/6 | 炭化物少量含む |
| 第2層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 炭化物微量含む |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ロームと黒色土の混合土 |

第234号住居跡 ビット17 土層注記 (M-N)

- | | | | |
|-----|------|---------|----------|
| 第1層 | 褐色土 | 10YR4/6 | 炭化物微量含む |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 炭化物微量含む |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 炭化物微量含む |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒少量含む |

第234号住居跡 ビットI 土層注記 (Q-R)

- | | | | |
|-----|------|---------|----------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒微量含む |
| 第2層 | 黄褐色土 | 10YR5/6 | 炭化物微量含む |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 炭化物微量含む |

第541図 第234号・235号住居跡

<炉> ほぼ中央で検出した。径29～38cmの楕円形の地床炉である。

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> ローム粒及び炭化物を少量含む暗褐色～褐色土の堆積が認められたが、褐色土が大半を占めている。

<出土遺物> 覆土から床面に掛けて少量の遺物が出土した。土器は床面から縄文時代中期後葉の粗製土器、覆土から榎林式土器の破片が出土した。石器は、床面から不定形石器1点、床面直上から石鏃1点、覆土から石鏃1点、不定形石器1点が出土した。

<小結> 床面から本住居跡の時期を決定する良好な土器の出土が見られなかったので、時期を特定することは難しい。第235・236号住居跡より新しいことから、榎林式期の頃と思われる。

(畠山 昇)

第235号住居跡 (第541・542図)

<位置と確認> C X・C Y-112・113グリッドで、第234号住居跡と重複して確認した。

<重複> 南側で第234号住居跡と重複しており、本住居のほうが古い。

<平面形・規模> 第234号住居跡に切られて不明であるが、長軸3m20cm、短軸3m前後の楕円形か隅丸方形と思われる。推定床面積は、7.7㎡である。

<壁・床面> 南壁は不明であるが、壁高は20cm前後である。床面は平坦で、堅緻である。

<壁溝> 検出できなかった。

<柱穴> ピットは24個検出したが、本住居の周辺では、小ピットが多数検出された地域であるため、どのピットが本住居跡に伴うものか不明である。ピットの深さは、以下のとおりである。

P₁…13cm、P₂…10cm、P₃…30cm、P₄…9cm、P₅…11cm、P₆…14cm、P₇…6cm、P₈…9cm、P₉…17cm、P₁₀…14cm、P₁₁…30cm、P₁₂…17cm、P₁₃…13cm、P₁₄…17cm、P₁₅…15cm、P₁₆…27cm、P₁₇…17cm、P₁₈…3cm、P₁₉…12cm、P₂₀…16cm。

<炉> 不明である。

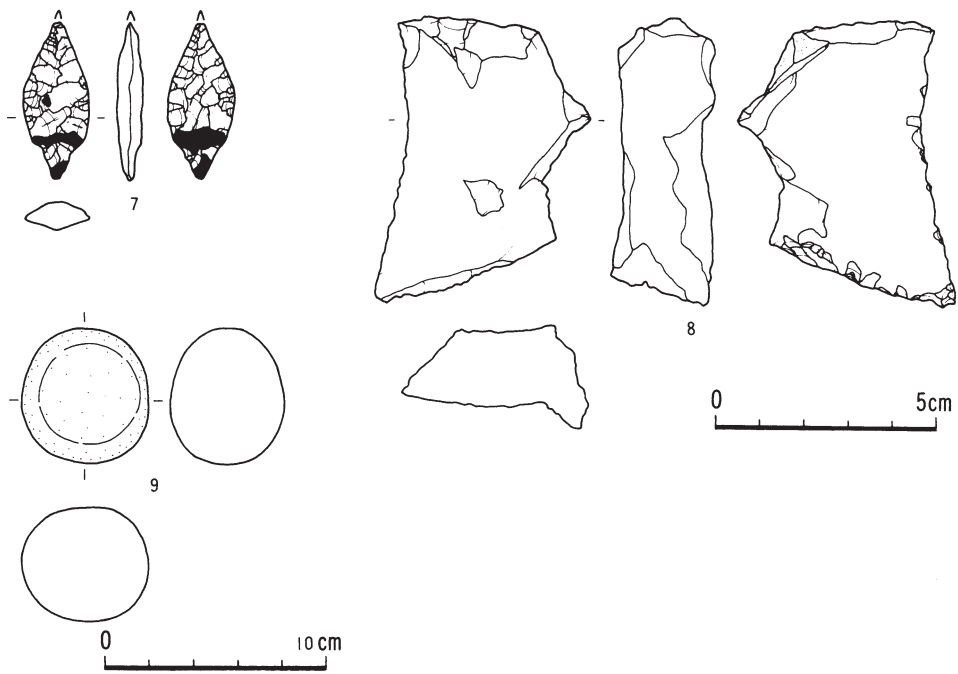
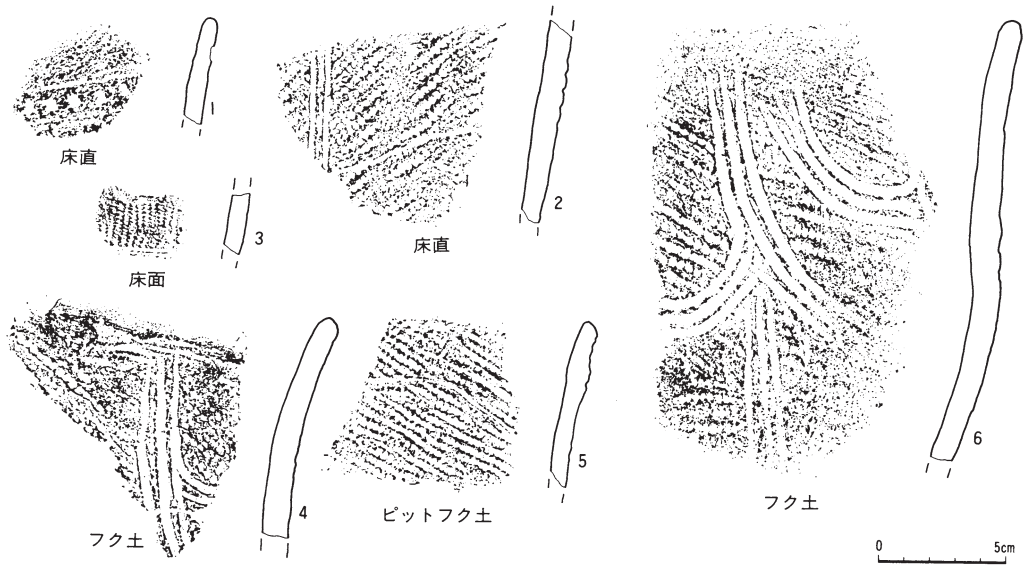
<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> 全体に、ローム粒を多量に含む褐色土を主体とした堆積が見られた。

<出土遺物> 覆土から床面に掛けて少量の遺物が出土した。土器は、床面・床面直上から榎林式と思われるものが出土した。石器は、覆土から石鏃1点、不定形石器1点、敲磨器類1点が出土した。

<小結> 本住居の時期は、床面からの出土土器及び住居跡の新旧関係から、榎林式期かそれ以前と考えられる。

(畠山 昇)



第542図 第235号住居跡

第236号住居跡 (第543・544図)

<位置と確認> CX-112グリッドで、多数の住居跡と重複して確認した。

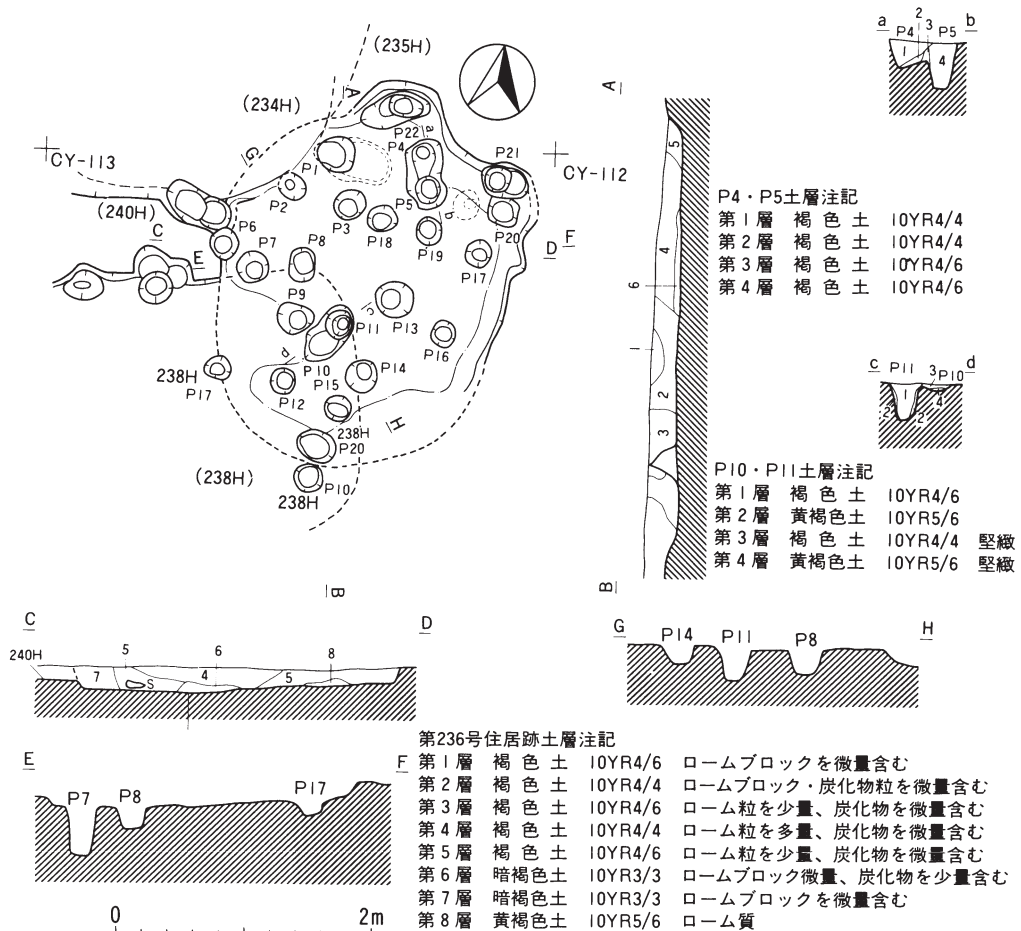
<重複> 第234号住居跡より古く、第297号住居跡より新しい。また、第238号住居跡の新旧関係は不明である。

<平面形・規模> 重複が激しく、平面形は不明であるが、残存部分から推定して、短軸2m30cm、長軸2m80cmの楕円形と思われる。推定床面積は、5.6㎡である。

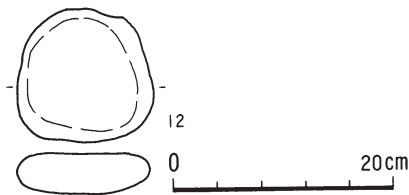
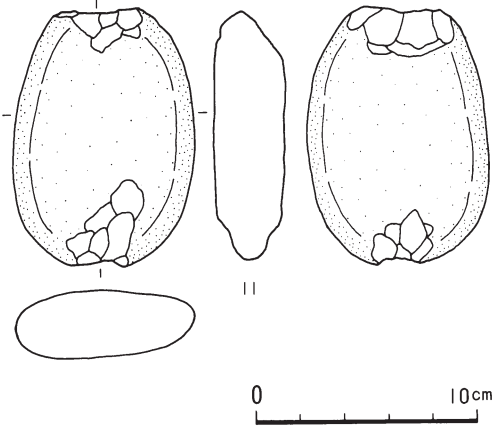
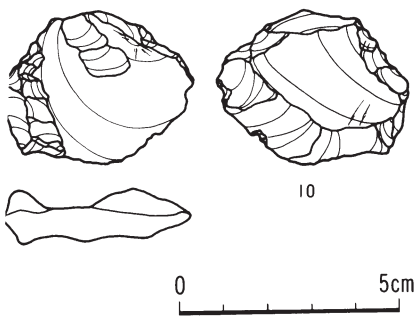
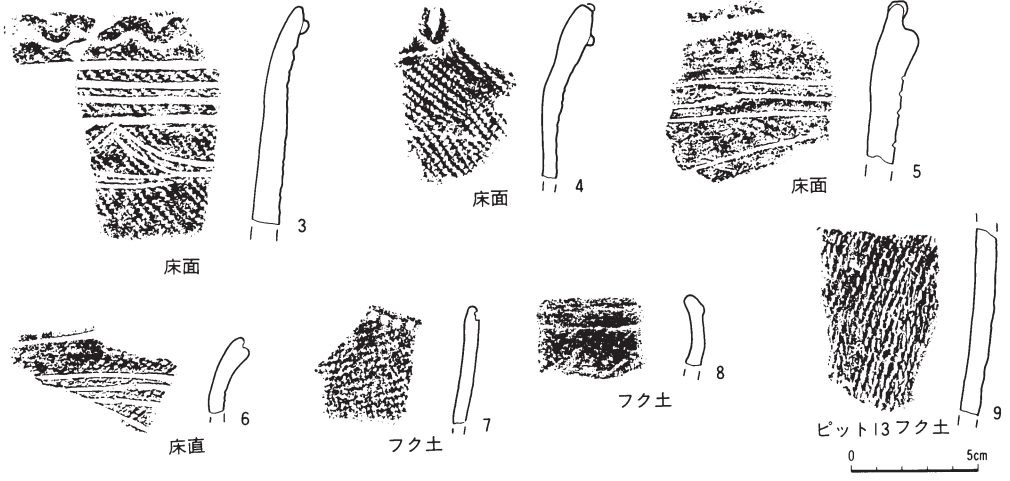
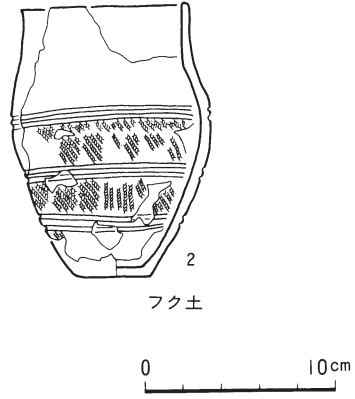
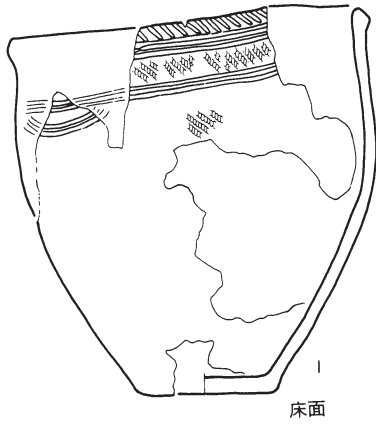
<壁・床面> 壁は北壁から東壁にかけて10cm前後の壁高を検出したが、それ以外は不明である。床面は、ほぼ平坦で、貼り床を広く確認した。また第240号住居跡の床面とは6cm前後、第238号住居跡とはレベル差はほとんど見られなかった。

<壁溝> 検出できなかった。

<柱穴> 22個のピットを検出した。また、貼り床下から2個のピットを検出した。このうち、



第543図 第236号住居跡(1)



第544図 第236号住居跡(2)

9個のピットは第238号住居跡との重複部分のものである。柱穴配置は不明である。ピットの深さは以下のとおりである。

P₁…30cm、P₂…13cm、P₃…31cm、P₄…25cm、P₅…37cm、P₆…12cm、P₇…40cm、P₈…19cm、P₉…12cm、P₁₀…6cm、P₁₁…30cm、P₁₂…10cm、P₁₃…44cm、P₁₄…14cm、P₁₅…15cm、P₁₆…11cm、P₁₇…12cm、P₁₈…28cm、P₁₉…4cm、P₂₀…9cm、P₂₁…23cm。

<炉> 検出されなかった。

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> 褐色土を主体とした堆積が認められた。

<出土遺物> 覆土から榎林式土器、床面から円筒上層e式土器が出土した。石器は、床面から敲磨器類1点、石錘1点、石皿1点、床面直上から不定形石器1点、ピットから不定形石器1点が出土した。

<小結> 本住居跡の時期は、床面から出土した土器から、円筒上層e式期と考えられる。

(畠山 昇)

第237号住居跡 (第545～548図)

<位置と確認> CW・CX-112・113グリッドに位置している。

<重複> 本住居跡は第238号、283号、295号、297号、310号住居跡より新しく、第239号、293号住居跡との新旧関係は不明である。また風倒木痕により南側が攪乱を受けている。

<平面形・規模> 重複により明瞭でないが、楕円形と思われる。長軸4m10cm、短軸約3m40cmである。推定床面積は10.2㎡である。

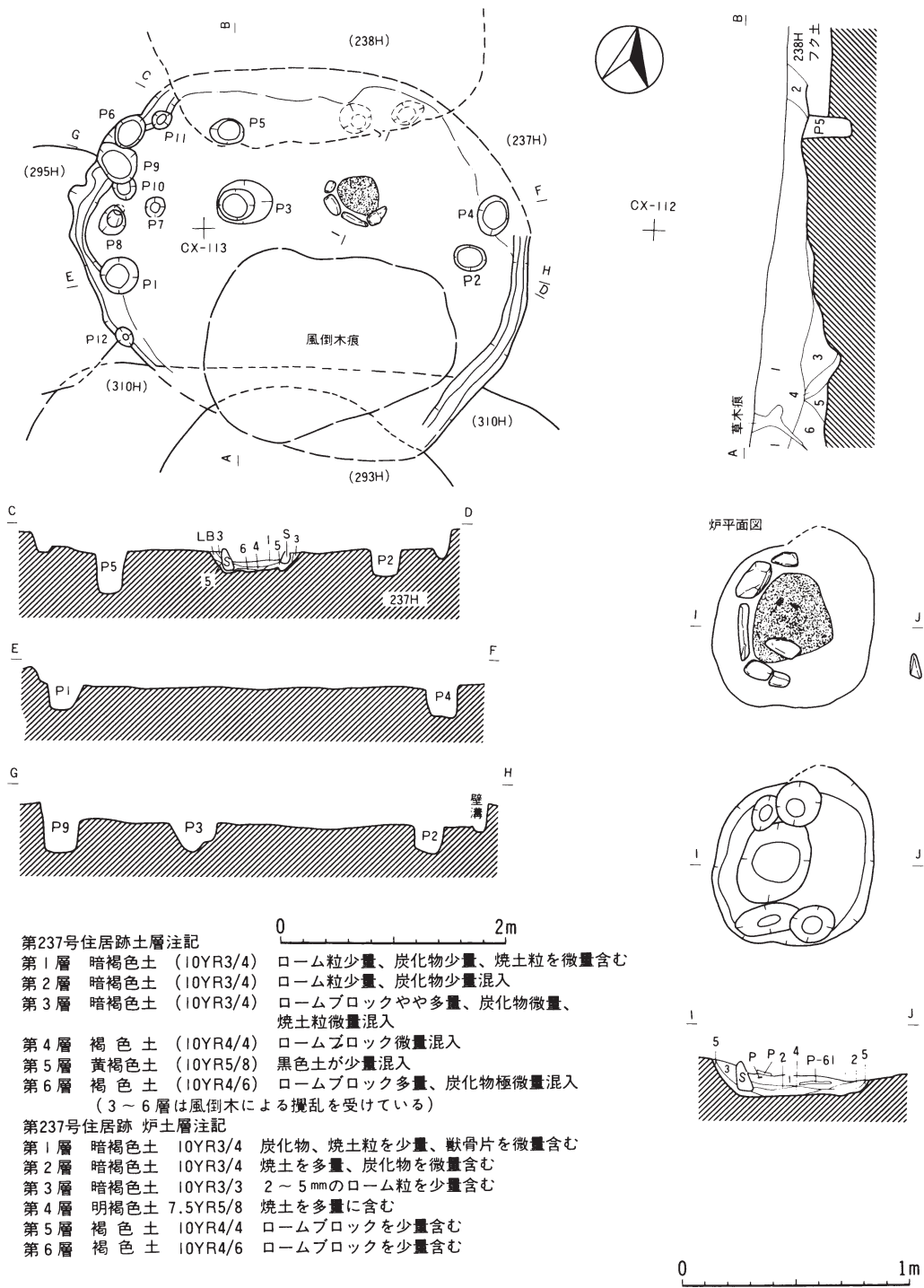
<壁・床面> 東西の壁のみ確認した。壁高は東壁18cm、西壁12cmである。張り床が壁溝の内側に施され、平坦で堅緻である。

<壁溝> 東西に確認した。幅15～20cmで、深さ5～10cmである。

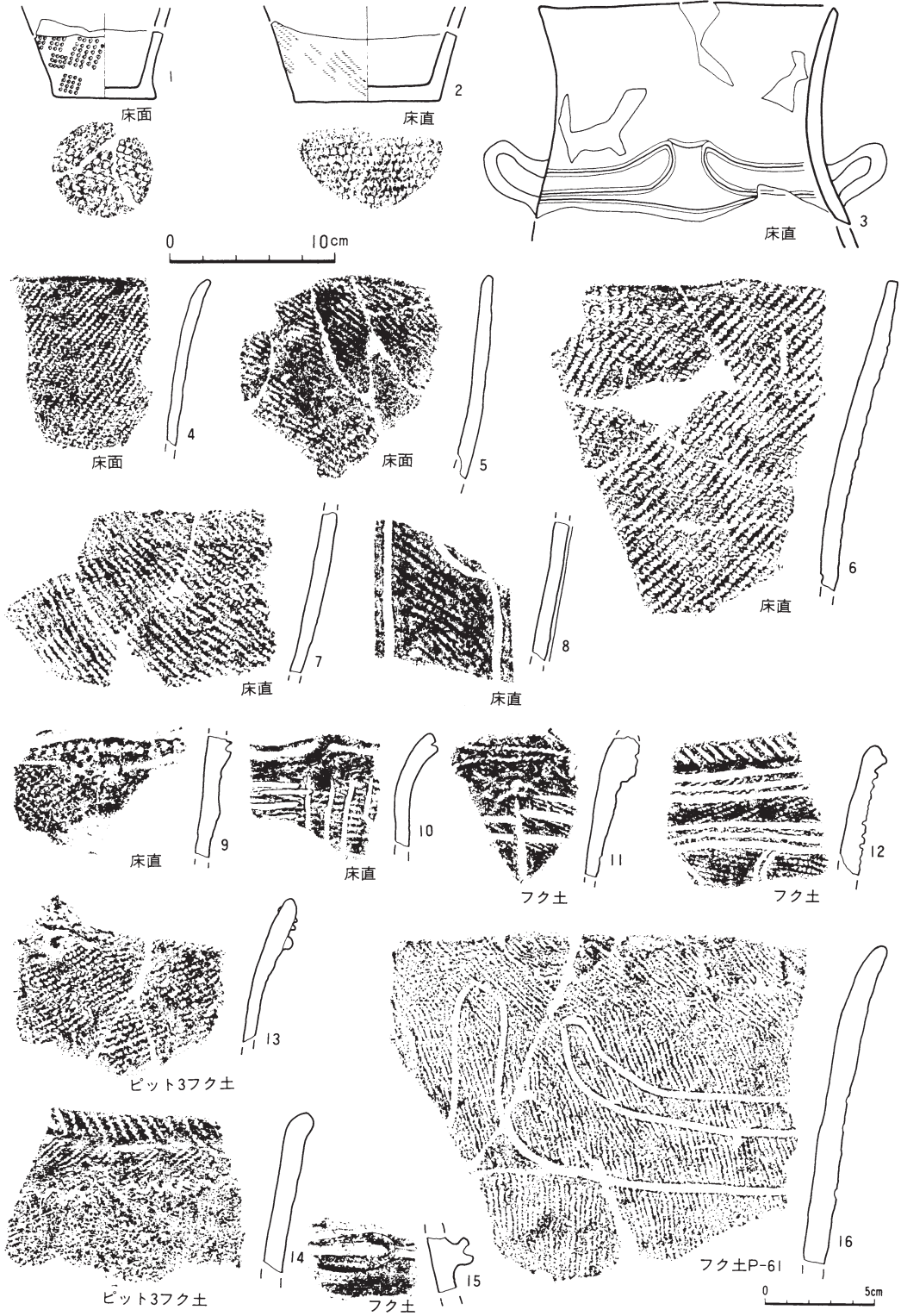
<柱穴> 床面から12個のピットを確認した。主柱穴はP₁、P₄、P₅と思われ、これに対応するピットは風倒木痕による攪乱により不明である。また床下から2個のピットを確認したが、第238号住居跡に伴うものと思われる。ピットの深さはP₁…25cm、P₂…25cm、P₃…24cm、P₄…26cm、P₅…29cm、P₆…29cm、P₇…10cm、P₈…51cm、P₉…32cm、P₁₀…8cm、P₁₁…14cm、P₁₂…10cmである。

<炉> 中央からやや北側に寄ったところで石囲炉を確認した。炉石は半円状またはコの字状に組まれている。炉石の抜き取り痕は確認できなかった。掘り方は70cm内外の円または隅丸方形で深さ6～17cmである。

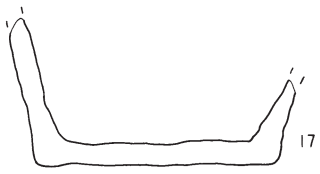
<特殊施設> 認められなかった。



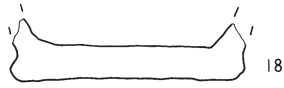
第545図 第237号住居跡(1)



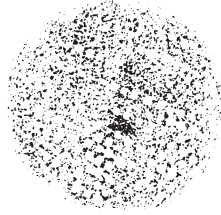
第546図 第237号住居跡(2)



床面



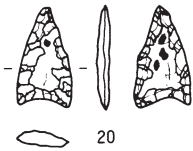
フク土



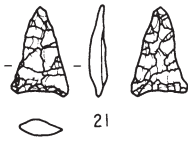
フク土



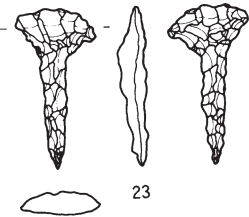
0 5cm



20



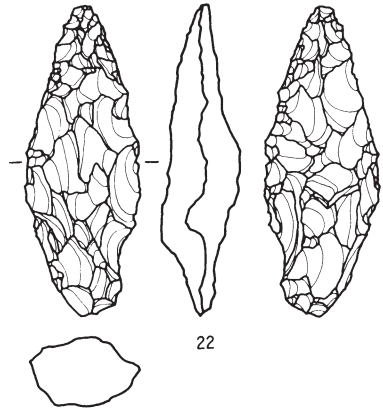
21



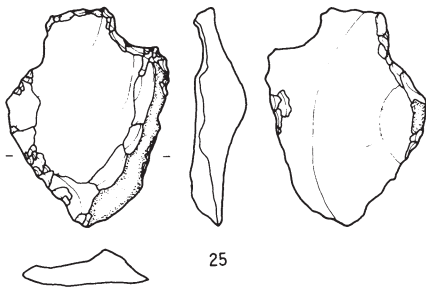
23



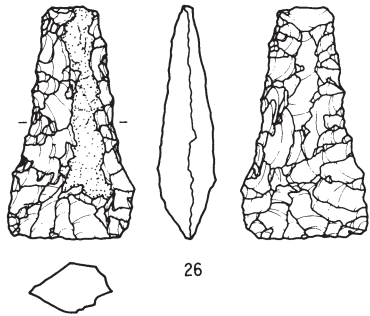
24



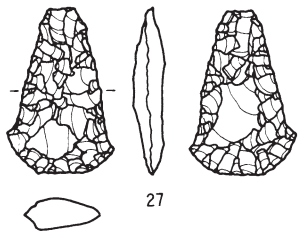
22



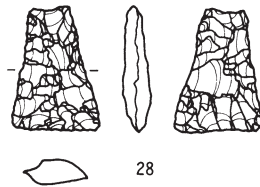
25



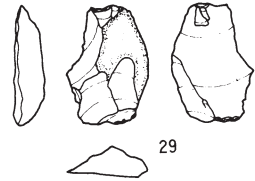
26



27



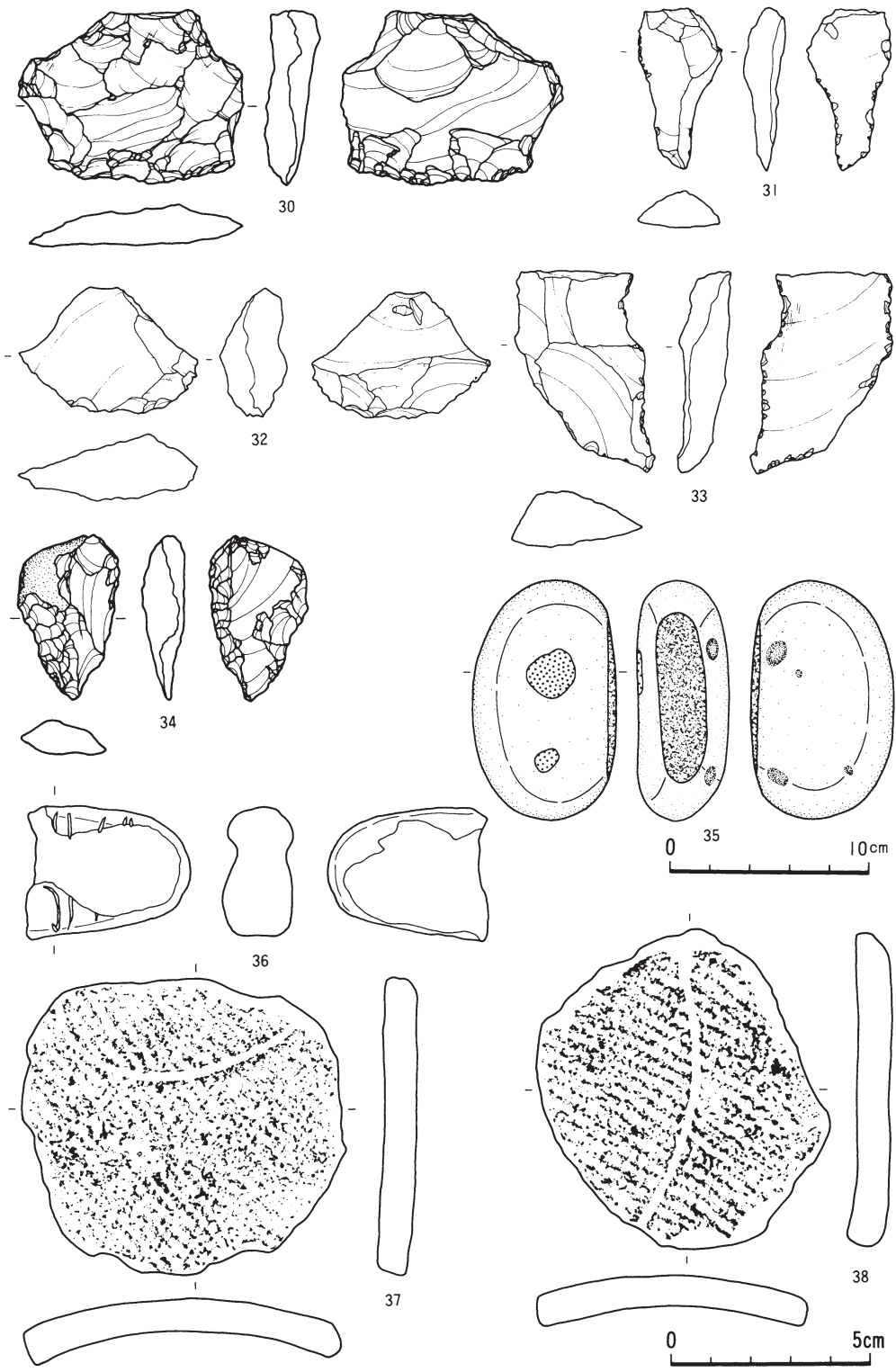
28



29

0 5cm

第547図 第237号住居跡(3)



第548图 第237号住居跡(4)

<堆積土> 6層に分層した。3～6層は風倒木により攪乱を受けている。全体に暗褐色土の堆積が見られた。

<出土遺物> 覆土から床面にかけて、やや多量の遺物が出土した。土器は覆土から円筒上層e式～弥栄平(1)式近辺の土器、床面からは榎林式土器が出土した。石器は床面から石鏃1点、石槍1点、石錐1点、石匙1点、石篋2点、不定形石器5点、敲磨器類1点、床面直上から石鏃1点、石錐1点、石篋1点、ピエス・エスキュー1点、不定形石器6点、覆土から不定形石器1点、石斧1点、ピット2から不定形石器1点出土し、総数25点である。また、床面から土器片利用製品2点、ピット3から土偶腕部1点出土している。

<小結> 本住居跡は、床面から出土した土器から榎林式期に構築されたと思われる。

(畠山 昇)

第238号住居跡 (第549・550図)

<位置と確認> CX-112グリッドに位置している。

<重複> 本住居跡は第236・237・240号住居跡より古い。

<平面形・規模> 重複により東側が不明瞭だが、東西に長い隅丸長方形と思われる。長軸約3m、短軸2m24cmである。床面積は推定で5.6㎡である。

<壁・床面> 壁高は東壁4cm、西壁30cm、南壁16～20cm、北壁12cmである。床面は平坦で内側に貼り床を確認した。

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 床面から20個のピットを確認した。柱穴配置は不明である。ピットの深さはP₁…25cm、P₂…46cm、P₃…11cm、P₄…7cm、P₅…11cm、P₆…12cm、P₇…40cm、P₈…13cm、P₉…12cm、P₁₀…20cm、P₁₁…7cm、P₁₂…7cm、P₁₃…7cm、P₁₄…16cm、P₁₅…20cm、P₁₆…22cm、P₁₇…12cm、P₁₈…18cm、P₁₉…26cm、P₂₀…21cmである。

<炉> 検出されなかった。

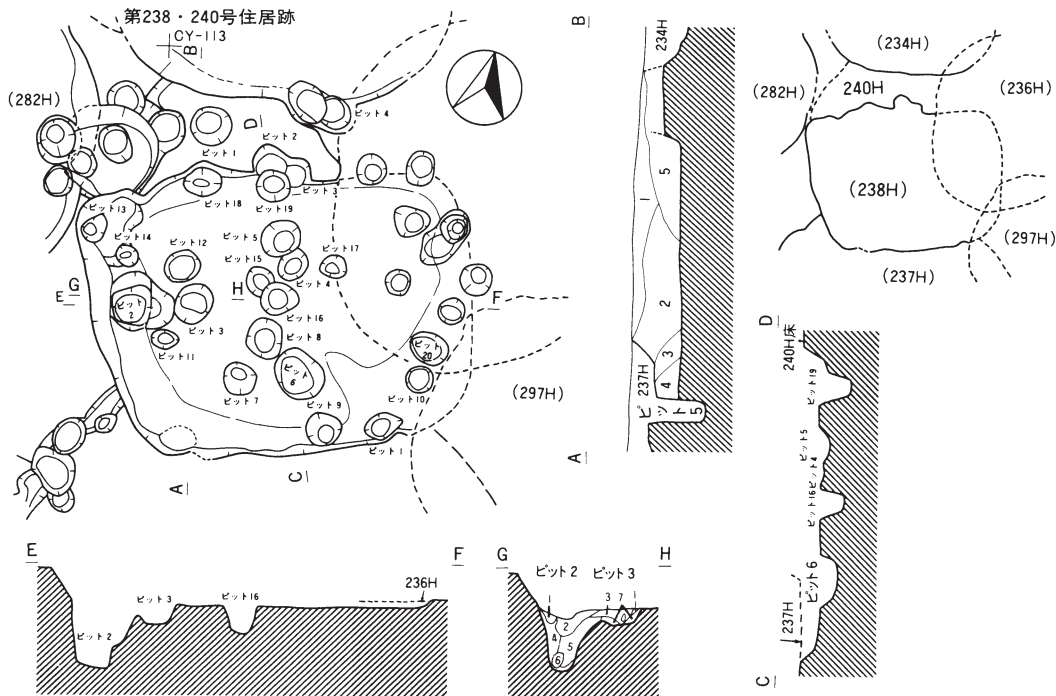
<特殊施設> 認められなかった。

<堆積土> 上部に暗褐色土、下部に褐色土が堆積している。南側壁際にはローム粒・塊を多く含む。

<出土遺物> 床面から円筒上層系の土器が出土している。石器は床面から石槍1点、床面直上から石鏃1点、敲磨器類2点、覆土から石鏃3点、不定形石器1点、敲磨器類1点、総数9点出土している。また、床面から硬玉(第550図10)が1点出土している。

<小結> 本住居跡の時期は、床面から出土した土器から円筒上層系(c～e式期)に構築された可能性が高い。

(畠山 昇)



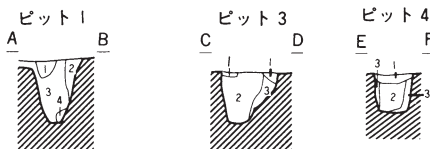
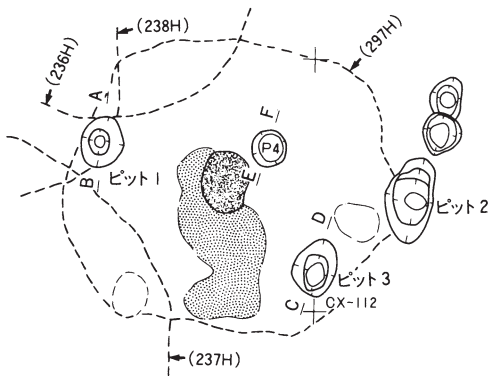
第238号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物少量含む
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・塊少量、炭化物、焼土微量含む
- 第3層 褐色土 10YR4/4 ローム粒多量、炭化物微量含む
- 第4層 褐色土 10YR4/4 ローム粒・塊多量、炭化物微量含む
- 第5層 褐色土 10YR4/4 ローム粒・塊少量、炭化物微量含む

ピット2 ピット3 土層注記

- 第1層 褐色土 10YR4/4
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4
- 第4層 黄褐色土 10YR5/6
- 第5層 黄褐色土 10YR5/6
- 第6層 黄褐色土 10YR5/6
- 第7層 褐色土 10YR4/4

第239号住居跡



ピット1 土層注記

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4
- 第2層 褐色土 10YR4/4
- 第3層 褐色土 10YR4/4
- 第4層 黄褐色土 10YR5/6

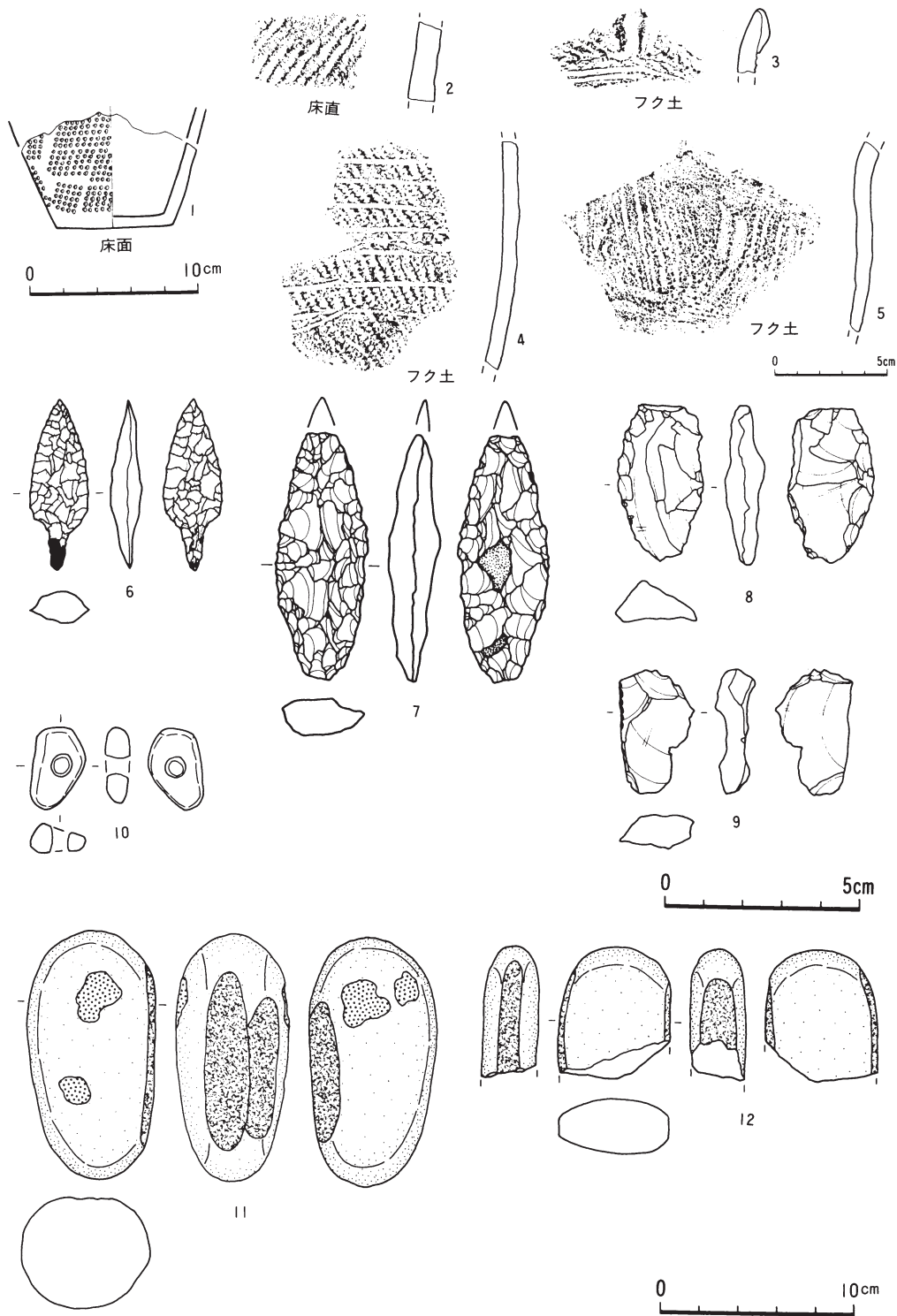
ピット3 土層注記

- 第1層 褐色土 10YR4/4
- 第2層 褐色土 10YR4/4
- 第3層 褐色土 10YR4/6

ピット4 土層注記

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4
- 第2層 褐色土 10YR4/4
- 第3層 褐色土 10YR4/6

第549図 第238・239・240号住居跡



第550図 第238号住居跡

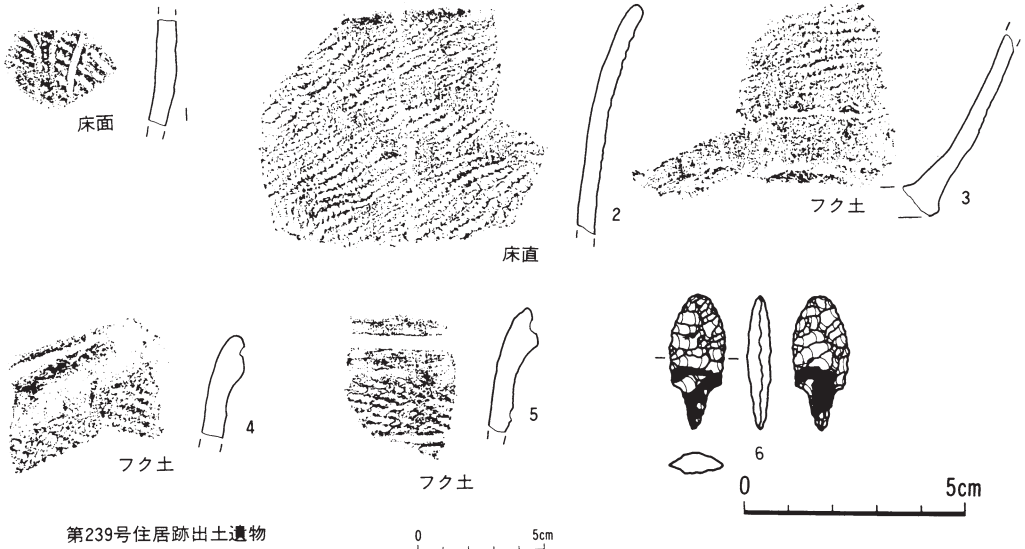
第239号住居跡（第549・551図）

<位置と確認> CX-112グリッドに位置している。

<重複> 第297号住居跡の上であり本住居跡が新しい。

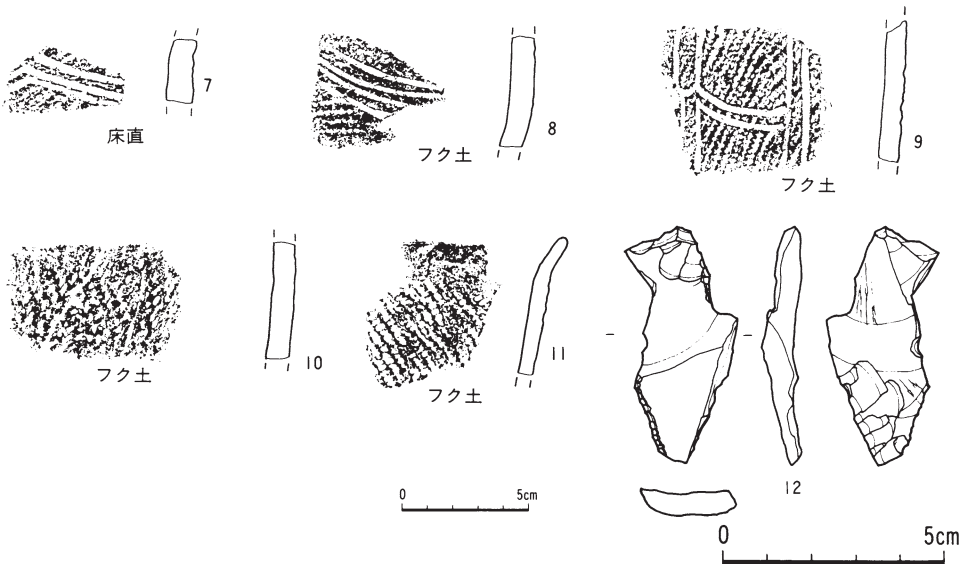
<平面形・規模> 重複により不明である。

<壁・床面> 壁は確認できなかった。褐色土中に床面を構築しており、炉の周辺に部分的に貼り床を確認した。貼り床は若干軟弱な造りである。



第239号住居跡出土遺物

第240号住居跡出土遺物



第551図 第239・240号住居跡

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 床面から6個のピットを確認した。本住居に伴うものか不明である。ピットの深さはP₁…64cm、P₂…50cm、P₃…40cm、P₄…30cm、P₅…30cm、P₆…30cmである。

<炉> 地床炉で褐色土中のため幾分脆い。楕円形で長軸50cm、短軸37cmである。

<特殊施設> 認められなかった。

<堆積土> 確認できなかった。

<出土遺物> 覆土及び床面から、榎林式土器と思われる土器が出土している。石器は、床面から不定形石器1点、床面直上から不定形石器1点、覆土から石鏃1点、不定形石器4点が出土し、総数7点である。

<小結> 本住居跡の時期は、床面から出土した土器から榎林式期と思われる。(畠山 昇)

第240号住居跡 (第549・551図)

<位置と確認> CX-112グリッドに位置している。重複により痕跡として残った住居跡である。

<重複> 第234・236・238号住居跡より古い。

<平面形・規模> 重複により不明である。

<壁・床面> 壁は確認できなかった。残存部の床面は平坦である。

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 床面から4個のピットを確認した。ピットの深さはP₁…25cm、P₂…21cm、P₃…14cm、P₄…40cmである。

<炉> 残存部には認められなかった。

<特殊施設> 残存部には認められなかった。

<堆積土> 確認できなかった。

<出土遺物> 床面直上から榎林式土器が出土している。石器は床面直上から不定形石器1点が出土している。

<小結> 本住居跡の時期は不明であるが、住居跡の新旧関係から円筒上層e式期以前に構築された可能性が高い。(畠山 昇)

第241号住居跡（第552～555図）

本住居跡は、特殊施設と壁の一部を造り替えており、造り替える前の特殊施設をもつ住居跡を241A号、造り替えた後の住居を241B号と名称を付した。

<位置と確認> 調査区中央部のDG・DF-125・126グリッドに位置している。

<重複> 認められなかった。

<平面形・規模> 北壁側は調査区域外のため調査できなかつたが、241A号は、東西に長い楕円形のプランと思われる。規模は長軸3m82cm、短軸は未調査のため不明である。241B号は東壁中央に張り出しをもつ楕円形のプランと思われる。規模は長軸5m99cmである。

<壁・床面> 壁面はほぼ垂直に立ち上がっている。壁高は東壁30cm、西壁26cm、南壁30cmである。床面はほぼ平坦で全体的に締まっている。

<壁溝> A号とB号の重複部分のA号の壁の部分には壁溝がみられず、特殊施設を造り替える際に壁溝も掘られたものと思われる。したがってA号とB号の共通部分にみられる壁溝はB号に伴うもので、A号には伴わないものと思われる。北西のコーナー部分には壁溝はみられない。幅8cm、深さは3cm程である。

<柱穴> ピット1とピット2が支柱穴と考えられる。ピット5も配置は良くないが形態、深さを考えると支柱穴の可能性はある。A号、B号ともに同じピットを支柱穴に使用していたものと思われる。

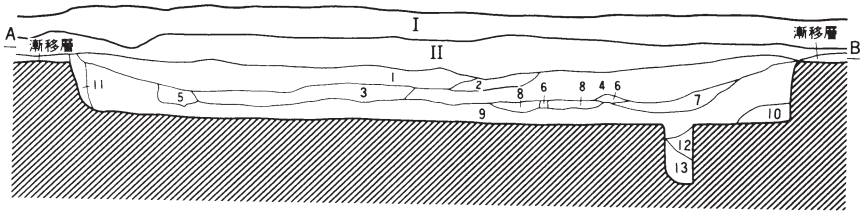
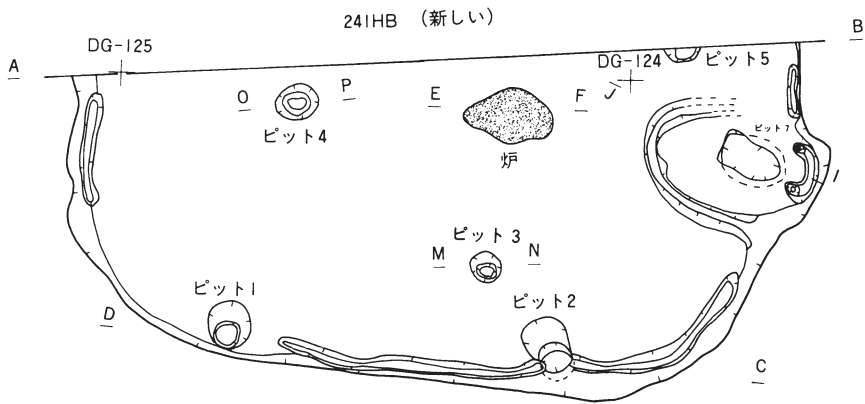
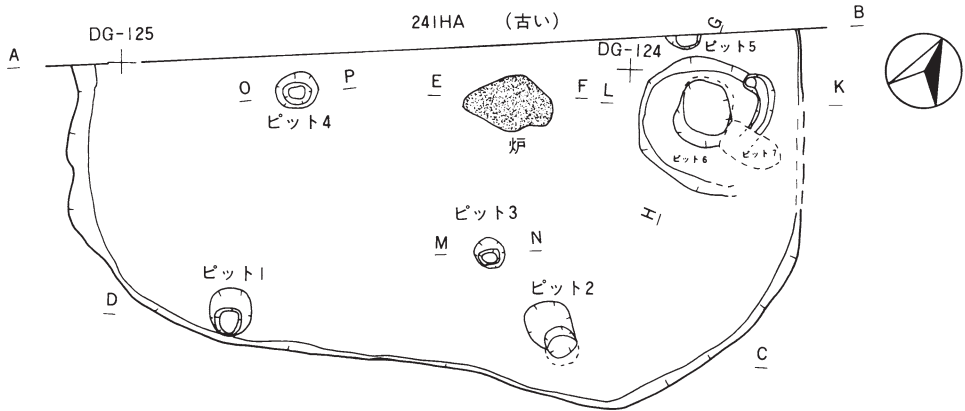
<炉> 住居の長軸線上やや東寄りに位置する。形態は不整な楕円形で、皿状に窪む地床炉である。規模は長径70cm、短径44cmである。炉もA号、B号共通であると思われる。

<特殊施設> 東壁中央に、ピットの縁に周堤を巡らし、壁際に両端がやや深いU字型の溝がある特殊施設がみられた。この特殊施設は造り替えられている。A号に伴うものは地山を削りだしてあり、周堤というより皿状の窪みの中にピットを穿ったものである。窪みの幅は1m5cm程である。B号に伴うものは黄色の砂質土を貼って周堤を構築しており、周堤の幅は9～18cmで高さは3～6cmである。壁際にあるU字型の溝は、特殊施設のなかでも他にあまり例がみられないものである。

<堆積土> 13層に分けられたが第12、13層はピットの覆土である。断面観察等から自然堆積と思われる。

<出土遺物> 遺物は、すべて第241Bの住居跡から出土した。(1)・(6)が床直から出土し、他は覆土からの出土である。石器は、覆土から石鏃4点・石槍1点・石錐1点・不定形石器12点・敲磨器類2点・台石石皿1点・軽石製品1点・琥珀(数点)、特殊施設から不定形石器2点、床直から石鏃2点・石錐1点・石篋1点・不定形石器4点の総数32点が出土した。

<小結> 床直の土器から榎林式期の住居跡と思われる。(羽柴 直人)



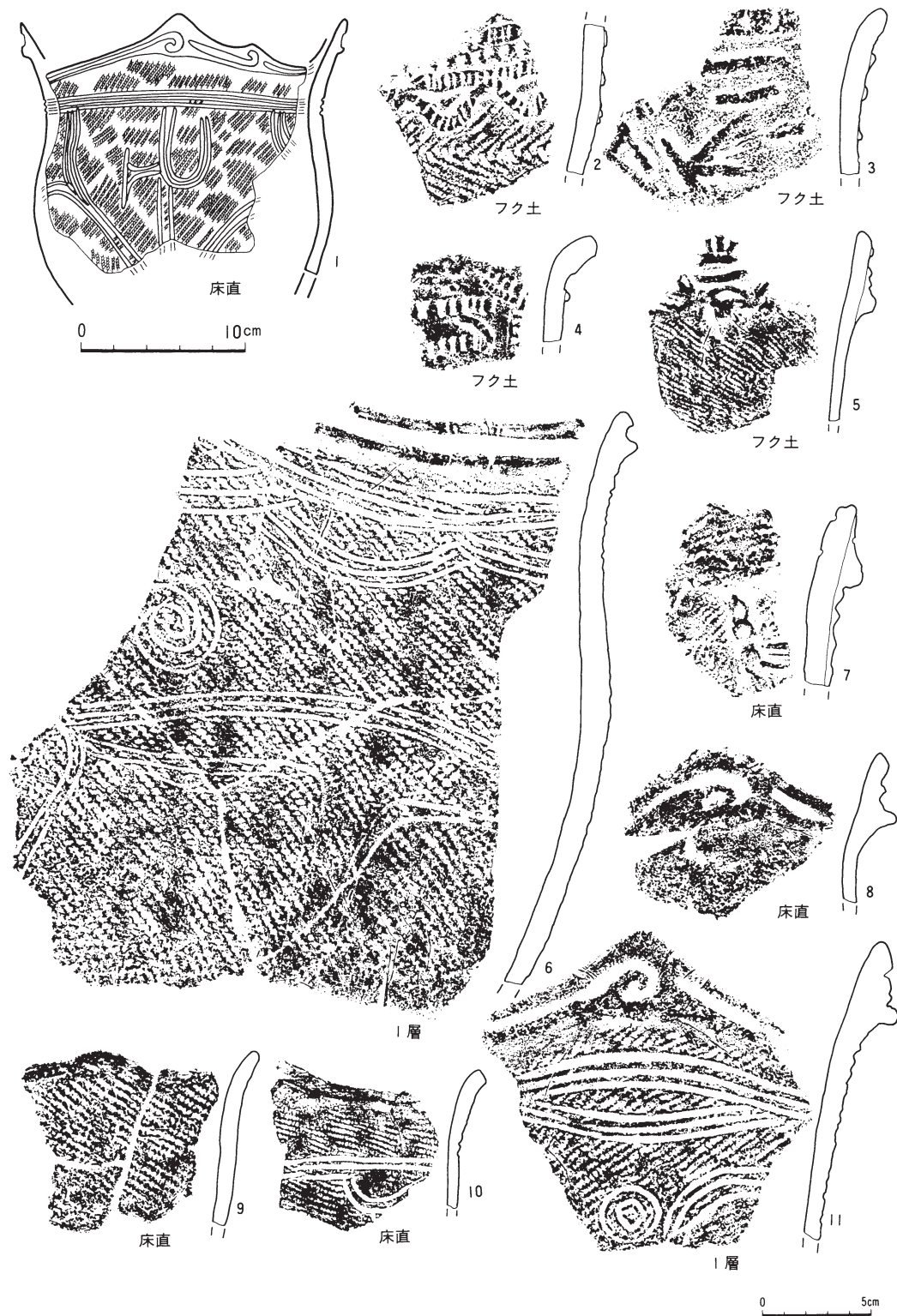
第241号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物、焼土粒、L、B少量含む
- 第2層 褐色土 10YR4/4
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物、焼土粒、ローム粒少量含む
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物、ローム粒、L、B少量含む
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒、L、B少量含む
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物、L、B少量含む
- 第7層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物、ローム粒少量含む
- 第8層 褐色土 10YR4/6 L、B多量含む
- 第9層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物、焼土粒少量、L、B、ローム粒多量含む
- 第10層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物、ローム粒多量含む
- 第11層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物少量含む
- 第12層 褐色土 10YR4/6 ローム粒多量含む
- 第13層 褐色土 10YR4/4 ローム粒多量含む

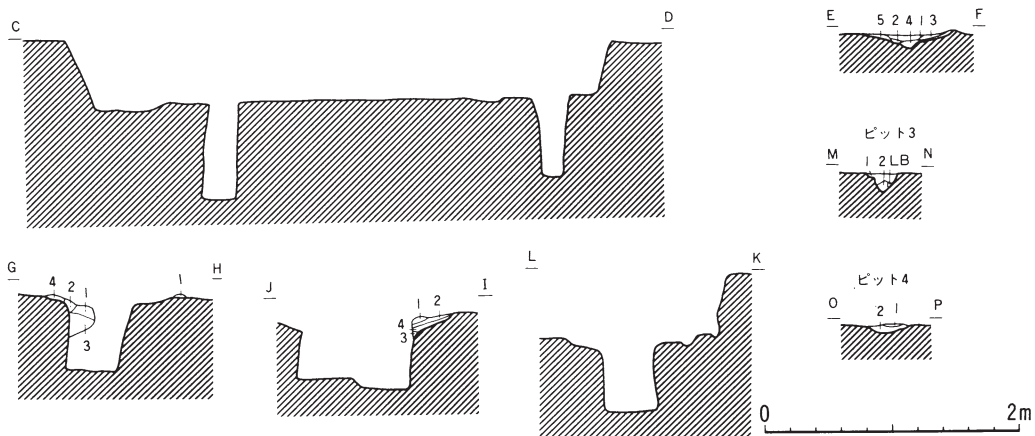
ピット計測表 241H

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	円形	36	79
2	円形	52	69
3	円形	24	16
4	円形	28	11
5	円形	23	50
6	円形	48	41
7	楕円形	51	58

第552図 第241号住居跡(1)



第553図 第241号住居跡(2)



第241号住居跡 炉土層注記

- 第1層 黒褐色土 10YR3/1 明黄褐色ローム粒、明赤褐色土少量、炭化物少量混入
- 第2層 橙色土 5YR6/8 黒褐色土多量、5YR5/8明赤褐色土少量混入
- 第3層 褐色土 10YR4/4 明黄褐色ローム少量、5YR6/8橙色土少量混入
- 第4層 褐色土 10YR4/4 炭化物、2.5YR5/8明赤褐色焼土少量混入
- 第5層 明赤褐色土 10YR5/8 焼土。ロームが火熱をうけたもの

第241号住居跡特殊施設土層注記

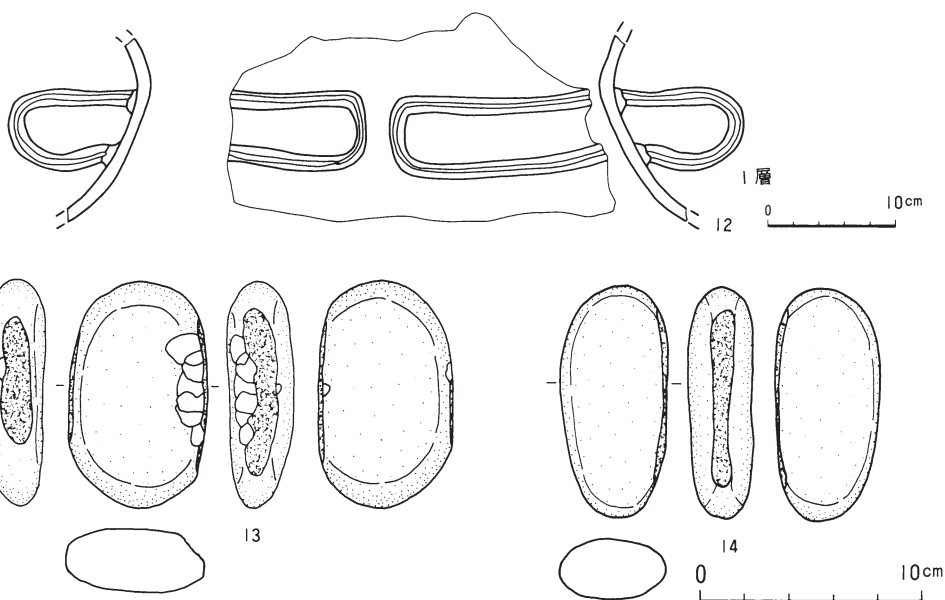
- 第1層 黄橙色 10YR7/8 10YR4/4褐色土多量含む
- 第2層 褐色土 10YR4/4 10YR7/8黄橙色砂質土少量混入
- 第3層 褐色土 10YR4/4
- 第4層 黄橙色 10YR7/8 10YR4/4褐色土少量含む

第241号住居跡 ビット3 土層注記

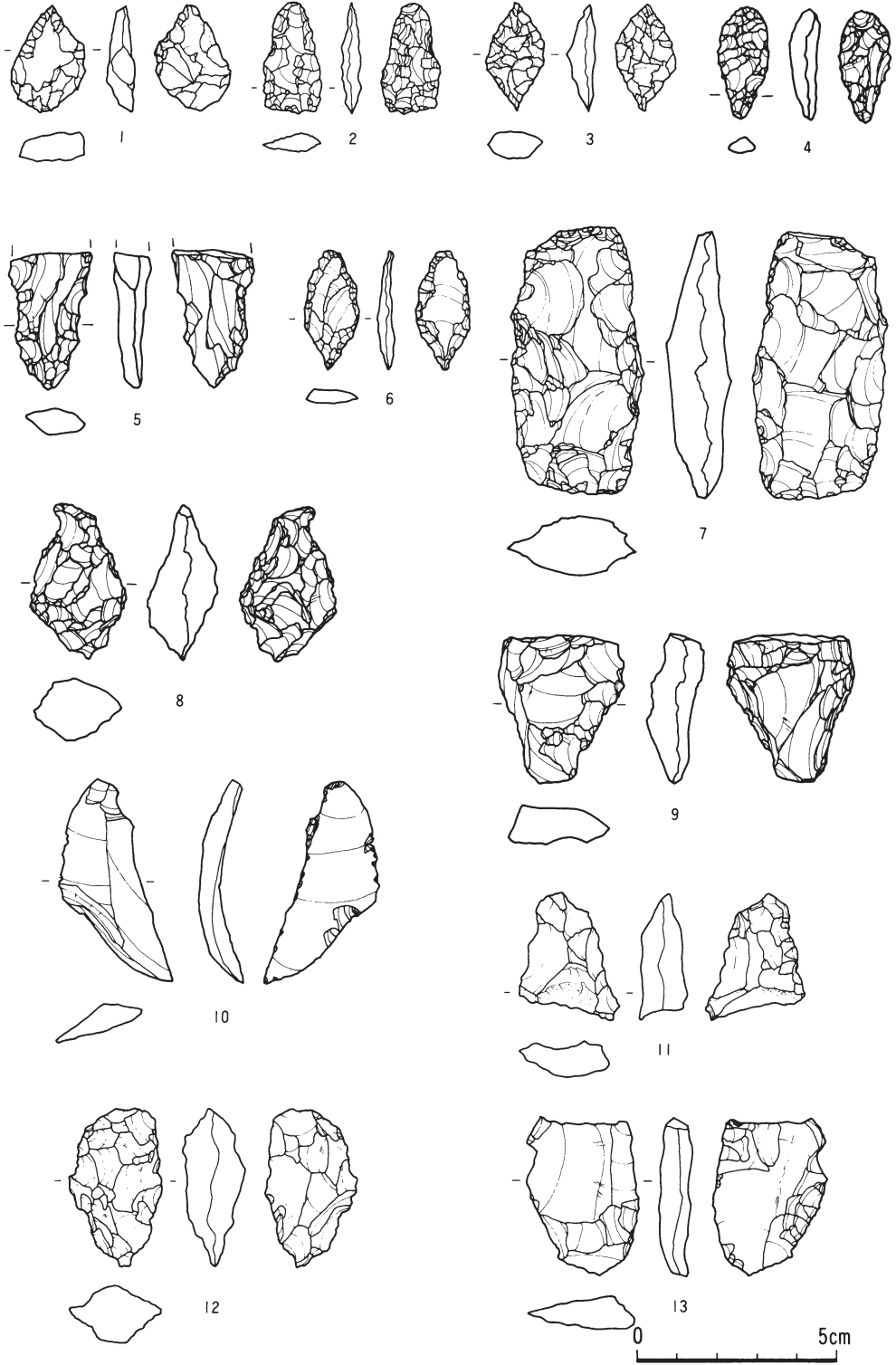
- 第1層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物少量、L、B多量混入
- 第2層 明褐色土 7.5YR3/4 明褐色土少量混入
- 第3層 明褐色土 7.5YR5/6

第241号住居跡 ビット4 土層注記

- 第1層 黄褐色土 10YR5/8 砂少量混入
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化材少量、黄橙色ローム少量混入



第554図 第241号住居跡(3)

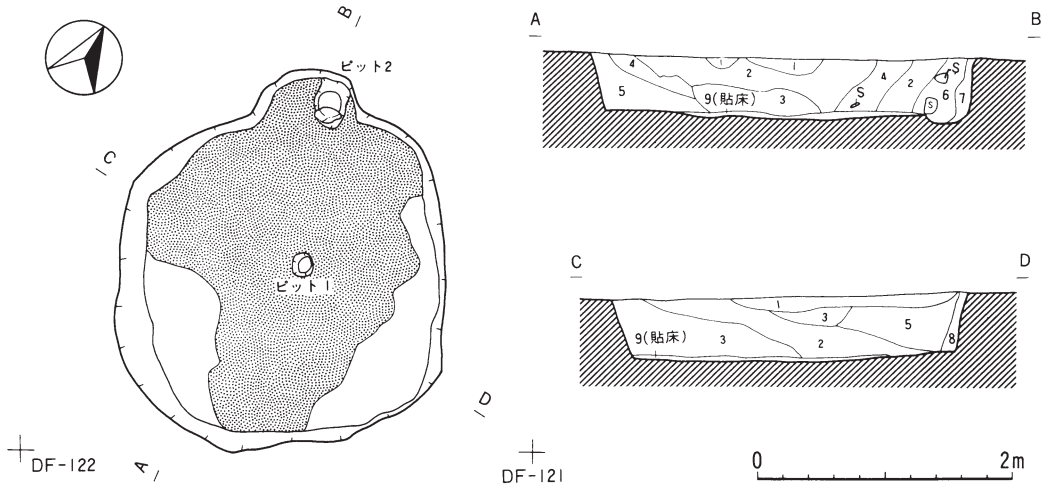


第555图 第241号住居跡(4)

第242号住居跡 (第556～558図)

<位置と確認> 調査区DF-120グリッドで、調査区中央部台地平坦面に位置している。

<重複> 認められなかった。



ピット計測表 242H

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	円形	18	4
2	円形	38	11

第242号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 粘土 10YR5/8ローム粒少量混入
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 粘土 10YR5/8ローム粒多量混入
- 第3層 褐色土 10YR3/3 粘土 10YR5/8ローム粒多量混入
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 粘土 ローム粒微量混入
- 第5層 褐色土 7.5YR4/4 粘土 ローム粒多量混入
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 粘土 ローム粒中量混入
- 第7層 暗褐色土 10YR3/4 粘土
- 第8層 褐色土 10YR4/6 ローム
- 第9層 明褐色土 7.5YR5/6 貼床。ローム。10YR4/4褐色粘土混入。砂少量混入

第556図 第242号住居跡(1)

<平面形・規模> 北壁中央が張り出して、やや角張った円形を呈する。規模は長軸2m95cm、短軸2m56cmである。

<壁・床面> 壁面はほぼ垂直に立ち上がっている。壁高は東壁50cm、西壁48cm、南壁46cm、北壁48cmである。床面はほぼ平坦で、南西、南東隅を除き貼り床を施している。

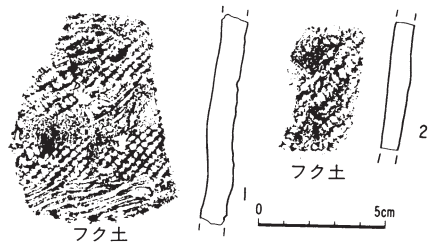
<壁溝> 存在しない。

<柱穴> 床面中央部と北壁張り出し部でピットを検出したが、柱穴かどうかは不明である。

<炉> 検出されなかった。

<特殊施設> 認められなかった。

<堆積土> 8層に分けられたが、自然堆積か人為的な堆積なのかは判断しきれない。

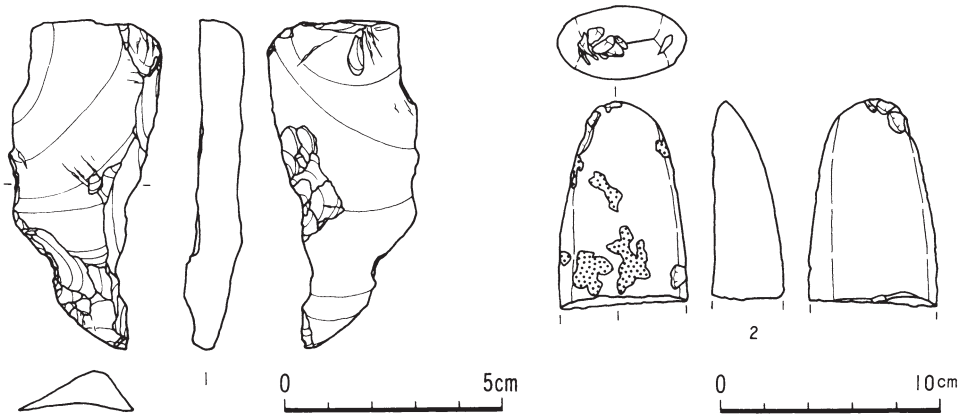


第557図 第242号住居跡(2)

〈出土遺物〉 土器は、すべて覆土からの出土である。石器は、覆土から不定形石器1点、床直から磨製石斧1点、床面から不定形石器1点の総数3点が出土した。

〈小結〉 覆土からの土器は、円筒上層c・d式の時期に相当すると思われる。

(羽柴 直人)

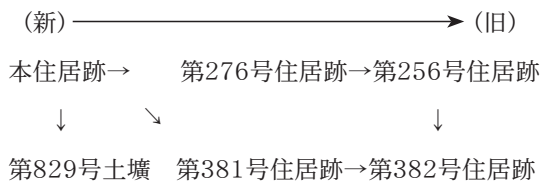


第558図 第242号住居跡(3)

第224号住居跡 (第559～567図)

〈位置と確認〉 調査区の西側台地CT・CU-127～129グリッドに位置する。第IV層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 本住居跡は、西側で第276号住居跡、北側で第829号土壌、南側で第256号住居跡・第381号住居跡と重複している。新旧関係は以下のとおりである。

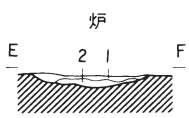
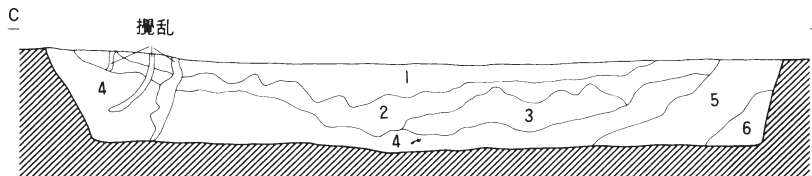
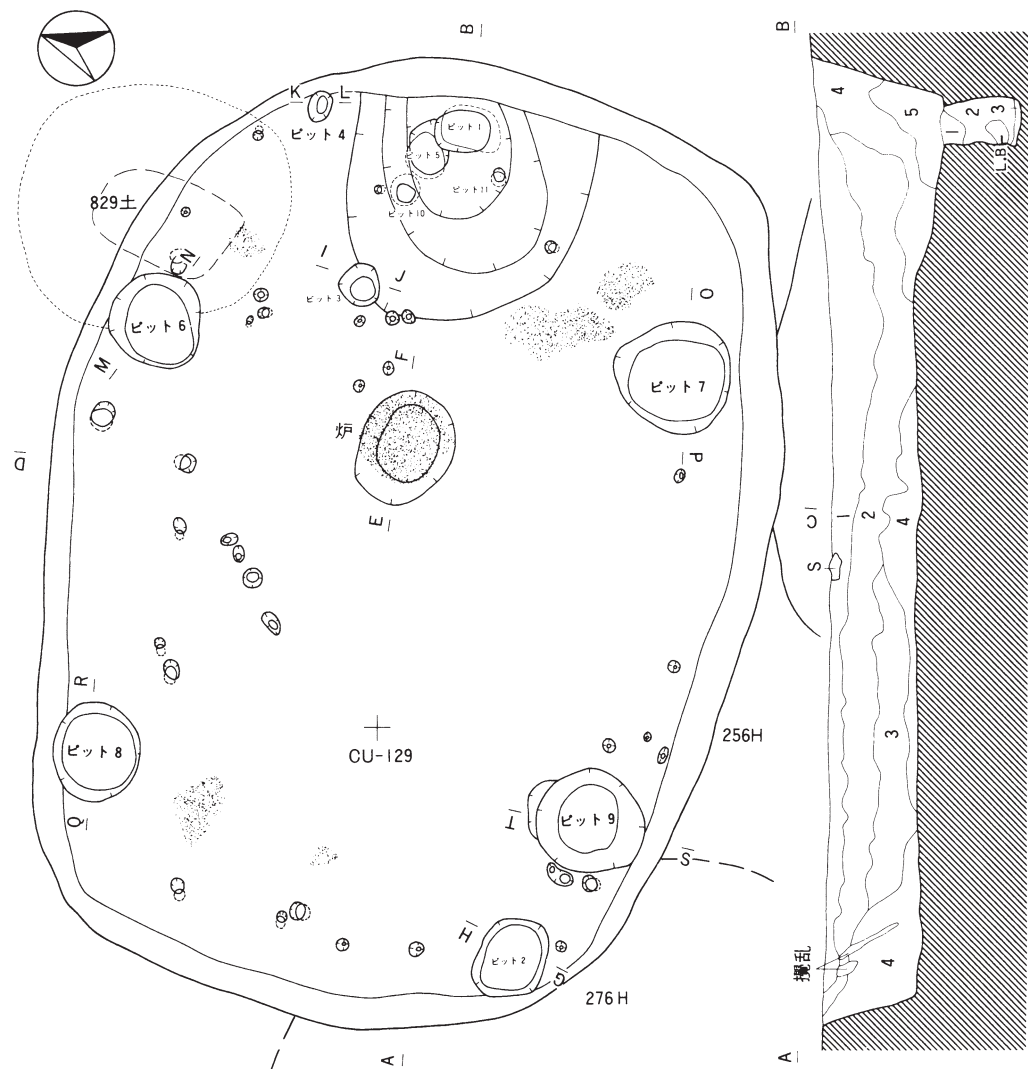


〈平面形・規模〉 長軸を東西もつ隅丸長方形を呈する。規模は、長軸7 m80cm・短軸5 m65cm、床面積は、32.0㎡である。

〈壁・床面〉 第IV層を壁面とし、各壁ともにほぼ垂直に立ち上がり、堅緻な構築である。壁高は、東壁80～86cm・西壁63～80cm・南壁73～80cm・北壁63～76cmである。床面はやや起伏があるが全般的に平坦で強く締まっている。

〈壁溝〉 検出されなかった。

〈柱穴〉 本住居跡内から多数のピットが検出された。このうち、長軸線上に対称になっているP₆～P₉ (深さP₆…123・P₇…112・P₈…118・P₉…117cm) が支柱穴と考えられる。



0 2m

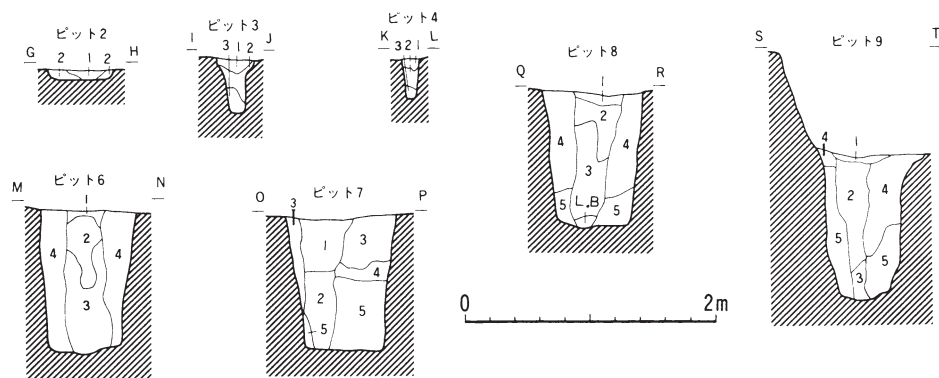
第244号住居跡土層注記

- 第1層 黒褐色 10YR3/2 ローム粒、炭化物を少量含む
- 第2層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒、炭化物、焼土粒を少量含む
- 第3層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒、炭化物、焼土粒を少量含む
- 第4層 にぶい黄褐色 10YR5/4 ローム粒、炭化物を少量含む
- 第5層 褐色 10YR4/6 ローム粒、炭化物を少量含む
- 第6層 黄褐色 10YR5/6 ローム粒を多量に含む

第244号住居跡 炉土層注記

- 第1層 褐色 10YR4/4 ローム粒を多量、炭化物、焼土粒を少量含む
- 第2層 赤褐色 5YR4/8 (焼土層)

第559図 第244号住居跡(1)



第244号住居跡 ビット1 土層注記

第1層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒、炭化物を少量含む。
 第2層 褐色 10YR4/4 ローム粒、L、B多量、炭化物を少量含む
 第3層 にぶい黄褐色 10YR5/4 ローム粒を多量に含む

第244号住居跡 ビット2 土層注記

第1層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒を少量含む。
 第2層 褐色 10YR4/4 ローム粒を多量に含む

第244号住居跡 ビット3 土層注記

第1層 褐色土 10YR4/4 ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
 第3層 褐色土 10YR4/6 ローム粒を多量に含む

第244号住居跡 ビット4 土層注記

第1層 褐色 11YR4/4 ローム粒、炭化物を少量含む。
 第2層 褐色 10YR4/4 ローム粒を少量、炭化物を微量に含む
 第3層 褐色 10YR4/6 ローム粒を多量、炭化物を少量含む

第244号住居跡 ビット6 土層注記

第1層 褐色 10YR4/4 ローム粒、炭化物、焼土粒を少量含む
 第2層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒、炭化物を少量含む
 第3層 褐色 10YR4/4 ローム粒を少量含む
 第4層 黄褐色 10YR5/6 ローム粒、炭化物を少量含む

第244号住居跡 ビット7 土層注記

第1層 褐色 10YR4/4 ローム粒を多量、炭化物を少量含む
 第2層 褐色 10YR4/6 ローム粒を多量、炭化物を少量含む
 第3層 褐色 10YR4/6 ローム粒、炭化物を少量含む
 第4層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒を多量に含む
 第5層 褐色 10YR4/6 ローム粒を多量、炭化物を少量含む

第244号住居跡 ビット8 土層注記

第1層 褐色 10YR4/4 ローム粒、炭化物を少量含む
 第2層 黄褐色 10YR5/6 ローム粒を多量、炭化物を少量含む
 第3層 褐色 10YR4/6 ローム粒を多量、炭化物を少量含む
 第4層 黄褐色 10YR5/6 ローム粒を多量、炭化物を少量含む
 第5層 褐色 10YR4/6 ローム粒を多量、炭化物を少量含む

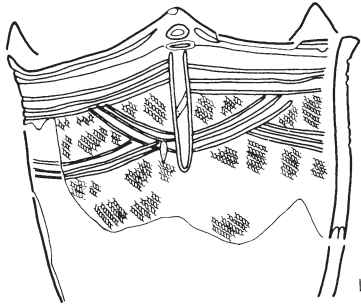
第560図 第244号住居跡(2)

〈炉〉 地床炉で、住居跡の中央部からやや東寄り位置する。平面形は不整楕円形、規模は、長軸94cm・短軸75cm、深さ10cmである。堆積土は2層に区分でき、第2層上面が火床面である。

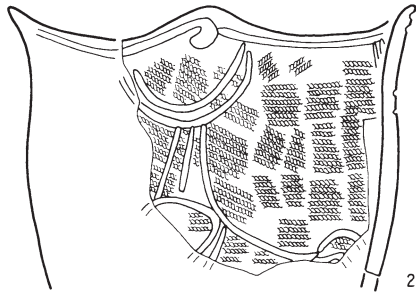
〈特殊施設〉 住居跡東壁近くに馬蹄形状の落ち込みを検出した。床面から壁にかけて緩やかに落ち込み、その周辺は堅く締まっている。中央部にP₁・P₅(深さP₁…61・P₅…43cm)とP₁₀・P₁₁(深さP₁₀…33・P₁₁…46cm)の4基のピットを検出した。

〈堆積土〉 6層に分層できた。各層にわたってローム粒が出土し、自然堆積と思われる。

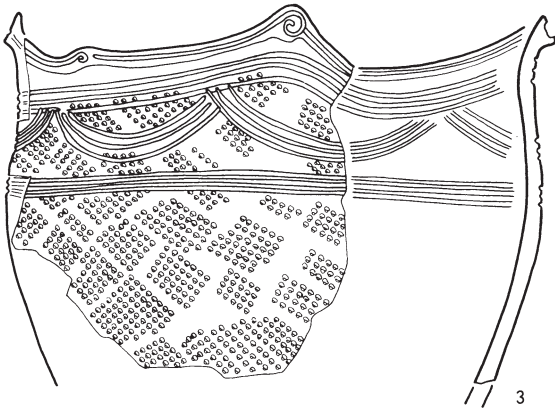
〈出土遺物〉 遺物は、住居跡の中央部の覆土から多く出土した。土器は、底面・床直(12・13・14・17・20・42)から出土し、他は、覆土からの出土である。石器は、覆土から石鏃24点・石槍3点・石錐2点・石筈2点・不定形石器56点・石斧1点・敲磨器類3点、台石1点、石皿



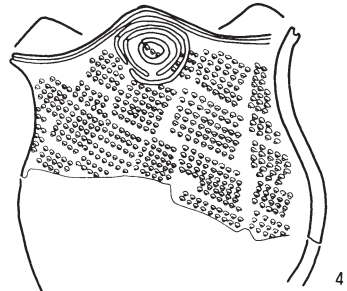
フク土



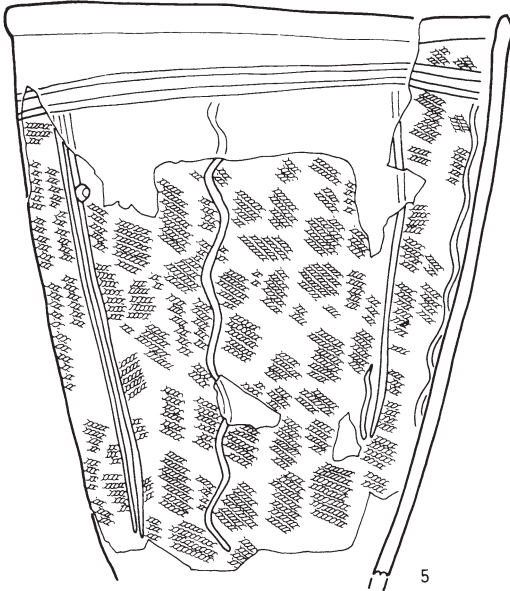
フク土



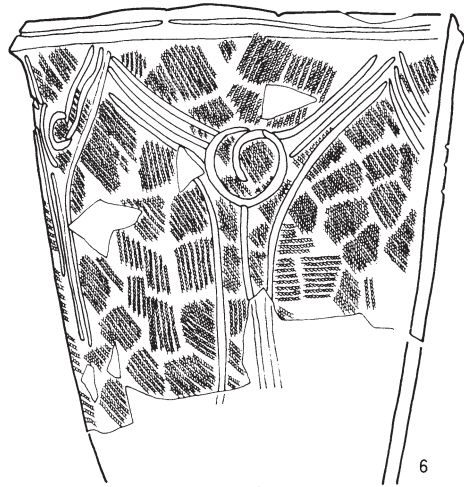
フク土



フク土



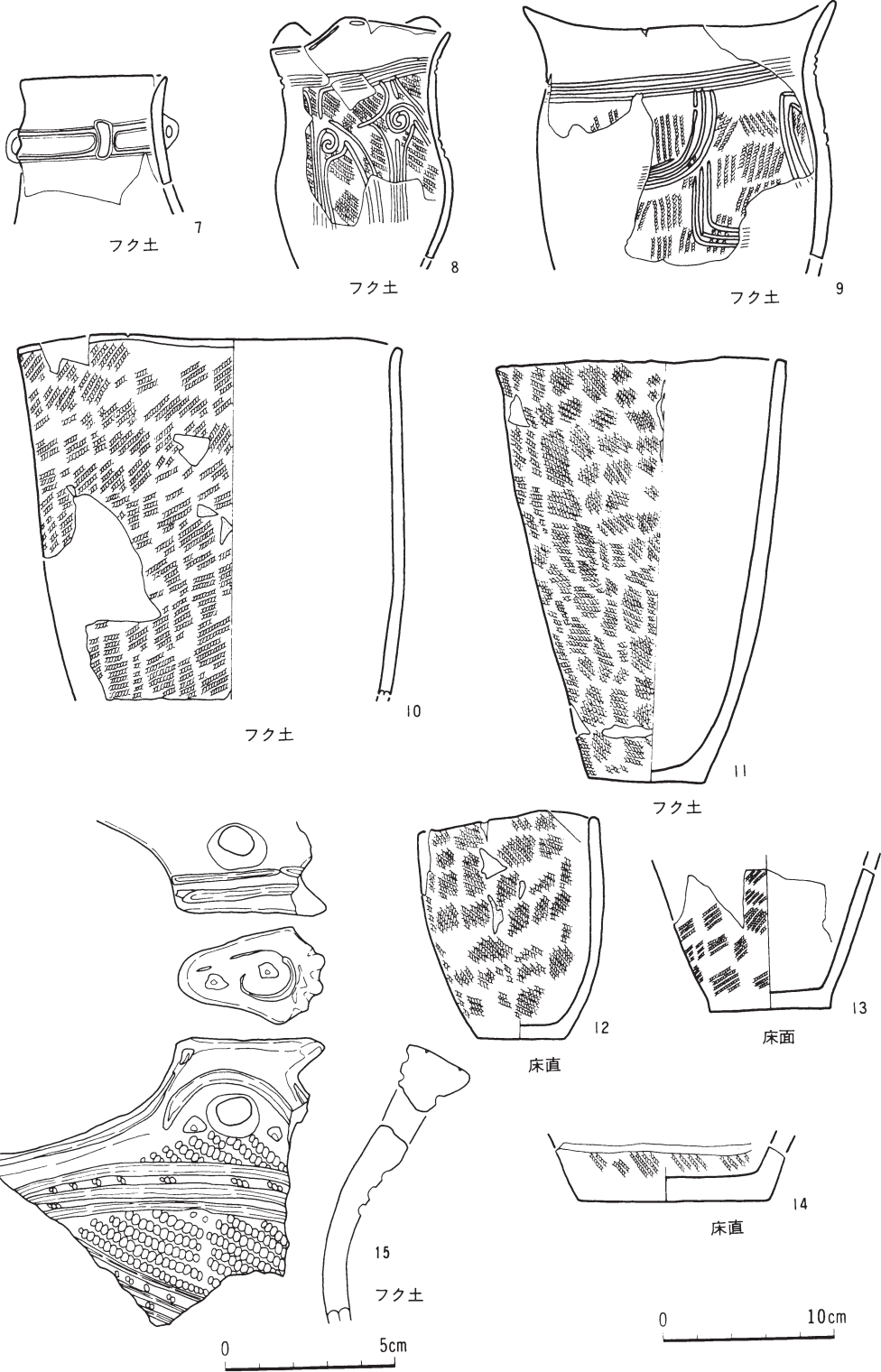
フク土



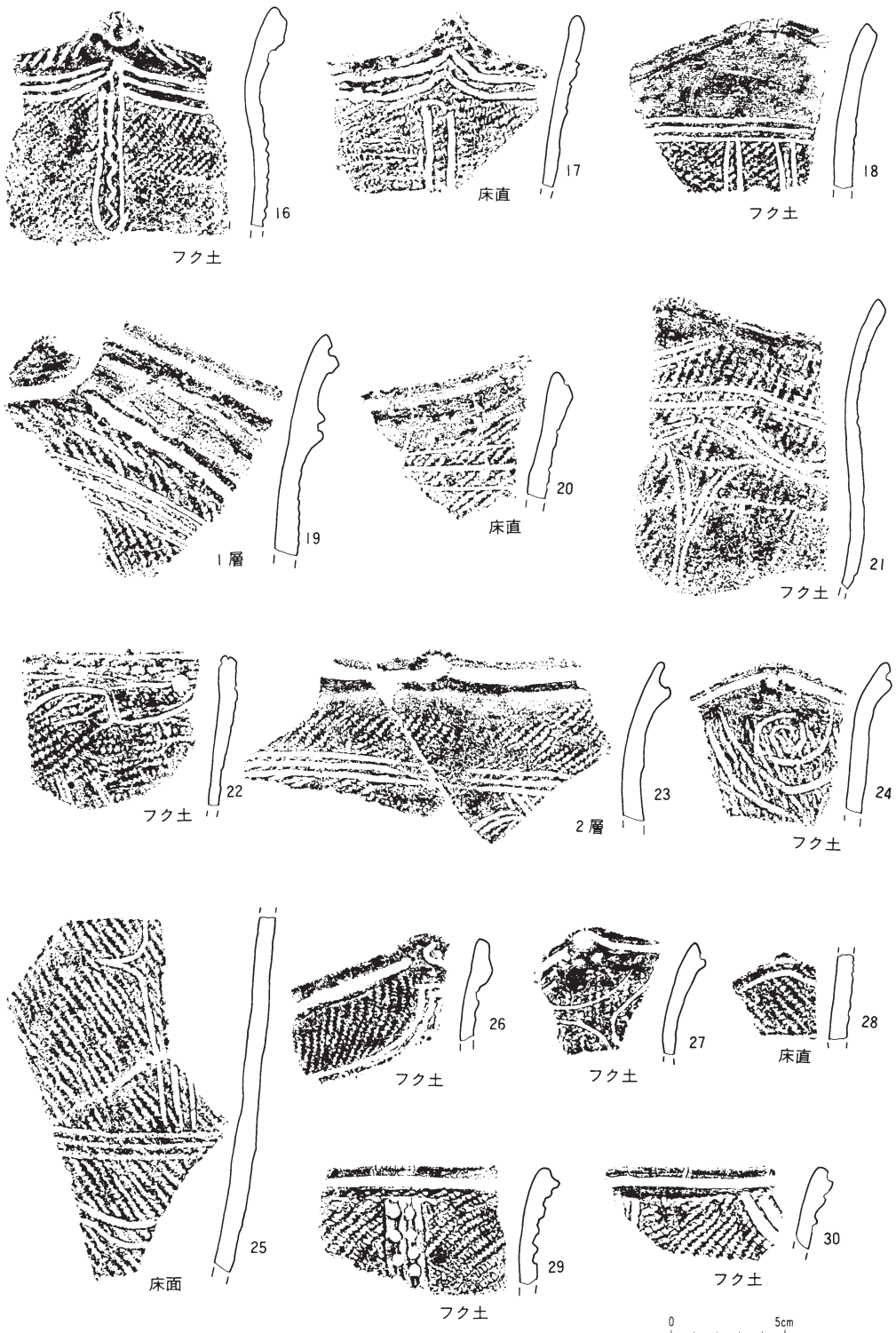
フク土

0 10cm

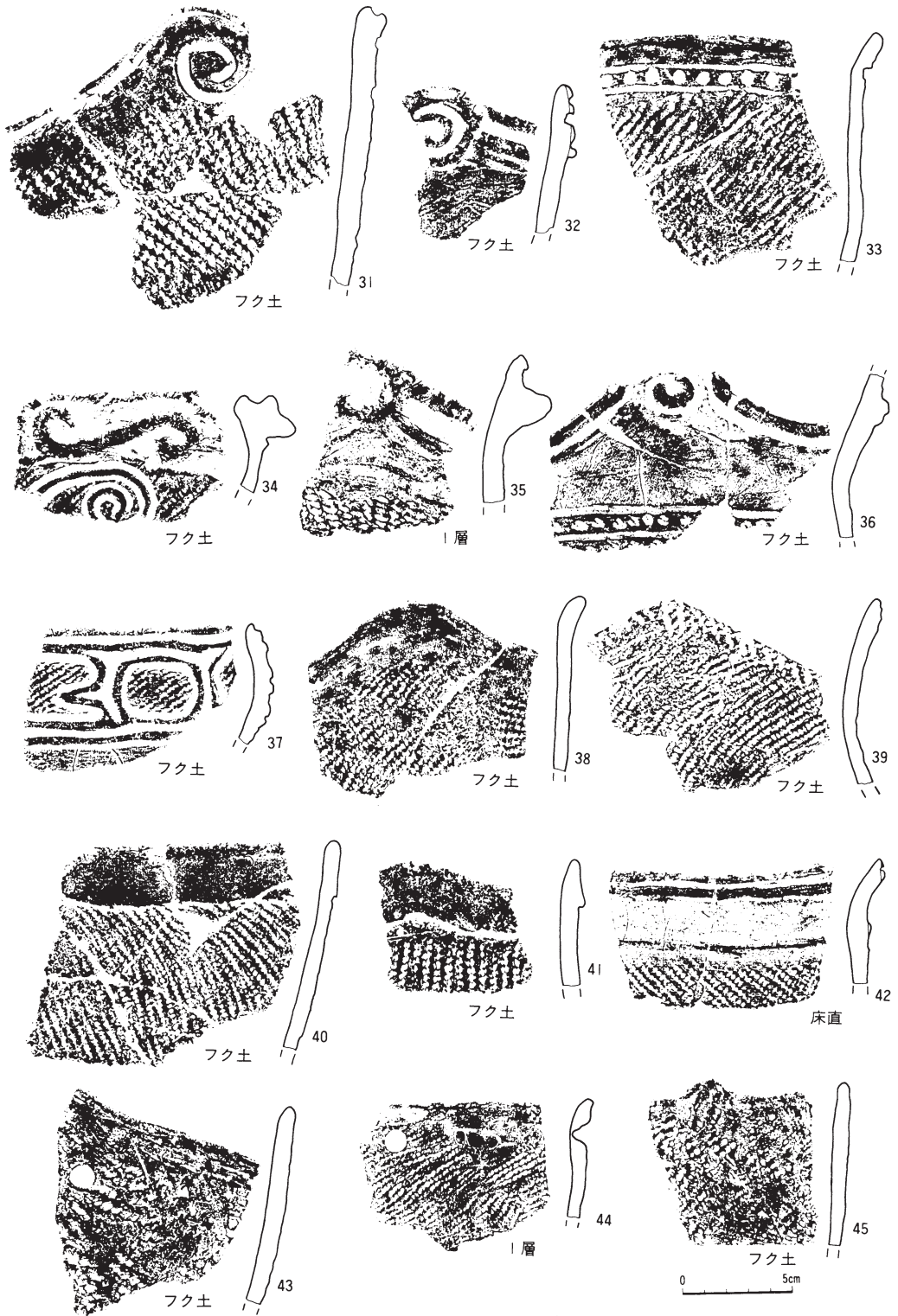
第561図 第244号住居跡(3)



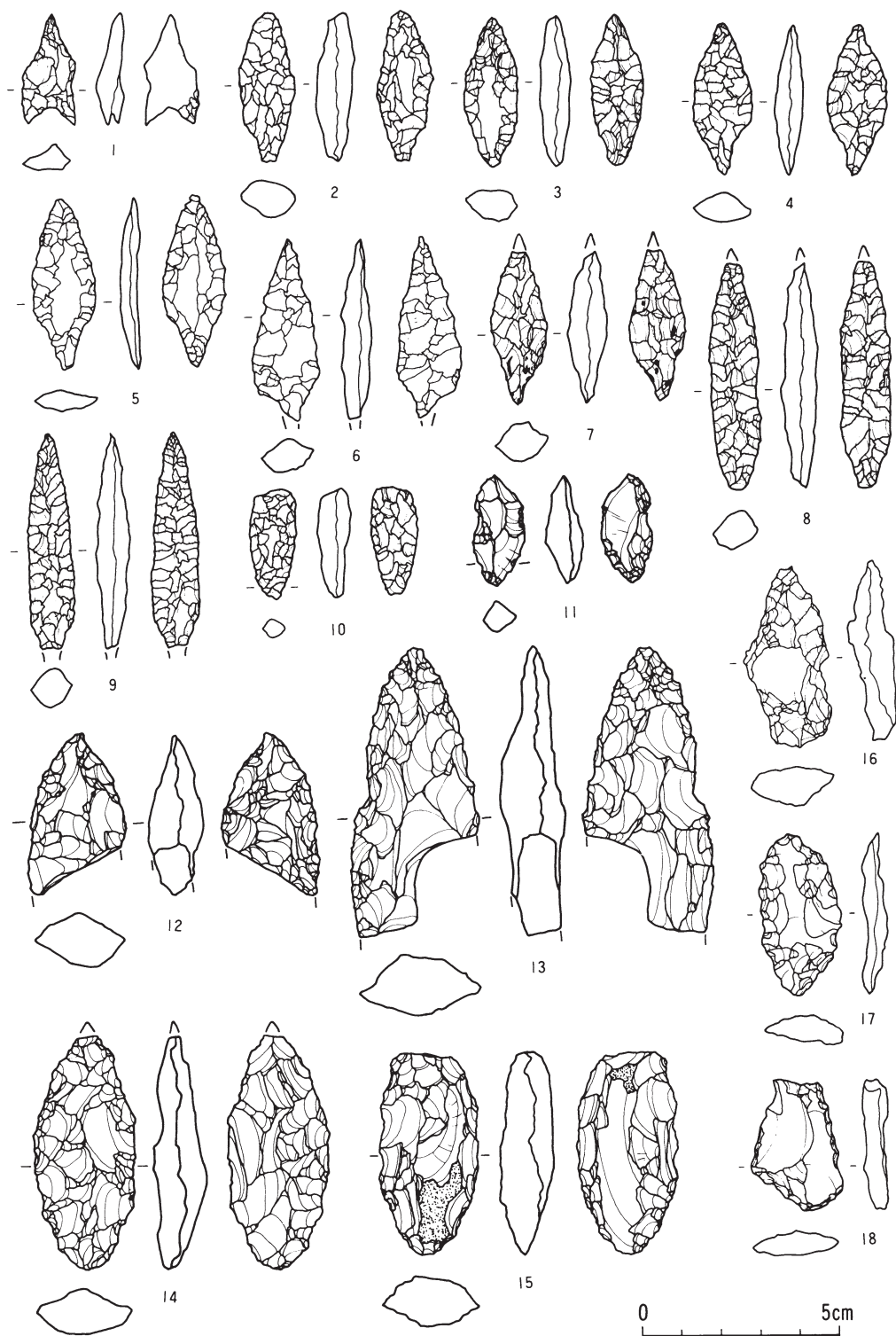
第562図 第244号住居跡(4)



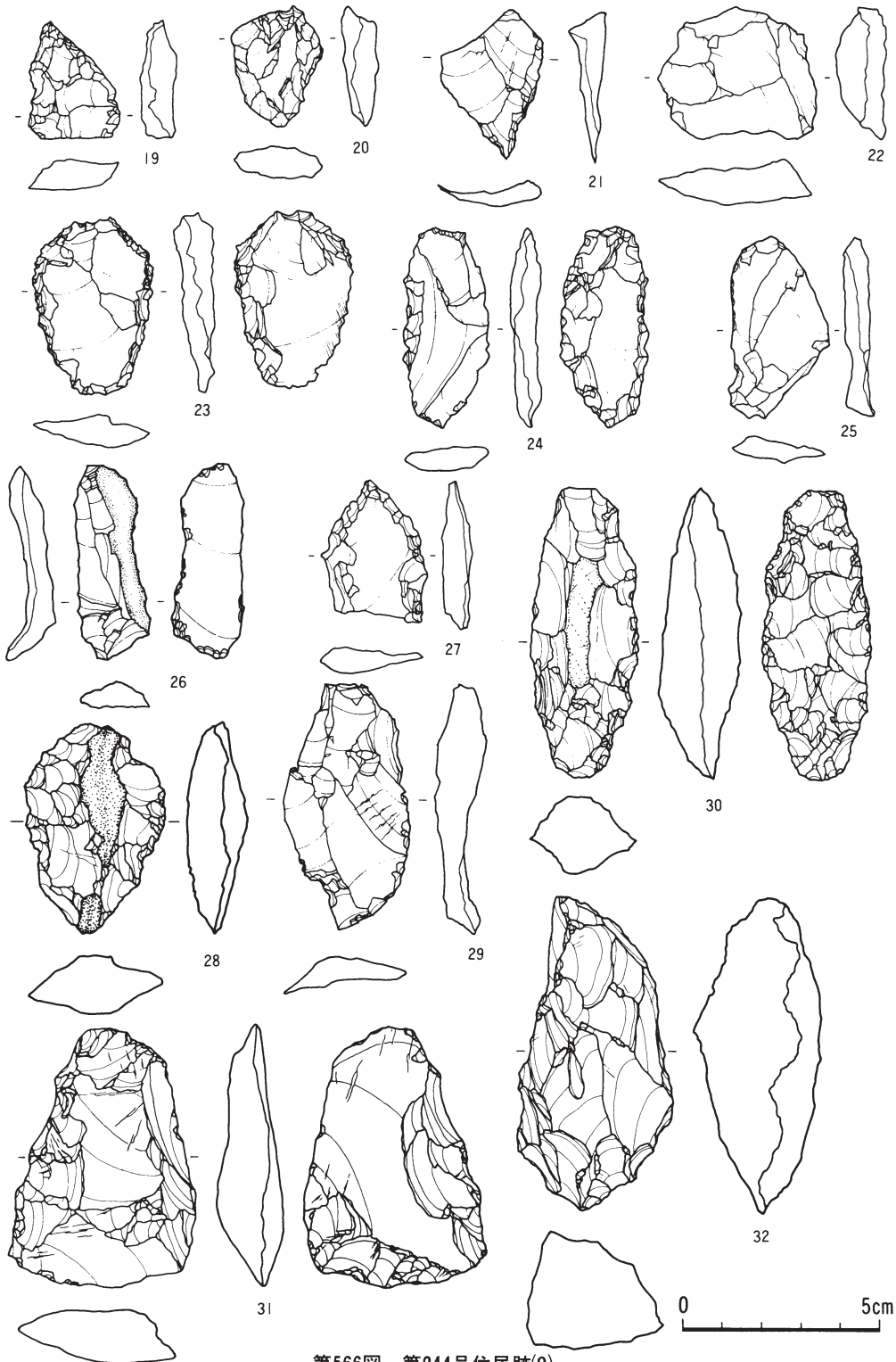
第563図 第244号住居跡(5)



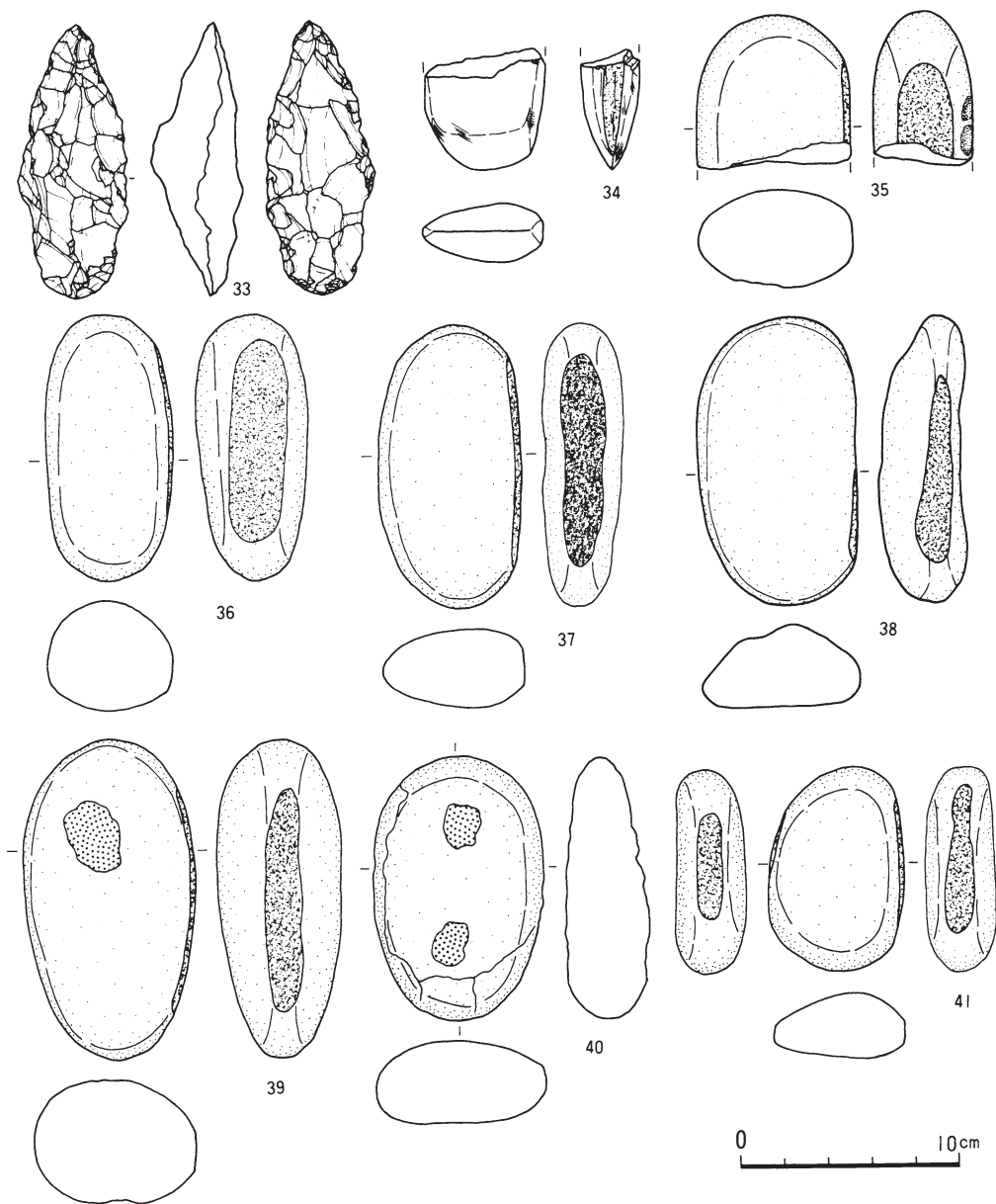
第564図 第244号住居跡(6)



第565图 第244号住居跡(7)



第566图 第244号住居跡(8)



第567図 第244号住居跡(9)

2点・軽石1点、2層から敲磨器類1点、ピット1から不定形石器2点、床直から石鏃4点・不定形石器9点・石斧1点・敲磨器類3点、床面から不定形石器2点・石棒類1点が出土した。総数は119点である。また、覆土から土製品が1点出土している。

〈小結〉 本住居跡は、床面からの土器片(17)・(20)・(42)と覆土中の土器から榎林式期と思われる。

(木村 功・中嶋友文)

第245号住居跡（第568図）

＜位置と確認＞ 調査区CV-126・127グリッドに位置している。第IV層を精査中に炉と貼り床を検出し、住居跡と確認した。

＜重複＞ 認められなかった。

＜平面形・規模＞ 炉と貼り床のみの検出のため、平面形・規模は不明である。

＜壁・床面＞ 壁は確認できなかった。床面は、炉の東側に南北1 m95cm・東西1 m24cmの範囲で貼り床面を検出した。

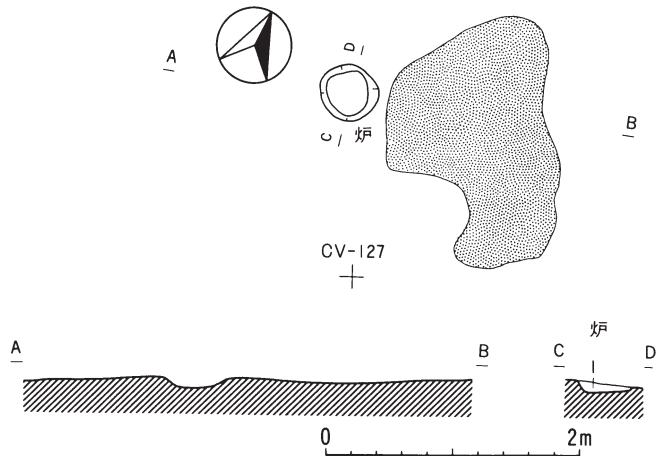
＜柱穴＞ 検出しなかった。

＜特殊施設＞ 認められなかった。

＜炉＞ 長径44cm・短径42cm・深さ6 cmの浅い円形の地床炉である。

＜堆積土＞ 認められなかった。

＜出土遺物＞ 遺物は出土しなかった。



第245号住居跡 炉土層注記
第1層 褐色 7.5YR4/4 焼土粒を全体に含み、炭化物が混入

第568図 第245号住居跡

(成田 滋彦)

第246号住居跡（第569～575図）

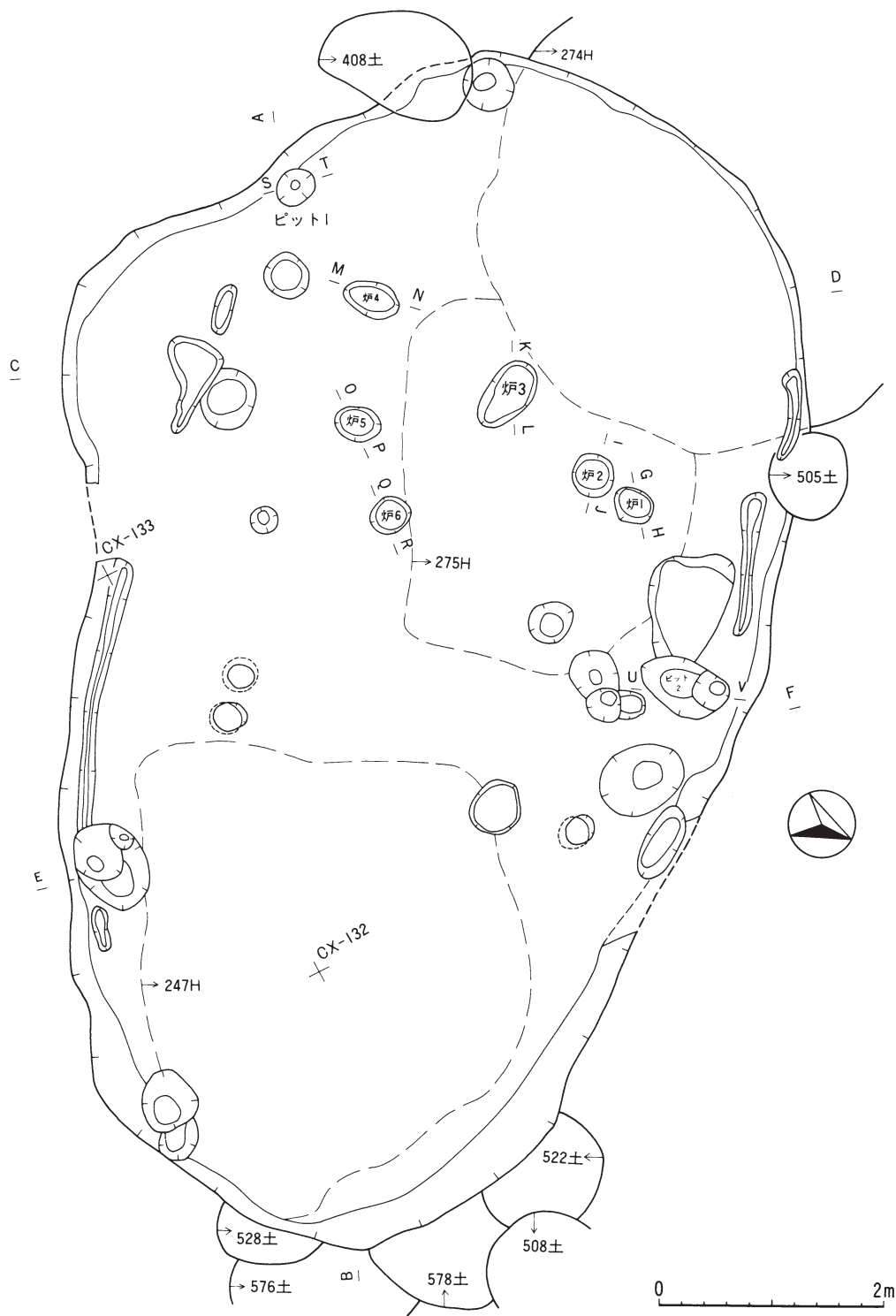
＜位置と確認＞ 調査区CW・CX-131、CW・CX・CY-132、CX・CY-133グリッドに位置している。第IV層を精査中に楕円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。

＜重複＞ 第247・257・268・269・274・275号住居跡、第480・505・522・528・576・578号土壌と重複し、新旧関係は、第480・505号土壌より古く、第247・257・268・269・274・275号住居跡、第522・528・576・578号土壌より新しい。

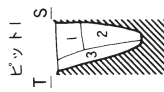
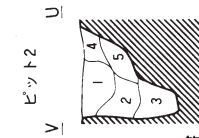
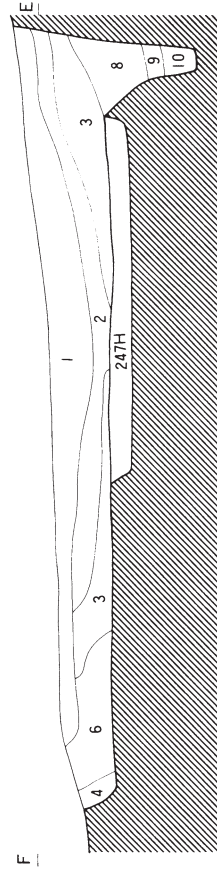
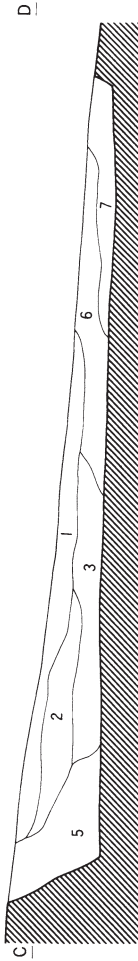
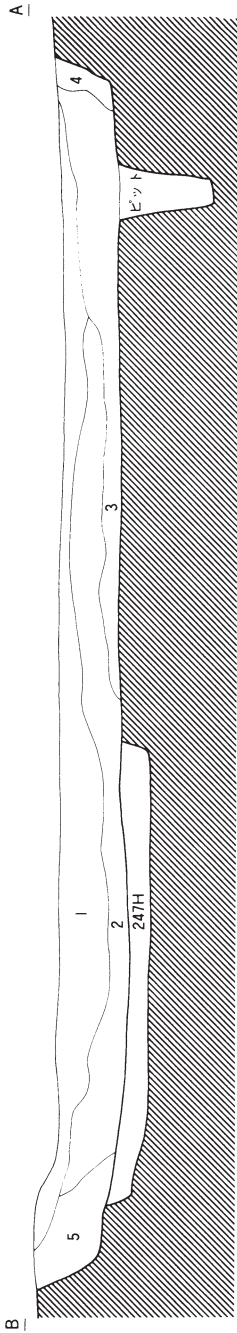
＜平面形・規模＞ 東西に長く南側が一部張り出した楕円形のプランを呈する。規模は、長軸10m70cm・短軸5 m86cm・床面積48.98㎡の大型な住居跡である。

＜壁・床面＞ 上端から床面にかけて傾斜しており、堅緻な造りである。壁高は、東壁62cm・西壁44cm・南壁70cm・北壁17cmを測る。床面は、ほぼ平坦で南側に第247号住居跡・北側に第274・275号住居跡の覆土をベースとして、地山を用いた貼り床が全面に見られる。

＜壁溝＞ 幅14cm・深さ7 cmの溝が、北・南側で検出した。溝は一周せず一部途切れている。



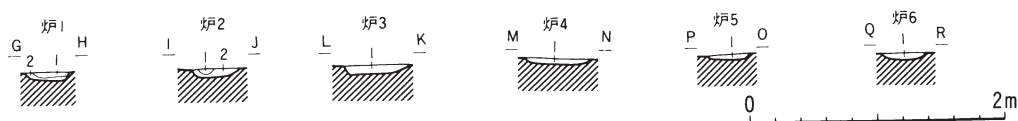
第569図 第246号住居跡(1)



第246号住居跡土層注記

- | | | |
|------|--------------|--------------------|
| 第1層 | 黒色 7.5YR2/1 | ローム粒少量含む |
| 第2層 | 褐色 7.5YR4/4 | ロームブロックを全面に炭化物若干含む |
| 第3層 | 暗褐色 7.5YR3/3 | ロームブロック多量、炭化物少量含む |
| 第4層 | 明褐色 7.5YR5/6 | 暗褐色土混入 |
| 第5層 | 暗褐色 7.5YR3/4 | ロームブロック多量に含む |
| 第6層 | 黒褐色 7.5YR3/2 | ローム粒多量、炭化物少量含む |
| 第7層 | 暗褐色 7.5YR3/3 | ローム粒多量に含む |
| 第8層 | 褐色 7.5YR4/4 | ローム粒少量、焼土粒若干含む |
| 第9層 | 明褐色 7.5YR5/6 | |
| 第10層 | 暗褐色 7.5YR3/3 | ローム粒少量含む |

第570図 第246号住居跡(2)



第246号住居跡 炉1 土層注記 第1層 明赤褐色 5YR5/8 焼土ブロック混入 第2層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物若干含む	第246号住居跡 炉2 土層注記 第1層 明赤褐色 5YR5/8 炭化物若干含む。焼土層 第2層 褐色 10YR4/4 炭化物若干、焼土粒少量含む
第246号住居跡 炉3 土層注記 第1層 暗褐色 10YR3/4 焼土ブロック多量に含む	第246号住居跡 炉4 土層注記 第1層 明黄褐色 10YR6/8 焼土ブロック混入
第246号住居跡 炉5 土層注記 第1層 明黄褐色 10YR6/8 焼土ブロック混入	第246号住居跡 炉6 土層注記 第1層 明黄褐色 10YR6/8 焼土ブロック混入、炭化物若干含む
第246号住居跡 ビット2 土層注記 第1層 褐色 10YR4/4 ローム粒少量、炭化物、焼土粒若干含む 第2層 黄褐色 10YR5/6 ローム粒多量、炭化物若干含む 第3層 褐色 10YR4/6 ローム粒、炭化物若干含む 第4層 褐色 10YR4/4 ローム粒多量に含む 第5層 褐色 10YR4/6 ローム粒少量、炭化物若干含む	第246号住居跡 ビット1 土層注記 第1層 黄褐色 10YR5/6 ローム粒少量含む。炭化物若干含む 第2層 黄褐色 10YR5/8 ローム粒少量含む 第3層 明黄褐色 10YR6/2

第571図 第246号住居跡(3)

＜柱穴＞ ピットは18個検出した。ピットは北と南壁寄りに多く配置しており、配置等から柱穴と思われる。

＜炉＞ 炉は6基検出した。炉1は、長径36cm・短径32cm・深さ5cmの地床炉、炉2は長径39cm・短径38cm・深さ7cmの円形の地床炉、炉3は長径67cm・短径42cm・深さ7cmの地床炉、炉4は長径51cm・短径32cm・深さ4cmの楕円形の地床炉。炉5は長径40cm・短径30cm・深さ4cmの円形の地床炉。炉6は長径37cm・短径34cm・深さ5cmの地床炉である。これらの炉は、浅い地床炉で住居跡の中央部から西側寄りに多く位置している。

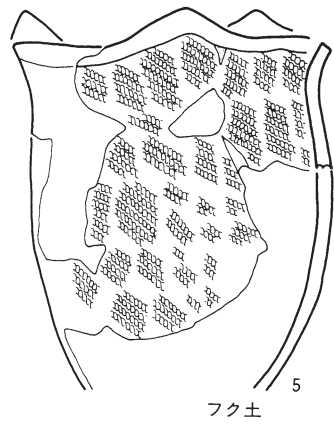
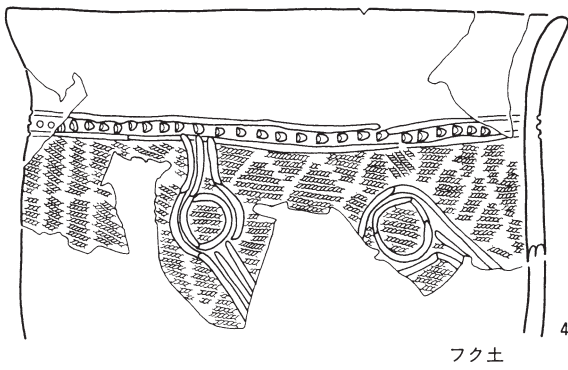
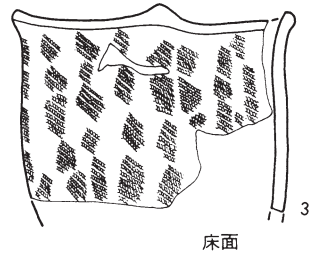
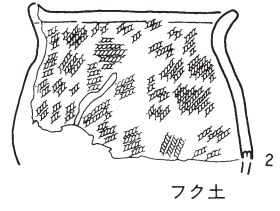
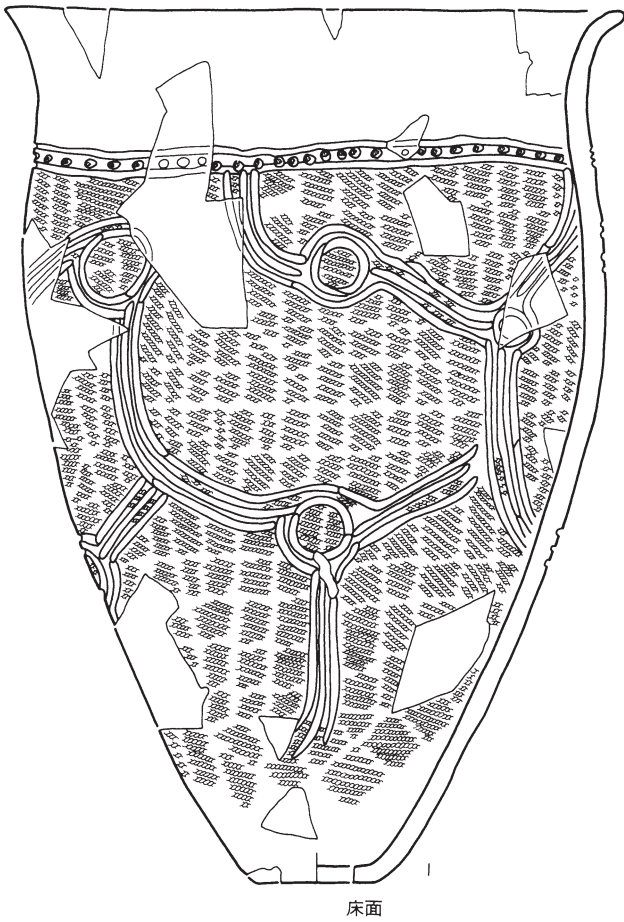
＜特殊施設＞ 認められなかった。

＜堆積土＞ 7層に分層できた。第2～7層は堆積土中にローム粒・ロームブロックを多量に含んでおり、人為的に埋められた堆積土であり、最終的に第1層が流入したものである。

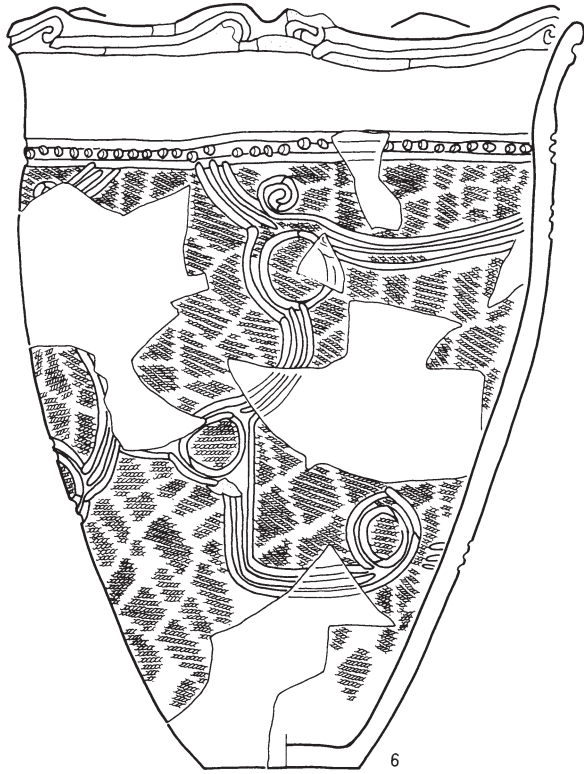
＜出土遺物＞ 遺物は、土器が住居跡の全面から一括して廃棄した状態で出土した。石器は、覆土から石鏃3点・石錐1点・不定形石器7点・磨製石斧3点・台石石皿1点・敲磨器類3点、床直から石錐1点の総数19点が出土した。

＜小結＞ 出土した土器の(1)・(3)・(6)・(7)・(8)は、榎林式期の良好な資料である。

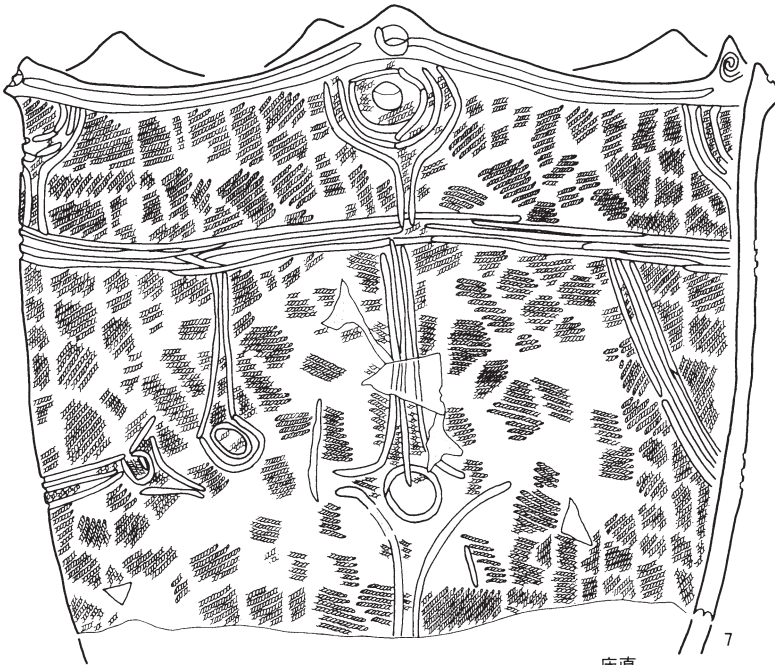
(成田 滋彦)



第572図 第246号住居跡(4)



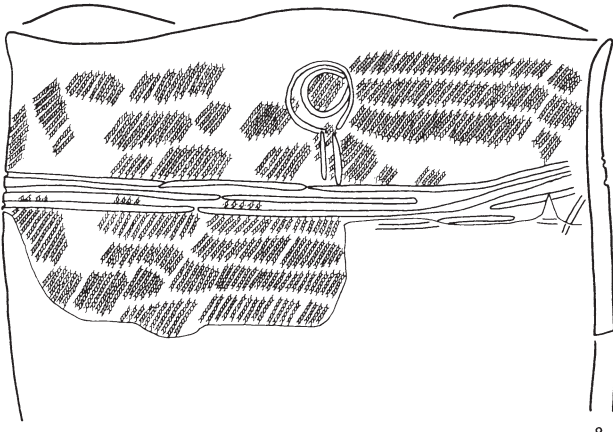
床直



床直

0 10cm

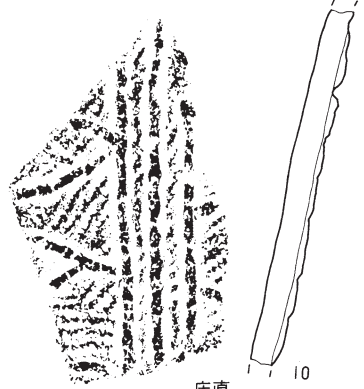
第573图 第246号住居跡(5)



0 10cm



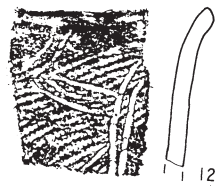
フク土 9



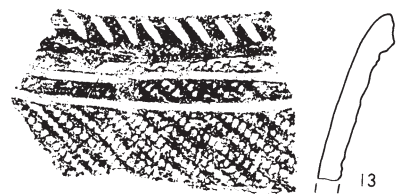
床直 10



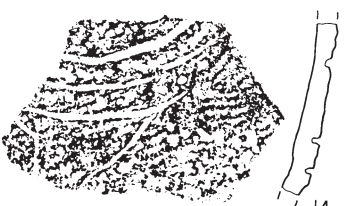
フク土 11



フク土 12



床直 13



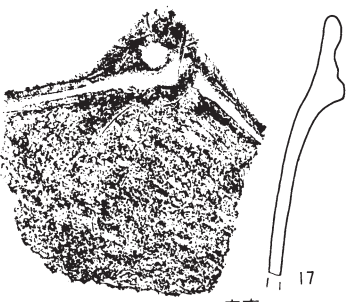
フク土 14



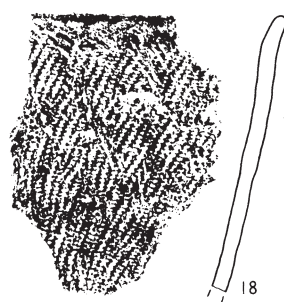
フク土 15



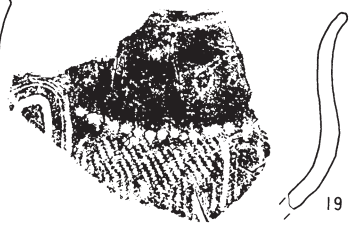
フク土 16



床直 17



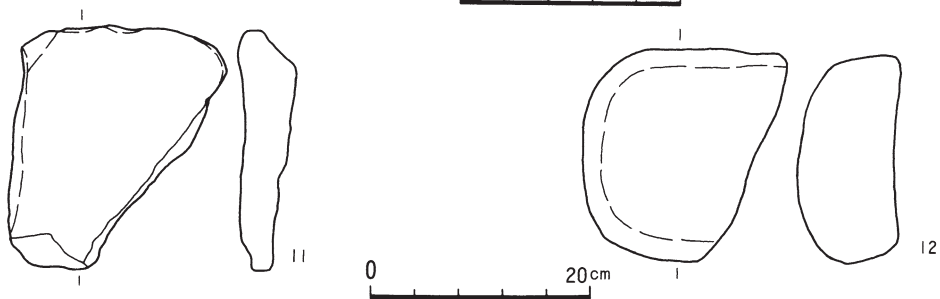
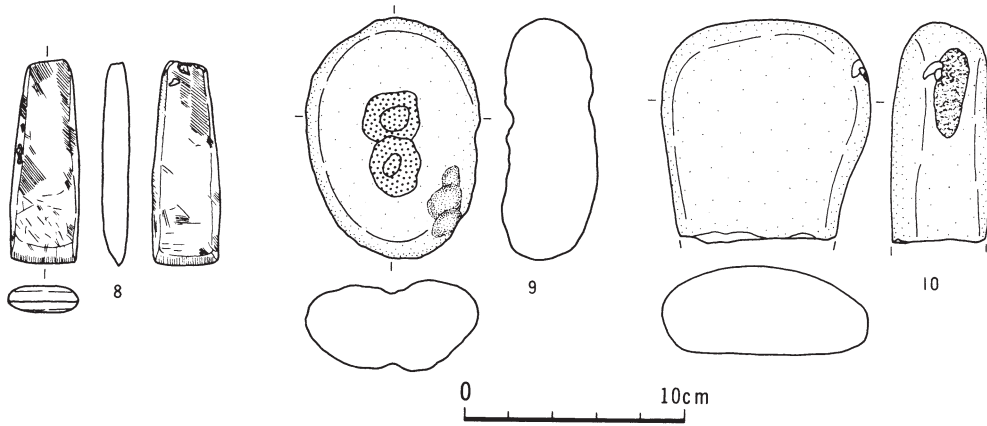
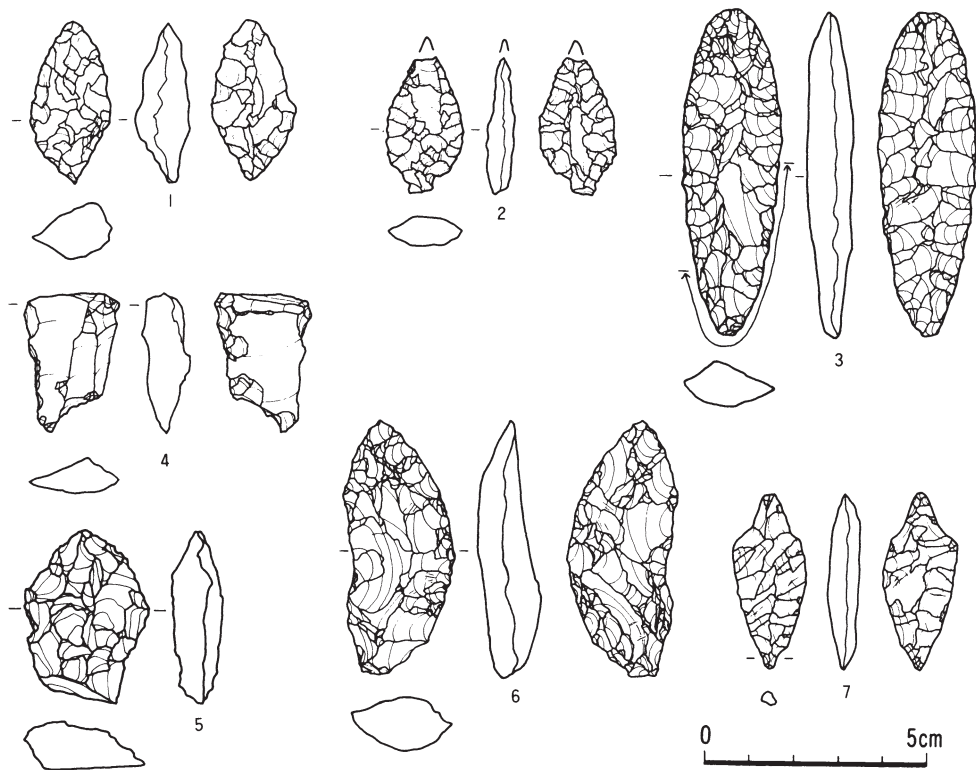
床直 18



床直 19

0 5cm

第574図 第246号住居跡(6)



第575图 第246号住居跡(7)

第247号住居跡（第576～578図）

＜位置と確認＞ 調査区CW・CX-131・132グリッドに位置している。第246号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

＜重複＞ 第246号住居跡・第612・691・692号土壌と重複し、新旧関係は下記の変遷である。

(旧) (新)

第612号土壌→本住居跡→第691号土壌→第246号住居跡

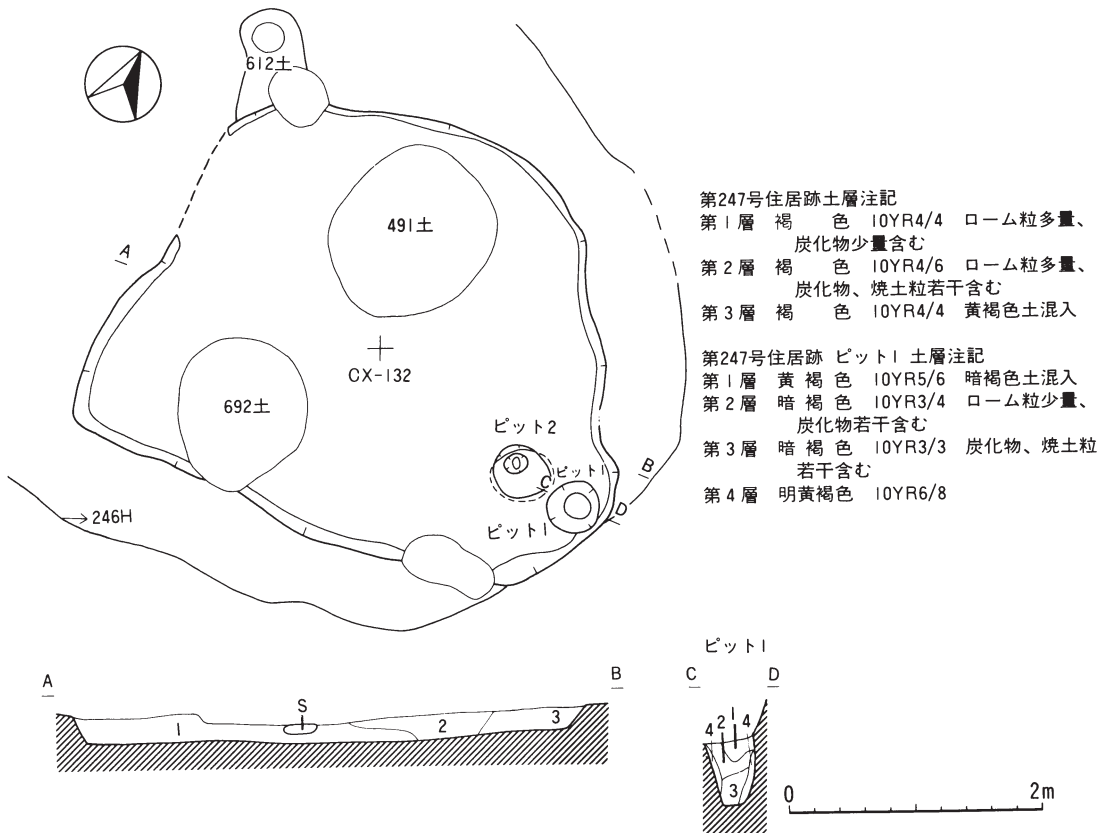
↳ 第692号土壌

＜平面形・規模＞ 東側が張り出し、他が直線的な不整形方を呈するプランである。規模は、長軸4m20cm・短軸3m44cm・床面積10.64㎡を測る。

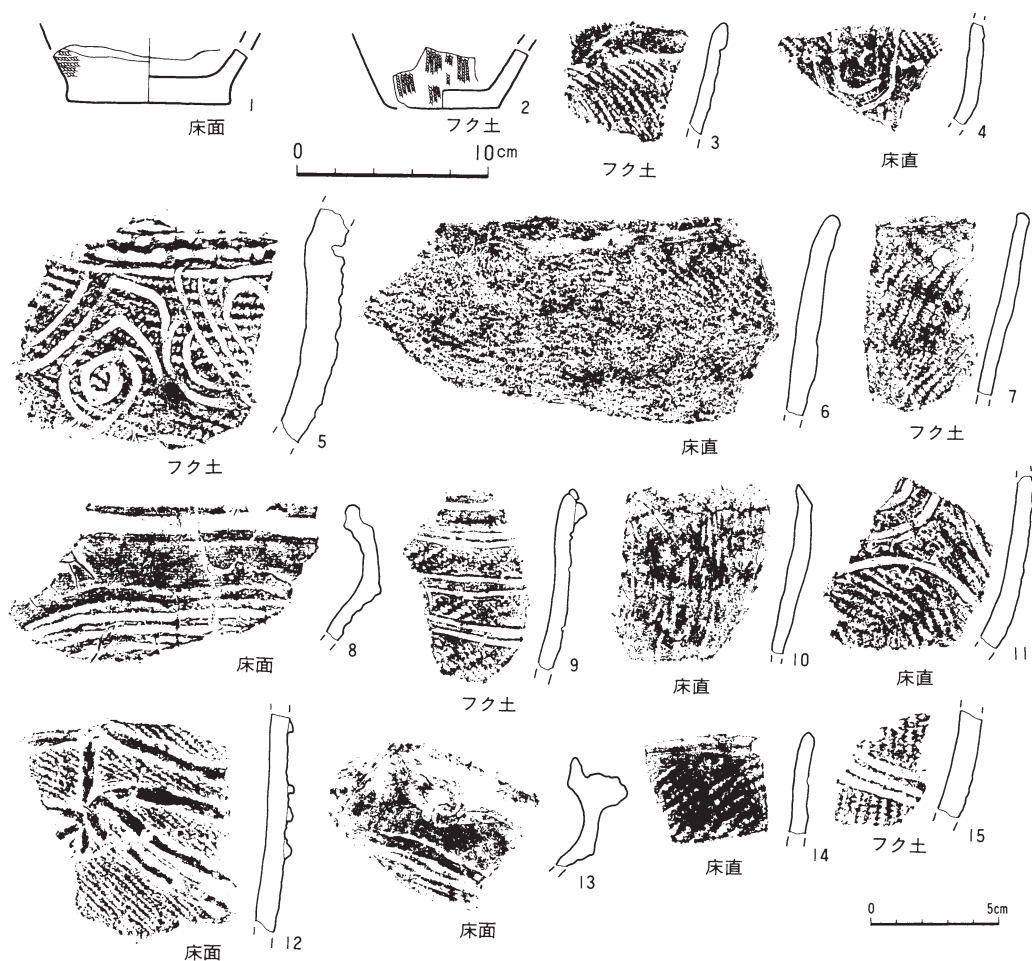
＜壁・床面＞ 上端から床面にかけて傾斜しており、軟らかい造りである。壁高は、東壁18cm・西壁21cm・南壁22cm・北壁26cmを測る。床面は、ほぼ平坦で固い。

＜柱穴＞ ピットは1個のみ検出したが、柱穴と思われる。

＜炉＞ 検出しなかった。



第576図 第247号住居跡(1)



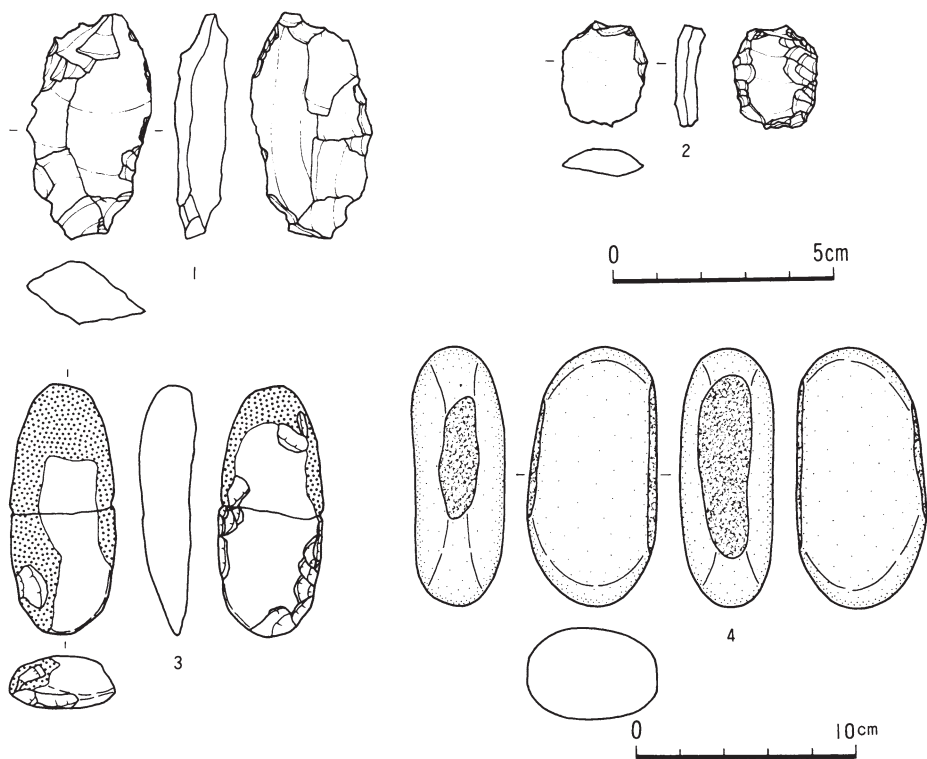
第577図 第247号住居跡(2)

〈特殊施設〉 認められなかった。

〈堆積土〉 3層に分層できた。堆積土中にローム粒を多く含んでおり、人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉 遺物は、住居跡の全面から出土した。石器は、覆土から不定形石器3点・磨製石斧1点、床直から不定形石器1点、床面から敲磨器類2点の総数7点が出土した。

〈小結〉 床面の土器から円筒上層d式期の時期に住居跡が相当すると思われる。また、(14・15)の土器は大木8a式の土器であり、円筒上層d式と共伴する。 (成田 滋彦)



第578図 第247号住居跡(3)

第248号住居跡 (第579図)

〈位置と確認〉 調査区DA-130グリッドに位置している。第IV層を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 住居跡の北側で第478号土壌と重複し、新旧関係は本住居跡が新しい。

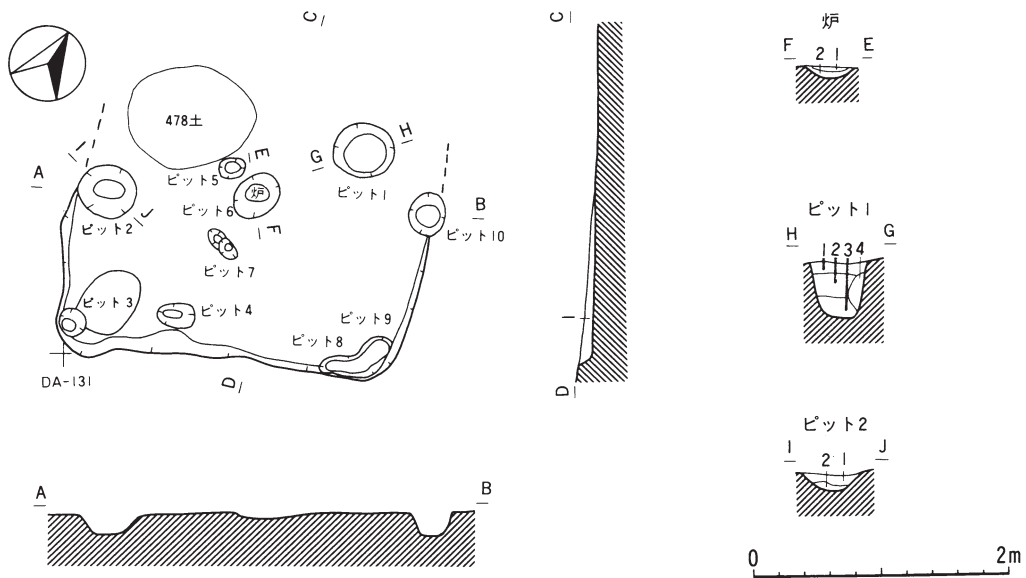
〈平面形・規模〉 北側部分が確認できなかったが、残存部から推定すると方形のプランを呈すると思われる。規模は、長軸2m85cm、短径・床面積は不明である。

〈壁・床面〉 上端から床面にかけて傾斜しており軟らかい造りである。壁高は、東壁7cm・西壁8cm・南壁15cm・北壁不明である。床面は、ほぼ平坦で壁同様に軟弱である。

〈柱穴〉 ピットは10個検出した。配置等から柱穴と思われるが支柱穴は判断できなかった。

第248号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	円形	46×45	43	2	円形	44×42	14	3	円形	21×20	10
4	楕円形	28×18	10	5	円形	20×18	15	6	楕円形	13×12	9
7	円形	18×15	25	8	楕円形	28×15	7	9	楕円形	32×21	9
10	円形	28×27	17								



第248号住居跡 炉土層注記

- 第1層 赤褐色 2.5YR4/6 炭化物少量含む、
焼土ブロック混入
第2層 黄褐色 10YR5/6 焼土粒少量含む

第248号住居跡 ピット2 土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒少量、炭
化物若干含む
第2層 黄褐色 10YR5/6 暗褐色土混入

第248号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒少量、炭化物、焼
土粒若干含む

第248号住居跡 ピット1 土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒少量、炭化物若干
含む
第2層 暗褐色 10YR3/4 炭化物、焼土粒少量含む
第3層 黒褐色 10YR3/2 ロームブロック混入

第579図 第248号住居跡

<炉> 住居跡の中央部に長径40cm・短径31cm・深さ9cmの浅い楕円形の地床炉が設けられている。

<特殊施設> 認められなかった。

<堆積土> 1層のみの堆積で、人為的か自然堆積かどうか判断できなかった。

<出土遺物> 遺物は、出土しなかった。 (成田 滋彦)

第249号住居跡 (第580~582図)

<位置と確認> 調査区DD・DE-132・133グリッドに位置している。

<重複> 住居跡の南側で第517・518号土層と重複し、新旧関係は、下記の変遷である。

(旧) → (新)

第518号土層 → 本住居跡 → 第517号土層

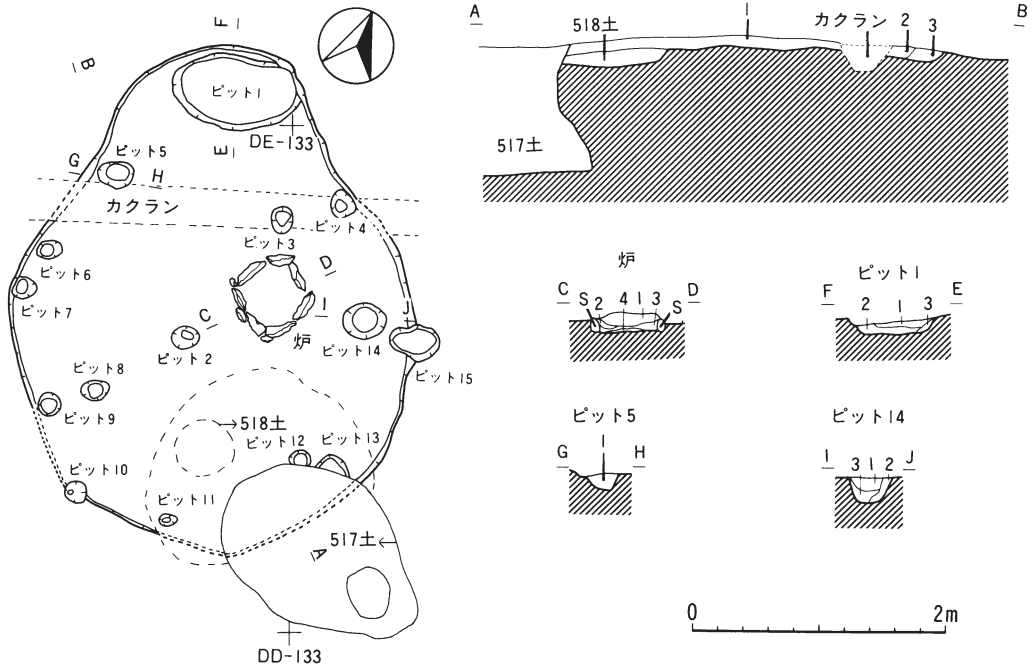
<平面形・規模> 北側が張り出した楕円形のプランである。規模は、長軸(4m02cm)・短軸(3m24cm)・床面積(8.82)㎡を測る。

<壁・床面> 上端から床面にかけて傾斜しており軟らかい造りである。壁高は、東壁7cm・西壁6cm・南壁9cm・北壁10cmを測る。床面は、ほぼ平坦で炉の周辺が固い。

<柱穴> ピットは14個検出した。ピット1については特殊施設の項目で記載する。他のピットは配置等から柱穴と思われ、ピット4・5・10・13の4個が主柱穴と思われる。

第249号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
2	円形	22×19	14	3	楕円形	21×16	24	4	円形	22×19	21
5	楕円形	28×22	14	6	楕円形	21×15	23	7	円形	20×18	25
8	円形	22×18	10	9	円形	19×17	6	10	円形	18×17	11
11	楕円形	14×11	27	12	円形	17×(14)	14	13	方形	27×(14)	8
14	円形	36×31	22								



第249号住居跡土層注記

- 第1層 褐色 10YR4/6 ロームブロック多量に含む
- 第2層 褐色 10YR4/4 ローム粒微量に含む
- 第3層 黄褐色

第249号住居跡 ピット1 土層注記

- 第1層 黄褐色 10YR5/6 ローム粒微量に含む
- 第2層 黄褐色 10YR5/8
- 第3層 にぶい黄褐色 10YR5/3

第249号住居跡 ピット14 土層注記

- 第1層 褐色 10YR4/6 ロームブロック微量に含む
- 第2層 黄褐色 10YR5/6
- 第3層 褐色 10YR4/4 ロームブロック、黒色ブロック少量含む

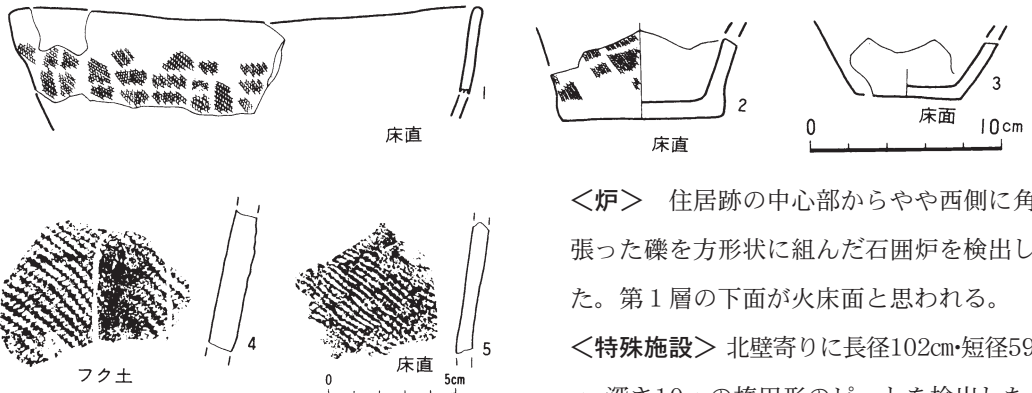
第249号住居跡 炉土層注記

- 第1層 黄褐色 10YR5/6 黄褐色土(10YR5/8)少量含む
- 第2層 褐色 10YR4/6 炭化粒多量に含む
- 第3層 褐色 10YR4/6 炭化粒少量含む
- 第4層 褐色 7.5YR4/6 炭化粒、焼土粒多量に含む

第249号住居跡 ピット5 土層注記

- 第1層 褐色 10YR4/6 ローム粒少量含む

第580図 第249号住居跡(1)



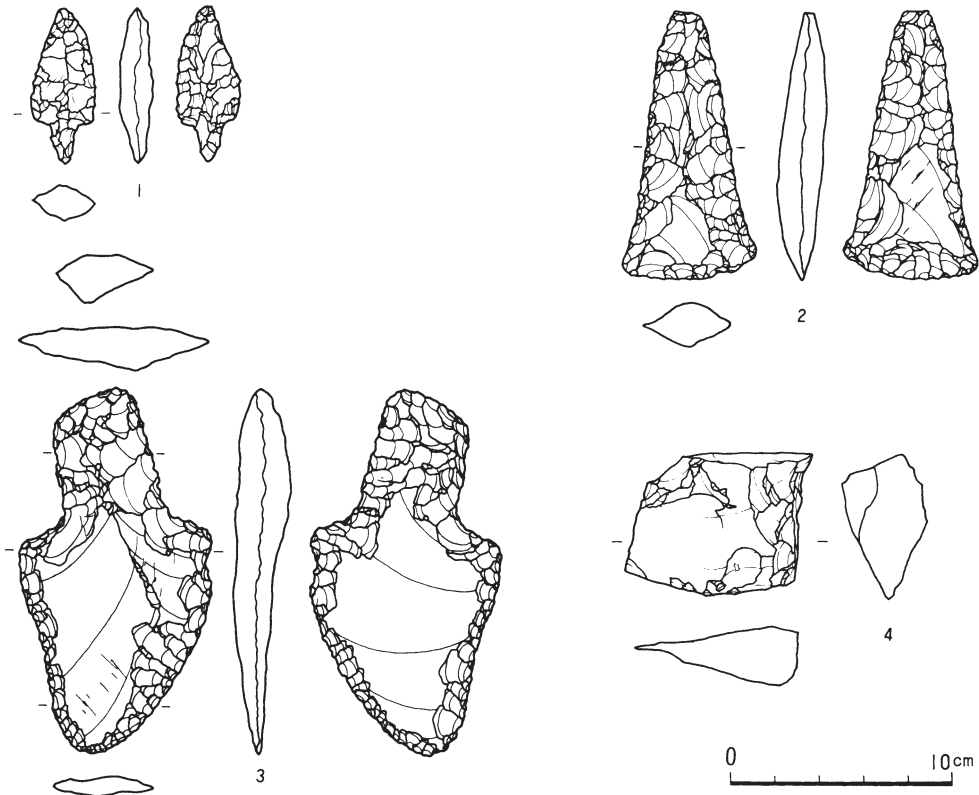
第581図 第249号住居跡(2)

積かどうか判断できなかった。

<出土遺物> 土器は、炉の周辺から少量出土した。石器は、覆土から石鏃1点・石筥2点・ピエス・エスキュー1点・不定形石器3点の総数7点が出土した。

<小結> 床直の土器は、縄文時代中期後葉～末葉の粗製土器であり、この時期に住居跡が相当すると思われる。

(神山温子・成田滋彦)

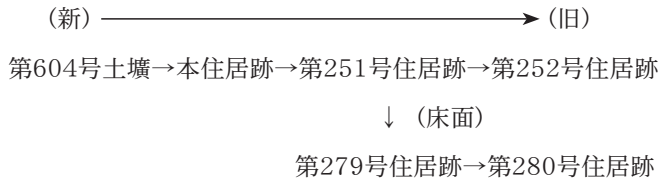


第582図 第249号住居跡(3)

第250号住居跡（第583～585図）

＜位置と確認＞ 調査区の西側台地の緩斜面CY・CZ・DA-131・132グリッドに位置している。第IV層を精査中に褐色土の落ち込みを確認した。

＜重複＞ 本住居は、床面で第604号土壌、南側で第251号住居跡、東側で第252号住居跡と重複している。新旧の関係は以下のとおりである。



＜平面形・規模＞ 長軸を南北に持つ楕円形と思われる。規模は、軸径(4 m55cm)と(3 m25cm)測り、床面積は、(11.06㎡)である。

＜壁・床面＞ 北壁以外確認できないが、壁高約25cmで、ほぼ垂直に立ち上がり、堅緻な構築である。床面は全体的にはほぼ平坦で、堅く締まっている。

＜壁溝＞ 検出されなかった。

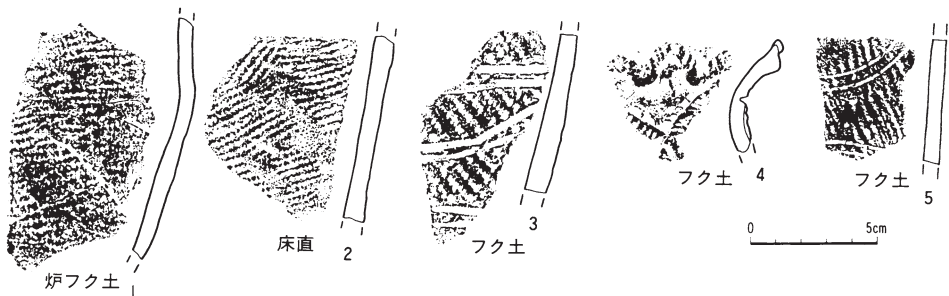
＜柱穴＞ 本住居跡内から8個のピットが検出された。P₂・P₄・P₆(深さP₂…38・P₄…25・P₆…22cm)が主柱穴と思われ、P₂に対応する柱穴は第604号土壌に切られていると思われる。P₁については、炉の項目で述べる。

＜炉＞ 住居跡の中央部から北寄りに位置している。礫を用いた石囲炉で「コ」の字状を呈し、北側から楕円形のピットが検出された。規模は、石囲炉部分が長軸91cm・短軸53cm、深さ16cmで、ピットは、長軸85cm・短軸70cm、深さ8cmである。堆積土は3層に区分できた。

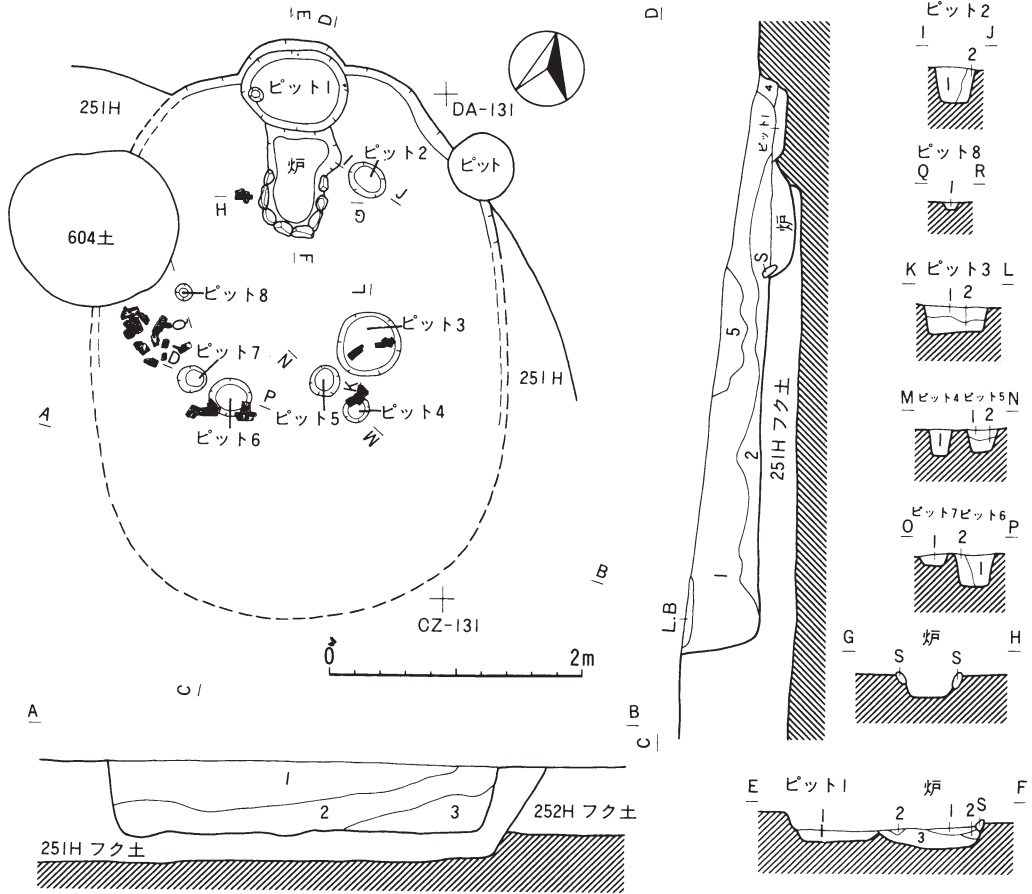
＜特殊施設＞ 検出されなかった。

＜堆積土＞ 5層に分層できた。4層から多量の炭化木材が検出された。自然堆積と思われる。

＜出土遺物＞ 遺物は、住居跡の南側から出土した。土器は、床面(2)と炉の覆土から(2)出土し、他は、覆土からの出土である。石器は、覆土から石錐1点、床面から石鏃1点・石棒類1点の総数3点が出土した。



第583図 第250号住居跡(1)



第250号住居跡土層注記

- 第1層 褐色 10YR4/4 ローム粒、炭化物を多量、焼土粒を少量含む
- 第2層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒、炭化物を多量、焼土粒をやや多く含む
- 第3層 褐色 10YR4/4 ローム粒を多量、炭化物を少量含む
- 第4層 黄褐色 10YR5/6 ローム粒、炭化物を多量に含む
- 第5層 明黄褐色 10YR6/8 ローム粒、L、Bを多量、炭化物を少量含む。褐色土混入

第250号住居跡 炉土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒、炭化物、焼土粒を多量に含む
- 第2層 明赤褐色 5YR5/8 焼土（炭化物、褐色土少量混入）
- 第3層 褐色 10YR4/6 ローム粒、炭化物、焼土粒を少量含む

第250号住居跡 ピット1 土層注記

- 第1層 褐色 10YR4/6 ローム粒、炭化物を多量に含む

第250号住居跡 ピット2 土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物多量に含む
- 第2層 褐色 10YR4/4 ローム粒多量、炭化物を少量含む

第250号住居跡 ピット3 土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物多量に含む
- 第2層 褐色 10YR4/4 ローム粒多量、炭化物を少量含む

第250号住居跡 ピット4 土層注記

- 第1層 にぶい黄褐色 10YR5/4 ローム粒多量、炭化物を少量含む

第250号住居跡 ピット5 土層注記

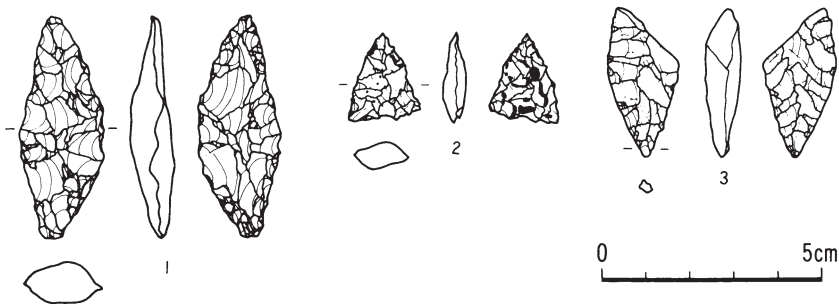
- 第1層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒、炭化物を少量含む
- 第2層 褐色 10YR4/4 ローム粒、炭化物をやや多く含む

第250号住居跡 ピット6 土層注記

- 第1層 褐色 10YR4/4 ローム粒、炭化物多量、焼土粒を少量含む
- 第2層 黄褐色 10YR5/6 ローム粒多量、炭化物を少量含む

第584図 第250号住居跡(2)

〈小結〉 本住居跡は、覆土中の土器片と重複する第251号住居跡(円筒上層e式期)から円筒上層e式期と思われる。(中嶋 友文)



第585図 第250号住居跡(3)

第251号住居跡 (第586～590図)

〈位置と確認〉 調査区西側台地の緩斜面CY・CZ-130～132、DA-131・132グリッドに位置している。第IV層を精査中に褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 本住居跡は、中央部で第604号土壌、床面で第279号住居跡と第280号住居跡、東側で第250号住居跡、北側で第252号住居跡と重複している。新旧の関係は以下のとおりである。

(新) —————> (旧)

第604号土壌→第250号住居跡→本住居跡→第252号住居跡

↓ (床面)

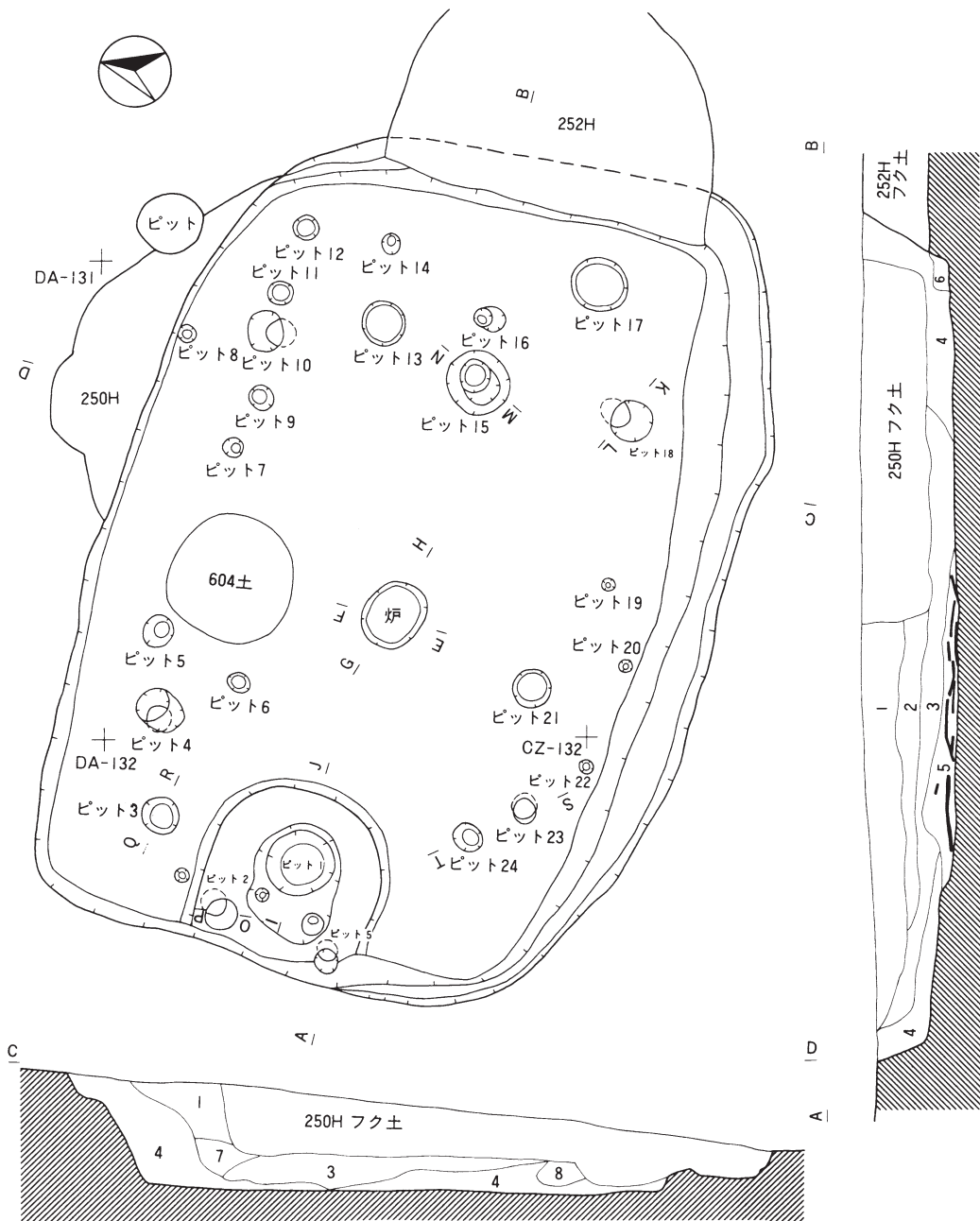
第279号住居跡→第280号住居跡

〈平面形・規模〉 長軸を東西に持つ隅丸長方形である。規模は、長軸(7 m20cm)・短軸5 m15cm、床面積は、(26.98㎡)である。

〈壁・床面〉 重複する住居跡に壊されている西壁と北壁の一部を除いて、各壁はやや緩やかに立ち上がり、堅緻な構築である。壁高は緩斜面上部の南壁は92～109cmと高く、北壁は35cm前後で、東西の壁は南から北にかけて緩やかに傾斜している。床面は全体的にほぼ平坦で、強く締まっている。

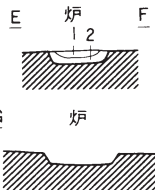
〈壁溝〉 検出されなかった。

〈柱穴〉 本住居跡内から25個のピットが検出された。このうち長軸線上で対称になっているP₄・P₁₀・P₁₈・P₂₃(深さP₄…106・P₁₀…94・P₁₈…113・P₂₃…99cm)が支柱穴と思われる。また、壁直下付近のP₂・P₂₅(深さP₂…93・P₂₅…70cm)も、柱穴と考えられる。P₁については、特殊施設の項目で述べる。



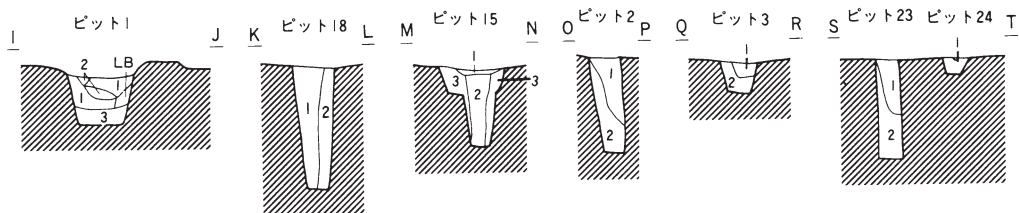
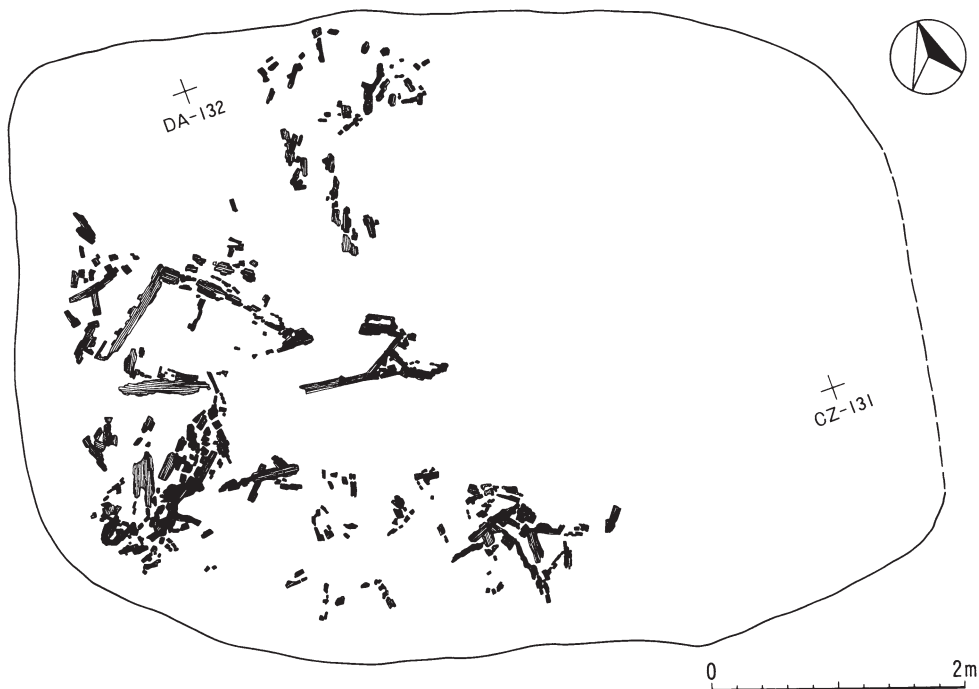
第251号住居跡土層注記

- | | | | |
|-----|------|---------|----------------------------|
| 第1層 | 褐色 | 10YR4/6 | ローム粒、炭化物を多量、焼土粒を少量含む |
| 第2層 | 黒褐色 | 10YR2/3 | ローム粒、炭化物を多量、焼土粒を少量含む |
| 第3層 | 黒褐色 | 10YR2/2 | ローム粒、炭化物を多量、焼土粒を少量含む |
| 第4層 | 褐色 | 10YR4/4 | ローム粒を多量、炭化物を少量含む |
| 第5層 | 黄褐色 | 10YR6/8 | ローム粒、L.B・炭化物を多量に含む。褐色土混入 |
| 第6層 | 黒褐色 | 10YR3/2 | ローム粒、炭化物を少量含む |
| 第7層 | 黄褐色 | 10YR5/6 | ローム粒を多量、炭化物を少量含む |
| 第8層 | 明黄褐色 | 10YR6/8 | ローム粒、L.Bを多量、炭化物を少量含む。褐色土混入 |



0 2m

第586図 第251号住居跡(1)



第251号住居跡 炉土層注記
 第1層 明赤褐色 5YR5/8 炭化物を多量に含む
 褐色土混入
 第2層 明黄褐色 10YR6/8 炭化物を少量含む

第251号住居跡 ビット15 土層注記
 第1層 黄褐色 10YR5/8 ローム粒、炭化物を少量含む
 第2層 褐色 10YR4/6 ローム粒、炭化物を多量に含む
 第3層 明黄褐色 10YR6/6 ローム粒、L.Bを多量に含む

第251号住居跡 ビット1 土層注記
 第1層 明黄褐色 10YR6/6 ローム粒、炭化物、焼
 土粒を多量に含む
 第2層 明赤褐色 2.5YR5/8
 第3層 黄褐色 10YR5/8 炭化物、焼土粒を少量
 含む。褐色土混入

第251号住居跡 ビット18 土層注記
 第1層 褐色 10YR4/6 ローム粒、炭化物を多量に含む
 第2層 明黄褐色 10YR6/6 ローム粒、L.Bを多量に含む

第251号住居跡 ビット24 土層注記
 第1層 褐色 10YR4/6 ローム粒、炭化物を多量に含む

第251号住居跡 ビット2 土層注記
 第1層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒、炭化物を多
 量に含む
 第2層 明黄褐色 10YR6/6 ローム粒、L.Bを多量
 に含む

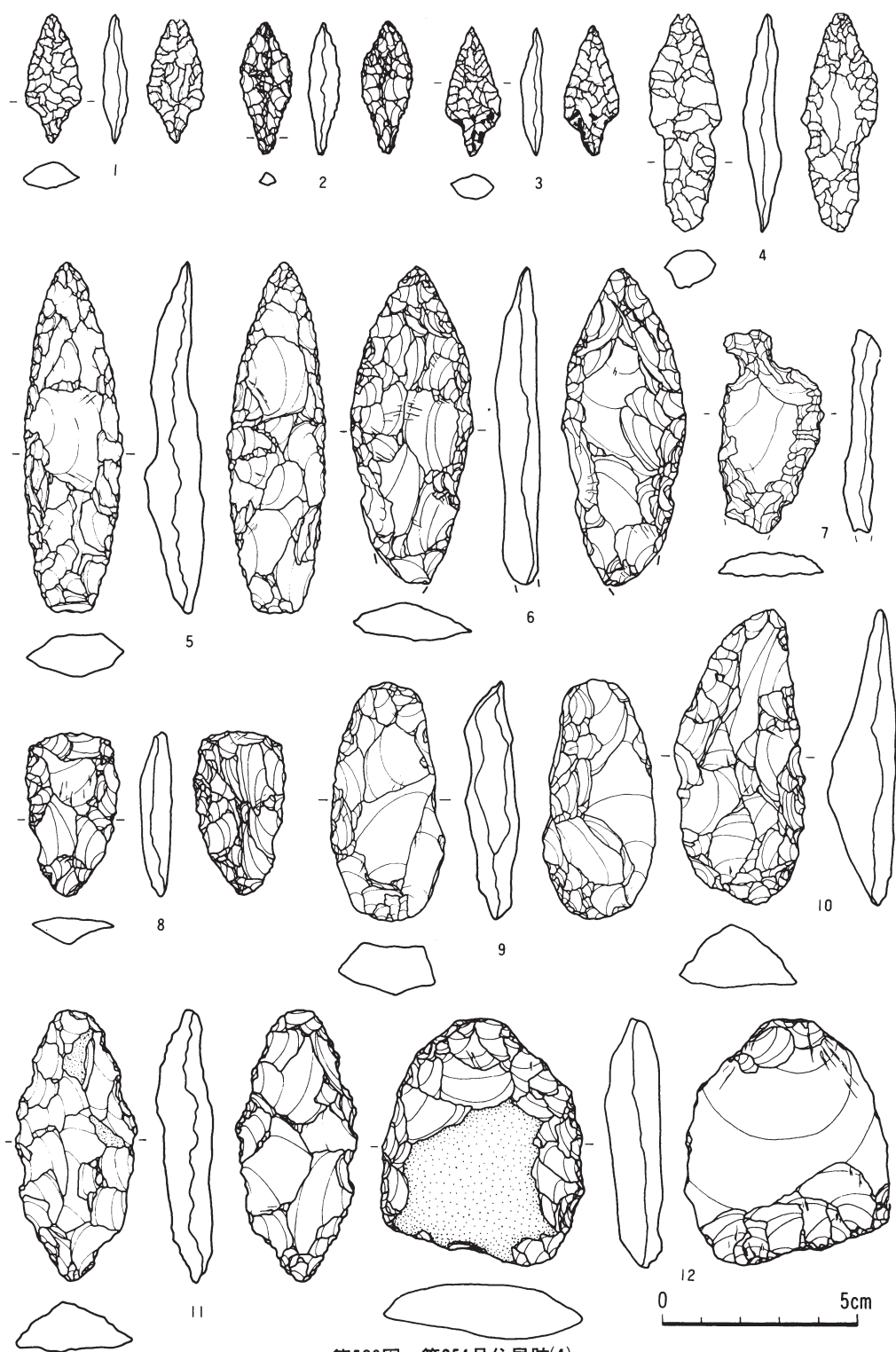
第251号住居跡 ビット23 土層注記
 第1層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒、炭化物を多量に含む
 第2層 明黄褐色 10YR6/6 ローム粒、L.Bを多量に含む

第251号住居跡 ビット3 土層注記
 第1層 褐色 10YR4/6 ローム粒、炭化物を多
 量に含む
 第2層 明黄褐色 10YR6/6 ローム粒、L.Bを多量
 に含む

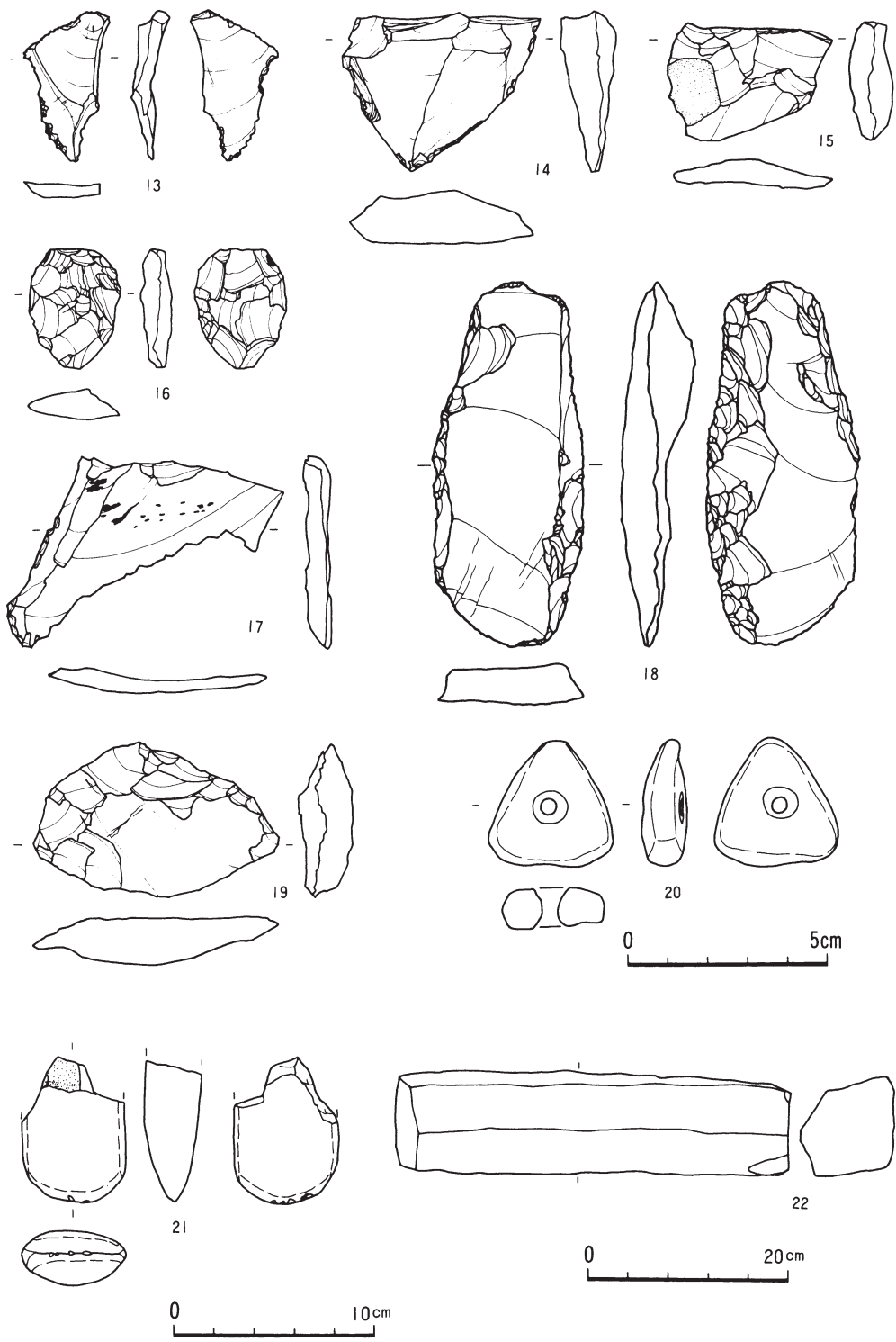
第587図 第251号住居跡(2)



第588図 第251号住居跡(3)



第589图 第251号住居跡(4)



第590图 第251号住居跡(5)

＜炉＞ 地床炉で住居跡の中央部やや西寄りに位置する。規模は、長軸58cm・短軸50cm、深さ10cmである。堆積土は2層に区分でき、1層上面が火床面である。

＜特殊施設＞ 住居跡西壁近くにピットを1基検出した。ピット周辺は盛り土(高さ2～7cm)になっている。平面形は馬蹄形状を呈し長軸1m50cm・短軸1m60cm・深さ7cmを測り、中央部に直径55cm・深さ63cmの円形ピットを伴っている。

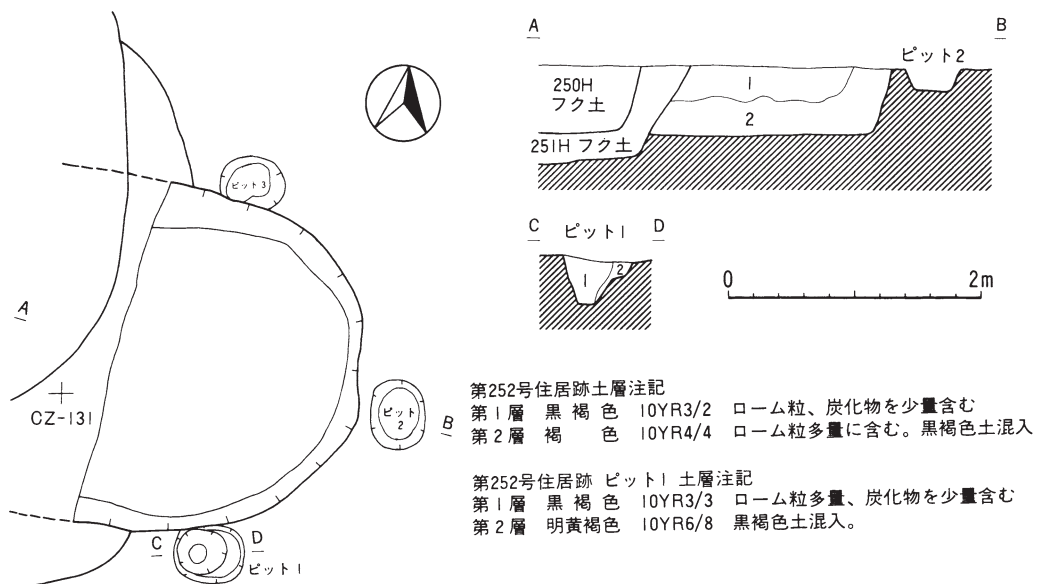
＜堆積土＞ 8層に分層できた。5層から多量の炭化木材が検出された。(図587)自然堆積と思われる。

＜出土遺物＞ 遺物は、住居跡の中央部から多く出土した。土器は、底面(3・5・6・7)から出土し、他は、覆土からの出土である。石器は、覆土から石鏃4点・石槍1点・石錐1点・石筥2点・不定形石器12点・台石1点、ピット2から石錐1点・不定形石器2点、床直から石斧1点、床面から石鏃1点・石槍2点・石筥2点・不定形石器3点・石棒類1点の総数34点が出土した。また、覆土から有孔土製品1点が出土した。

＜小結＞ 本住居跡は多くの炭化材が出土したことより焼失家屋と考えられる。また、床面の土器片(5)・(7)から円筒上層e式期と思われる。(中嶋 友文)

第252号住居跡(第591・592図)

＜位置と確認＞ 調査区西側台地の緩斜面CY・CZ-130グリッドに位置している。第IV層を精査中に褐色土の落ち込みを確認した。



第591図 第252号住居跡(1)

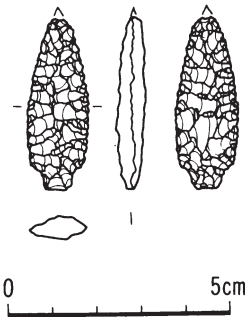
〈重複〉 本住居跡は、西側で第250号住居跡と第251号住居跡と重複している。新旧関係は以下のとおりである。

(新) → (旧)

第250号住居跡→第251号住居跡→本住居跡

↓ (床面)

第279号住居跡→第280号住居跡



第592図 第252号住居跡(2)

〈平面形・規模〉 重複する住居跡に西側を壊されているが、残存部分から推定すると楕円形と思われる。規模は、長軸(2m)・短軸2m70cmである。

〈壁・床面〉 残存する壁はやや緩やかに立ち上がり、堅緻な構築である。壁高は35～55cmである。床面は全体的にほぼ平坦で、堅く締まっている。

〈壁溝〉 検出されなかった。

〈柱穴〉 本住居跡内からは検出されなかったが、住居跡の外側で3個のピットが検出され、深さは(P₁…17, P₂…12, P₃…27cm)あまり深くないが柱穴の可能性はある。

〈炉〉・〈特殊施設〉 検出されなかった。

〈堆積土〉 2層に分層できた。自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉 住居跡内から遺物は、ほとんど出土しなかったが、床直から石鏃1点出土している。

〈小結〉 本住居跡は、重複している第251号住居跡(円筒上層e式期)から円筒上層d・e式期と思われる。
(中嶋 友文)

第253号住居跡 (第593・594図)

〈位置と確認〉 調査区CV-132・133グリッドに位置している。

〈重複〉 第261号住居跡・第584号土壌と重複し、新旧関係は、すべて本住居跡が新しい。

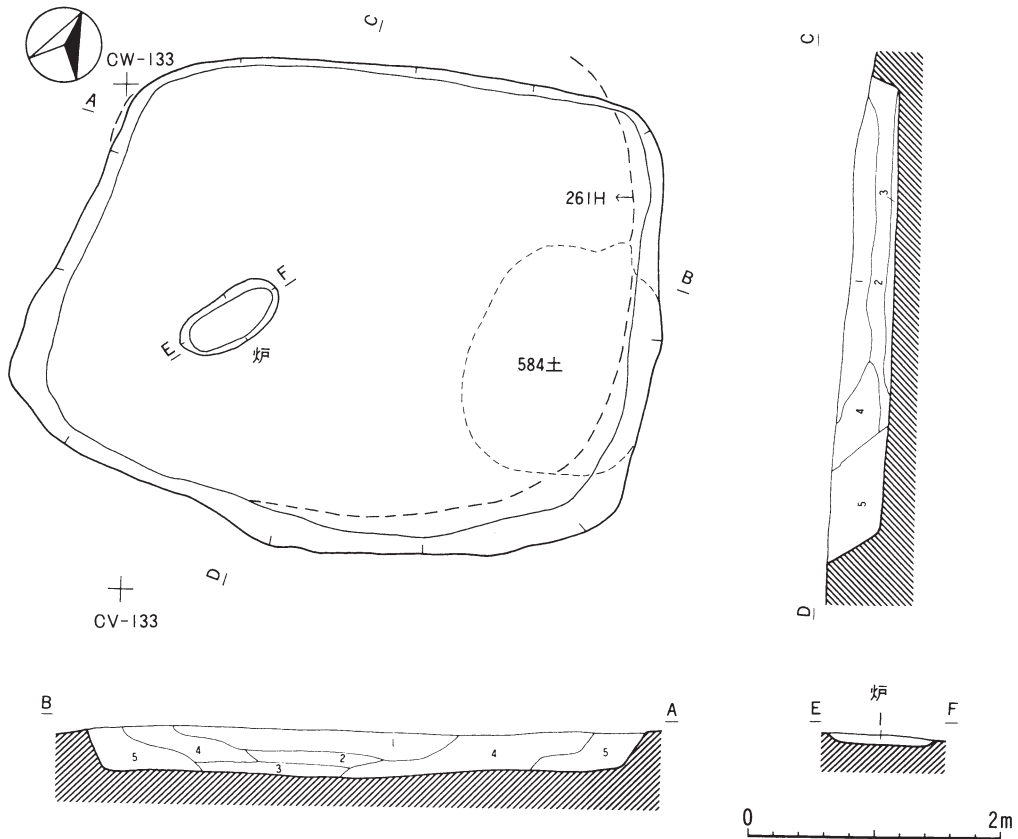
〈平面形・規模〉 全体的に丸みをもつ隅丸方形のプランを呈する。規模は、長軸4m74cm・短軸3m82cm・床面積14.48㎡を測る。

〈壁・床面〉 上端から床面にかけて傾斜しており、軟弱な造りである。壁高は、東壁35cm・西壁30cm・南壁38cm・北壁27cmを測る。床面は、ほぼ平坦で全面に貼り床を施している。

〈柱穴〉 検出しなかった。

〈特殊施設〉 認められなかった。

〈炉〉 中央部から東寄りに長径85cm・短径39cm・深さ9cmの浅い楕円形の地床炉が設けられている。



第253号住居跡土層注記

- 第1層 褐色 7.5YR4/4 ロームブロックを多量に含む
- 第2層 暗褐色 7.5YR3/3 ローム粒子多量、炭化物少量含む
- 第3層 黒褐色 7.5YR3/2 炭化物多量に含む
- 第4層 暗褐色 7.5YR3/4 炭化物若干、小ロームブロックを含む
- 第5層 明褐色 7.5YR5/6 黄褐色土混入

第253号住居跡 炉土層注記

- 第1層 褐色 7.5YR4/4 焼土粒を全体に含む

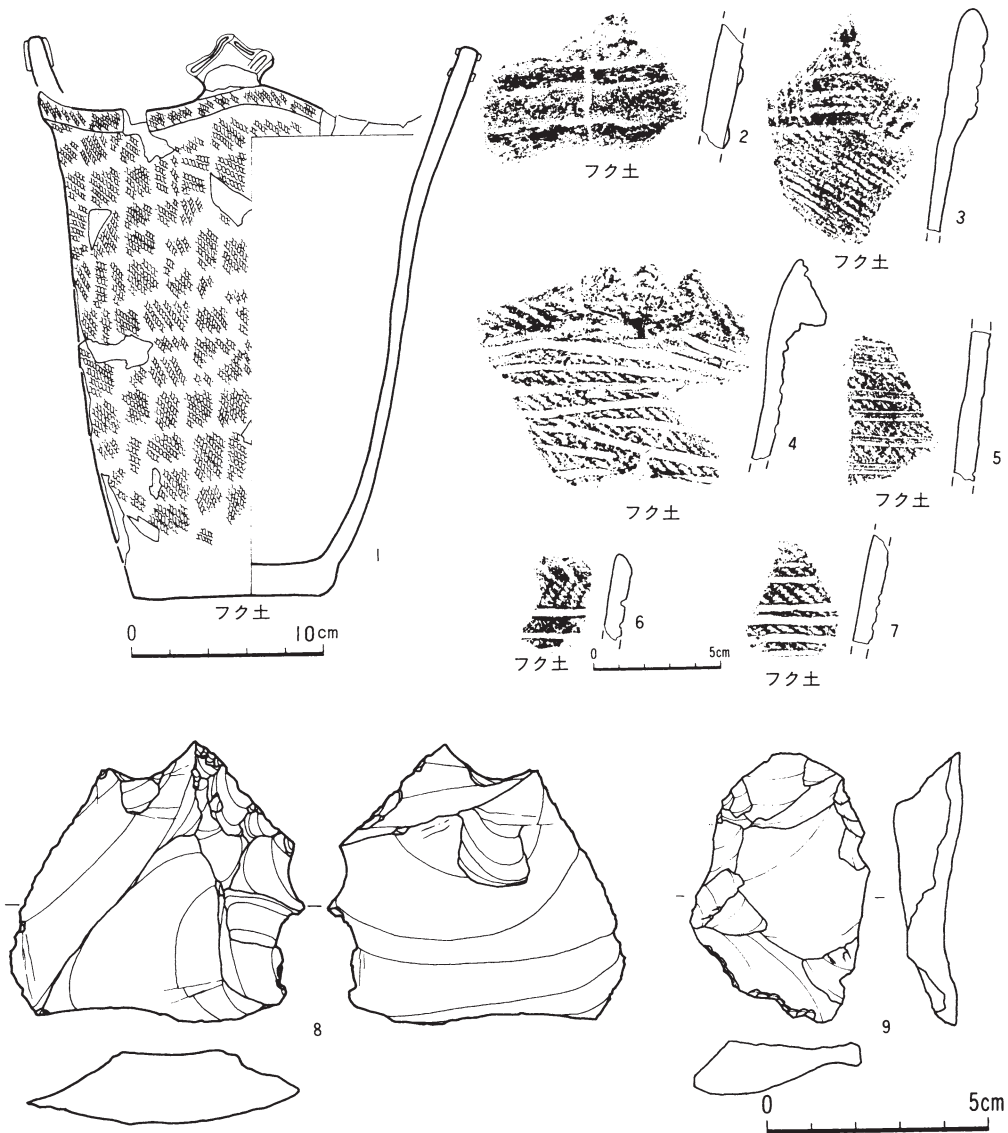
第593図 第253号住居跡(1)

<堆積土> 5層に分層できた。断面観察等から自然堆積と思われる。

<出土遺物> 遺物は炉から南側から出土した。土器は、すべて覆土からの出土である。石器は、覆土から不定形石器2点が出土した。

<小結> 住居跡の時期は、覆土の土器以前であり、円筒上層d・e式期と思われる。

(成田 滋彦)



第594図 第253号住居跡(2)

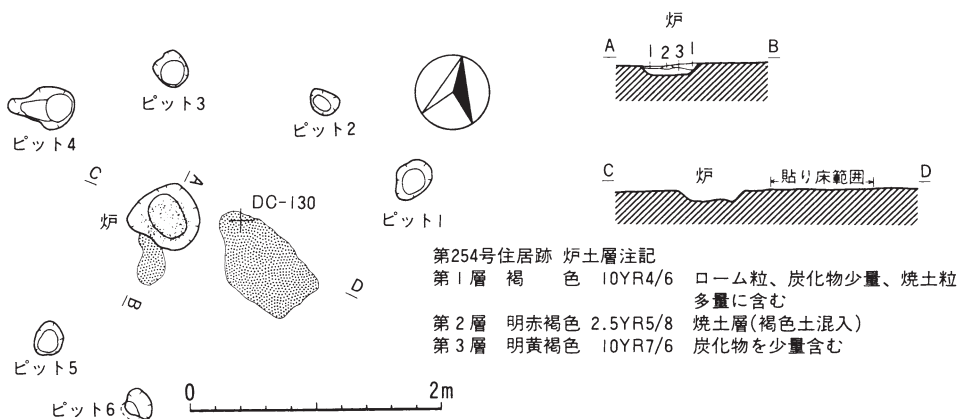
第254号住居跡 (第595図)

<位置と確認> 本調査区西側台地の平坦面DB・DC-130・131グリッドに位置している。第IV層を精査中に焼土と貼り床の一部を確認し、住居跡を検出した。

<重複> 認められなかった。

<平面形・規模> 平面形及び規模は、壁が削平されているため判然としないが、周辺のピットから推定すると東西約4m50cm・南北約2m80cmとみられる。

<壁・床面> 壁は、確認できなかった。貼り床は、ほぼ平坦で、堅く締まっている。



第595図 第254号住居跡

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 6個のピットが検出され、すべて柱穴(深さP₁…26、P₂…13、P₃…60、P₄…34、P₅…21、P₆…20cm)と思われる。柱穴の配置は、東側と西側の一部は確認できなかったが、ほぼ円形状に配置されていると思われる。

<炉> 住居跡のほぼ中央部に位置し、長軸56cm・短軸45cm、深さ8cmの不整楕円形の地床炉である。堆積土は3層に区分できた。

<特殊施設> 検出されなかった。

<出土遺物> 住居跡内から遺物は出土しなかった。

<小結> 重複および遺物が出土しないことから構築の時期は不明である。(中嶋 友文)

第255号住居跡 (第596～598図)

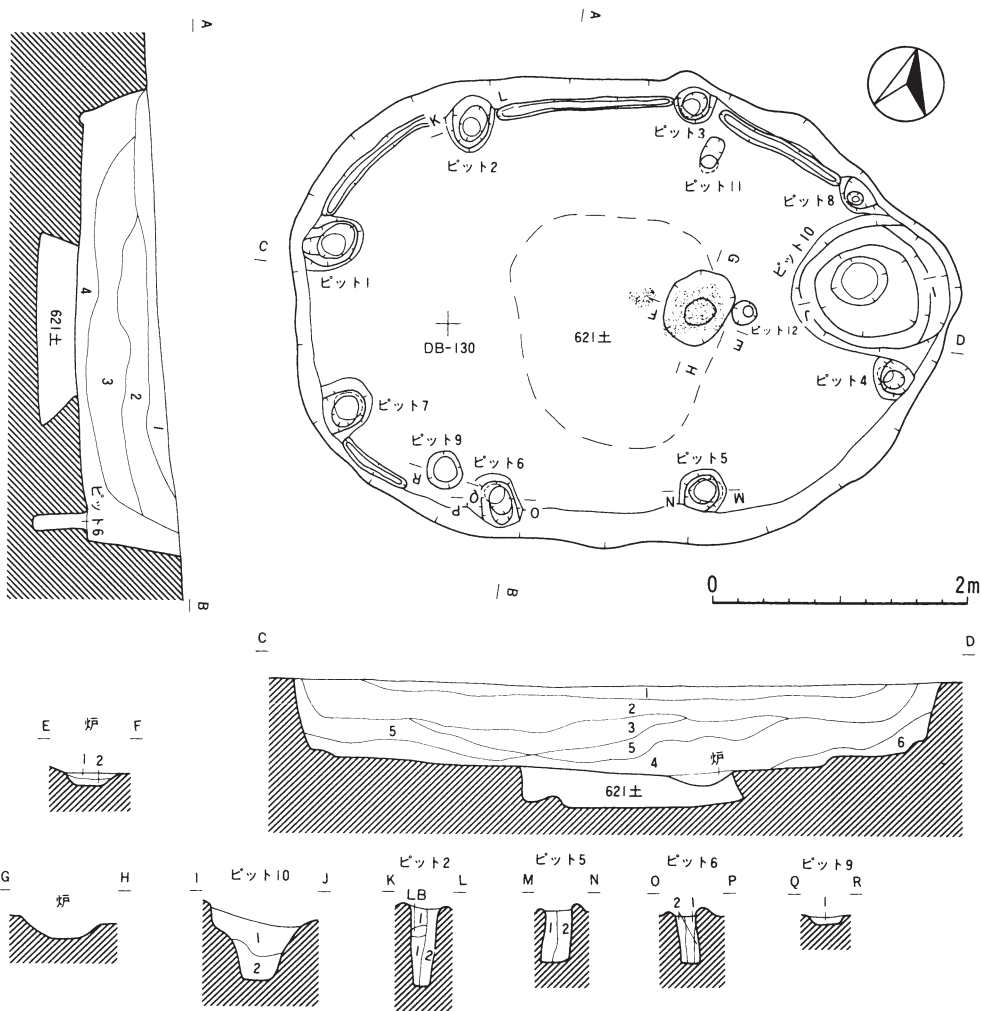
<位置と確認> 調査区西側の平坦面のDA・DB-129・130グリッドに位置する。第IV層上面で褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 本住居跡は、床面で第621号土壌、北側で第4号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は本住居跡が新しい。

<平面形・規模> 東西に長い楕円形である。規模は、長軸5m26cm・短軸3m70cm、床面積は、13.71㎡である。

<壁・床面> 第IV層を壁面とし、各壁ともにほぼ垂直に立ち上がり、堅緻な構築である。壁高は、東壁60cm・西壁61cm・南壁79cm・北壁49cmである。床面は起伏が少なく全般的に平坦である。炉及び特殊施設周辺は堅く締まっている。

<壁溝> 北壁を中心として、幅10～15cm・深さ3～7cmの規模で、ほぼ半周している。



第255号住居跡土層注記

- 第1層 褐色 10YR4/4 炭化物、ローム粒を少量含む
- 第2層 暗褐色 10YR3/4 炭化物、ローム粒、焼土粒少量含む
- 第3層 褐色 10YR4/6 炭化物、ローム粒をやや多く含む
- 第4層 黄褐色 10YR5/6 炭化物、ローム粒を多量に含む
- 第5層 黒褐色 10YR2/3 炭化物、ローム粒を微量に含む
- 第6層 暗褐色 10YR4/6 炭化物、ローム粒を少量含む

第255号住居跡 炉土層注記

- 第1層 赤褐色 5YR4/8 炭化物を多量に含む。褐色土少量混入
- 第2層 明黄褐色 10YR6/6 炭化物少量含む。褐色土少量混入

第255号住居跡 ピット2 土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒を多量、炭化物を少量含む
- 第2層 褐色 10YR4/4 ローム粒を多量に含む

第255号住居跡 ピット5 土層注記

- 第1層 褐色 10YR4/4 ローム粒を多量に含む
- 第2層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒を多量、炭化物を少量含む

第255号住居跡 ピット6 土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR5/4 ローム粒を多量、炭化物を少量含む
- 第2層 褐色 10YR4/4 ローム粒を多量に含む

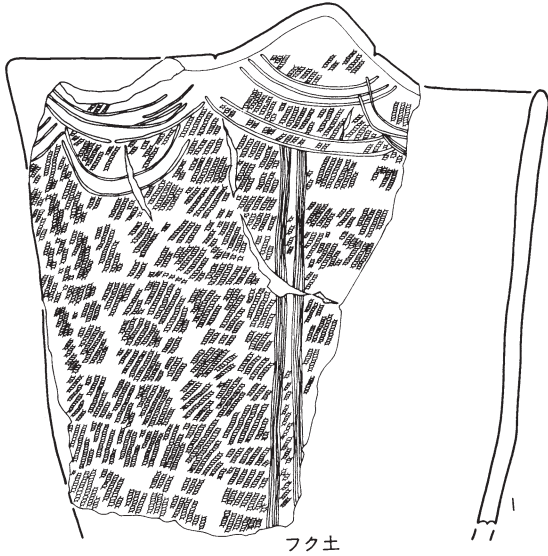
第255号住居跡 ピット9 土層注記

- 第1層 黄褐色 10YR5/6 ローム粒、炭化物を多量に含む

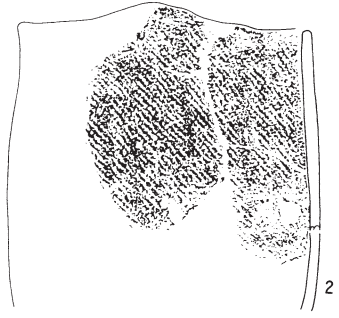
第255号住居跡 ピット10(特殊施設) 土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒多量、炭化物を少量含む
- 第2層 褐色 10YR4/4 ローム粒を多量に含む

第596図 第255号住居跡(1)

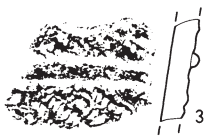


フク土



ビット底面

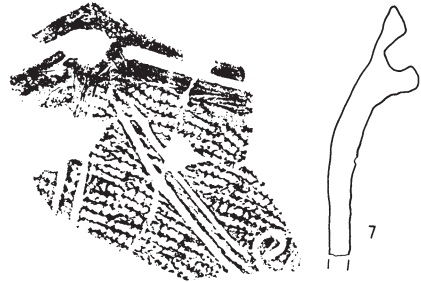
0 10cm



フク土



フク土



フク土



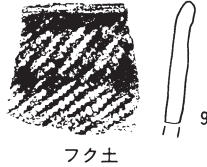
フク土



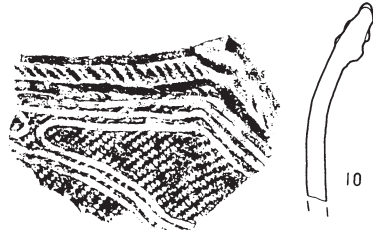
フク土



フク土



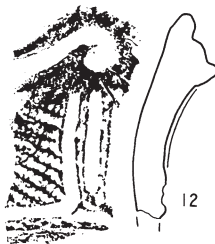
フク土



フク土



フク土



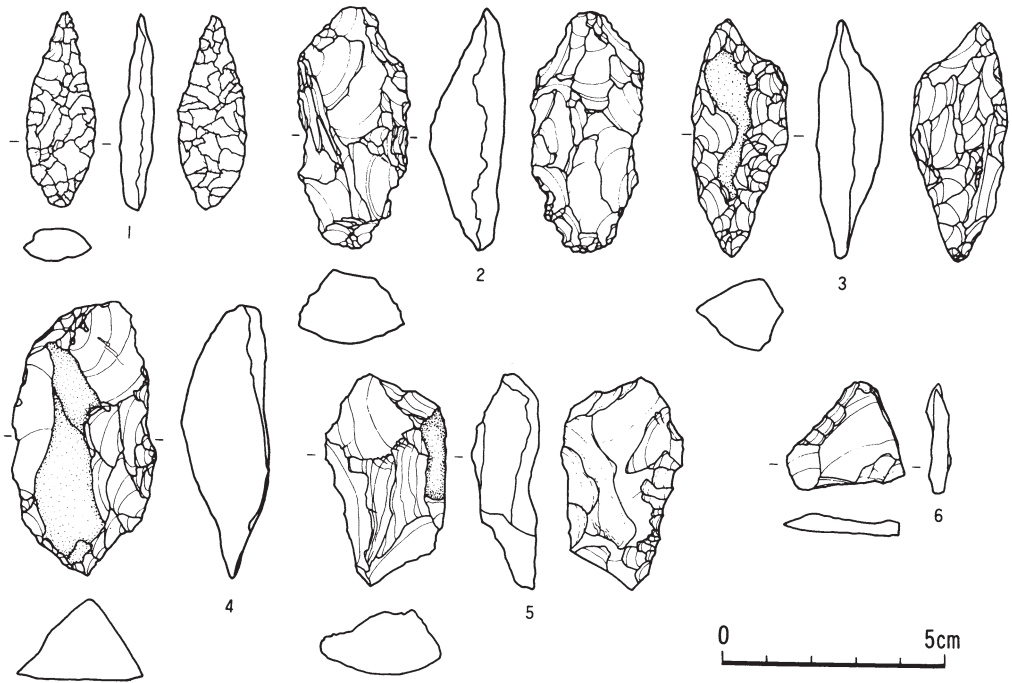
ビット底面



フク土

0 5cm

第597図 第255号住居跡(2)



第598図 第255号住居跡(3)

〈柱穴〉 本住居跡内から12個のピットが検出された。このうち、長軸線上で対称となり、ピット周辺が盛土になっているP₁～P₈（深さP₁…43・P₂…60・P₃…55・P₄…41・P₅…41・P₆…40・P₇…46・P₈…17cm）が主柱穴である。P₁₀については、特殊施設の項目で述べる。

〈炉〉 地床炉で住居跡中央部からやや東寄りに位置する。平面形は南北に長い楕円形で、規模は、長軸60cm・短軸48cm、深さ10cmである。堆積土は2層に区分でき、第1層上面が火床面である。

〈特殊施設〉 住居跡東壁直下でピットを1個を検出した。ピット周辺は盛土となっており、その周辺の床面は非常にかたくしまりがある。ピットは円形を呈し、開口部で長軸43cm・短軸40cm、深さ52cmである。堆積土は、2層に分層され、自然堆積と思われる。

〈堆積土〉 6層に分層できた。自然堆積と思われる。

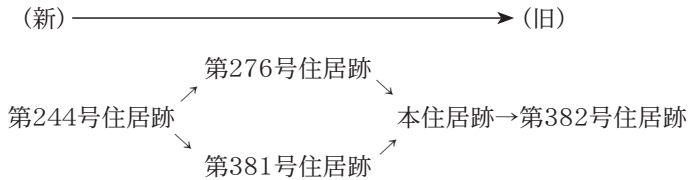
〈出土遺物〉 遺物は、住居跡の中央部の覆土から多く出土した。土器は、床面・(12)から出土し、他は、覆土からの出土である。石器は、覆土から石鏃2点・不定形石器4点、ピット10から不定形石器3点、床面から石鏃1点・不定形石器1点・台石1点が出土し、総数12点である。

〈小結〉 本住居跡は、床面の土器片(12)から榎林式期と思われる。 (中嶋 友文)

第256号住居跡（第599図）

＜位置と確認＞ 調査区の西側台地の最高部CT-128・129グリッドに位置する。第276号住居跡を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

＜重複＞ 住居跡の東側で第381号住居跡と第382号住居跡、北側で第244号住居跡、西側で第276号住居跡と重複しており、新旧関係は以下のとおりである。



＜平面形・規模＞ 竪穴の大部分が、他の住居跡に壊されているため全容は不明である。

＜壁・床面＞ 第IV層を壁面とし、南壁の一部を確認できたが、ほぼ垂直に立ち上ると思われる。南壁の壁高は、27cmである。床面は起伏が少なく全般的に平坦であり堅く締まっている。

＜壁溝＞ 検出されなかった。

＜柱穴＞ 検出されなかった。

＜炉＞ 検出されなかった。

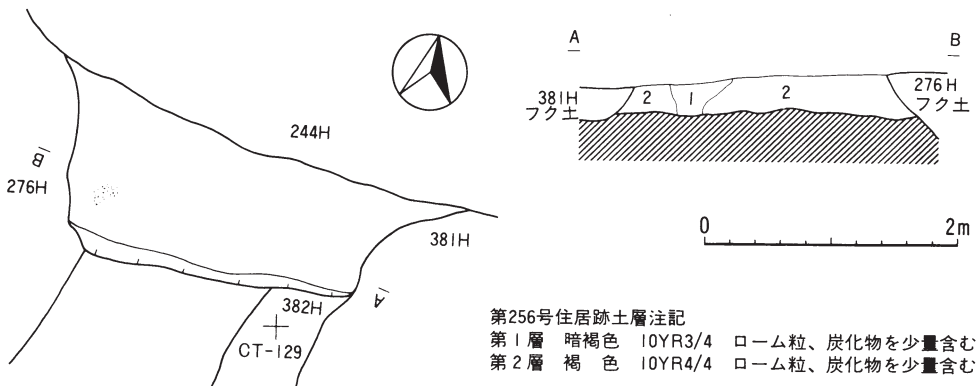
＜特殊施設＞ 検出されなかった。

＜堆積土＞ 2層に分層できた。自然堆積と思われる。

＜出土遺物＞ 遺物は、ほとんど出土しなかった。

＜小結＞ 本住居跡は、重複している第381号住居跡（榎林式期）、第244号住居跡（榎林式期）、第276号住居跡（円筒上層e式期）からみて円筒上層e式～榎林式期と思われる。

（中嶋 友文）



第599図 第256号住居跡

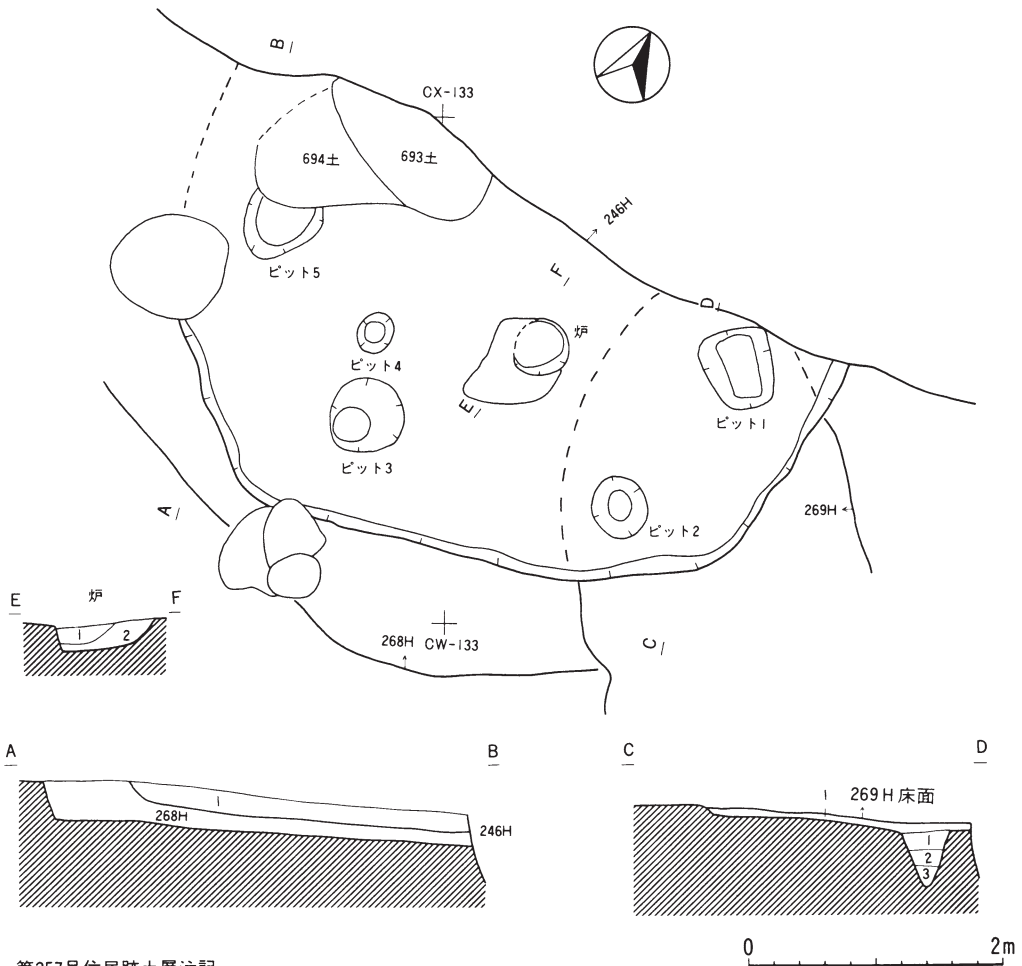
第257号住居跡（第600～602図）

＜位置と確認＞ 調査区CV・CW-132・133グリッドに位置している。第246号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

＜重複＞ 第246・268・269号住居跡、第693・694号土壇と重複し、新旧関係は下記の変遷である。

(旧) → (新)

第268号住居跡 → 本住居跡 → 第269号住居跡 → 第246号住居跡
 第694号土壇 → 第693号住居跡

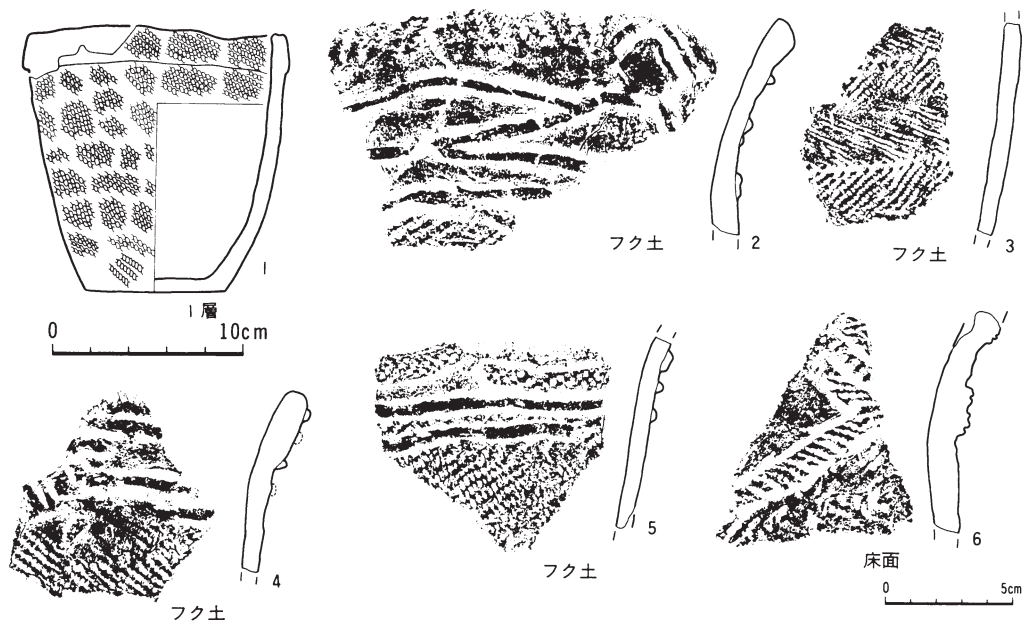


第257号住居跡土層注記
 第1層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物若干含む

第257号住居跡 炉土層注記
 第1層 明赤褐色 5YR5/8 褐色土混入。焼土層
 第2層 褐色 10YR4/4 ローム粒多量に含む

第257号住居跡 ピット1 土層注記
 第1層 褐色 10YR4/4 炭化物若干含む
 第2層 黄褐色 10YR5/6 ローム粒、炭化物若干含む
 第3層 黄褐色 10YR5/8 ローム粒多量に含む

第600図 第257号住居跡(1)



第601図 第257号住居跡(2)

〈平面形・規模〉 残存部から推定すると、東西に長軸をもつ楕円形のプランと思われる。規模は長軸（5 m35cm）・短軸・床面積は不明である。

〈壁・床面〉 上端から床面にかけて傾斜しており、軟弱な造りである。壁高は、東壁6 cm・南壁13cm、西壁・北壁は不明である。床面は第268号住居跡の堆積土をベースにして貼り床をしているが軟らかい造りである。

〈柱穴〉 ピットは5個検出した。配置等から柱穴と思われる。主柱穴かどうかは判断できなかった。

第257号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	No.	規模(cm)	深さ(cm)
1	方形	66×54	48	2	円形	48×44	70	3	円形	60×58	35
4	円形	33×28	36	5	円形	78×57	23				

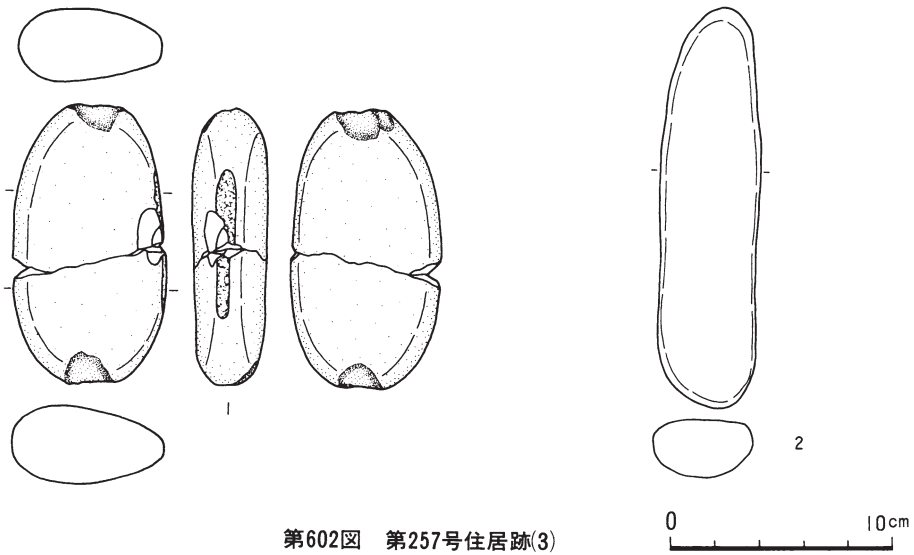
〈炉〉 住居跡の中央部から南寄りに長径48cm・短径42cm・深さ12cmの円形の地床炉が設けられている。炉はピットと重複し、炉が新しい。

〈特殊施設〉 認められなかった。

〈堆積土〉 分層できず1層のみの堆積である。人為的か自然堆積なのか判断はできなかった。

〈出土遺物〉 遺物は、住居跡の炉を中心として出土した。石器は、覆土から不定形石器1点、床面から敲磨器類1点・石棒類1点の総数3点が出土した。

〈小結〉 床面の土器から円筒上層d式期に住居跡が相当すると思われる。 (成田 滋彦)



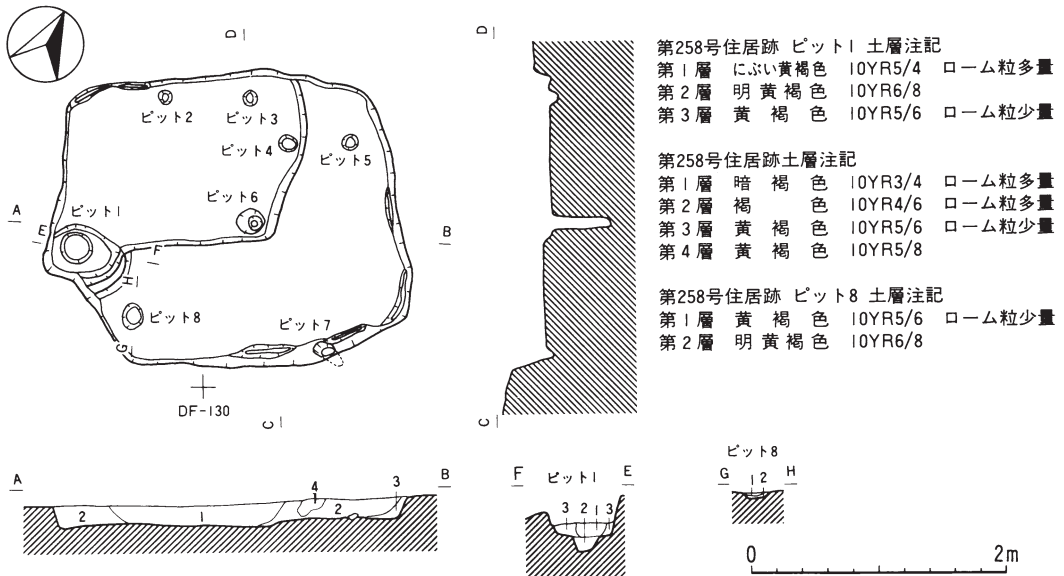
第602図 第257号住居跡(3)

第258号住居跡 (第603図)

<位置と確認> 調査区DF-129・130グリッドに位置している。第IV層を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 認められなかった。

<平面形・規模> 西側が一部張り出した方形を呈する。規模は長軸2m74cm・短軸2m35cm・床面積が5.02㎡の小型な住居跡である。



第603図 第258号住居跡

<壁・床面> 上端から床面にかけて傾斜しており軟らかい造りである。壁高は、東壁16cm・西壁15cm・南壁22cm・北壁11cmを測る。床面は北側から南側にかけて逆L字形に床面が6cmと一段高くなっている。

<柱穴> ピットは8個検出された。ピット1は特殊施設の項目で記載する。他のピットは配置等から柱穴と思われる。また、ピット1・2・5・7・8の5個が主柱穴と思われる。

第258号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
2	円形	11×9	8	3	円形	11×10	7	4	円形	4×13	45
5	円形	13×12	8	6	円形	21×18	52	7	楕円形	16×10	12
8	円形	18×16	5								

<壁溝> 認められなかった。

<炉> 検出しなかった。

<特殊施設> 西壁寄りに長径67cm・短径62cmのピットを有する。ピットの縁に幅9cm・高さ7cmの弧状を呈する盛土が南側にみられ、内部に小ピットを有する。

<堆積土> 4層に分層できた。断面観察等から人為堆積と思われる。

<出土遺物> 遺物は出土しなかった。

(神山温子・成田滋彦)

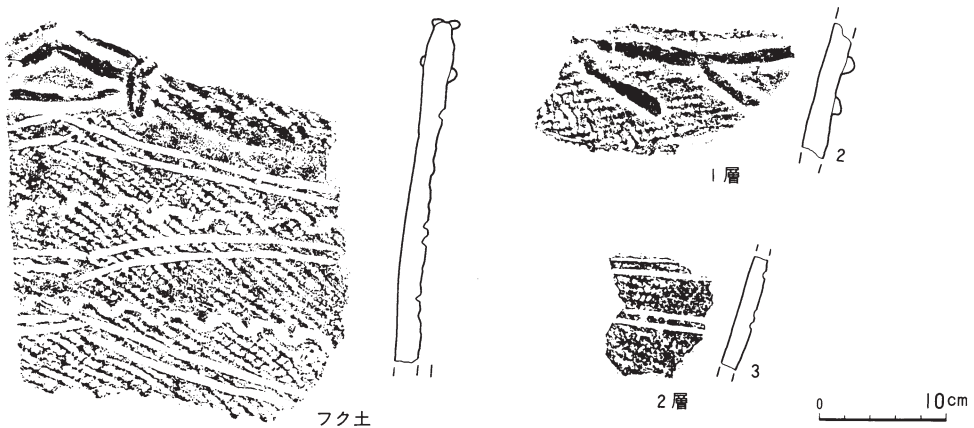
第259号住居跡 (第604~606図)

<位置と確認> 調査区CV・CW-129・130グリッドに位置している。第848号土壌の下位を精査中に本住居跡を確認した。

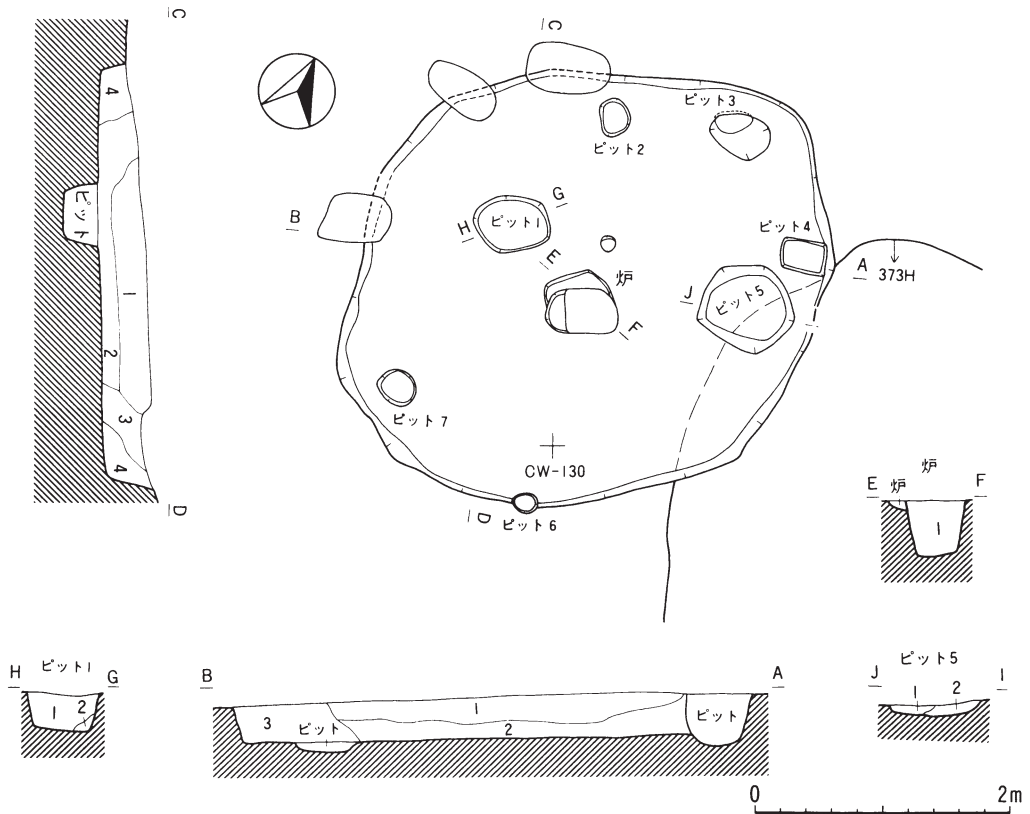
<重複> 第273・373号住居跡、第848号土壌と重複し、新旧関係は下記の変遷である。

(旧) → (新)

第373号住居跡→第273号住居跡→本住居跡→第848号土壌



第604図 第259号住居跡(1)



第259号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色 7.5YR3/3 ローム粒・炭化物若干含む
- 第2層 暗褐色 7.5YR3/4 ローム粒多量・炭化物少量含む
- 第3層 暗褐色 7.5YR3/3 ローム粒を多量に含む
- 第4層 褐色 7.5YR4/4 ローム粒を全面に含む

第259号住居跡 ピット5 土層注記

- 第1層 褐色 7.5YR4/4 ローム粒を全面に含む
- 第2層 暗褐色 7.5YR3/3 ローム粒・炭化物を少量含む

第259号住居跡 炉土層注記

- 第1層 暗赤褐色 7.5YR3/4 焼土粒混入・炭化物若干含む

第259号住居跡 ピット1 土層注記

- 第1層 暗褐色 7.5YR3/4 ローム粒多量・炭化物若干含む
- 第2層 褐色 7.5YR4/4 黄褐色土混入

第605図 第259号住居跡(2)

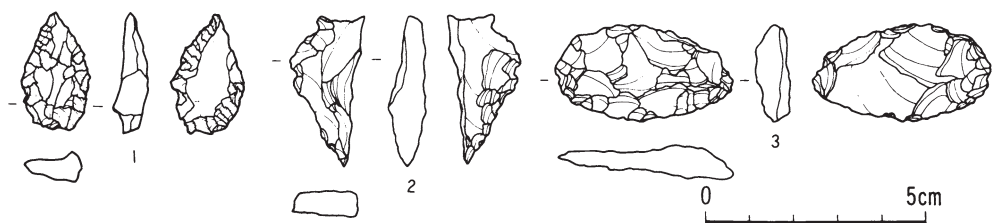
〈平面形・規模〉 全体に丸みをもつ円形のプランである。規模は、長軸3m58cm・短軸3m43cm・床面積10.04㎡を測る。

〈壁・床面〉 上端から床面にかけて、緩やかに傾斜しており堅緻な造りである。壁高は、東壁28cm・西壁32cm・南壁29cm・北壁17cmを測る。床面は、ほぼ平坦で壁同様に固い。

〈柱穴〉 ピットは7個検出した。ピット3については、その他の施設の項目で記載する。6個のピットは配置等から壁柱穴と思われる。

第259号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	円形	62×50	36	2	円形	26×25	31	3	不整円形	45×34	89
4	方形	36×26	14	6	円形	20×17	5	7	円形	30×28	103



第606図 第259号住居跡(3)

＜炉＞ 地床炉で住居跡の中央部に位置する。炉の南側部分は、ピットによって切られて判然としないが、残存部から推定すると円形と思われる。

＜その他の施設＞ 住居跡の西壁寄りで長径75cm・短径69cm・深さ9cmの円形のピットを検出した。

＜堆積土＞ 4層に分層できた。第1～4層のすべてに多量のロームを含んでおり、人為的堆積と思われる。

＜出土遺物＞ 土器は、すべて覆土（第1・2層）からの出土である。石器は、覆土から石鏃1点・不定形石器4点の総数5点が出土した。

＜小結＞ 住居跡の時期は、覆土の土器以前であり、円筒上層c・d式期と思われる。

(成田滋彦)

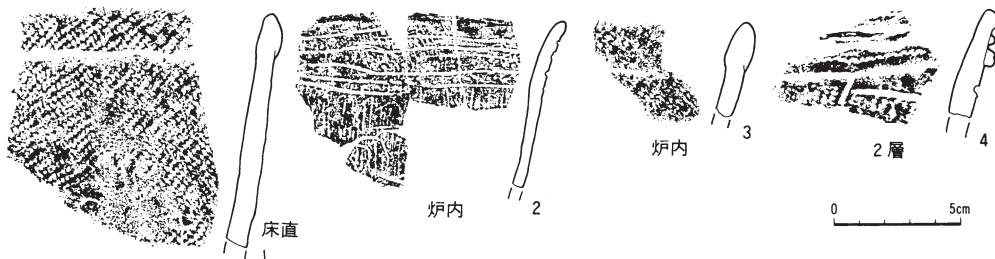
第261号住居跡（第607～609図）

＜位置と確認＞ 調査区CV・CW-132・133グリッドに位置している。第253号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

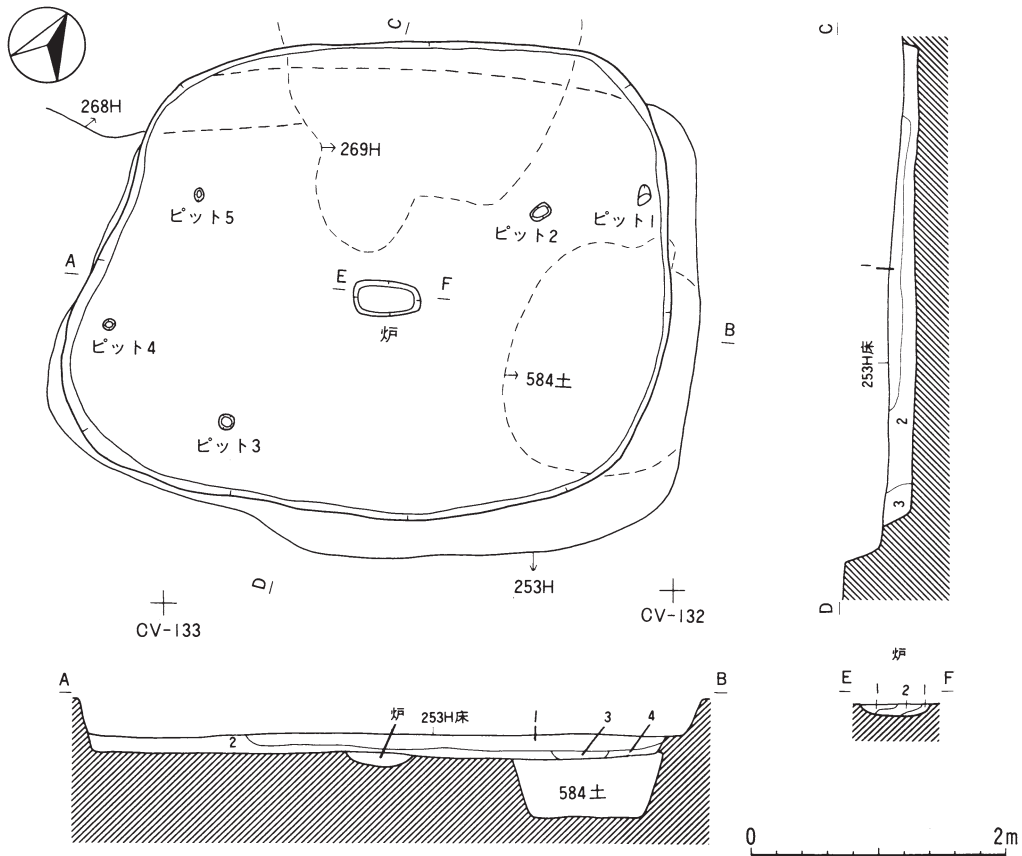
＜重複＞ 第253・268・269号住居跡、第584号土壇と重複し、新旧関係は、第253号住居跡より古く、第268・269号住居跡、第584号土壇より新しい。

＜平面形・規模＞ 南・北側が直線的、東・西側が丸みもち全体のプランが方形を呈する。規模は、長軸4m28cm・短軸3m72cm・床面積14.33㎡を測る。

＜壁・床面＞ 上端から床面にかけて傾斜しており、軟らかい造りである。壁高は、東壁14cm・西壁13cm・南壁19cm・北壁12cmを測る。床面は、ほぼ平坦で固い。



第607図 第261号住居跡(1)



第261号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色 7.5YR3/3 ローム粒子を多量に含む
- 第2層 褐色 7.5YR4/4 ローム粒多量・炭化物若干含む
- 第3層 黒褐色 7.5YR3/2 ローム粒を多量に含む
- 第4層 褐色 7.5YR4/6 黄褐色土混入

第261号住居跡 炉土層注記

- 第1層 暗褐色 7.5YR3/4 焼土粒・炭化物を含む
- 第2層 明赤褐色 2.5YR5/6 焼土を全面に含む

第608図 第261号住居跡(2)

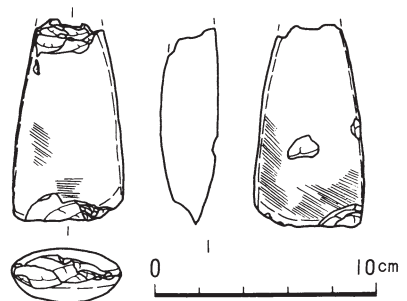
〈柱穴〉 ピットは5個検出した。配置等から柱穴と思われる。

〈炉〉 住居跡の中央部に長径53cm・短径28cm・深さ8cmの長方形を呈する地床炉が設けられている。

〈特殊施設〉 認められなかった。

〈堆積土〉 4層に分層できた。堆積土中にはローム粒を多く含んでおり、住居跡廃棄後に埋められた人為堆積である。

〈出土遺物〉 遺物は、炉を中心として出土した。土器は、(1)が床直、(2・3)が炉内から出土し、他は覆土からの出土である。石器は、床直から磨製石斧1点が出土した。



第609図 第261号住居跡

第261号住居跡ピット計測表

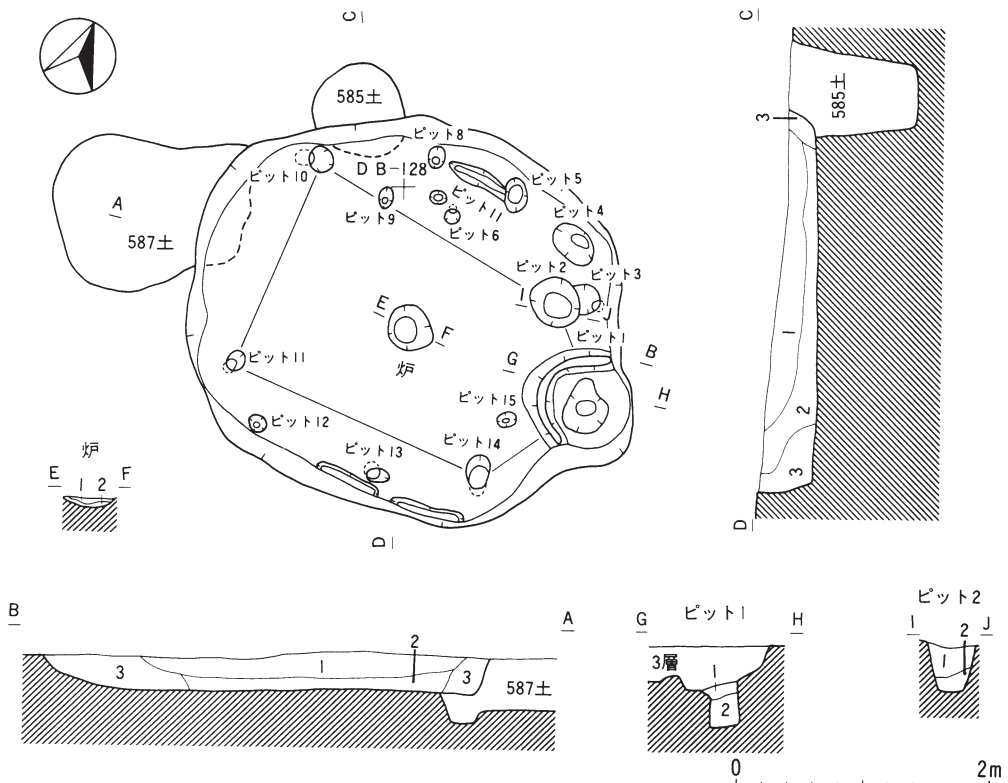
No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	楕円形	18×12	11	2	方形	14×11	11	3	円形	13×12	10
4	円形	9×9	12	5	円形	11×8	22				

<小結> 炉内の土器から、榎林式期に住居跡が相当すると思われる。(成田 滋彦)

第263号住居跡 (第610～612図)

<位置と確認> 調査区DA・DB-127・128グリッドに位置している。第IV層を精査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 住居跡の西側で第587号土壌、北側で第585号土壌と重複し、新旧関係は、本住居跡が新しい。



第263号住居跡土層注記

- 第1層 黒褐色 10YR3/2 ローム粒少量、炭化物・焼土粒若干含む
- 第2層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒多量、炭化物若干含む
- 第3層 褐色 10YR6/4 ローム粒少量、炭化物若干含む

第263号住居跡 炉土層注記

- 第1層 暗褐色 7.5YR3/3 ローム粒少量、炭化物若干含む
- 第2層 明褐色 7.5YR5/6 焼土ブロック混入

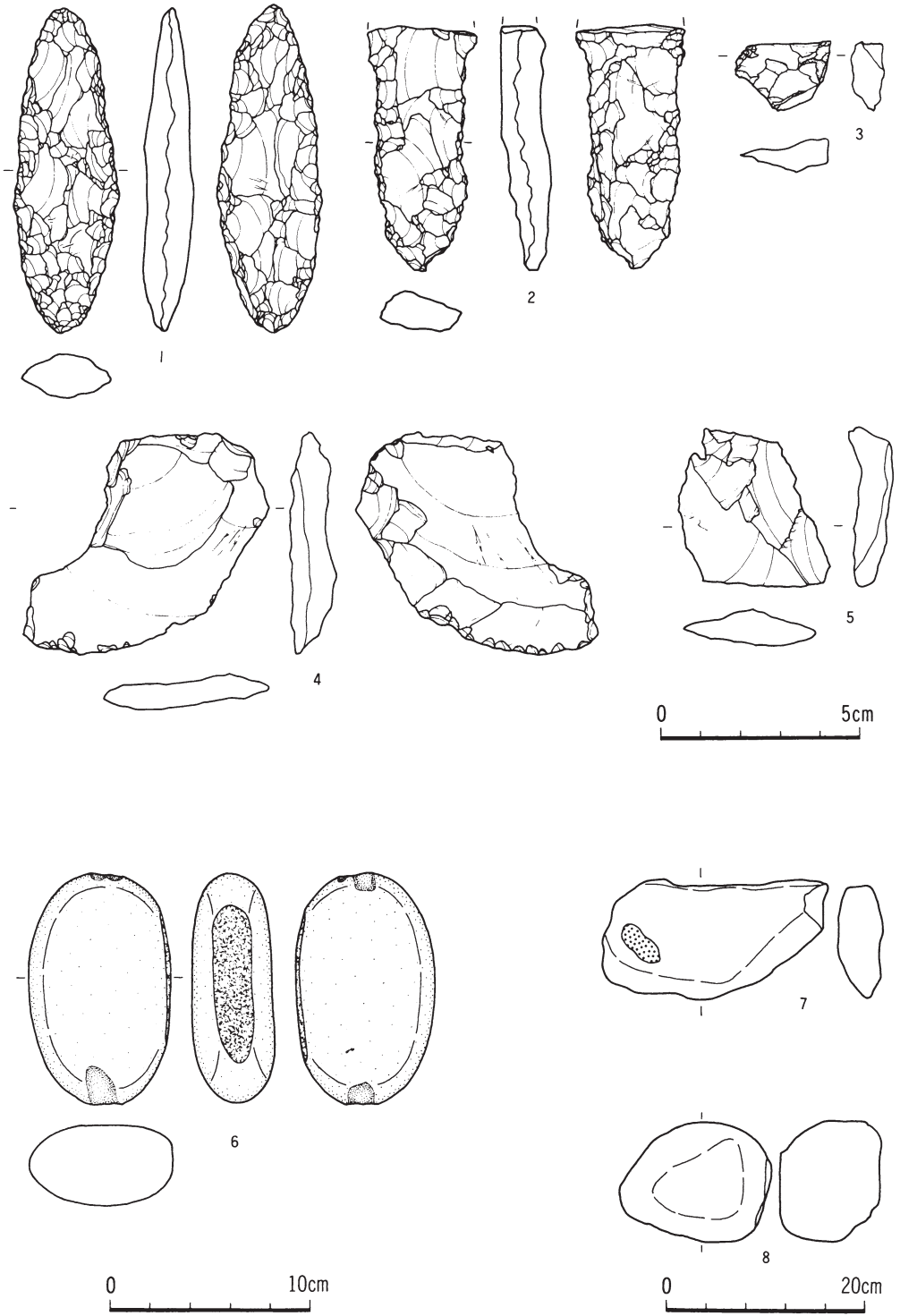
第263号住居跡 ピット1 土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物・焼土粒若干含む
- 第2層 褐色 10YR4/6 ローム粒子多量、暗褐色土混入

第263号住居跡 ピット2 土層注記

- 第1層 暗褐色 10YR3/3 炭化物若干含む
- 第2層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒少量含む

第610図 第263号住居跡(1)



第611图 第263号住居跡(2)



第612図 第263号住居跡(3)

〈平面形・規模〉 東側が張り出し全体に丸みを有する隅丸方形のプランである。規模は、長軸3m32cm・短軸3m8cm・床面積7.70㎡を測る。

〈壁・床面〉 上端から床面にかけて傾斜しており堅緻な造りである。壁高は、東壁17cm・西壁32cm・南壁42cm・北壁25cmを測る。床面は、ほぼ平坦で壁同様に固い。

〈壁溝〉 幅10cm・深さ4cmの浅い溝を北側と南側で検出した。溝は一周せず途切れている。

〈柱穴〉 ピットは15個検出した。ピット1については特殊施設の項目で記載する。他のピットは配置等から柱穴と思われる。ピット2・10・11・14の4個が支柱穴と思われる。

第263号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
2	円形	40×38	40	3	円形	26×16	41	4	楕円形	36×24	16
5	楕円形	28×18	9	6	円形	14×13	22	7	円形	12×10	11
8	楕円形	18×14	21	9	楕円形	17×12	52	10	円形	21×20	57
11	円形	17×14	52	12	円形	14×13	7	13	楕円形	17×11	13
14	楕円形	28×17	56	15	円形	15×13	7				

〈炉〉 住居跡の中央部に長径39cm・短径34cm・深さ7cmの浅い円形の地床炉が設けられている。

〈特殊施設〉 北壁寄りに長径75cm・短径70cmのピットを検出した。ピットの縁には幅24cm・高さ6cmの盛土を弧状に巡らしている。ピットの内部には円形の小ピットを有する。

〈堆積土〉 3層に分層できた。断面観察等から自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉 土器はすべて第1層・覆土からの出土である。石器は、覆土から不定形石器2点・敲磨器類1点、床直から石槍1点、床面から石槍1点・不定形石器2点・台石石皿2点の総数9点が出土した。

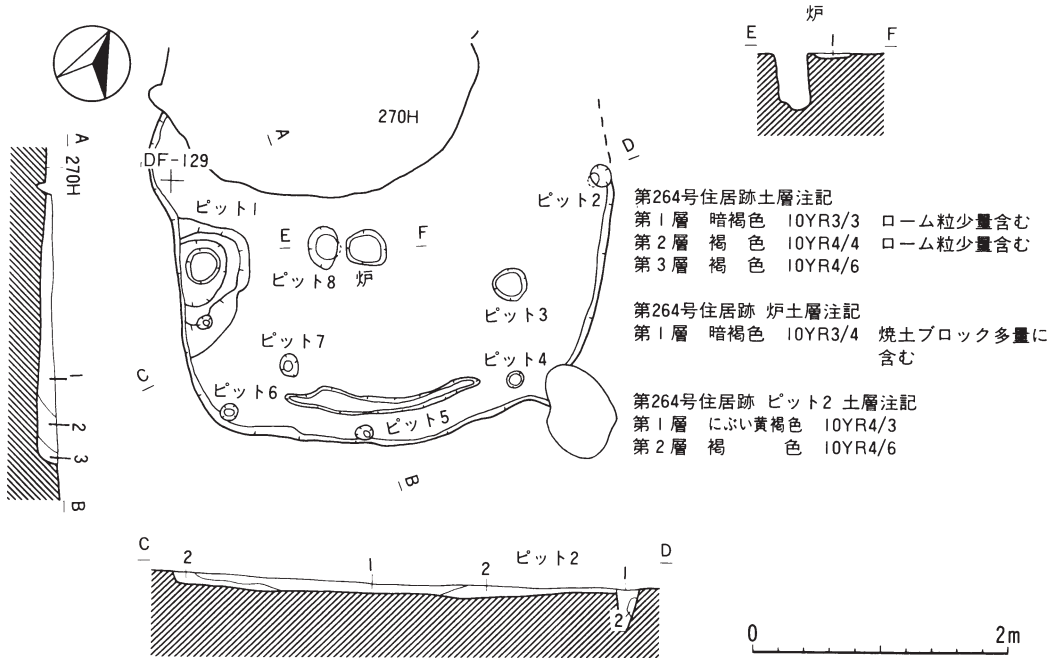
〈小結〉 土器は、覆土から円筒上層d・最花式の土器が出土した。 (成田 滋彦)

第264号住居跡（第613・614図）

＜位置と確認＞ 調査区DE-128グリッドに位置している。第270号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

＜重複＞ 住居跡の北側で第270号住居跡と重複し、新旧関係は本住居跡が古い。

＜平面形・規模＞ 南側の残存部から推定すると方形と思われる。規模は長軸（3 m34cm）・短軸（2 m54cm）を測る。



第613図 第264号住居跡(1)

＜壁・床面＞ 床面から上端にかけて垂直に立ち上がり堅緻な造りである。壁高は、東壁5cm・西壁9cm・南壁16cm・北壁は不明である。床面は、ほぼ平坦で特に炉の周辺が固い。

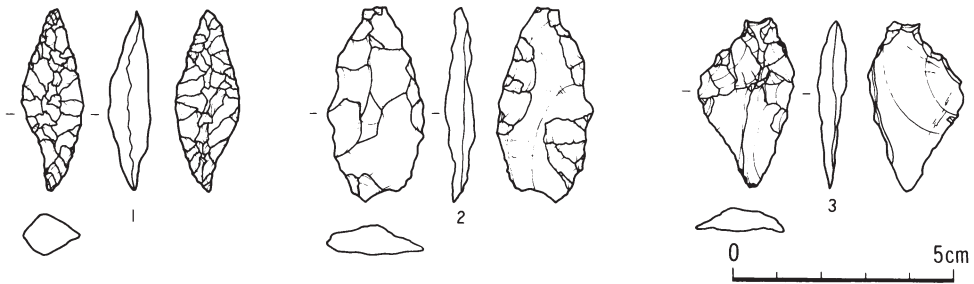
＜壁溝＞ 南壁寄りに幅16cm・深さ4cm・長さ154cmの溝を検出した。壁溝は南側のみで他の箇所からは確認できなかった。

＜柱穴＞ ピットは8個検出した。ピット1については特殊施設の項目で記載する。他のピットは配置等から柱穴と思われる。

第264号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
2	円形	19×16	34	3	円形	28×26	8	4	円形	16×13	7
5	円形	13×13	4	6	円形	14×13	9	7	楕円形	20×16	14
8	楕円形	35×24	38								

＜炉＞ 中央部に長径32cm・短径36cm・深さ4cmの円形で浅い、小型の地床炉が位置している。



第614図 第264号住居跡(2)

〈特殊施設〉 西壁寄りで長径106cm・短径54cmのピットを検出した。ピットの縁には幅12cm・高さ4cmの盛土を弧状に巡らしており、内部には小ピットがある。

〈堆積土〉 3層に分層できた。断面観察等から自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉 土器は出土しなかった。石器は、床面から石鏃1点・不定形石器2点の総数3点が出土した。

〈小結〉 土器が出土しなかったため、住居跡の新旧関係から円筒上層c・d式の時期に相当すると思われる。
(神山温子・成田滋彦)

第265号住居跡 (第615～617図)

〈位置と確認〉 調査区DF-128・129グリッドに位置している。第IV層を精査中に本住居跡を確認した。

〈重複〉 第270・277号住居跡と重複し、新旧関係は本住居跡が新しい。

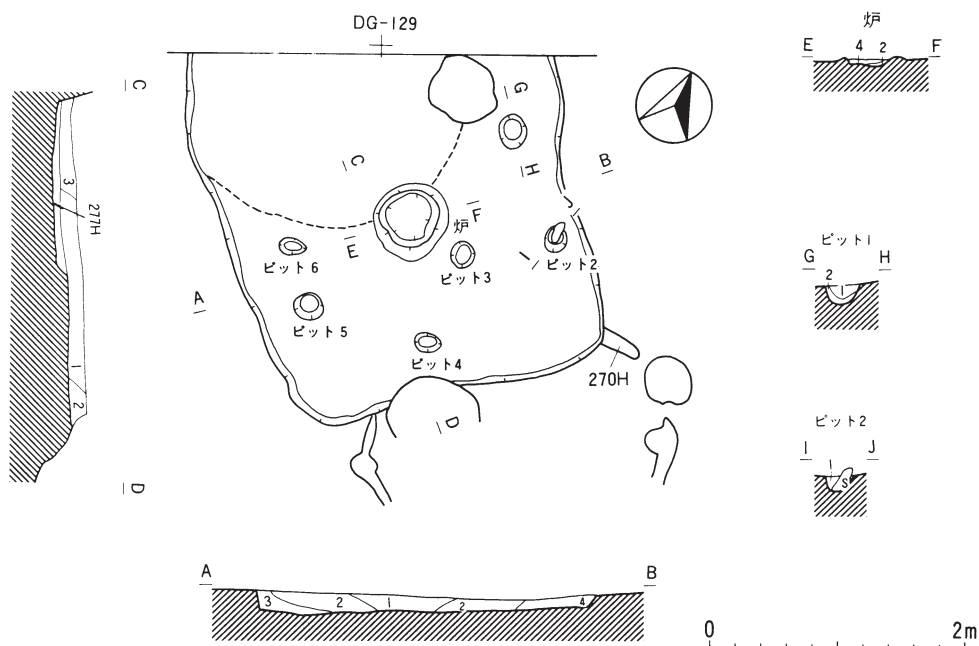
〈平面形・規模〉 北側は調査区域外のため完掘できなかったが、残存部から推定すると長方形と思われる。規模は長軸(2m80cm)・短軸2m66cmを測る。

〈壁・床面〉 床面から上端にかけてほぼ垂直に立ち上がり固い。壁高は、東壁7cm・西壁17cm・南壁16cm・北壁は不明である。床面は、ほぼ平坦で貼り床を施している。

〈柱穴〉 ピットは9個検出した。配置等から柱穴と思われる。ピット2からは石棒類が出土した。



第615図 第265号住居跡(1)



第265号住居跡土層注記

第1層 暗 褐色 10YR3/4 ローム粒少量含む
 第2層 暗 褐色 10YR3/3 ローム粒多量に含む
 第3層 褐色 10YR4/4 ローム粒多量に含む
 第4層 褐色 10YR4/6 ローム粒少量含む

第265号 ピット1 土層注記

第1層 にぶい黄褐色 10YR4/3 ローム粒多量に含む
 第2層 褐色 10YR4/6

第265号住居跡 炉土層注記

第1層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒若干含む
 第2層 赤褐色 5YR4/8 焼土層

第265号住居跡 ピット2 土層注記

第1層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒少量。石棒出土

第616図 第265号住居跡(2)

第265号住居跡ピット計測表

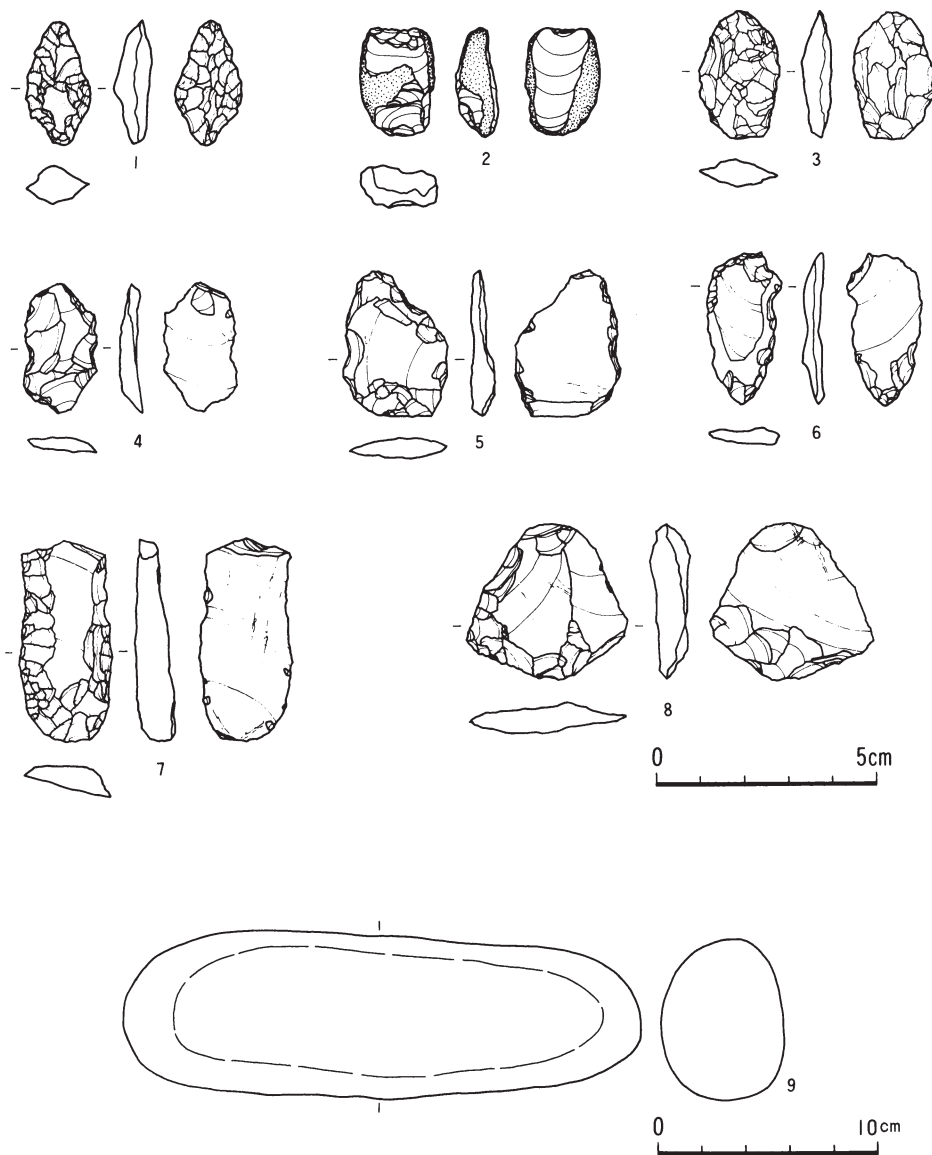
No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	楕円形	29×22	15	2	円形	24×17	15	3	楕円形	24×18	5
4	楕円形	20×16	10	5	円形	24×22	25	6	楕円形	23×15	13
7	円形	17×16	11	8	円形	14×12	8	9	円形	23×21	7

<炉> 住居跡の南側寄りに長径68cm・短径64cmの地床炉が位置している。炉の縁には幅6cm・高さ3cmの周提を巡らしている。

<特殊施設> 認められなかった。

<出土遺物> 土器は2点出土し、(2)が床面・(1)が覆土である。石器は、覆土から不定形石器2点、床面から石鏃1点・ピエス・エスキュー1点・不定形石器7点の総数11点が出土した。なおピット2から石棒類が直立して出土している。

<小結> (2)の床面の土器は、大木8 a式に相当すると思われる。(神山温子・成田滋彦)



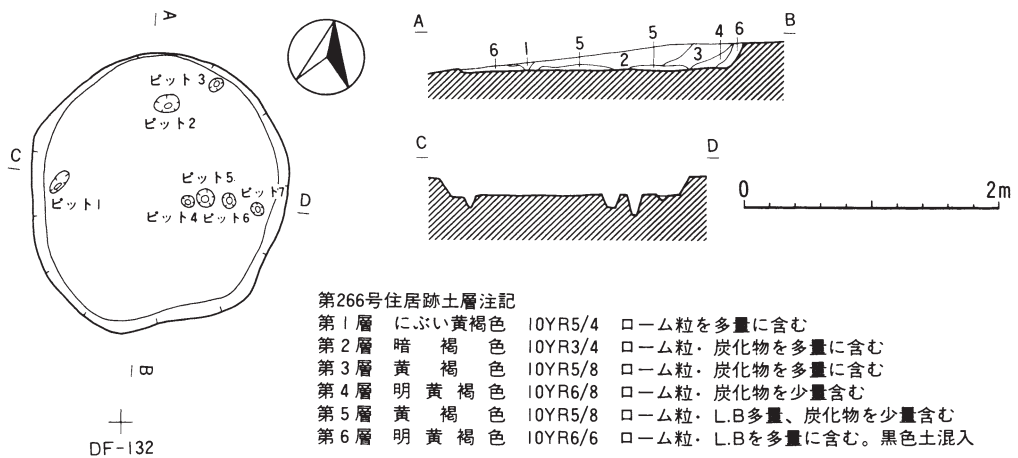
第617図 第265号住居跡(3)

第266号住居跡 (第618～620図)

<位置と確認> 調査区西側台地の平坦面DF-131・132グリッドに位置している。第IV層を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 認められなかった。

<平面形・規模> 平面形は、ほぼ円形と思われる。規模は、長軸2m30cm・短軸2m5cm、



第618図 第266号住居跡(1)

床面積は、3.02㎡である。

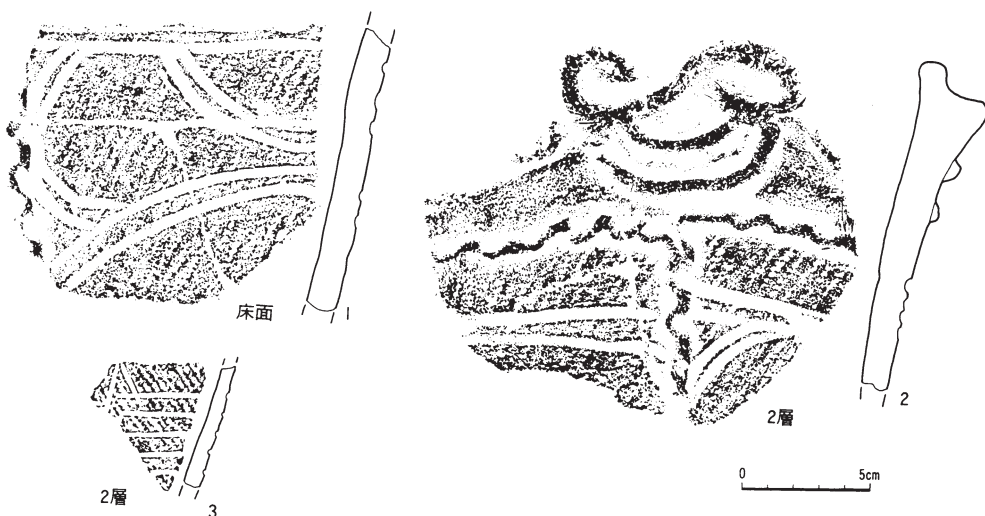
〈壁・床面〉 壁は、緩やかに立ち上がり、堅緻な構築である。壁高は、東壁15cm、西壁16cm、南壁19cm、北壁3cmである。床面は激しく起伏しているが、堅く締まっている。

〈壁溝〉 検出されなかった。

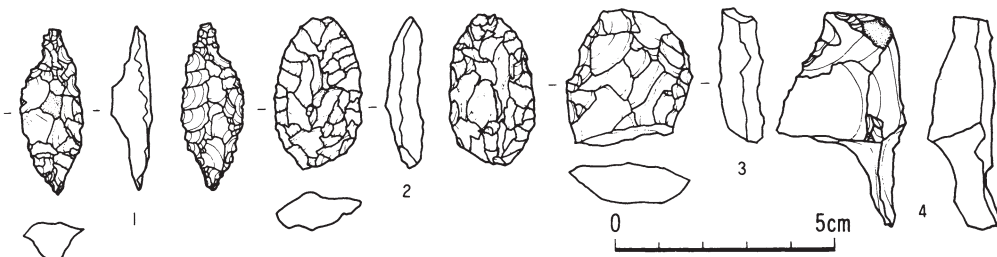
〈柱穴〉 本住居跡内から7個のピットを検出し、柱穴と考えられるのは、P₅(深さ16cm)のみでその他の柱穴および配置については不明である。

〈炉〉・〈特殊施設〉 検出されなかった。

〈堆積土〉 6層に分層できた。各層にわたってローム粒を含んでいる。自然堆積と思われる。



第619図 第266号住居跡(2)



第620図 第266号住居跡(3)

<出土遺物> 住居跡の東側覆土から多く出土した。土器は、床直(1)から出土し、覆土(2・3)からの出土で(1)と(2)は、同一個体と思われる。石器は、覆土から石錐1点、不定形石器3点が出土した。

<小結> 本住居跡は、床直の土器(1)と覆土の土器(2)から円筒上層e式期と思われる。

(後藤優子・中嶋友文)

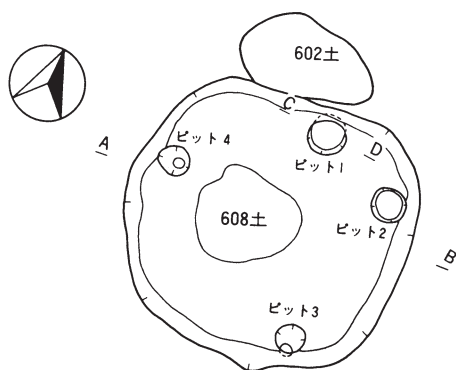
第267号住居跡 (第621・622図)

<位置と確認> 調査区DF-127グリッドで、調査区中央部の台地平坦面に位置している。

<重複> 住居跡の北側で第602・608号土壌と重複し、新旧関係は下記の変遷である。

(旧) → (新)

第602号土壌 → 本住居跡 → 第608号土壌

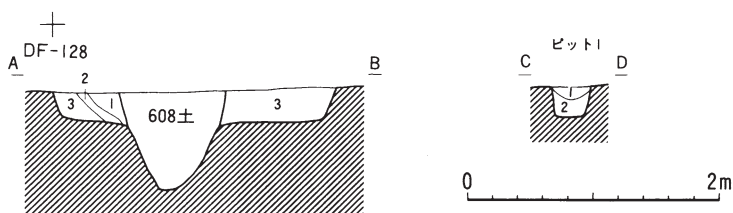


第267号住居跡土層注記

第1層 にぶい黄褐色 10YR4/3 ローム粒少量含む
 第2層 黄褐色 10YR5/6 炭化物若干含む
 第3層 にぶい黄褐色 10YR5/4 炭化物若干含む

第267号住居跡 ピット1 土層注記

第1層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒若干含む
 第2層 褐色 10YR4/4 ローム粒少量含む



第621図 第267号住居跡(1)

〈平面形・規模〉 全体に丸みを有する方形のプランを呈する。規模は長軸2 m27cm・短軸2 m16cm・床面積3.32㎡で小型な住居跡である。

〈壁・床面〉 上端から床面にかけてゆるやかに傾斜しており、堅緻な造りである。壁高は東壁27cm・西壁23cm・南壁27cm・北壁26cmを測る。床面は、ほぼ平坦で壁同様に固い。

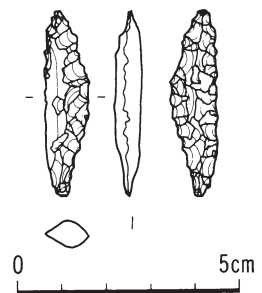
〈柱穴〉 ピットは4本検出した。配置等から壁柱穴と思われる。

〈炉〉 検出しなかった。

〈特殊施設〉 認められなかった。

〈堆積土〉 3層に分層できた。断面観察等から人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉 土器は出土せず、覆土から石錐1点が出土したのみである。



第622図 第267号住居跡(2)

第267号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	円形	28×27	27	2	円形	30×28	8	3	円形	26×24	35
4	円形	26×24	14								

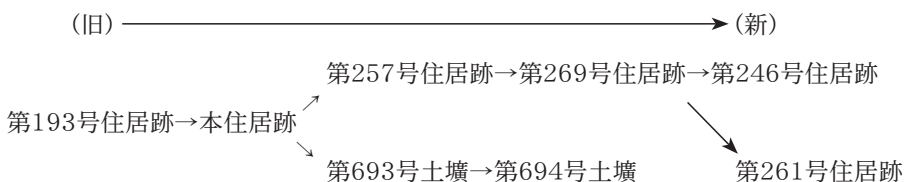
〈小結〉 土器が出土しないため時期は不明である。

(成田 滋彦)

第268号住居跡 (第623図)

〈位置と確認〉 調査区CV・CW-132・133グリッドで、調査区中央部の台地緩斜面に位置している。第257号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

〈重複〉 第193・246・257・269号住居跡、第693・694号土壇と重複し、新旧関係は下記の変遷である。



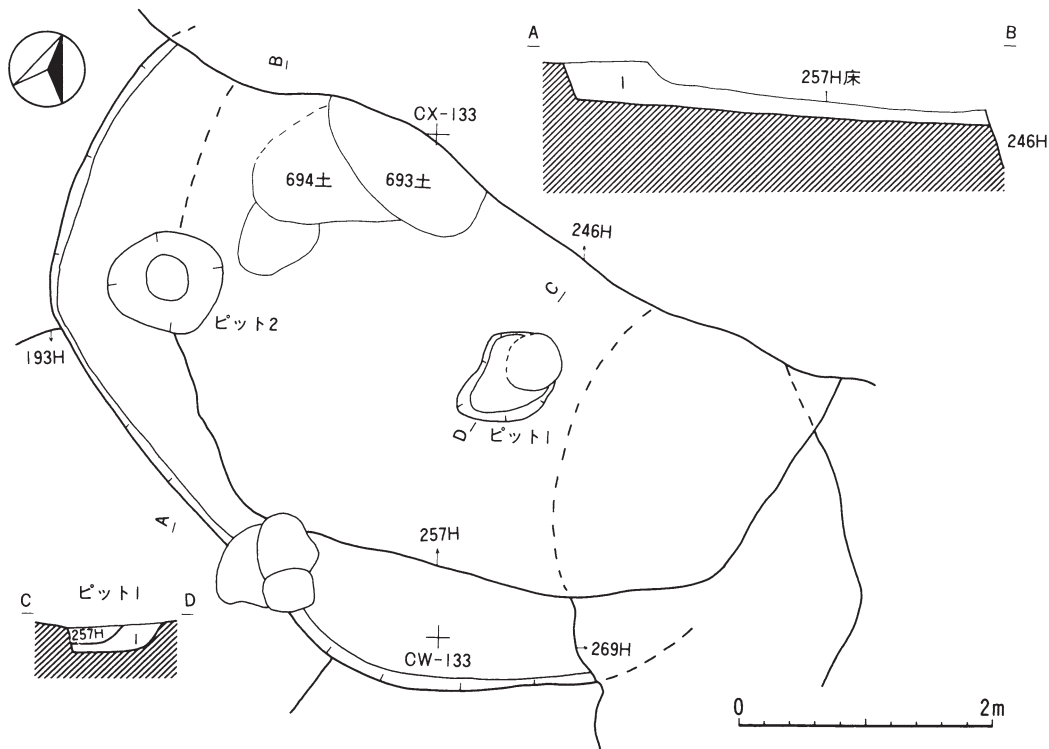
〈平面形・規模〉 残存部から推定すると楕円形のプランを呈すると思われる。規模は、長軸(6 m10cm)、短軸・床面積は不明である。

〈壁・床面〉 上端から床面にかけて傾斜しており、軟らかい造りである。壁高は、西壁30cm・南壁27cm、東・西壁は不明である。床面は、ほぼ平坦であるが壁同様に軟らかい。

〈柱穴〉 ピットは2個検出した。配置等から柱穴と思われる。

〈炉〉 検出しなかった。

〈特殊施設〉 認められなかった。



第268号住居跡土層注記
第1層 褐色 10YR4/4

第268号住居跡 ピット1 土層注記
第1層 褐色 10YR4/4 ローム粒少量含む
ローム粒多量・炭化物・焼土粒若干含む

第623図 第268号住居跡

<堆積土> 分層できず1層の堆積である。人為及び自然堆積かどうか判断できなかった。

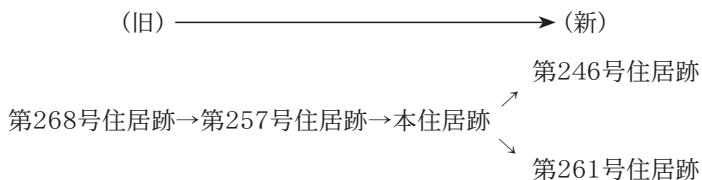
<出土遺物> 土器は出土せず、石器が覆土から石匙1点が出土した。

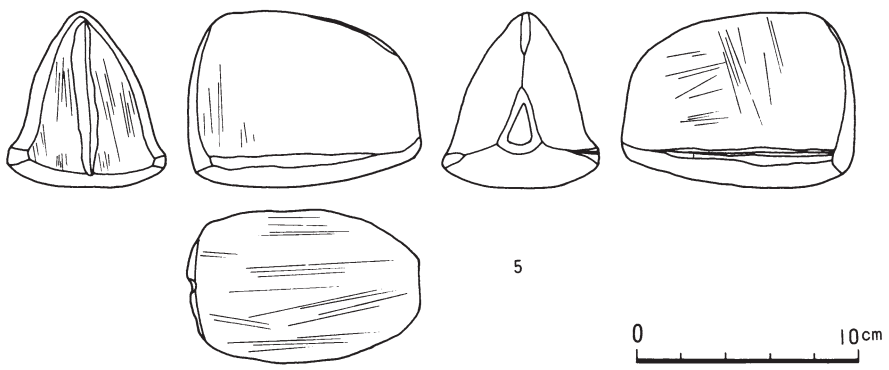
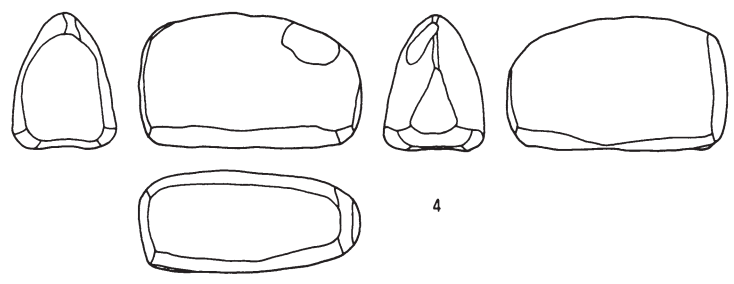
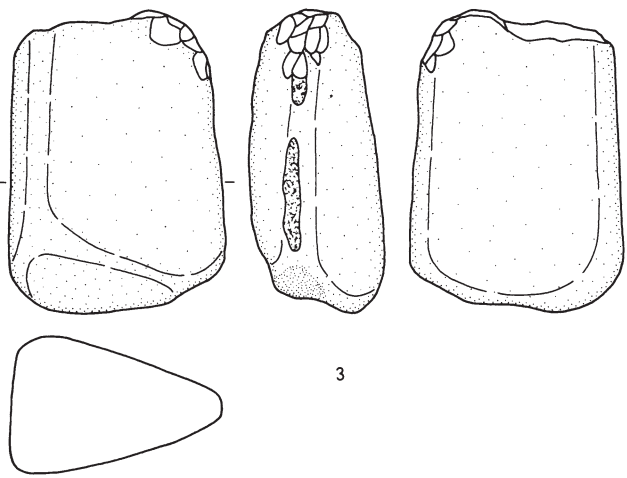
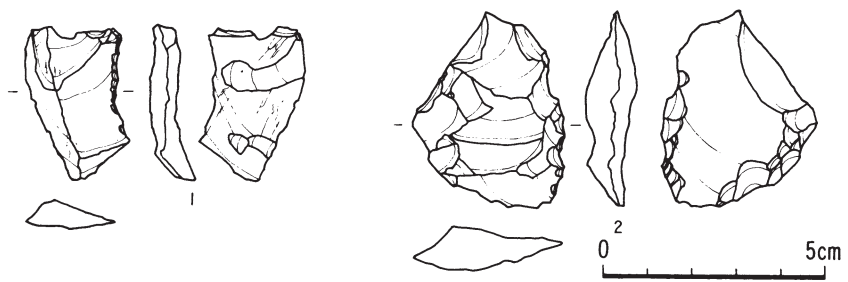
<小結> 本住居跡から土器は出土しなかったが、住居跡の新旧関係から円筒上層c・d式の時期に相当すると思われる。
(成田 滋彦)

第269号住居跡 (第624・625図)

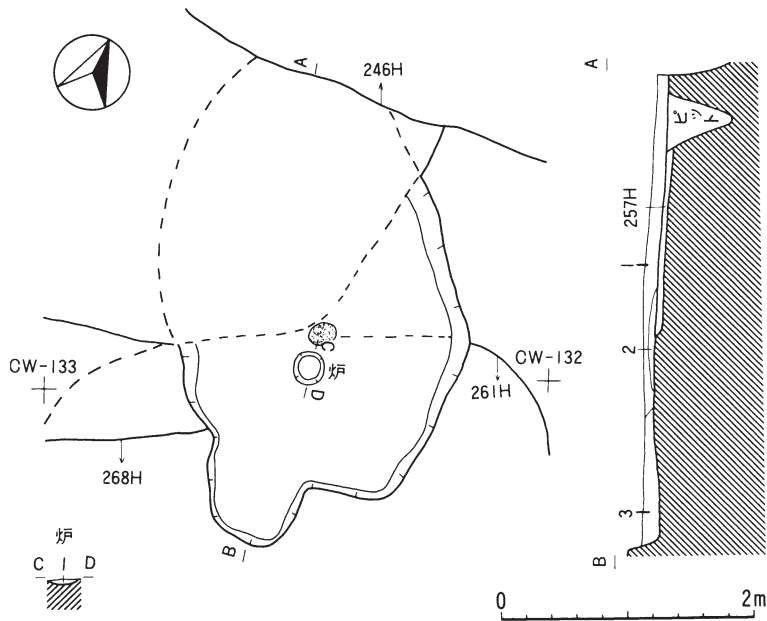
<位置と確認> 調査区CV・CW-132・133グリッドに位置している。第261号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

<重複> 第246・257・261・268号住居跡と重複し、新旧関係は下記の変遷である。





第624图 第269号住居跡(1)



第269号住居跡土層注記

- | | | | |
|-----|-----|---------|----------------|
| 第1層 | 褐色 | 10YR4/4 | ローム粒・炭化物若干含む |
| 第2層 | 暗褐色 | 10YR3/4 | ローム粒・炭化物少量含む |
| 第3層 | 暗褐色 | 10YR3/3 | ローム粒多量・炭化物少量含む |

第269号住居跡 炉土層注記

- | | | | |
|-----|-----|---------|-------------|
| 第1層 | 赤褐色 | 10YR4/8 | 黄褐色土混入（焼土層） |
|-----|-----|---------|-------------|

第625図 第269号住居跡(2)

〈平面形・規模〉 南側が一部突き出した楕円形のプランを呈する。規模は長軸（3 m76cm）・短軸（2 m48cm）である。

〈壁・床面〉 上端から床面にかけて傾斜しており、軟らかい造りである。東壁3 cm・南壁15 cm、西・北壁は不明である。床面は、第257号住居跡の覆土を床面とし、貼り床を施している。

〈柱穴〉 認められなかった。

〈特殊施設〉 認められなかった。

〈炉〉 住居跡の中央部から南側寄りに長径26cm・短径23cm・深さ4 cmの円形の地床炉が位置している。

〈堆積土〉 3層に分層できた。断面観察から人為・自然堆積かどうかは判断できなかった。

〈出土遺物〉 土器は出土しなかった。石器は、3層から石冠1点、床面から不定形石器2点・磨製石斧2点・敲磨器類1点・石冠1点・石棒類1点が出土した。

〈小結〉 本住居跡から土器は出土しなかったが、住居跡の新旧関係から円筒上層e式の時期に相当すると思われる。

（成田 滋彦）

第270号住居跡 (第626・627図)

〈位置と確認〉 調査区DF-128グリッドに位置している。第265号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

〈重複〉 第264・265号住居跡と重複し、新旧関係は下記の変遷である。

(旧) —————→ (新)

第264号住居跡→本住居跡→第265号住居跡

〈平面形・規模〉 南側の残存部から推定すると円形のプランである。規模は、長軸(2 m52cm)・短軸(1 m94cm)の小型の住居跡である。

〈壁・床面〉 上端から床面にかけて傾斜しており、軟らかい造りである。床面は、ほぼ平坦で壁同様に軟らかい。

〈壁溝〉 壁寄りに幅12cm・深さ4cmの浅い周溝が巡っている。周溝は一周せず東・西側で一部途切れている。

〈柱穴〉 ピットは3個検出した。配置等から柱穴と思われる。

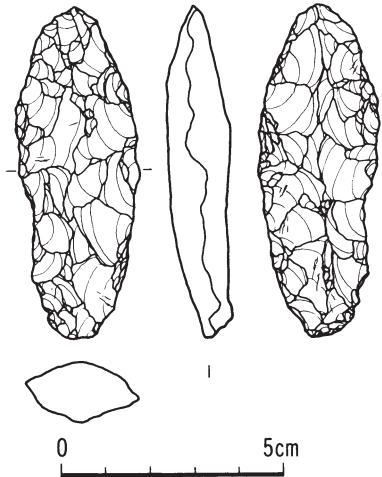
〈炉〉 検出しなかった。

〈特殊施設〉 認められなかった。

〈堆積土〉 2層に分層できた。人為・自然堆積かどうかは判断できなかった。

〈出土遺物〉 土器は出土しなかった。床面から石槍1点が出土した。

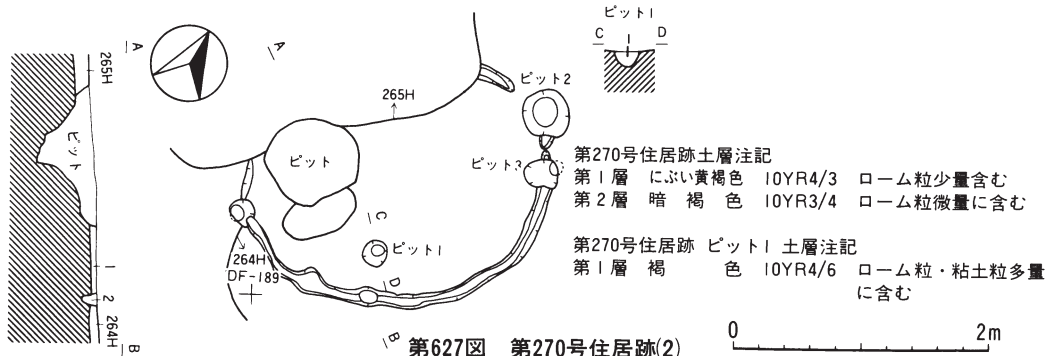
〈小結〉 土器は出土しなかったため、住居跡の新旧関係からみて円筒上層c・d式に相当すると思われる。
(神山温子・成田滋彦)



第626図 第270号住居跡(1)

第270号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	円形	23×19	19	2	円形	38×36	26	3	円形	26×23	19



第627図 第270号住居跡(2)

第272号住居跡（第628～631図）

＜位置と確認＞ 調査区DF-125・126グリッドに位置している。第Ⅰ層を除去後に黒褐色土の落ち込みを確認した。

＜重複＞ 住居跡の東側で第851号土塼と重複し、新旧関係は本住居跡が新しい。

＜平面形・規模＞ 北側が調査区域外にあるため住居跡の全容を知り得ないが、残存部から推定すると楕円形を呈するプランである。規模は、長軸5m83cm、短軸・床面積は不明である。

＜壁・床面＞ 東壁は床面から上端にかけて垂直に立ち上がり、西・南壁は上端から床面にかけて傾斜している。壁は堅緻な造りである。壁高は、東壁68cm・西壁60cm・南壁44cm・北壁不明である。床面は、ほぼ平坦で壁同様に固い造りである。

＜柱穴＞ ピットは8個検出した。配置等から柱穴と思われる。

第272号住居跡ピット計測表

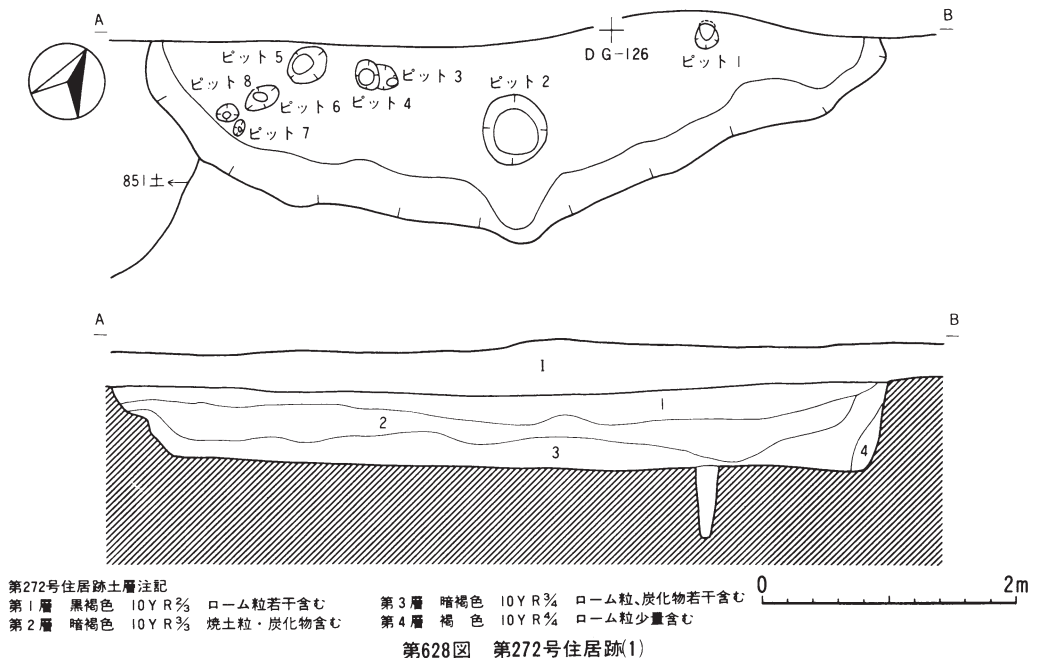
No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	円形	22×20	60	2	円形	55×52	47	3	円形	22×(15)	34
4	楕円形	25×18	30	5	楕円形	34×27	66	6	楕円形	28×17	27
7	楕円形	14×7	12	8	円形	18×16	11				

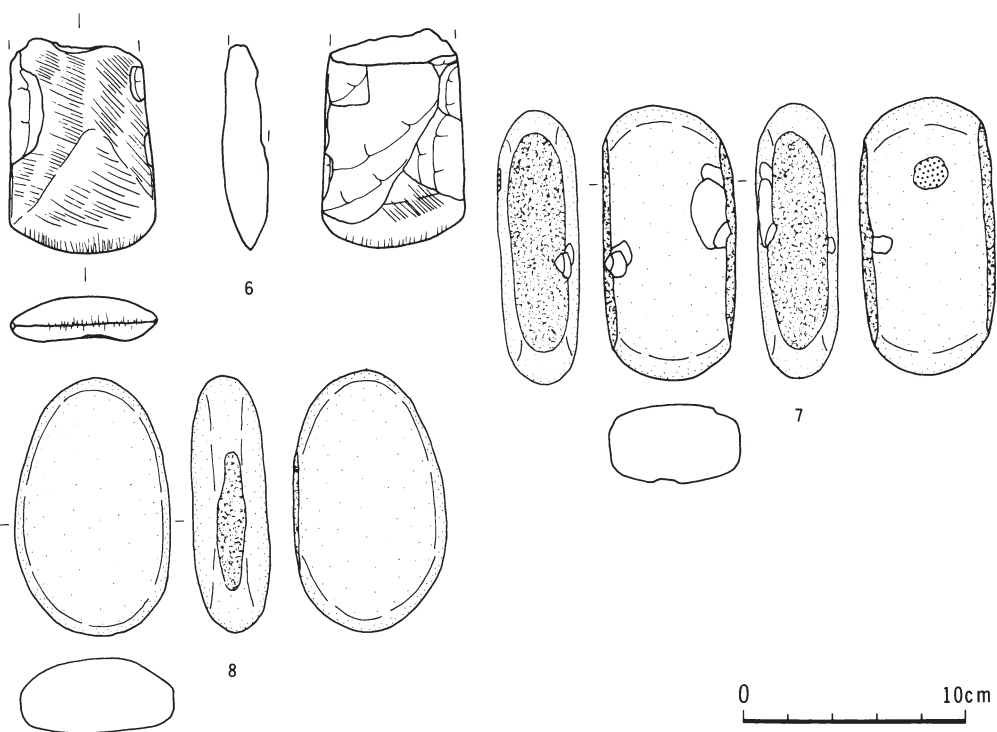
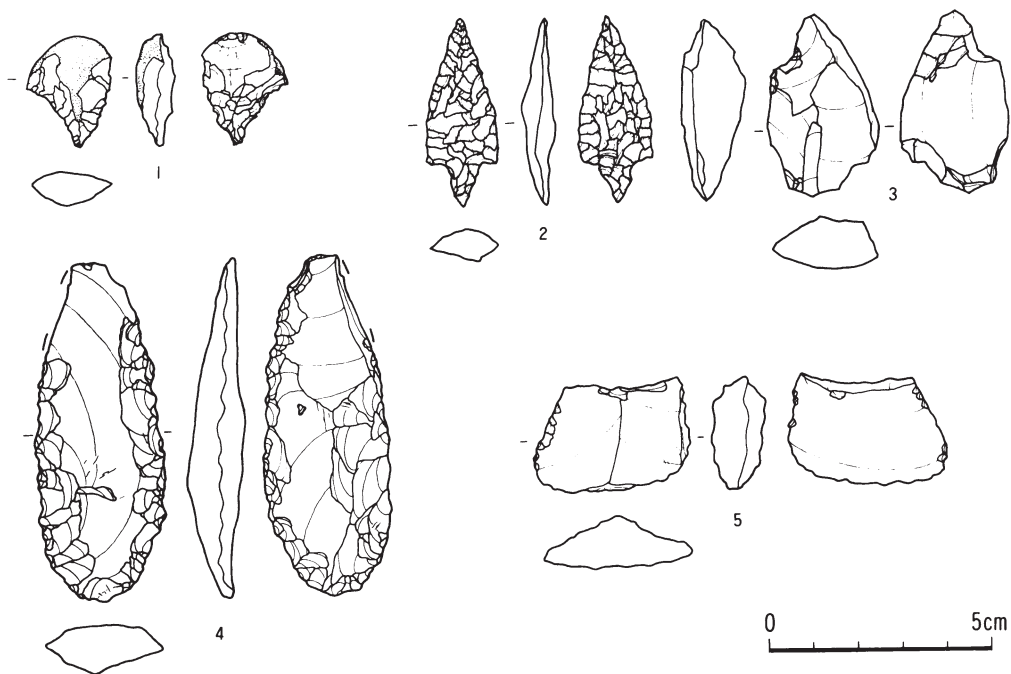
＜炉＞検出しなかった。

＜特殊施設＞ 認められなかった。

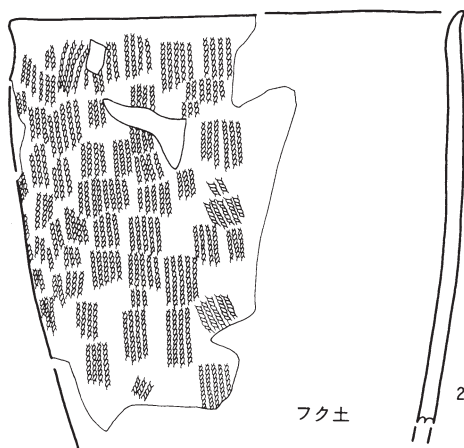
＜堆積土＞ 4層に分層できた。断面観察等から自然堆積と思われる。

＜出土遺物＞ 遺物は、住居跡の全面から出土した。土器は、覆土からの出土である。石器は、

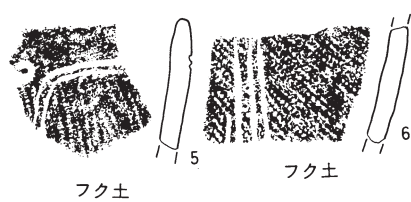
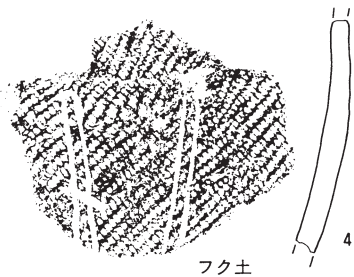




第629图 第272号住居跡(2)

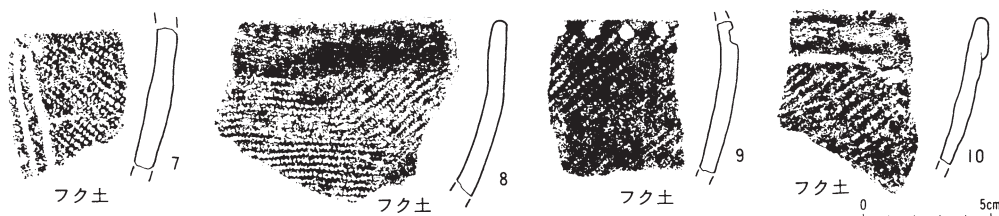


0 10cm



0 5cm

第630図 第272号住居跡(3)



第631図 第272号住居跡(4)

覆土から石鏃1点・石槍1点・石錐1点・ピエス・エスキュー1点・不定形石器4点・磨製石斧2点・敲磨器類2点・台石石皿3点・砥石1点の総数16点が出土した。

<小結> 出土した土器は、(3)が榎林式で他は最花式である。(成田 滋彦)

第273号住居跡 (第632・633図)

<位置と確認> 調査区CV・CW-128・129グリッドで、調査区中央部の台地に位置している。第848号土壇を精査中に本住居跡を確認した。

<重複> 第259・373号住居跡、第848号土壇と重複し、新旧関係は、下記の変遷である。

(旧) —————> (新)

第373号住居跡→本住居跡→第259号住居跡→第848号土壇

<平面形・規模> 一部の壁と貼り床面から推定するとほぼ円形を呈する。規模は、長軸3m24cm・短軸3m23cm・床面積7.78㎡を測る。

<壁・床面> 上端から床面にかけてなだらかに傾斜し、軟らかい造りである。

壁高は、東壁7cm・西壁9cm・南壁8cm・北壁9cmを測る。床面は、第373号住居跡の覆土第1・5層をベースとして、ほぼ平坦で貼り床を施している。

<柱穴> 認められなかった。

<炉> 検出しなかった。

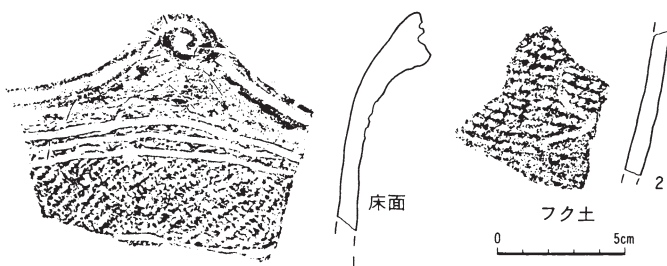
<特殊施設> 認められなかった。

<堆積土> 1層のみの暗褐色土である。

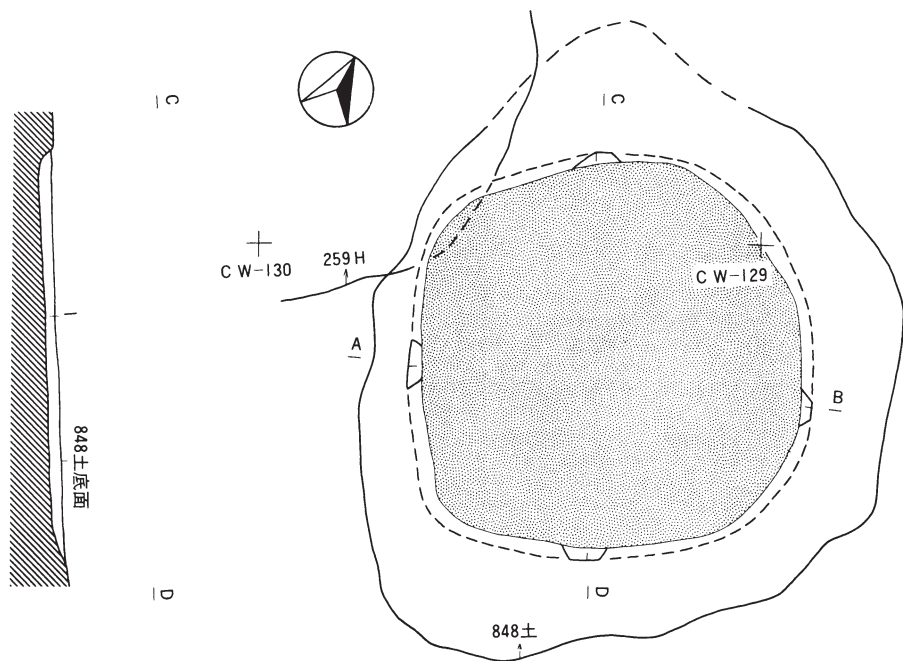
<出土遺物> 土器は2片のみの出土である。石器は、覆土から石鏃1点・石槍1点・不定形石器2点・石製品1点・敲磨器類1点の総数6点が出土した。

<小結> 床面(1)の土器から、円筒上層e式の時期に住居跡が相当すると思われる。

(成田 滋彦)

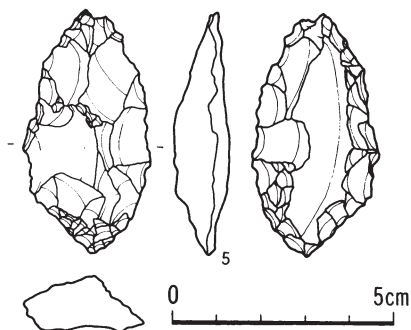
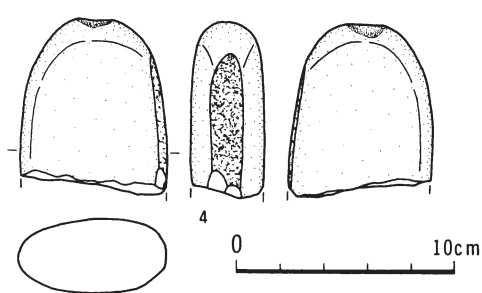
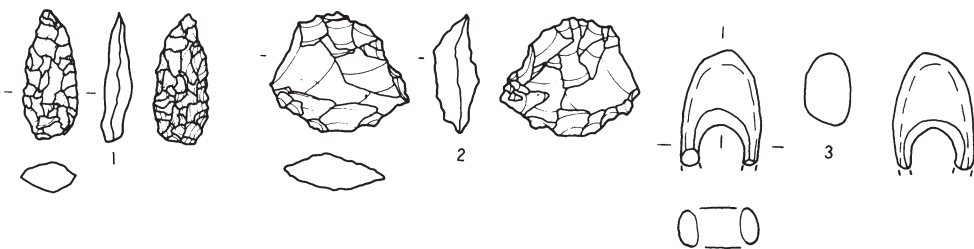
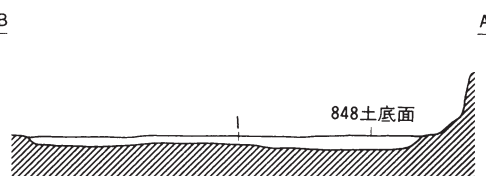


第632図 第273号住居跡(1)



0 2m

第273号住居跡土層注記
 第1層 暗褐色 10Y R 3/4
 炭化物・ローム粒を含む



第633図 第273号住居跡(2)

第274号住居跡（第634～636図）

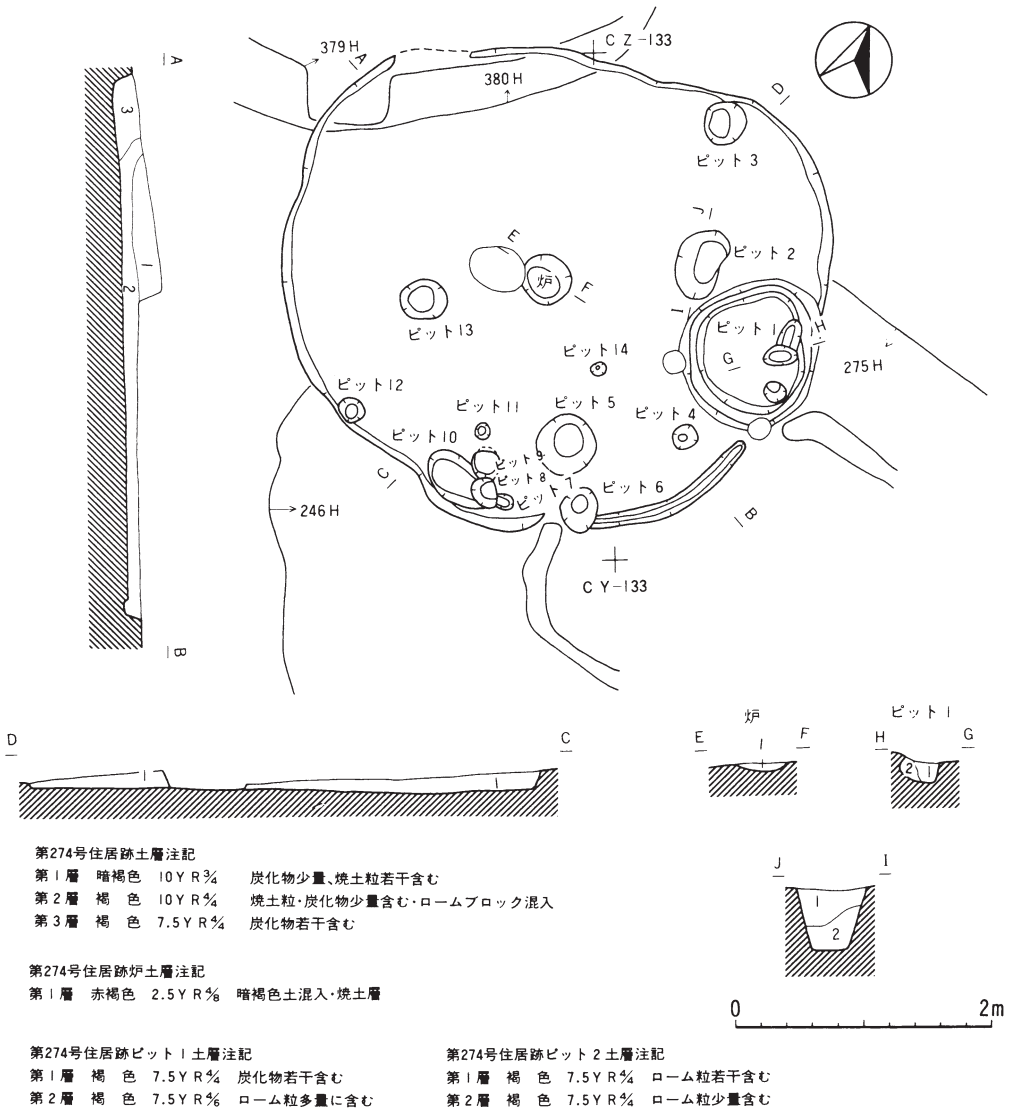
＜位置と確認＞ 調査区CY-132・133グリッドで、調査区中央部の台地平坦面に位置している。第246号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

＜重複＞ 住居跡の南側で第246・275号住居跡と北側で第379・380号住居跡と重複し、新旧関係は下記の変遷である。

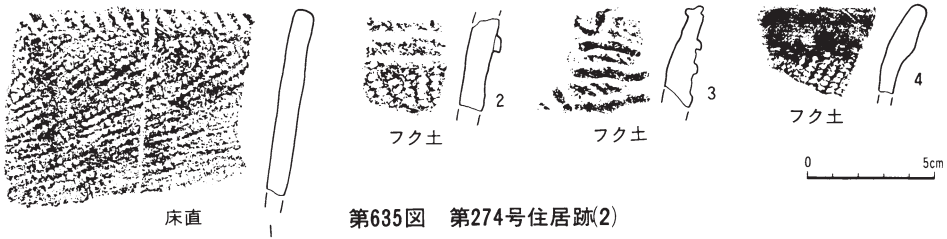
(旧) —————→ (新)

第275号住居跡→本住居跡→第246号住居跡

第380号住居跡→第379号住居跡



第634図 第274号住居跡(1)



第635図 第274号住居跡(2)

<平面形・規模> 全体に丸みをもつ円形のプランを呈する。規模は、長軸4 m70cm・短軸3 m70cm・床面積12.21㎡を測る。

<壁・床面> 上端から床面にかけて傾斜しており軟らかい造りである。壁高は、東壁14cm・西壁15cm・南壁15cm・北壁7cmを測る。床面は、ほぼ平坦で固い。

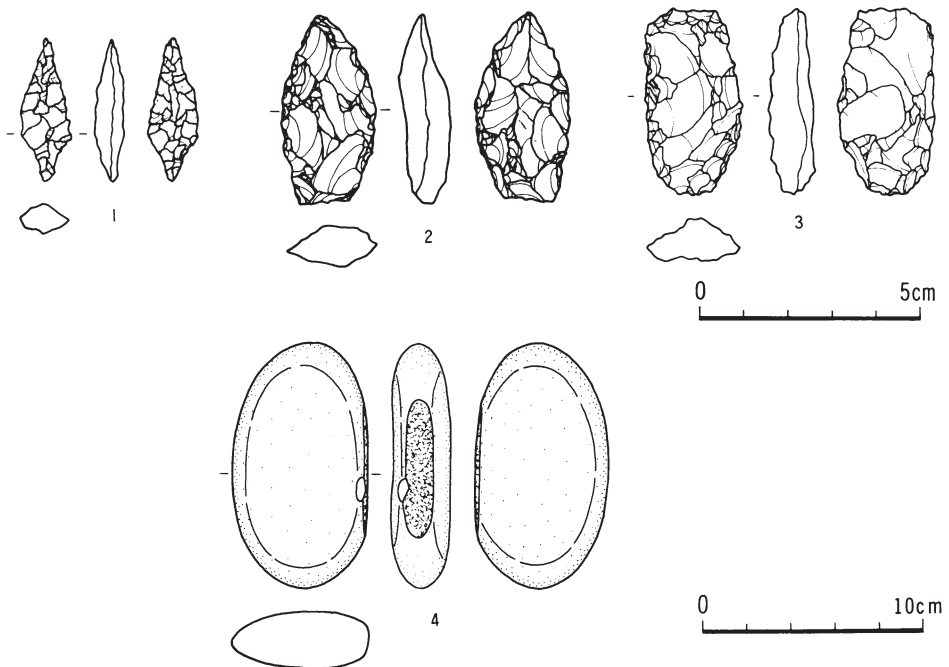
<壁溝> 南側で幅14cm・深さ7cmの壁溝で、南側部分のみ検出し他からは検出されなかった。

<柱穴> ピットは14個検出した。ピット1については特殊施設の項目で記載する。他の13個のピットは、配置等から柱穴と思われる。

<炉> 中央部に長径38cm・短径36cm・深さ6cmの浅い円形の地床炉が位置している。

<特殊施設> 東壁寄りに幅17cm・高さ5cmの盛土を巡らした円形のピットを検出した。規模は、長径117cm・短径108cmを測り、内部に小ピットを3個有している。

<堆積土> 3層に分層できた。堆積土の第1・2層中に焼土粒を含んでおり、焼失家屋の可



第636図 第274号住居跡(3)

能性がたかい。

＜出土遺物＞ 炉を中心にして出土した。石器は、覆土から石鏃1点・石槍1点・ピエス・エスキューユ1点・不定形石器2点・敲磨器類1点の総数6点が出土した。

第274号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
2	楕円形	57×34	47	3	円形	34×33	32	4	円形	21×20	74
5	円形	47×45	75	6	円形	36×28	61	7	円形	12×12	11
8	円形	23×21	69	9	円形	22×21	25	10	楕円形	36×35	57
11	円形	14×12	11	12	円形	20×19	50	13	円形	36×28	18
14	円形	11×10	10								

＜小結＞ (1)の土器は、円筒上層d・e式の時期である。

(成田 滋彦)

第275号住居跡 (第637図)

＜位置と確認＞ 調査区CX・CY-132・133グリッドに位置している。第274号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

＜重複＞ 第246・274号住居跡と重複し、新旧関係は下記の変遷である。

(旧) → (新)

本住居跡→第274号住居跡→第246号住居跡

＜平面形・規模＞ 西側が第274号住居跡と重複しているため、残存部位から推定すると方形のプランを呈すると思われる。規模は、長軸3m27cm・短軸2m26cmである。

＜壁・床面＞ 上端から床面にかけて傾斜しており、軟らかい造りである。壁高は、東壁13cm・西壁不明・南壁16cm・北壁10cmを測る。床面は、ほぼ平坦で固い。

＜壁溝＞ 幅9cm・深さ5cmの溝が巡っている。溝は一周せず一部途切れている。

＜柱穴＞ ピットは5個検出した。住居跡の南側に多く位置し、配置等から柱穴と思われるが、支柱穴は断定できなかった。

第275号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	円形	48×47	15	2	楕円形	50×26	39	3	円形	40×38	50
4	円形	18×15	30	5	円形	31×25	12				

＜炉＞ 中央部に長径38cm・短径33cm・深さ7cmの浅い地床炉が位置している。

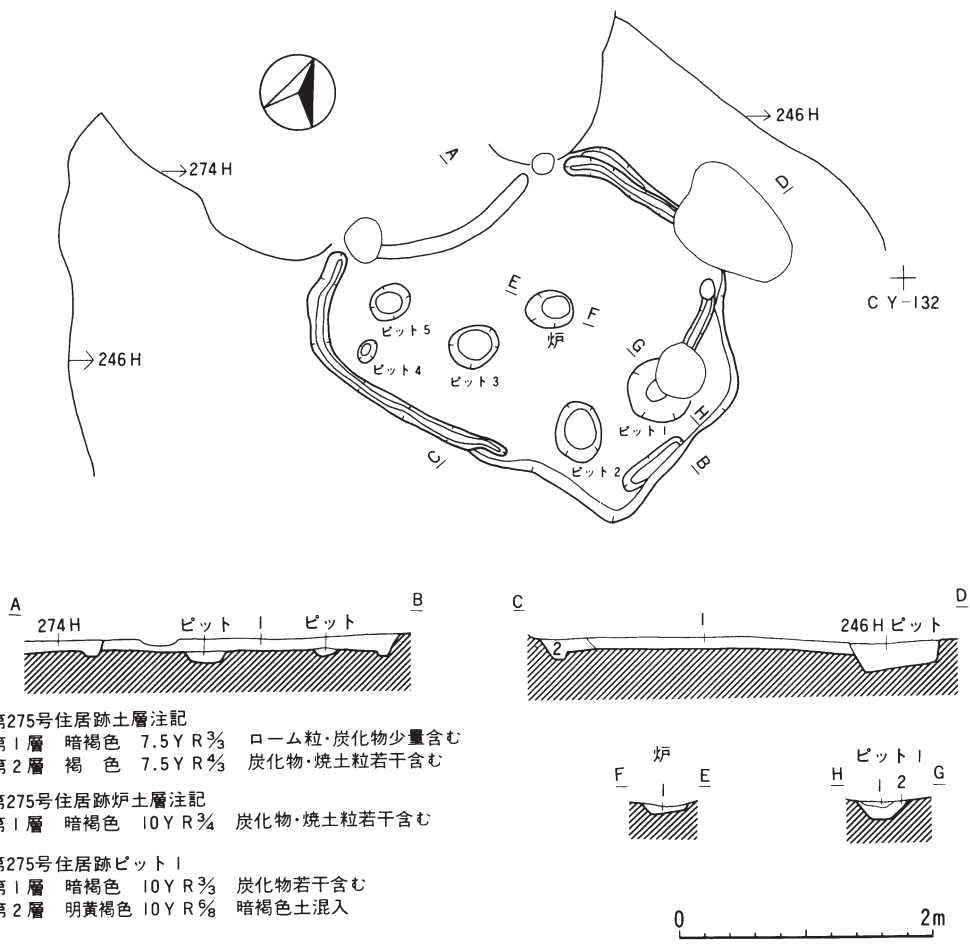
＜特殊施設＞ 認められなかった。

＜堆積土＞ 2層に分層できた。人為・自然堆積がどうかは判断できなかった。

＜出土遺物＞ 遺物は出土しなかった。

＜小結＞ 遺物は本住居跡から出土しなかったが、住居跡の新旧関係から円筒上層c・d式に相当すると思われる。

(成田 滋彦)

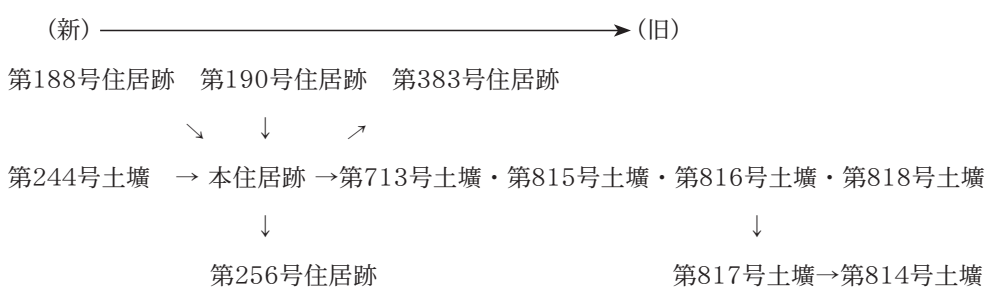


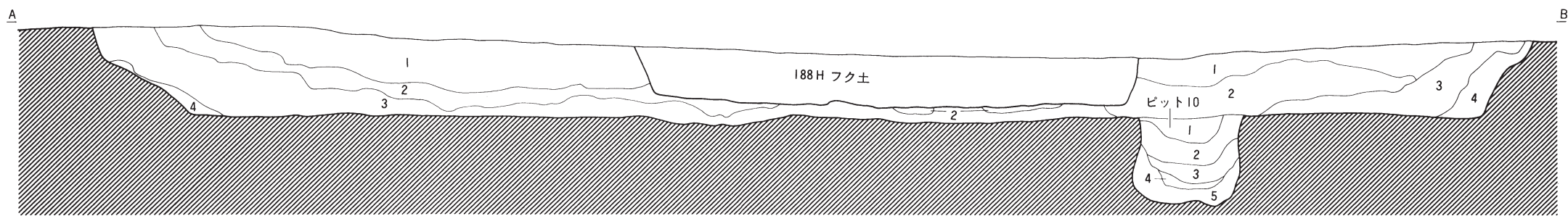
第637図 第275号住居跡

第276号住居跡 (第638~648図)

<位置と確認> 調査区の西側台地最高部CS-129~131、CT・CU-129~133グリッドに位置する。第IV層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 本住居跡は、5軒の住居跡と、6基の土壇と重複している。新旧関係は以下のとおりである。





第638図 第276号住居跡(1)

＜平面形・規模＞ 長軸を東西にもつ隅丸長方形である。規模は、長軸15m50cm・短軸 7 m30 cm、床面積は、75.62㎡でかなり大型の住居跡である。

＜壁・床面＞ 第IV層を壁面とし、各壁とも緩やかに立ち上がり、堅緻な構築である。壁高は、東壁80～92cm・西壁68～78cm・南壁53～64cm・北壁60～68cmである。やや起伏がある床面となっている。全般的に平坦で堅く締まっている。

＜壁溝＞ 東側と北側の一部を除き部分的ではあるが、幅10～15cm・深さ 3～12cmの壁溝がほぼ一周する。

＜柱穴＞ 本住居跡内から多数のピットが検出された。このうちP₂～P₅・P₇・P₉・P₁₂・P₁₅・P₁₇（深さP₂…80・P₃…148・P₄…160・P₅…138・P₇…130・P₉…110・P₁₂…115・P₁₅…125・P₁₇…84cm）が配置及び土層断面図から支柱穴と考えられ、P₄・P₇・P₉の長軸線に対応するP₁₄・P₁₀・P₈（深さP₁₄…138・P₁₀…104・P₈…80cm）も柱穴の可能性はある。

＜炉＞ 住居跡のほぼ長軸線上で4基検出され、いずれも地床炉である。第1号炉は、住居跡の東側に位置し、平面形は西側が張り出す円形で、規模は長軸80cm・短軸74cm、深さ7cmである。堆積土は2層に区分でき、第2層上面が火床面である。第2号炉は、第1号炉の西側に位置し、平面形は楕円形で、規模は長軸100cm・短軸87cm、深さ12cmである。堆積土は2層に区分でき、第2層上面が火床面である。第3号炉は、住居跡の中央部からやや北寄りに位置し、平面形は西側が張り出す楕円形で、規模は長軸100cm・短軸62cm、深さ10cmである。堆積土は2層に区分でき、第2層上面が火床面である。第4号炉は、住居跡の西側に位置し、平面形は第1号炉と同様に西側が張り出す円形で、規模は長軸104cm・短軸90cm、深さ12cmである。堆積土は2層に区分でき、第2層上面が火床面である。

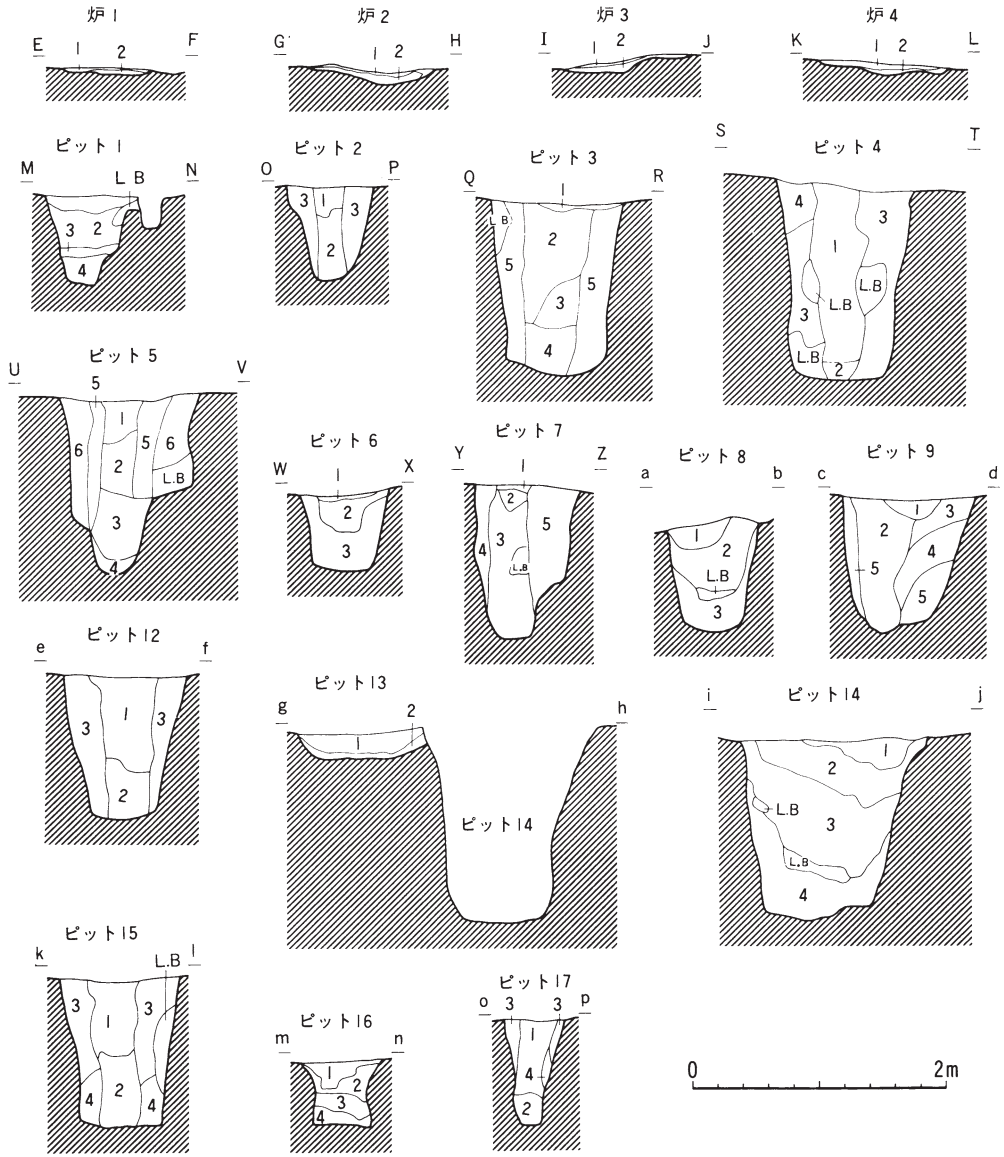
＜その他の付属施設＞ 住居跡の南西壁直下で段状の施設を検出した。その付近の床面は、非常に堅く締まっていることや、住居跡から張り出ている点から考えると出入り口に利用されたと思われる。

＜堆積土＞ 4層に分層できた。各層にわたってローム粒を含んでおり、自然堆積と思われる。

＜出土遺物＞ 遺物は、住居跡の中央部から多く出土した。土器は、床面（8・17・22）・床直（1・6・7・9・12・13・15・16・22）から出土し、他は、覆土からの出土である。石器は、覆土から石鏃4点・石匙1点・ピエス・エスキュー1点・不定形石器4点・石斧1点・敲磨器類1点・石皿1点、ピット2より不定形石器2点、ピット8より石鏃1点、ピット13より不定形石器1点、床直から石槍2点・石匙1点・不定形石器5点・石斧1点・敲磨器類1点・台石1点、床面から石鏃2点・石槍1点・石錐1点・不定形石器5点・敲磨器類1点・石棒類1点・石製品1点出土し、総数40点である。

＜小結＞ 本住居跡は、床面の土器（8）・（17）・（22）から円筒上層e式期と思われる。

（木村 功・中嶋友文）



第276号住居跡1号炉土層注記

- 第1層 暗褐色 10Y R%
ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
- 第2層 黒褐色 10Y R%
ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
- 第3層 褐色 10Y R%
ローム粒やや多く、炭化物を少量含む。黒褐色土混入
- 第4層 褐色 10Y R%
ローム粒を多量に含む

第276号住居跡1号炉土層注記

- 第1層 褐色 10Y R%
炭化物を多量に含む
- 第2層 赤褐色 2.5Y R%
(焼土層)

第276号住居跡2号炉土層注記

- 第1層 褐色 10Y R%
ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
- 第2層 赤褐色 5Y R%
(焼土層)

276号住居跡3号炉土層注記

- 第1層 褐色 7.5Y R%
炭化物をやや多く含む
- 第2層 赤褐色 2.5Y R%
(焼土層)

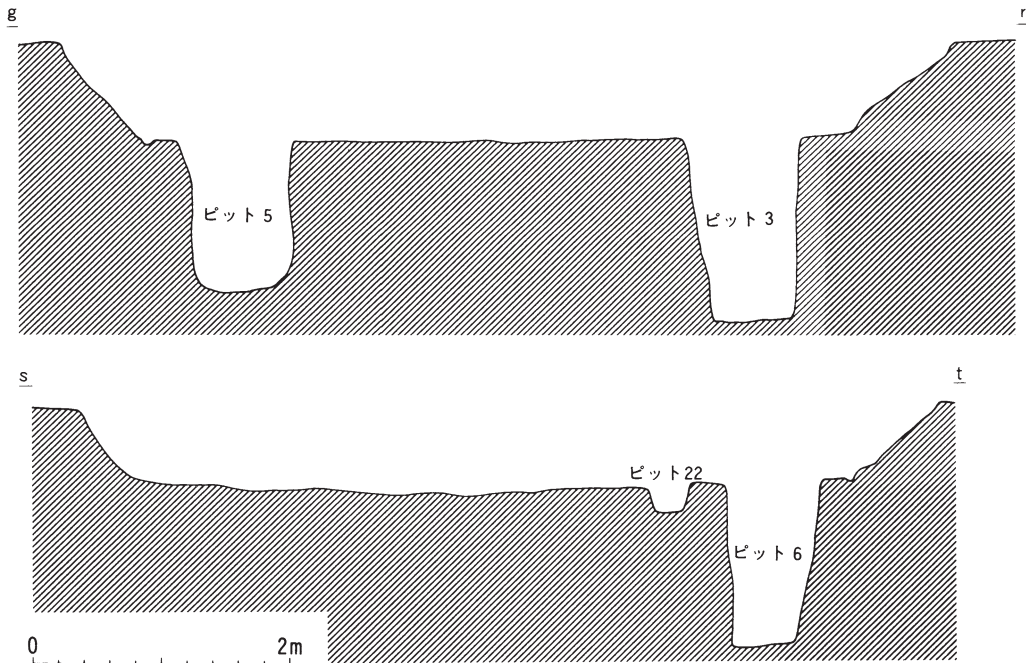
第276号住居跡4号炉土層注記

- 第1層 赤褐色 5Y R%
炭化物をやや多く含む
- 第2層 明赤褐色 7.5Y R%
(焼土層)

第286号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 褐色 10Y R%
ローム粒・炭化物を少量含む
- 第2層 暗褐色 10Y R%
ローム粒・炭化物を少量含む
- 第3層 黄褐色 10Y R%
ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
- 第4層 黄褐色 10Y R%
ローム粒多量、炭化物を少量含む

第639図 第276号住居跡(2)



第640図 第276号住居跡(3)

第276号住居跡ピット2 土層注記

第1層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
 ローム粒・炭化物を少量含む
 第2層 褐色 10Y R $\frac{1}{2}$
 ローム多量、炭化物を少量含む
 第3層 褐色 10Y R $\frac{1}{2}$
 ローム粒多量、炭化物を少量含む

第276号住居跡ピット3 土層注記

第1層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
 ローム粒・炭化物を少量含む
 第2層 褐色 10Y R $\frac{1}{2}$
 ローム粒・炭化物やや多く含む
 第3層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
 ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
 第4層 褐色 10Y R $\frac{1}{2}$
 ローム粒多量、炭化物を少量含む
 第5層 褐色 10Y R $\frac{1}{2}$
 ローム粒多量、炭化物を少量含む

第276号住居跡ピット4 土層注記

第1層 褐色 10Y R $\frac{1}{2}$
 ローム粒・炭化物を少量含む
 第2層 黄褐色 10Y R $\frac{5}{4}$
 ローム粒・L、Bを多量に含む
 第3層 褐色 10Y R $\frac{1}{2}$
 ローム粒を多量に含む
 第4層 黄褐色 10Y R $\frac{5}{4}$
 ローム粒を多量に含む

第276号住居跡ピット5 土層注記

第1層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
 ローム粒・炭化物を少量含む
 第2層 黒褐色 10Y R $\frac{3}{2}$
 ローム粒やや多く、炭化物少量を少量含む
 第3層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{2}$
 ローム粒・炭化物を少量含む
 第4層 褐色 10Y R $\frac{1}{2}$
 ローム粒を多量、炭化物を少量含む
 第5層 褐色 10Y R $\frac{1}{2}$
 ローム粒を多量、炭化物を少量含む
 第6層 褐色 10Y R $\frac{1}{2}$
 ローム粒を多量、炭化物を少量含む

第276号住居跡ピット6 土層注記

第1層 褐色 10Y R $\frac{1}{2}$
 ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
 第2層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
 ローム粒・炭化物を少量含む。黒色土混入
 第3層 褐色 10Y R $\frac{1}{2}$
 ローム粒・炭化物を少量含む

第279号住居跡ビット7土層注記

第1層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
ローム粒やや多く、炭化物を少量含む
第2層 黒褐色 10Y R $\frac{3}{2}$
ローム粒・炭化物を少量含む
第3層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒・炭化物を少量含む
第4層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒多量、炭化物を少量含む
第5層 黄褐色 10Y R $\frac{5}{6}$
ローム粒多量、炭化物・焼土粒を少量含む

第276号住居跡ビット8土層注記

第1層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
ローム粒やや多く、炭化物を少量含む
第2層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒・炭化物を少量含む
第3層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒を多量に含む

第276号住居跡ビット9土層注記

第1層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
第2層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒やや多く、炭化物を少量含む
第3層 黄褐色 10Y R $\frac{5}{6}$
ローム粒多量、炭化物少量を含む
第4層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒多量、炭化物を少量含む
第5層 黄褐色 10Y R $\frac{5}{6}$
ローム粒多量、炭化物を少量含む

第276号住居跡ビット10土層注記

第1層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒多量、炭化物を少量含む
第2層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
ローム粒・炭化物を少量含む
第3層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒多量、炭化物を少量含む
第4層 黄褐色 10Y R $\frac{5}{6}$
ローム粒・L、Bを多量に含む

第276号住居跡ビット12土層注記

第1層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
ローム粒・炭化物・焼土粒
第2層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒多量、炭化物を少量含む
第3層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒多量、炭化物を少量含む

第276号住居跡ビット13土層注記

第1層 黄褐色 10Y R $\frac{5}{6}$
ローム粒多量、炭化物を少量含む
第2層 明黄褐色 10Y R $\frac{6}{6}$
ローム粒、L、B多量、炭化物を少量含む

第276号住居跡ビット14土層注記

第1層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
第2層 黒褐色 10Y R $\frac{3}{2}$
ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
第3層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
第4層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒・炭化物を少量含む

第276号住居跡ビット15土層注記

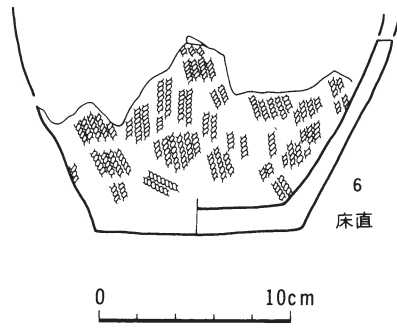
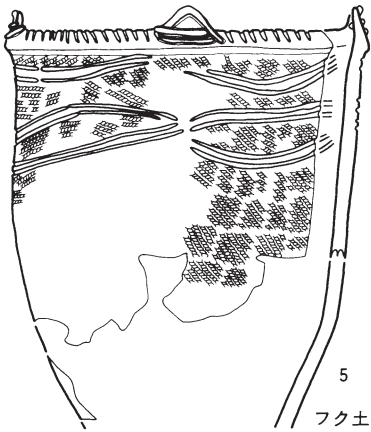
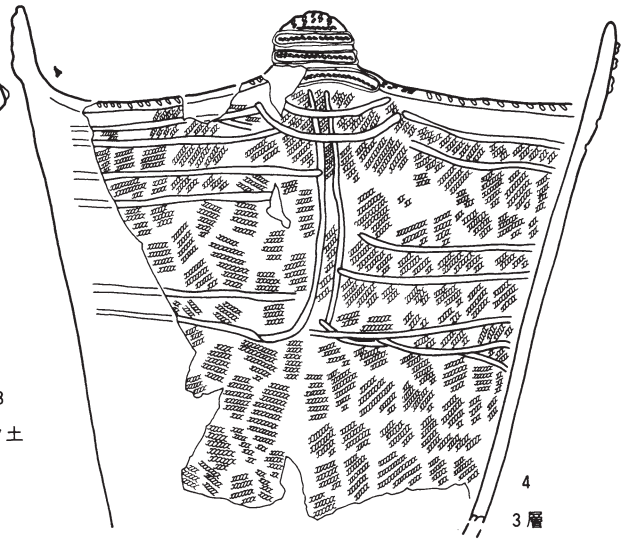
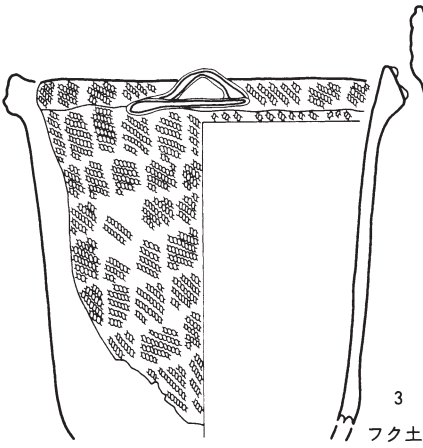
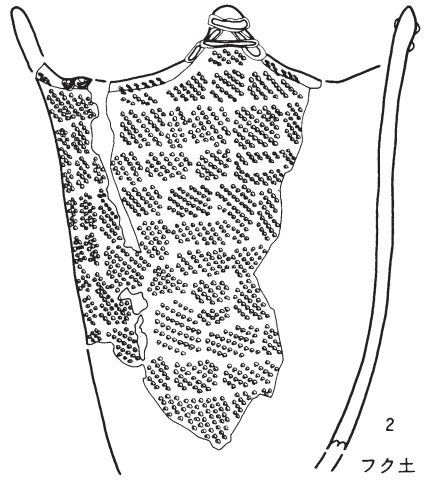
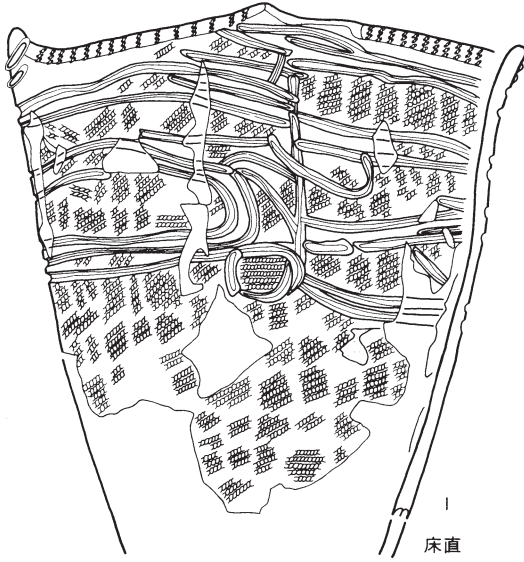
第1層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む
第2層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒・炭化物・焼土粒をやや多く含む
第3層 黄褐色 10Y R $\frac{5}{6}$
ローム粒多量、炭化物を少量含む
第4層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒多量、焼土粒を微量に含む

第276号住居跡ビット16土層注記

第1層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒・炭化物を少量含む
第2層 黄褐色 10Y R $\frac{5}{6}$
ローム粒・炭化物を多量に含む
第3層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
ローム粒・炭化物をやや多く、焼土粒を少量含む
第4層 黄褐色 10Y R $\frac{5}{6}$
ローム粒やや多く、炭化物を少量含む

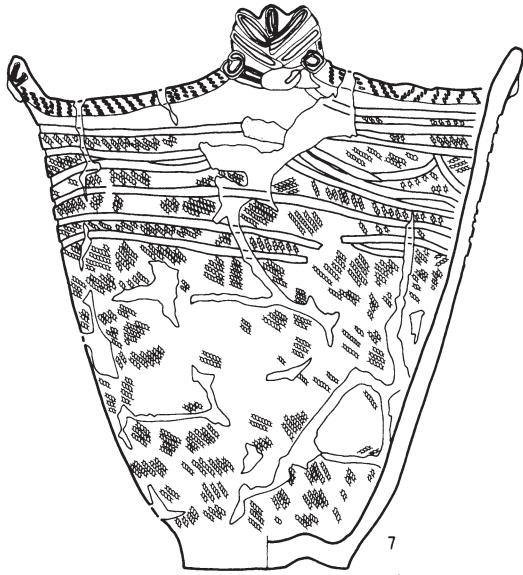
第276号住居跡ビット17土層注記

第1層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
ローム粒・炭化物を少量含む
第2層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒をやや多く含む
第3層 暗褐色 10Y R $\frac{3}{4}$
ローム粒多量、炭化物を少量含む
第4層 褐色 10Y R $\frac{4}{4}$
ローム粒をやや多く含む

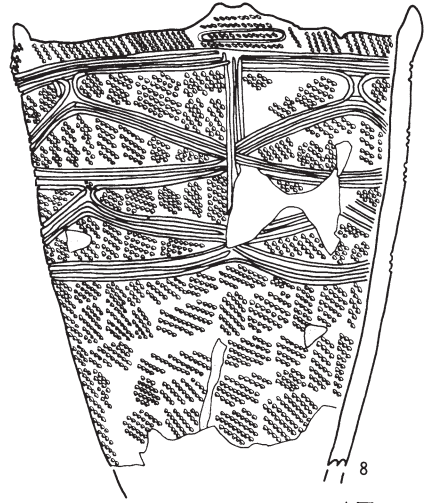


0 10cm

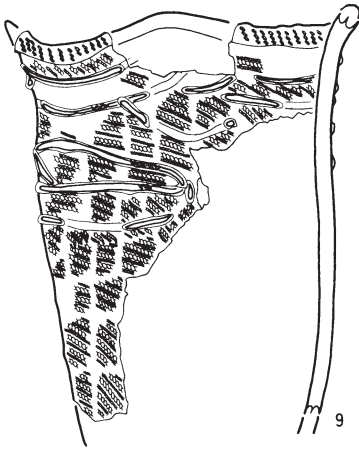
第641図 第276号住居跡(4)



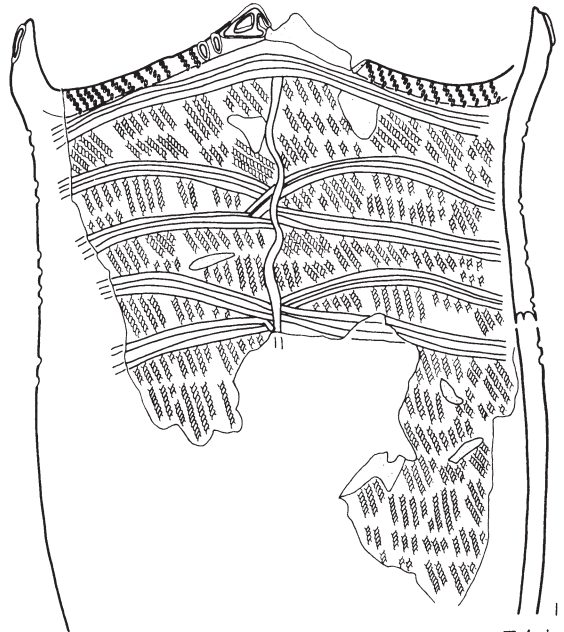
7
床直



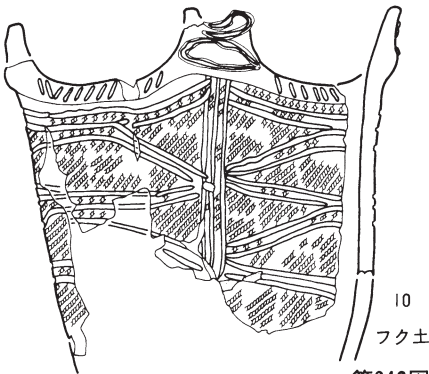
8
床面



9
床直



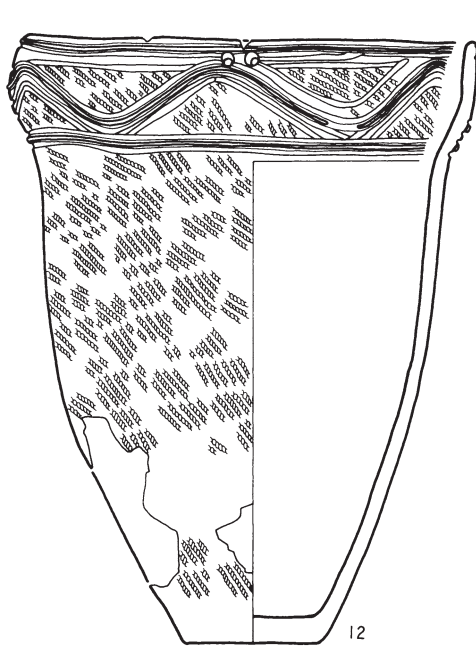
11
フク土



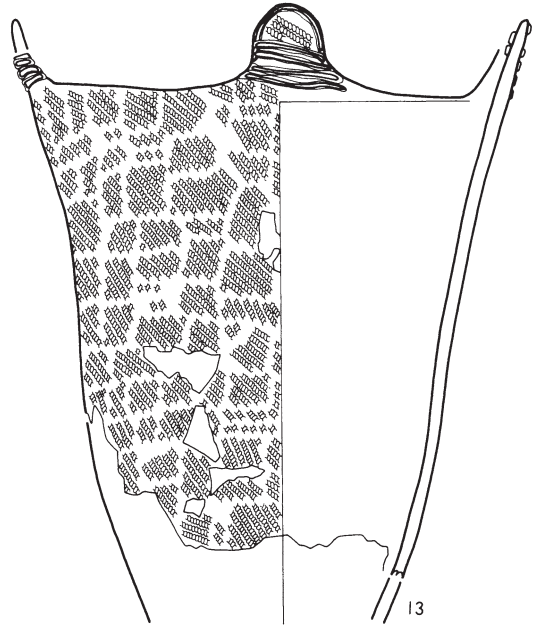
10
フク土



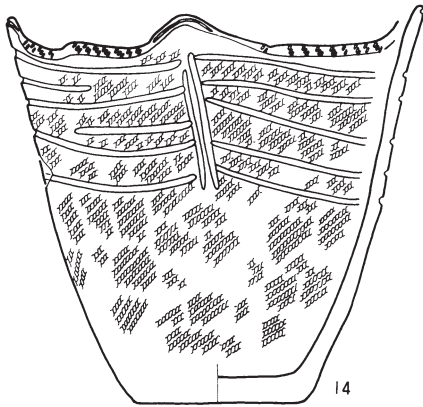
第642図 第276号住居跡(5)



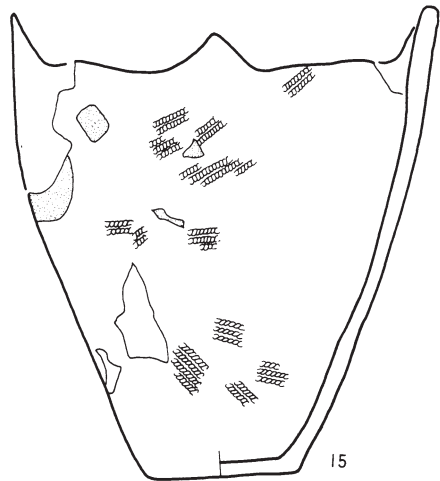
床直



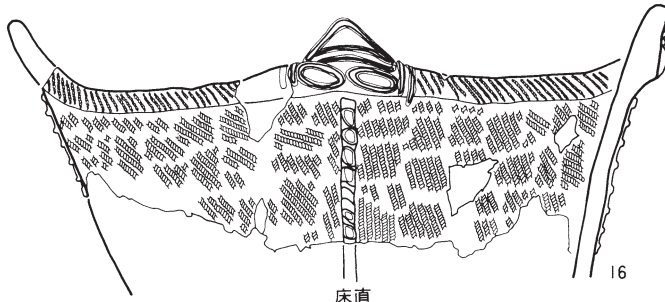
床直



フク土



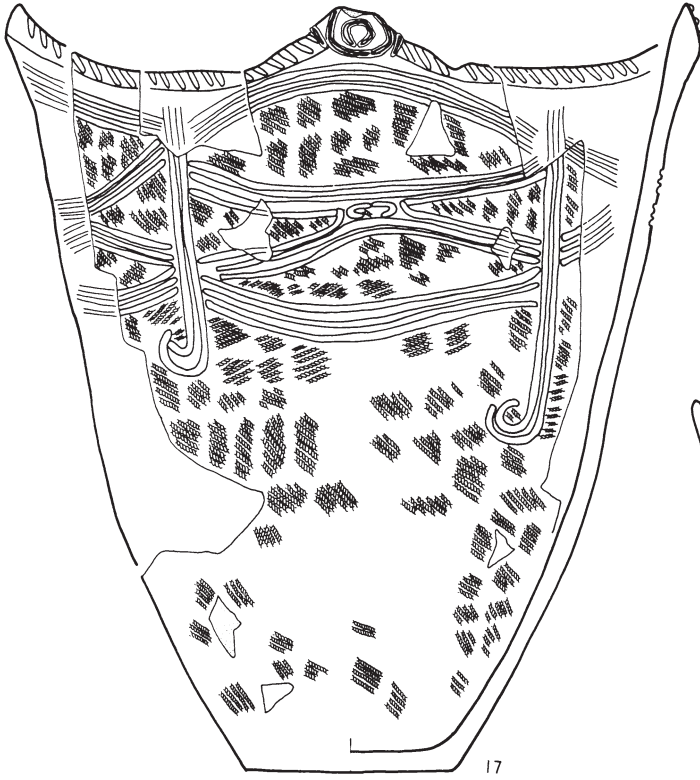
床直



床直

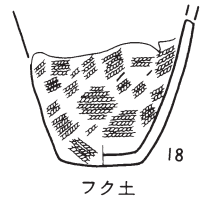


第643図 第276号住居跡(6)



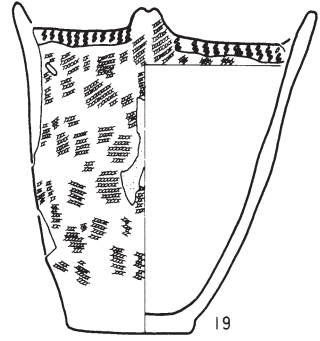
床面

17



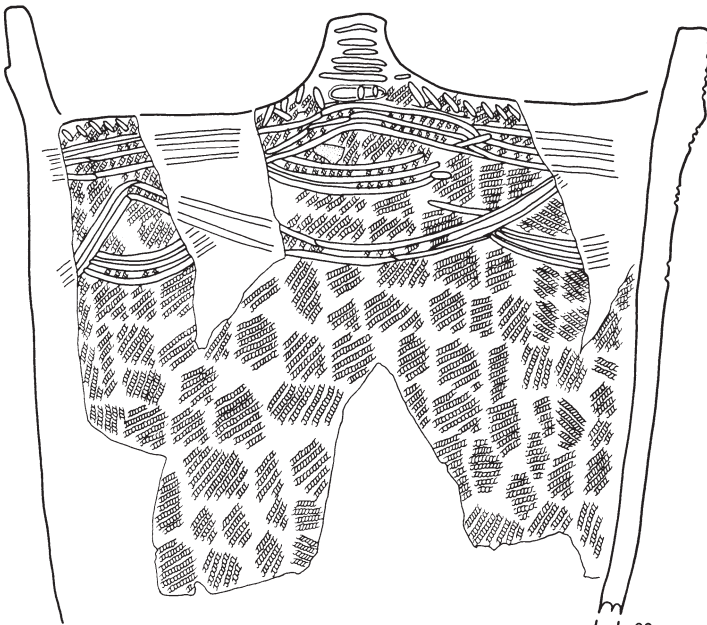
フク土

18



フク土

19



フク土

20



床直

21

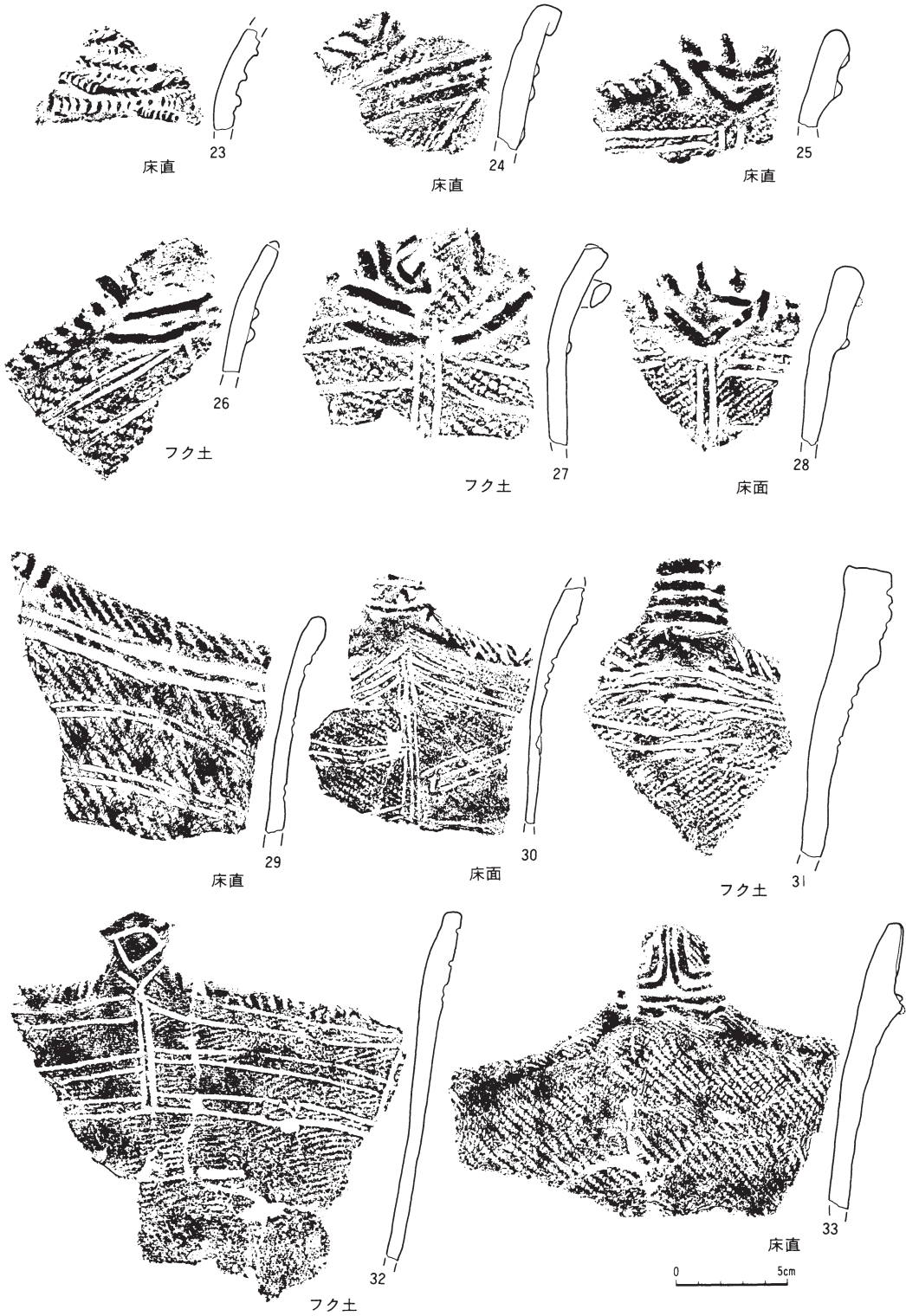


床面

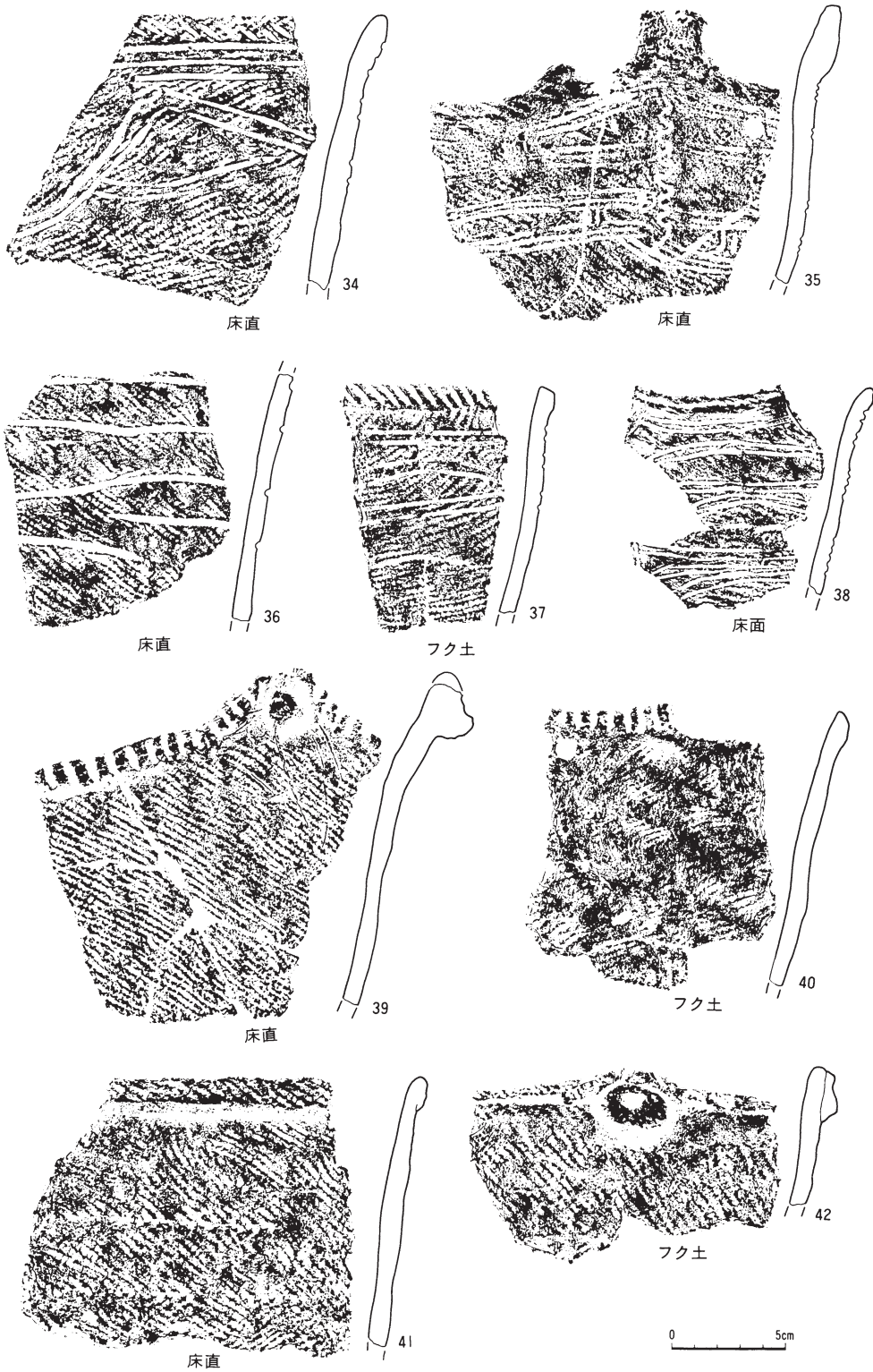
22



第644図 第276号住居跡(7)



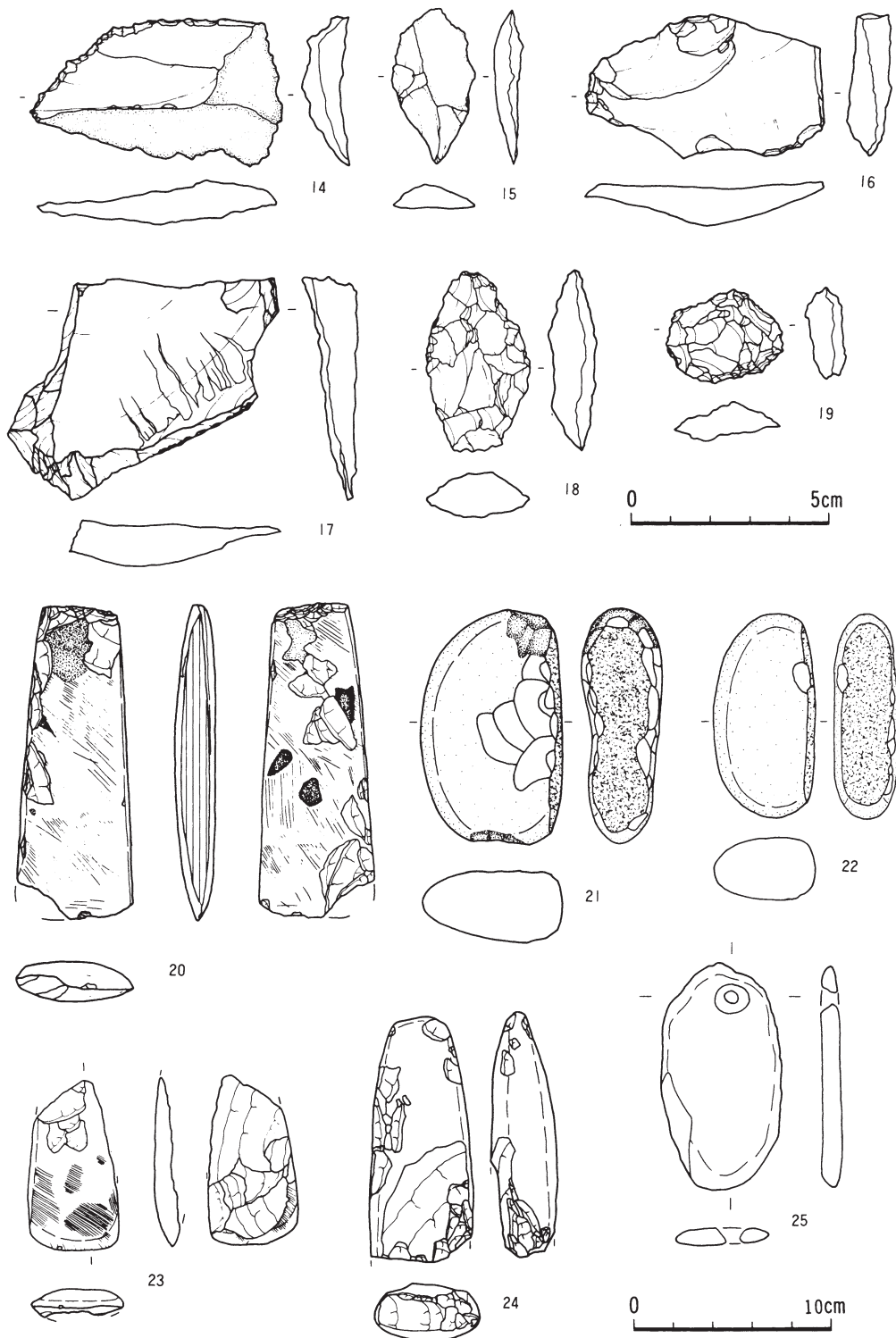
第645図 第276号住居跡(8)



第646図 第276号住居跡(9)



第647图 第276号住居跡(10)



第648图 第276号住居跡(1)

第277号住居跡（第649図）

＜位置と確認＞ 調査区DF-128・129グリッドに位置している。第265号住居跡を精査中に本住居跡を確認した。

＜重複＞ 住居跡の南側で第265号住居跡と重複し、新旧関係は本住居跡が新しい。

＜平面形・規模＞ 北側が調査区域外のため不明であるが、残存部から推定すると円形のプランを呈する。規模は、長軸2 m14cm・短軸不明で小型な住居跡である。

＜壁・床面＞ 上端から床面にかけて傾斜しており軟らかい造りである。壁高は、東壁8 cm・西壁19cm・南壁8 cm・北壁は不明である。床面は、ほぼ平坦で固い。

＜柱穴＞ ピットは2個検出した。配置等から柱穴と思われる。

第277号住居跡ピット計測表

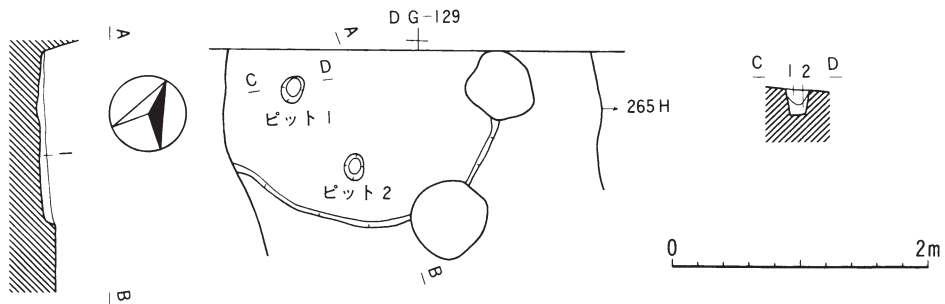
No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	楕円形	24×16	20	2	楕円形	34×14	15				

＜炉＞ 検出しなかった。

＜特殊施設＞ 認められなかった。

＜堆積土＞ 分層できず1層のみの堆積である。人為・自然堆積かどうか判断できなかった。

＜出土遺物＞ 遺物は出土しなかった。 (神山温子・成田滋彦)



第277号住居跡ピット1土層注記

第1層 褐色 10Y R% ローム粒少量含む

第2層 暗褐色 10Y R¾ ローム粒少量含む

第277号住居跡土層注記

第1層 褐色 10Y R%

ローム粒少量、ロームブロック多量に含む

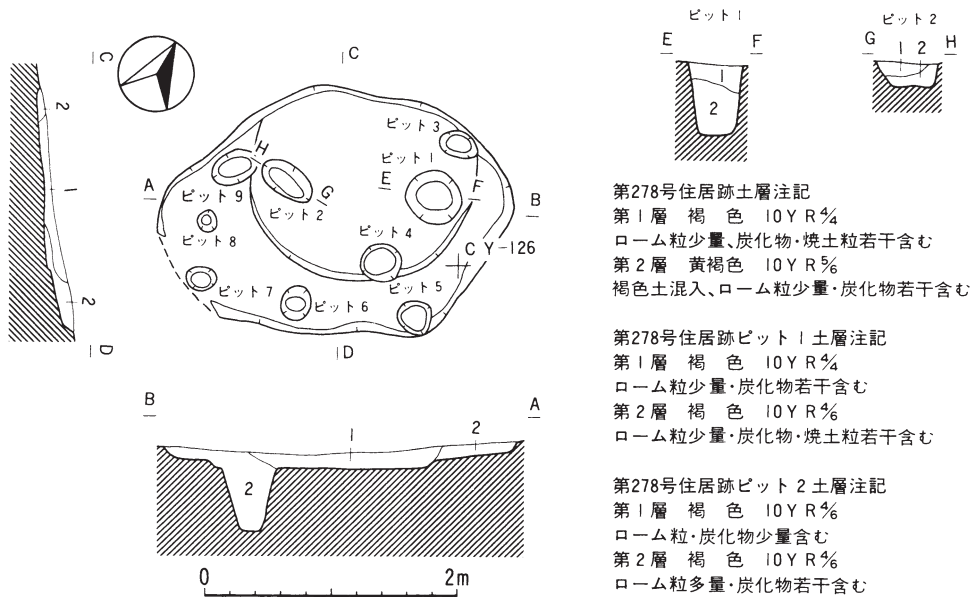
第649図 第277号住居跡

第278号住居跡（第650図）

＜位置と確認＞ 調査区CX・CY-125・126グリッドに位置している。

＜重複＞ 認められなかった。

＜平面形・規模＞ 東西に長い楕円形を呈する。規模は長軸1 m40cm・短軸1 m00cm・床面積



第650図 第278号住居跡

3.8㎡で小型の住居跡である。

<壁・床面> 上端から床面にかけてなだらかに傾斜しており、軟らかい造りである。壁高は、東壁9cm・西壁9cm・南壁10cm・北壁4cmを測る。床面は、住居跡の東・西・北側にかけて一段高くなっている段状の床面を呈する。上・下位の床面もほぼ平坦で軟らかい造りである。

<柱穴> ピットは9個検出した。配置等から柱穴と思われるが、主柱穴は判断できなかった。

第278号住居跡ピット計測表

No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No.	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	円形	44×42	58	2	楕円形	49×24	18	3	楕円形	33×22	6
4	円形	32×31	8	5	円形	28×28	21	6	円形	27×24	11
7	円形	24×21	5	8	円形	18×16	7	9	楕円形	37×26	11

<炉> 検出しなかった。

<特殊施設> 認められなかった。

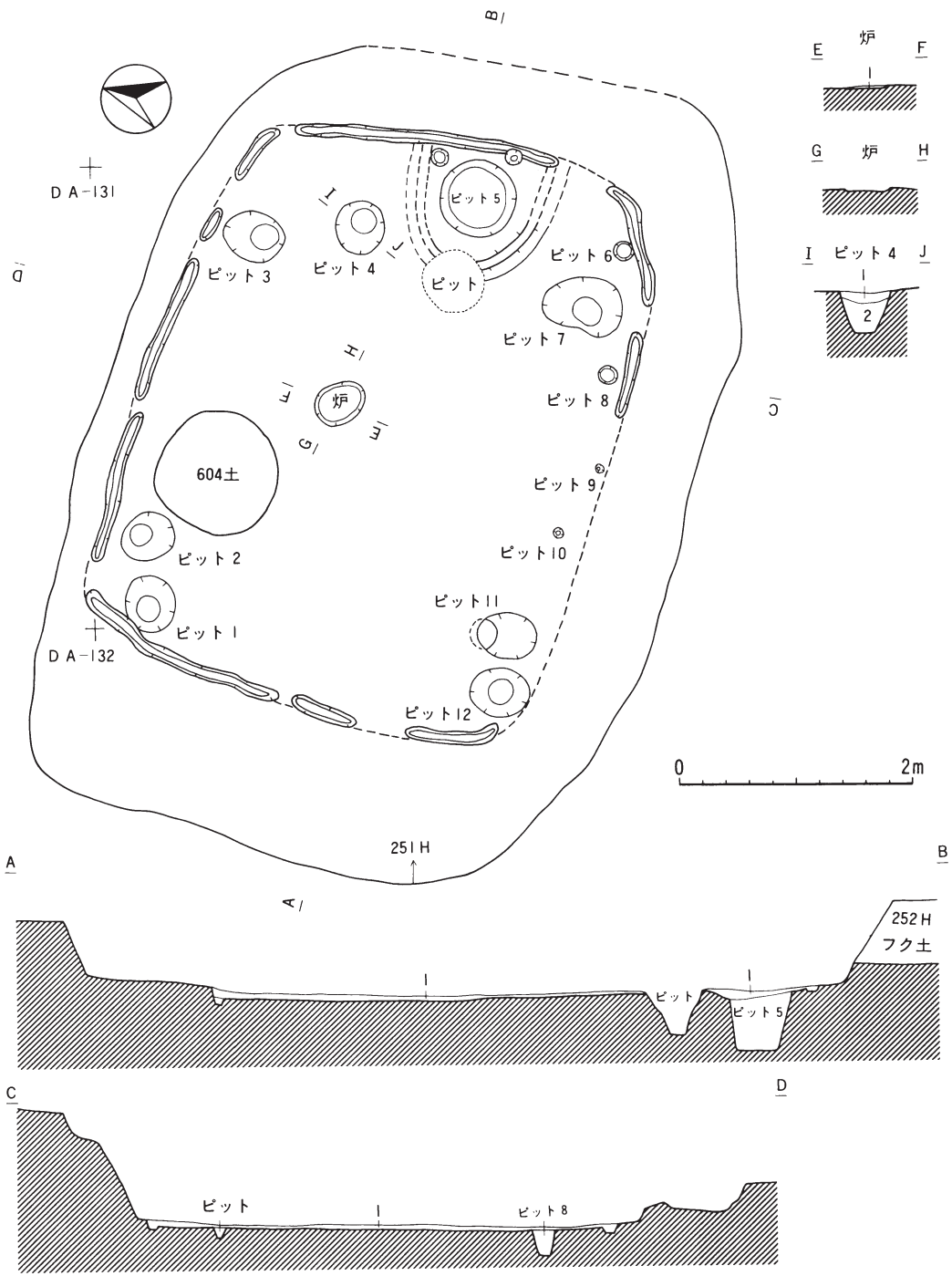
<堆積土> 2層に分層できた。断面観察等から自然堆積と思われる。

<出土遺物> 遺物は、出土しなかった。

(成田 滋彦)

第279号住居跡 (第651・652図)

<位置と確認> 調査区西側台地の緩斜面CY-131、CZ-130~132グリッドに位置している。第251号住居跡の床面を精査中に焼土と貼り床の一部を検出し、周辺を精査したところ竪穴住居跡を確認した。

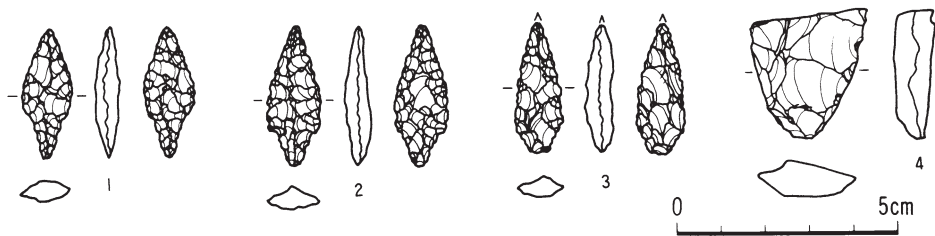


第279号住居跡土層注記
 第1層 黄褐色 10Y R 5/6 褐色土混入

第279号住居跡炉土層注記
 第1層 明赤褐色 5 Y R 5/6 炭化物を多量に含む、褐色土混入

第279号住居跡ピット4土層注記
 第1層 褐色 10Y R 4/6
 ローム粒・炭化物を多量、焼土粒を少量含む
 第2層 明黄褐色 10Y R 7/6
 ローム粒・L.B.を多量に含む

第651図 第279号住居跡(1)



第652図 第279号住居跡(2)

〈重複〉 本住居は、床面で第604号土壌、第251号住居跡、第280号住居跡、東側で第252号住居跡、北側で第250号住居跡と重複している。新旧の関係は以下のとおりである。

(新) —————→ (旧)

第604号土壌→第250号住居跡→第251号住居跡→第252号住居跡

↓

本住居跡 → 第280号住居跡

〈平面形・規模〉 残存している壁溝から推察すると長軸を東西に持つ長方形を呈すると思われる。規模は、長軸（5 m25cm）・短軸（5 m）、床面積は、（19.71㎡）である。

〈壁・床面〉 重複する住居跡に壊されているため確認できなかった。床面は全体的にほぼ平坦で、堅く締まっている。

〈壁溝〉 幅10～14cm・深さ2～12cmの壁溝が、南側の一部を除いて壁直下をほぼ一周する。

〈柱穴〉 本住居跡内から14個のピットが検出された。このうち長軸線上で対称になっているP₂・P₃・P₇・P₁₁（深さP₂…72・P₃…72・P₇…93・P₁₁…79cm）が主柱穴と思われる。西側のP₁・P₁₂（深さP₁…85・P₁₂…80cm）も、柱穴の可能性はある。P₅については、特殊施設の項目で述べる。

〈炉〉 地床炉で住居跡の中央部のやや北よりに位置する。規模は、長軸45cm・短軸35cm、深さ2cmである。堆積土は明赤褐色の焼土層で、上面が火床面である。

〈特殊施設〉 住居跡東壁近くでピットを1個検出した。ピット周辺の一部は盛り土（高さ4cm）になっている。平面形は馬蹄形状を呈すると思われ、長軸1 m15cm・短軸（1 m20cm）・深さ7cmで、中央部に直径65cm・深さ50cmの円形ピットを伴っている。

〈堆積土〉 第251号住居跡の貼り床（黄褐色）の層が数cm程覆っている。

〈出土遺物〉 遺物は、第251号住居跡の貼り床から僅かに出土した。石器は、覆土から石鏃1点、ピット2から不定形石器1点、床面から石鏃2点・不定形石器1点が出土した。

〈小結〉 本住居跡は第251号住居跡（円筒上層e式期）と第280号住居跡（円筒上層d式期）の間にあることから円筒上層d・e式期と思われる。 (中嶋 友文)

第280号住居跡 (第653・654図)

〈位置と確認〉 調査区西側台地の緩斜面CY-131、CZ-131・132グリッドに位置している。第279号住居跡の床面を精査中に焼土と貼り床の一部を検出し、周辺を精査したところ住居跡を確認した。

〈重複〉 本住居跡は、床面で第604号土壙、第251号住居跡、第279号住居跡、東側で第252号住居跡、北側で第250号住居跡と重複している。新旧の関係は以下のとおりである。

(新) —————→ (旧)

第604号土壙→第250号住居跡→第251号住居跡→第252号住居跡



第280号住居跡→本住居跡

〈平面形・規模〉 残存している壁溝から推察すると長軸を東西に持つ長方形と思われる。規模は、長軸(4m60cm)・短軸(3m85cm)、床面積は、(13.99㎡)である。

〈壁・床面〉 住居跡に壊されているため確認できなかった。床面は全体的にほぼ平坦で、堅く締まっている。

〈壁溝〉 北側で幅8～13cm、深さ2～6cmの壁溝を検出した。北側以外は、部分的に認められる。

〈柱穴〉 本住居跡内から多数のピットが検出された。このうち長軸線上で対称になっているP₃・P₄・P₈・P₉(深さP₃…77・P₄…68・P₈…69・P₉…76cm)が主柱穴と思われる。その他に10～15cm前後の小ピットが14個検出している。P₁は、直径60cm・深さ47cmの円形ピットである。

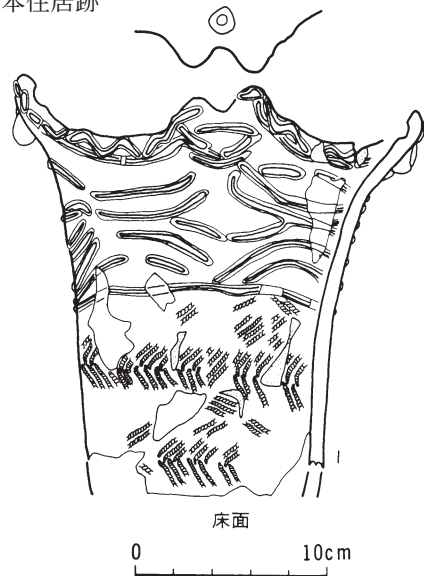
〈炉〉 地床炉で住居跡のほぼ中央部に位置する。規模は、長軸52cm・短軸49cm、深さ5cmである。堆積土は3層に区分でき、2層上面が火床面である。

〈特殊施設〉 認められなかった。

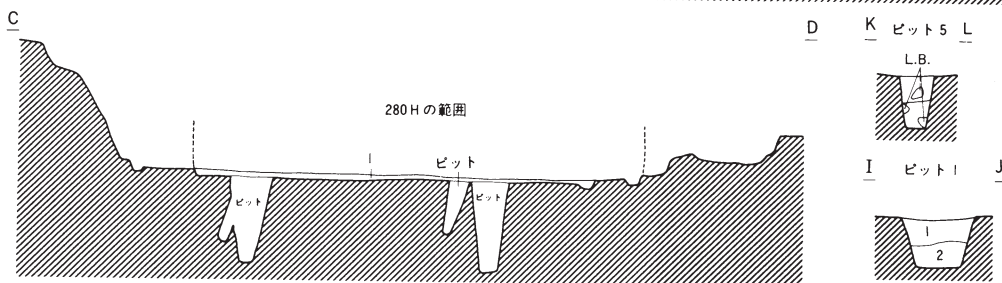
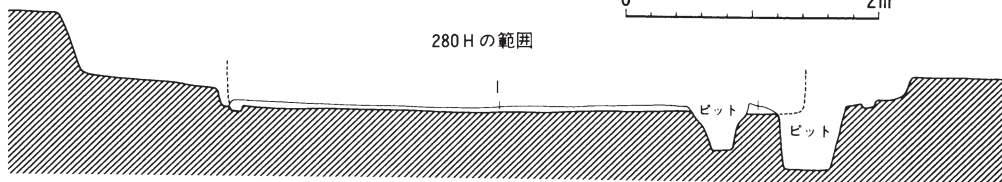
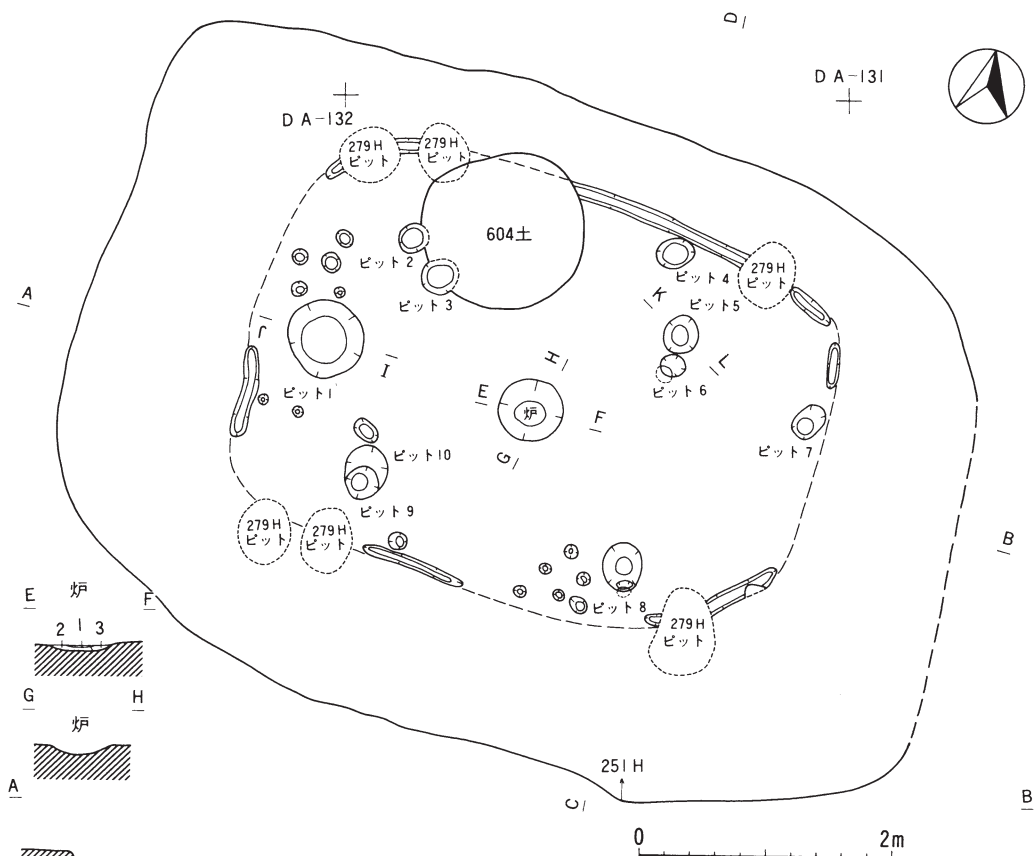
〈堆積土〉 第279号住居跡の貼り床(黄褐色)の層が数cm程覆っている。

〈出土遺物〉 遺物は、第279号住居跡の貼り床の下から円筒上層d式土器(1)が出土した。石器は、ピット8から不定形石器2点が出土した。

〈小結〉 本住居跡は、床面から出土した土器から円筒上層d式期と思われる。(中嶋 友文)



第653図 第280号住居跡(1)



第280号住居跡土層注記

第1層 黄褐色 10Y R% 褐色土混入

第280号住居跡炉土層注記

第1層 明赤褐色 2.5Y R% 褐色土混入

第2層 黒色 10Y R% 炭化物を多量に含む。褐色土混入

第3層 褐色 10Y R% ローム粒・炭化物・焼土粒を多量に含む

第280号住居跡ピット1土層注記(I-J)

第1層 暗褐色 10Y R% ローム粒・L.B.を多量に含む

第2層 褐色 10Y R% ローム粒・L.B.を多量に含む

第280号住居跡ピット5土層注記(K-L)

第1層 黒褐色 10Y R% ローム粒・L.B.を多量に含む

第2層 暗褐色 10Y R% ローム粒・L.B.を多量に含む

第654図 第280号住居跡(2)

第281号住居跡（第655・656図）

<位置と確認> CX、CY-113・114グリッドに位置している。焼土を確認し付近一帯を精査したところ、同レベルに貼り床を確認した。

<重複> 第282号住居跡より新しい。

<平面形・規模> 不明である。

<壁・床面> 壁は確認できなかった。床面はロームの貼り床を確認した。

<壁溝> 確認できなかった。

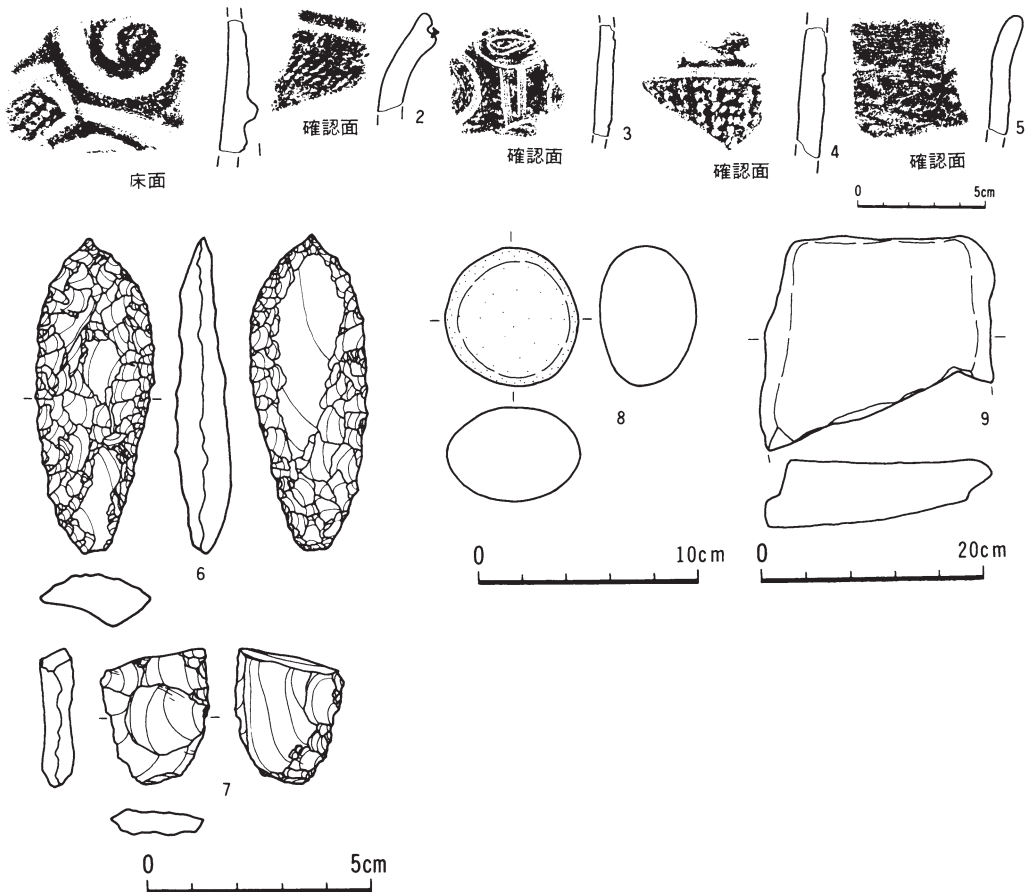
<柱穴> 確認できなかった。

<炉> 当初確認した焼土が地床炉と思われる。獣骨片が出土している。

<特殊施設> 確認できなかった。

<堆積土> 確認できなかった。

<出土遺物> 床面から大木系土器が出土している。石器は床面から石槍1点、覆土から不定形石器2点、敲磨器類1点、石皿・台石類1点が出土し、総数5点である。



第655図 第281号住居跡

<小結> 本住居跡は、床面の土器及び住居跡の新旧関係から榎林式期かそれ以後に構築されたものと思われる。(畠山 昇)

第282号住居跡 (第656・657図)

<位置と確認> C X・C Y-113グリッドに位置している。

<重複> 西壁上位に第281号住居跡が位置し、本住居跡が古い。

<平面形・規模> 円形で、長軸3 m20cm、短軸3 m10cmである。床面積は7.04m²である。

<壁・床面> 壁高は東壁30cm、西壁28cm、南壁40cm、北壁22cmである。床面は壁より10cm前後内側に貼り床があり、比較的硬い造りである。

<壁溝> 認められなかった。

<柱穴> 床面から24個のピットを確認した。柱穴配置は不明である。ピットの深さはP₁…25cm、P₂…19cm、P₃…29cm、P₄…10cm、P₅…41cm、P₆…20cm、P₇…15cm、P₈…11cm、P₉…12cm、P₁₀…20cm、P₁₁…32cm、P₁₂…30cm、P₁₃…9cm、P₁₄…19cm、P₁₅…17cm、P₁₆…13cm、P₁₇…8cm、P₁₈…25cm、P₁₉…9cm、P₂₀…20cm、P₂₁…31cm、P₂₂…26cm、P₂₃…10cm、P₂₄…16cmである。

<炉> ほぼ中央で地床炉を確認した。炭化物と少量の焼土を含み、火床面は明瞭でない。

<特殊施設> 認められなかった。

<その他の施設> 北西壁近くのP₁₀～P₁₂に囲まれた部分(40×24cmの隅丸方形)に高さ3～4cmのロームの盛り土、また南西壁近くのP₁・P₃・P₄に囲まれた部分(42×12cmの不整形)にも高さ3～5cmで非常に硬いロームの盛り土がみられた。入り口の可能性も考えられる

<堆積土> 上部は暗褐色土や褐色土が斜交し切り合っており、攪乱を受けた可能性が高い。中～下部はロームブロックを多量に含む褐色土が堆積している。

<出土遺物> 床面及び床面直上から榎林式土器が出土した。石器は床面から不定形石器1点、床面直上から不定形石器5点、覆土から石鏃1点、ピット21から不定形石器1点、総数13点出土している

<小結> 本住居跡は、床面の土器から榎林式期に構築されたものと思われる。(畠山 昇)

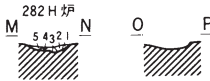
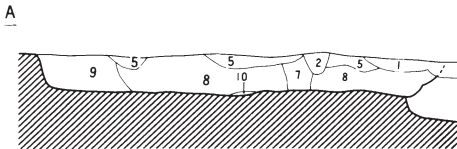
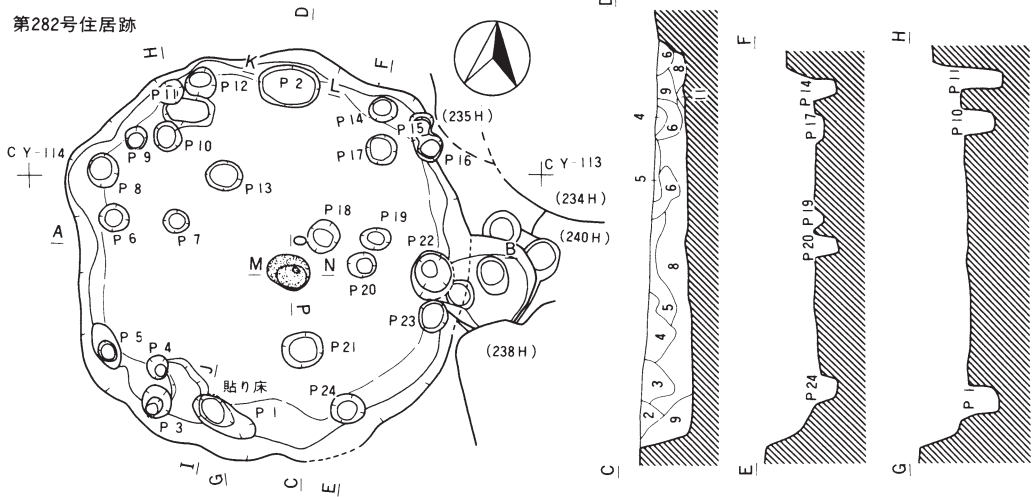
第283号住居跡 (第702図)

<位置と確認> C W・C X-113グリッドに位置している。

<重複> 第295号住居跡の直上に位置し、本住居跡が新しい。また237号住居跡より古い。

<平面形・規模> 貼り床を確認したのみで平面形、規模は不明である。貼り床の範囲は径1 m80cmの円形である。

第282号住居跡



ピット1土層注記
 第1層 褐色土 10Y R 4
 第2層 褐色土 10Y R 4

ピット2土層注記
 第1層 褐色土 10Y R 4
 第2層 黄褐色土 10Y R 5
 第3層 黄褐色土 10Y R 5
 第4層 褐色土 10Y R 4

炉土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R 3
- 第2層 暗褐色土 10Y R 3
- 第3層 暗褐色土 10Y R 4 焼土粒多量含む
- 第4層 黒褐色土 10Y R 2 炭化物多量含む
- 第5層 暗褐色土 10Y R 3

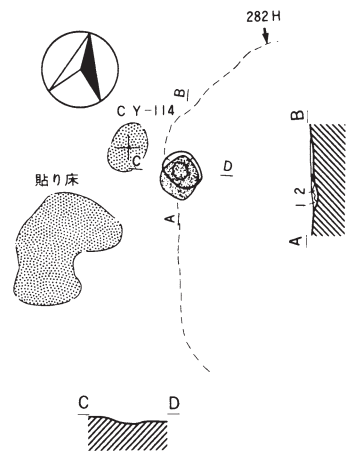
第282号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R 3 ロームブロック、炭化物を微量含む
- 第2層 暗褐色土 10Y R 3 ローム粒を微量含む
- 第3層 褐色土 10Y R 4 ロームブロック少量、炭化物を微量含む
- 第4層 暗褐色土 10Y R 4 ロームブロック、炭化物を少量含む
- 第5層 褐色土 10Y R 4 ローム粒、炭化物を微量含む
- 第6層 暗褐色土 10Y R 3 ローム粒を微量含む
- 第7層 褐色土 10Y R 4 ローム粒少量、炭化物、焼土を微量含む
- 第8層 褐色土 10Y R 5 ロームブロック多量、炭化物を少量含む
- 第9層 褐色土 10Y R 5 ロームブロック少量含む
- 第10層 暗褐色土 10Y R 3 ロームブロック微量、炭化物を多量含む
- 第11層 黄褐色土 10Y R 5 ローム質



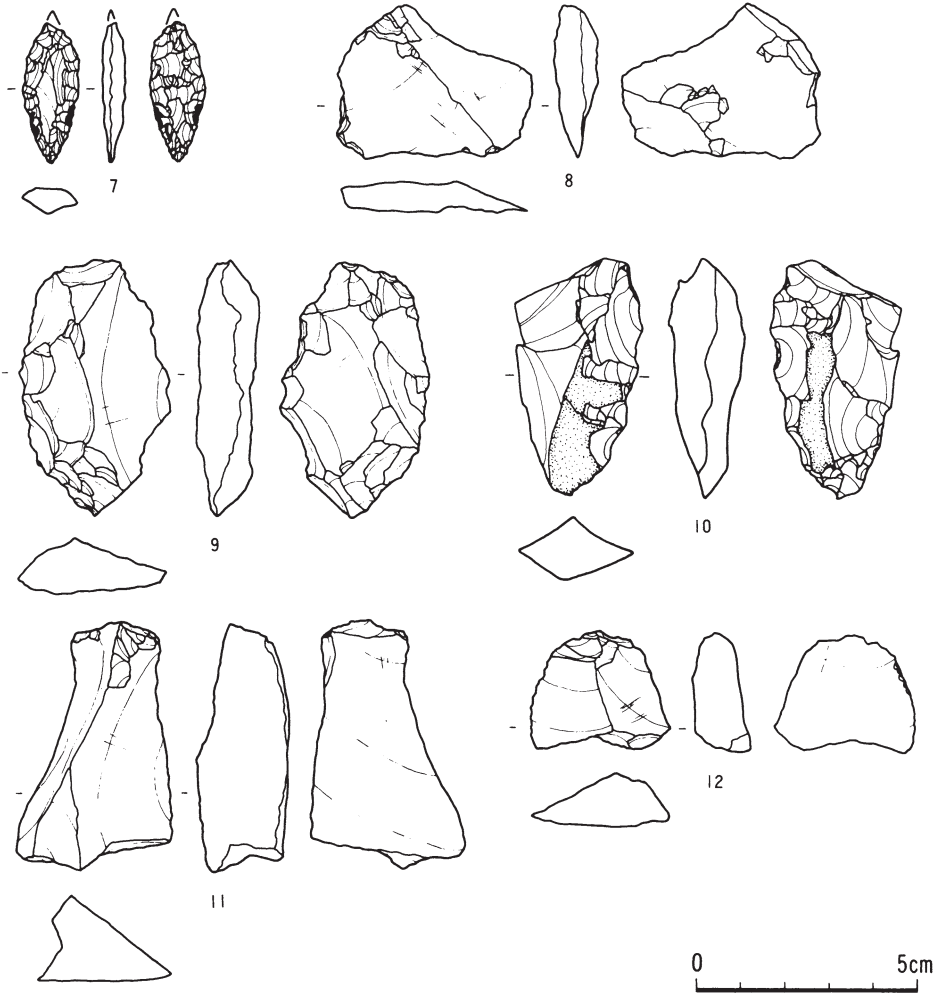
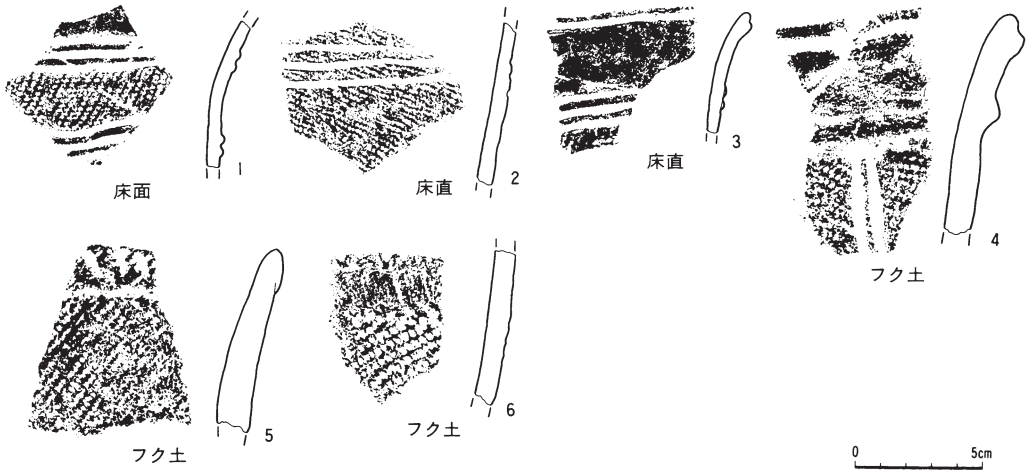
第656図 第281・282号住居跡(1)

第281号住居跡



炉土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R 3
- 第2層 褐色土 10Y R 4



第657図 第282号住居跡(2)

<壁・床面> 南壁を確認した。壁壁は14cmである。

<壁溝> 認められなかった。

<柱穴> 検出できなかった。

<炉> ほぼ中央で地床炉を確認した。炭化物と少量の焼土を含むが、火床面は明瞭でない。

<特殊施設> 認められなかった。

<堆積土> 暗褐色土を主体としており、ローム粒の含有量で3層に分層した。

<出土遺物> 床面から円筒上層系の土器が出土している。石器は出土していない。中央に大礫が1点出土している。

<小結> 本住居の時期は不明であるが、住居跡の新旧関係から榎林式期かそれ以前に構築されたものと考えられる。(畠山 昇)

第285号住居跡 (第658～666図)

<位置と確認> CV・CW-111グリッドで暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 第288・292号住居跡より古いが、第456号住居跡との関係は不明である。

<平面形・規模> 平面形は南北に長軸を持つ隅丸長方形である。規模は短軸3m93cm、長軸5m10cmである。なお本住居跡は調査の結果、若干の拡張(改築)が認められ、床面での計測値は、改築前の規模は短軸3m60cm、長軸4m55cmで、床面積は16.75㎡、改築後の規模は、短軸3m75cm、長軸4m82cmであり、それほど大きな差はない。

<壁・床面> 各壁とも急な立ち上がりで、北壁は40～45cm前後、他は20～30cmである。床面は平坦で、堅緻である。とくに、炉の周辺は貼り床が施され、堅い。また、北西部の床面は風倒木により攪乱を受け、大きく盛り上がっていた。

<壁溝> 壁溝は2条検出した。内側のものは改築前のものと考えられる。改築前のものは幅10cm、深さ5cm前後で、とくに南壁に明瞭である。改築後の壁溝は幅2～3cm、深さ2cm前後で、あまり明確ではない。

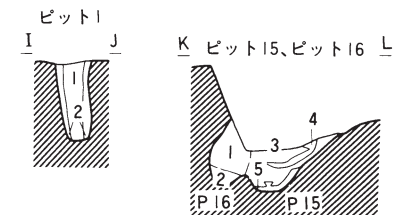
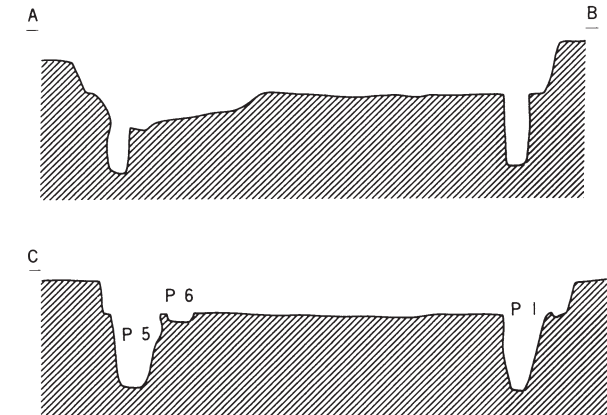
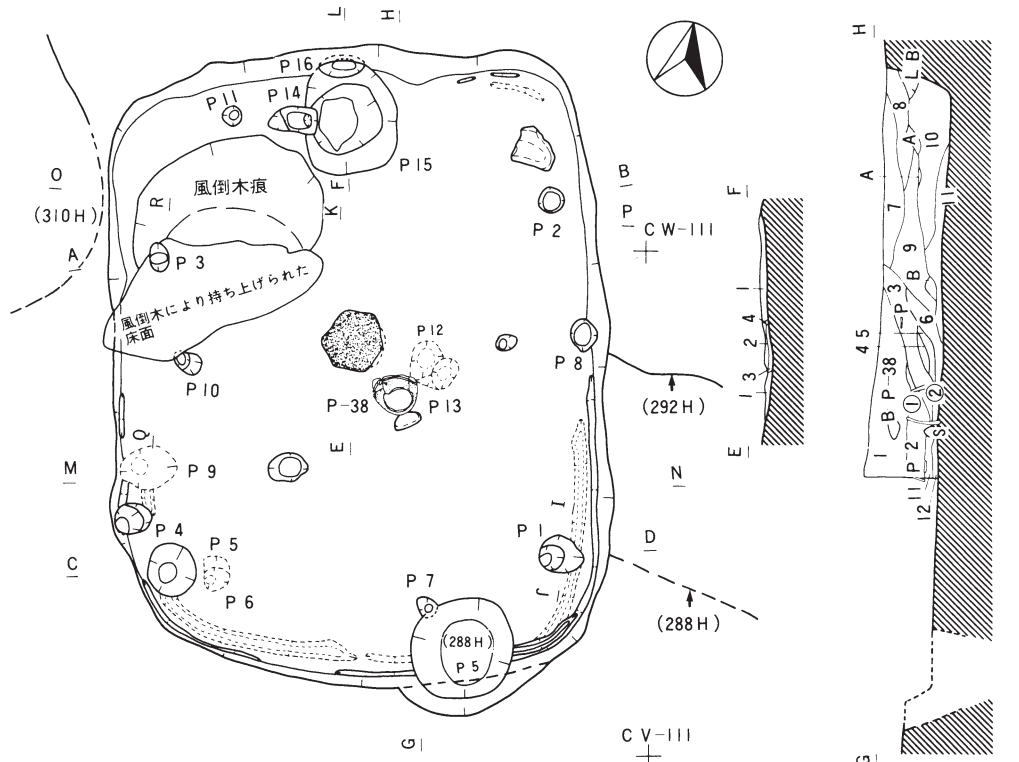
<柱穴> 18個のピットを検出した。このうち支柱穴の配置は

A. 改築前…P₁・P₂・P₃・P₅

B. 改築後…P₁・P₂・P₃・P₄

と考えられ、柱の位置は1本だけが、若干変更になっている。主なピットの深さは、以下のとおりである。

P₁…61cm、P₂…54cm、P₃…64cm、P₄…47cm、P₅…50cm、P₆…8cm、P₇…24cm、P₈…14cm、P₉…18cm、P₁₀…27cm、P₁₁…14cm、P₁₂…26cm、P₁₃…19cm、P₁₄…24cm、P₁₅…52cm、P₁₆…50cm。



第285号住居跡土層注記 (G-H)

- 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ 木炭粒若干、ローム粒若干含む
- 第2層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ 木炭粒多量、骨片粒若干、ローム粒多量含む
- 第3層 黒褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$ 木炭粒多量、骨片多量、ローム粒少量含む
- 第4層 褐色土 10Y R $\frac{1}{4}$ ローム質
- 第5層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ 木炭粒多量、ローム粒多量含む
- 第6層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ 木炭粒少量含む
- 第7層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒微量含む
- 第8層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ 木炭粒微量、ローム粒微量含む
- 第9層 褐色土 10Y R $\frac{1}{4}$ 木炭粒少量、ローム粒多量含む
- 第10層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ 木炭粒少量、ローム粒微量含む
- 第11層 褐色土 10Y R $\frac{1}{4}$ ローム粒微量含む
- 第A層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$
- 第B層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒多量含む

炉土層注記 (E-F)

- 第1層 黄褐色土 10Y R $\frac{5}{8}$ ローム質
- 第2層 明赤褐色土 5Y R $\frac{5}{6}$ 焼土
- 第3層 明赤褐色土 5Y R $\frac{5}{6}$ 焼土
- 第4層 褐色土 7.5Y R $\frac{3}{4}$

ピット15・16土層注記 (K-L)

- 第1層 黄褐色土 10Y R $\frac{5}{8}$ ローム質
- 第2層 褐色土 10Y R $\frac{1}{4}$ 炭化物少量含む
- 第3層 黄褐色土 10Y R $\frac{5}{8}$ ローム質
- 第4層 褐色土 10Y R $\frac{1}{4}$
- 第5層 褐色土 10Y R

ピット1土層注記 (I-J)

- 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒少量含む
- 第2層 褐色土 10Y R $\frac{1}{4}$ ローム質

P-38土器内土層注記

- 第①層 褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$
- 第②層 黒褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$ 木炭含む

第658図 第285号住居跡(1)

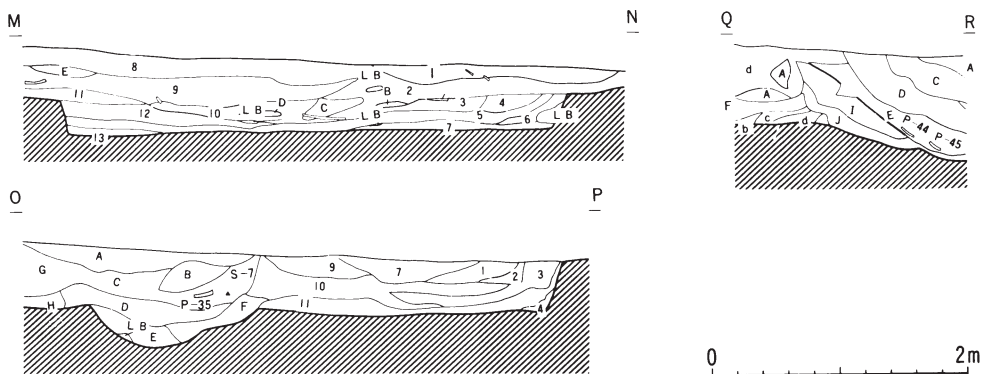
〈炉〉 住居跡のほぼ中央で、地床炉を検出した。改築前の炉は径40cm前後の円形で、改築後の炉は径50cm前後の不整形形状である。ともに、ほぼ同位置にある。

〈特殊施設〉 西壁で検出したものが特殊施設の可能性が考えられる。70cm×92cmの楕円形で床面から57cmの深さのピットを検出した。P₁₆は、さらに袋状に掘り込まれている。

〈堆積土〉 北西側は、風倒木による攪乱を受けているが、全体にローム粒・炭化物含んだ暗褐色土を主体としている。

〈出土遺物〉 覆土からは多量の遺物が出土した。炉の傍からは倒立した大木系の深鉢形土器（第660図1）が出土したが、堆積状況（第658図セクションG-H）から、1～6層は7層以降に堆積したと思われる、本住居跡の廃絶後に、何らかの攪乱を受けた可能性が考えられる。したがって、本住居跡には伴わないものと考えられる。

石器は、床面から不定形石器1点、石皿1点、床面直上から敲磨器類2点、覆土から石鏃12点、石槍2点、石筥2点、ピエス・エスキュー1点、不定形石器16点、磨製石斧1点、敲磨器類3点、石皿1点、台石1点、石棒類1点が出土し、総数44点である。また覆土から土偶の脚部1点、有孔石製品1点のほか、アオザメの歯（第66図29）が出土した。



第285号住居跡土層注記(M-N)

- 第1層 褐色土 10YR% 木炭少量、ローム微量含む
- 第2層 褐色土 10YR% 木炭少量、ローム若干含む
- 第3層 黒褐色土 10YR%₂ ローム微量含む
- 第4層 褐色土 10YR% 木炭少量、ローム多量含む
- 第5層 褐色土 10YR% ローム若干含む
- 第6層 暗褐色土 10YR%₃ ローム多量含む
- 第7層 暗褐色土 10YR%₃ ローム若干含む
- 第8層 暗褐色土 10YR%₃ 炭化物若干、ローム粒微量含む
- 第9層 暗褐色土 10YR%₃ 焼土粒微量、ローム粒微量含む
- 第10層 暗褐色土 10YR%₃
- 第11層 褐色土 10YR% 炭化物微量、ローム粒微量含む
- 第12層 褐色土 10YR%
- 第13層 暗褐色土 10YR%₃
- 第A層 褐色土 10YR%
- 第B層 褐色土 10YR%
- 第C層 黄褐色土 10YR%₅
- 第D層 暗褐色土 10YR%₃
- 第E層 暗褐色土 10YR%₃ 焼土、炭化物微量含む

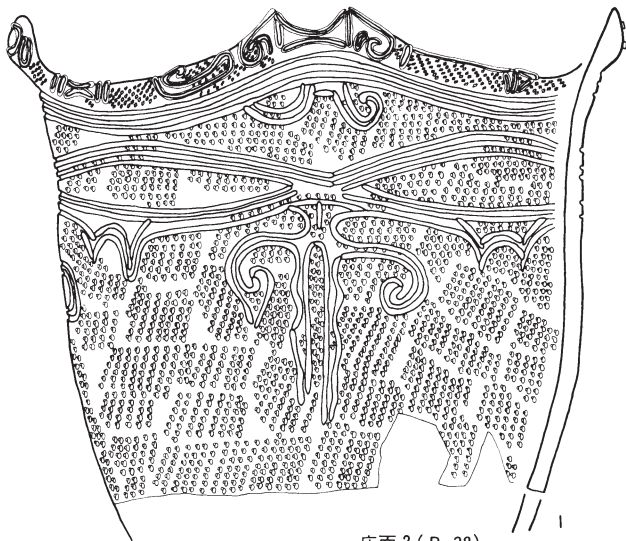
第285号住居跡土層注記(Q-R)

- 第I層 明黄褐色土 10YR%₆ ローム質
- 第J層 褐色土 10YR% ローム粒多量含む
- 第a層 暗褐色土 10YR%₃ 焼土粒、木炭粒、ローム粒含む
- 第b層 褐色土 10YR% ローム多量含む
- 第c層 暗褐色土 10YR%₃ ローム少量含む
- 第d層 褐色土 10YR% ローム多量含む

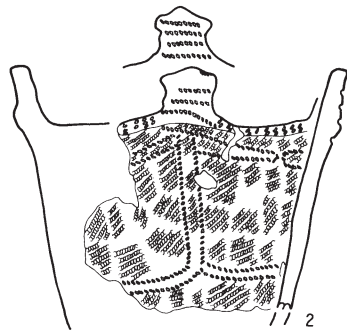
第285号住居跡土層注記(O-P)

- 第A層 暗褐色土 10YR%₃ ローム粒微量含む
- 第B層 暗褐色土 10YR%₃ 木炭粒若干、骨片微量、ローム粒若干含む
- 第C層 暗褐色土 10YR%₃ 焼土粒若干、木炭多量、骨粉微量、ローム粒若干含む
- 第D層 褐色土 10YR% ローム粒、塊多量含む
- 第E層 褐色土 10YR% 木炭粒若干、ローム塊多量含む
- 第F層 褐色土 10YR% ローム粒多量含む
- 第G層 褐色土 10YR% 木炭粒微量、ローム粒若干含む
- 第H層 褐色土 10YR% ローム粒少量含む

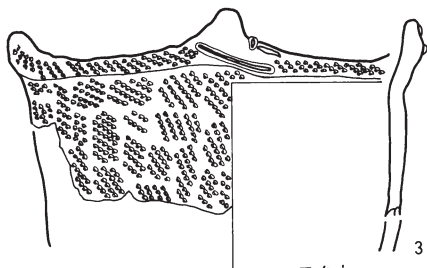
第659図 第285号住居跡(2)



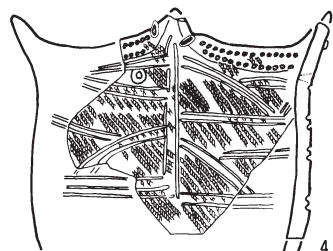
床面? (P-38)



フク土



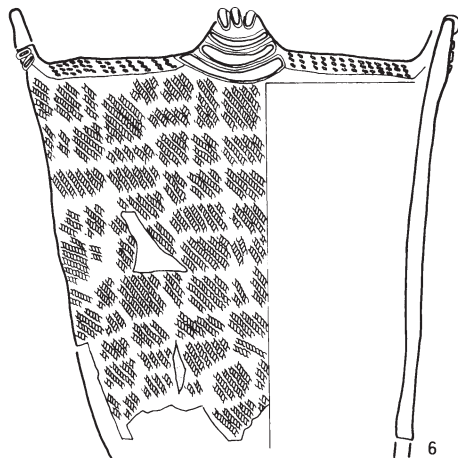
フク土



フク土



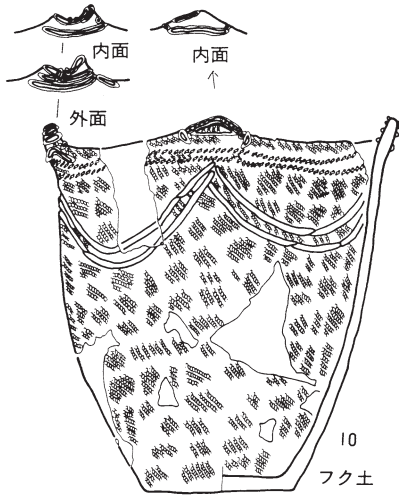
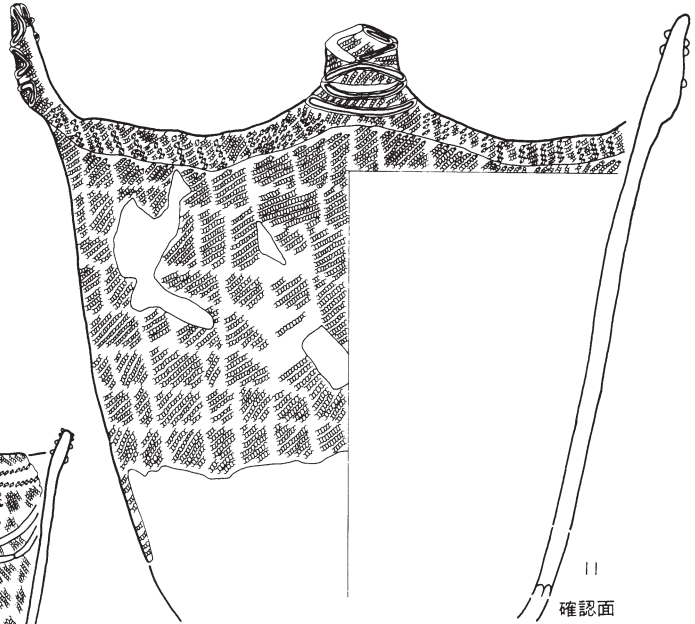
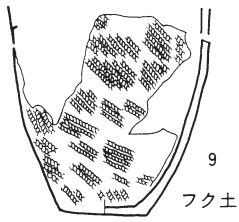
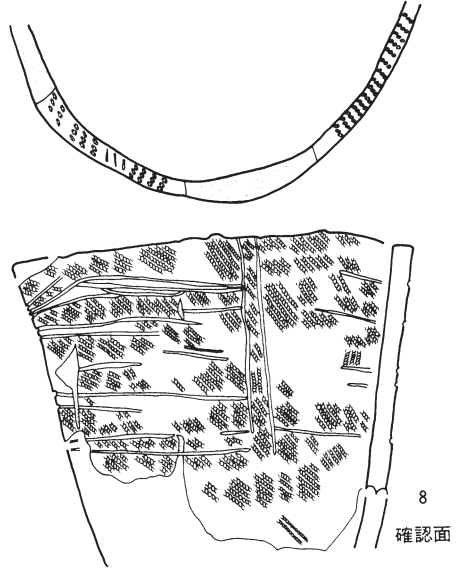
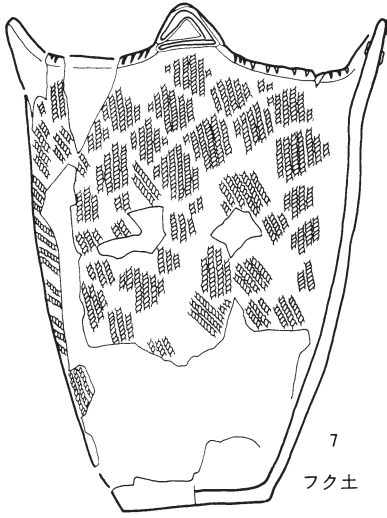
フク土



フク土



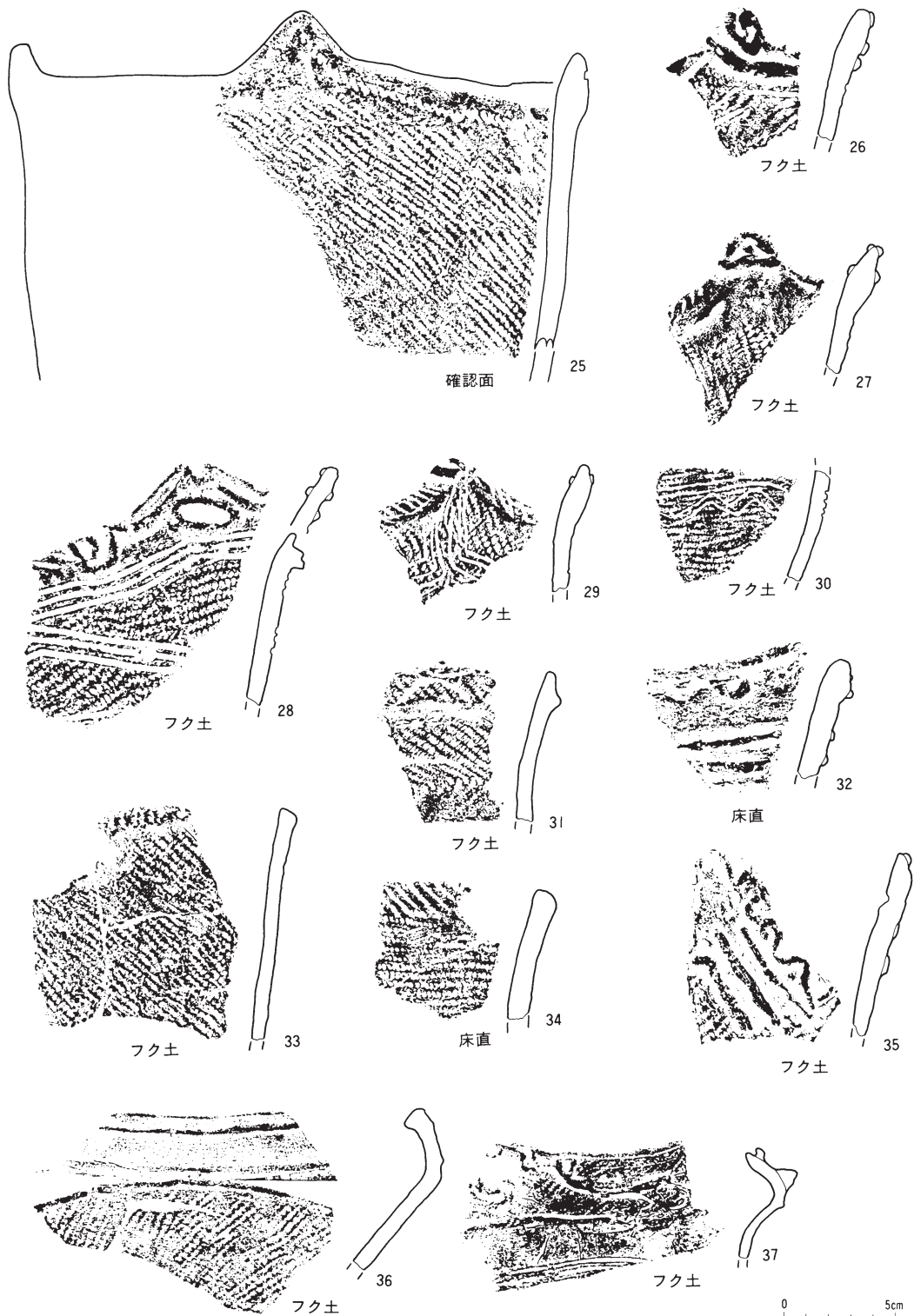
第660図 第285号住居跡(3)



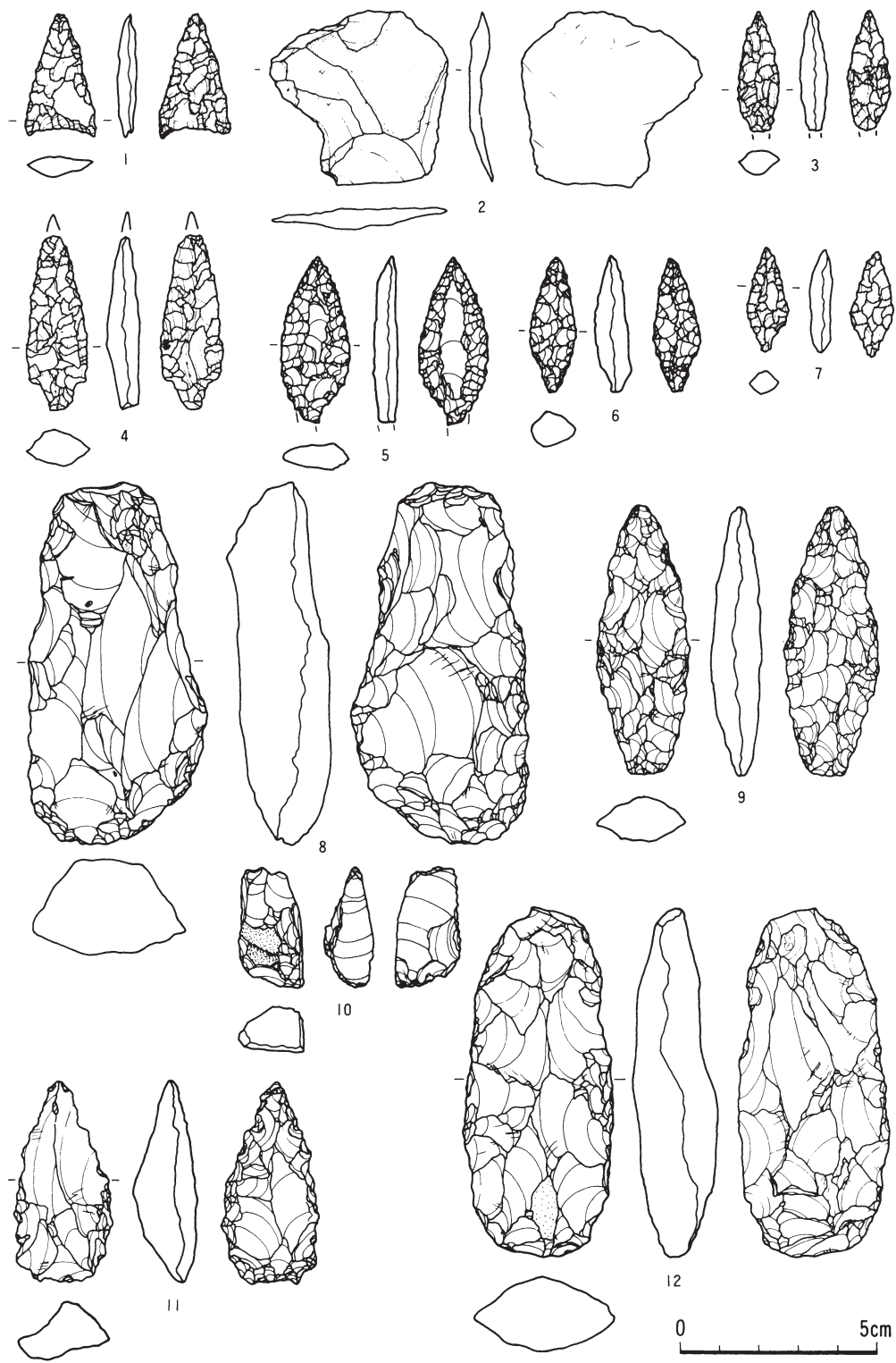
第661図 第285号住居跡(4)



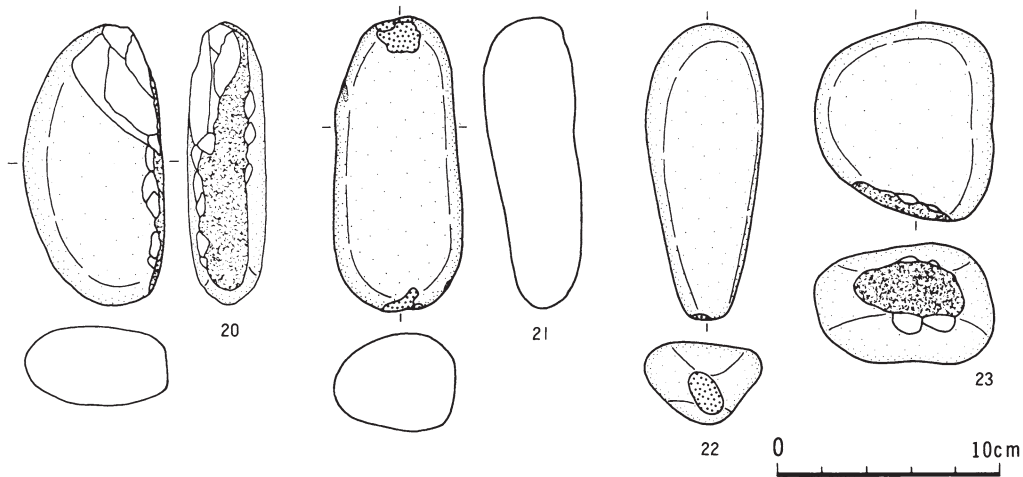
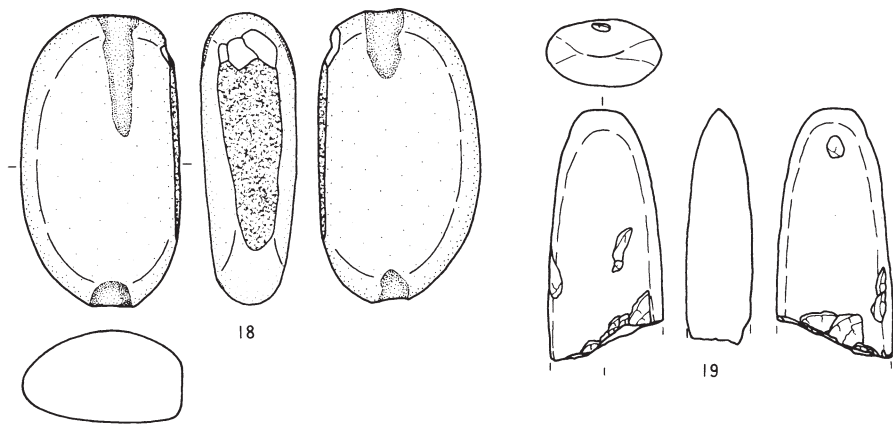
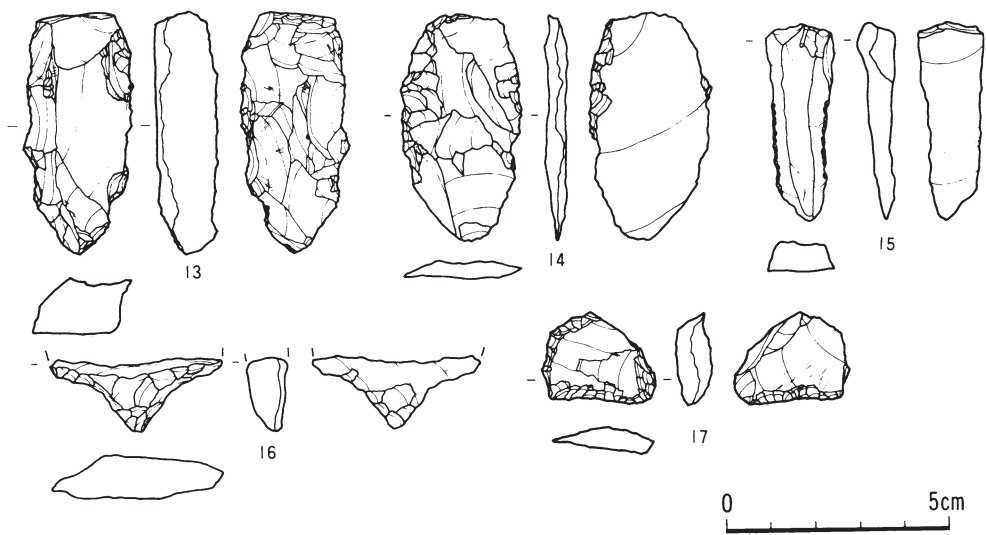
第662図 第285号住居跡(5)



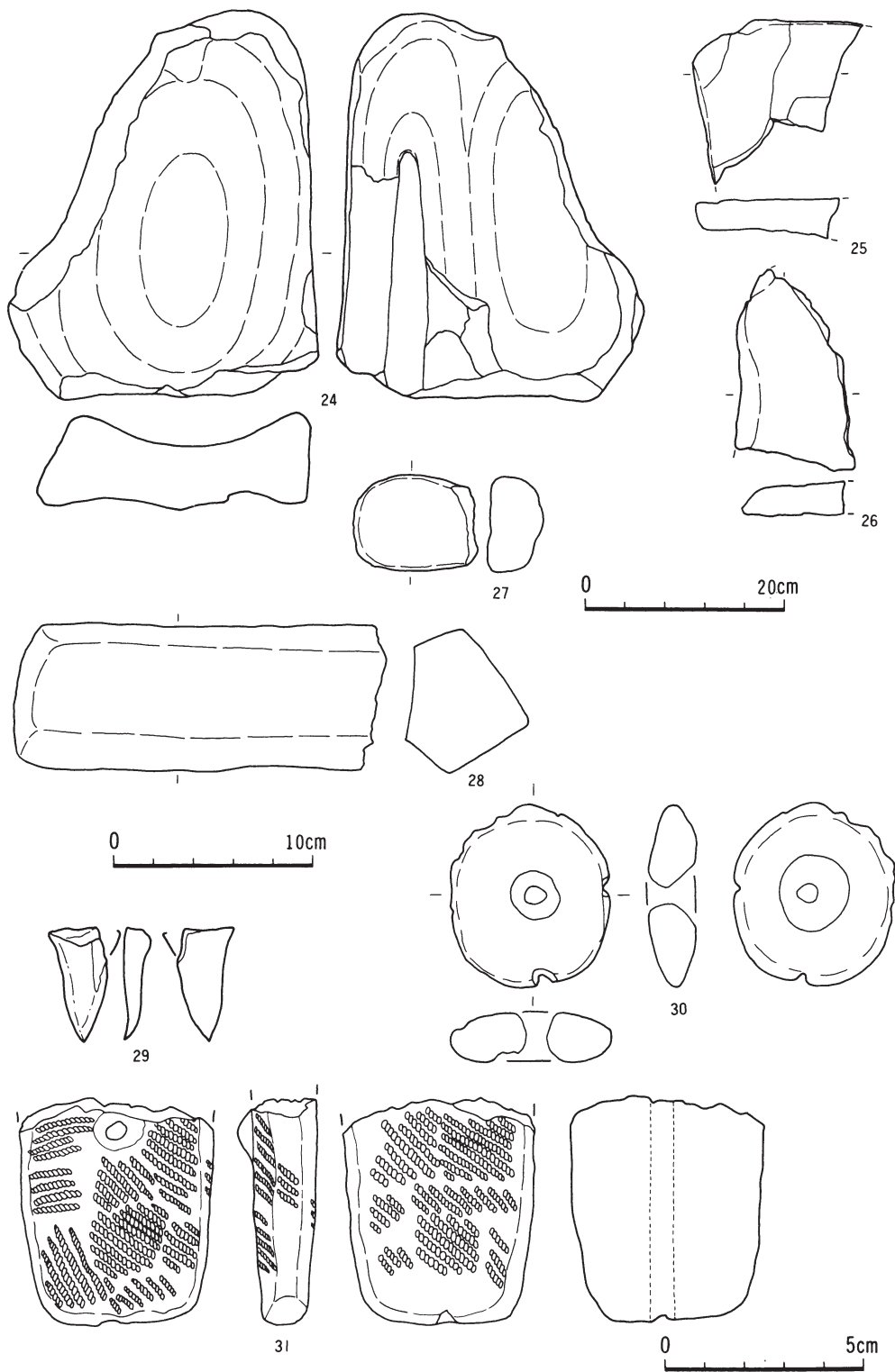
第663図 第285号住居跡(6)



第664图 第285号住居跡(7)



第665图 第285号住居跡(8)



第666图 第285号住居跡(9)

<小結> 本住居は、貼り床の下から、壁溝と地床炉を検出したことから、改築が行なわれたことが確かめられた。改築前と後とは平面形・規模の点で、それほど変化が認められない。また本住居跡は、住居跡の新旧関係からは第288号住居跡(円筒上層e式期かそれ以前)及び第298号住居跡(榎林式期)より古いことが確かめられている。したがって、本住居跡の時期は、円筒上層e式期かそれ以前に構築されたものと考えられる。(畠山 昇)

第286号住居跡 (第667・668図)

<位置と確認> CT-110・111グリッドの緩斜面上で、暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 第287号住居跡より新しい。

<平面形・規模> 全体のプランは不明であるが、検出した部分から、径2m70cm前後の不整形円形と思われる。

<壁・床面> 北壁は10cm前後の壁高で、掘り込みが浅い住居である。床面は平坦であるが、第III層を床面としており、やや踏み締まった床面と部分的にロームの貼り床を確認した。

<壁溝> 検出できなかった。

<柱穴> 検出できなかった。

<炉> 検出できなかった。

<特殊施設> 検出できなかった。

<堆積土> 1層のみ確認した。暗褐色土の堆積が見られた。

<出土遺物> 遺物は少量出土した。土器は数点出土した。石器は、床面から石鏃1点、覆土から石鏃1点、不定形石器1点が出土した。

<小結> 本住居の時期は不明であるが、住居跡の新旧関係から、円筒上層e式期か、それ以降に構築されたものと考えられる。(畠山 昇)

第287号住居跡 (第667・668図)

<位置と確認> CT・CU-110・111グリッドで、第286号住居跡の調査中に確認した。

<重複> 第286号住居跡より古い。

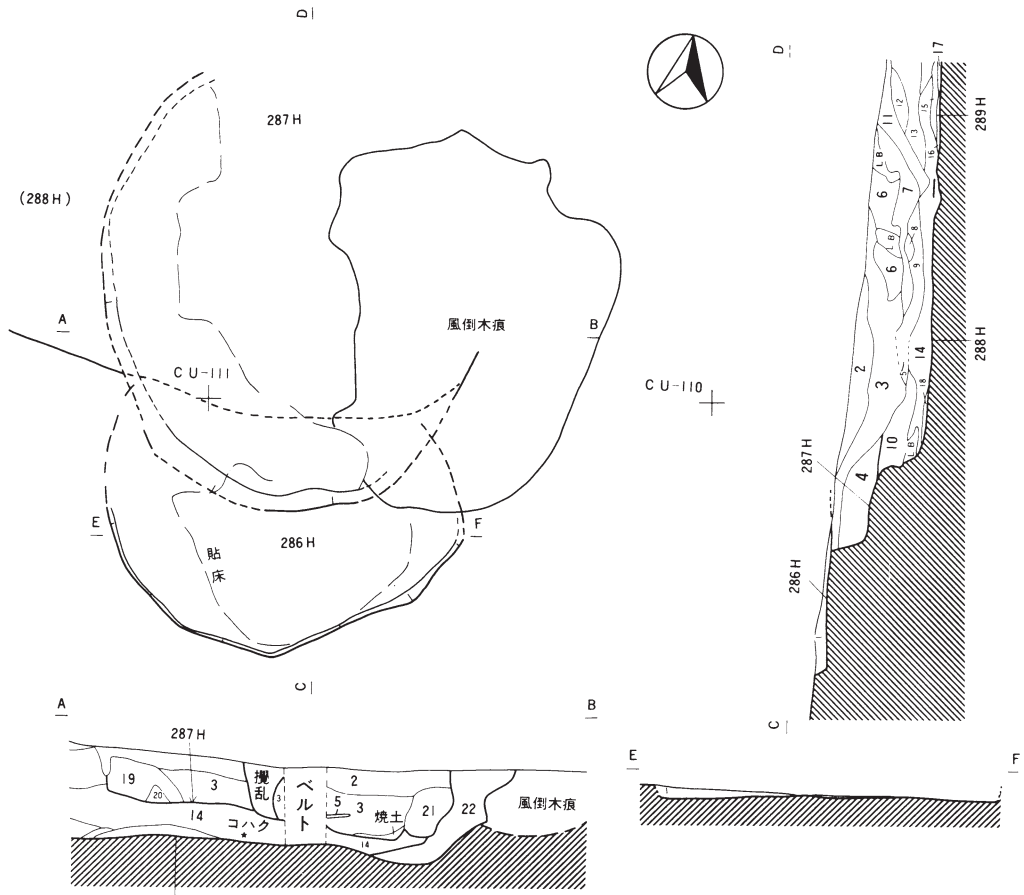
<平面形・規模> 平面形、規模とも不明である。

<壁・床面> 壁は北壁のみ確認し、30cm前後の壁高である(第286号床面から)。床面は平坦で、やや堅く踏み締まった床面と一部ロームの貼り床を確認した。

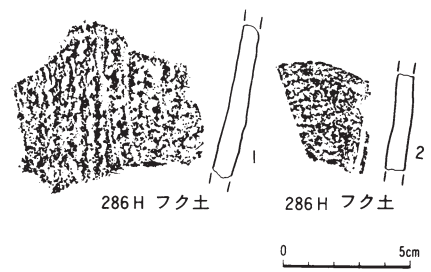
<壁溝> 検出できなかった。

<柱穴> 検出できなかった。

<炉> 検出できなかった。



- 第286号・287号住居土層注記
- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒若干含む
 - 第2層 暗褐色土 10Y R 3/3 ローム粒若干含む
 - 第3層 暗褐色土 10Y R 3/4 木炭粒少量、ローム粒少量含む
 - 第4層 暗褐色土 10Y R 3/3 木炭粒若干、ローム粒若干含む
 - 第5層 暗褐色土 10Y R 3/3 焼土多量、ローム粒少量含む
 - 第6層 暗褐色土 10Y R 3/4 シルト質ローム
 - 第7層 黒褐色土 10Y R 3/3 木炭少量、ローム少量含む
 - 第8層 褐色土 10Y R 4/4 ローム質
 - 第9層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒多量含む
 - 第10層 暗褐色土 10Y R 3/3 ローム粒多量含む
 - 第11層 暗褐色土 10Y R 3/3 木炭微量、ローム微量含む
 - 第12層 黒褐色土 10Y R 3/3 木炭微量、ローム微量含む
 - 第13層 黒褐色土 10Y R 3/3 ローム粒多量含む
 - 第14層 暗褐色土 10Y R 3/3 ローム粒多量含む
 - 第15層 褐色土 10Y R 4/4 ローム質
 - 第16層 褐色土 10Y R 6/6 ローム質
 - 第17層 黄褐色土 10Y R 6/6
 - 第18層 褐色土 10Y R 4/4 ローム質
 - 第19層 黒褐色土 10Y R 3/3 ローム少量含む
 - 第20層 黄褐色土 10Y R 6/6 ローム質
 - 第21層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒多量含む
 - 第22層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒多量含む

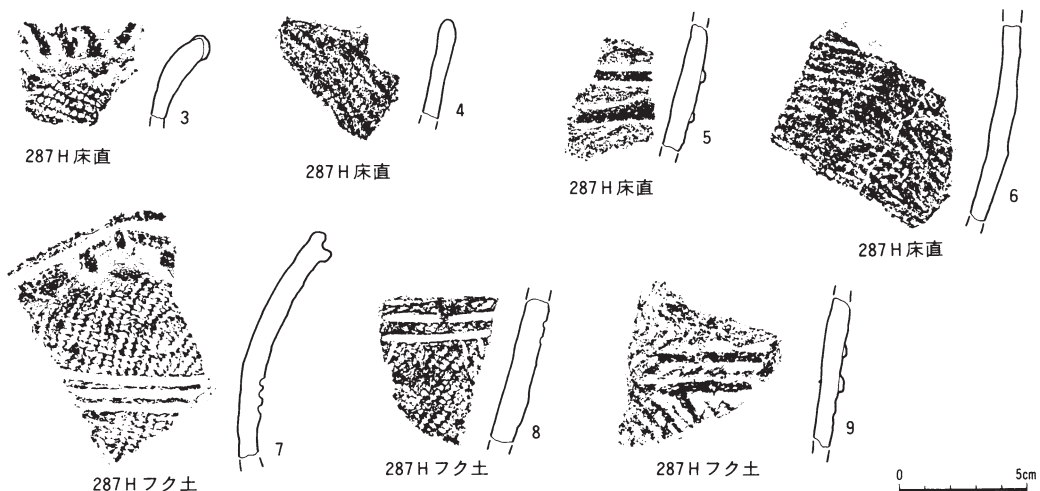


第667図 第286・287号住居跡(1)

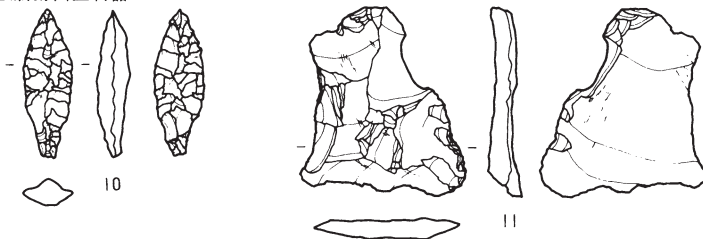
<特殊施設> 検出できなかったが、セクションに焼土が見られ、本住居跡に伴う可能性が高い。

<堆積土> 全般に暗褐色土を主体としている。11・12・22層は風倒木による攪乱によって、混入したと思われる。

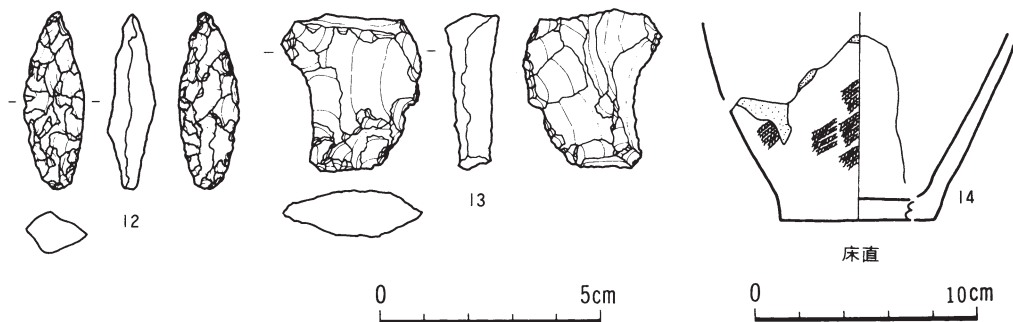
<出土遺物> 遺物は少量出土した。土器は数点出土しただけである。石器は、覆土から石鏃1点、不定形石器2点が出土した。



第286号住居跡出土石器



第287号住居跡出土遺物



第668図 第286・287号住居跡(2)

<小結> 本住居跡の時期は不明であるが、住居跡の新旧関係から、円筒上層e式期か、それ以降に構築されたものと考えられる。(畠山 昇)

第288号住居跡 (第669図～第676図)

<位置と確認> CU・CV-110～112グリッドで、多数の住居跡と重複している状態で確認した。

<重複> 第286・287・289・292・298号住居跡より古く、第285号住居より新しい。第456号住居跡・第555号土壙との新旧関係は不明である。

<平面形・規模> 北西から南東に長軸を持つ隅丸長方形である。推定規模は短軸4m40cm、長軸9m70cm(床面での計測)である。推定床面積は46.3㎡である。

<壁・床面> 南壁のみ確認した。壁高は20～35cm前後である。床面は平坦で、堅緻である。

<壁溝> 南壁と北壁から西壁の一部で幅5～17cm、深さ2～5cm前後の壁溝を検出した。西側では、部分的に3条、また北西側は蛇行して検出されたことから、他の住居跡との重複あるいは建て替え等が考えられたが、確認できなかった。

<柱穴> 大小110個のピットを検出した。このうち柱穴と考えられるのは、P₂・P₃・P₄・P₅・P₆・P₈で6本柱の配置である。主なピットの深さは以下のとおりである。

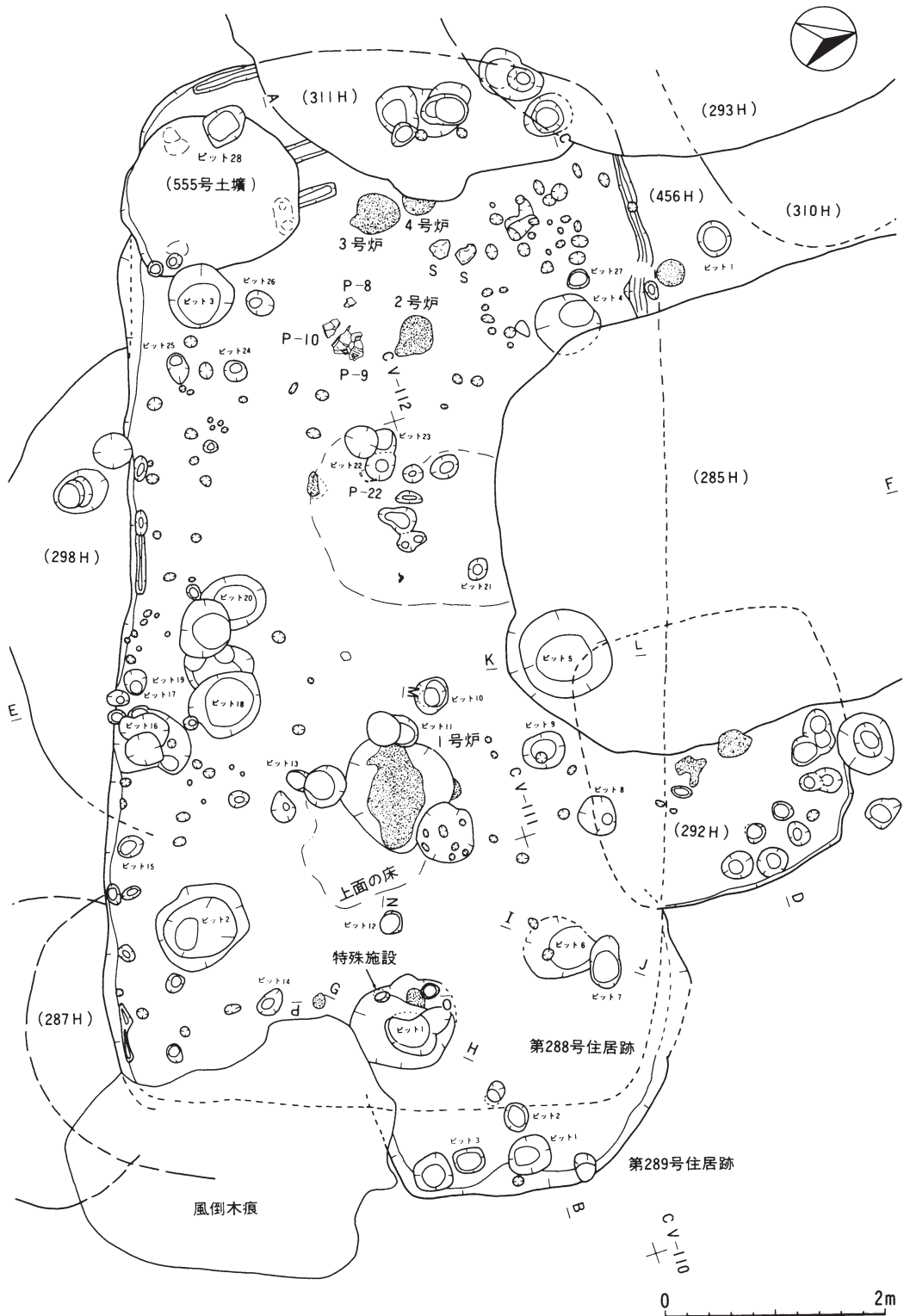
P₁…63cm、P₂…95cm、P₃…86cm、P₄…88cm、P₅…78cm、P₆…72cm、P₇…40cm、P₈…110cm、P₉…29cm、P₁₀…55cm、P₁₁…27cm、P₁₂…23cm、P₁₃…30cm、P₁₄…30cm、P₁₅…39cm、P₁₆…39cm、P₁₇…20cm、P₁₈…32cm、P₁₉…56cm、P₂₀…20cm、P₂₁…25cm、P₂₂…52cm、P₂₃…58cm、P₂₄…24cm、P₂₅…22cm、P₂₆…22cm、P₂₇…29cm、P₂₈…77cm。

<炉> 住居跡の長軸線上で地床炉を4基検出した。東から1号～4号炉とした。1号炉は径1mの円形で中央が若干くぼんでいる。2～4号炉は30～40cm前後の不整形円で、床面をそのまま使用したものである。

<特殊施設> 東壁寄りで検出したピット(P₁)が特殊施設に伴うピットと考えられる。このピットの南と北に径15cm、深さ30cm前後の小ピットを2個検出した。ロームの盛土が貼り巡らされていなかったが、第289号住居跡の構築に伴い、壊されたものと考えられる。

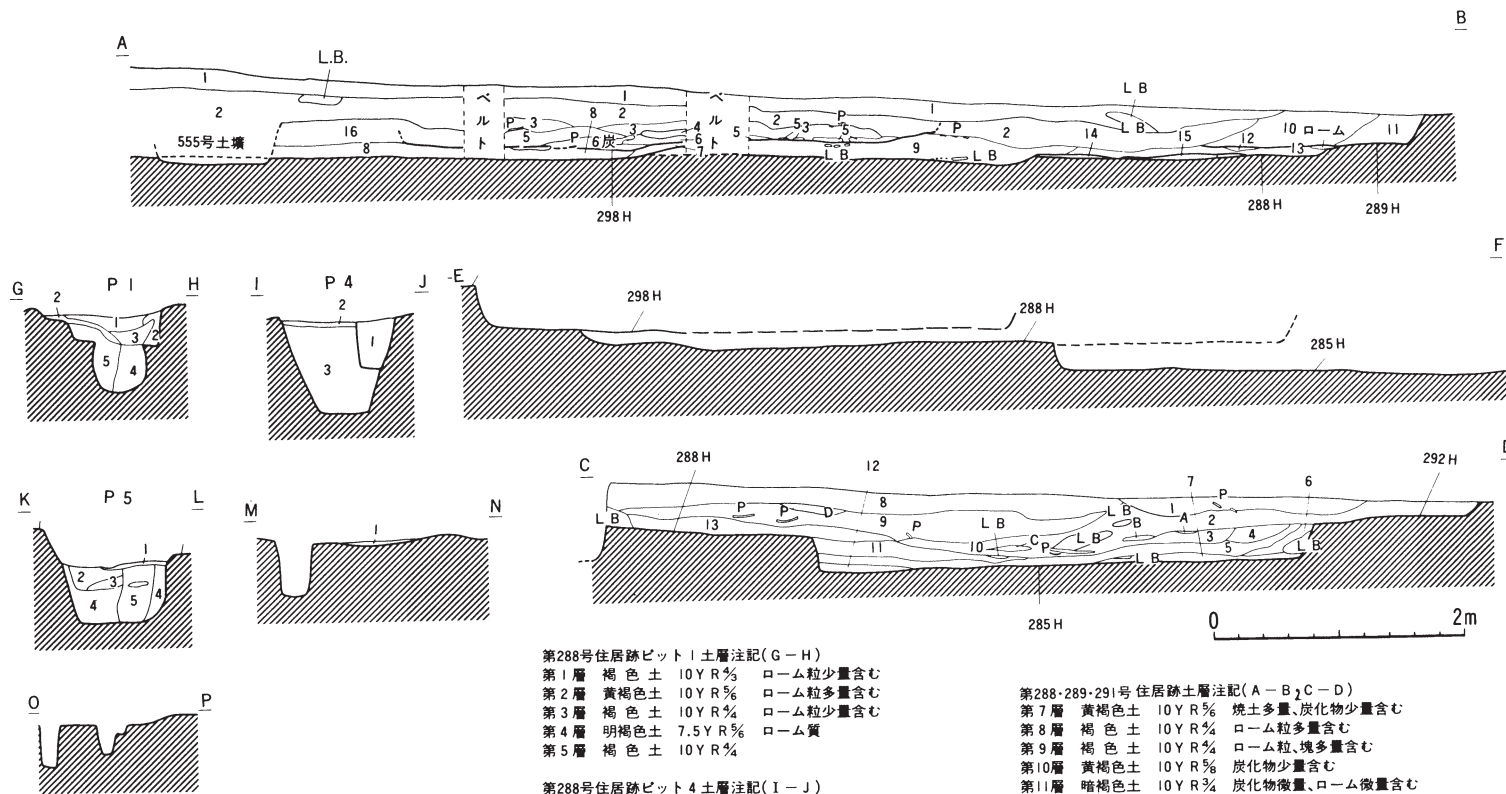
<堆積土> 周辺を第278・292・298号跡に切られているため、全体の様子は不明であるが、全般にローム粒及び炭化物を含んだ暗褐色～褐色土の堆積が見られた。

<出土遺物> 床面・床面直上からは円筒上層e式土器が出土したが、これらの土器の多くは、第285・289・292号住居跡と重複している地域からのものが多く、また出土したレベルも大差ないことから、本住居跡に伴うものか、疑問である。とくに第671図1は第285号住居跡との重複部分から出土したもので、明確に本住居跡の床面と把握できた地点からのものでない。



第669図 第288・289号住居跡(1)

第670図 第288・289号住居跡(2)



第288号住居跡炉土層注記(M-N)
 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4
 焼土多量、骨片少量含む

第288号住居跡ビット1土層注記(G-H)

- 第1層 褐色土 10Y R 5/6 ローム粒少量含む
- 第2層 黄褐色土 10Y R 5/6 ローム粒多量含む
- 第3層 褐色土 10Y R 4/6 ローム粒少量含む
- 第4層 明褐色土 7.5Y R 5/6 ローム質
- 第5層 褐色土 10Y R 4/6

第288号住居跡ビット4土層注記(I-J)

- 第1層 黒褐色土 10Y R 3/6 炭化物若干、ローム若干含む
- 第2層 黄褐色土 10Y R 5/6 ローム質
- 第3層 黄褐色土 10Y R 5/6 ローム主体

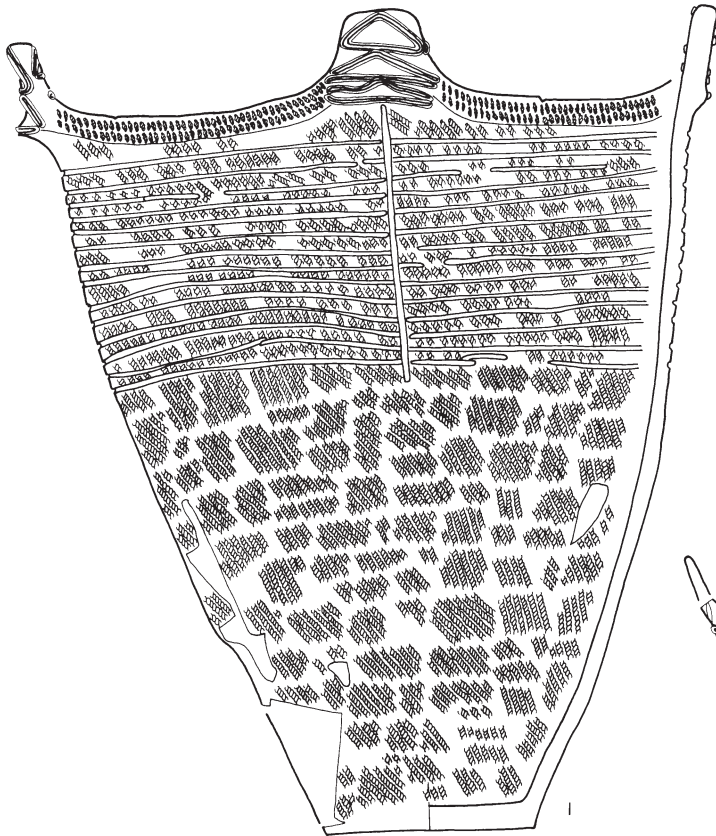
第288号住居跡ビット5土層注記(K-L)

- 第1層 黄褐色土 10Y R 5/6
- 第2層 褐色土 7.5Y R 5/6 ローム粒少量含む
- 第3層 暗褐色土 7.5Y R 3/6
- 第4層 黄褐色土 10Y R 5/6
- 第5層 暗褐色土 7.5Y R 3/6 炭化物微量、ローム粒微量含む

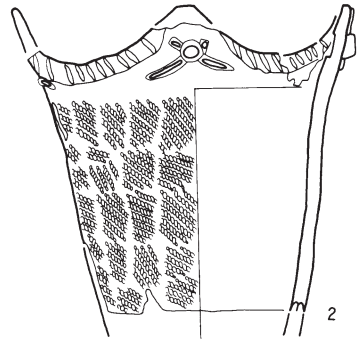
第288・289号住居跡土層注記(A-B, C-D)

- 第7層 黄褐色土 10Y R 5/6 焼土多量、炭化物少量含む
- 第8層 褐色土 10Y R 4/6 ローム粒多量含む
- 第9層 褐色土 10Y R 4/6 ローム粒、塊多量含む
- 第10層 黄褐色土 10Y R 5/6 炭化物少量含む
- 第11層 暗褐色土 10Y R 3/6 炭化物微量、ローム微量含む
- 第12層 暗褐色土 10Y R 3/6 ローム微量含む
- 第13層 暗褐色土 10Y R 3/6 ローム少量含む
- 第14層 褐色土 10Y R 4/6 ローム粒少量含む
- 第15層 黄褐色土 10Y R 5/6
- 第16層 黒褐色土 10Y R 3/6 炭化物微量、ローム粒微量含む
- 第A層 褐色土 10Y R 4/6
- 第B層 褐色土 10Y R 4/6
- 第C層 暗褐色土 10Y R 3/6
- 第D層 暗褐色土 10Y R 3/6

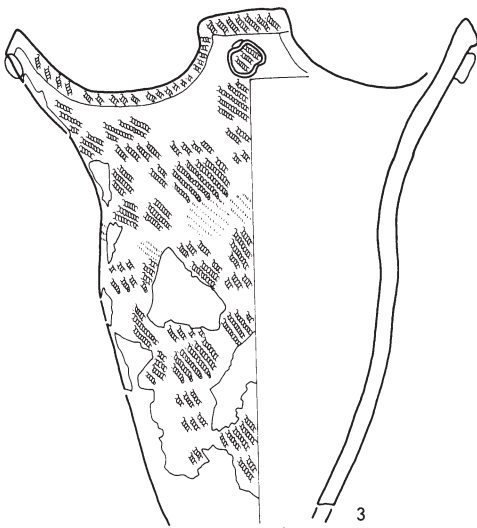
(第1～6層は、第288号住居跡堆積土のため割愛した。)



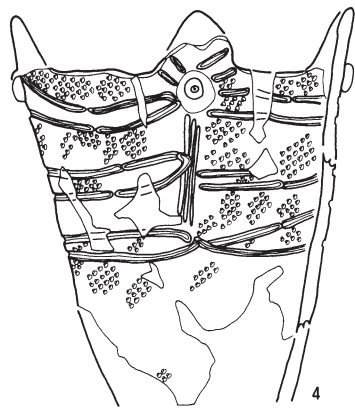
床面



フク土



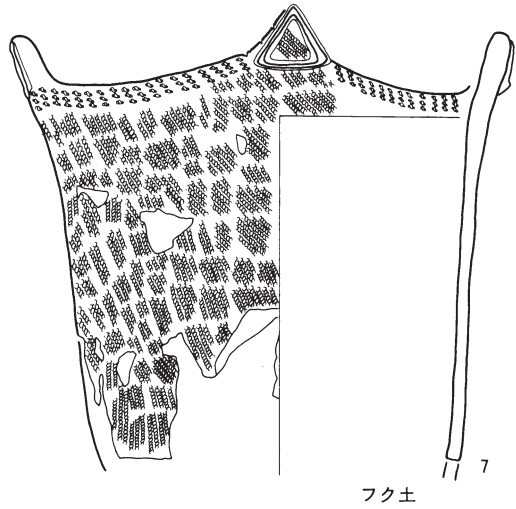
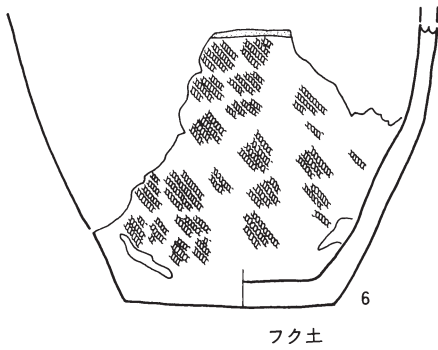
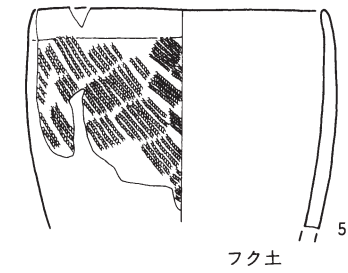
床面



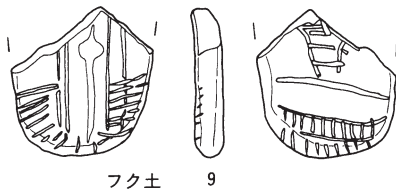
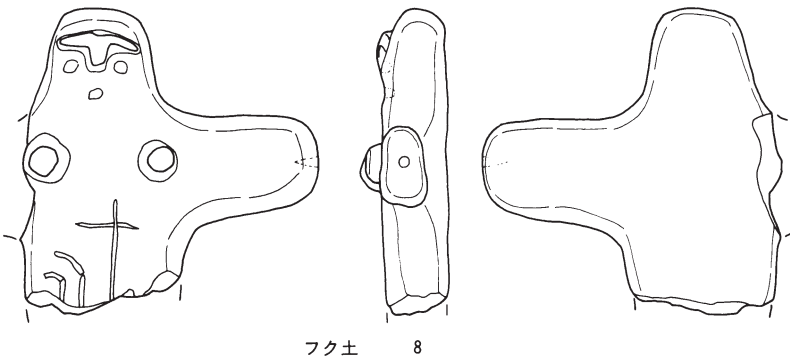
床面



第671図 第288号住居跡(3)

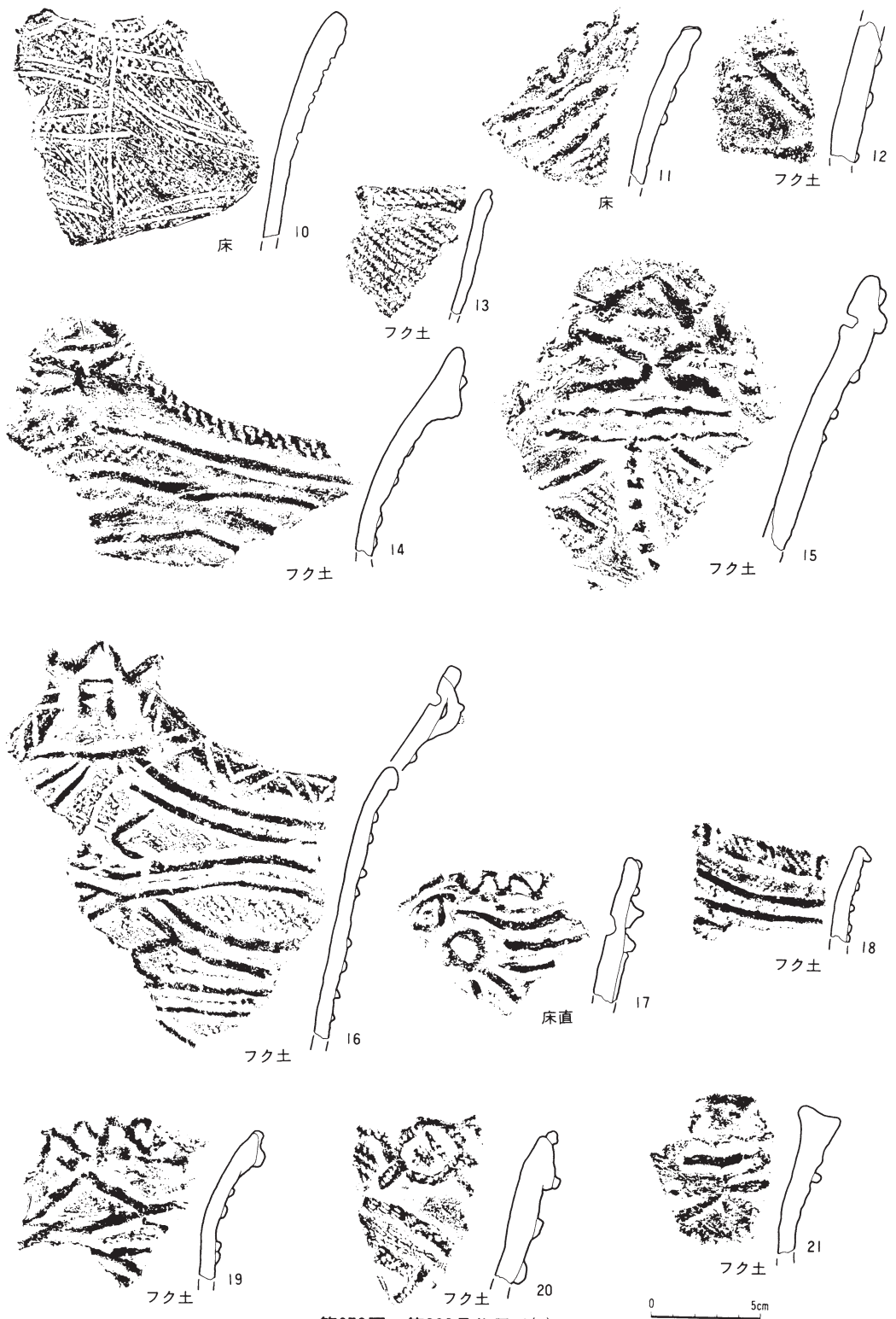


0 10cm

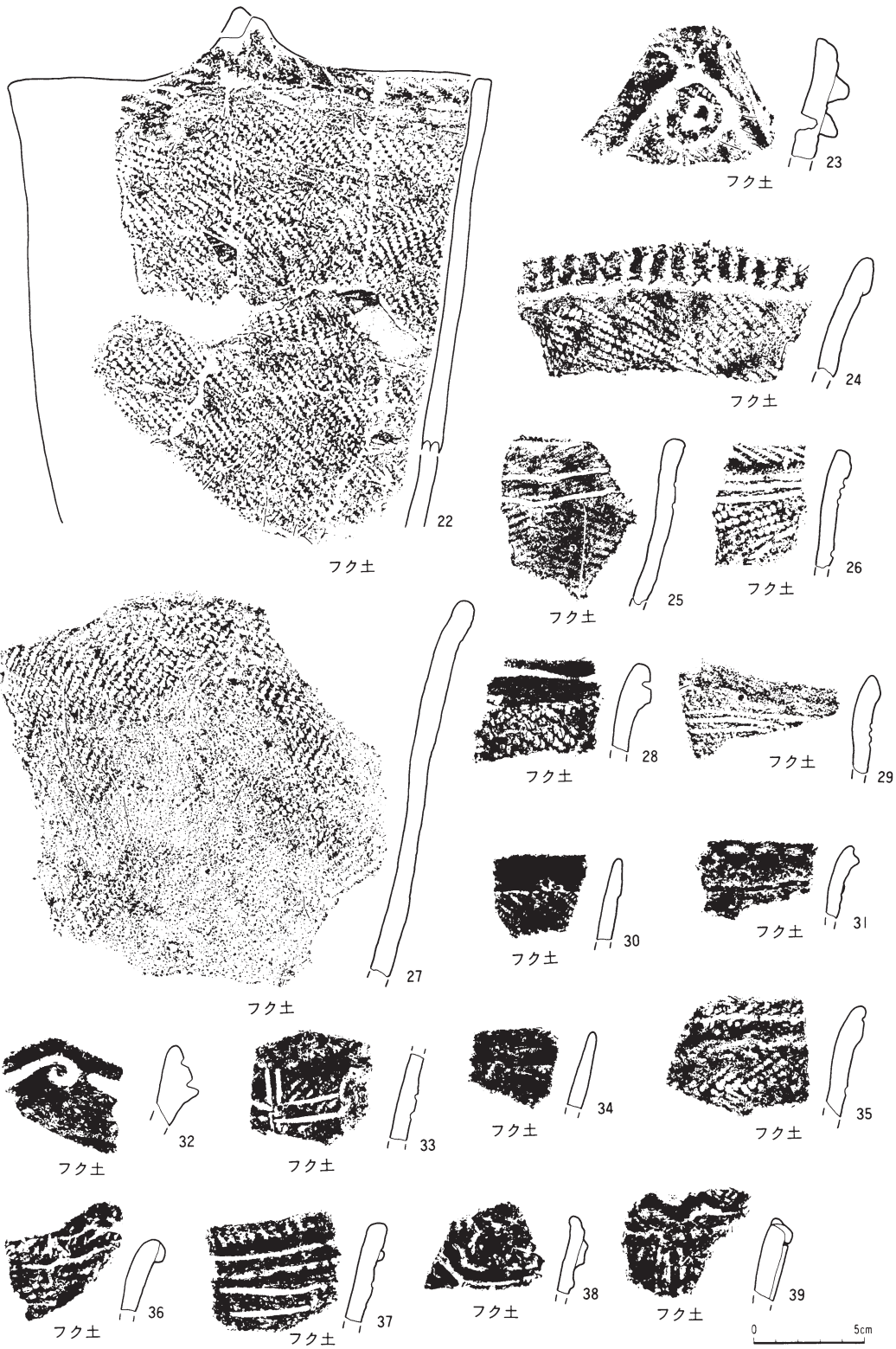


0 5cm

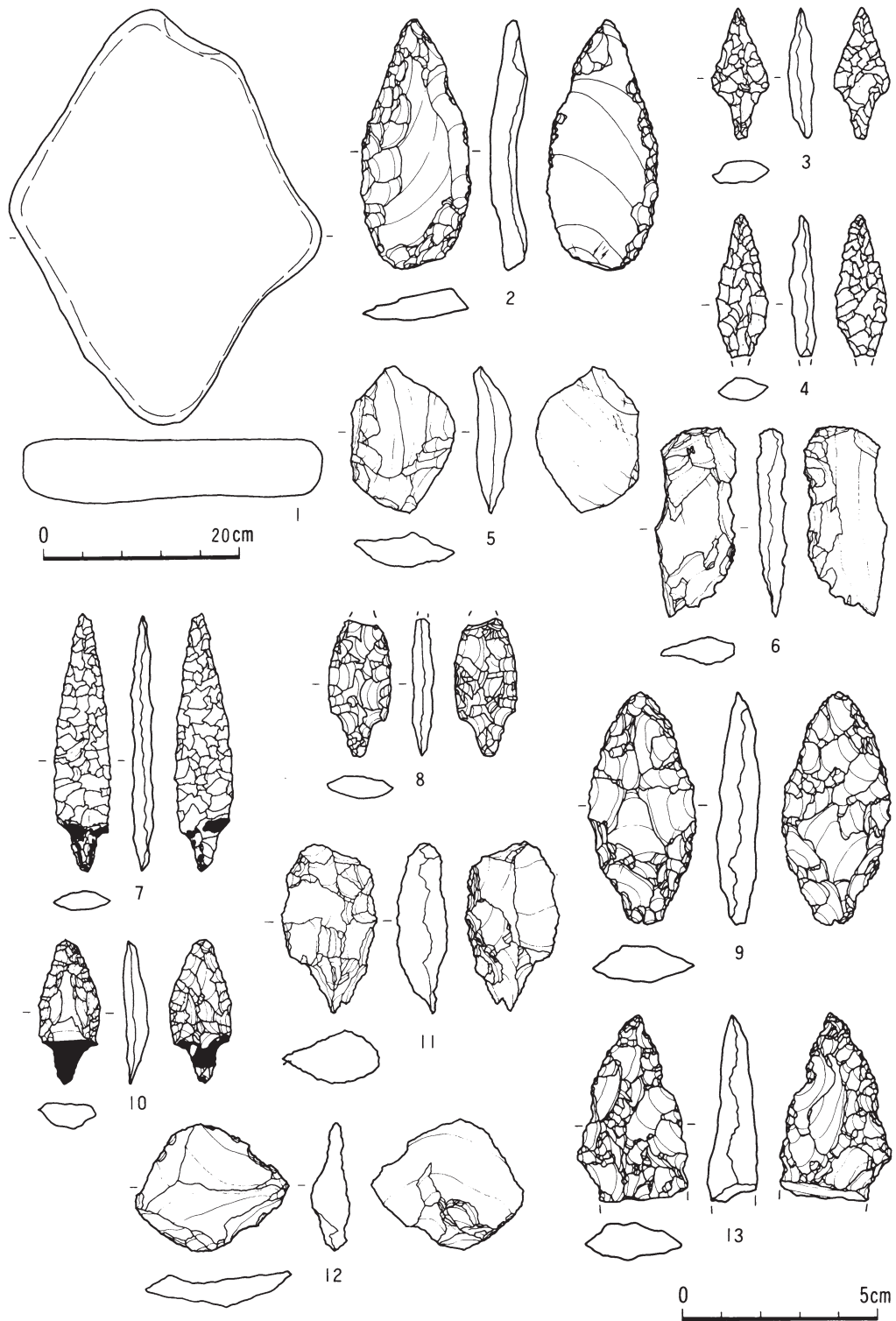
第672図 第288号住居跡(4)



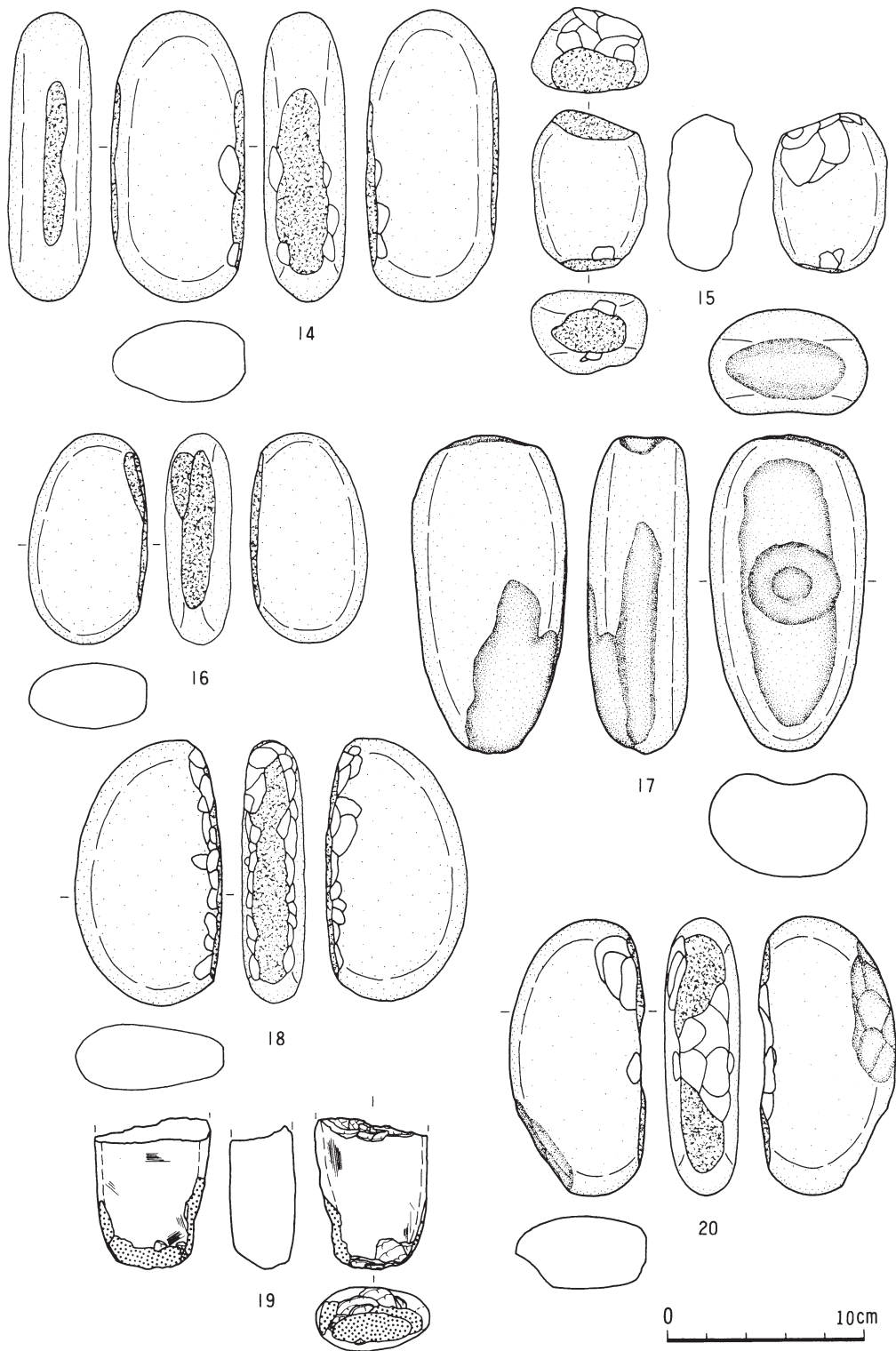
第673図 第288号住居跡(5)



第674図 第288号住居跡(6)



第675图 第288号住居跡(7)



第676图 第288号住居跡(8)

石器は、床面から石鏃1点、石槍1点、不定形石器1点、敲磨器類2点、床面直上から石鏃1点、不定形石器1点、敲磨器類1点、石皿1点、覆土から石鏃8点、石槍3点、不定形石器11点、磨製石斧1点、敲磨器類3点が出土し、総数35点である。また覆土から土偶2点が出土した。

〈小結〉 本住居跡の時期は、前述した理由から、床面から出土した土器がそのまま住居跡の時期とできない。住居跡の新旧関係からは、本住居は第289号住居跡(円筒上層e式期)、第298号住居跡(円筒上層e式期)より古いことが確かめられている。したがって、本住居跡の時期は円筒上層e式期かそれ以前に構築されたものと考えられる。(畠山 昇)

第289号住居跡(第669図、第677図～第679図)

〈位置と確認〉 CU・CV-110グリッドに位置している。暗褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 第292号住居跡より古く、第288号住居より新しい。また南側は風倒木によって攪乱を受けている。

〈平面形・規模〉 平面形、規模とも不明であるが、残存部分から、平面形は隅丸方形か楕円形と思われる。

〈壁・床面〉 東側のみ確認した。壁高は10cm前後である。床面は平坦で、堅緻である。

〈壁溝〉 検出できなかった。

〈柱穴〉 他の住居跡と重複していない部分で5個のピットを検出した。重複部分にも本住居跡に伴うものがあると思われるが、どのピットと組み合わせるのか不明である。主なピットの深さは、P₁…73cm、P₂…39cm、P₃…6cmである。

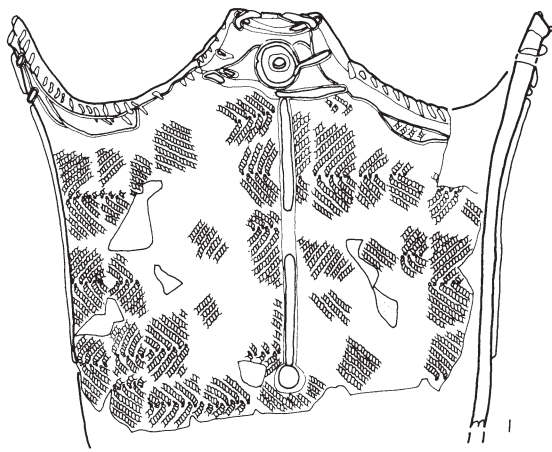
〈炉〉 不明である。

〈特殊施設〉 不明である。

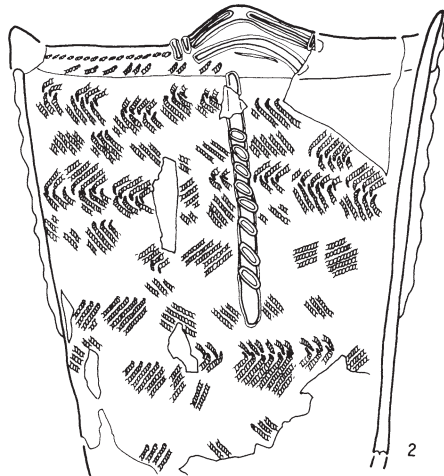
〈堆積土〉 重複が激しく、全体の様子は不明であるが、全般にローム粒・炭化物含んだ暗褐色土と黄褐色土の堆積が見られた。

〈出土遺物〉 覆土から床面にかけて円筒上層d・e式土器が出土したが、掘り込みが浅い住居跡であるため、床面出土土器が、本住居跡に伴うとは、断言できない。石器は、床面から敲磨器類2点、床面直上から不定形石器1点、覆土から石鏃4点、石槍1点、不定形石器21点、敲磨器類2点、石皿1点が出土し、総数32点である。また覆土から有孔石製品2点が出土した。

〈小結〉 本住居跡の時期は、円筒上層d・e式土器が床面・床面直上から出土しているが、住居跡の新旧関係から、円筒上層e式期に構築されたものと考えられる。(畠山 昇)



フク土 P-7

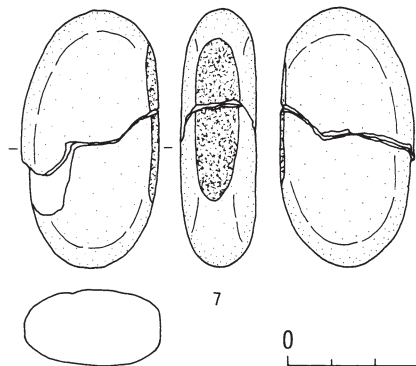
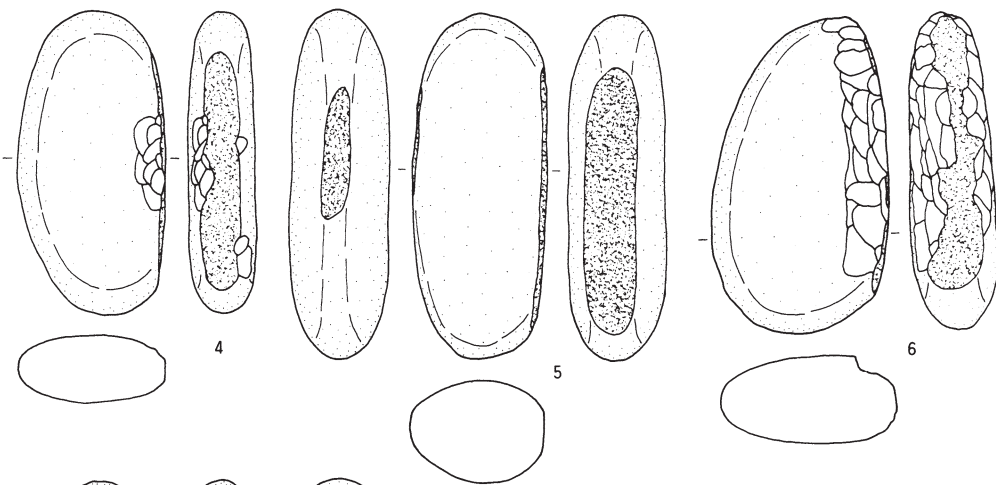


フク土 P-8



フク土

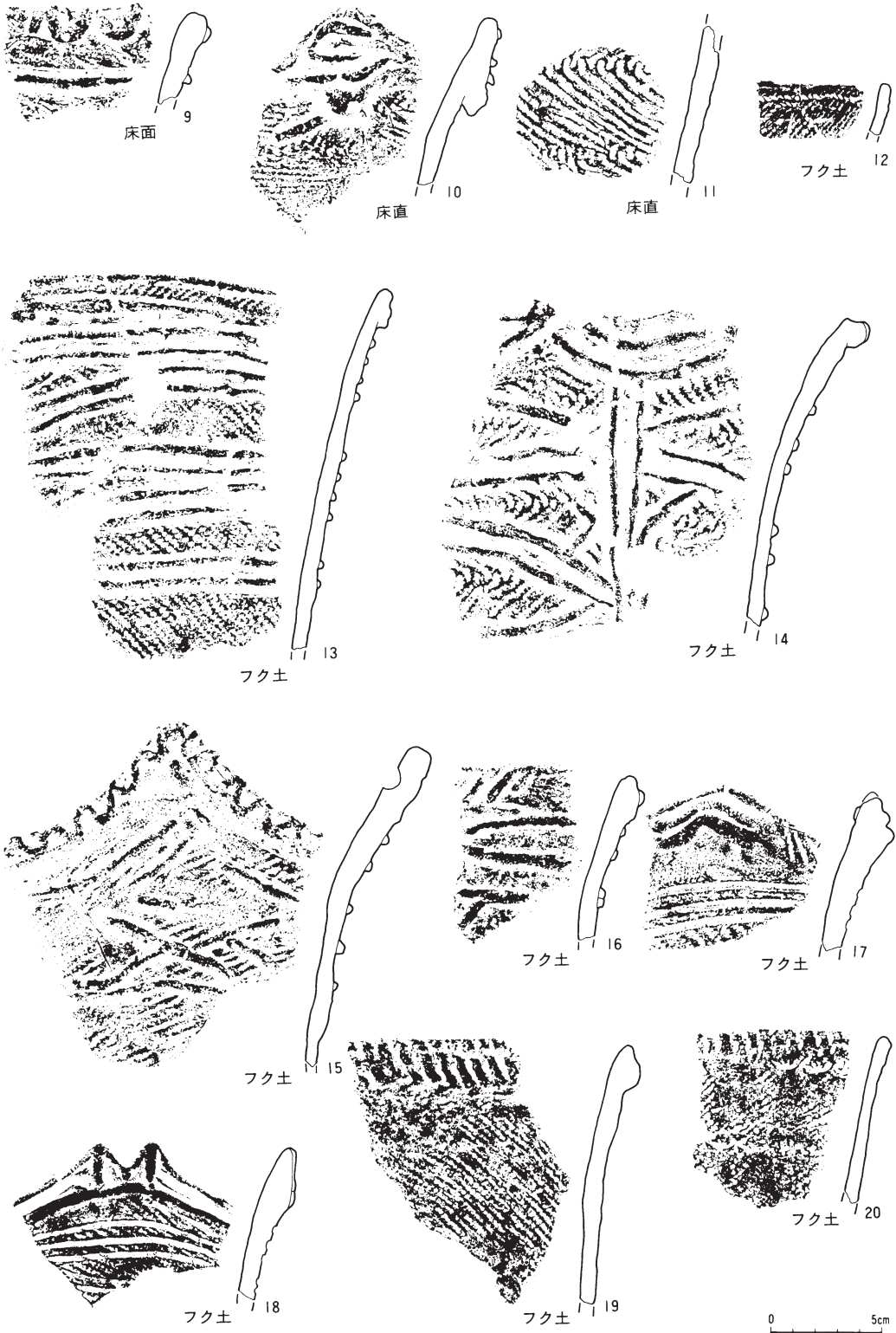
0 10cm



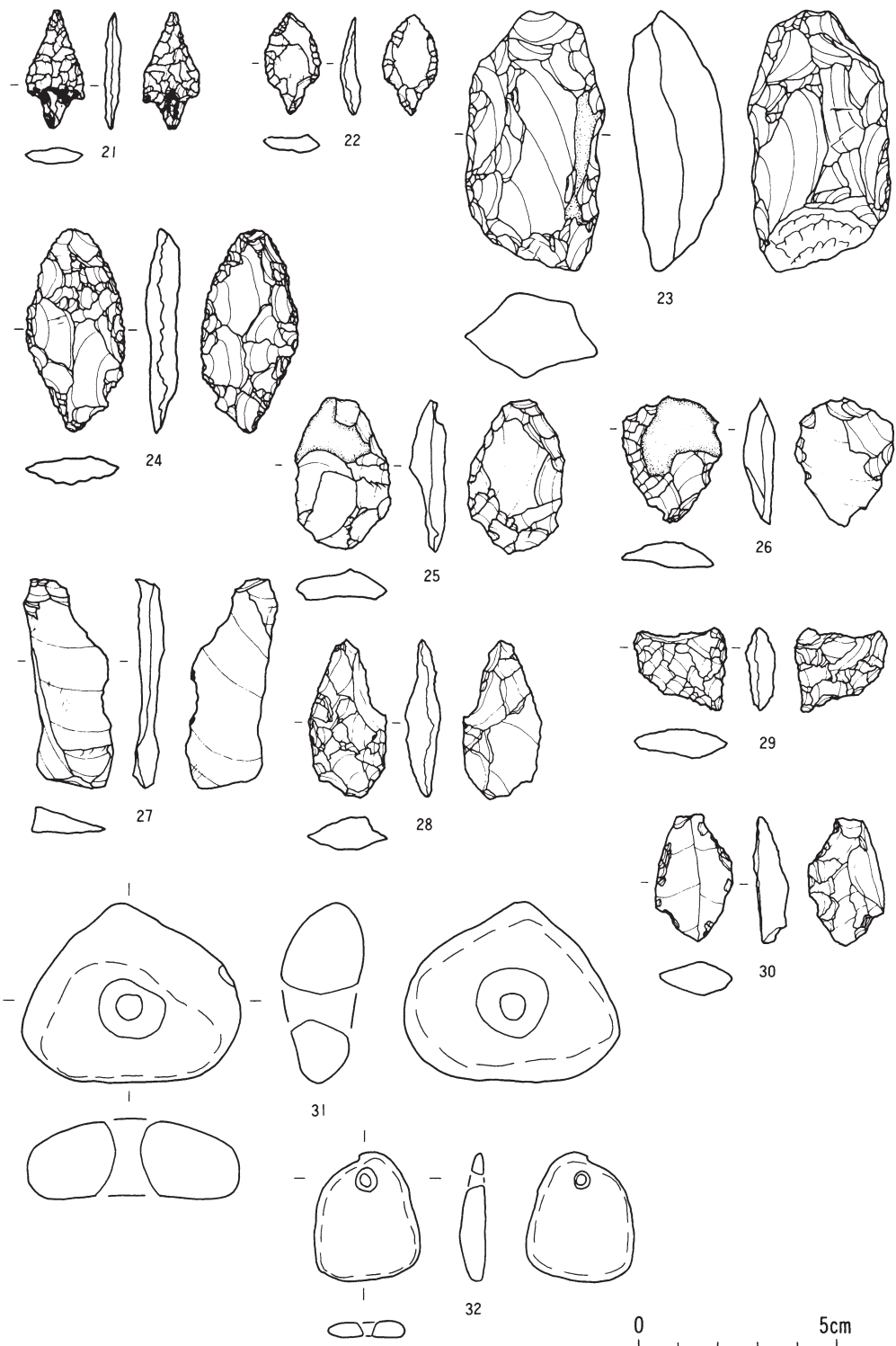
0 10cm

0 20cm

第677図 第289号住居跡(1)



第678図 第289号住居跡(2)



第679图 第289号住居跡(3)

第292号住居跡（第680図）

<位置と確認> CV-110・111グリッドに位置している。暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 第285・288・289号住居跡より新しい。

<平面形・規模> 掘り込みが浅いため不明な点もあるが、確認した部分及びセクションから、短軸・長軸とも約2m50cmの隅丸方形と思われる。

<壁・床面> 東側のみ確認した。壁高は8cm前後である。床面は平坦で、堅緻である。

<壁溝> 検出できなかった。

<柱穴> 確認した部分では11個のピットを検出したが、どのピットが組み合うのか不明である。主なピットの深さは、以下のとおりである。

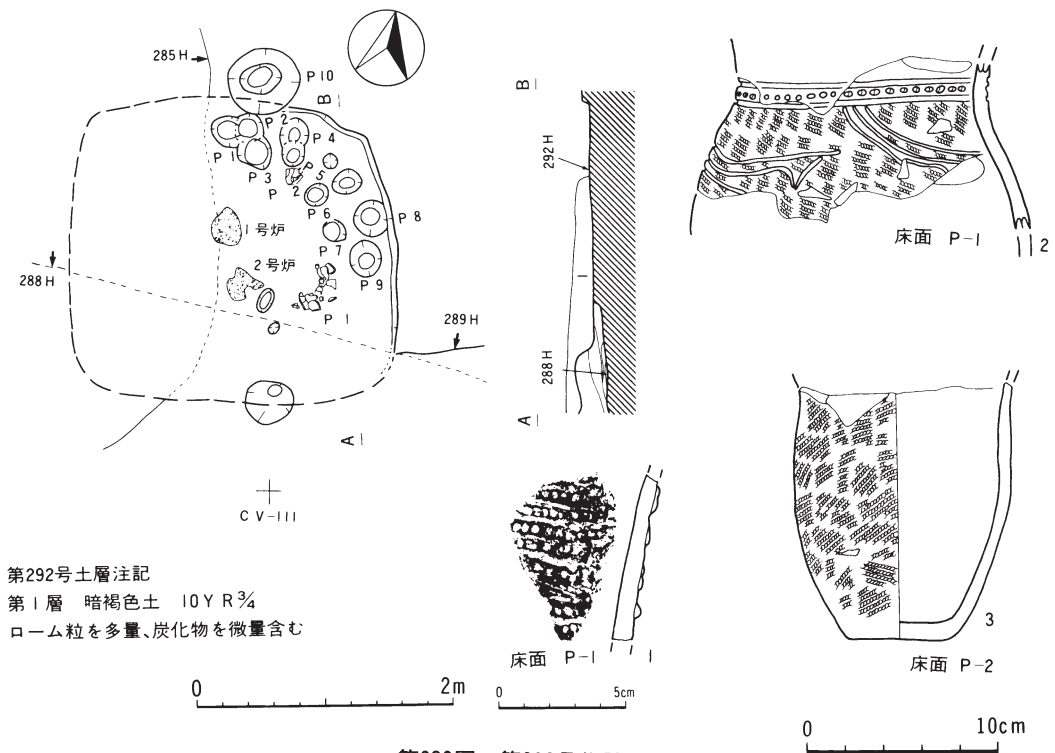
P₁…32cm、P₂…36cm、P₃…35cm、P₄…19cm、P₅…35cm、P₆…50cm、P₇…51cm、P₈…20cm、P₉…19cm、P₁₀…54cm。

<炉> 地床炉を2基検出した。1号炉は径25～30cmの不整楕円形で、第285号住居跡との重複部分に広がっていた。

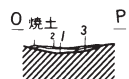
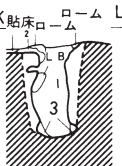
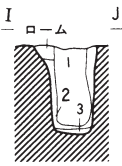
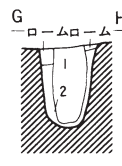
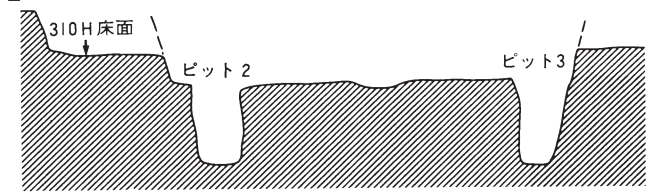
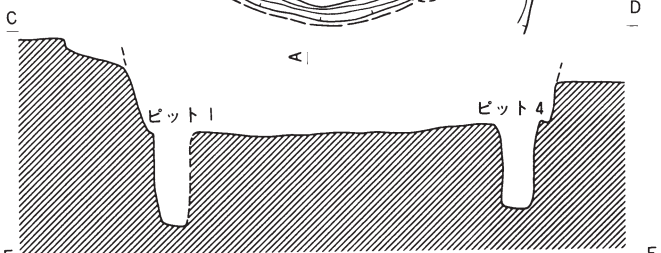
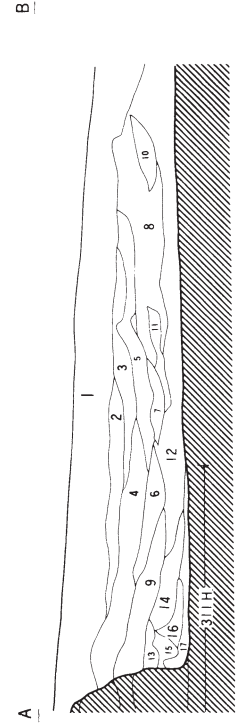
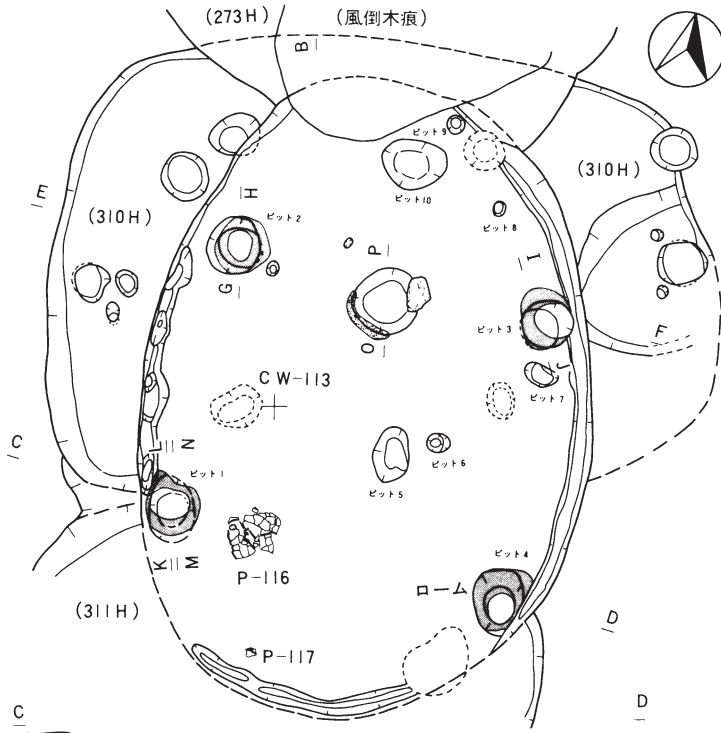
<特殊施設> 検出できなかった。

<堆積土> 1層だけ確認した。ローム粒を含んだ暗褐色土の堆積が見られた。

<出土遺物> 床面・床面直上からは小型の深鉢土器（P-1・2、第680図1・2）が出土し



第680図 第292号住居跡



炉土層注記
 第1層 褐色土 10Y R %
 第2層 暗褐色土 10Y R % 炭化物多量、骨片含む
 第3層 褐色土 10Y R % 焼土を多量に含む

第293号住居跡土層注記
 第1層 暗褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第2層 黄褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第3層 褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第4層 褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第4層 黄褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第6層 褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第7層 黒褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第8層 褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第9層 暗褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第10層 黄褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第11層 褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第12層 黒褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第13層 黒褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第14層 暗褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第15層 黄褐色土 10Y R %
 第16層 黒褐色土 10Y R % 炭化物含む
 第17層 明褐色土 10Y R %

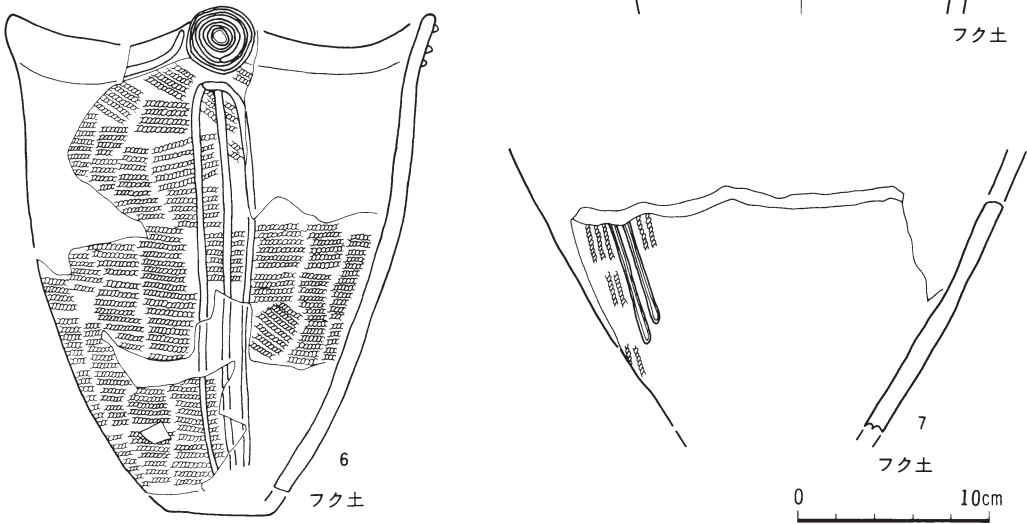
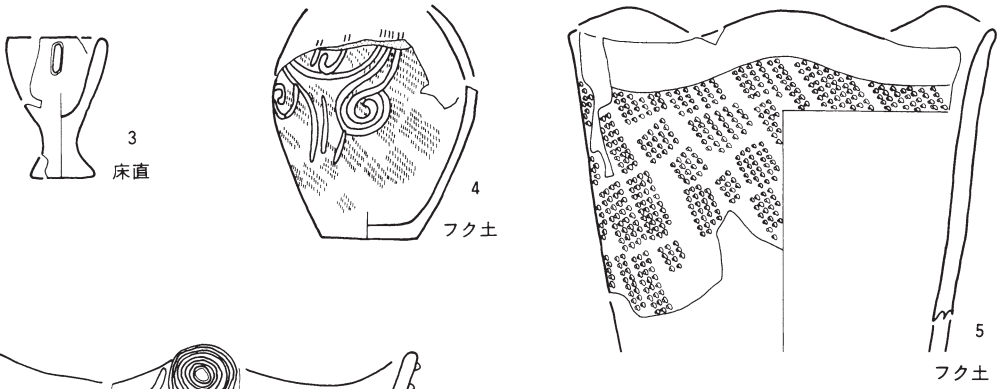
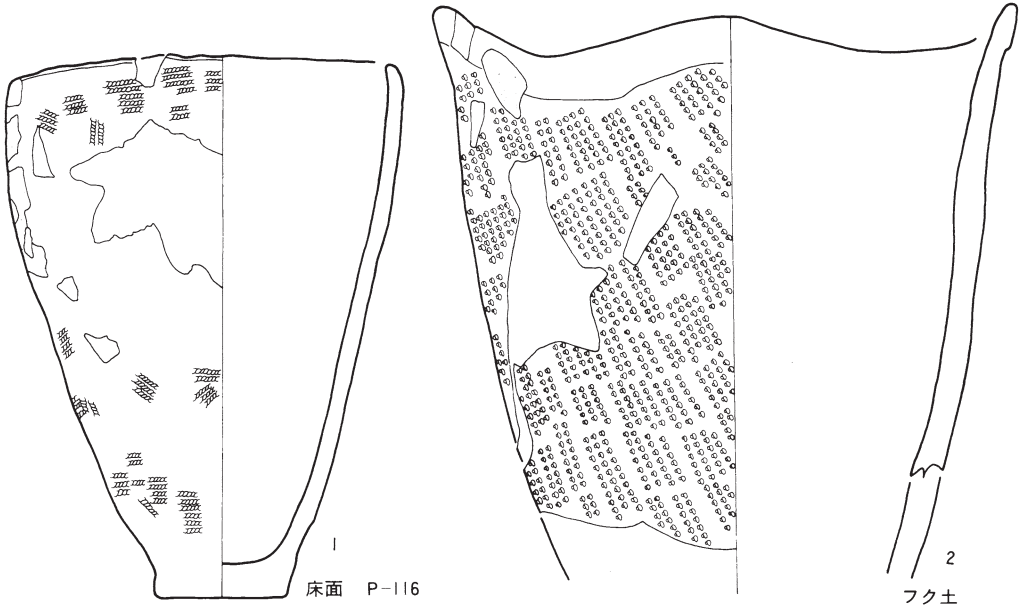
ピット1土層注記
 第1層 暗褐色土 10Y R %
 第2層 褐色土 10Y R %
 第3層 褐色土 10Y R %
 第4層 黄褐色土 10Y R %

ピット2土層注記
 第1層 暗褐色土 10Y R %
 第2層 黄褐色土 10Y R %

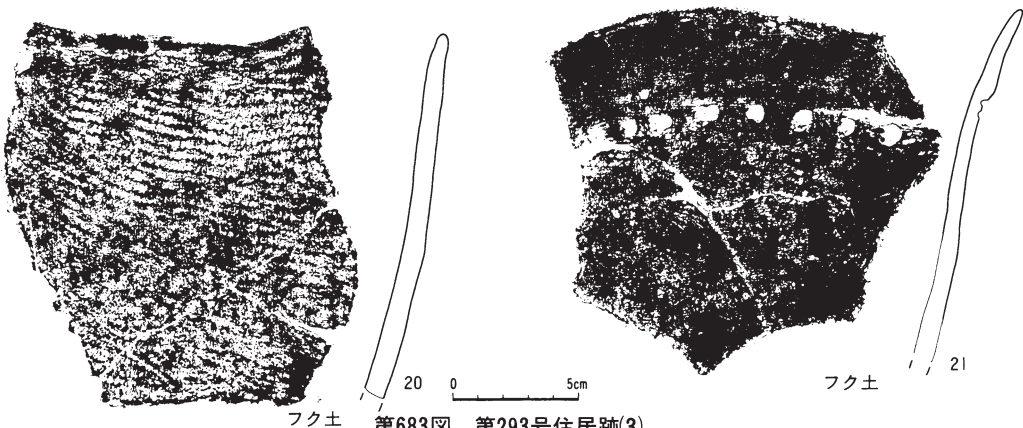
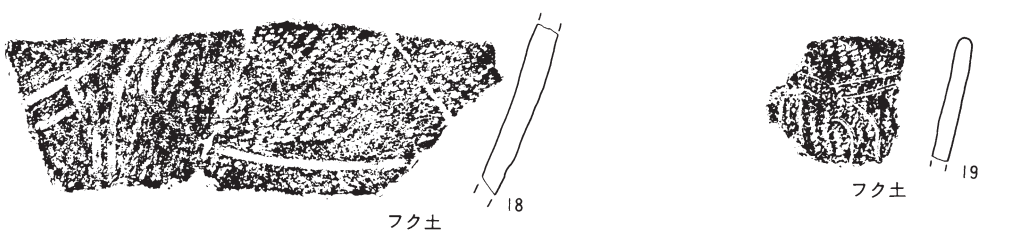
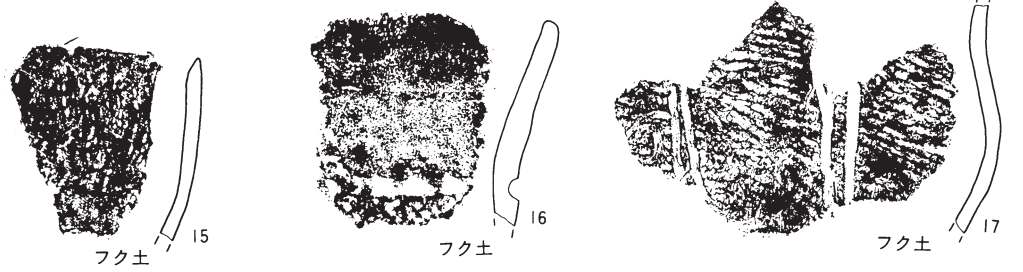
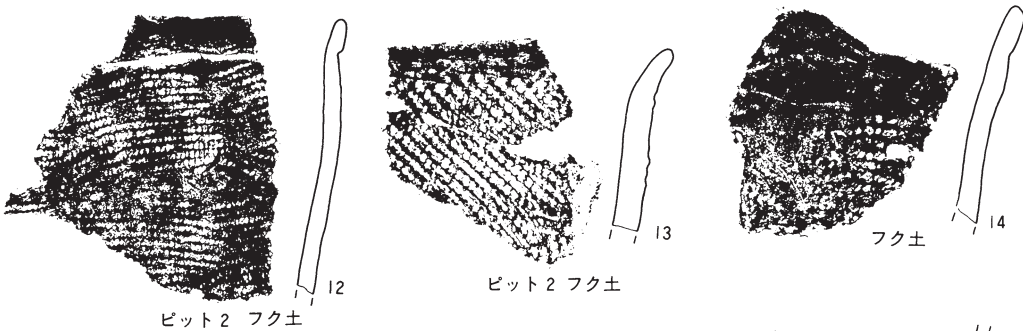
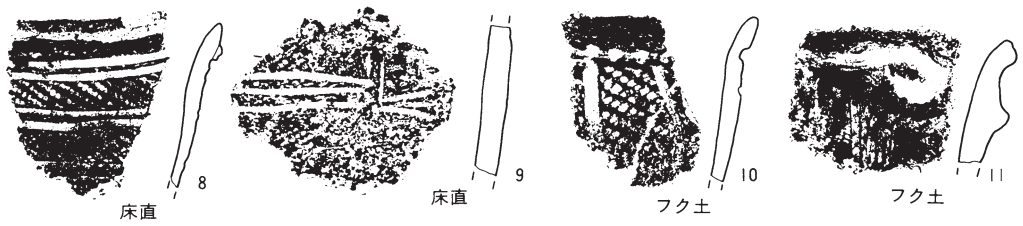
ピット3土層注記
 第1層 暗褐色土 10Y R %
 第2層 黄褐色土 10Y R %
 第3層 灰白色粘土 7.5Y %



第681図 第293号住居跡(1)



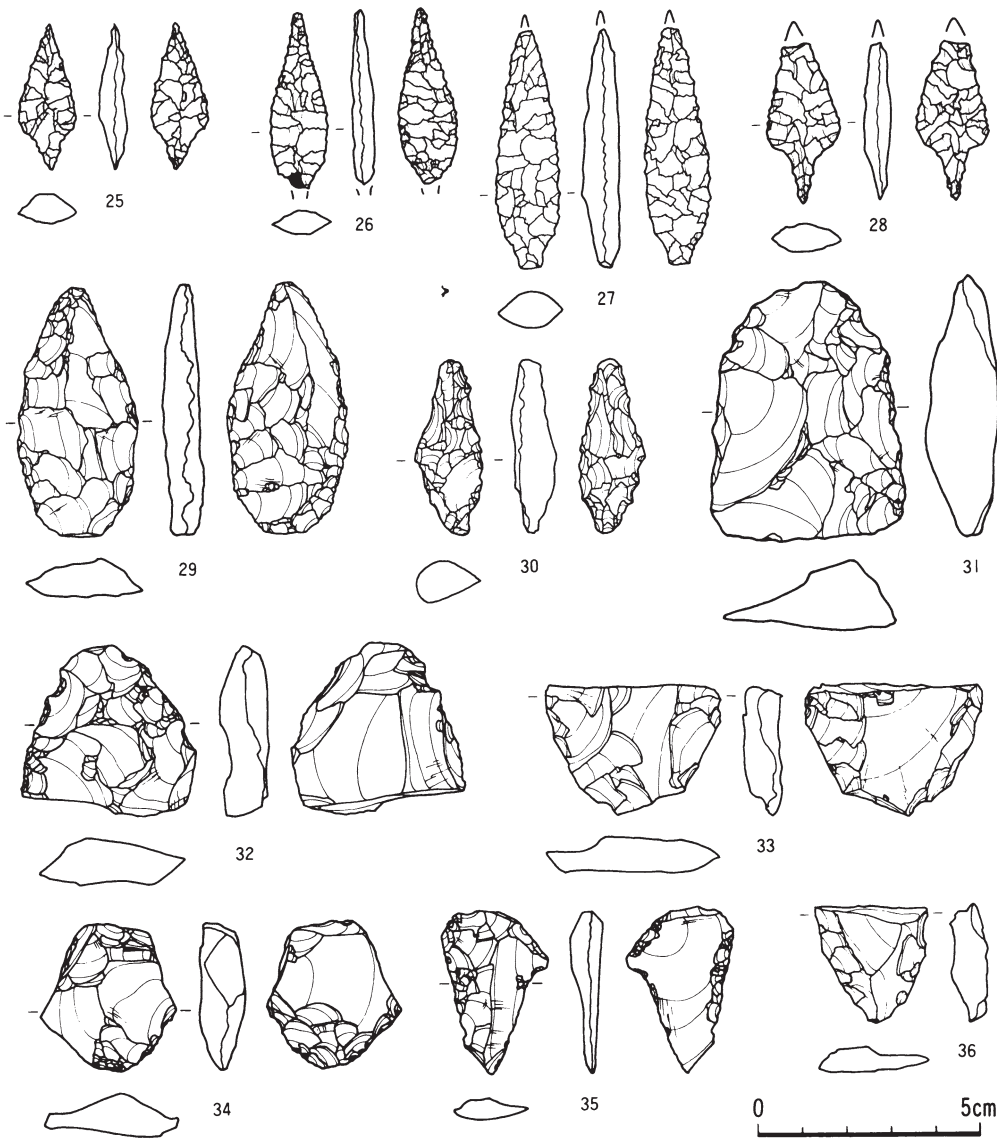
第682図 第293号住居跡(2)



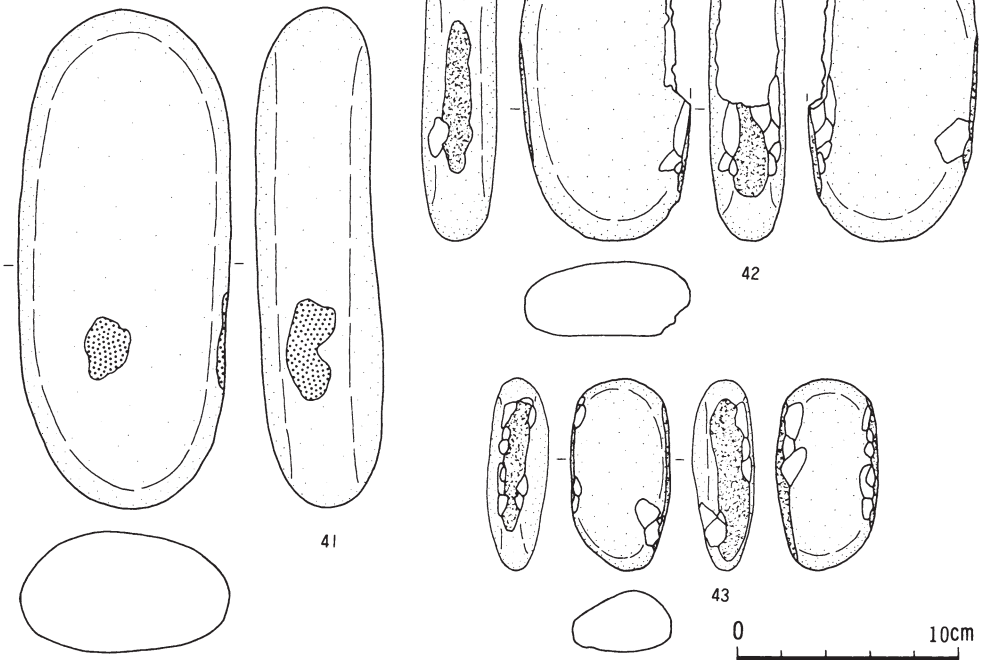
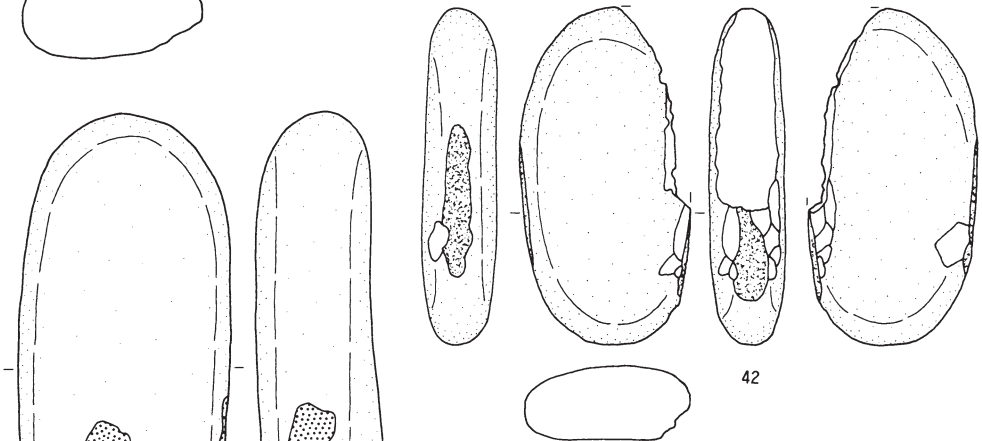
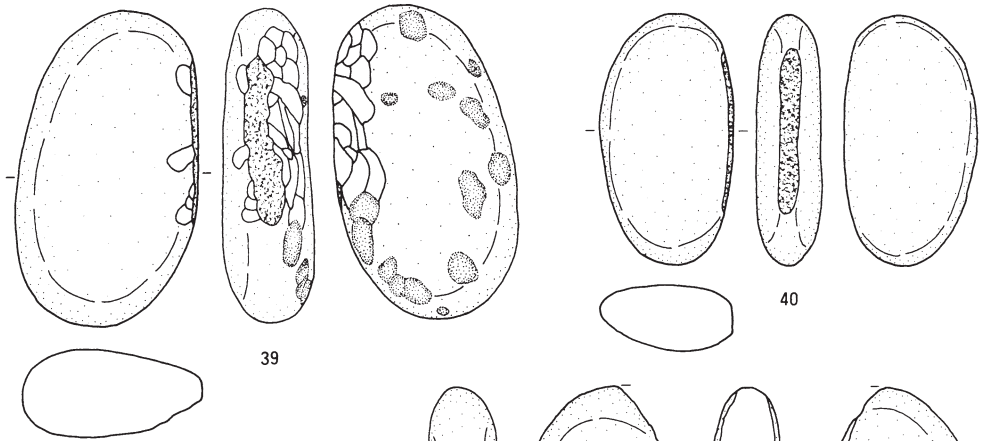
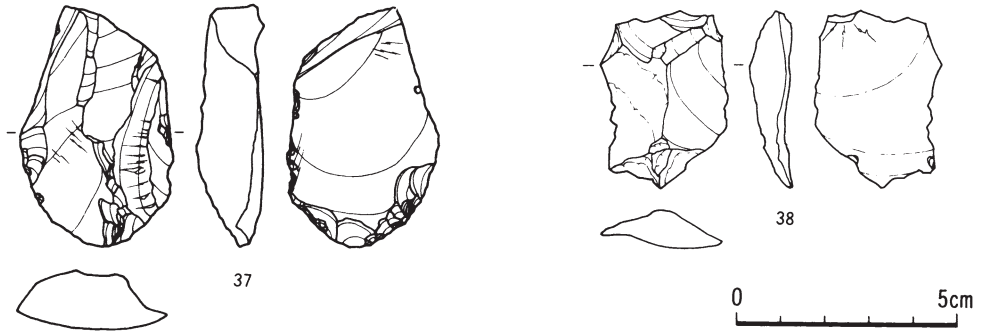
第683図 第293号住居跡(3)



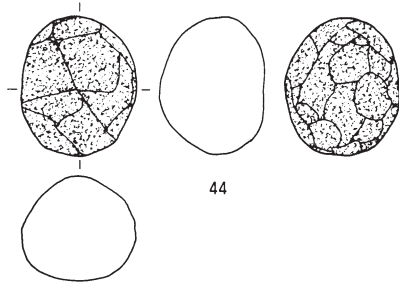
確認面



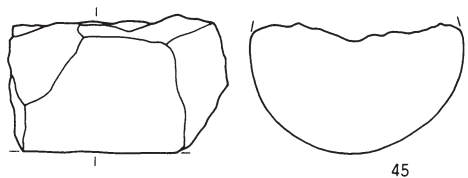
第684図 第293号住居跡(4)



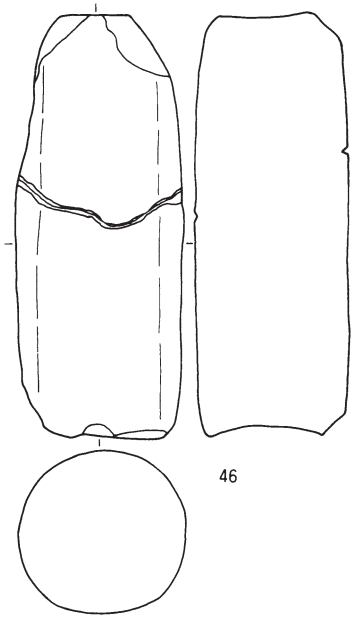
第685图 第293号住居跡(5)



44



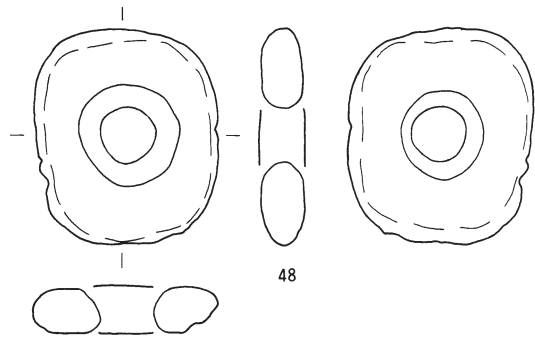
45



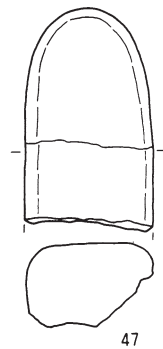
46

石棒類

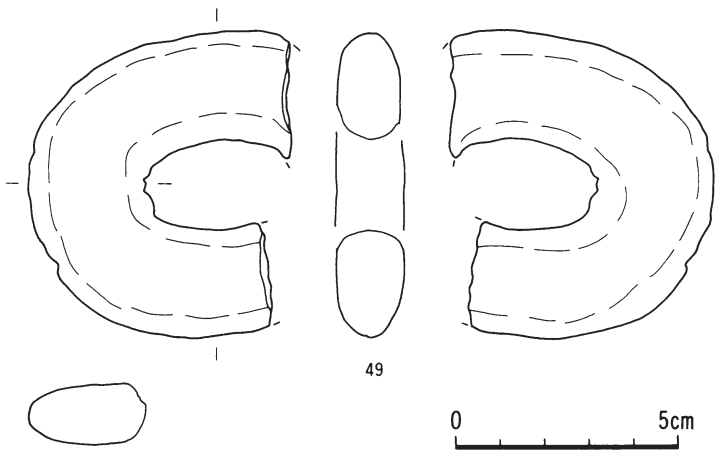
有孔石製品



48



47



49



第686図 第293号住居跡(6)

た。石器は出土しなかった。

<小結> 本住居跡の時期は榎林式の土器が出土していることから、それに相当するものと思われる。
(畠山 昇)

第293号住居跡 (第681図～第686図)

<位置と確認> C V・C W- 112・113グリッドの緩斜面で、暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 第273号住居跡より古く、第310・311号住居跡より新しい。第288号住居跡とは新旧関係は不明である。

<平面形・規模> 北側が不明であるが、南北に長軸を持つ楕円形で、規模は短軸3 m50cm、長軸5 m10cm前後(床面での計測)である。推定床面積は、12.86㎡である。

<壁・床面> 壁は急に立ち上がり、東西壁(第310号住居跡床面から)30cm前後、南壁90cmである。床面は平坦で、堅緻であり、第311号住居跡との重複部分には貼り床が施されている。

<壁溝> 一部途切れているが、東壁・南壁・西壁で幅15cm、深さ5cmの壁溝を検出した。

<柱穴> 13個のピットを検出した。また、床面を剥いだ段階で3個のピットを検出したが、これは第310号住居跡の柱穴と考えられる。本住居跡の柱穴は、P₁～P₄の4個である。これらのピットにはロームが貼られており、これが柱の大きさを示すとすれば、その大きさは径25cm前後で、断面の観察から60～70cm前後埋められている。主なピットの深さは、以下のとおりである。

P₁…77cm、P₂…63cm、P₃…68cm、P₄…64cm、P₅…15cm、P₆…17cm、P₇…25cm、P₈…16cm、P₉…11cm、P₁₀…9cm。

<炉> 中央から北に寄ったところで地床炉を検出した。径50cmの円形で、5cmほどくぼんでいる。南西側の外縁が特に焼けていた。また東側に出土した礫も焼けていた。

<特殊施設> 不明である。

<堆積土> 上位から中位にかけてはローム粒・塊を多量に含んだ褐色土や黄褐色土が、下位では暗褐色土～黒褐色土の堆積が見られた。このことから、少なくとも上位から中位にかけては人為的に堆積したものと考えられる。

<出土遺物> 覆土からは多量の遺物が出土した。土器は、床面・床面直上から榎林式と思われる土器が出土している。石器は、床面直上から石鏃2点、覆土から石鏃8点、石槍1点、石錐2点、石筥1点、不定形石器29点、敲磨器類7点、石皿2点、台石1点、石棒類3点が出土し、総数56点である。また有孔石製品が2点出土した。

<小結> 本住居跡の時期は、床面・床面直上から出土した土器から、榎林式期と考えられる。
(畠山 昇)

第294号住居跡（第687図～第701図）

<位置と確認> C T-112グリッドの緩斜面で、暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 第299・314・428号住居跡より新しい。

<平面形・規模> 南側が調査区域外、北側が第299号住居跡と重複して全体が不明であるが、検出した部分から推定して、短軸3 m60cm、長軸5 m62cm（床面での計測）の隅丸長方形と思われる。推定床面積は、18.35㎡である。

<壁・床面> 壁は急に立ち上がり、南壁（第428号住居跡床面から）70cm前後、東西壁40～55cmである。床面は平坦で、床面全体が堅く踏み締まっている。とくに炉と特殊施設の近辺は顕著である。また部分的にロームの貼り床が施され、特殊施設の下位にまで及んでいる。

<壁溝> 調査した部分ではすべて検出した。幅5～15cm、深さ2～8cmである。また壁溝は一部、特殊施設両脇の下位にも検出された。

<柱穴> 大小27個のピットを検出した。このうち柱穴と考えられるのは、P₁～P₄の4個である。P₂には外縁にロームが貼られていた。主なピットの深さは、以下のとおりである。

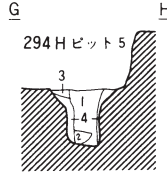
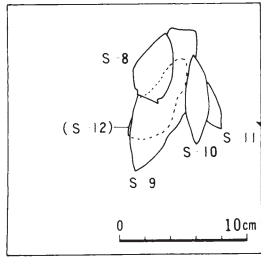
P₁…101cm、P₂…81cm、P₃…78cm、P₄…90cm、P₅…46cm、P₆…29cm、P₇…30cm、P₈…24cm、P₉…18cm、P₁₀…39cm、P₁₁…23cm、P₁₂…11cm、P₁₃…11cm、P₁₄…23cm、P₁₅…47cm、P₁₆…47cm、P₁₇…25cm、P₁₈…22cm、P₁₉…5cm、P₂₀…3cm、P₂₁…41cm、P₂₂…32cm、P₂₃…65cm、P₂₄…30cm、P₂₅…42cm（P₁₉～P₂₅は床面を剥いだ段階で検出したもの）。

<炉> 中央から東に寄ったところで地床炉を検出した。径80cmの円形で、7cmほどくぼんでいる。南西側の外縁が特に焼けていた。また西側に出土した礫も焼けていた。

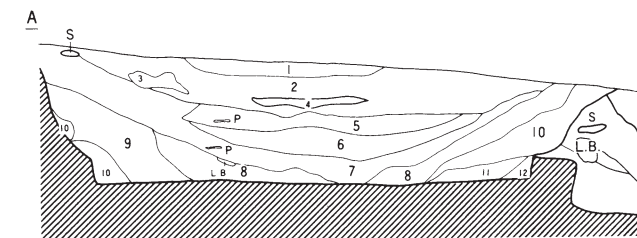
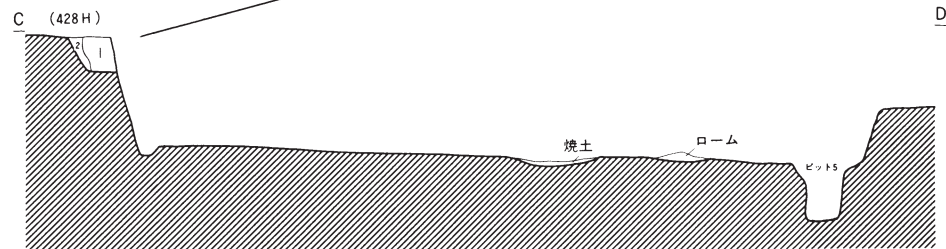
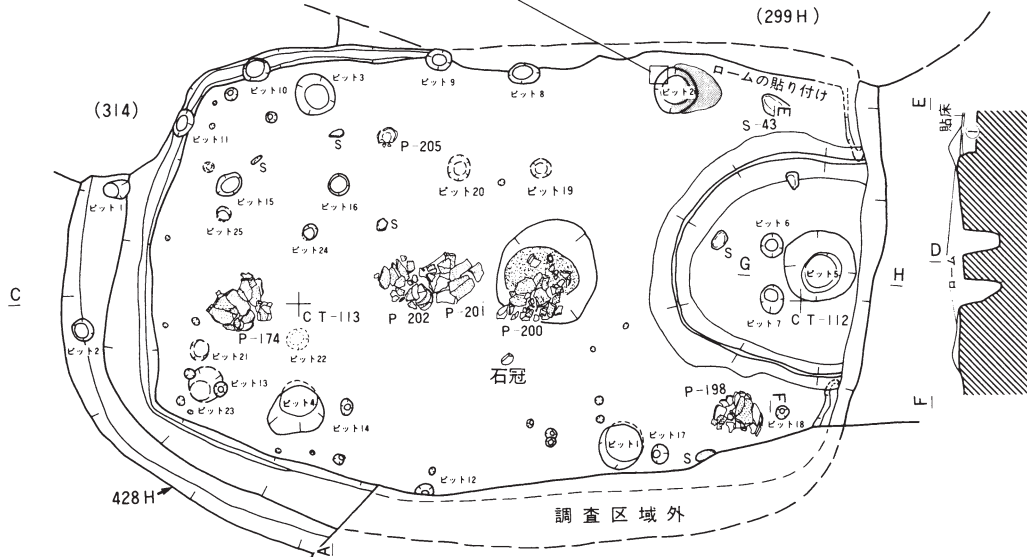
<特殊施設> 東壁に接して検出した。ロームの盛土（高さ5～10cm、幅20～30cm、断面三角形）で壁に対して半円状に巡らしている。この内側からは、径60cm、深さ46cmのピット（P₅）と径20cm、深さ30cmの小ピット2個（P₆・P₇）を検出した。

<堆積土> ローム粒・炭化物・骨片を含んだ暗褐色～褐色土を主体とした堆積が見られた。第5～7層からは多量の遺物が出土した。

<出土遺物> 覆土から床面直上にかけて多量の遺物が出土した。覆土からは、円筒上層e式から榎林式、大木系土器が出土した。床面・床面直上からは円筒上層（d・e）式土器が出土した。石器は、床面から不定形石器1点、台石1点、床面直上から石鏃2点、不定形石器3点、敲磨器類1点、石皿1点、覆土から石鏃22点、石槍5点、石錐3点、石筥2点、ピエス・エスキュー1点、不定形石器48点、敲磨器類6点、石皿2点、台石1点、石棒類2点、またピット2の掘り方からは4点の石槍、床下から磨製石斧1点が出土し、総数106点である。床面から石冠1点、覆土から有孔石製品が1点、軽石1点、ミニチュア土器1点、土器片利用製品2点が出土した。



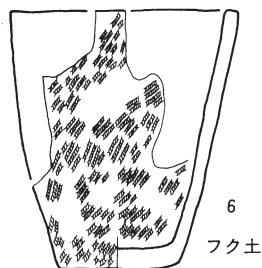
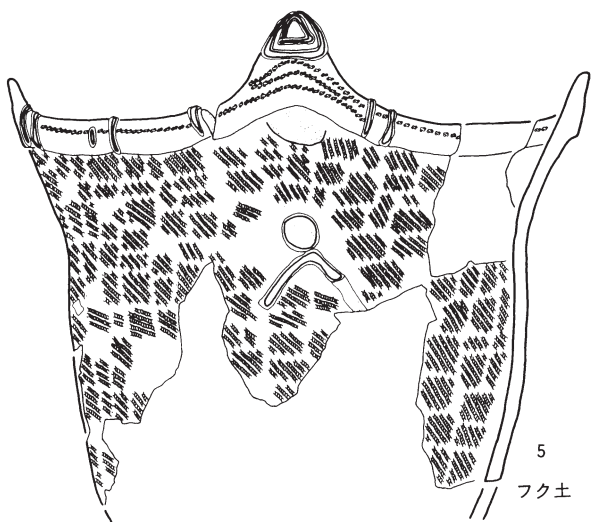
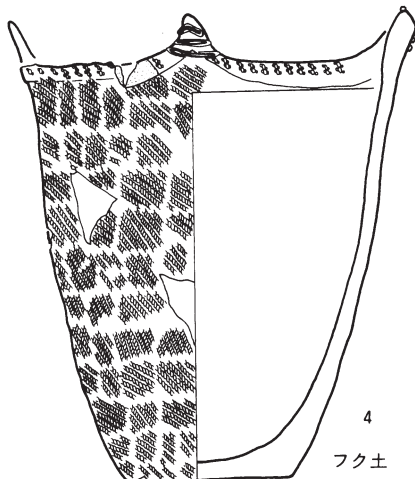
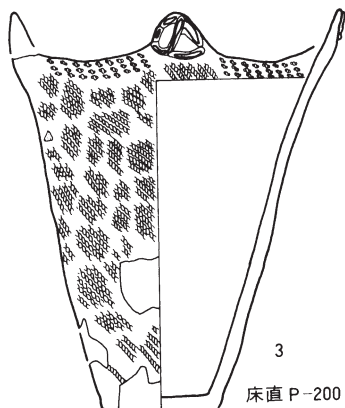
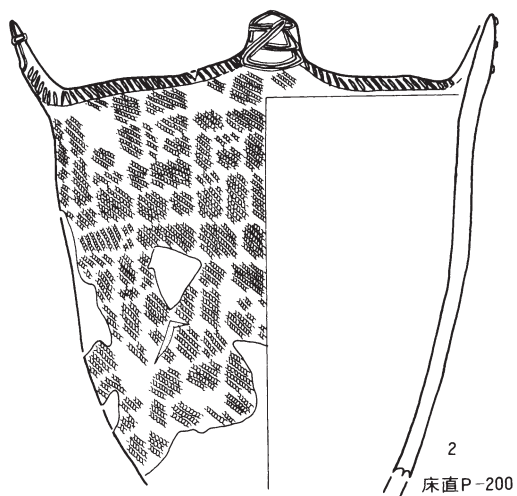
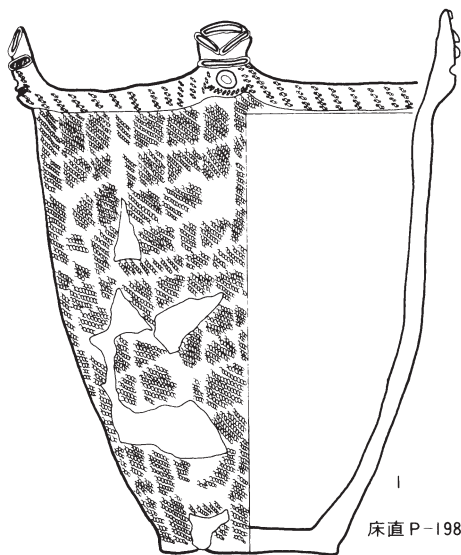
- 第294号住居跡ビット5土層注記
- 第1層 黄褐色土 10Y R 3/4
 - 第2層 黄褐色土 10Y R 5/6
 - 第3層 褐色土 10Y R 3/4
 - 第4層 黄褐色土 10Y R 5/6



- 第428号住居跡土層注記
- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒を若干含む
 - 第2層 黄褐色土 10Y R 5/6

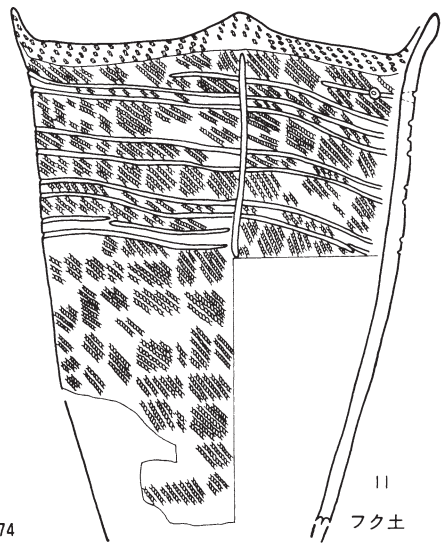
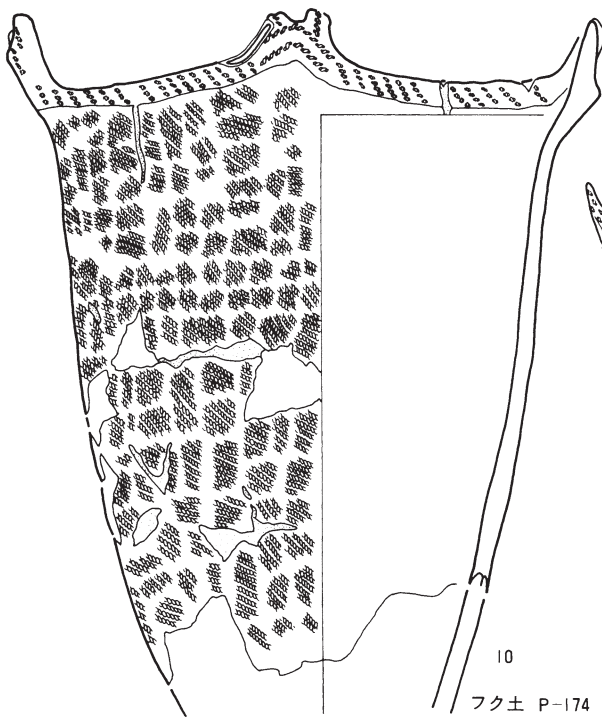
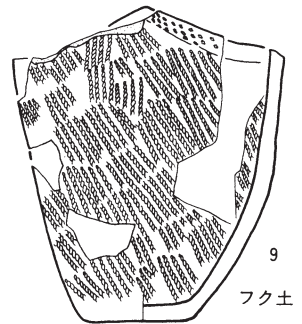
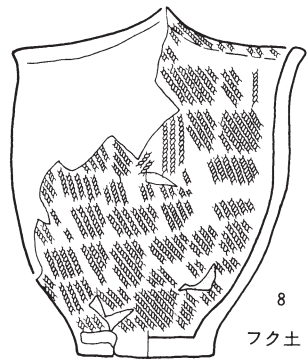
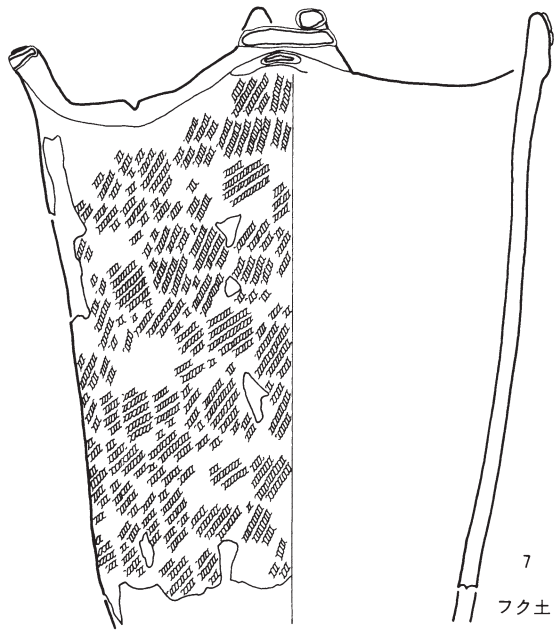
- 第294号住居跡土層注記
- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒、炭化物を微量含む
 - 第2層 暗褐色土 10Y R 3/4 軟らかく、ローム粒、炭化物を含む
 - 第3層 暗褐色土 10Y R 3/4 焼土をやや多く含む
 - 第4層 褐色土 10Y R 3/4 やや硬く、ローム粒を含む
 - 第5層 暗褐色土 10Y R 3/4 軟らかく、ローム粒を含む
 - 第6層 褐色土 10Y R 3/4 軟らかく、ローム粒を多く含む
 - 第7層 暗褐色土 10Y R 3/4 軟らかく、炭化物を多く含む、獣骨を含む
 - 第8層 褐色土 10Y R 3/4 軟らかく、ローム粒を多く含む
 - 第9層 暗褐色土 10Y R 3/4 軟らかく、ローム粒(多)、ローム塊を含む
 - 第10層 黄褐色土 10Y R 5/6 軟らかく、しまり弱い
 - 第11層 褐色土 10Y R 3/4 軟らかく、ローム粒を多く含む
 - 第12層 褐色土 10Y R 3/4 軟らかく、ローム粒を多く含む

第687図 第294号住居跡(1)



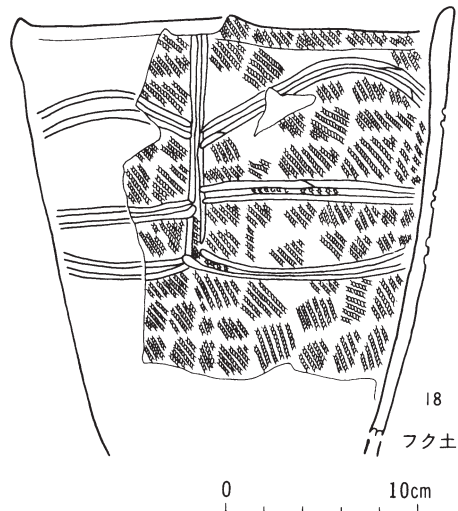
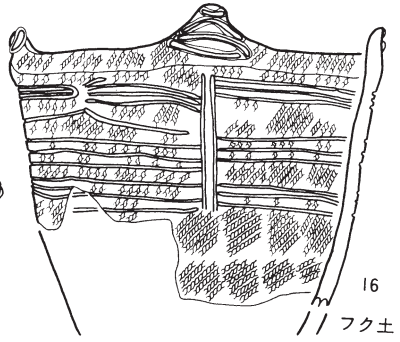
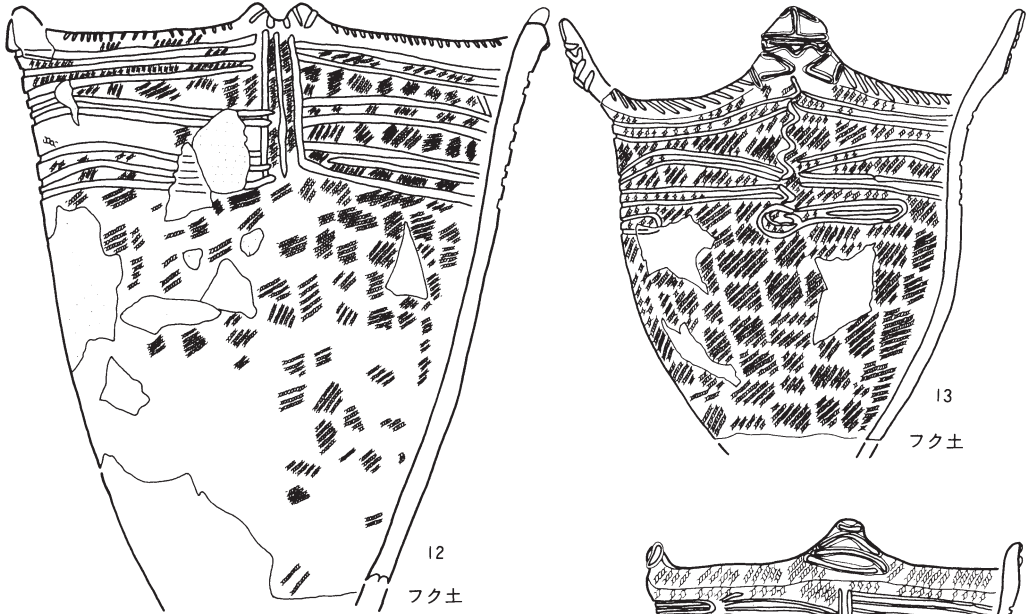
0 10cm

第688図 第294号住居跡(2)



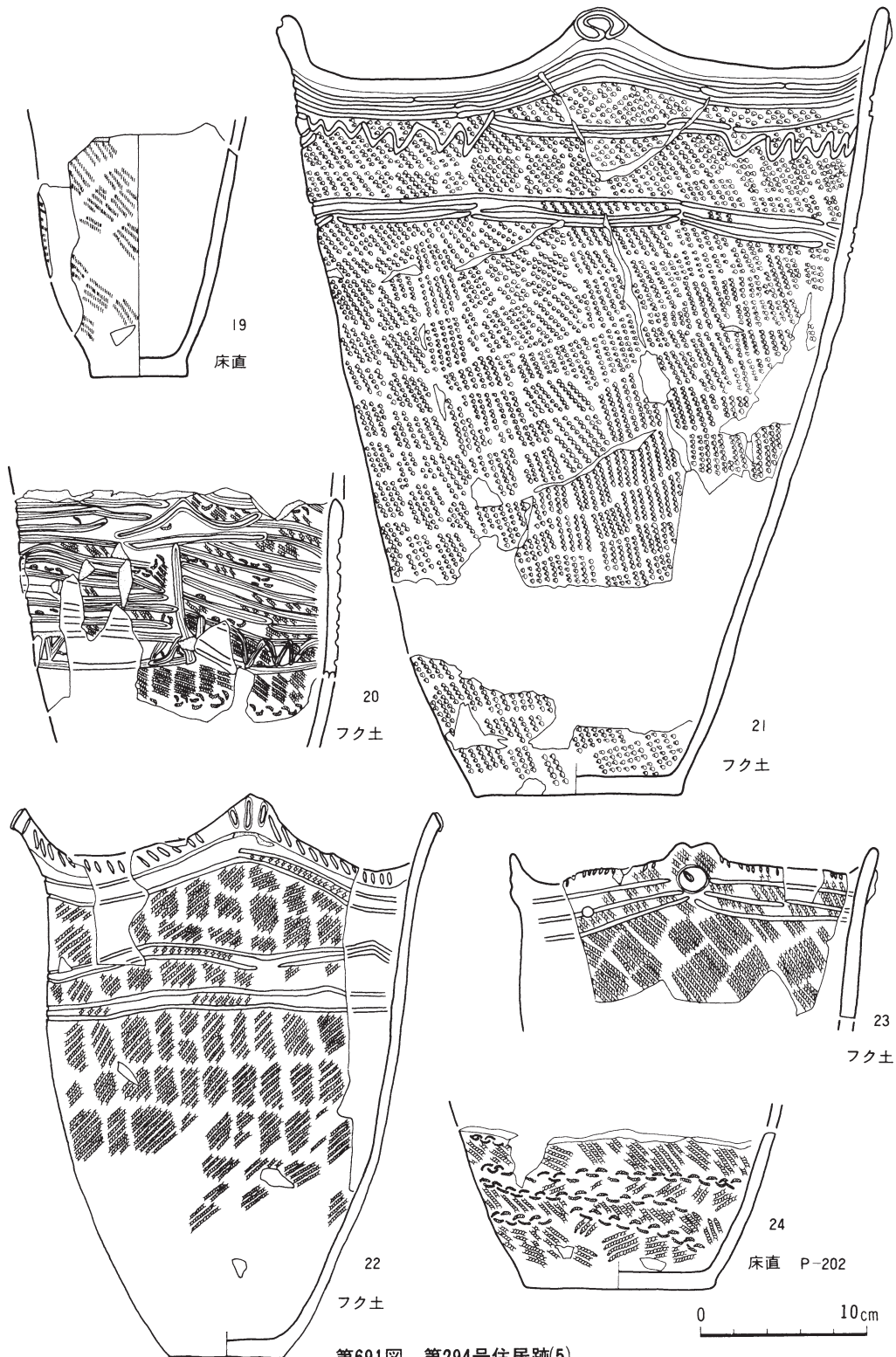
0 10 cm

第689図 第294号住居跡(3)

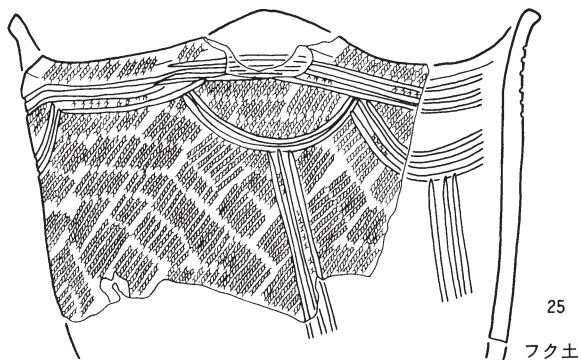


0 10cm

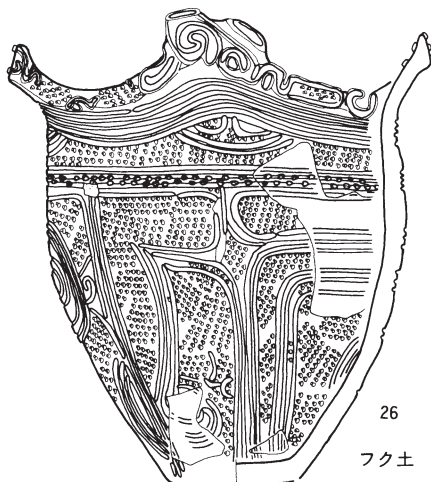
第690図 第294号住居跡(4)



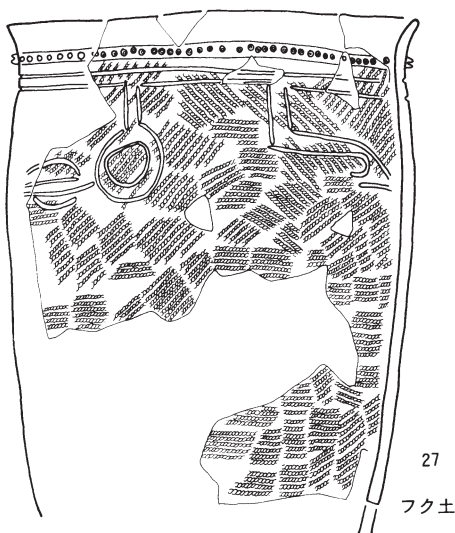
第691図 第294号住居跡(5)



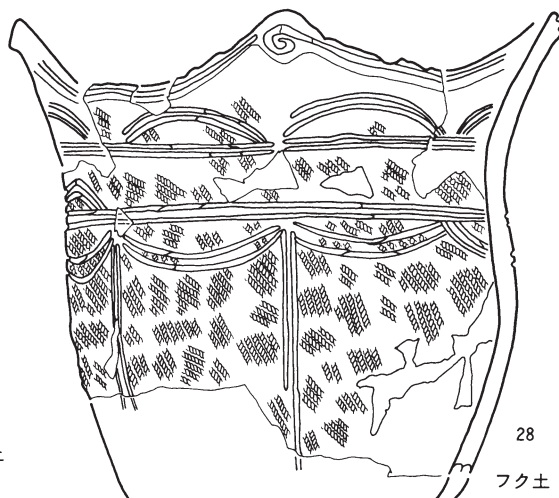
25
フク土



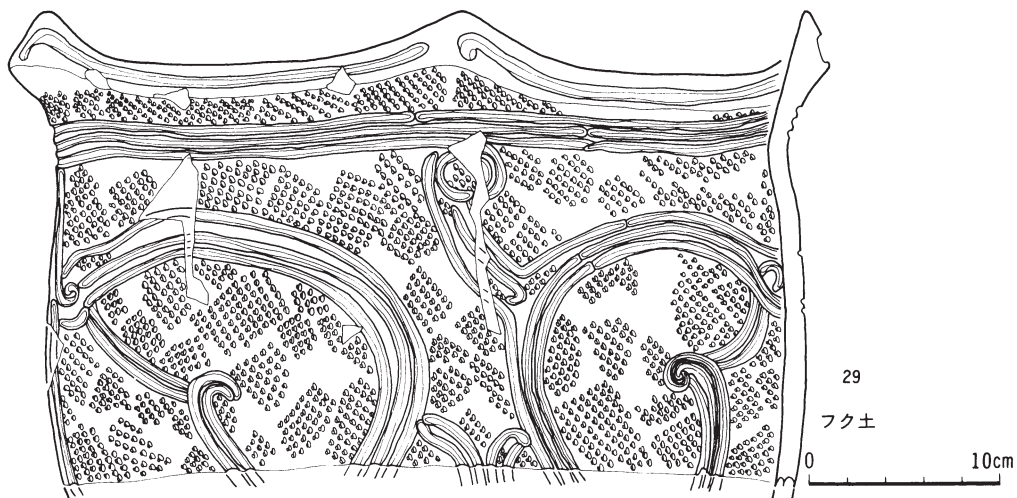
26
フク土



27
フク土



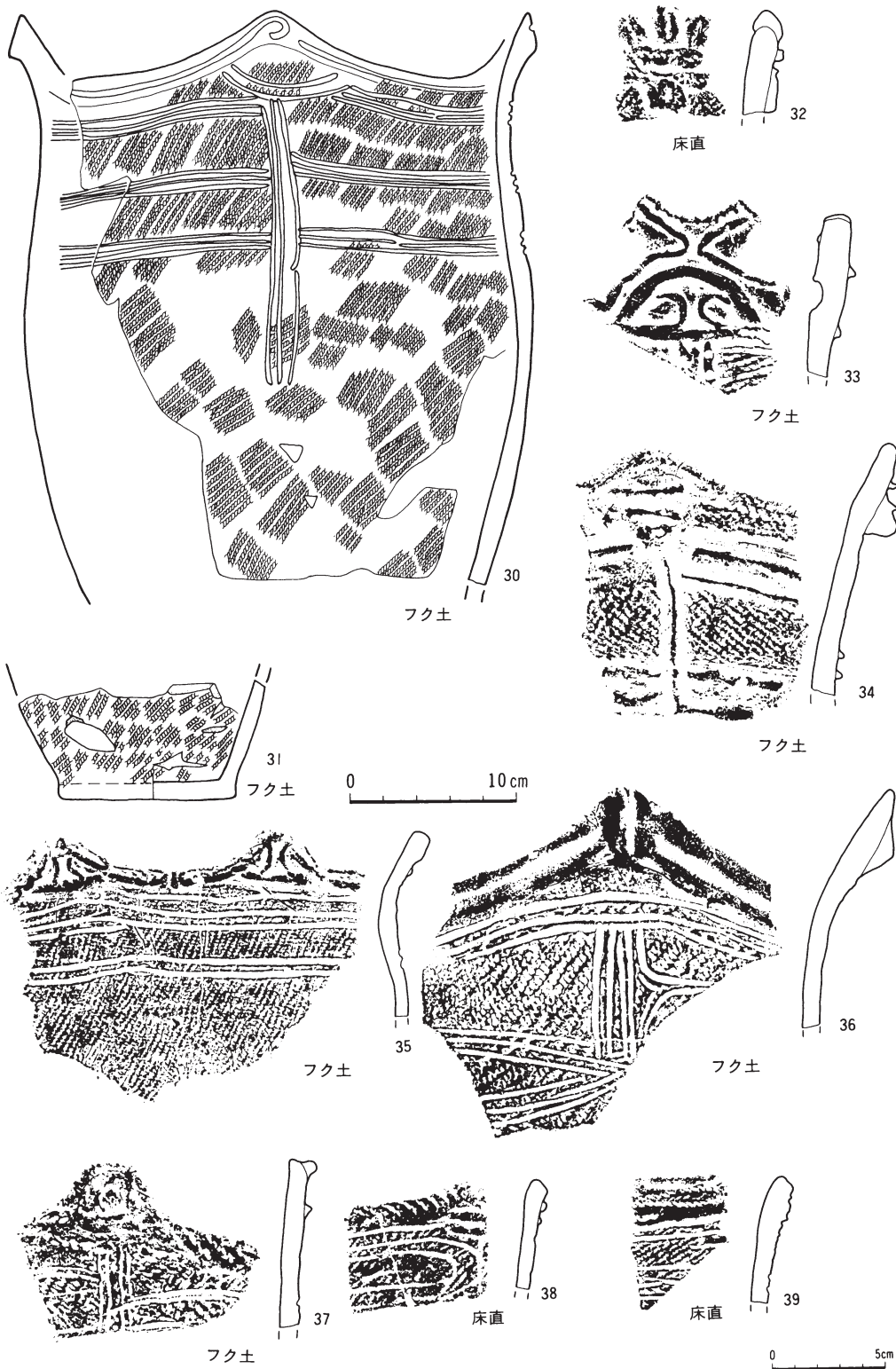
28
フク土



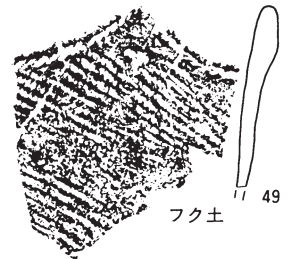
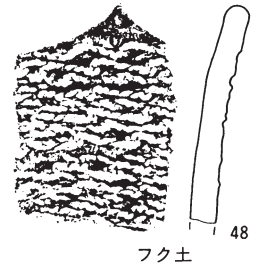
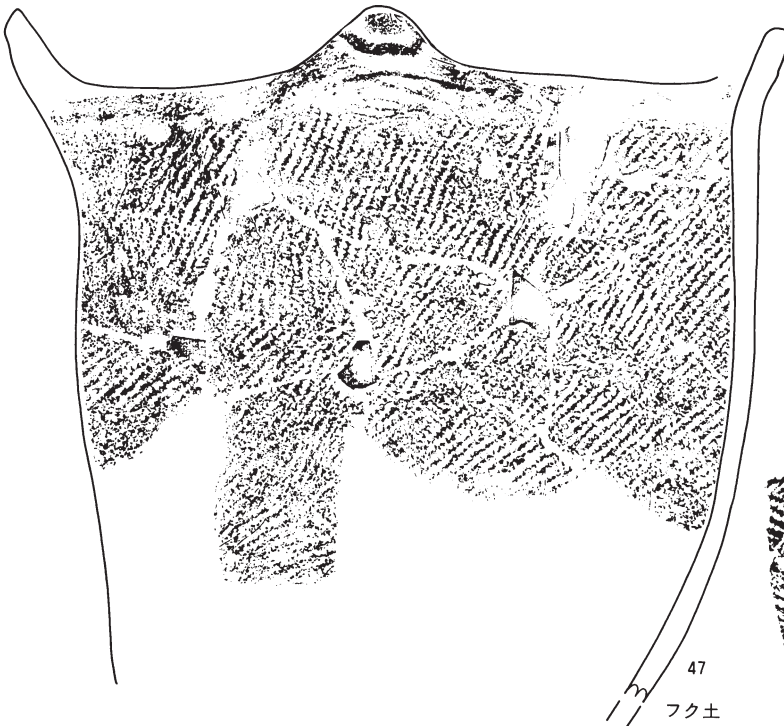
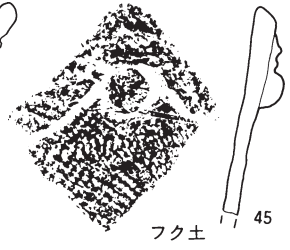
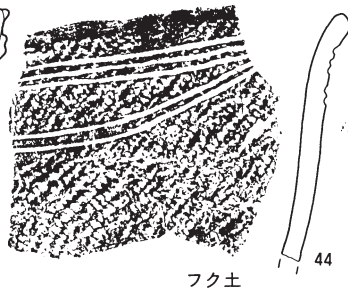
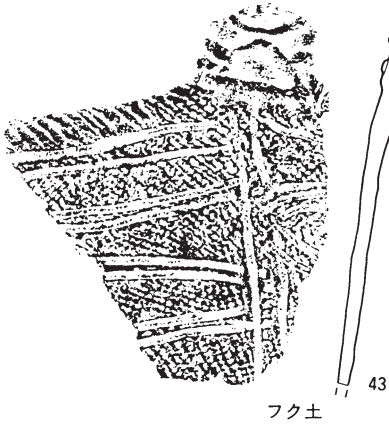
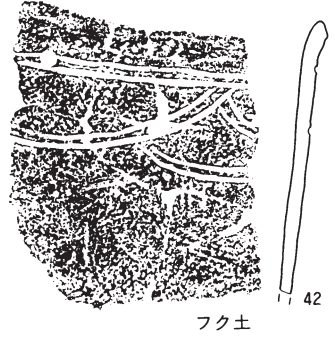
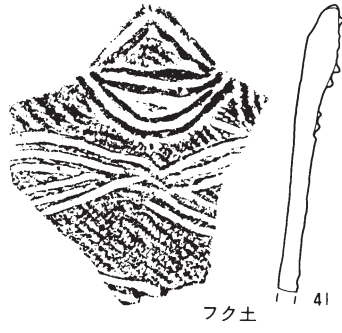
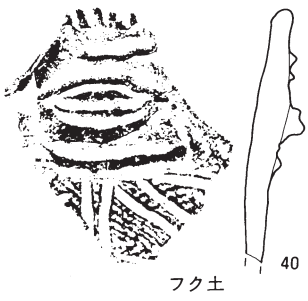
29
フク土

0 10cm

第692図 第294号住居跡(6)

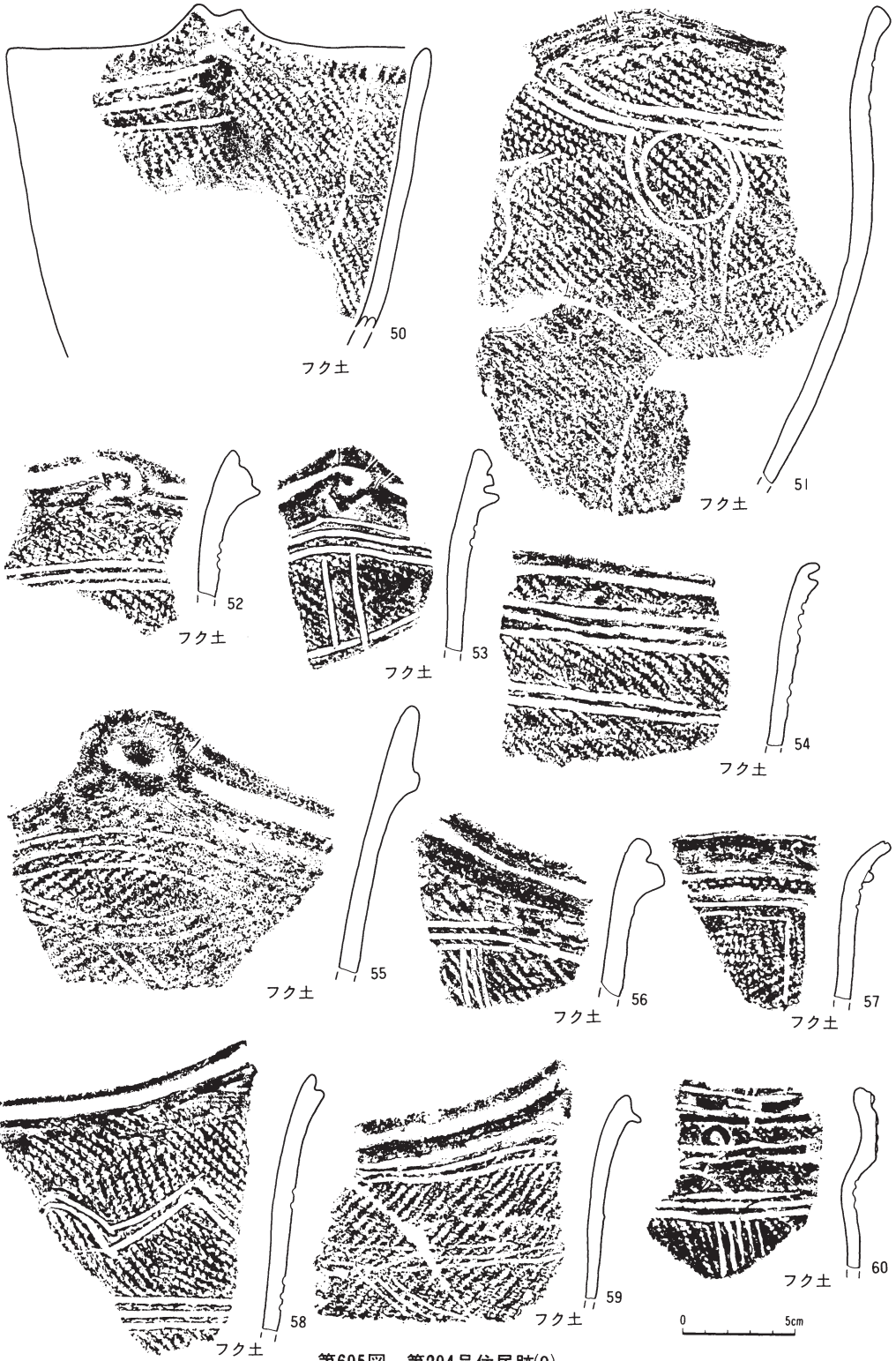


第693図 第294号住居跡(7)



0 5cm

第694図 第294号住居跡(8)

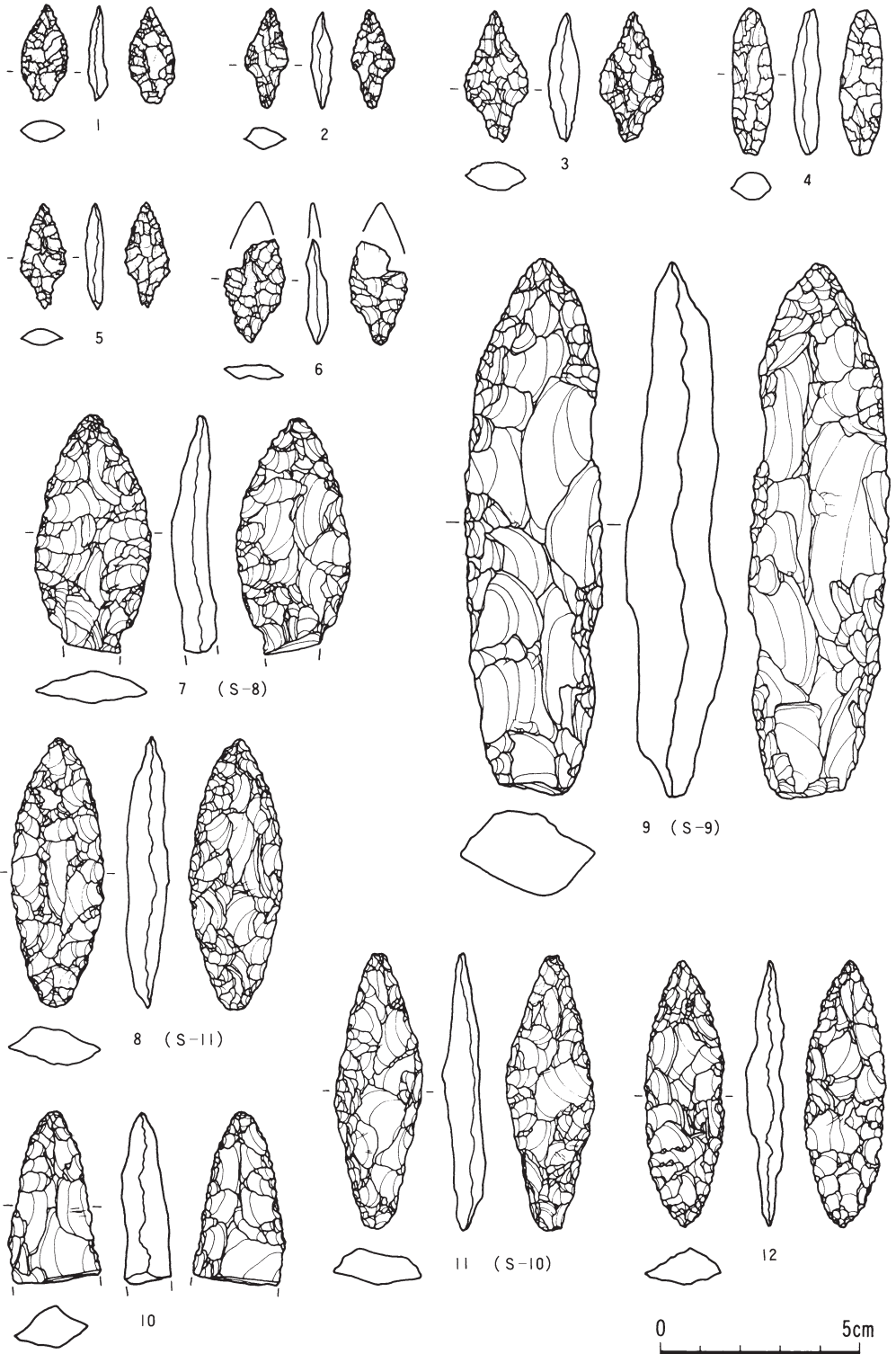


第695図 第294号住居跡(9)

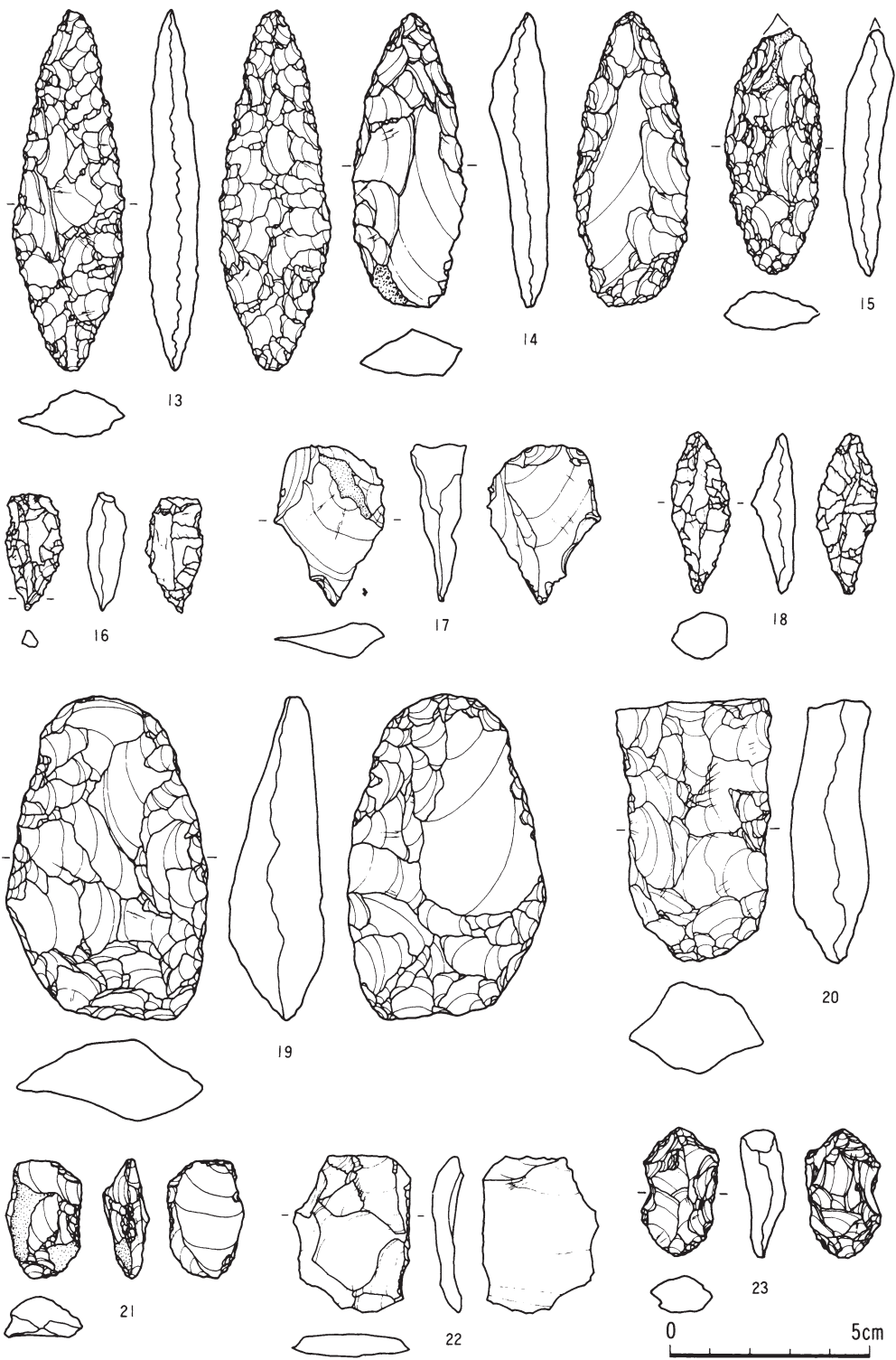


第696図 第294号住居跡(10)

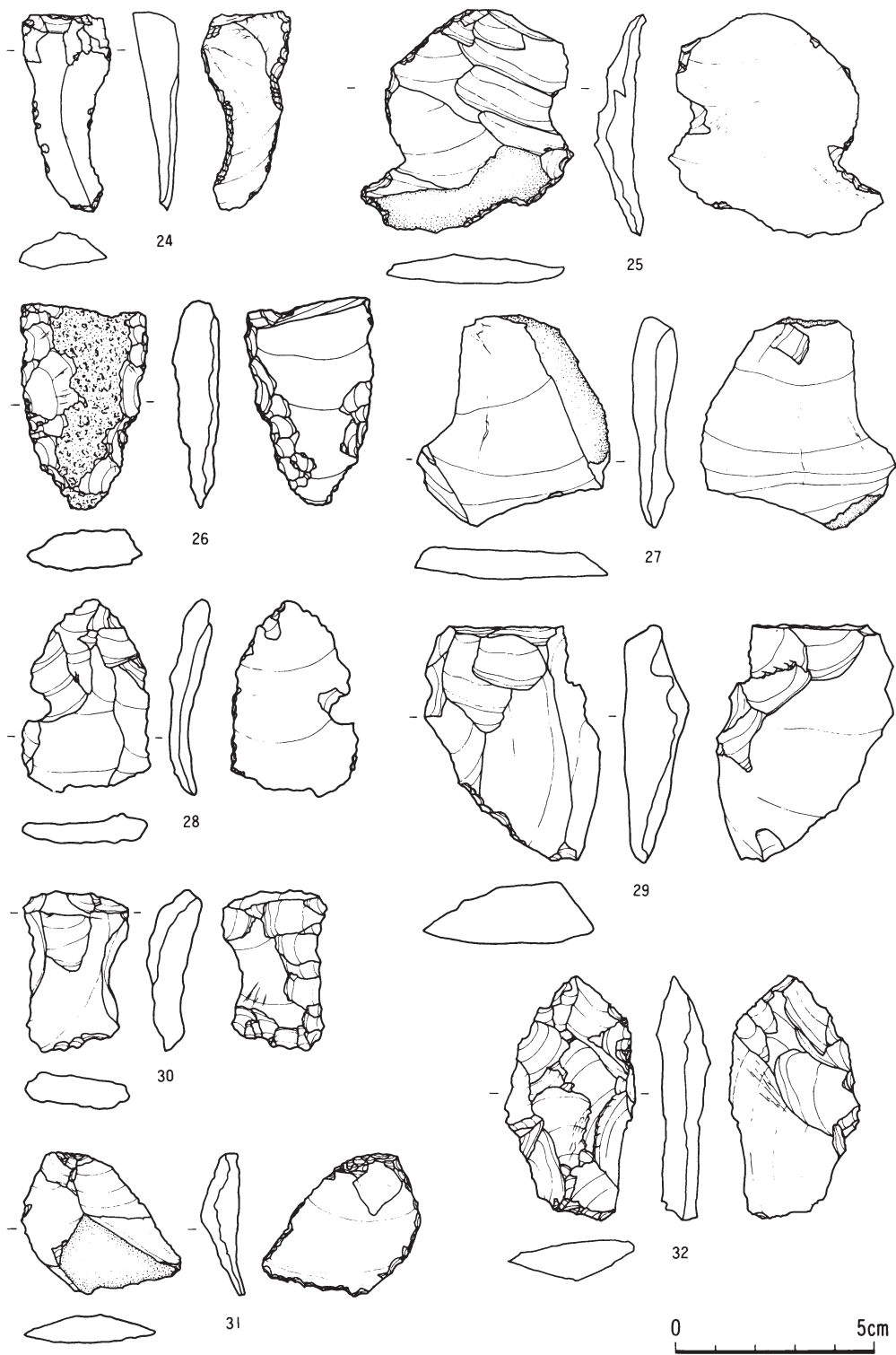
<小結> 本住居跡の時期は、床面・床面直上からの出土土器から円筒上層（d・e）式期と思われる。（畠山 昇）



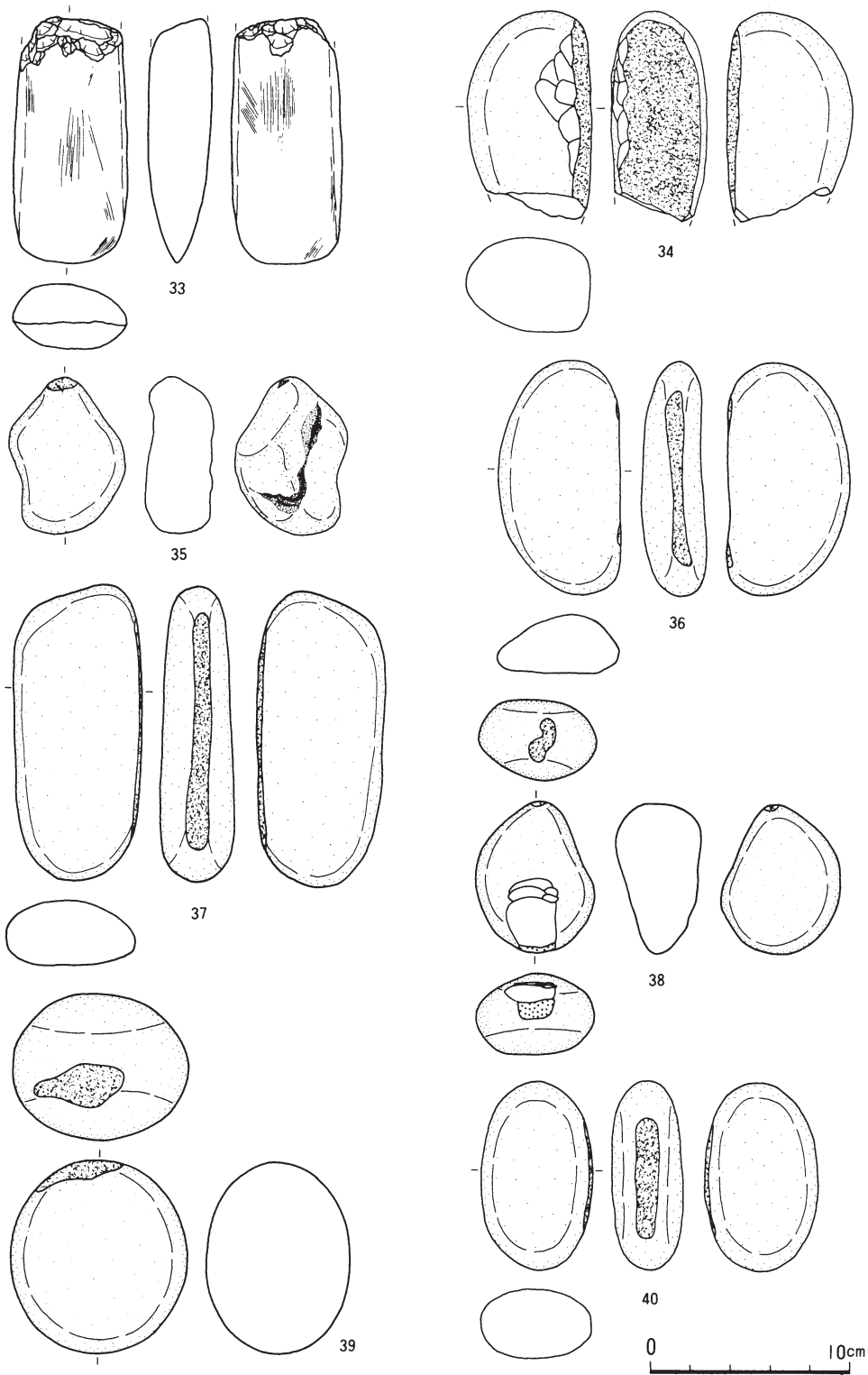
第697图 第294号住居跡(1)



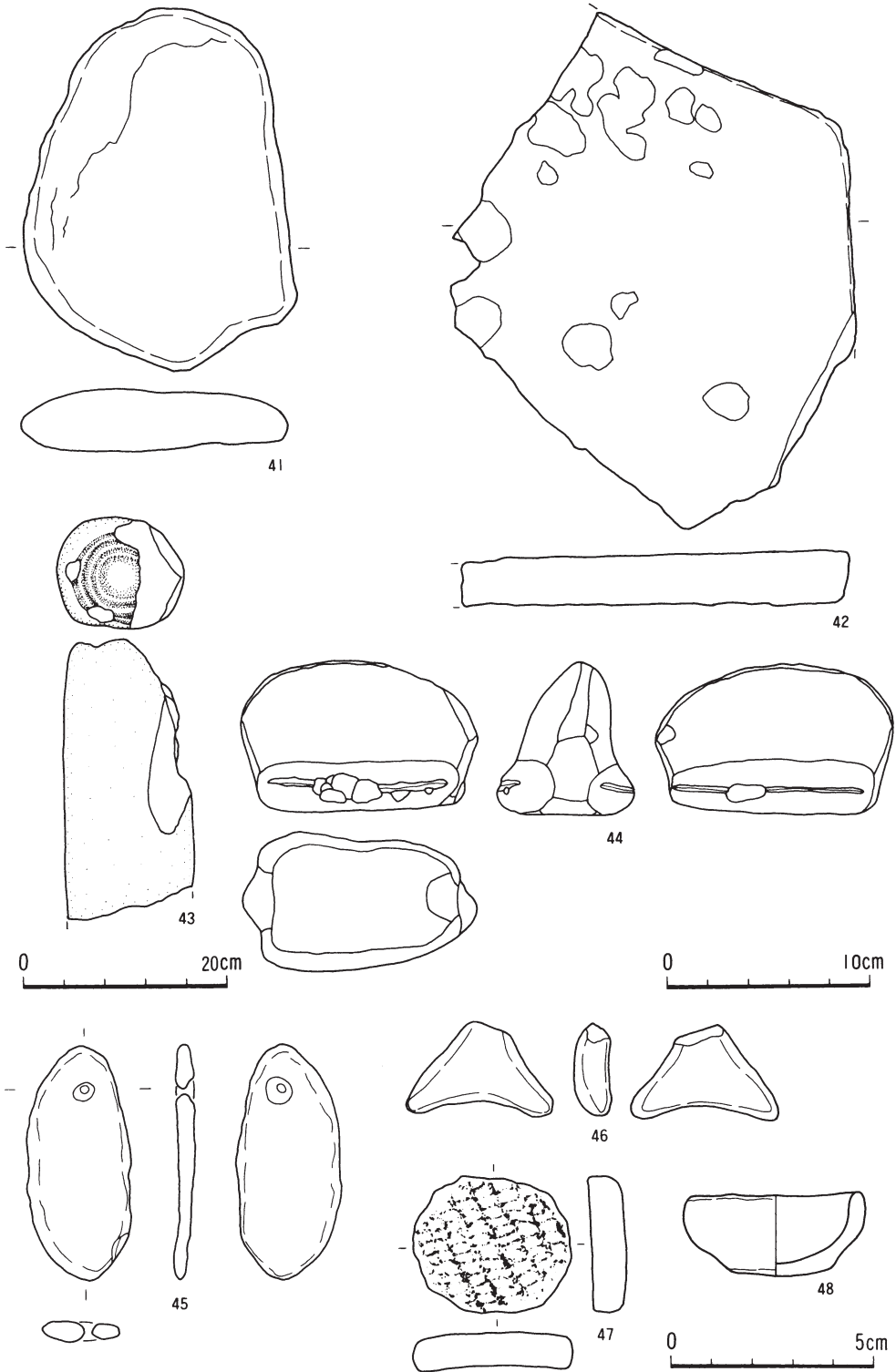
第698图 第294号住居跡(12)



第699图 第294号住居跡(13)



第700图 第294号住居跡(14)



第701图 第294号住居跡(15)

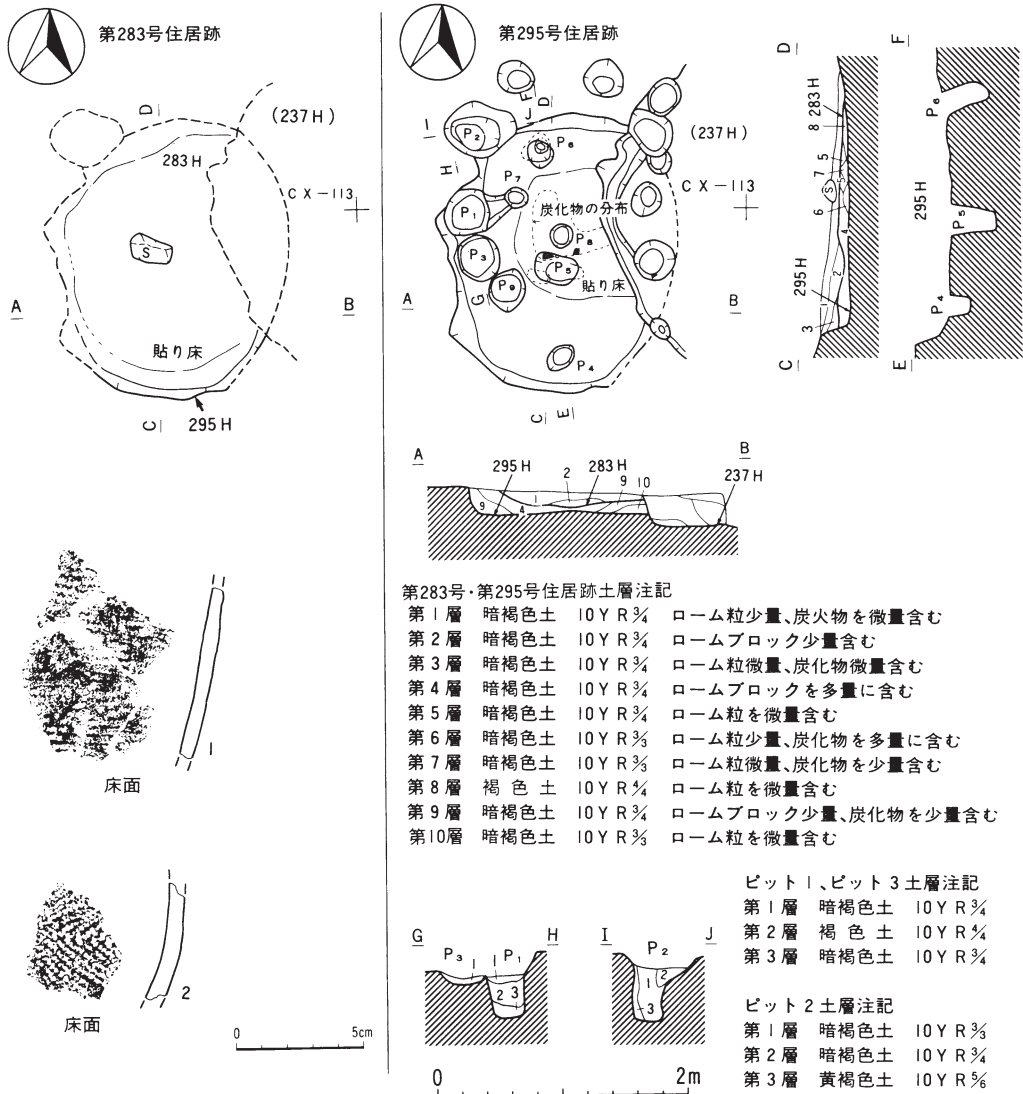
第295号住居跡 (第702・703図)

<位置と確認> CW・CX-113グリッドに位置している。第283号住居跡を精査中に確認した。

<重複> 第283号住居跡の直下に位置し、本住居跡が古い。また第237号住居跡より古い。第310号住居跡との新旧関係は不明である。

<平面形・規模> 重複により明確でないが、残存部から南北に長い楕円形で、長軸2m20cm、短軸1m90cmと思われる。推定床面積は3.3㎡である。

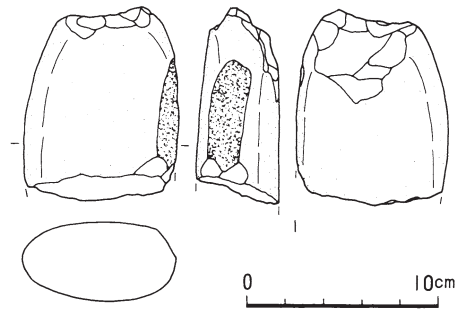
<壁・床面> 東壁は重複により明確でない。壁高は西壁20cm、南壁20cm、北壁4cmである。貼り床を直径1mの範囲で中央部で確認した。貼り床はやや軟弱な造りである。



第702図 第283号・295号住居跡(1)

<壁溝> 認められなかった。

<柱穴> 周囲に小ピットが分布するが、重複のため本住居跡に伴うものか不明である。本住居跡内及び壁を切る形で検出したピットは9個である。ピットの深さはP₁…41cm、P₂…44cm、P₃…10cm、P₄…18cm、P₅…36cm、P₆…36cm、P₇…16cm、P₈…36cm、P₉…24cmである。



第703図 第295号住居跡2)

<炉> 認められない。

<特殊施設> 認められない。

<堆積土> 重複のため、厚さ10cmほどの堆積層での観察であるが、暗褐色土を主体にした堆積土である。土層断面に現われないが、貼り床の直上に2cm前後の炭化物の集中する薄い層を確認した。

<出土遺物> 床面直上から敲磨器類1点が出土しただけである。

<小結> 本住居跡は重複関係から榎林式期かそれ以前に構築されたものと思われる。

(島山 昇)

第297号住居跡 (第704・705図)

<位置と確認> CX-111・113グリッドで、褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> 第237・239号住居跡より古く、第236号住居跡より新しい。第238号住居跡との新旧関係は不明である。

<平面形・規模> 短軸2m24cm、長軸2m55cmの隅丸方形で、東壁が若干張り出している。床面積は、4.08㎡である。

<壁・床面> 壁は急に立ち上がり、壁高は20～30cmである。床面は平坦で、堅緻である。また壁から20cm内側に貼り床が施され、それは特殊施設にまで見られた。

<壁溝> 検出できなかった。

<柱穴> 9個のピットを検出した。このうち位置関係から柱穴と考えられるのは、P₂・P₄・P₅・P₇の4個である。ピットの深さは、以下のとおりである。

P₁…16cm、P₂…7cm、P₃…15cm、P₄…9cm、P₅…12cm、P₆…26cm、P₇…15cm、P₈…12cm、P₉…11cm (P₈・P₉は床面を削平した段階で検出したもの)。

<炉> 住居跡のほぼ中央で、土器片囲い炉を検出した。土器片を長形状に囲ったものである。

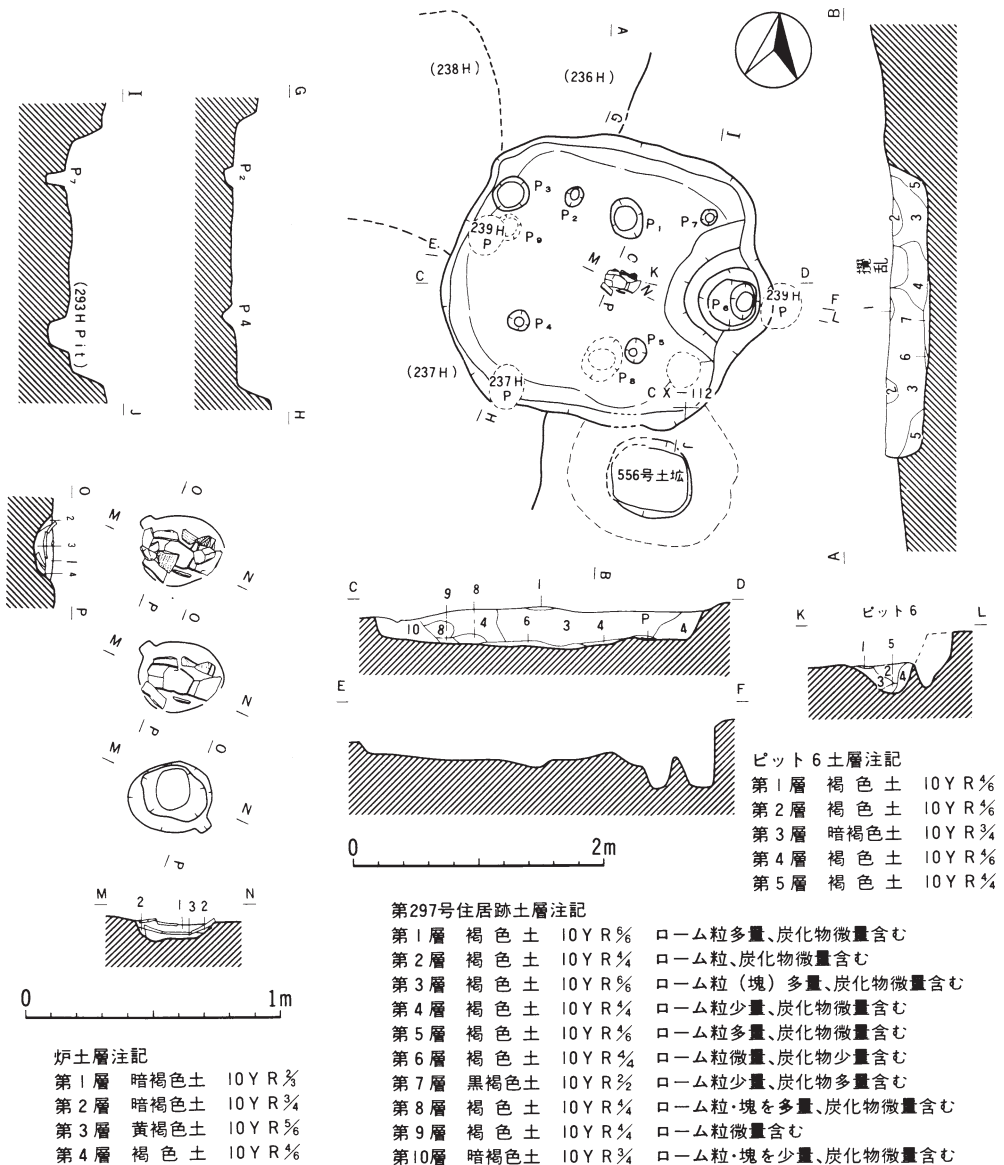
<特殊施設> 東壁に接して検出した。ロームの盛土(高さ2cm)を壁に対して半円状に巡ら

しており、これに対応するように東壁が若干張り出し、50cm×60cmの楕円形状を呈している。この内側からは、径26cmのピット（P₆）を検出した。

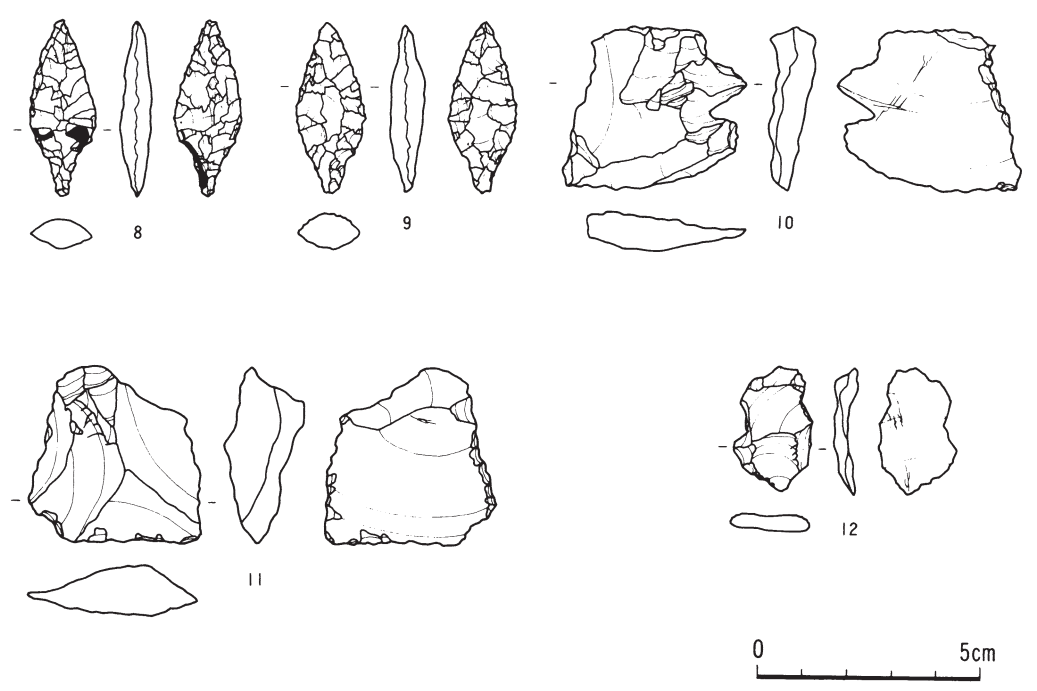
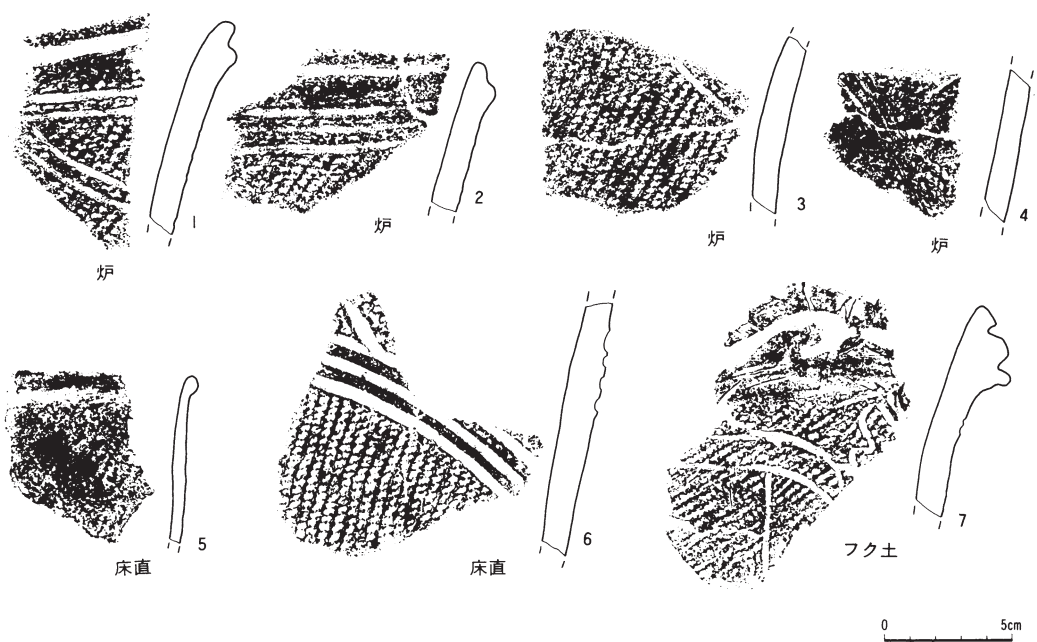
＜堆積土＞ 全般にローム粒含む褐色土を主体とした堆積が見られた。上部では第239号住居跡構築の際の攪乱と思われる層の乱れが見られた。

＜出土遺物＞ 土器は若干出土した。石器は、床面から石鏃2点、不定形石器1点、床面直上から不定形石器1点、覆土から不定形石器3点が出土し、総数7点である。

＜小結＞ 本住居跡の時期は、炉に用いられた土器から榎林式期と考えられる。（畠山 昇）



第704図 第297号住居跡(1)



第705図 第297号住居跡2)

第298号住居跡（第706図～ 第710図）

＜位置と確認＞ CU-111・112グリッドで、褐色土の落ち込みを確認した。調査の進展に伴い、炭化材・焼土が出土し、焼失家屋であることが判明した

＜重複＞ 第288・299号住居跡より新しい。

＜平面形・規模＞ 短軸4m05cm、長軸4m80cmの楕円形(床面での計測)で、推定床面積は、15.6㎡である。

＜壁・床面＞ 南壁のみ確認した。壁は急に立ち上がり、壁高は30cmである。床面は平坦で、堅緻である。また第288号住居跡との重複部分には貼り床が施されている。

＜壁溝＞ 南西壁下に、一部検出した。幅10cm、深さ2～5cmである。

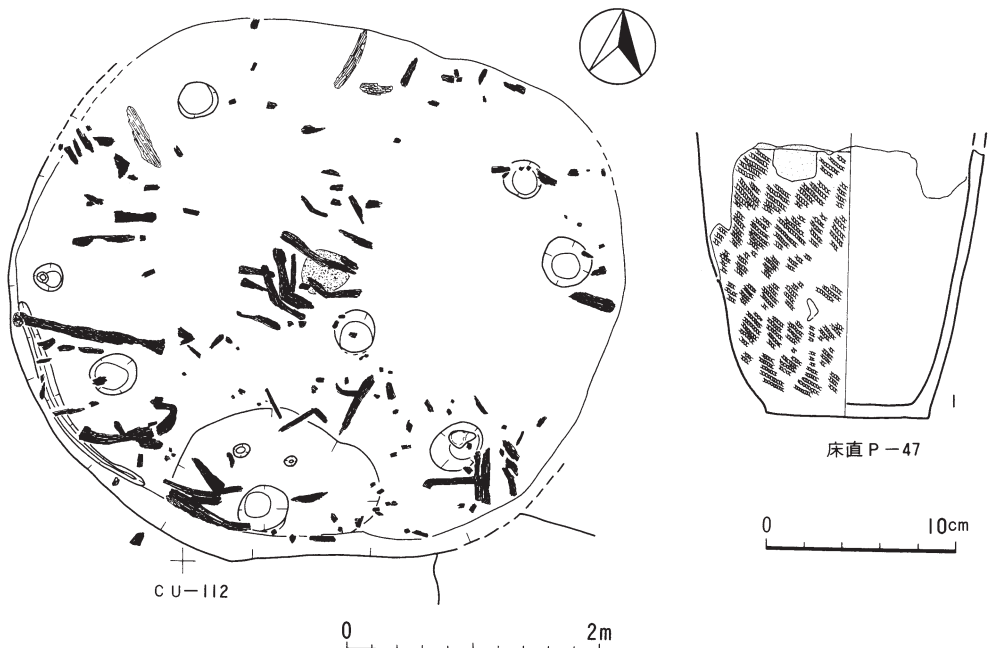
＜柱穴＞ 11個のピットを検出した。このうち位置関係から支柱穴と考えられるのは、P₂～P₅の4個である。ピットの深さは、以下のとおりである。

P₁…119cm、P₂…70cm、P₃…83cm、P₄…61cm、P₅…72cm、P₆…46cm、P₇…26cm、P₈…32cm、P₉…24cm、P₁₀…19cm

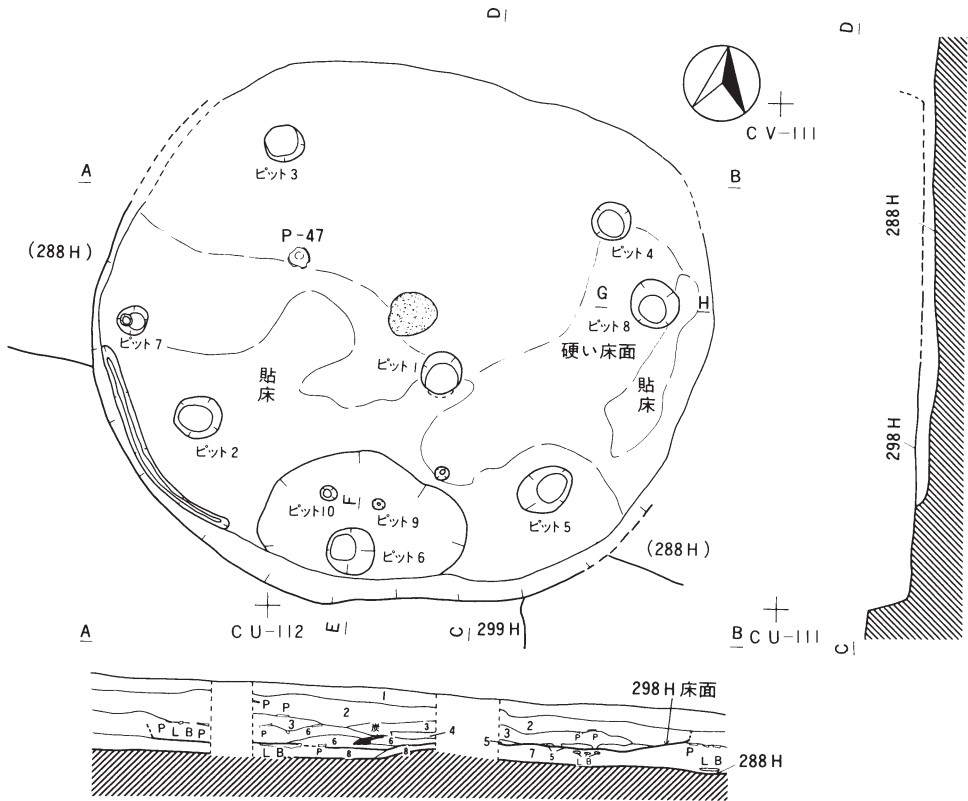
このうちP₁は、後日の調査で、第288号住居跡の支柱穴の一つであることが、判明した(第288号住居跡のP₈とした)。

＜炉＞ ほぼ中央で、35×50cmの楕円形の地床炉を検出した。

＜特殊施設＞ 南壁に接して検出した。壁際に検出したP₆に向かい、楕円形状に緩やかにくぼ

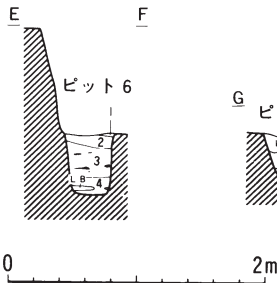


第706図 第298号住居跡(1)



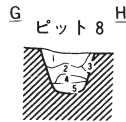
第298号住居跡土層注記

- | | | | |
|-----|------|------------|---------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10 Y R ¼ | ローム粒少量含む |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10 Y R ¾ | 炭化物微量、ローム粒多量、塊多量含む |
| 第3層 | 褐色土 | 10 Y R ¼ | 焼土微量、炭化物微量、ローム粒多量含む |
| 第4層 | 赤褐色土 | 5 Y R ½ | 焼土 |
| 第5層 | 暗褐色土 | 10 Y R ¾ | 炭化物多量含む |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10 Y R ¾ | 炭化物多量含む |
| 第7層 | 黄褐色土 | 10 Y R 5/6 | 焼土多量、炭化物少量含む |
| 第8層 | 褐色土 | 10 Y R ¼ | ローム粒多量含む |
| 第9層 | 褐色土 | 10 Y R ¼ | ローム粒多量、塊多量含む |



ピット6 土層注記

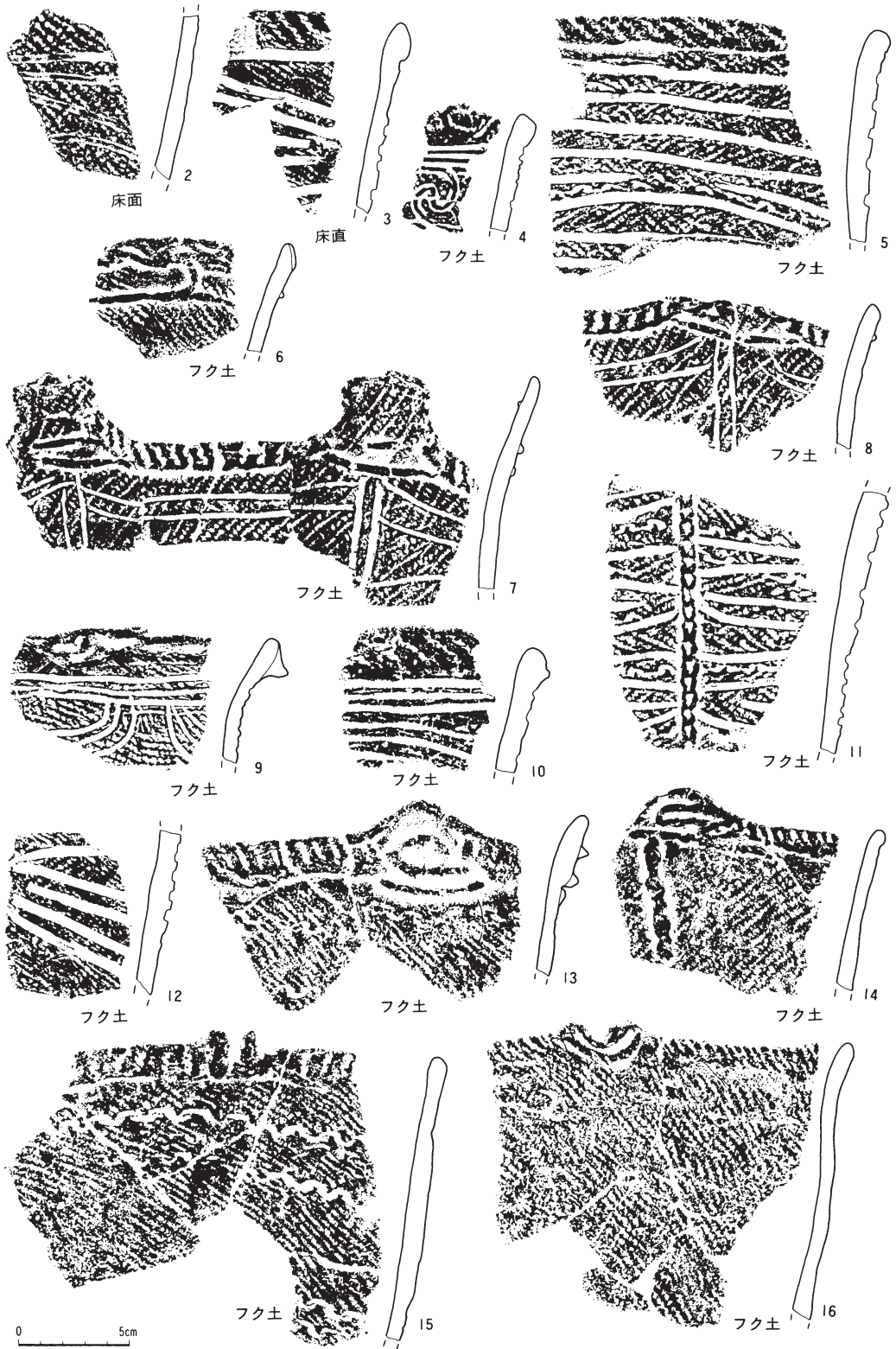
- | | | | |
|-----|---------|-----------|--------------|
| 第1層 | 暗赤褐色土 | 5 Y R ¾ | 焼土多量、炭化物多量含む |
| 第2層 | 褐色土 | 10 Y R ½ | |
| 第3層 | 明赤褐色土 | 5 Y R ½ | 焼土、炭化物互層 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10 Y R ¾ | 焼土粒多量含む |
| 第5層 | にぶい黄褐色土 | 2.5 Y R ¾ | ロームブロック含む |



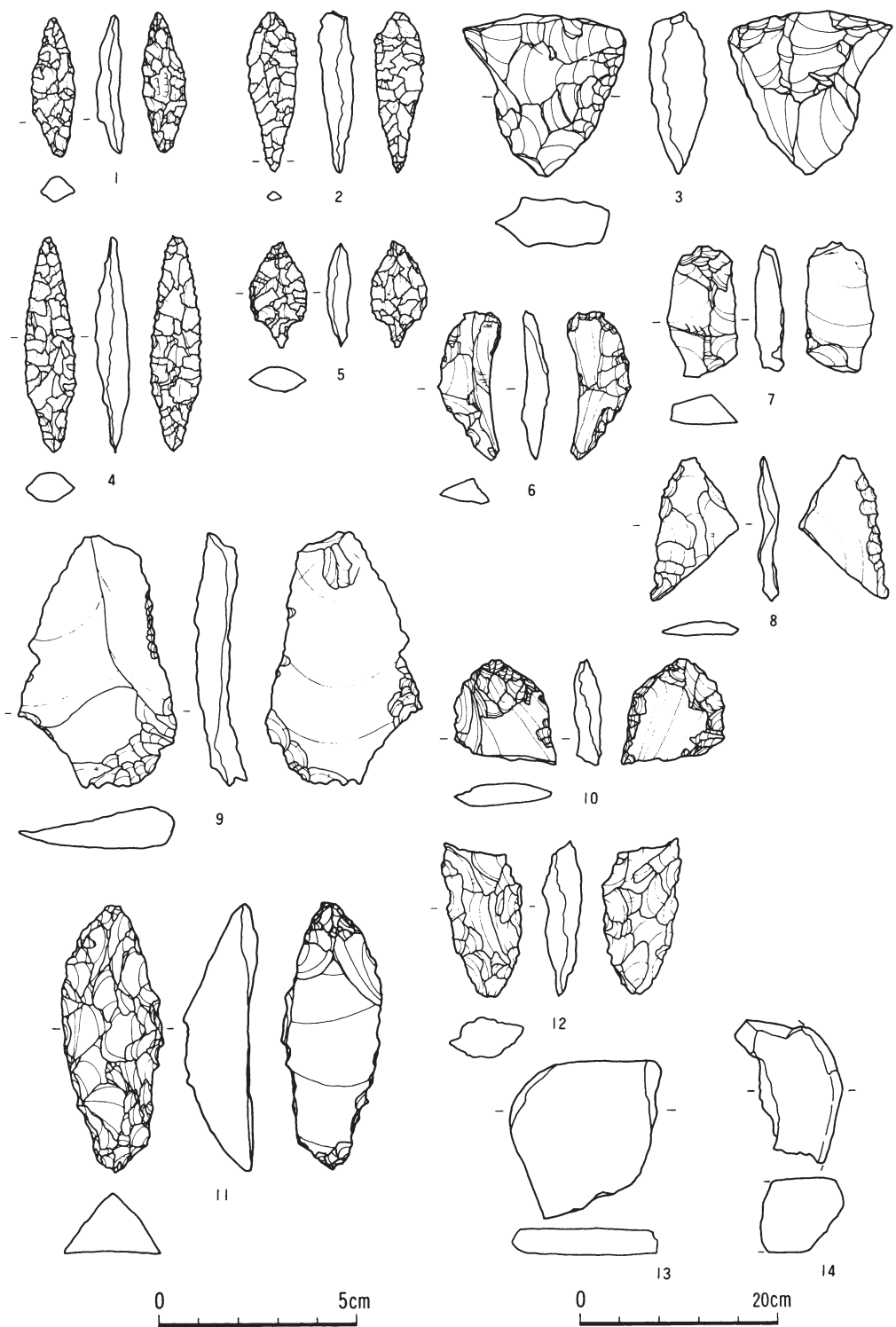
ピット8 土層注記

- | | | | |
|-----|------|----------|---------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10 Y R ¾ | 焼土多量、炭化物多量、ローム粒少量含む |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10 Y R ¾ | ローム粒少量含む |
| 第3層 | 褐色土 | 10 Y R ½ | ローム粒多量含む |
| 第4層 | 褐色土 | 10 Y R ¼ | ローム粒多量、塊多量含む |
| 第5層 | 暗褐色土 | 10 Y R ¾ | ローム粒少量含む |

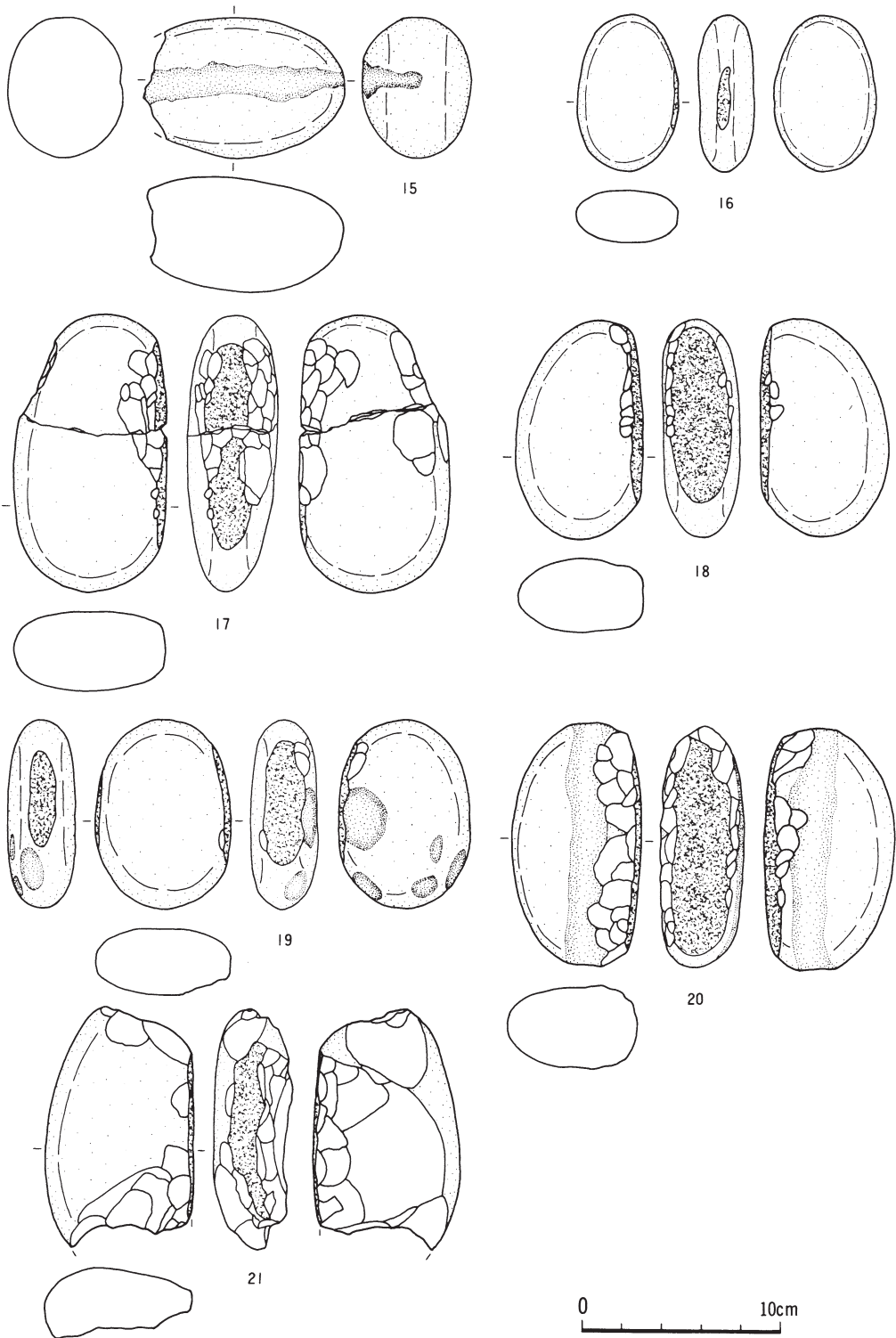
第707図 第298号住居跡(2)



第708図 第298号住居跡3)



第709图 第298号住居迹(4)



第710图 第298号住居跡(5)

んでいる（床面から8cm）。P₆の両脇には小ピット（P₉・P₁₀）が付属している。

<堆積土> 全般にローム粒・焼土・炭化物を含む暗褐色～褐色土を主体とした堆積が見られた。

<出土遺物> 覆土からは比較的多量の遺物が出土した。炭化材の上部での出土が多いが、下部からのものは少ない。P-47は炭化材下部から出土したものである。

石器は、床面から石鏃1点、石錐1点、不定形石器1点、床面直上から不定形石器2点、敲磨器類1点、覆土から石鏃10点、不定形石器13点、敲磨器類6点、石皿2点が出土し、総数37点である。

<小結> 本住居跡の時期は、円筒上層e式期と考えられる。 (畠山 昇)

第299号住居跡（第711図～第713図）

<位置と確認> CT・CU-111～113グリッドで、第298・318号住居跡の調査中に確認した。

<重複> 第294・298・312・318号住居跡より古い。また、本住居は調査の結果、拡張がみとめられたので、拡張前をA、拡張後のものをBとして記述する。

<平面形・規模> 平面形はいずれも隅丸長方形である。推定規模は、A住居跡は短軸4m前後、長軸6m20cm前後（床面での計測）で、推定床面積は、21.3m²である。B住居跡は短軸4m前後、長軸6m85cm（床面での計測）で、推定床面積は、23.5m²である。

<壁・床面> 東西壁の壁高は20～25cmで、壁は急に立ち上がる。床面は平坦で、堅緻である。

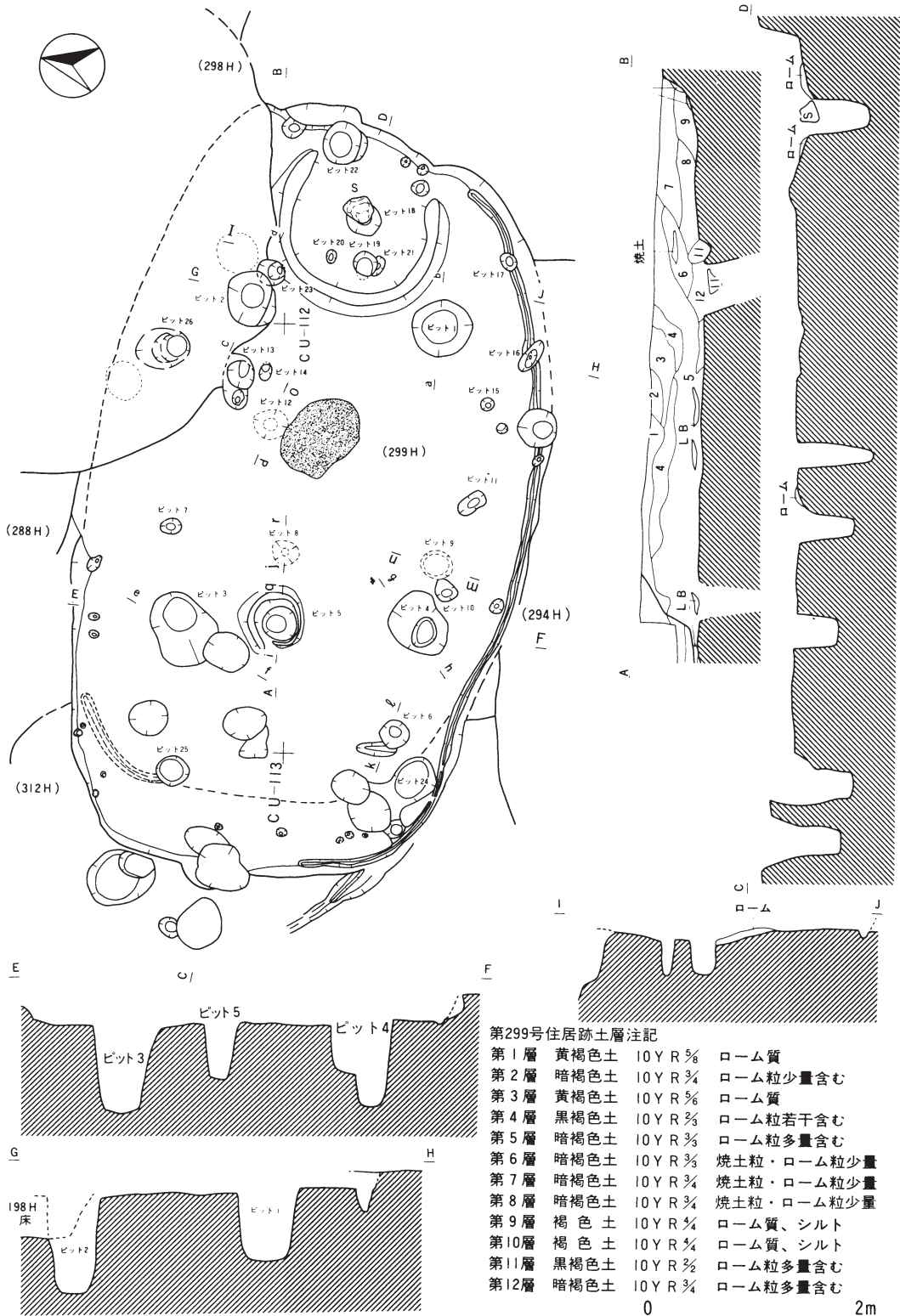
<壁溝> 南壁から西側にかけて幅5～10cm、深さ5cm前後の壁溝を検出した。南西部では若干くびれて検出したが、床面を剥いだ段階で、これと対応する壁溝を北西側にも検出した（B住居跡のものと考えられる）。

<柱穴> 約50個のピットを検出したが、このうち7個は本住居跡より新しい住居跡に伴うことが確かめられている。A住居跡の柱穴はP₁～P₄の4本柱と思われ、拡張に伴って（B住居跡）これにP₂₄・P₂₅が加わった6本柱と考えられる。主なピットの深さは、以下のとおりである。

P₁…96cm、P₂…80cm、P₃…73cm、P₄…77cm、P₅…51cm、P₆…40cm、P₇…45cm、P₈…69cm、P₉…43cm、P₁₀…19cm、P₁₁…27cm、P₁₂…33cm、P₁₃…32cm、P₁₄…20cm、P₁₈…64cm、P₁₉…29cm、P₂₀…30cm、P₂₁…35cm、P₂₂…33cm、P₂₃…15cm、P₂₄…22cm、P₂₅…10cm、P₂₆…95cm。

<炉> 中央から東に寄っているところで検出した。60～80cmの不整楕円形の地床炉で、6cmほどくぼんでいる。これ以外には検出されなかったため、拡張後も現位置を保っていたものと考えられる。

<特殊施設> 東壁に接して検出した。壁の一部が若干張り出しており、これに対応するように、ロームの盛土（幅20cm、高さ5cm）が半円状に巡らしている。全体の形状は楕円形で短軸



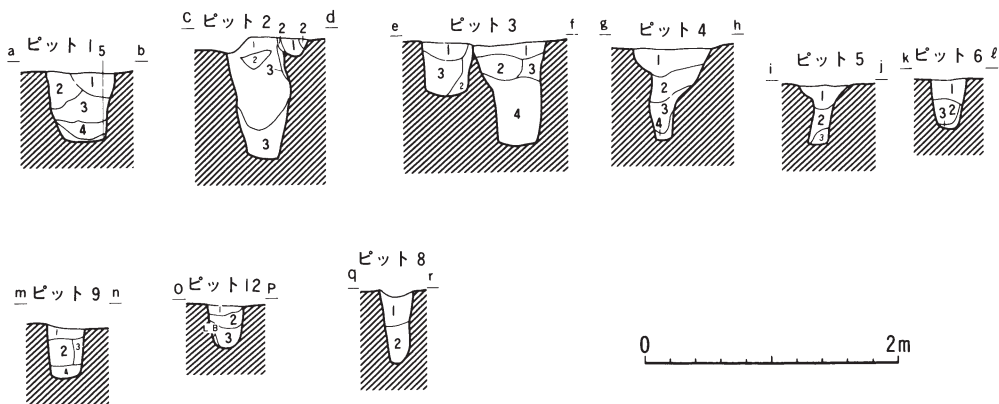
第711図 第299号住居跡(1)

140cm、長軸165cmの規模でかなり大きなものである。中央には径30cmのピット (P₁₈) とこのピットの両脇に径10cm前後の小ピット (P₂₀・P₂₁) を検出した。なお、東壁に接して検出したピット (P₂₂) は拡張前 (A住居跡) の施設の可能性も考えられるが、確認できなかった。

<堆積土> 上部では黄褐色土の堆積が見られるが、下位では暗褐色土を主体とした堆積が見られた。

<出土遺物> 覆土から床面にかけて少量の遺物が出土した。土器は、床面から円筒上層d式土器が出土した。

石器は、床面から石鏃1点、不定形石器1点、床面直上から石筥1点、覆土から石鏃2点、ピエス・エスキューユ1点、不定形石器2点、ピットから不定形石器5点が出土し、総数13点である。



ピット1土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R% 炭化物少量、ローム粒多量
- 第2層 暗褐色土 10Y R% 炭化物少量、ローム粒少量含む
- 第3層 黄褐色土 10Y R% 炭化物少量、ローム粒多量含む
- 第4層 褐色土 10Y R% 炭化物少量、ローム粒少量含む
- 第5層 黄褐色土 10Y R% ローム質

ピット4土層注記

- 第1層 黒褐色土 10Y R% ローム粒多量含む
- 第2層 褐色土 10Y R% 炭化物微量含む
- 第3層 黄褐色土 10Y R% 炭化物少量、ローム粒少量含む
- 第4層 黄褐色土 10Y R% ローム質

ピット5土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R% ローム粒少量含む
- 第2層 褐色土 10Y R% ローム粒微量含む
- 第3層 黄褐色土 10Y R% ローム質

ピット12土層注記

- 第1層 黄褐色土 10Y R% ローム質
- 第2層 黄褐色土 10Y R% ローム粒多量含む
- 第3層 黄褐色土 10Y R% 炭化物微量含む

ピット2 (ピット23とペア) 土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R% 炭化物少量、ローム粒少量含む
- 第2層 濃い黄褐色土 10Y R% 炭化物多量、ローム粒多量含む
- 第3層 黄褐色土 10Y R% 炭化物微量、ローム多量含む

ピット23 (ピット2とペア) 土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R% 焼土極微量、炭化物少量、ローム粒少量含む
- 第2層 暗褐色土 10Y R% ローム粒少量含む
- 第3層 明黄褐色土 10Y R% ローム質

ピット3土層注記

- 第1層 黄褐色土 10Y R% ローム粒少量含む
- 第2層 黄褐色土 10Y R% 炭化物微量、ローム粒少量含む
- 第3層 褐色土 10Y R% ローム粒少量含む
- 第4層 褐色土 10Y R% ローム粒少量含む

ピット6土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R% 炭化物少量、ローム粒少量含む
- 第2層 褐色土 10Y R% ローム粒少量含む
- 第3層 明黄褐色土 10Y R% ローム質

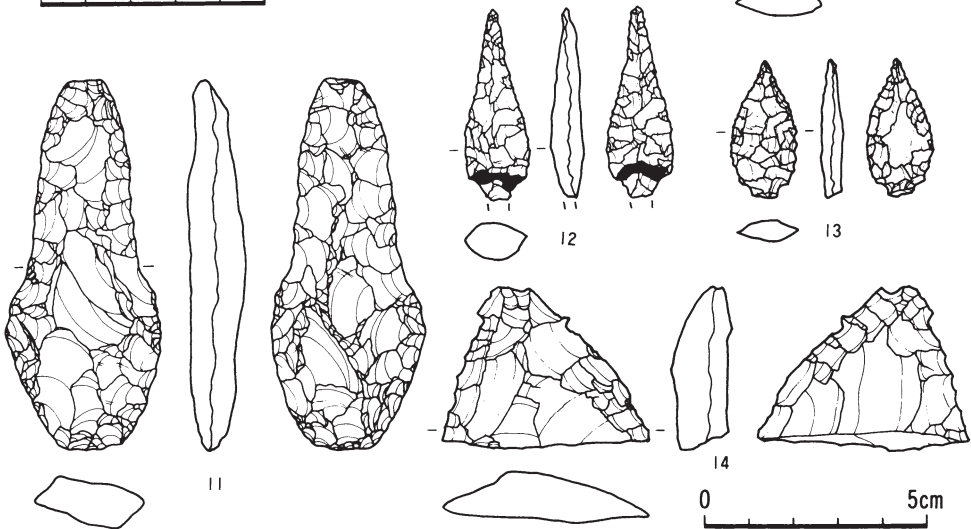
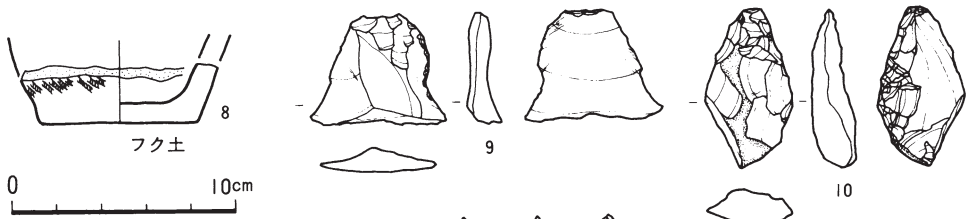
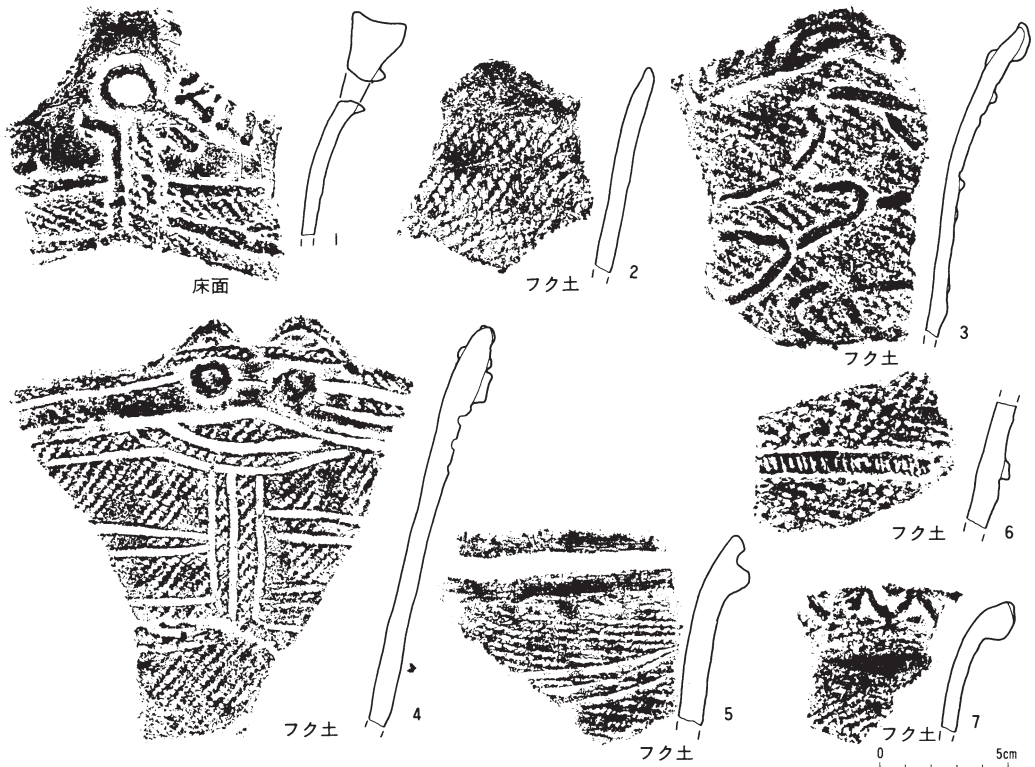
ピット8土層注記

- 第1層 明黄褐色土 10Y R% 炭化物少量、ローム粒多量含む
- 第2層 黄褐色土 10Y R% 炭化物微量、ローム粒多量含む

ピット12土層注記

- 第1層 明黄褐色土 10Y R% ローム質
- 第2層 黄褐色土 10Y R% ローム粒多量含む
- 第3層 褐色土 10Y R% 炭化物少量、ローム粒多量含む

第712図 第299号住居跡(2)



第713図 第299号住居跡3)

〈小結〉 本住居跡の時期は、床面から出土した土器から、円筒上層d式期に相当するものと考えられる。(畠山 昇)

第300号住居跡 (第714~716図)

〈位置と確認〉 CW-115グリッドに位置し、第Ⅲ層を調査中に褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 第302・303・424号住居跡と重複し、第302号住居跡より古く、第303住居跡より新しい。南側にある第424住居跡との新旧関係は不明である。

〈平面形・規模〉 第302号住居跡と重複し、平面形は不明であるが、確認された規模は東西2m、南北3.4mである。

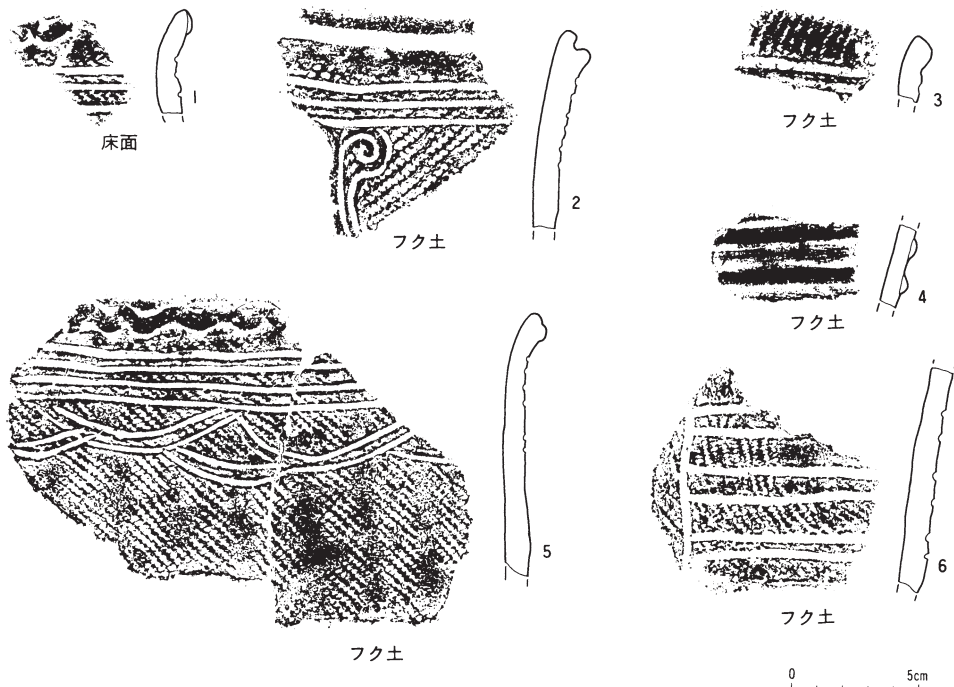
〈壁・床面〉 第Ⅳ層を壁面として、西壁の高さは70~80cmである。また、確認されている床面は、全面貼り床されており、やや凸凹がある。

〈壁溝〉 確認されなかった。

〈柱穴〉 ピットは床面から3個検出され、 P_1 ・ P_2 は主柱穴と考えられる。各ピットの深さは、 P_1 …65cm・ P_2 …63cm・ P_3 …20cmの深さである。

〈炉〉 確認できなかった。

〈特殊施設〉 確認できなかった。



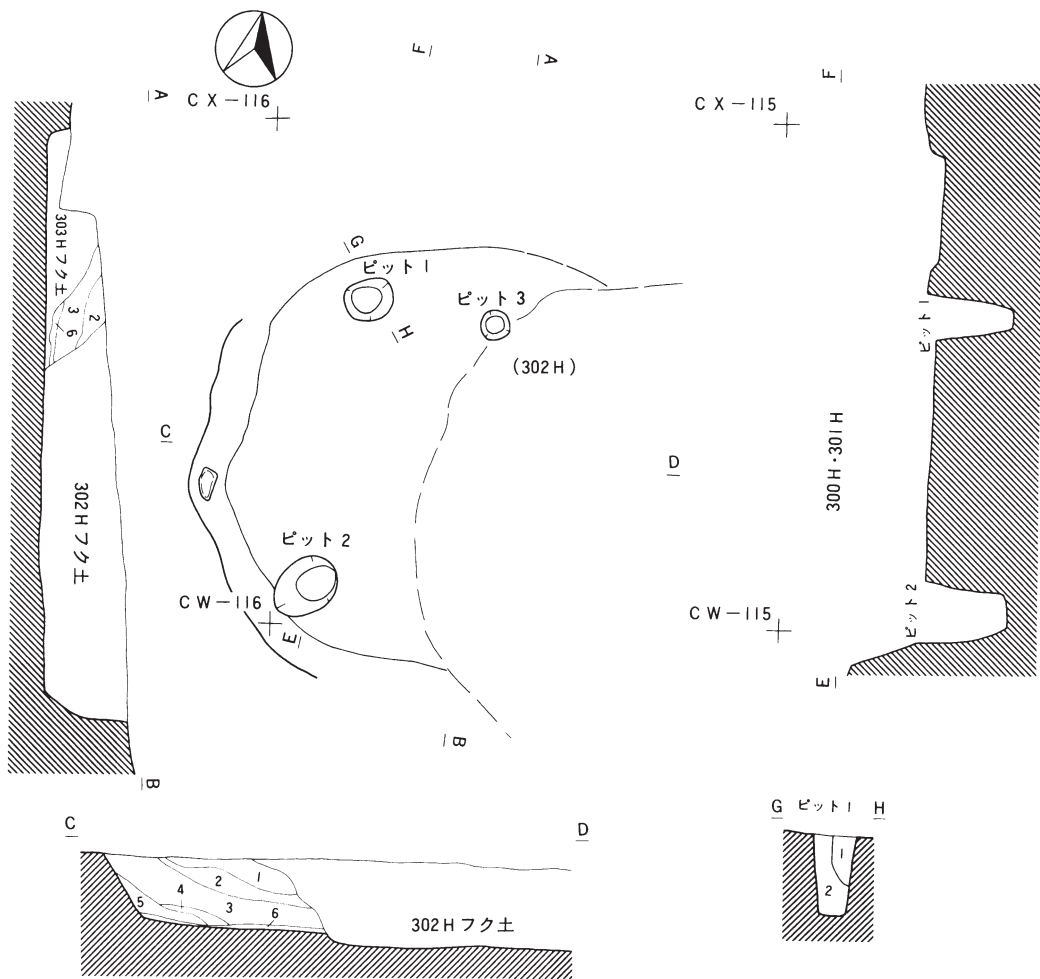
第714図 第300号住居跡(1)

<堆積土> 褐色土を主体とし、6層に分層された。

<出土遺物> 土器は床面から(1)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は床面から石鏃1点、床面直上から不定形石器1点、覆土から不定形石器2点が出土した。

<小結> 床面出土の土器(1)から円筒上層e式期の住居跡と考えられる。現床面から2～3cm下でもう1枚の貼り床が確認されているので建て替えられた住居跡であることが判明した。

(長崎 勝巳)



第300号住居跡土層注記

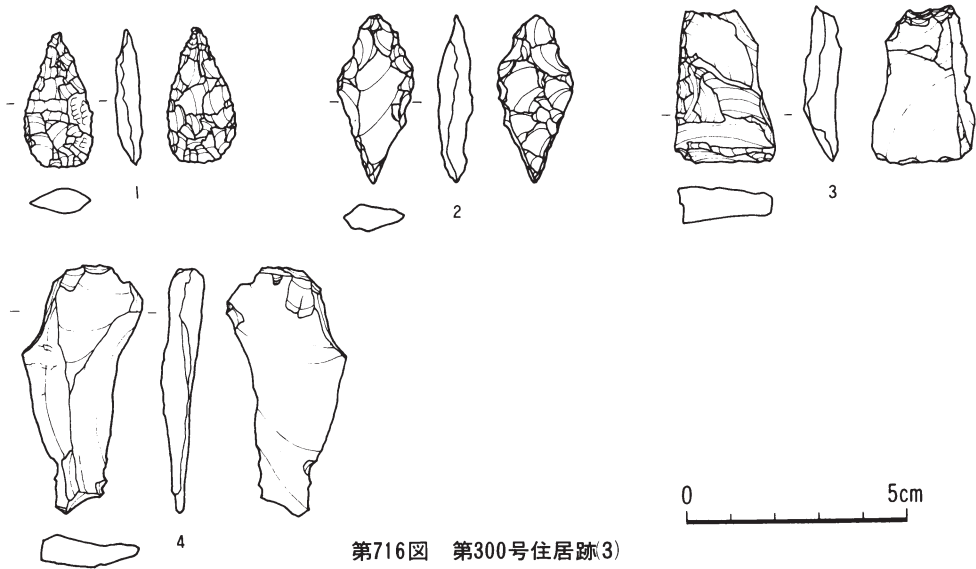
- 第1層 褐色土 10Y R 6/6 炭化物微量、ローム粒少量
- 第2層 褐色土 10Y R 4/4 炭化物極微量
- 第3層 褐色土 10Y R 6/6 ローム粒少量
- 第4層 暗褐色土 10Y R 3/3
- 第5層 褐色土 10Y R 4/4 ロームB混入
- 第6層 褐色土 10Y R 4/4 炭化物少量

第300号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/3 ローム粒微量、炭化物微量含む
- 第2層 暗褐色土 10Y R 4/4 ロームブロック多量含む

0 2m

第715図 第300号住居跡2)



第302号住居跡（第717～724図）

＜位置と確認＞ CV・CW-113～115グリッドに位置し、第IV層を調査中に褐色土の落ち込みを確認した。

＜重複＞ 第223・226・227・300・303・304・424号住居跡・第776号土壙と重複し、第223・226・227・号住居跡より古く、他より新しい。また、本住居跡自体、数回の建て替えによる重複が認められる。

＜平面形・規模＞ A（最終プラン）は長軸8 m60cm、短軸5 m程の楕円形を呈する。床面積は32.22㎡である。Bは長軸7 m、短軸4 m70cm程（床面での推定）の楕円形を呈するものと考えられる。床面積は24.41㎡である。Cは長軸6 m、短軸4 m程（床面での推定）の楕円形を呈する。床面積は21.07㎡である。Dは長軸5 m40cm、短軸3 m60cm程（床面での推定）の楕円形を呈する。床面積は15.26㎡である。Eは長軸4 m40cm、短軸3 m20cm程（床面での推定）の楕円形を呈する。床面積は11.58㎡である

＜壁・床面＞ 第IV層を壁面とし、壁高は南壁は60～70cm、東壁40cm程である。北・西壁は他住居跡の堆積土を壁としている。床面はほぼ平坦である。

＜壁溝＞ 住居跡の内側に5条確認された。Aは南北側で確認され壁溝の幅8～20cm、深さ4～13cm、Bはほぼ南北に確認され壁溝の幅6～14cm、深さ5～14cmである。CはBと同一と考えられるが東側が小さくなっている。壁溝の幅8～20cm、深さ5～9 cm。Dはほぼ一周するが東側で途切れている。壁溝の幅8～16cm、深さ5～12cmである。Eもほぼ一周するが東側で途



第717図 第302号住居跡(1)

第302号住居跡土層注記

第1層	褐色土	10Y R 5/6	ローム粒多量
第2層	褐色土	10Y R 5/6	炭化物微量、ローム粒少量
第3層	褐色土	10Y R 5/6	ローム粒少量
第4層	褐色土	10Y R 5/6	ローム粒少量
第5層	黄褐色土	10Y R 5/6	L、Bの塊?
第6層	黄褐色土	10Y R 5/6	ローム粒大量
第7層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒少量
第8層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒少量
第9層	褐色土	10Y R 3/4	ローム粒微量
第10層	褐色土	10Y R 3/4	炭化物微量、ローム粒少量
第11層	暗褐色土	10Y R 3/4	
第12層	褐色土	10Y R 3/4	ローム粒微量
第13層	褐色土	10Y R 3/4	炭化物大量
第14層	褐色土	10Y R 3/4	ローム粒多量
第15層	褐色土	10Y R 3/4	ローム粒多量
第16層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒微量
第17層	褐色土	10Y R 3/4	炭化物微量、ローム粒微量
第18層	褐色土	10Y R 3/4	
第19層	黄褐色土	10Y R 5/6	L、B、多量

焼土2土層注記

第1層	赤褐色土	5 Y R 5/6
-----	------	-----------

第302号住居跡土層注記

第20層	暗褐色土	10Y R 3/4	炭化物微量、ローム粒微量
第21層	褐色土	10Y R 3/4	炭化物微量、ローム粒微量
第22層	褐色土	10Y R 3/4	ローム粒少量
第23層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒微量
第24層	褐色土	10Y R 3/4	炭化物少量、ローム粒微量
第25層	黄褐色土	10Y R 5/6	暗褐色土との混合
第26層	褐色土	10Y R 5/6	炭化物微量、ローム粒微量
第27層	暗褐色土	10Y R 3/4	焼土B微量、炭化物微量
第28層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒微量
第29層	褐色土	10Y R 3/4	ローム粒多量
第30層	褐色土	10Y R 3/4	ロームブロック多量
第31層	褐色土	10Y R 3/4	焼土B、炭化物微量
第32層	暗褐色土	10Y R 3/4	ロームブロック少量
第33層	黄褐色土	10Y R 5/6	
第34層	褐色土	10Y R 5/6	炭化物微量
第35層	暗褐色土	10Y R 3/4	炭化物少量

第302号住居跡焼土1土層注記

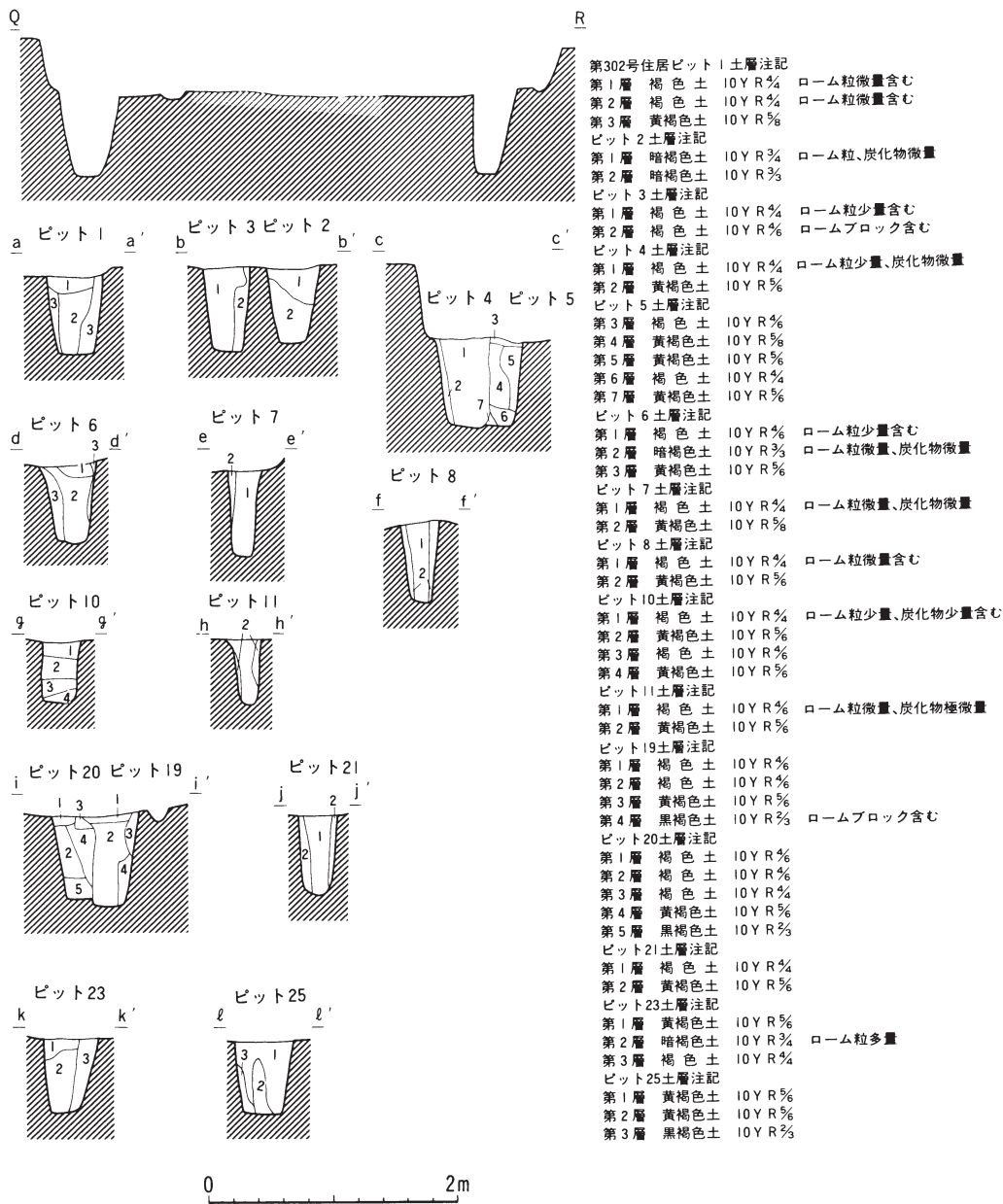
第1層	褐色土	10 Y R 3/4	ロームブロック、焼土粒微量
第2層	暗赤褐色土	5 Y R 3/4	焼土層
第3層	暗褐色土	10 Y R 3/4	ローム粒少量含む
第4層	黄褐色土	10 Y R 5/6	
第5層	赤褐色土	5 Y R 5/6	炭化物微量含む
第6層	褐色土	7.5 Y R 3/4	ローム粒少量含む



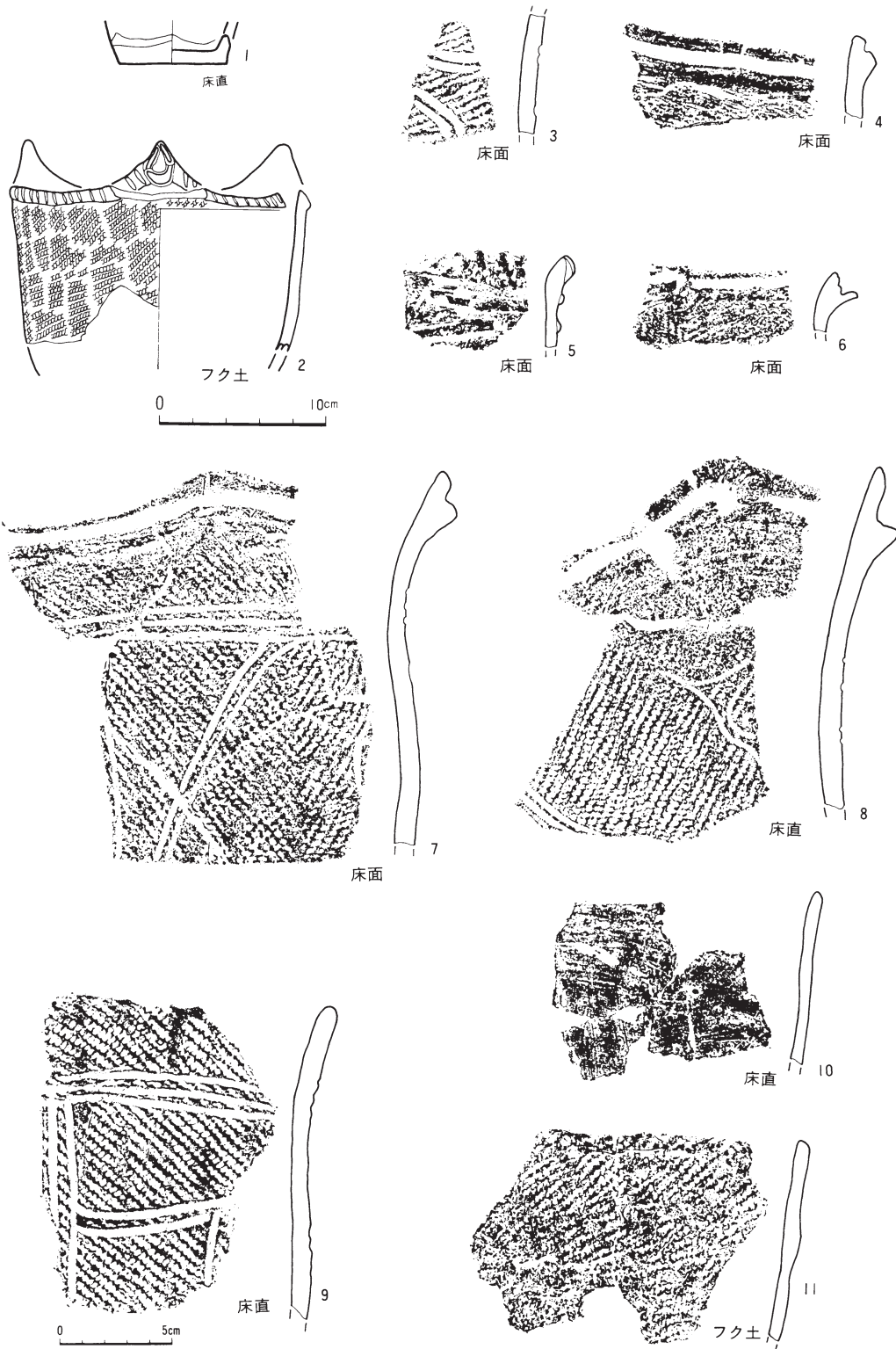
第718図 第302号住居跡2)

切れている。壁溝の幅8~16cm、深さ6~11cmである。

<柱穴> 床面及び床下より大小合わせて100個以上のピットが検出された。Aの主柱穴は、P₁-P₁₁・P₃-P₁₈・P₄-P₉・P₆-P₈・P₇-P₁₀の10本柱、BはP₂-P₁₉・P₅-P₂₃・P₃-(P₁₀)の6本柱、CはP₃₁-(P₁₉)・P₁₇-P₂₈の4本かP₃₂-P₂₂を組み合わせた6本柱、DはP₃₆-P₂₀・P₂₄-P₂₅・P₃₅-P₃₇の6本、Eは(P₃₆)-P₃₈・(P₂₄)-P₂₁の4本が配列及び規模から推測される。各ピットの深さは、P₁…66cm・P₂…67cm・P₃…67cm・P₄…76cm・P₅…73cm・



第719図 第302号住居跡(3)



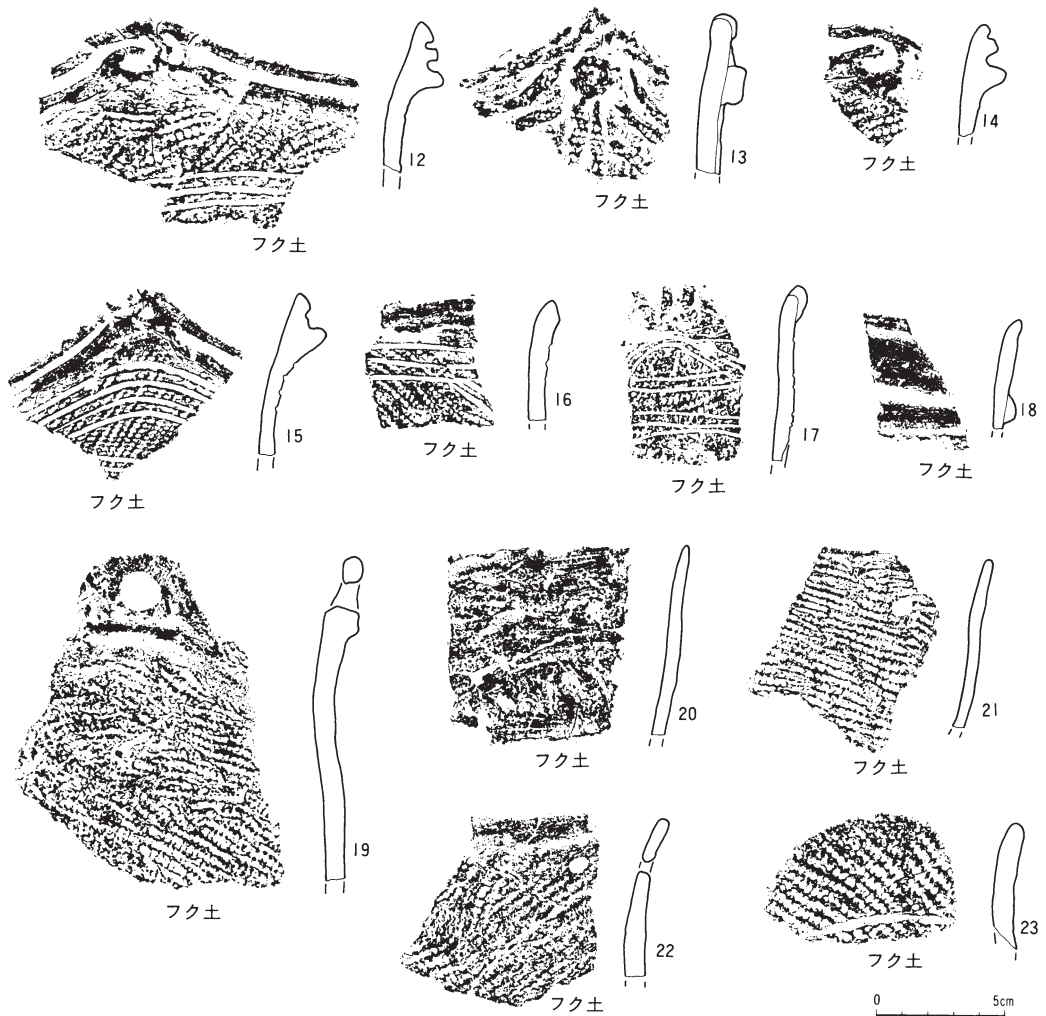
第720図 第302号住居跡(4)

P₆…57cm・P₇…76cm・P₈…67cm・P₉…72cm・P₁₀…51cm・P₁₁…57cm・P₁₂…20cm・P₁₃…32cm・P₁₄…37cm・P₁₅…20cm・P₁₆…21cm・P₁₇…71cm・P₁₈…77cm・P₁₉…78cm・P₂₀…72cm・P₂₁…67cm・P₂₂…54cm・P₂₃…74cm・P₂₄…63cm・P₂₅…65cm・P₂₆…30cm・P₂₇…15cm・P₂₈…18cm・P₂₉…17cm・P₃₀…38cm・P₃₁…72cm・P₃₂…51cm・P₃₃…57cm・P₃₄…66cm・P₃₅…30cm・P₃₆…80cm・P₃₇…27cm・P₃₈…57cmである。小ピットの深さは、3～28cmである。

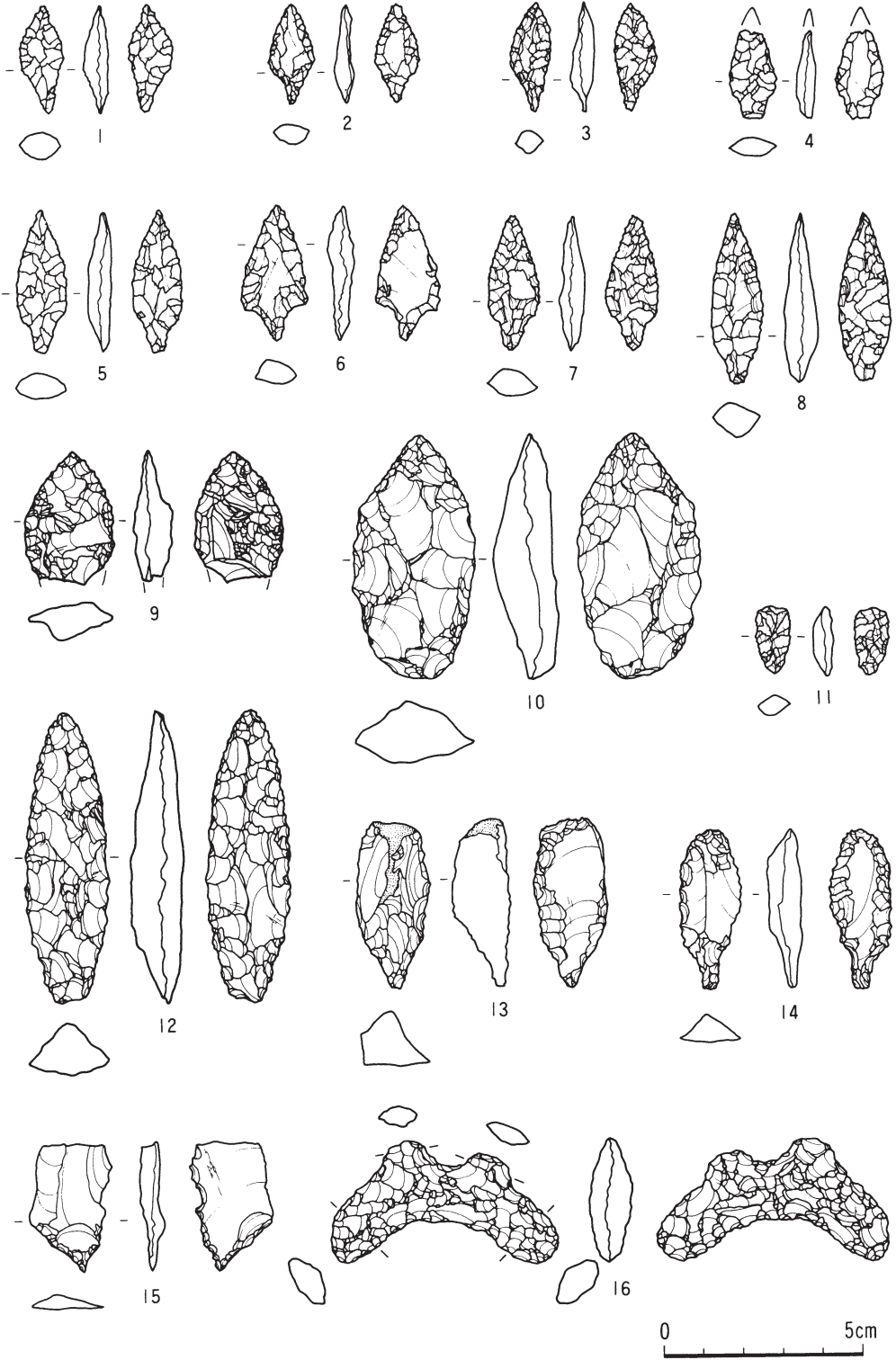
<炉> 焼土は5個検出され、すべて長軸線上に位置する。東側にある焼土が直径70cm程で、他は35～45cmであるが、いずれも円形を呈する。

<特殊施設> 確認されなかった。

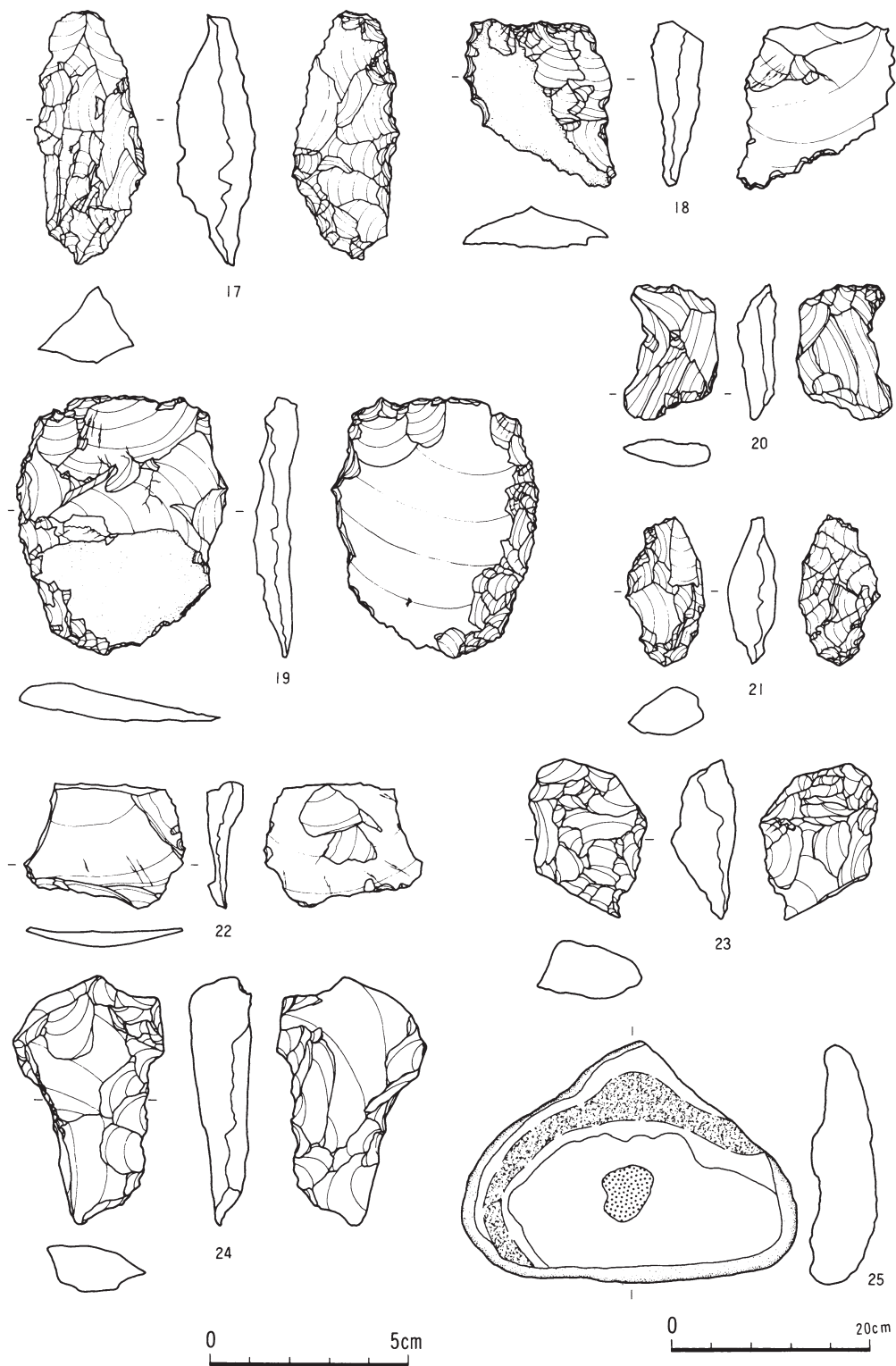
<堆積土> 35層に分層され、褐色土を主体とする堆積土には、ロームの混入が多量に見られ、人為的堆積状況と考えられる。



第721図 第302号住居跡(5)



第722图 第302号住居跡(6)

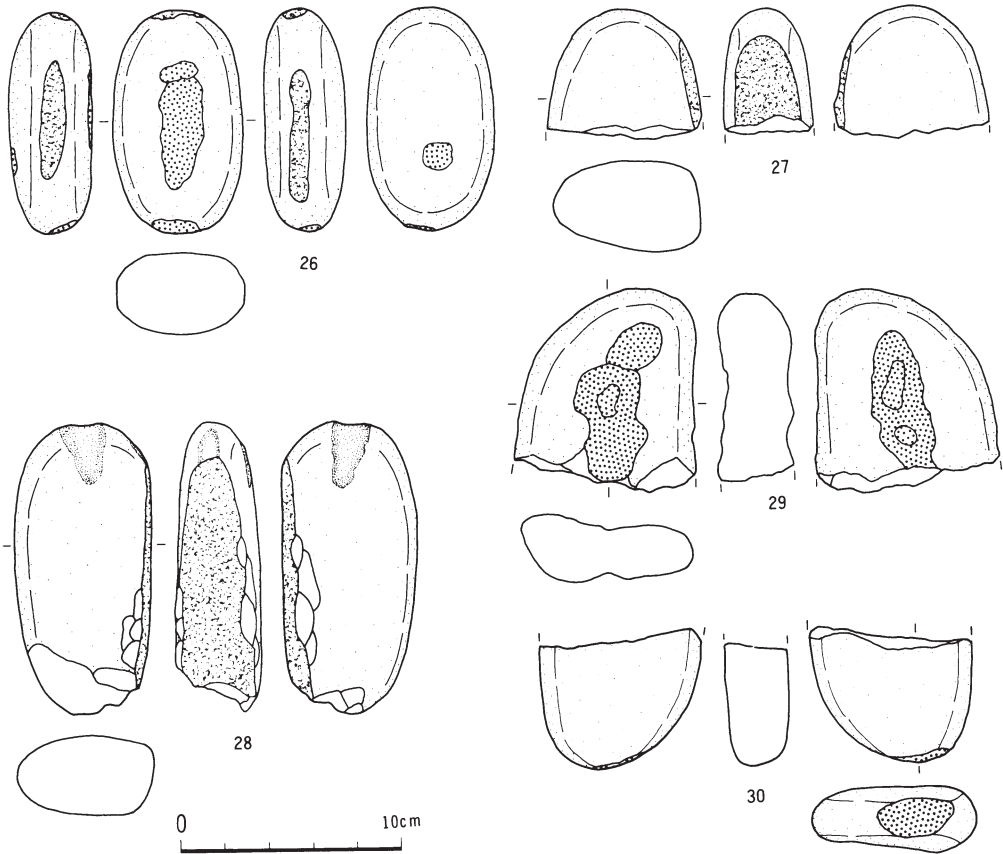


第723图 第302号住居跡(7)

＜出土遺物＞ 土器は床面・床面直上から(1・3～10)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は床面から石鏃3点、石槍1点、石錐2点、不定形石器1点、床直から石鏃3点、不定形石器1点、ピット6から不定形石器1点、ピット8から石鏃1点、不定形石器2点、覆土から石鏃16点、石槍1点、石錐3点、不定形石器30点、異形石器1点、敲磨器類5点、石皿・台石類1点、軽石1点が出土し総数73点である。

＜小結＞ 床面出土の土器から、榎林式期のものと考えられる。本住居跡の貼り床除去後に検出された小ピット（南側に多く検出された）が列状に連なる。またB柱穴のまわりには建て替えの柱穴と考えられるものも検出された。ピット39・ピット40は貼り床の連続で12～15cm凹んでいる。これらのピットは炉の周囲にあり、物を置いて倒れない様にするピットとも考えられる。

(長崎 勝巳)



第724図 第302号住居跡(8)

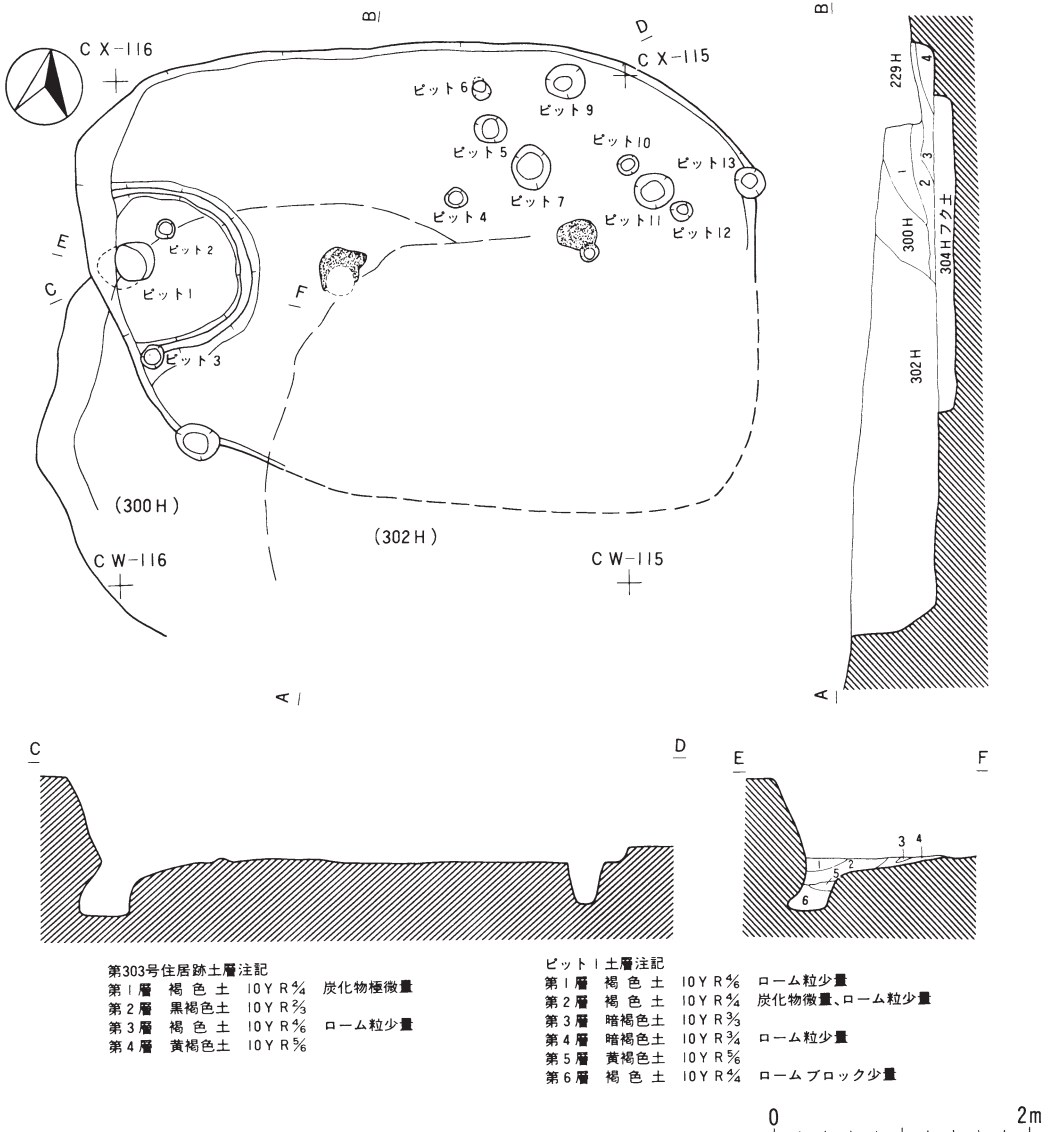
第303号住居跡（第725～727図）

＜位置と確認＞ CW-115に位置し、第302号住居跡を調査中に確認した。

＜重複＞ 第300・302・304号住居跡と重複し、第300・302号住居跡より古く、第304号住居跡よりも新しい。

＜平面形・規模＞ 長軸5m30cm、短軸3m80cm程の隅丸の長方形を呈する。（東・南壁側は第302号住居跡と重複しているため推定）床面積は14.81㎡である。

＜壁・床面＞ 第IV層を壁面とし、北壁10～13cm、西壁67cm程である。また床面は、1～3cmのロームで貼り床され、全体的に起伏のある床面である。



第725図 第303号住居跡(1)

<壁溝> 確認されなかった。

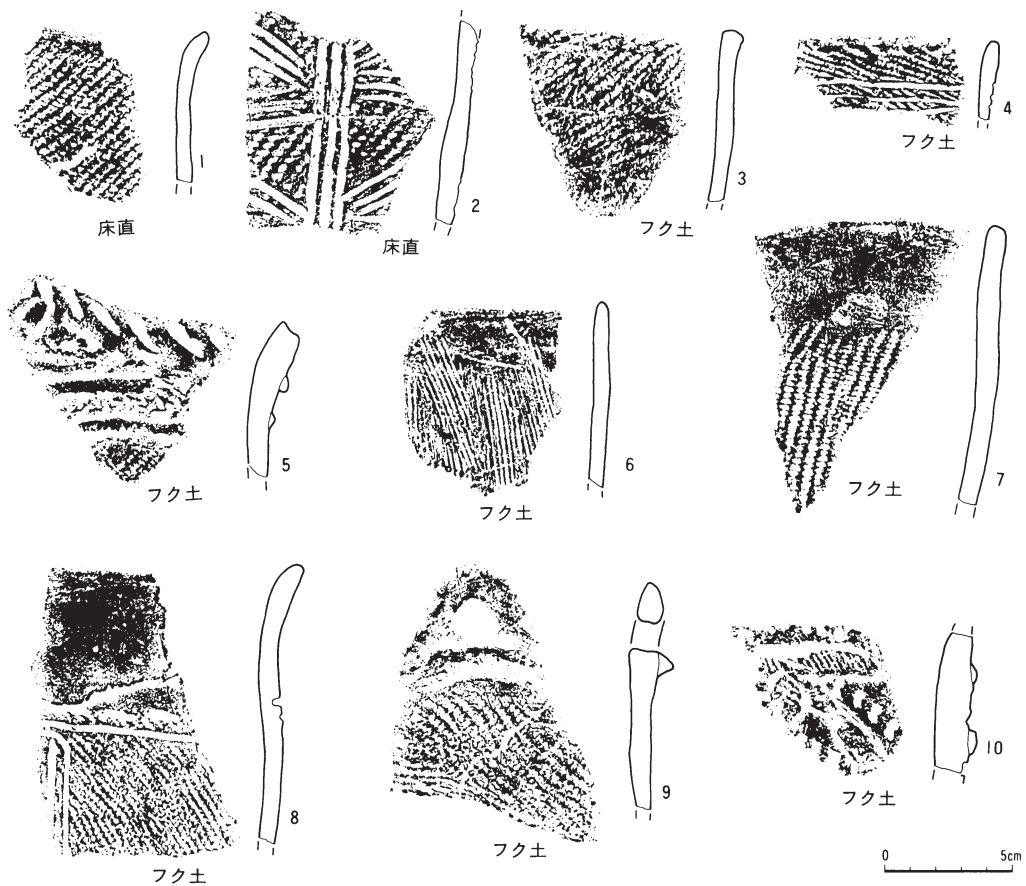
<柱穴> 床面及び床下より大小合わせて13個以上のピットが検出された。各ピットの深さは、P₁…37cm・P₂…26cm・P₃…15cm・P₄…16cm・P₅…41cm・P₆…29cm・P₇…12cm・P₈…10cm・P₉…32cm・P₁₀…27cm・P₁₁…12cm・P₁₂…27cm・P₁₃…26cmである。

<炉> 焼土が2基検出された。1つは特殊施設から50cm程離れたところにある。もう1つは東側寄りの中央部にある。共に直径30cm程の不整な円形である。

<特殊施設> 直径1m60cmの馬蹄状を呈し、盛土を巡らせている。盛土は貼り付けられたもので、施設内から3個のピットが検出された。ピットは直径10~30cm、深さ20~30cmである。

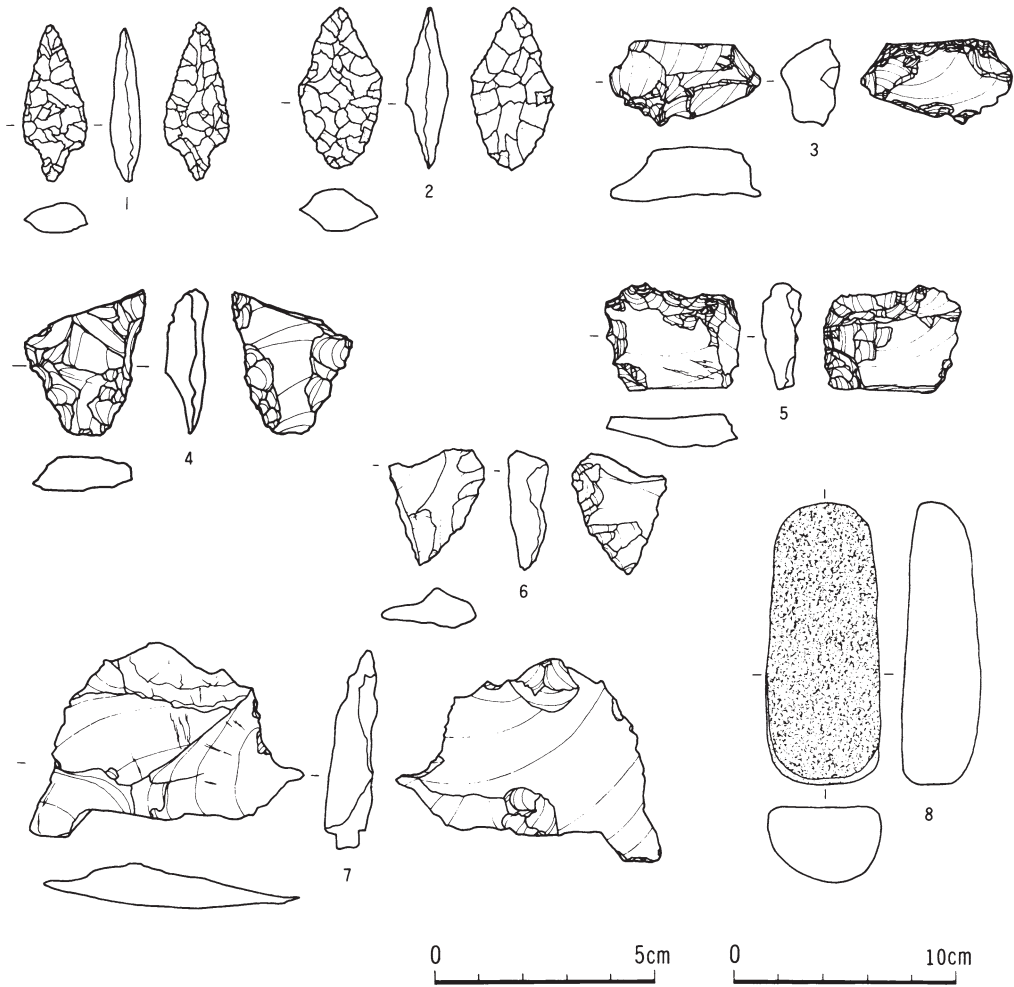
<堆積土> 確認された堆積土は壁際で、4層に分層され、褐色土が主体である。

<出土遺物> 土器は床面直上から(1・2)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は床面から不定形石器2点、床面直上から石鏃1点、不定形石器2点、覆土から石鏃3点、不定形石器3点、敲磨器類1点が出土し、総数12点である



第726図 第303号住居跡(2)

＜小結＞ 床面直上から出土している土器は、円筒上層d・e式期のもので、その時期に相当する住居跡と考えられる。(長崎 勝巳)



第727図 第303号住居跡(3)

第304号住居跡 (第728・729図)

＜位置と確認＞ CW-115グリッドに位置し、第303号住居跡を精査中に確認した。

＜重複＞ 第302・300・303住居跡と重複し、本住居跡は古い。

＜平面形・規模＞ 長軸2m70cm、短軸2m50cm程の隅丸方形を呈する。床面積は5.81㎡である。

＜壁・床面＞ 第IV層を壁面として北・西壁17～20cm、東・南壁3～7cmである。床面は全体

的に平坦であり、壁際がやや軟らかい。

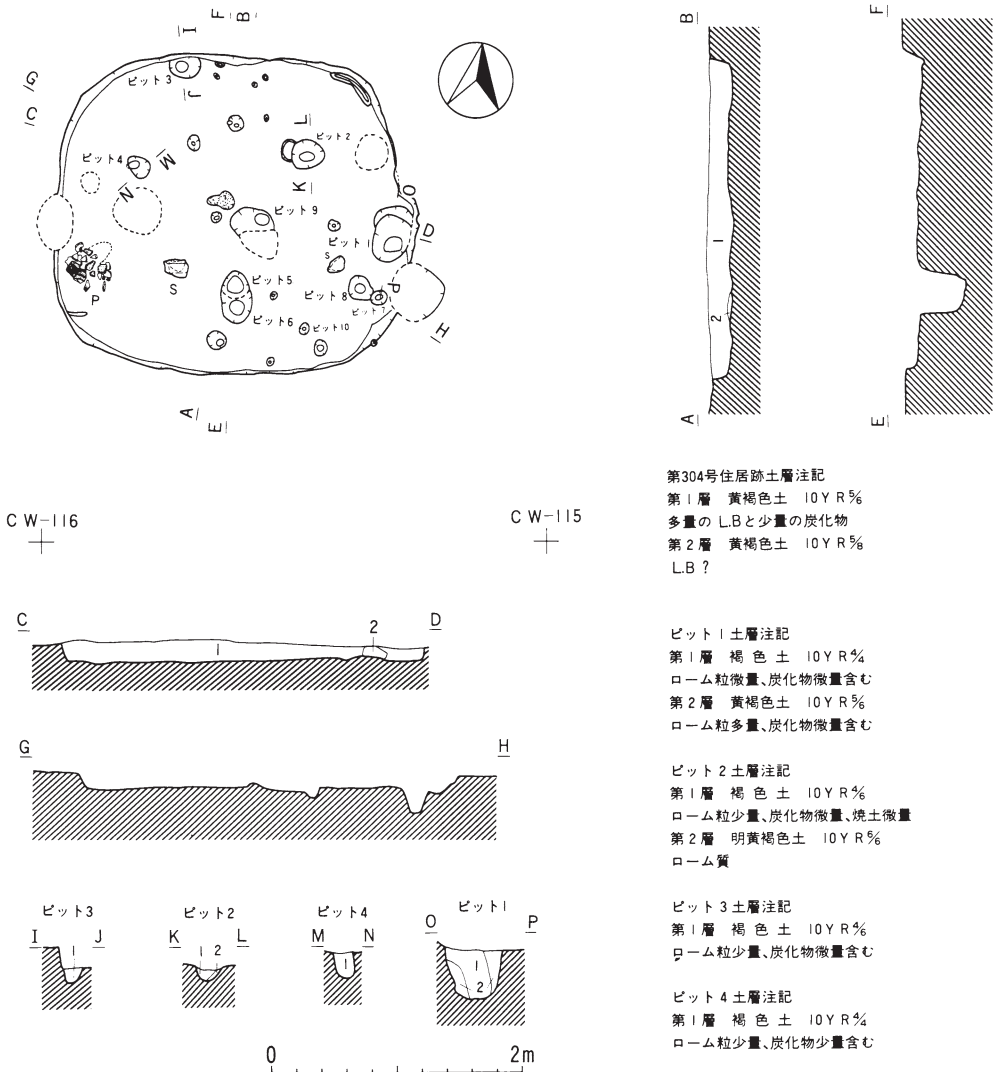
<壁溝> 北東の角で幅6cm、深さ2cmの壁溝を検出した。

<柱穴> 床面及び床下より大小合わせて24個以上のピットが検出された。主柱穴は不明であるが、各ピットの深さは、P₁…45cm・P₂…18cm・P₃…11cm・P₄…19cm・P₅…35cm・P₆…36cm・P₇…5cm・P₈…18cm・P₉…4cm・P₁₀…14cm。また、直径8～16cmのピットの深さは4～15cmである。

<炉> 地床炉で住居跡の中央部に位置する。20×14cmの不整な楕円形である。

<特殊施設> 確認されなかった。

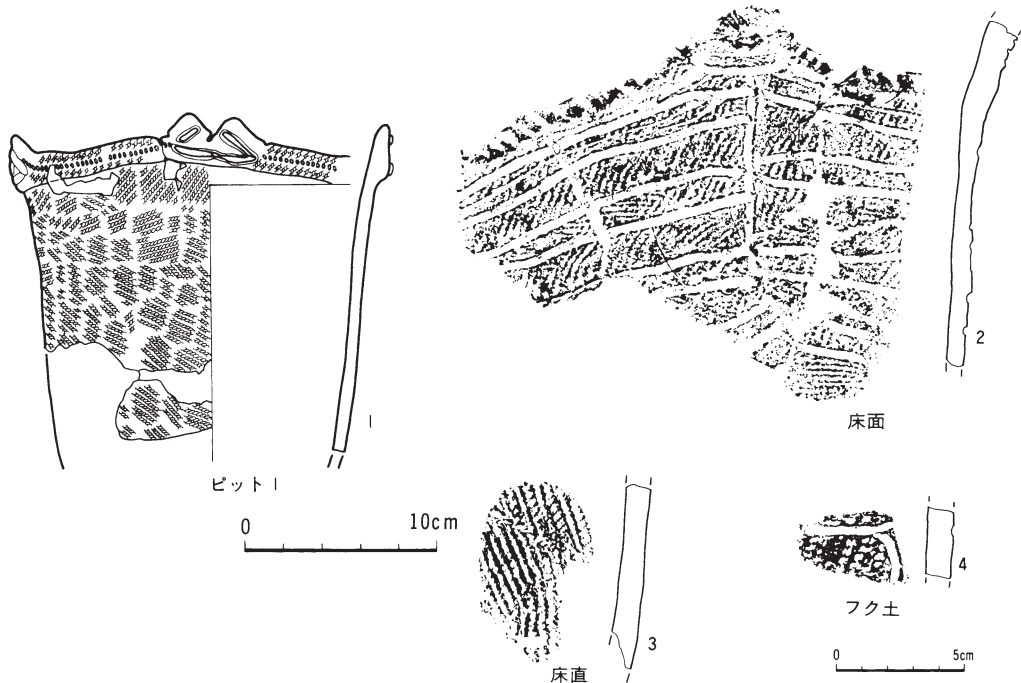
<堆積土> 2層に分層され、黄褐色土を主体とする。



第728図 第304号住居跡(1)

<出土遺物> 土器は床面・床面直上から(1・2)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は出土していない。

<小結> 床面出土の土器(1)から円筒上層e式期の住居跡と考えられる。(長崎 勝巳)



第729図 第304号住居跡(2)

第305号住居跡 (第730～732図)

<位置と確認> CW・CX-113・114グリッドに位置する。

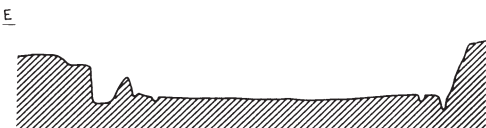
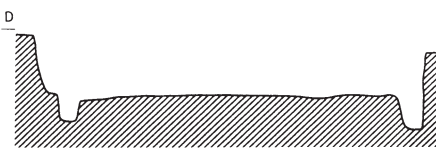
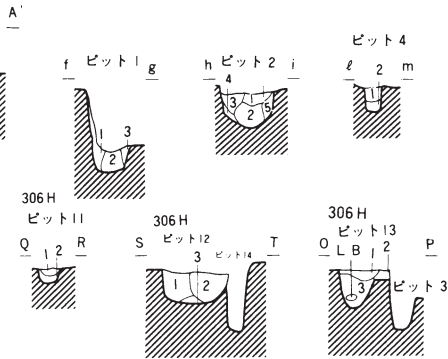
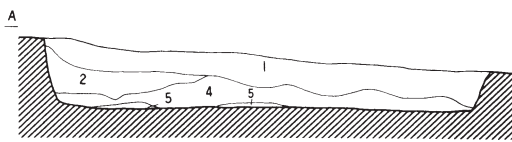
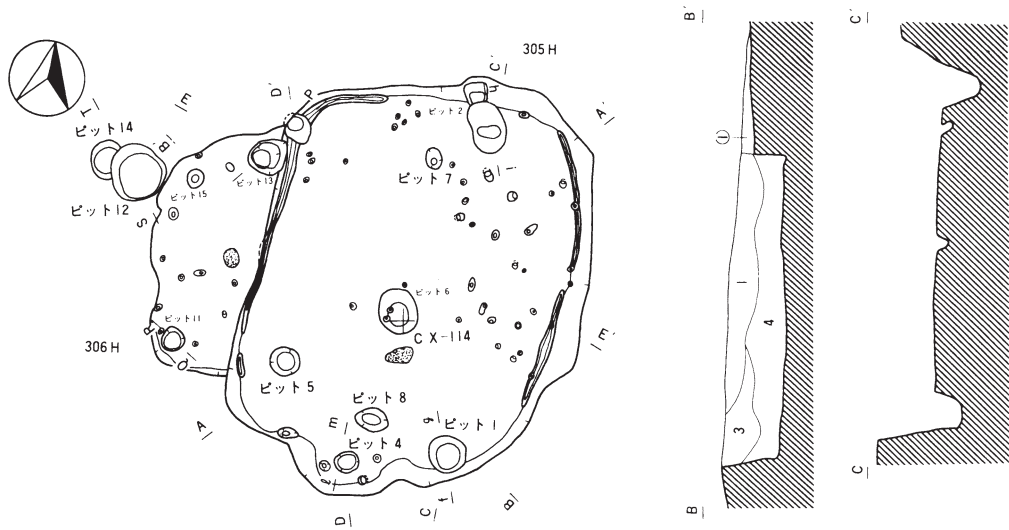
<重複> 西側に第306号住居跡があり、本住居跡が新しい

<平面形・規模> 長軸3m40cm、短軸2m60cmの楕円形を呈する。南壁中央部が幾分張り出している。床面積は6.51㎡である。

<壁・床面> 第IV層を壁面としている。北壁35cm、南壁55cm、東壁40cm、西壁25cm程である。床面も第IV層を床面とし、ほぼ平坦で、炉の周りが堅緻である。

<壁溝> 西壁及び東壁際で検出された。幅4～10cm、深さ2～5cmである。

<柱穴> 小ピットは、均一ではなく、不整に並び、北東側から多く検出された。床面及び床下から、大小合わせて53個のピットを検出した。主柱穴としてP₁～P₃を想定できるが、南西側のピットが検出されなかった。各ピットの深さはP₁…21cm・P₂…26cm・P₃…23cm・P₄…20cm・P₅…5cm・P₆…15cm・P₇…10cm・P₈…4cm。直径4～10cmの小ピットの深さは、2～8cmである。



第305号住居跡土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒少量含む
- 第2層 褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒微量含む
- 第3層 褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ロームブロック多量含む
- 第4層 褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒多量含む
- 第5層 黒褐色土 10Y R $\frac{2}{4}$ ローム粒少量含む

第306号住居跡土層注記

- 第①層 褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒微量、炭化物微量含む

ピット1土層注記

- 第1層 黒褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム中量含む
- 第2層 黒色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム微量、炭化物少量
- 第3層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム多量含む

ピット2土層注記

- 第1層 ほぼ黄褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム少量、炭化物微量
- 第2層 黒褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム微量、炭化物微量
- 第3層 褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム中量含む
- 第4層 明黄褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム質
- 第5層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム中量、炭化物微量

ピット4土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム少量、炭化物微量、焼土微量
- 第2層 黒褐色土 10Y R $\frac{2}{4}$ ローム微量、炭化物微量含む

ピット11土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒少量、炭化物微量、焼土微量
- 第2層 黄褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム質

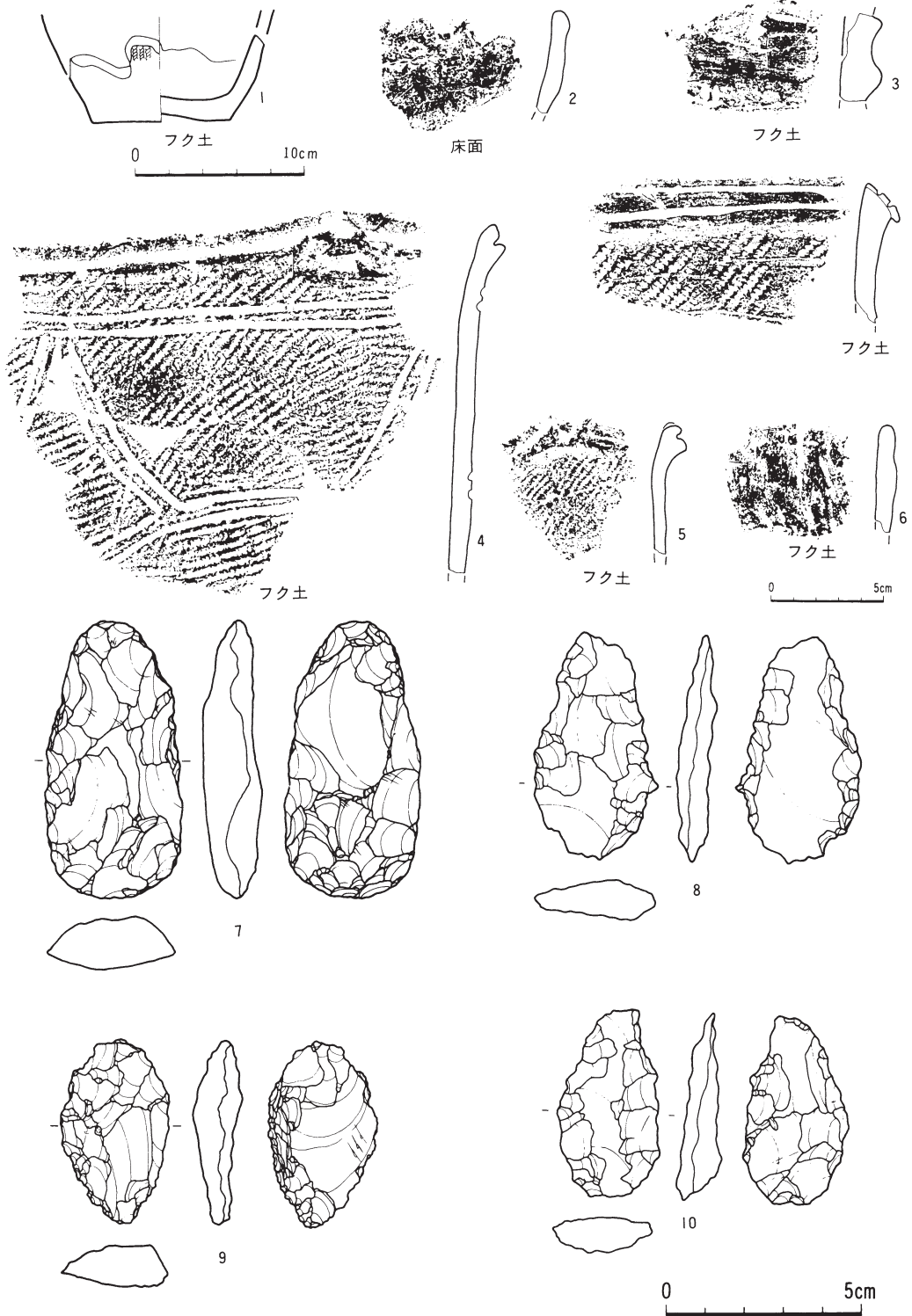
ピット12土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒微量含む
- 第2層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒少量、炭化物微量、焼土微量
- 第3層 黒褐色土 10Y R $\frac{2}{4}$ ローム中量含む

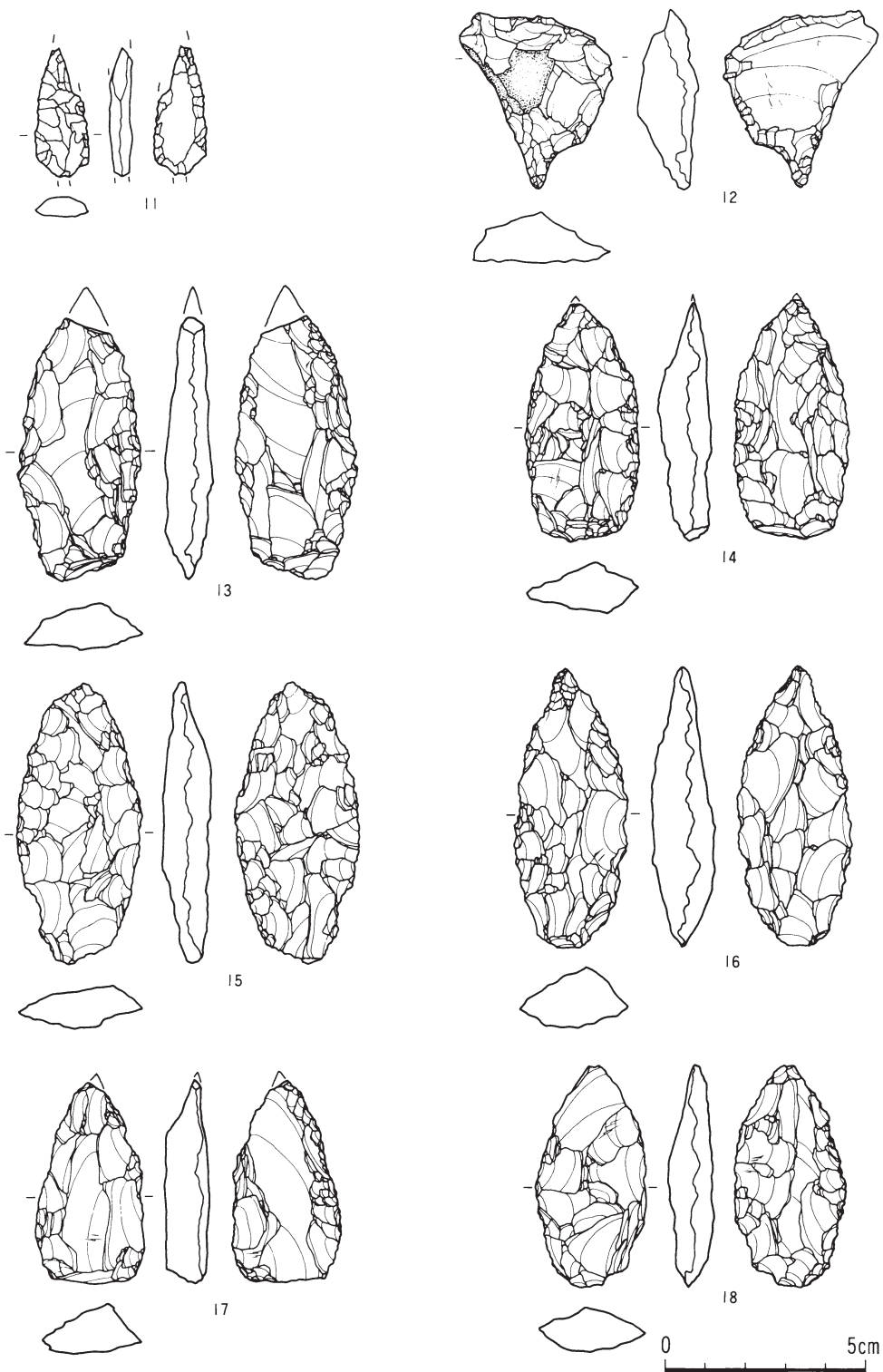
ピット13土層注記

- 第1層 黒褐色土 10Y R $\frac{2}{4}$ ローム粒少量、炭化物微量含む
- 第2層 黒色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒微量含む
- 第3層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ ローム粒微量、炭化物微量含む

第730図 第305・306号住居跡(1)



第731図 第305号住居跡(2)



第732图 第305号住居跡(3)

＜炉＞ 長軸線上の南側で地床炉が確認された。22×10cmの楕円形を呈する。

＜特殊施設＞ 南壁中央の張り出し部分からピットが検出された。床面からは馬蹄状の盛土は検出されなかった。ピットは直径16cm、深さ20cmと直径10cmの小ピット3個、深さ5～15cmである。

＜堆積土＞ 暗褐色土を主体とし、5層に分層した。

＜出土遺物＞ 土器は床面から(2)が出土し、他は覆土からの出土である。石器はP₂から石槍6点、不定形石器16点、覆土から石鏃1点、石錐1点、石筥1点、不定形石器2点、石皿・台石類2点が出土した。

＜小結＞ 覆土から出土した土器が、榎林式期のものとみられるため、本住居跡は榎林式期か、それ以前の時期と考えられる。(長崎 勝巳)

第306号住居跡 (第730・733図)

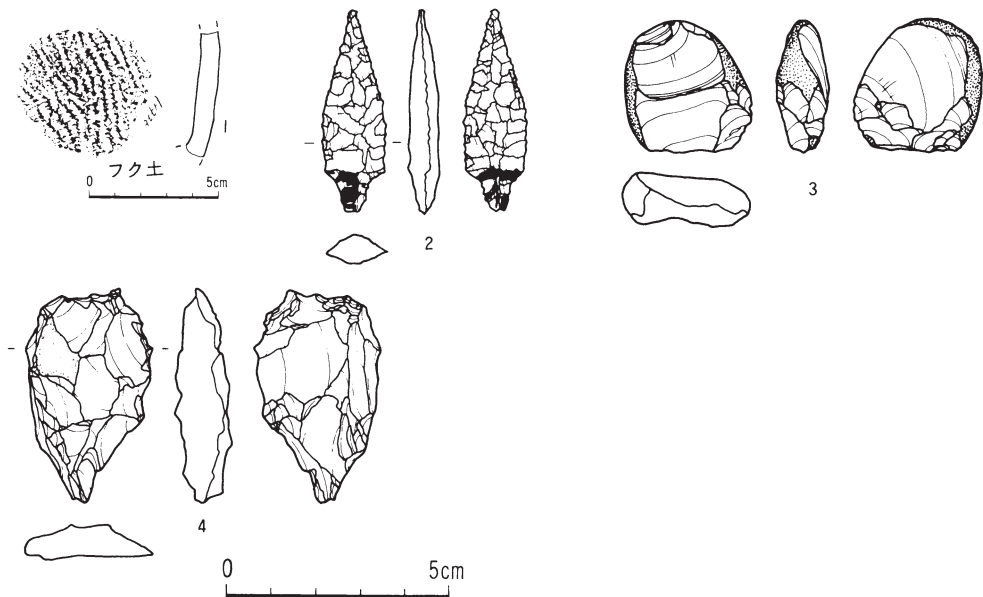
＜位置と確認＞ C X-114グリッドに位置する。

＜重複＞ 第305号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

＜平面形・規模＞ 確認された規模は、長軸1 m90cm、短軸90cmで、平面形は重複のため不明である。

＜壁・床面＞ 第IV層を壁面とし、南壁20cm、西壁5 cmである。床面はほぼ平坦である。

＜壁溝＞ 確認されなかった。



第733図 第306号住居跡

<柱穴> 床面から13個のピットを検出した。深さはP₁₁…15cm、P₁₂…24cm、P₁₃…37cm、P₁₄…44cm、P₁₅…5cmである。直径4～8cmのピットの深さは2～6cmである。

<炉> 住居跡の中央南側から、直径12cmで円形の地床炉を検出した。

<特殊施設> 確認されなかった。

<堆積土> 褐色土の層で炭化物、ローム粒が微量含まれる。

<出土遺物> 土器は覆土から1点出土し、石器は床面から石鏃1点、不定形石器1点、P₃から不定形石器3点が出土した。

<小結> 第305号住居跡より、古い時期の住居跡である。 (長崎 勝巳)

第307号住居跡 (第734～744図)

<位置と確認> C S・C T-115・116グリッドに位置している。

<重複> 第308・422号住居跡より新しい。

<平面形・規模> 重複と一部調査区域外に位置するため、明確でないが、残存部から隅丸長方形、または楕円形で長軸2m90cm以上、短軸(2m55cm)であると思われる。

<壁・床面> 確認できた西壁の高さは60cmで、第422号住居跡との高低差は27cmである。床面はピット5の周辺は堅緻であるが、全体的に軟弱な造りである。

<壁溝> 西壁に沿って確認した。幅10cmで、深さ4～10cmである。ピット状に連続した部分では15～22cmの深さである。北、東側では確認できなかった。

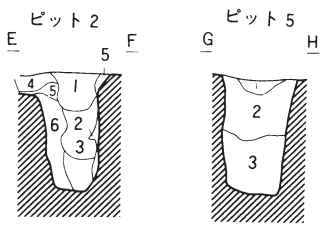
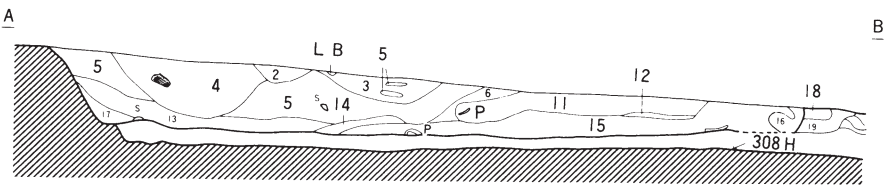
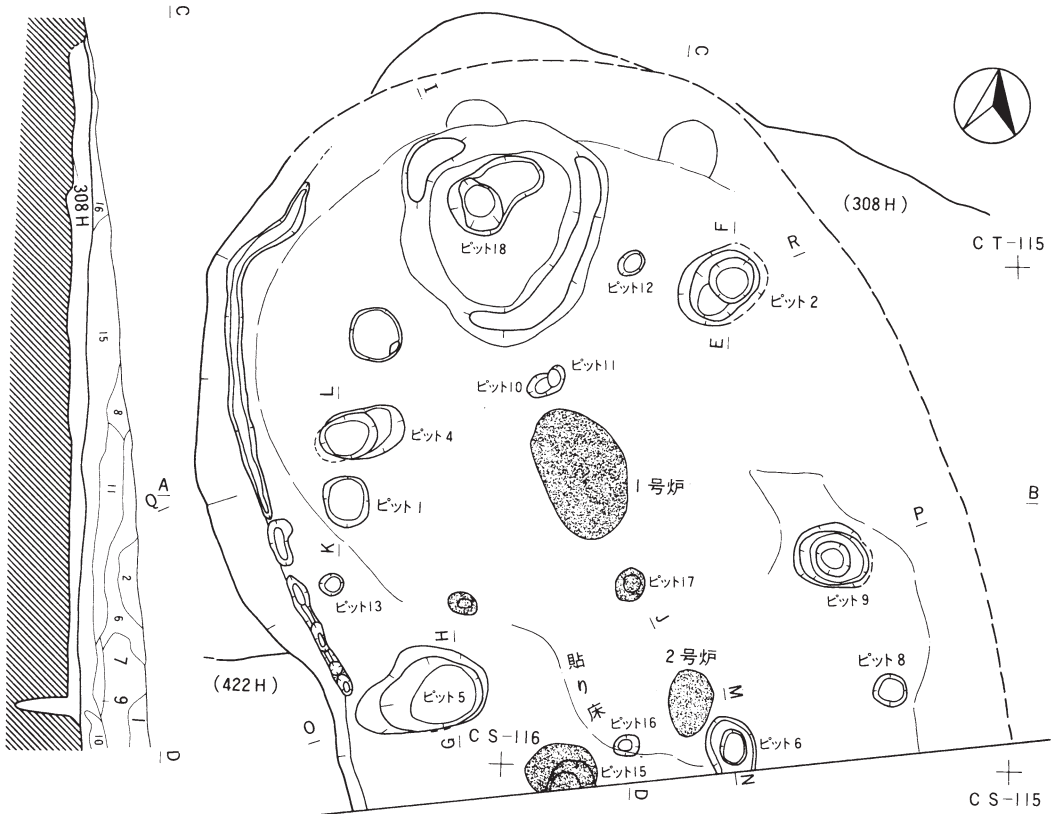
<柱穴> ピットを18個検出した。主柱穴はP₂・P₄・P₅・P₉であり、これ以外にも調査区域外の南側へ延びていく柱穴配置になると考えられる。ピットの深さは以下のとおりである。P₁…14cm、P₂…94cm、P₃…18cm、P₄…101cm、P₅…94cm、P₆…55cm、P₇…64cm、P₈…13cm、P₉…106cm、P₁₀…7cm、P₁₁…7cm、P₁₂…14cm、P₁₃…22cm、P₁₄…7cm、P₁₅…32cm、P₁₆…55cm、P₁₇…9cm、P₁₈…54cm。

<炉> 中軸線上に2基の地床炉を確認した。1号炉は長軸110cm、短軸70cm、2号炉は長軸・短軸とも52cmのいずれも不整形である。またP₁₄・P₁₅・P₁₇の直上にも焼土を確認しているが、火床面は認められなかった。

<特殊施設> 重複により明瞭でないが、北西に低い盛り土の施設がある。全体的に径1m80cmの不整形な楕円形で、盛り土から中央のピット(P₈)にむけて緩く傾斜している。

<堆積土> 19層に分層した。ローム粒、ローム塊を多量に含む暗褐色土を主体とする。

<出土遺物> 覆土から床面にかけて、多量の遺物が出土した。床面から円筒上層e式土器が出土している。石器は床面から石鏃1点、石槍1点、石錐2点、ピエス・エスキーユ1点、不定形石器5点、石斧1点、敲磨器類1点、台石1点、床面直上から石鏃2点、石槍1点、不定

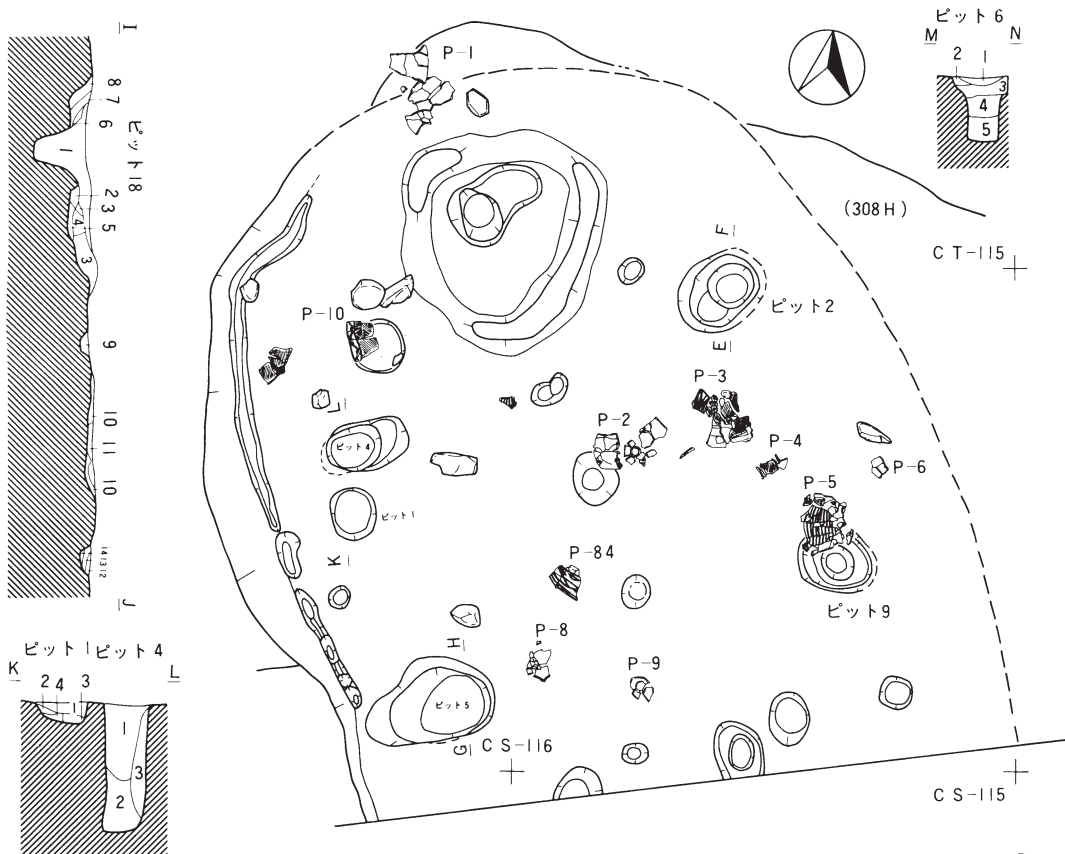


- ピット 2 土層注記**
- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4
 - 第2層 暗褐色土 10Y R 3/4
 - 第3層 暗褐色土 10Y R 3/4
 - 第4層 褐色土 10Y R 4/6
 - 第5層 暗褐色土 10Y R 3/4
 - 第6層 黄褐色土 10Y R 5/6
- ピット 5 土層注記**
- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4
 - 第2層 黄褐色土 10Y R 5/6
 - 第3層 黄褐色土 10Y R 5/6

- 第307号住居跡土層注記**
- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/3 ローム粒少量、炭化物を微量含む
 - 第2層 黒褐色土 10Y R 2/3 ローム粒を微量含む
 - 第3層 暗褐色土 10Y R 3/3 ロームブロックを多量に含む
 - 第4層 暗褐色土 10Y R 3/3 ローム粒を多量、炭化物を少量含む
 - 第5層 暗褐色土 10Y R 3/3 ロームブロック、炭化物を多量に含む
 - 第6層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒を少量含む
 - 第7層 黒褐色土 10Y R 2/3 ロームブロックを多量、炭化物を微量含む
 - 第8層 黒褐色土 10Y R 2/3 ローム粒を少量、炭化物を微量含む
 - 第9層 暗褐色土 10Y R 3/3
 - 第10層 黒褐色土 10Y R 2/2
 - 第11層 黒褐色土 10Y R 3/3
 - 第12層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒を多量に含み、硬い
 - 第13層 暗褐色土 10Y R 3/3 ローム粒、炭化物を少量含む
 - 第14層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒を多量に含む
 - 第15層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒をやや多量に含む
 - 第16層 暗褐色土 10Y R 3/3 ローム粒を多量に含む
 - 第17層 黄褐色土 10Y R 5/6 ローム質
 - 第18層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒を多量に含む
 - 第19層 暗褐色土 10Y R 2/3 ローム粒を多量に含む

第734図 第307号住居跡(1)



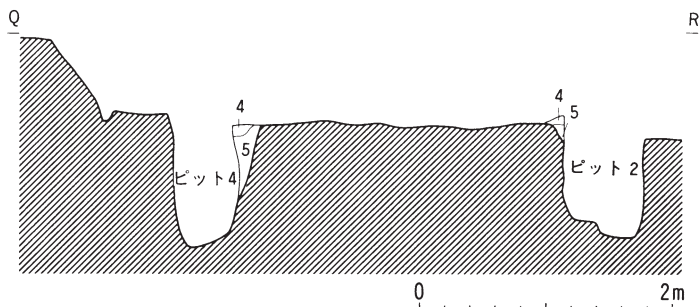
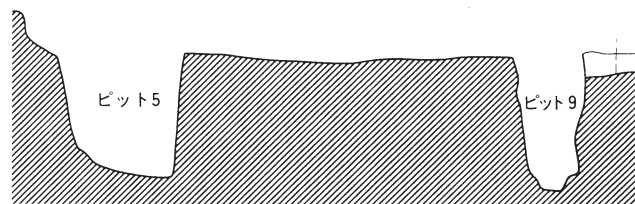


ピット1 土層注記
 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$
 第2層 黄褐色土 10Y R $\frac{5}{6}$
 第3層 褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$
 第4層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$

ピット4 土層注記
 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$
 第2層 褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$
 第3層 黄褐色土 10Y R $\frac{5}{6}$
 第4層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$
 第5層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$

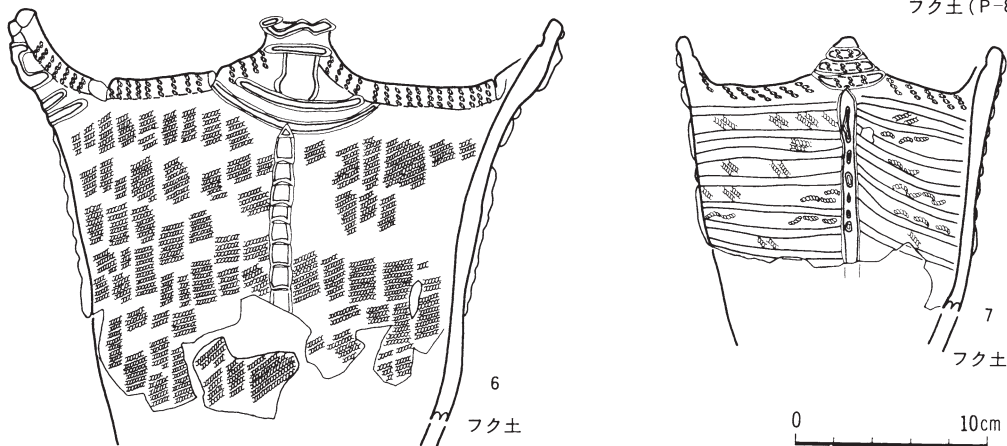
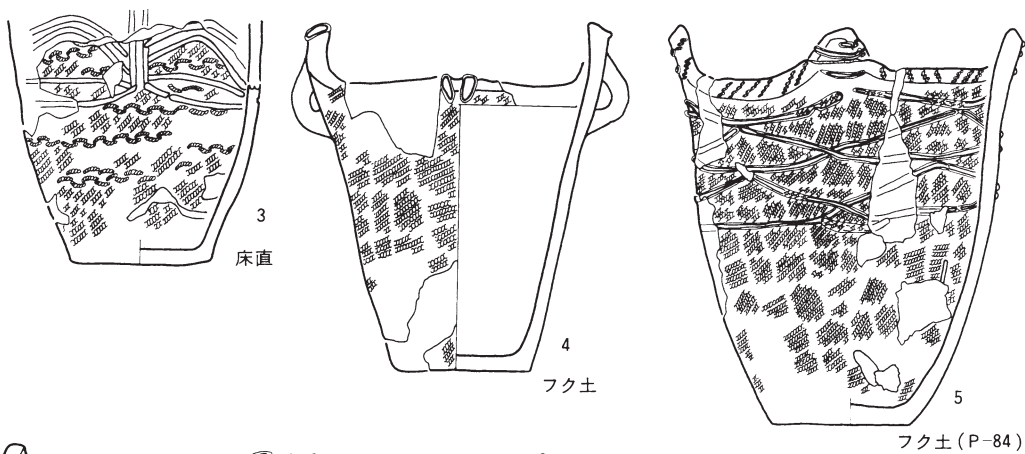
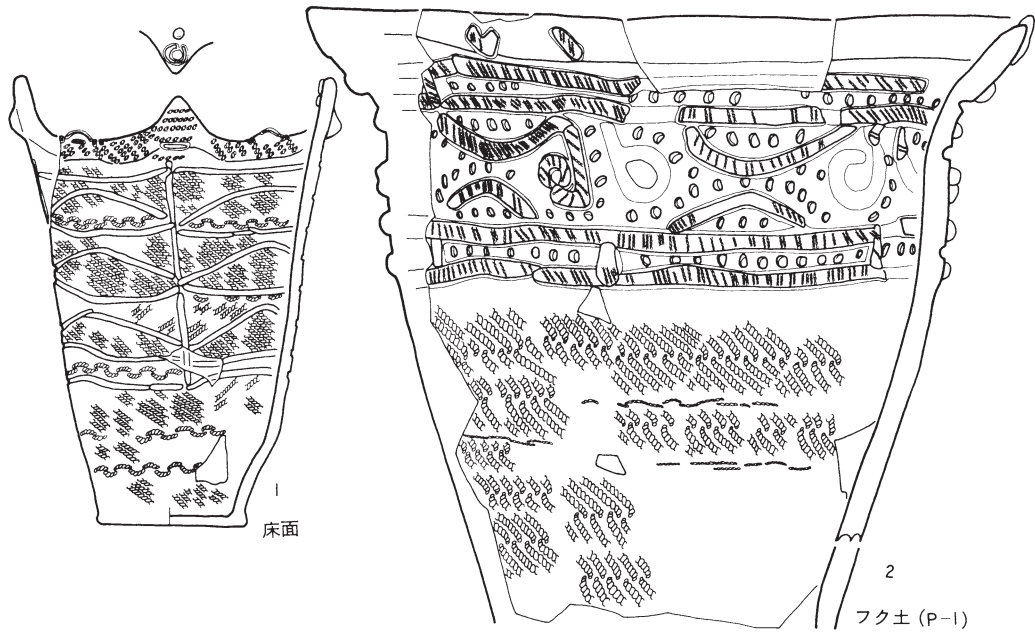
ピット6 土層注記
 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$
 第2層 褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$
 第3層 黒褐色土 10Y R $\frac{2}{3}$
 第4層 黒褐色土 10Y R $\frac{2}{3}$
 第5層 褐色土 10Y R $\frac{1}{2}$

特殊施設炉土層注記(I-J)
 第1層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{3}$ 軟らかい
 第2層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{3}$
 第3層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{3}$ L.Bを多量に含む、やや硬い
 第4層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{3}$ 炭化物を多く含む
 第5層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{3}$
 第6層 黄褐色土 10Y R $\frac{5}{6}$ 硬い
 第7層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{3}$

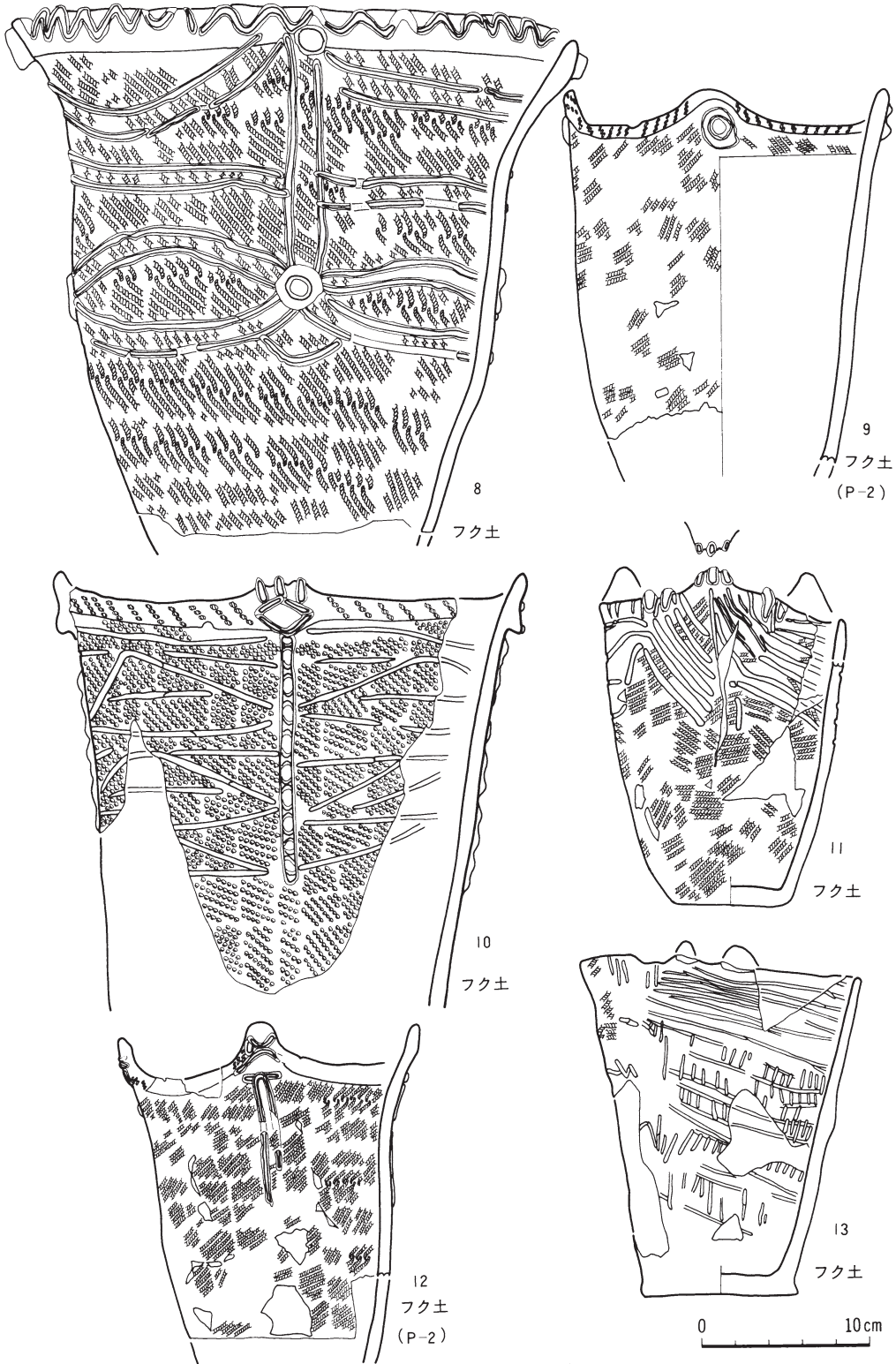


第8層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$ L.Bを多量に含み、硬い
 第9層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$
 第10層 赤褐色土 5 Y R $\frac{1}{2}$ 焼土
 第11層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$
 第12層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$
 第13層 赤褐色土 5 Y R $\frac{1}{2}$ 焼土
 第14層 暗褐色土 10Y R $\frac{3}{4}$

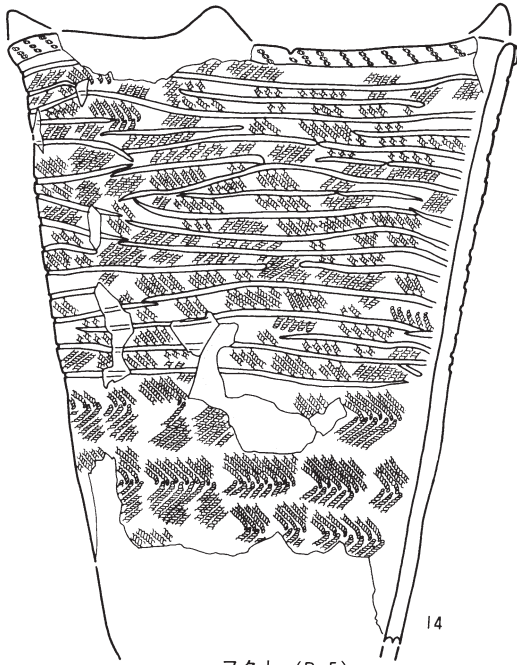
第735図 第307号住居跡(2)



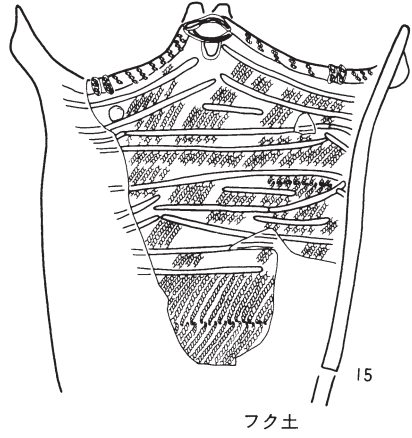
第736図 第307号住居跡(3)



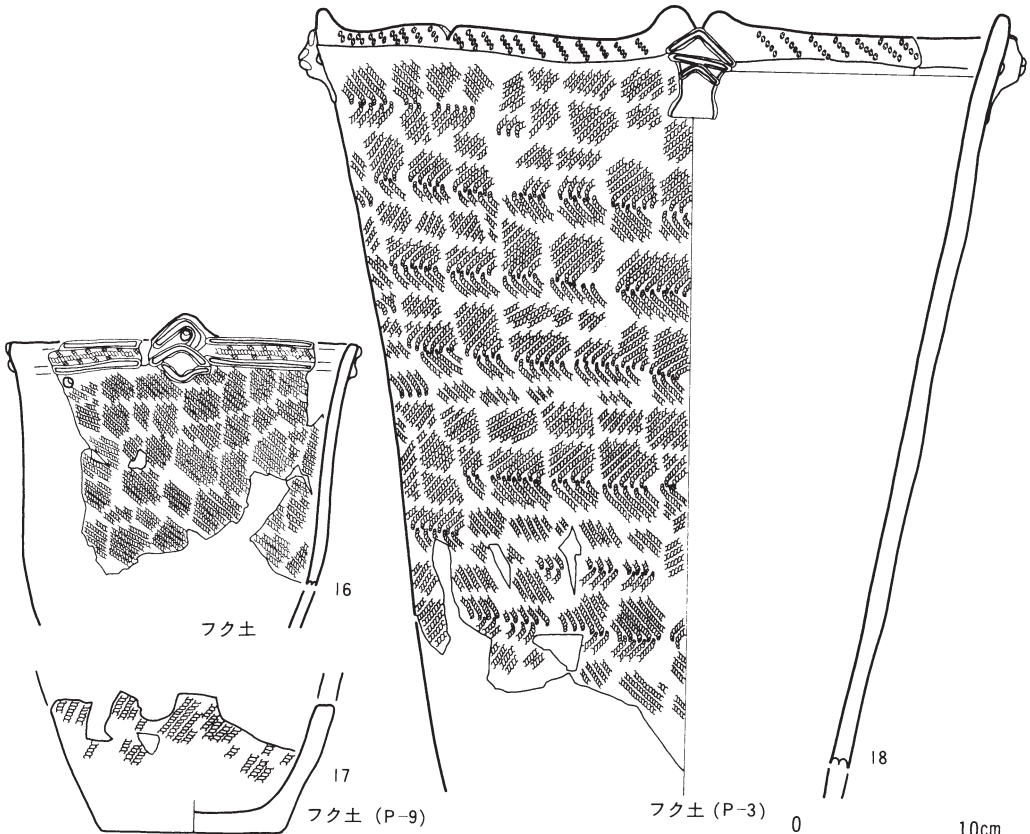
第737図 第307号住居跡(4)



フク土 (P-5)



フク土



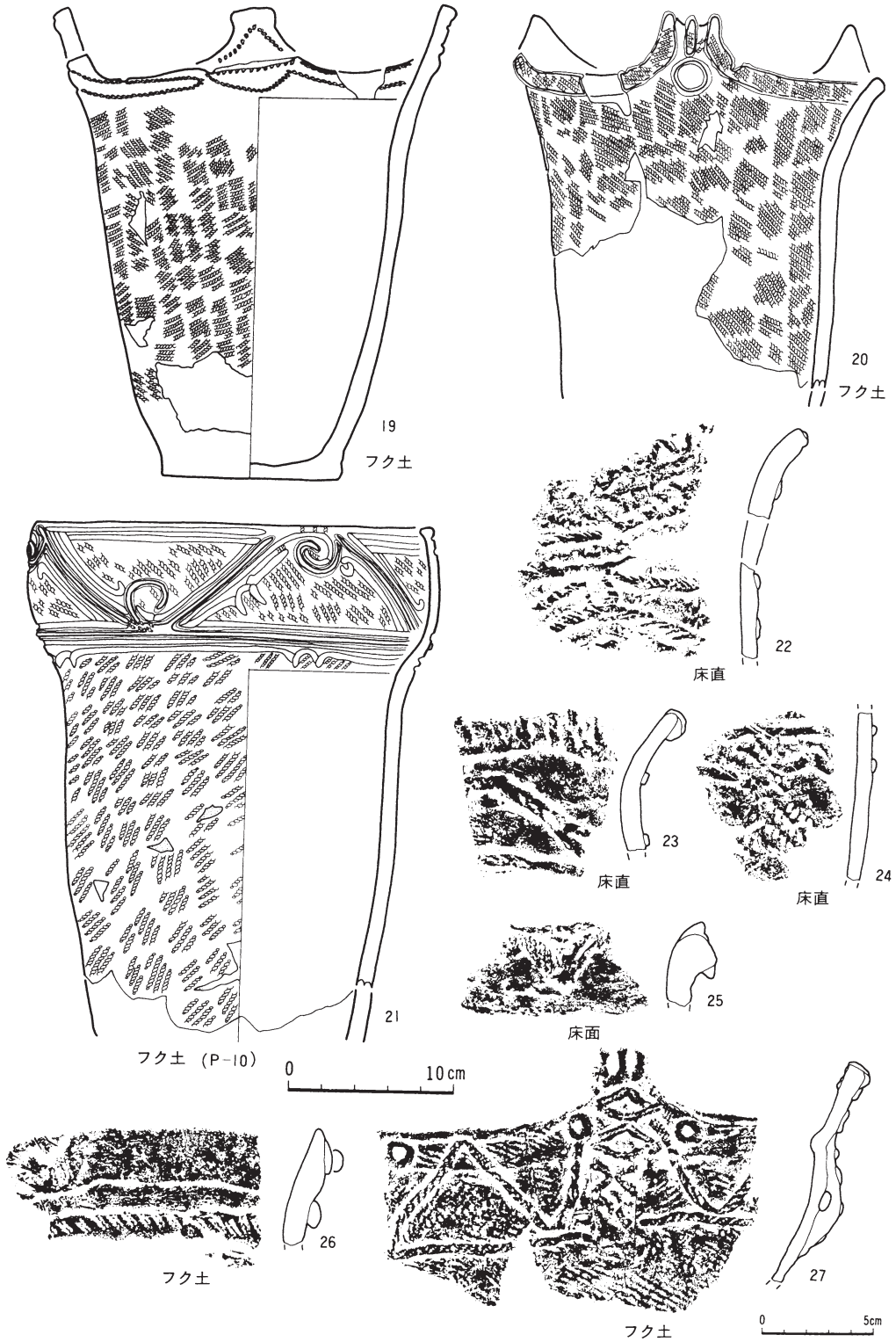
フク土

フク土 (P-9)

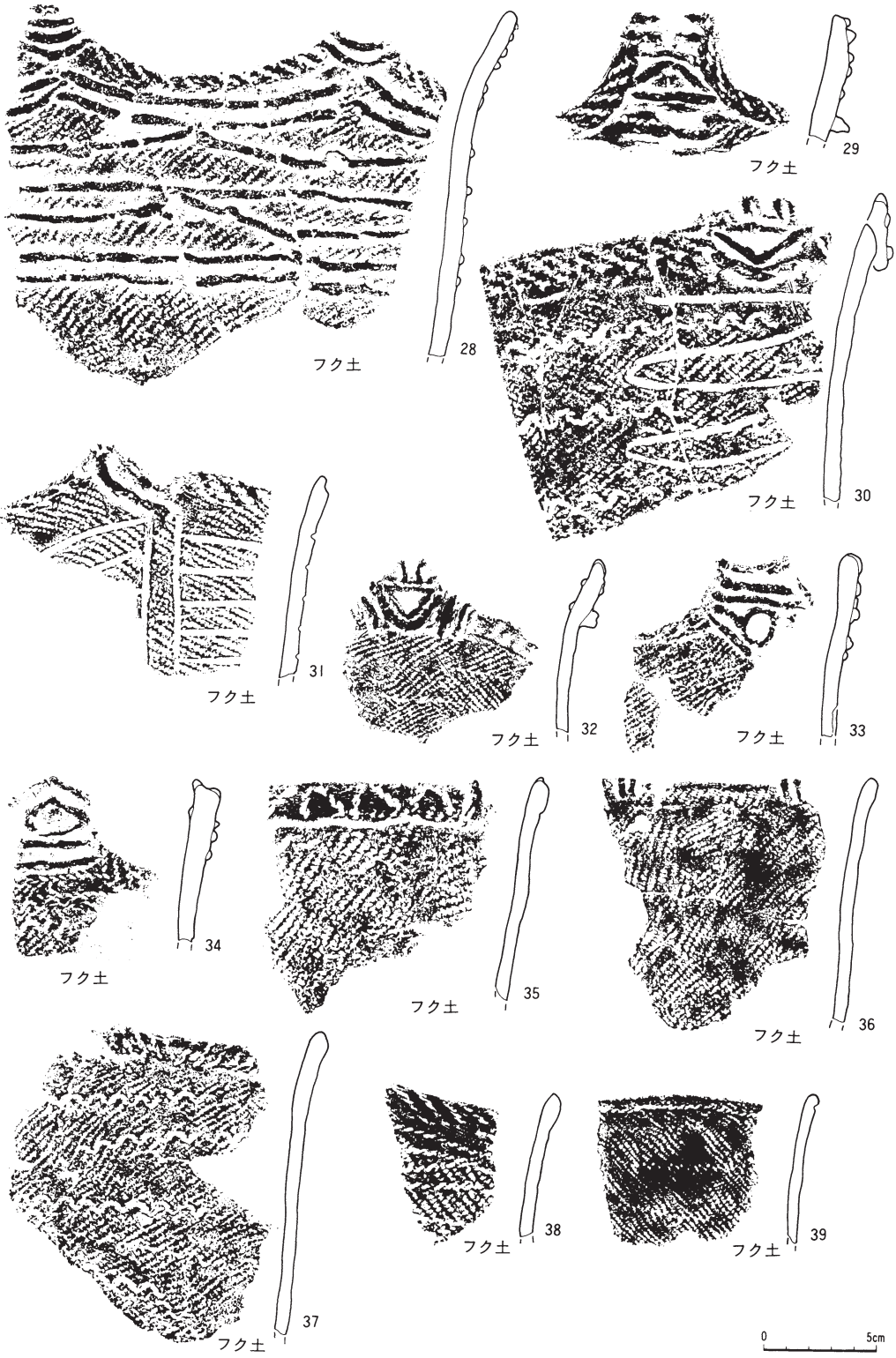
フク土 (P-3)



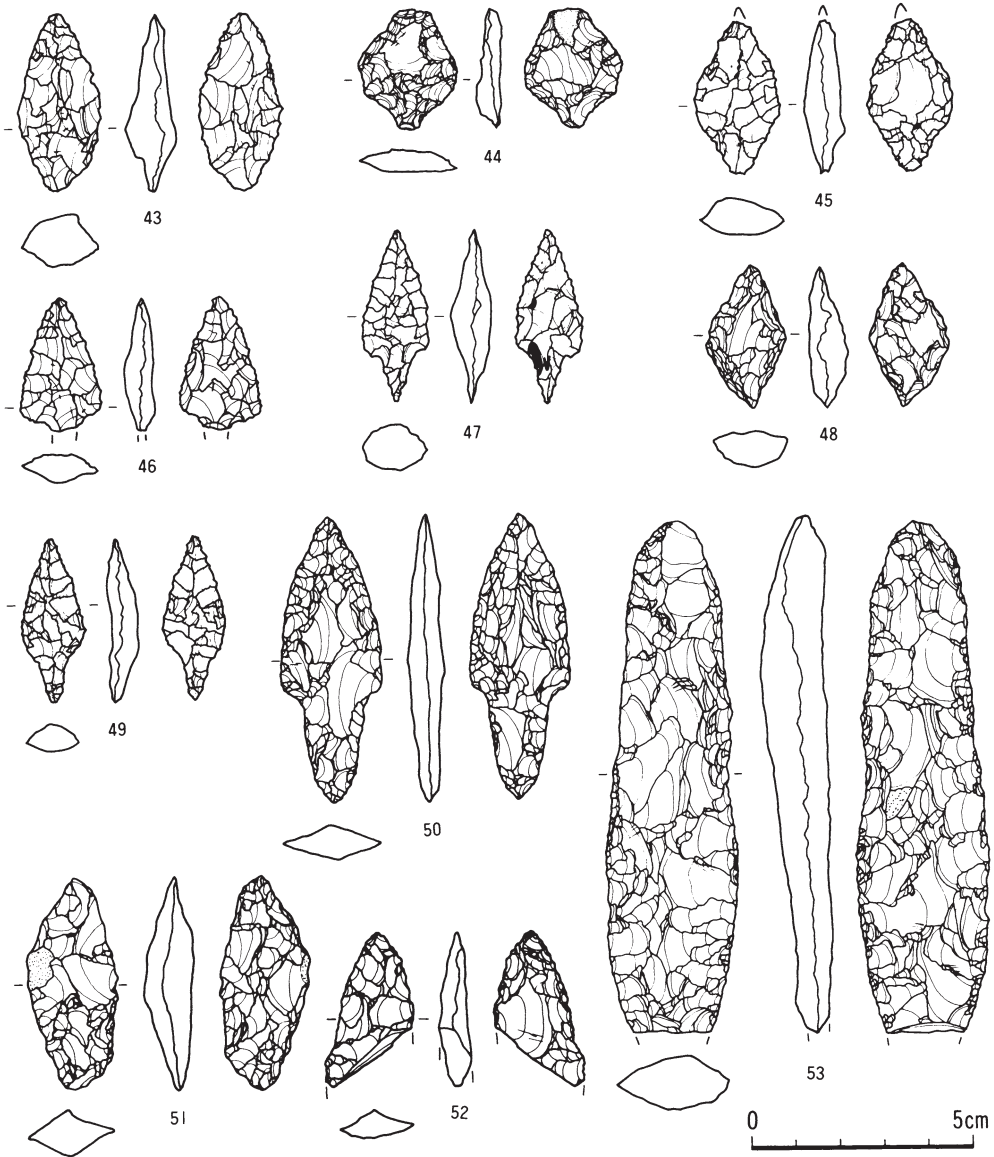
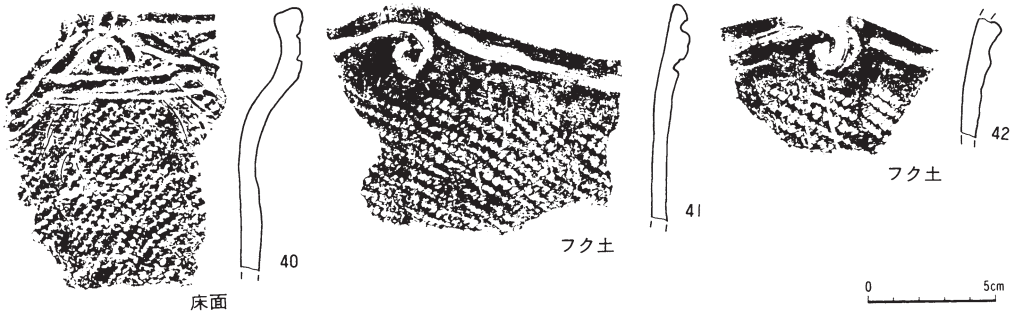
第738図 第307号住居跡(5)



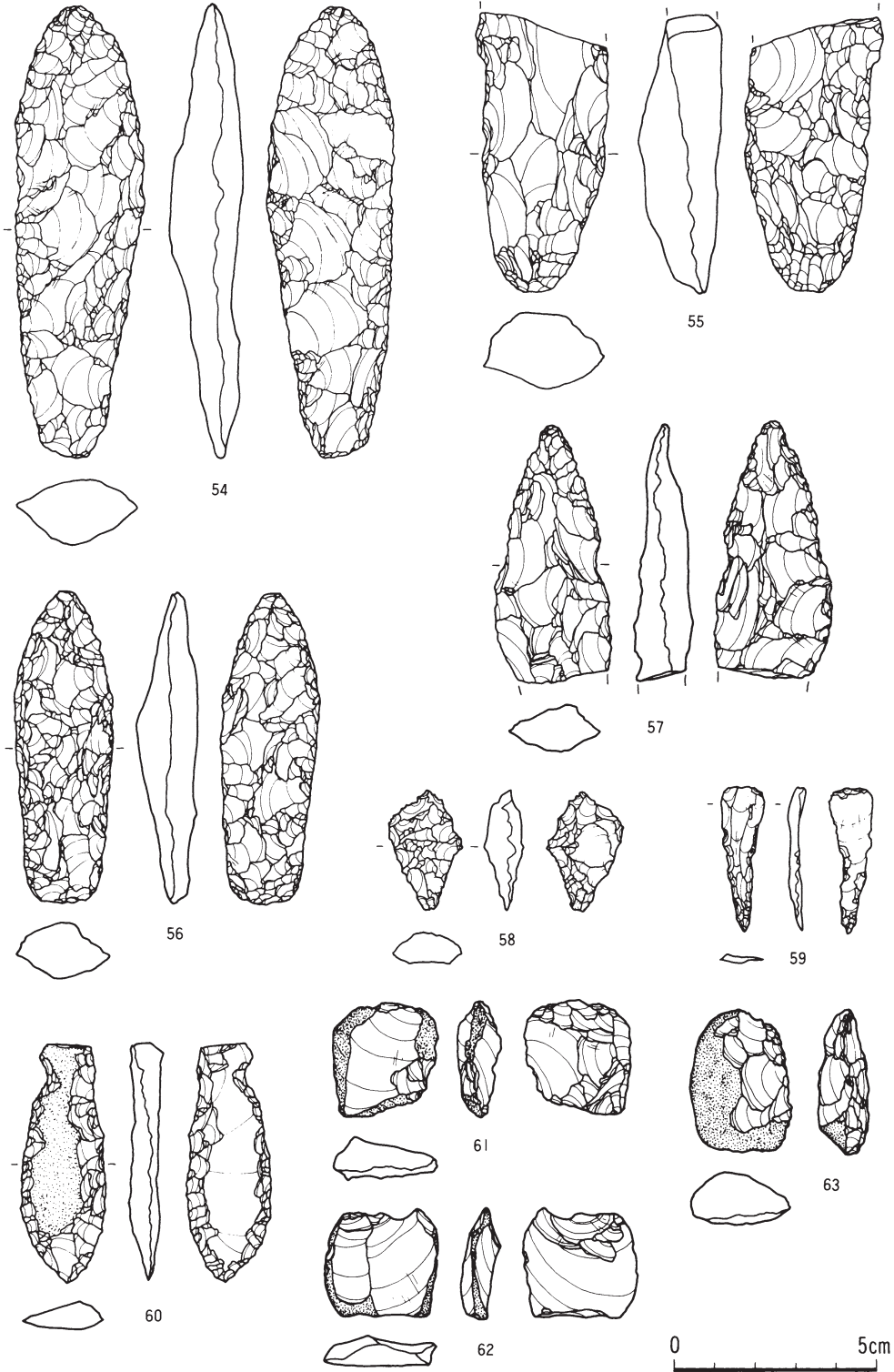
第739図 第307号住居跡(6)



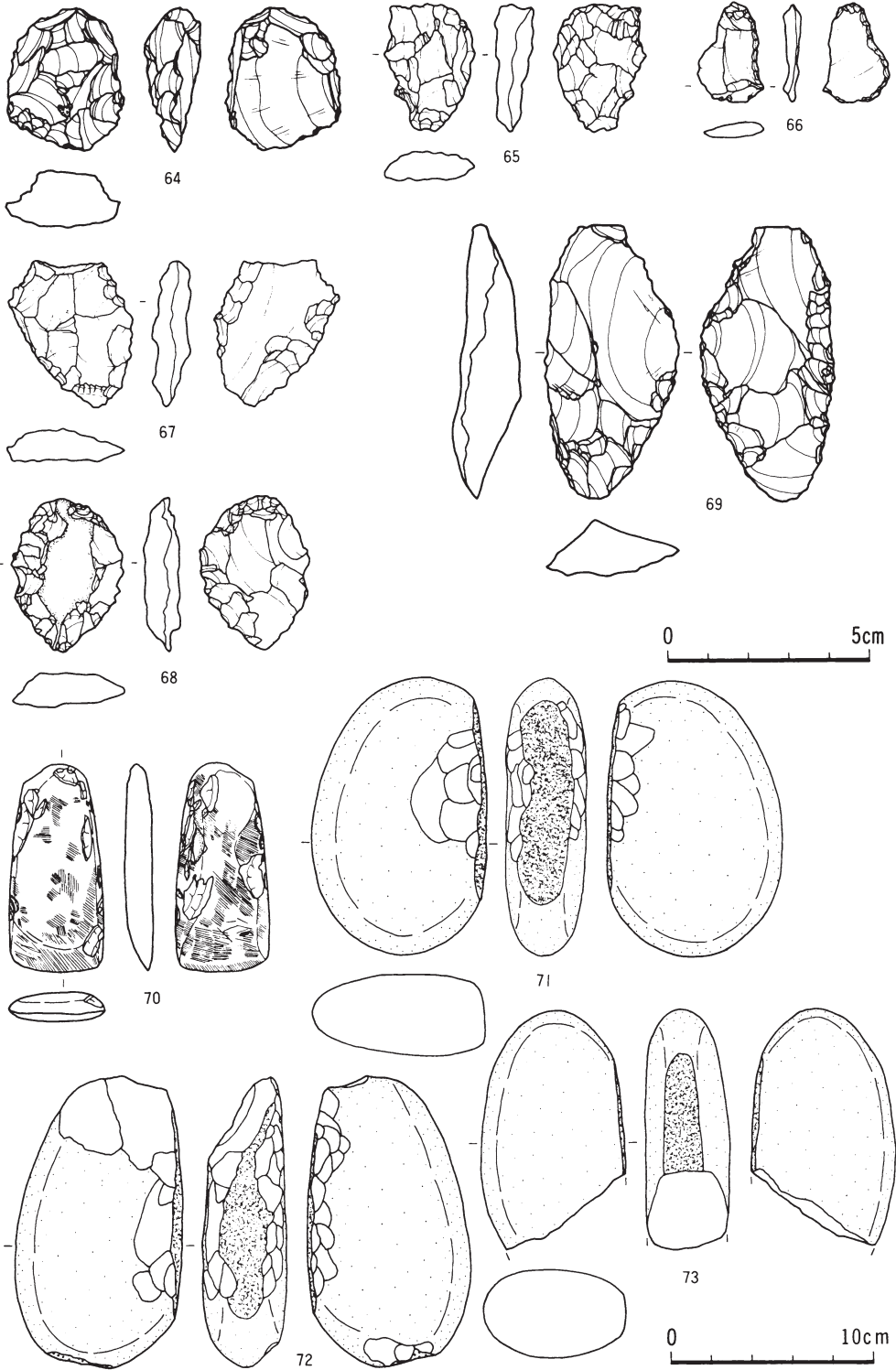
第740図 第307号住居跡(7)



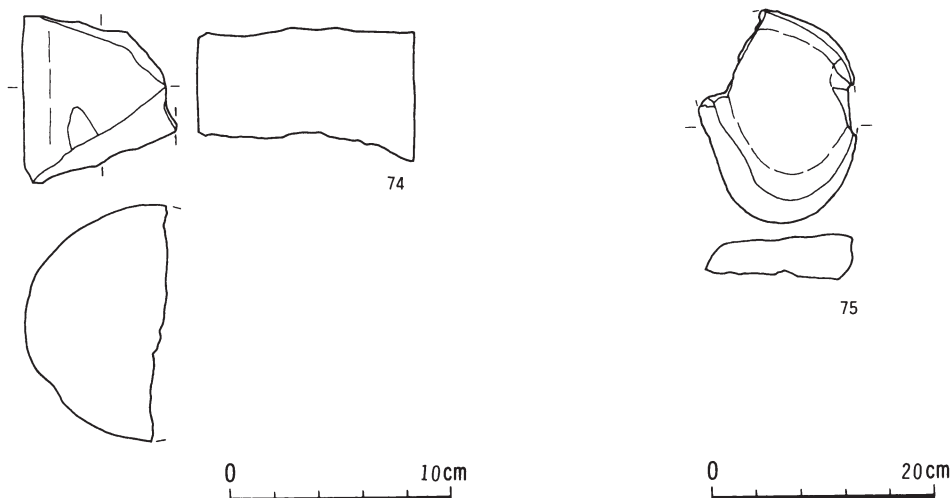
第741図 第307号住居跡(8)



第742图 第307号住居跡(9)



第743图 第307号住居跡(10)



第744図 第307号住居跡(1)

形石器6点、覆土から石鏃23点、石槍5点、石錐1点、石匙1点、ピエス・エスキュー2点、不定形石器29点、敲磨器類2点、ピット1から石槍1点、ピット4からピエス・エスキュー1点が出土し、総数87点である。

〈小結〉 本住居跡は床面の土器から円筒上層e式期に構築された可能性が高い。

(畠山 昇)

第308号住居跡 (第745～752図)

〈位置と確認〉 CS・CT-113～116グリッドにかけて、黒褐色～暗褐色土の落ち込みを確認した。調査の進展に伴い、炭化材が出土し、焼失家屋であることが判明した。

〈重複〉 西側で第307号住居跡と重複しており、本住居跡が古い。

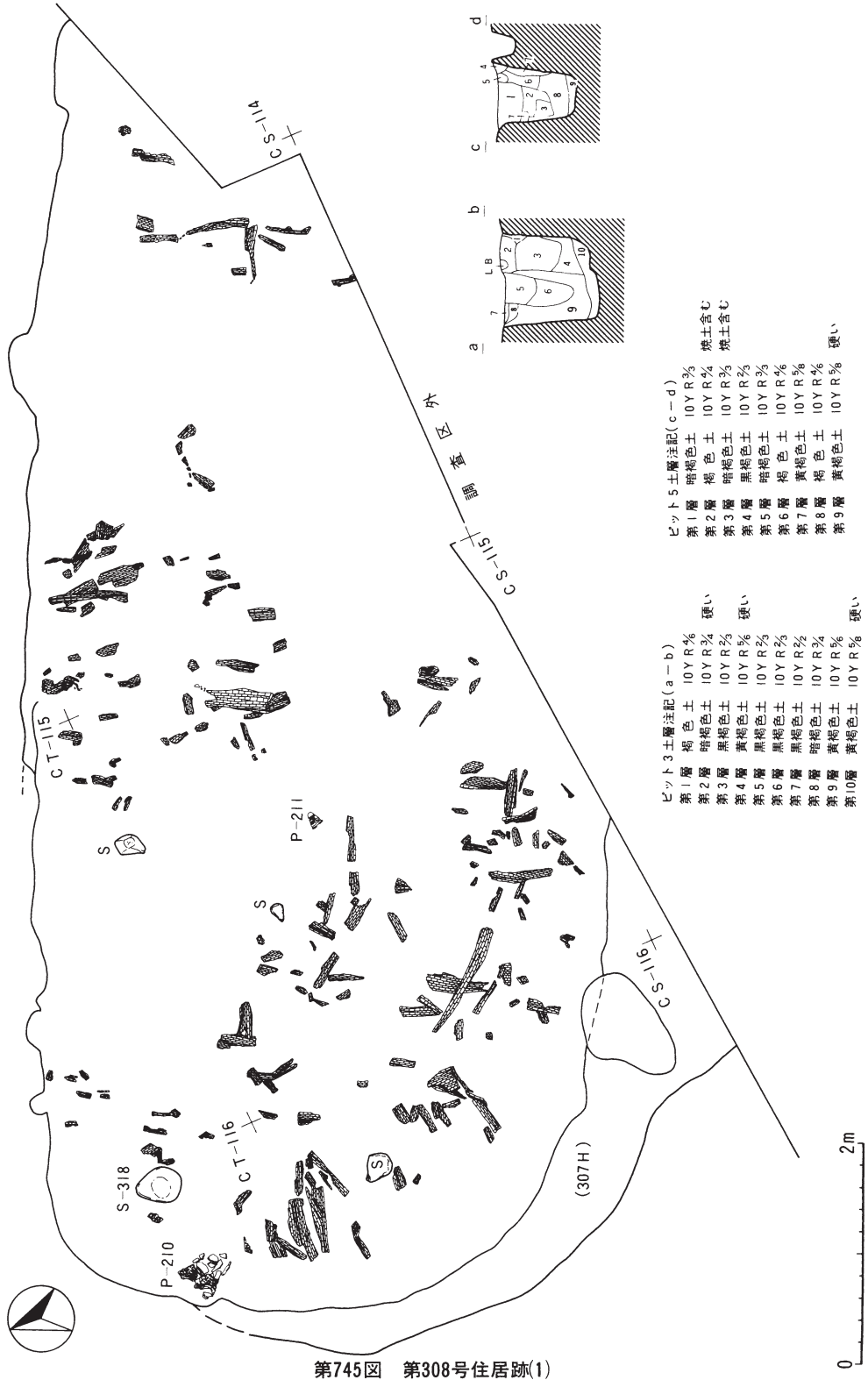
〈平面形・規模〉 南～東側は調査区域外であるため、明確でないが、残存部から隅丸長方形で短軸(周溝外側)5m20cm、長軸12m前後と思われる。

〈壁・床面〉 壁高は北西壁10cm、北東壁20cm、西壁40～80cm、南壁12～15cmである。床は平坦で堅緻である。西側床面は、テラス状に5～8cm高い部分がみられた。

〈壁溝〉 壁直下に幅10cm、深さ5cm前後の一周する壁溝を検出した。また床面を削平したところ、西側に2条の壁溝を検出した。

〈柱穴〉 床面から多数のピットを検出した。この中には第307号住居跡のピットの精査中に重複して見られたものも含まれる。ピットの深さは以下のとおりである。

P₁…97cm、P₂…64cm、P₃…89cm、P₄…86cm、P₅…72cm、P₆…98cm、P₇…82cm、P₈…78cm、

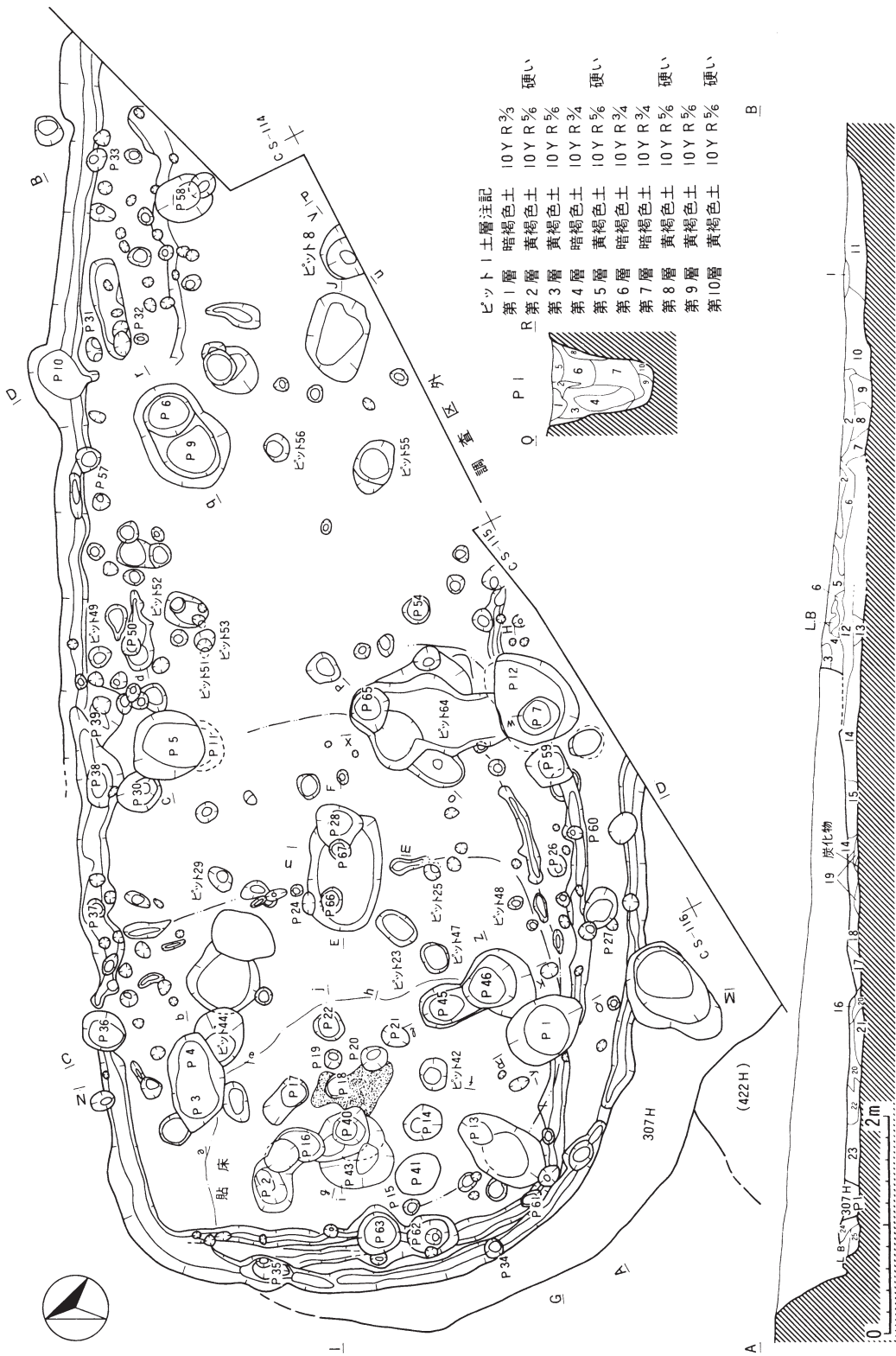


第745図 第308号住居跡(1)

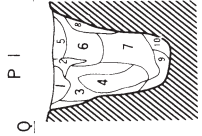
- ピット3土層法記(a-b)
- 第1層 褐色土 10YR% 硬い
 - 第2層 暗褐色土 10YR% 硬い
 - 第3層 黒褐色土 10YR% 硬い
 - 第4層 黄褐色土 10YR% 硬い
 - 第5層 黒褐色土 10YR%
 - 第6層 黒褐色土 10YR%
 - 第7層 黒褐色土 10YR%
 - 第8層 暗褐色土 10YR%
 - 第9層 黄褐色土 10YR%
 - 第10層 黄褐色土 10YR% 硬い
- ピット5土層法記(c-d)
- 第1層 暗褐色土 10YR%
 - 第2層 褐色土 10YR% 焼土含む
 - 第3層 暗褐色土 10YR% 焼土含む
 - 第4層 黒褐色土 10YR%
 - 第5層 暗褐色土 10YR%
 - 第6層 褐色土 10YR%
 - 第7層 黄褐色土 10YR%
 - 第8層 褐色土 10YR%
 - 第9層 黄褐色土 10YR% 硬い



第746図 第308号住居跡(2)

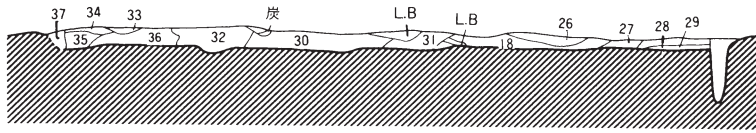


- ピット土層注記
- 第1層 暗褐色土 10Y R^{3/4} 硬い
 - 第2層 黄褐色土 10Y R^{5/6}
 - 第3層 黄褐色土 10Y R^{5/6}
 - 第4層 暗褐色土 10Y R^{3/4} 硬い
 - 第5層 黄褐色土 10Y R^{3/4}
 - 第6層 暗褐色土 10Y R^{3/4}
 - 第7層 暗褐色土 10Y R^{3/4}
 - 第8層 黄褐色土 10Y R^{5/6} 硬い
 - 第9層 黄褐色土 10Y R^{5/6}
 - 第10層 黄褐色土 10Y R^{5/6} 硬い

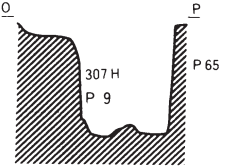


第747図 第308号住居跡(3)

C

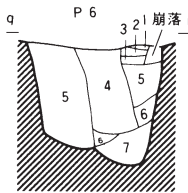


D



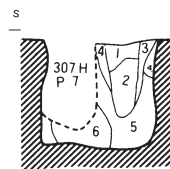
第308号住居跡土層注記(A-B, C-Dライン)

第1層	黒褐色土	10Y R 3/4		第20層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒を少量含む
第2層	黒褐色土	10Y R 3/2		第21層	黒褐色土	10Y R 3/2	炭化物を多量に含む
第3層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒を多量に含む	第22層	褐色土	10Y R %	ローム粒を多量に含む
第4層	暗褐色土	10Y R 3/2	ローム粒を多量、焼土、炭化物を少量含む	第23層	暗褐色土	10Y R 3/2	ローム粒を少量、炭化物を多く含む
第5層	黒褐色土	10Y R 3/2		第24層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒を多量に含む
第6層	暗褐色土	10Y R 3/2	ローム粒を多量に含む	第25層	暗褐色土	10Y R 3/2	ローム粒を少量含む
第7層	黒褐色土	10Y R 3/2	ローム粒、炭化物を多量に含む	第26層	明赤褐色土	10Y R %	焼土
第8層	黒褐色土	10Y R 3/2	ローム粒、炭化物を多量に含む	第27層	黒色土	10Y R 1/2	炭化物を多量に含む
第9層	暗褐色土	10Y R 3/2	ローム粒、炭化物を多量に含む	第28層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒、炭化物を少量含む
第10層	暗褐色土	10Y R 3/2	ローム粒を多量に含む	第29層	暗褐色土	10Y R 3/2	炭化物を多量、焼土少量含む
第11層	暗褐色土	10Y R 3/2	ローム粒を少量に含む	第30層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒、炭化物を少量含む
第12層	赤褐色土	10Y R 3/4	炭化物(材)を多量に含む	第31層	暗褐色土	10Y R 3/2	ローム粒を多量に含む
第13層	赤褐色土	5Y R %	焼土	第32層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒を多量に含む
第14層	暗褐色土	10Y R 3/2	ローム粒を少量含む	第33層	暗褐色土	10Y R 3/4	焼土を多量に含む
第15層	暗褐色土	10Y R 3/2	ローム粒を多量に含む	第34層	暗褐色土	10Y R 3/2	
第16層	褐色土	7.5Y R 3/4	焼土を多量に含む	第35層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒、焼土を少量含む
第17層	黒褐色土	10Y R 3/2		第36層	暗褐色土	10Y R 3/2	ローム粒、焼土を少量含む
第18層	暗褐色土	10Y R 3/4	ローム粒をやや多量に含む	第37層	暗褐色土	10Y R 3/2	
第19層	黒褐色土	10Y R 3/2	炭化物を多量に含む				



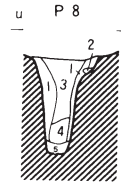
ビット6土層注記(q-r)

第1層	暗褐色土	10Y R 3/4	
第2層	黄褐色土	10Y R %	硬い
第3層	暗褐色土	10Y R 3/2	
第4層	黒褐色土	10Y R 3/2	
第5層	黄褐色土	10Y R 3/2	硬い
第6層	黄褐色土	10Y R %	
第7層	黄褐色土	10Y R %	硬い



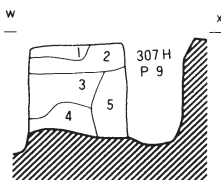
ビット7関係土層注記(s-t)

第1層	暗褐色土	10Y R 3/4	
第2層	暗褐色土	10Y R 3/2	
第3層	黄褐色土	10Y R %	
第4層	黄褐色土	10Y R %	硬い
第5層	黄褐色土	10Y R %	硬い
第6層	黄褐色土	10Y R %	硬い



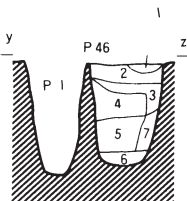
ビット8土層注記(u-v)

第1層	黄褐色土	10Y R %	硬い
第2層	明褐色土	7.5Y R %	焼土含む
第3層	暗褐色土	10Y R 3/2	
第4層	暗褐色土	10Y R 3/2	
第5層	黄褐色土	10Y R %	硬い



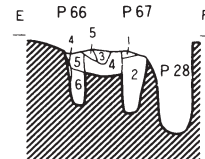
ビット65土層注記(P7わき)(w-x)

第1層	黄褐色土	10Y R 3/4	硬い
第2層	褐色土	10Y R %	
第3層	褐色土	10Y R %	
第4層	黄褐色土	10Y R %	硬い
第5層	黄褐色土	10Y R %	硬い



ビット46土層注記(y-z)

第1層	黄褐色土	10Y R %	硬い
第2層	黄褐色土	10Y R %	硬い
第3層	黄褐色土	10Y R %	軟らかい
第4層	黄褐色土	10Y R %	軟らかい
第5層	黄褐色土	10Y R %	軟らかい
第6層	黄褐色土	10Y R %	軟らかい
第7層	黄褐色土	10Y R %	硬い

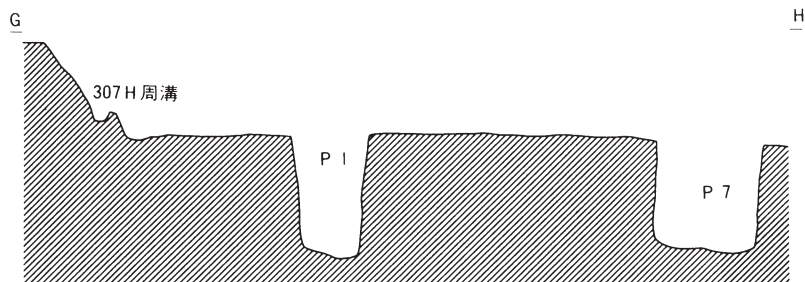


ビット66・67土層注記(E-F)

第1層	赤褐色土	5Y R %	焼土
第2層	褐色土	10Y R %	
第3層	暗褐色土	10Y R 3/4	
第4層	黄褐色土	10Y R %	
第5層	黄褐色土	10Y R %	硬い
第6層	褐色土	10Y R %	

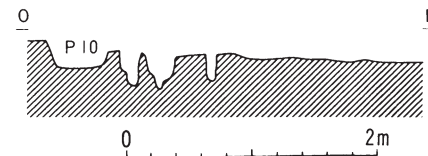
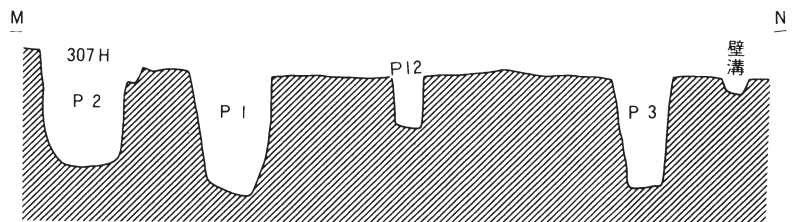
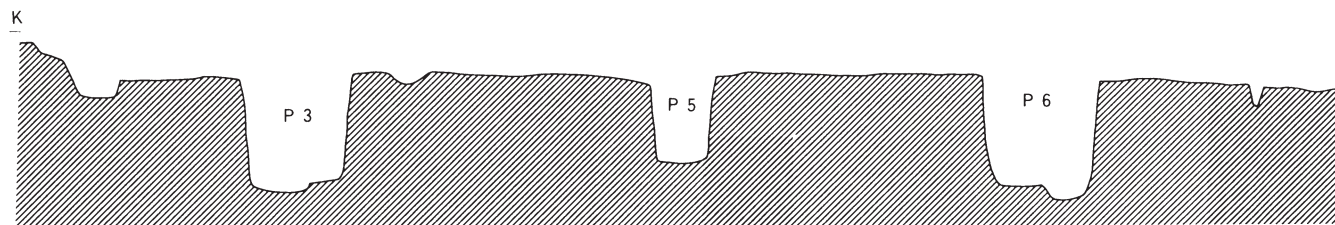
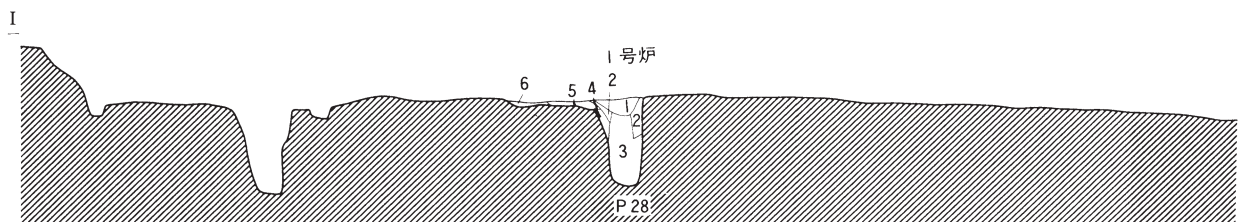
0 2m

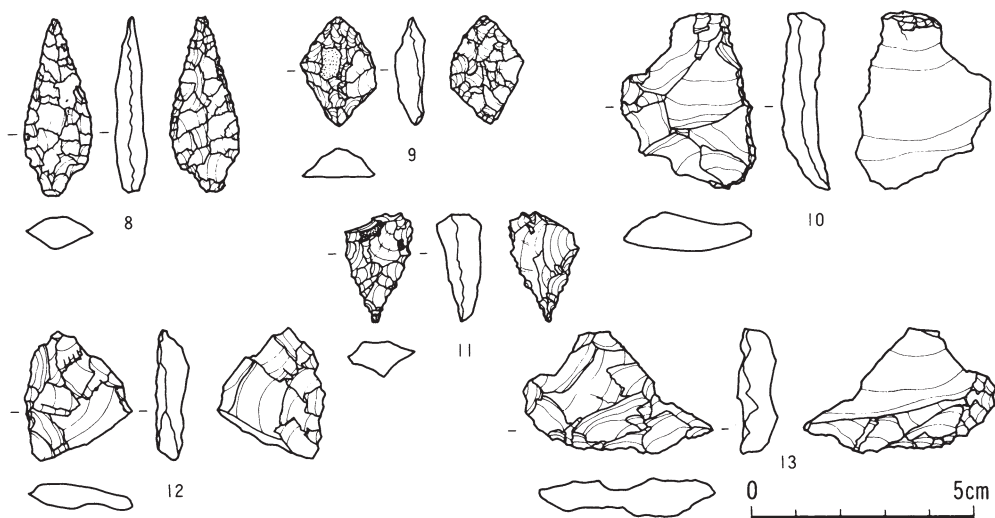
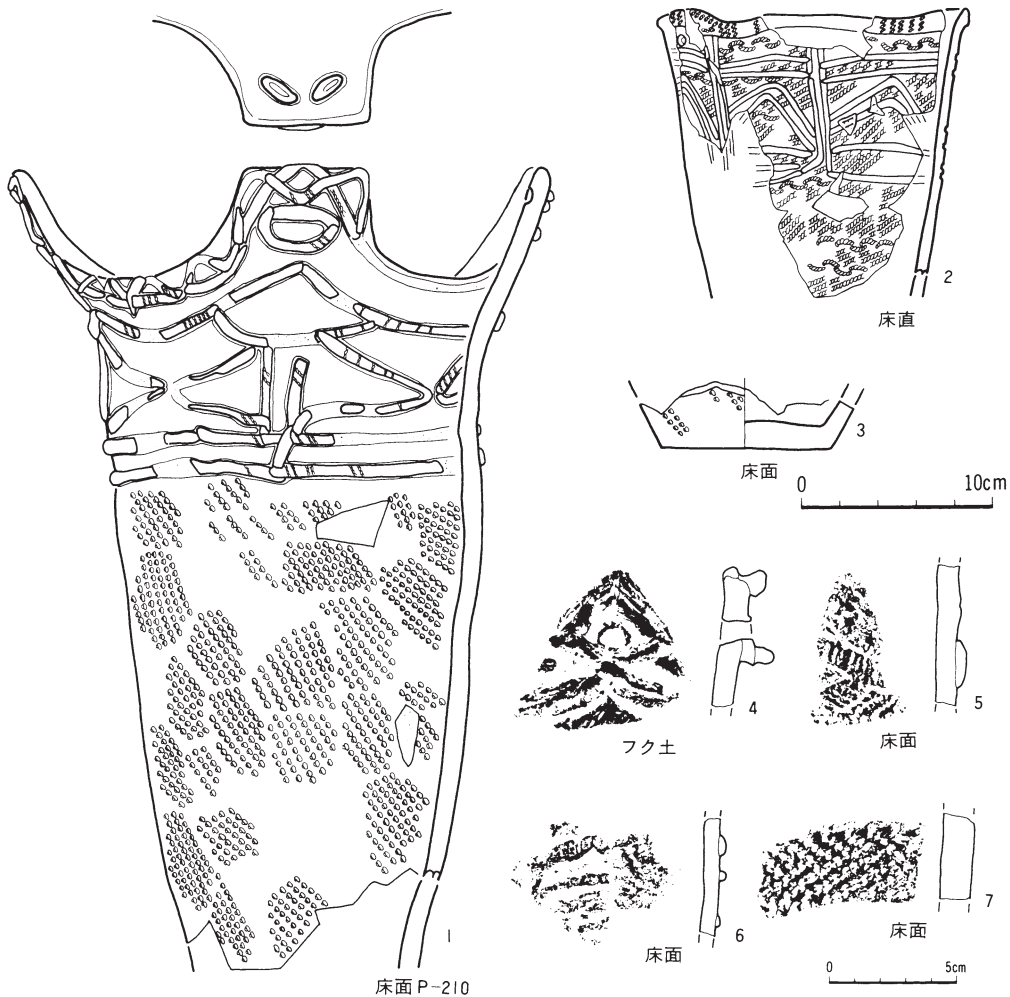
第748図 第308号住居跡(4)



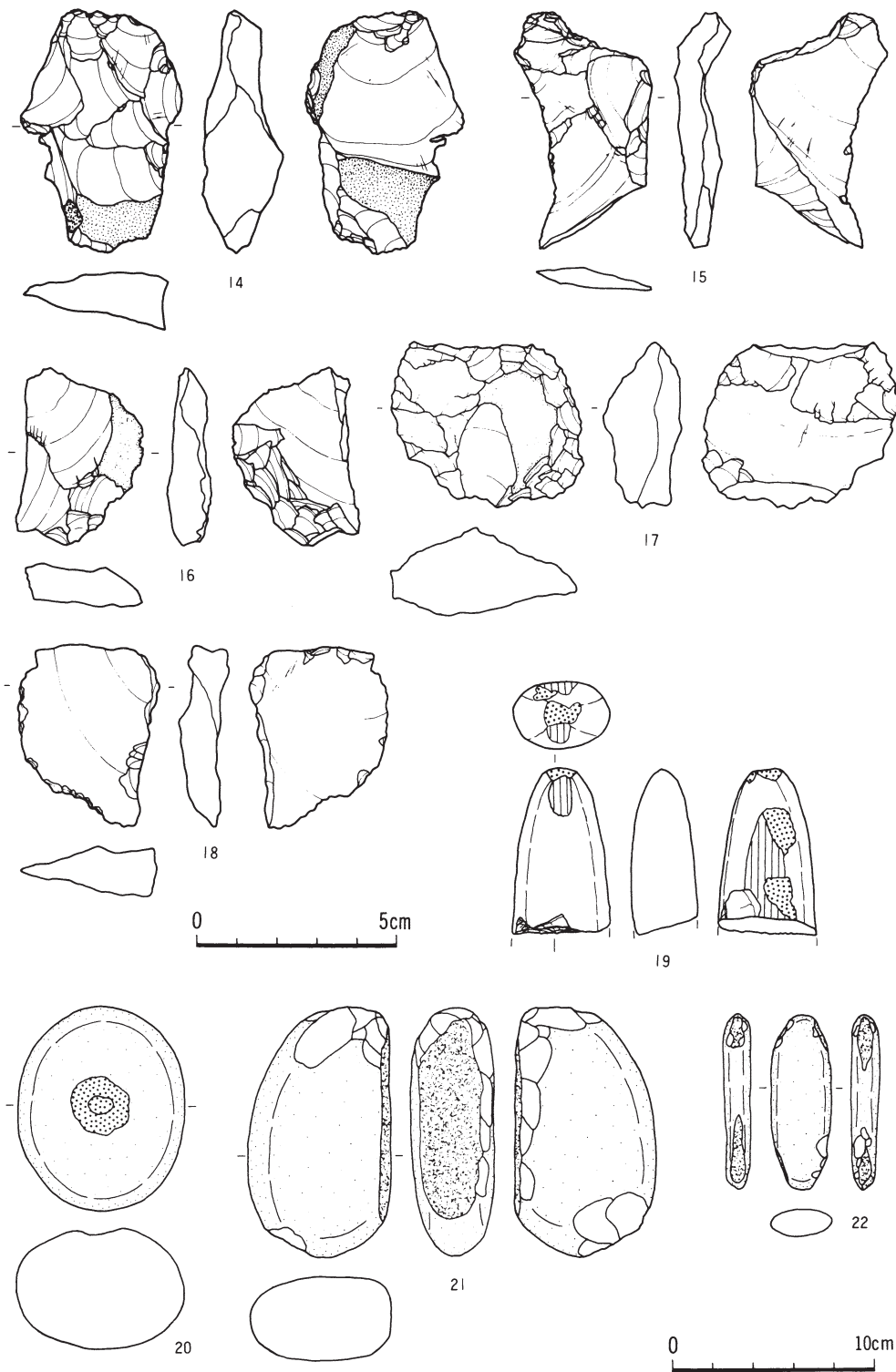
炉土層注記(I-J)

- 第1層 褐色土 10Y R 4% 硬い
- 第2層 黄褐色土 10Y R 5% 硬い
- 第3層 褐色土 10Y R 4%
- 第4層 黄褐色土 10Y R 5% 硬い
- 第5層 暗褐色土 10Y R 3%
- 第6層 褐色土 10Y R 4% 焼土多量含む

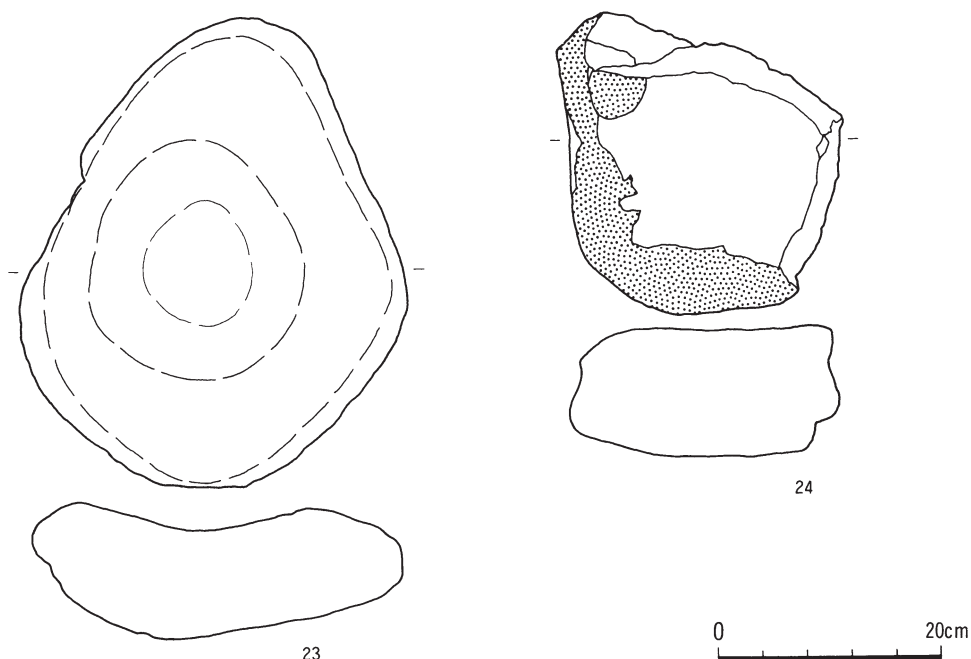




第750図 第308号住居跡(6)



第751图 第308号住居跡(7)



第752図 第308号住居跡(8)

P₉…85cm、P₁₀…14cm、P₁₁…69cm、P₁₂…87cm、P₁₃…78cm、P₁₄…44cm、P₁₅…44cm、P₁₆…25cm、P₁₇…26cm、P₁₈…8cm、P₁₉…28cm、P₂₀…24cm、P₂₁…42cm、P₂₂…33cm、P₂₃…34cm、P₂₅…31cm、P₂₆…33cm、P₂₇…30cm、P₂₈…75cm、P₂₉…46cm、P₃₀…33cm、P₃₁…38cm、P₃₂…30cm、P₃₃…34cm、P₃₄…40cm、P₃₅…28cm、P₃₆…40cm、P₃₇…34cm、P₃₉…32cm、P₄₀…66cm、P₄₁…71cm、P₄₂…30cm、P₄₃…69cm、P₄₄…68cm、P₄₅…72cm、P₄₆…92cm、P₄₇…27cm、P₄₈…30cm、P₄₉…26cm、P₅₀…36cm、P₅₁…33cm、P₅₂…48cm、P₅₃…29cm、P₅₄…64cm、P₅₅…88cm、P₅₆…27cm、P₅₈…68cm、P₅₉…28cm、P₆₀…28cm、P₆₁…32cm、P₆₂…31cm、P₆₃…36cm、P₆₄…81cm、P₆₅…88cm。

このうちP₄₀以降は床面を削平した後、検出したものである。P₁・P₃・P₅・P₆・P₇ (P₆に対応するピットは調査区域外にある) が基本的柱穴であり、調査区域外へ延びていくものと思われる、少なくとも8本柱で構成されたものと考えられる。またこれらの主柱穴はそれぞれ重複あるいは近接して同間隔のピットを検出していることから、建て替えが行なわれたものと思われる。

〈炉〉 床面に8箇所の焼土を認めた。本住居跡の炉は、中軸線上にある1号炉、2号炉と思われる。

＜特殊施設＞ 西壁寄りで検出した。一般にこの種の施設は壁に接して位置するのが普通であるが、本住居跡の場合、西壁から80cm程離れている。ロームの盛り土を馬蹄形に巡らしており内側でピット（P₄₀）を検出した。また施設下から焼土を検出したが、本住居跡に伴うものではなかった。

＜堆積土＞ 全般に暗褐色土の堆積土を主体としている。

＜出土遺物＞ 土器は円筒上層d式土器が若干出土した。石器は床面から不定形石器5点、台石1点、石皿1点、床面直上から石鏃1点、石錐1点、覆土から石鏃2点、不定形石器2点、石斧1点、敲磨器類3点、石棒1点、壁溝から石鏃1点、不定形石器3点、ピットから不定形石器5点、総数27点出土している。

＜小結＞ 本住居は全体を掘ることができなかったが、本遺跡のなかでも大型住居に属するものである。柱穴の重複から少なくとも2回の建て替えが認められた。本住居跡の時期は出土遺物から円筒上層d式期と思われる。また明確にはできなかったが、床面を削平した段階で西側で2条の壁溝を新たに検出したことから、本住居より古い時期の住居が存在したと思われる。特殊施設の下で検出した焼土はこれに伴う可能性が考えられる。 (島山 昇)

第310号住居跡 (第753図)

＜位置と確認＞ CW-112・113グリッドで、第293号住居跡の調査中に確認した。

＜重複＞ 第237・293号住居跡より古いが、第288・311・456号住居跡とは不明である。

＜平面形・規模＞ 平面形は不明だが、残存部から短軸3m70cm前後、長軸5m25cmの隅丸長方形と推定される。推定床面積は、16.5m²である。

＜壁・床面＞ 西壁のみ確認した。壁高は地山から30～40cmで、壁は急に立ち上がる。床面は平坦で、堅緻であるが、中央部分は第293号住居跡により切られている。

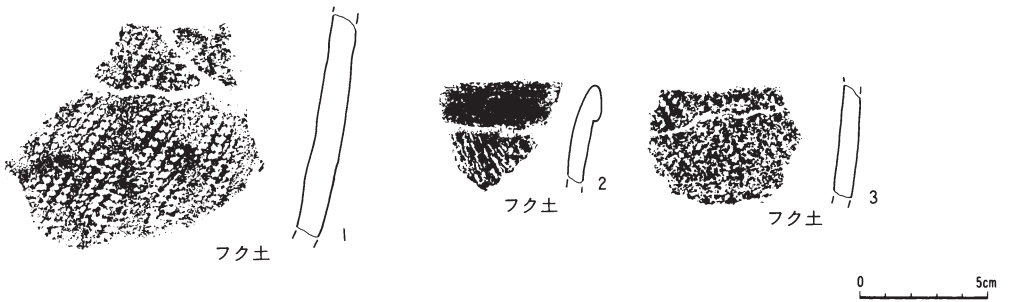
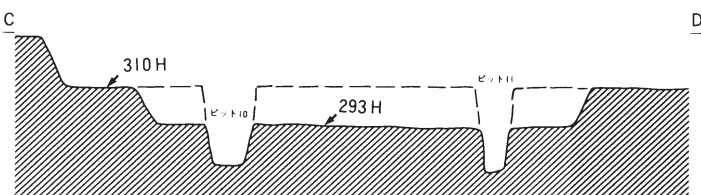
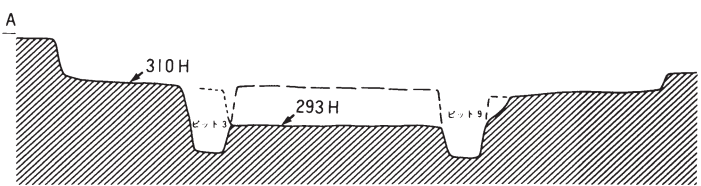
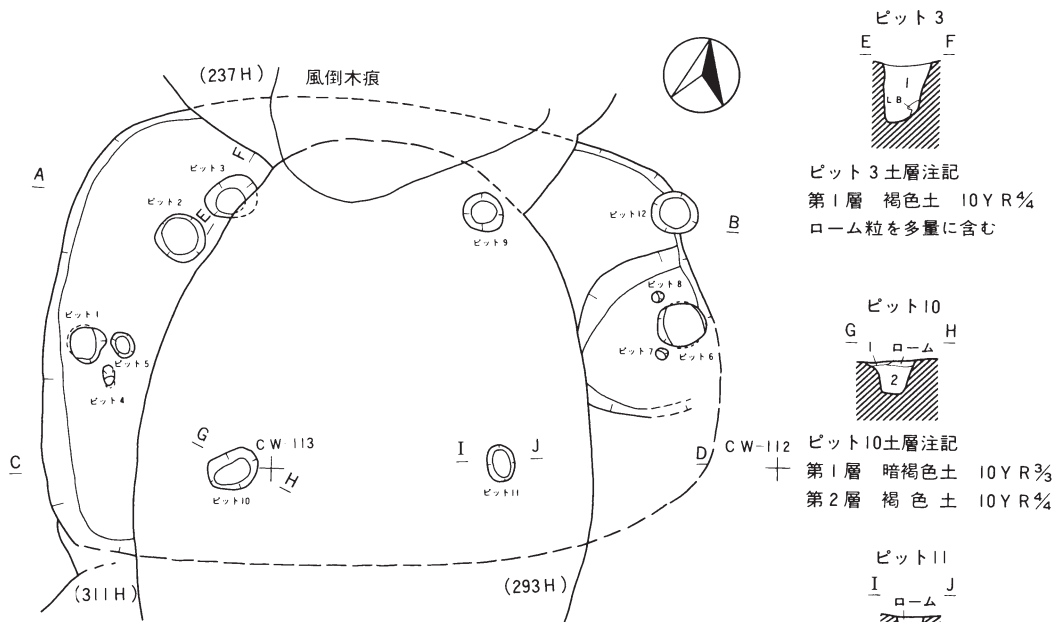
＜壁溝＞ 検出されなかった。

＜柱穴＞ 9個のピットを検出した。また第293号住居跡の床下から本住居跡のピットを3個検出した。本住居跡の柱穴はP₃・P₉～P₁₁の4本柱と、これにP₁と特殊施設のP₆が加わった6本柱の二通りが考えられる。主なピットの深さは、以下のとおりである。

P₁…48cm、P₂…23cm、P₃…48cm、P₄…12cm、P₅…10cm、P₆…46cm、P₇…32cm、P₈…23cm、P₉…50cm、P₁₀…60cm、P₁₁…65cm、P₁₂…30cm (P₉～P₁₁は第293号住居跡の床面で検出したが、本住居跡に換算した数値である)

＜炉＞ 第293号住居跡により切られているため、不明である。

＜特殊施設＞ 東壁に接して検出した。床面から5～8cm低くなっており、壁際には径30～38cmのピット（P₆）と、このピットの両脇に径10cm前後の小ピット（P₈・P₉）を検出した。



第753図 第310号住居跡

<堆積土> 上部では黄褐色土の堆積が見られるが、下位では暗褐色土を主体とした堆積が見られた。

<出土遺物> 数点の土器が出土しただけである。石器は、出土しなかった。

<小結> 本住居跡の時期は、住居跡の重複関係から榎林式期より古い時期に構築されたものと考えられる。(畠山 昇)

第311号住居跡 (第754図～第757図)

<位置と確認> CV-112・113グリッドで、第293号住居跡の調査中に確認した。

<重複> 第293号住居跡より古いのが、第288・310号住居跡とは不明である。

<平面形・規模> 短軸3m40cm前後、長軸4m20cmの楕円形で、東壁端がさらに25cmほど張り出している(床面での計測)。床面積は、11.49m²である。なお上端での規模は短軸約3m70cm、長軸約4m50cmである。

<壁・床面> 壁は急に立ち上がり、南壁1m10cm、西壁80～90cm、東壁は第288号住居跡床面から25cm低い。床面は平坦で、堅緻である。

<壁溝> 幅6～8cm、深さ3～4cmの壁溝を部分的に検出した。

<柱穴> 大小合わせて90個のピットを検出した。このうち柱穴はP₁～P₄の4本柱と考えられる。P₁の外縁にはロームを貼りつけていた。また床面を削いだ段階で、径5～15cm前後、深さ5～20cmの小ピットを多数検出した。そのなかには楕円形を描くように見られものがある。主なピットの深さは、以下のとおりである。

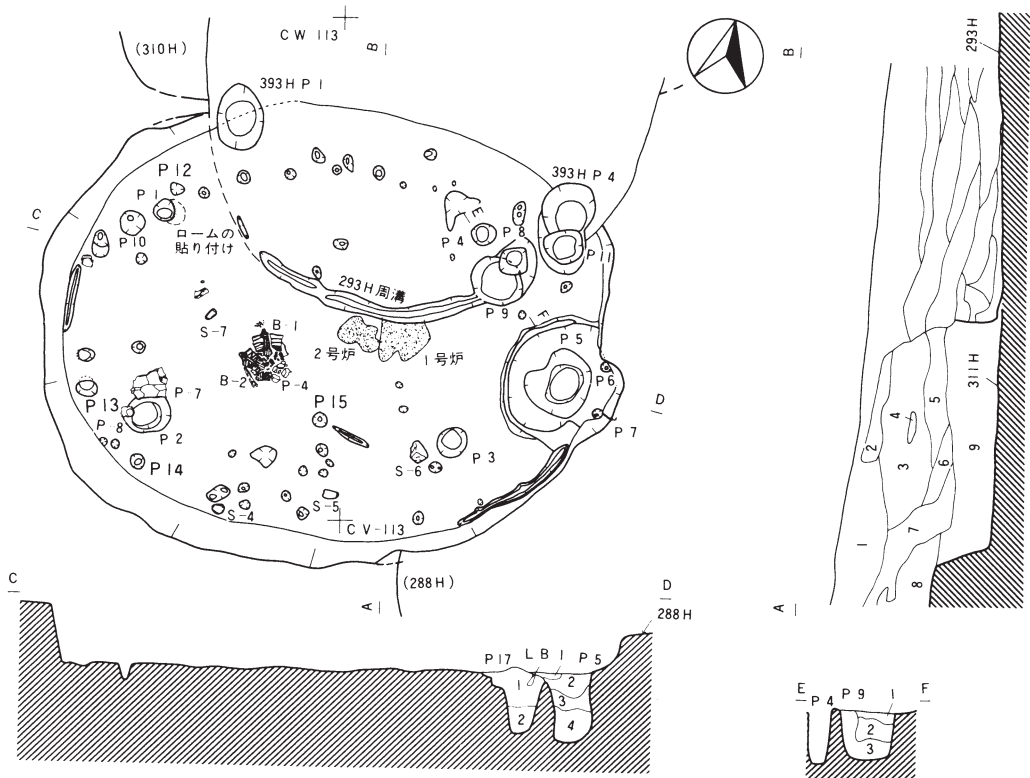
P₁…40cm、P₂…55cm、P₃…48cm、P₄…45cm、P₅…57cm、P₆…21cm、P₇…14cm、P₈…55cm、P₉…38cm、P₁₀…10cm、P₁₁…53cm、P₁₂…44cm、P₁₃…36cm、P₁₄…38cm、P₁₅…32cm、P₁₆…58cm、P₁₇…52cm、P₁₈…41cm、P₁₉…48cm、P₂₀…25cm、P₂₁…22cm、P₂₂…16cm、P₂₃…33cm、P₂₄…44cm。

<炉> 中央からやや東に寄ったところで地床炉を2基検出した。東から1号炉、2号炉とした。1号炉が2号炉より新しい。

<特殊施設> 東壁が若干張り出し、これに対応するようにロームの盛土が半円状に巡らされている。この内側には径30cm、深さ57cmのピット(P₅)と径10cmの小ピット2個(P₆・P₇)を検出した。

<堆積土> 全般に、ローム粒・塊を多量に含んだ暗褐色～褐色土を主体とした堆積が見られるが、とくに下位では黄褐色土の堆積が厚く見られた。人為堆積と考えられる。

<出土遺物> 覆土から円筒上層d・e式土器、床面・床面直上から円筒上層d式土器が出土した。石器は、床面から磨製石斧1点、敲磨器類2点、覆土から石鏃8点、石槍2点、石筥1



第311号住居土層注記(A-B)

- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒、炭化物含む
- 第2層 褐色土 10Y R 6/6 ローム粒多量含む
- 第3層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒多量、炭化物微量含む
- 第4層 暗褐色土 10Y R 3/4 ローム粒多量含む
- 第5層 黒褐色土 10Y R 2/2 ローム粒微量、炭化物微量含む
- 第6層 暗褐色土 10Y R 3/3 ローム粒多量、炭化物多量含む
- 第7層 褐色土 10Y R 4/4 ローム粒多量、炭化物微量含む
- 第8層 黄褐色土 10Y R 5/5 炭化物微量含む
- 第9層 黄褐色土 10Y R 5/5

ビット5土層注記

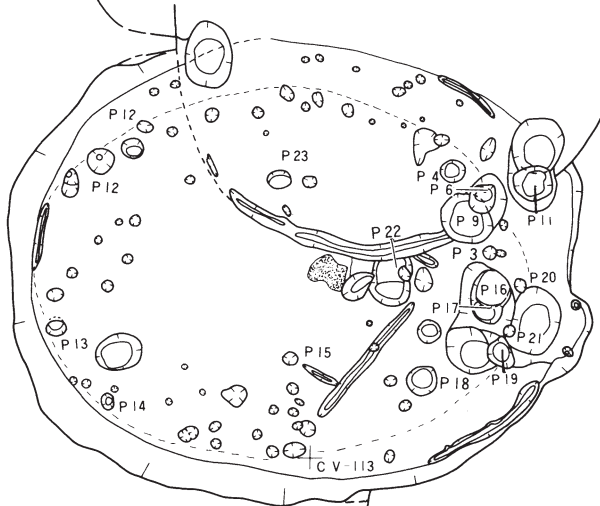
- 第1層 黒褐色土 10Y R 2/3
- 第2層 暗褐色土 10Y R 3/4
- 第3層 黄褐色土 10Y R 5/8
- 第4層 黄褐色土 10Y R 5/6

ビット9土層注記

- 第1層 暗褐色土 10Y R 3/4
- 第2層 褐色土 10Y R 4/4
- 第3層 明黄褐色土 10Y R 8/8

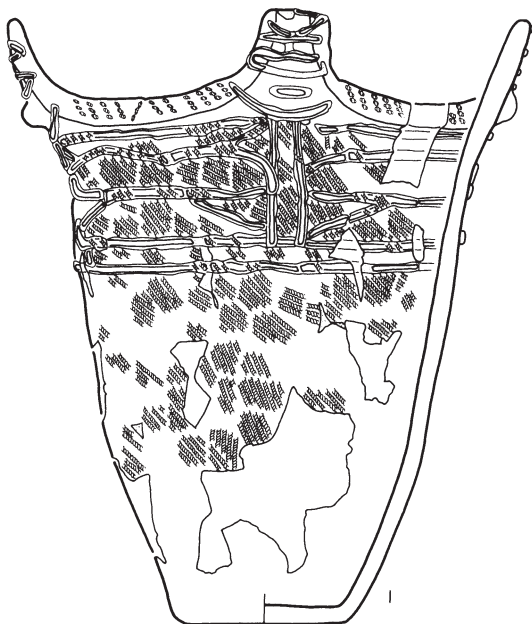
ビット17土層注記

- 第1層 黄褐色土 10Y R 5/5
- 第2層 黄褐色土 10Y R 5/5

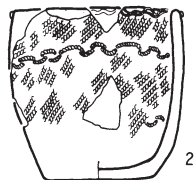


第754図 第311号住居跡(1)

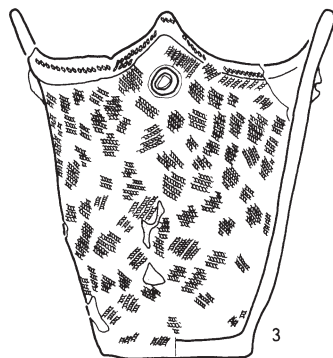




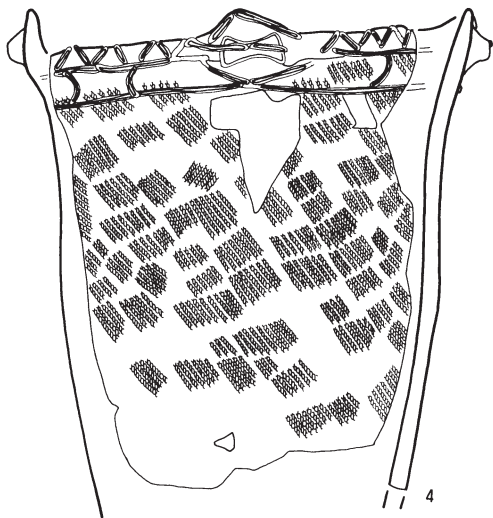
床直 P-4



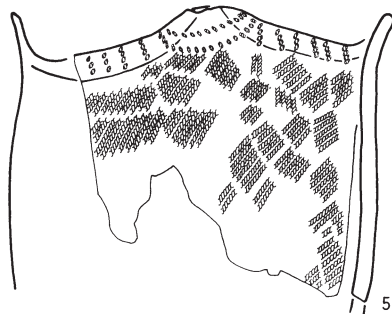
床面



フク土



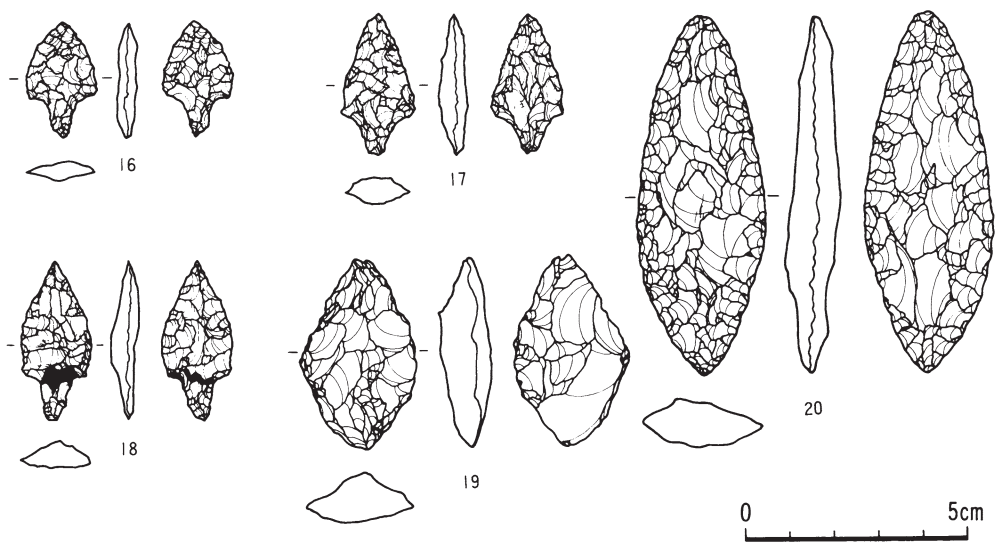
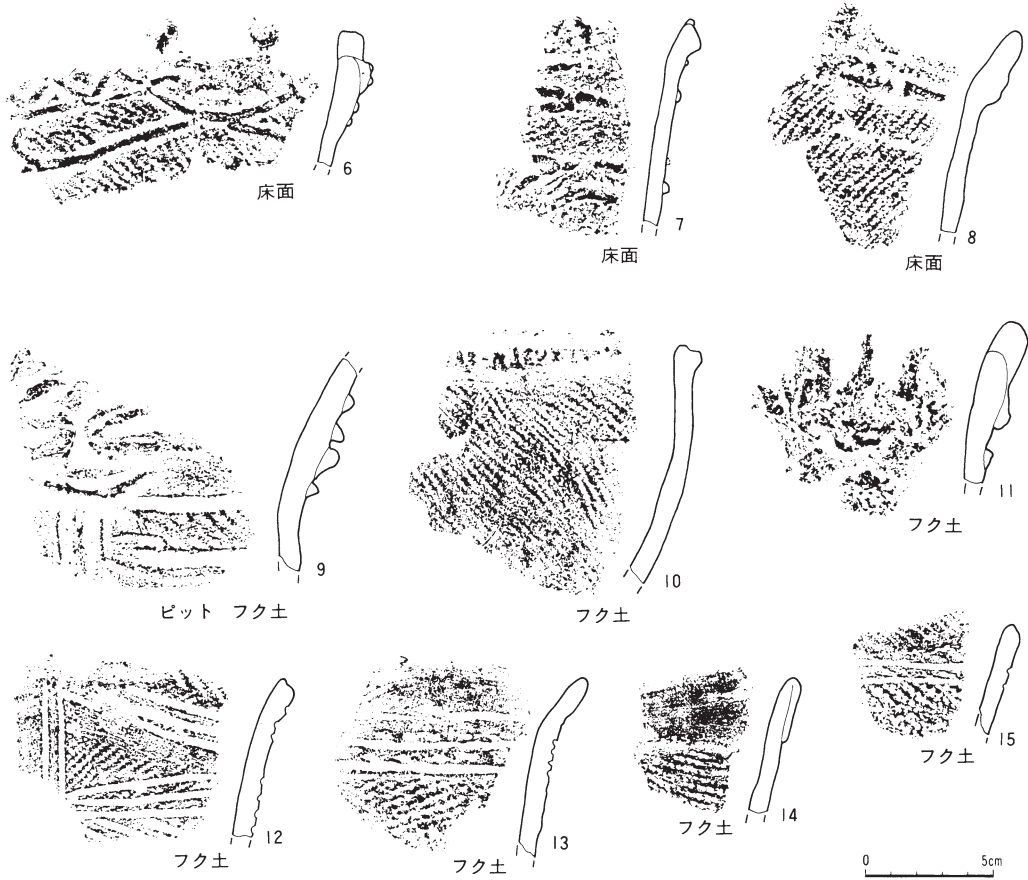
床直 P-7



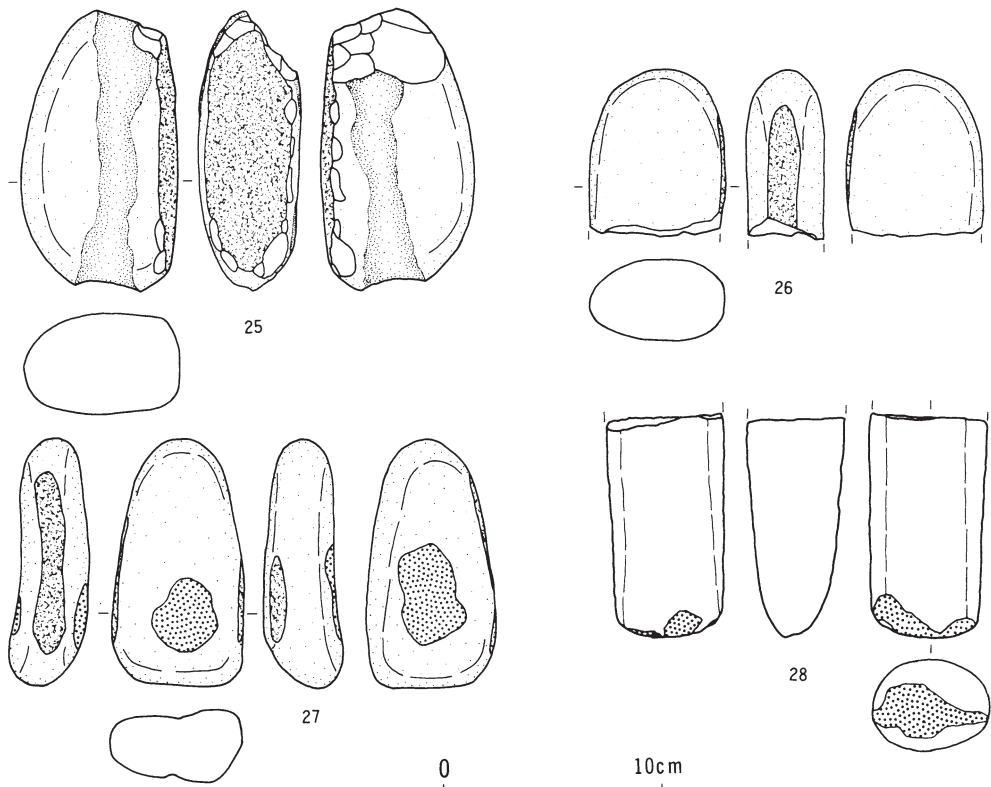
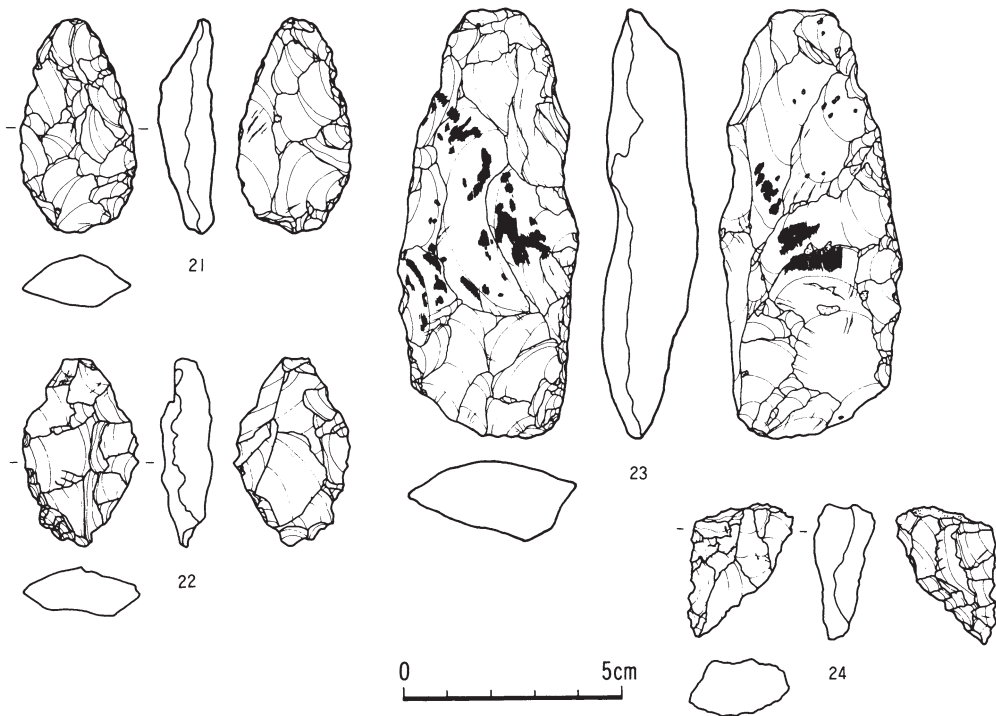
フク土



第755図 第311号住居跡(2)



第756図 第311号住居跡(3)



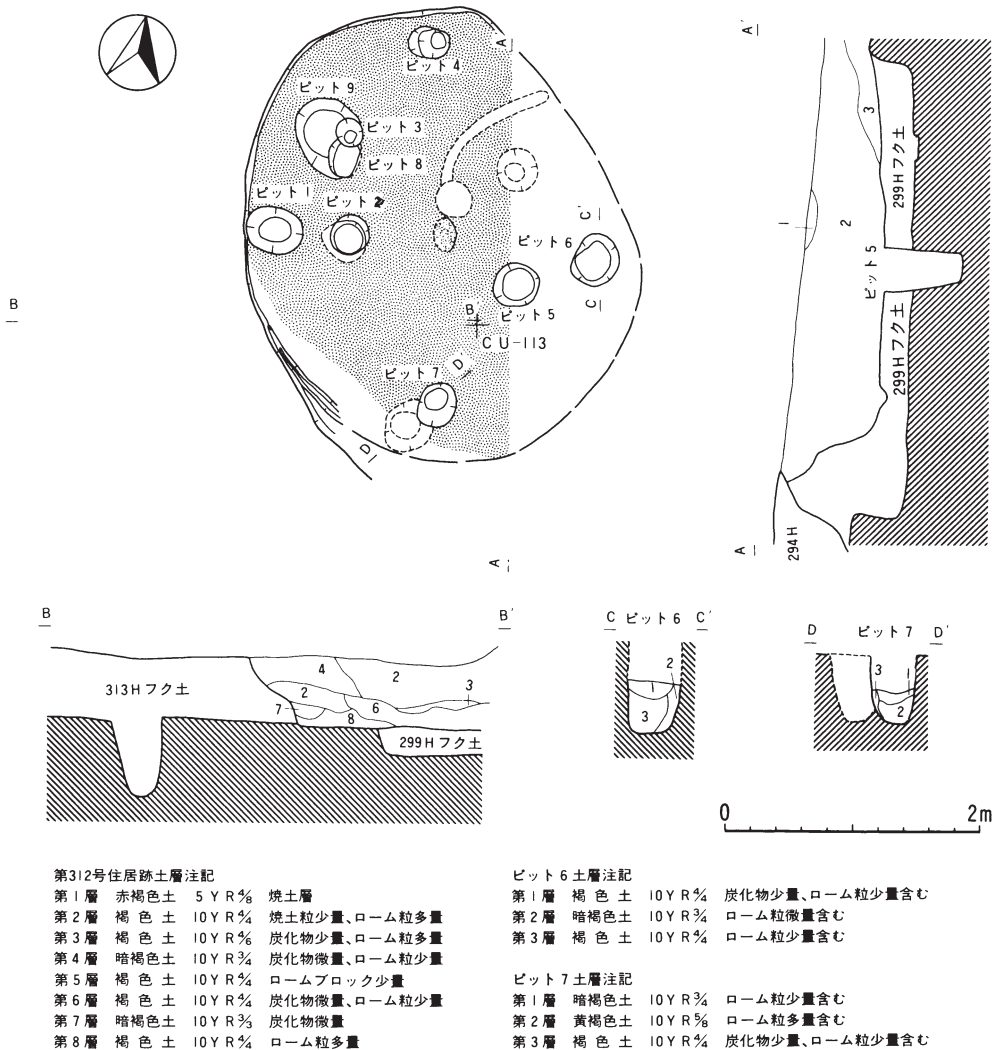
第757图 第311号住居跡(4)

点、不定形石器5点、敲磨器類1点が出土し、総数20点である。

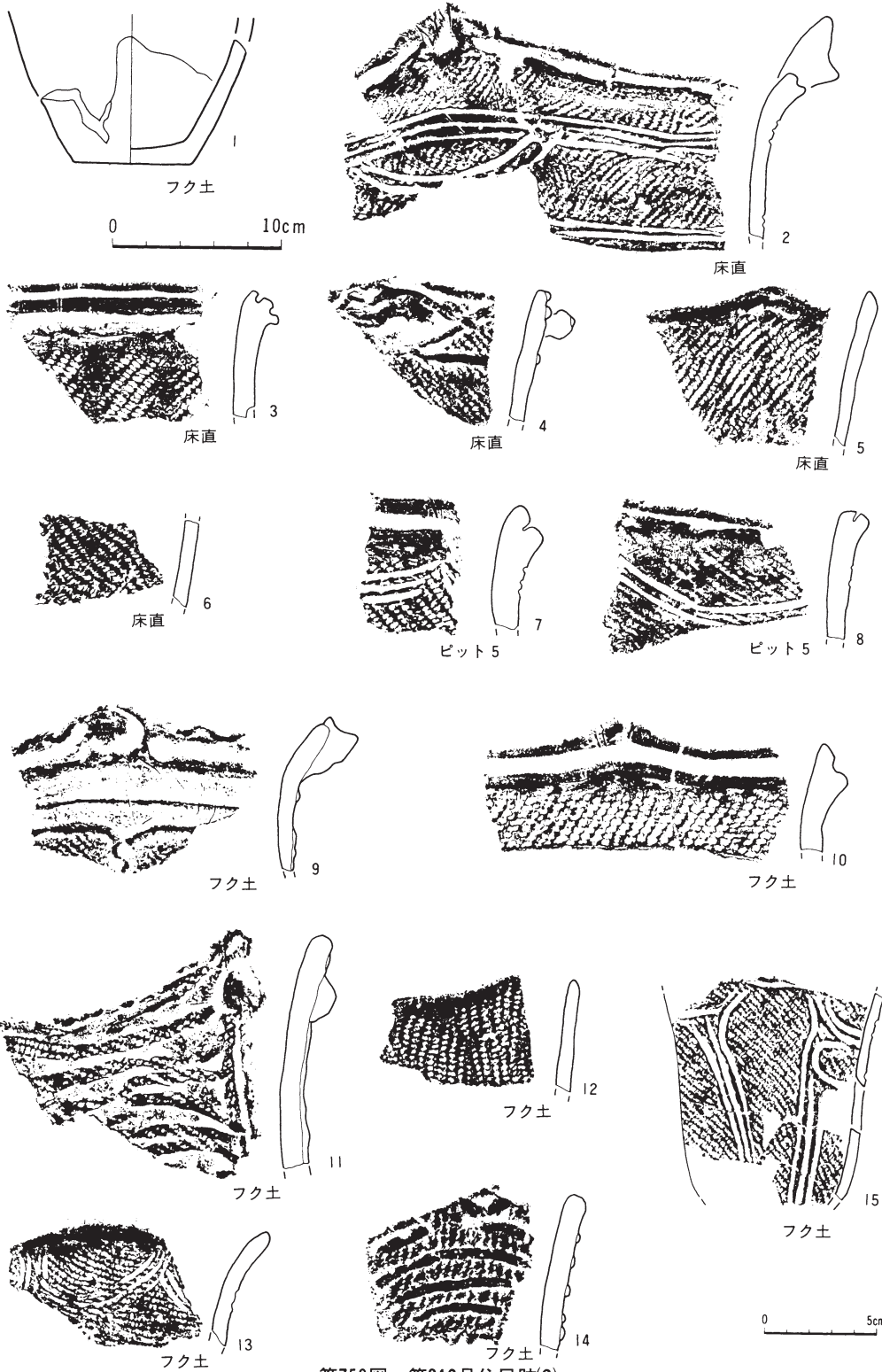
＜小結＞ 本住居跡は炉を2基検出したことと、床面を剥いだ時に検出した小ピットが弧を描くように見られることから、おそらくは拡張が行なわれたものと考えられる。本住居跡の時期は、床面から出土した土器から円筒上層d式期と考えられる。 (畠山 昇)

第312号住居跡 (第758～760図)

＜位置と確認＞ CU-112・113グリットに位置し、第三層を調査中に褐色土の落ち込みを確認した。



第758図 第312号住居跡(1)



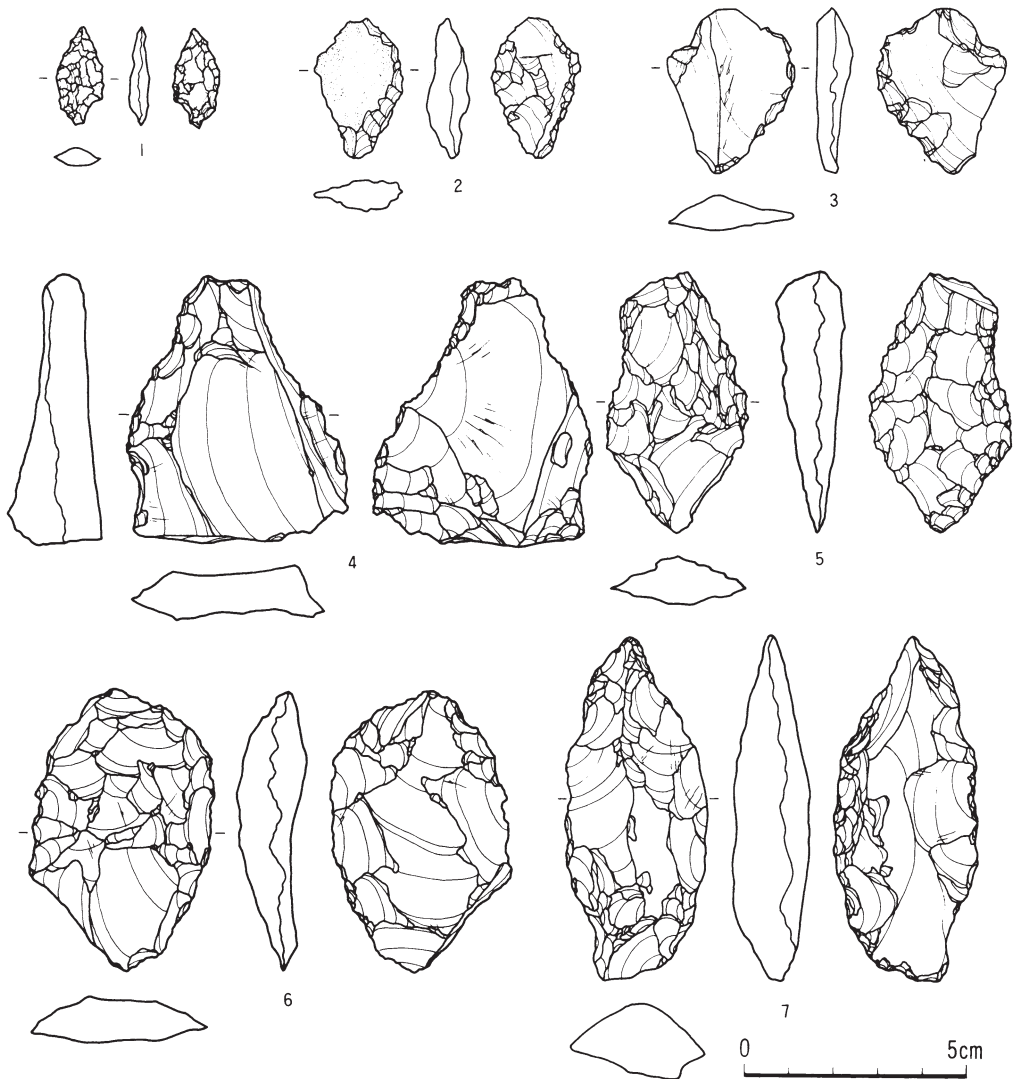
第759図 第312号住居跡(2)

〈重複〉 第299・313・318・429号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〈平面形・規模〉 重複が多くプランは判然としないが、長軸3m60cm、短軸3m10cm程の楕円形を呈するものと思われる。

〈壁・床面〉 住居跡のまわりが遺構との重複で、確認された西壁は54cmである。床面は1～3cmの貼り床が施され、軟弱である。

〈柱穴〉 床面から9個検出され、P₁・P₄・P₆・P₇の4本が主柱穴と考えられる。各ピットの床面からの深さは、P₁…71cm・P₂…60cm・P₃…18cm・P₄…57cm・P₅…61cm・P₆…70cm・P₈…57cm・P₉…49cm・P₁₀…22cmである。



第760図 第312号住居跡(3)

<炉> 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。28×20cmの楕円形を呈する。

<特殊施設> 確認されなかった。

<堆積土> 第1層で焼土が確認されたが、廃棄と考えられる。8層に分層され、褐色土を主体とするロームを多量に含む堆積土である。

<出土遺物> 土器は床面・床面直上から(2～6)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は床面から石鏃1点、覆土から石鏃1点、石槍1点、不定形石器8点が出土し、総数11点である。

<小結> 床面直上出土の土器は榎林式期のものと考えられ、本住居跡は榎林式期かそれ以前の時期と考えられる。 (長崎 勝巳)

第313号住居跡 (第761～763図)

<位置と確認> C T・C U-113グリッドに位置し、第312号住居跡を精査中に確認した。

<重複> 第312・314・429号住居跡と重複し、第312号住居跡より古く他の住居跡より新しい。

<平面形・規模> 平面形は重複のため不明である。

<壁・床面> 住居跡の東側は、第312号住居跡が重複して、壁は存在しない。また残りの壁も他の住居跡の堆積土で埋まり、明瞭には存在しない。床面は三ヶ月形に残っており、暗褐色土の土を貼り固めたもので平坦である。

<壁溝> 確認されなかった。

<柱穴> 床面から2個、第312号住居跡を精査中に2個のピットを検出し、共に支柱穴と考えられる。各ピットの深さは、P₁…68cm・P₂…27cm・P₃…58cm・P₄…68cmである。

<炉> 確認されなかった。

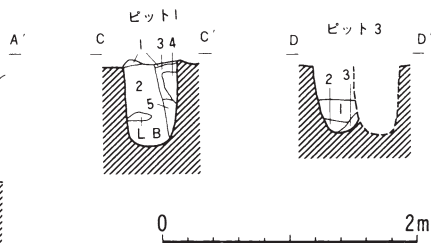
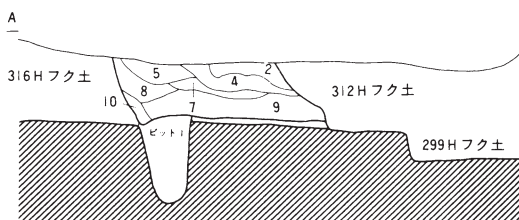
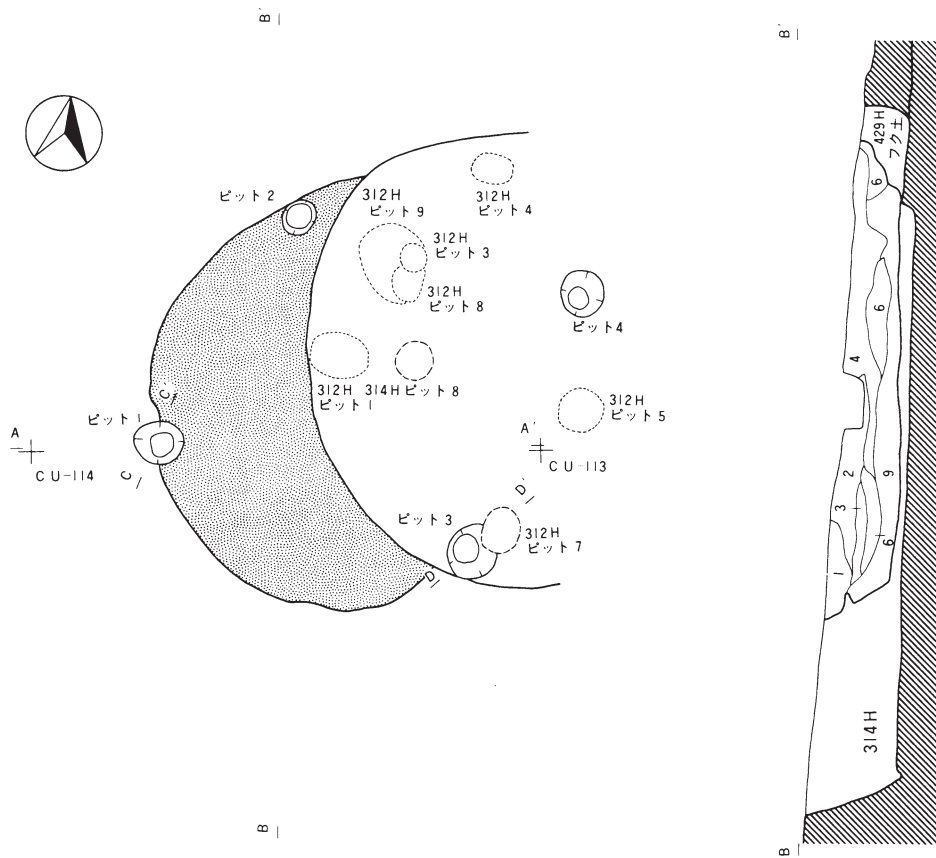
<特殊施設> 確認されなかった。

<堆積土> 10層に分層され、褐色土を主体とする。

<出土遺物> 土器は床面直上から(1・2)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は床面から不定形石器1点、磨製石斧1点、床面直上から石鏃1点、敲磨器類1点、覆土から石鏃5点、石槍2点、石皿・台石類1点、石製品(8)が出土し、総数15点である。

<小結> 本住居跡は床面直上出土の土器から榎林式期か、それ以前の時期と考えられる。

(長崎 勝巳)



第313号住居跡土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R% 炭化粒微量、ローム粒少量
- 第2層 褐色土 10Y R% ローム粒多量、ロームブロック少量
- 第3層 褐色土 10Y R% 炭化粒微量、ローム粒少量
- 第4層 暗褐色土 10Y R% 炭化粒微量
- 第5層 暗褐色土 10Y R% 炭化粒少量、ローム粒少量
- 第6層 褐色土 10Y R% 炭化粒少量
- 第7層 褐色土 10Y R% 炭化粒微量、ローム粒少量
- 第8層 褐色土 10Y R% ローム粒少量
- 第9層 暗褐色土 10Y R% 炭化粒微量、ローム粒少量
- 第10層 黄褐色土 10Y R% ロームブロック多量

ピット1土層注記

- 第1層 黄褐色土 10Y R%
- 第2層 褐色土 10Y R% ローム粒少量含む
- 第3層 黄褐色土 10Y R% ロームブロック多量
- 第4層 黄褐色土 10Y R%
- 第5層 褐色土 10Y R% ローム粒少量含む

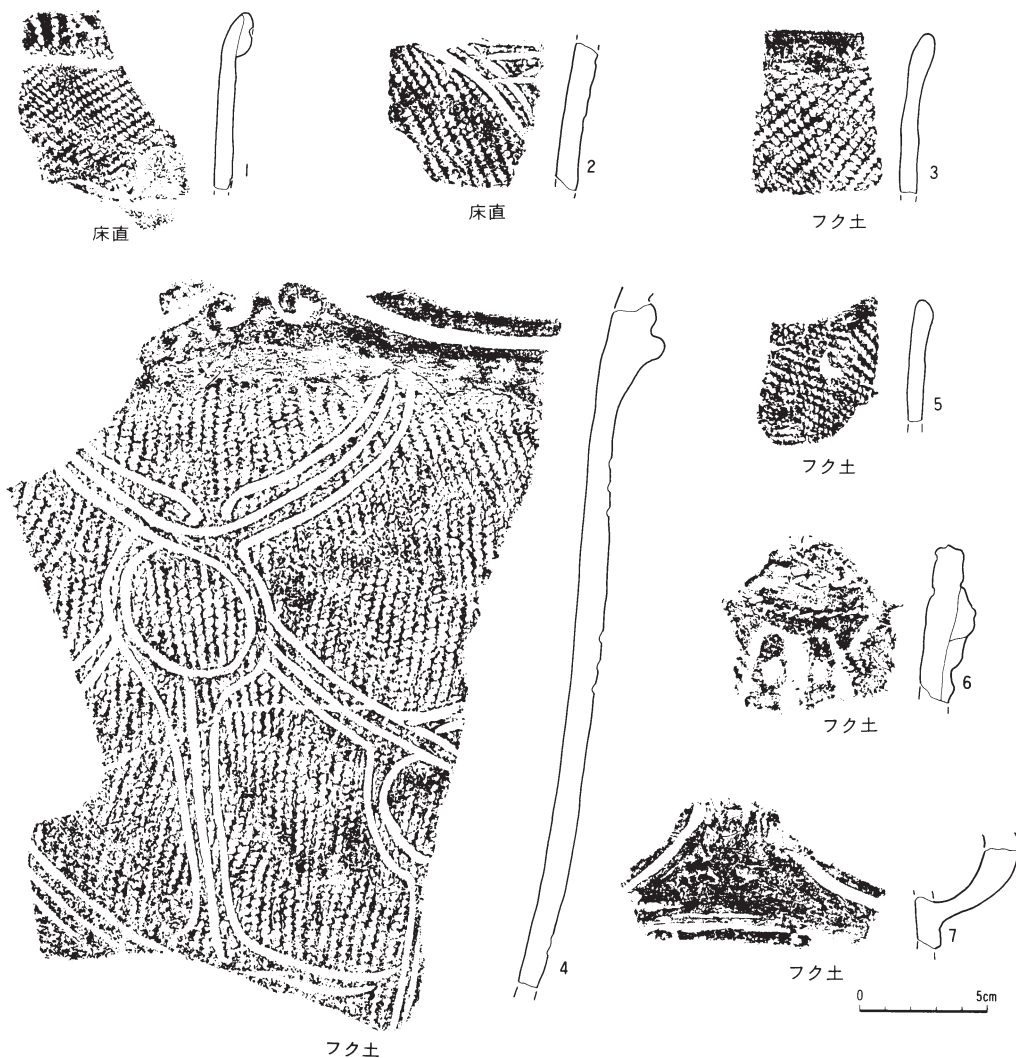
ピット3土層注記

- 第1層 褐色土 10Y R% 炭化物微量、ローム粒微量含む
- 第2層 におい黄褐色土 10Y R% ローム粒少量含む
- 第3層 明黄褐色土 10Y R% 炭化物微量、ローム粒多量含む

第761図 第313号住居跡(1)



第762图 第313号住居跡(2)



第763図 第313号住居跡(3)

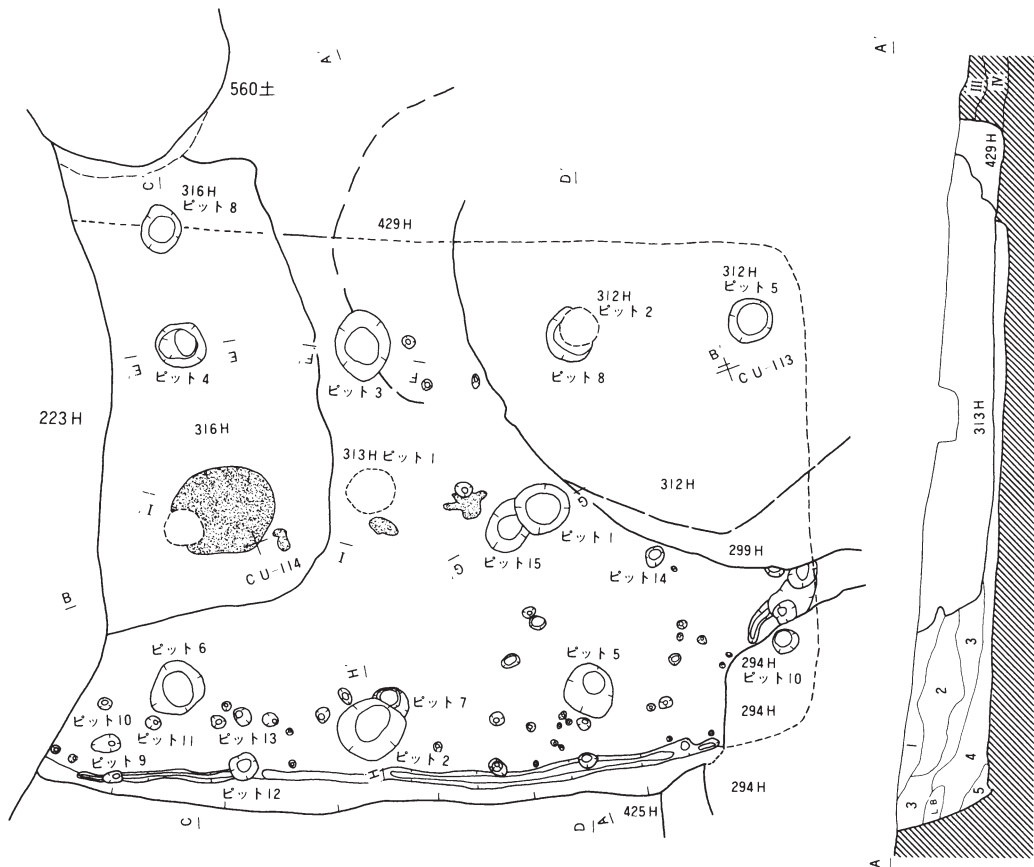
第314号住居跡 (第764～768図)

〈位置と確認〉 CT・CU-113・114グリッドに位置し、第312号住居跡を精査中に確認した。

〈重複〉 第223・312・313・299号住居跡と重複し、すべての住居跡より古い。

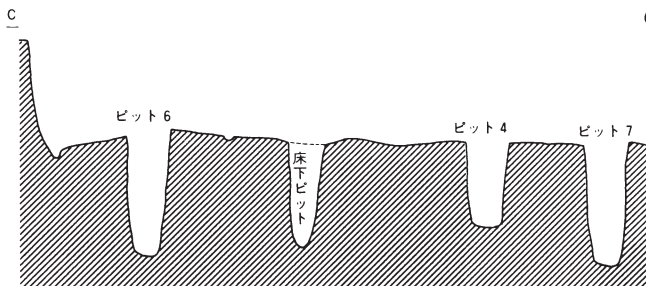
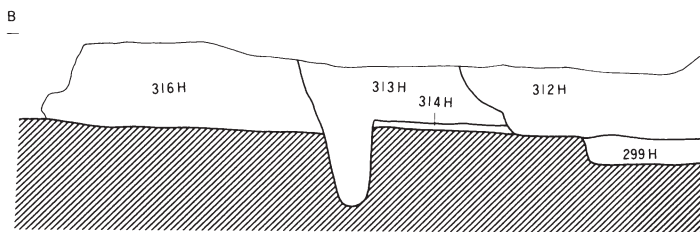
〈平面形・規模〉 東西とも重複が激しいためプランは、柱穴配置からの推定で長軸6.5m、短軸4.2mの隅丸の長方形と考えられる。床面積は27.34㎡である。

〈壁・床面〉 住居跡の東西・北側が他遺構と重複しているためプランは不明である。南壁は、第IV層を壁面とし、壁高は80cm程で急な立ち上がりである。床面の長軸線上には炉を有する為、堅緻であるが南及び北側の床面はやや軟らかくなっている。



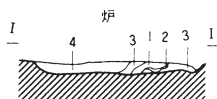
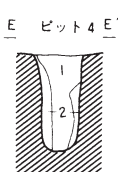
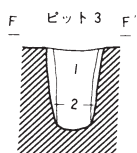
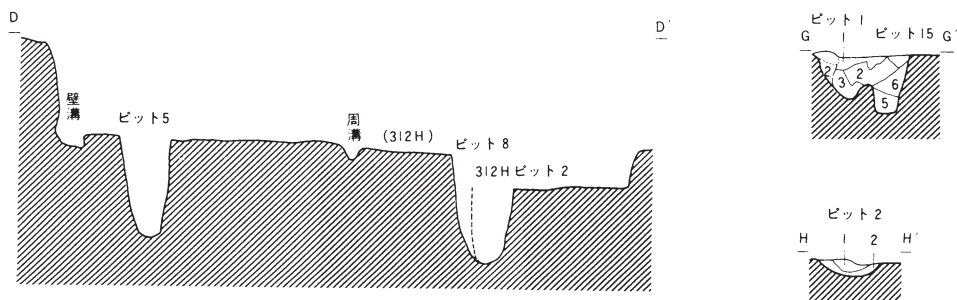
第314号住居跡土層注記

- 第1層 黒褐色土 10Y R 3/3
ローム粒微量
- 第2層 暗褐色土 10Y R 3/3
ロームブロック多量
- 第3層 暗褐色土 10Y R 3/3
ローム粒少量
- 第4層 褐色土 10Y R 4/4
ローム粒少量
- 第5層 暗褐色土 10Y R 3/4
ローム粒少量



0 2m

第764図 第314号住居跡(1)



第314号住居跡ピット1

- 第1層 暗褐色土 10YR% ローム粒多量含む
- 第2層 黄褐色土 10YR%
- 第3層 暗褐色土 10YR% ローム粒多量含む
- 第4層 褐色土 10YR% ローム粒少量、炭化物微量含む
- 第5層 褐色土 10YR% ローム粒多量含む
- 第6層 褐色土 10YR% ローム粒多量含む

炉

- 第1層 におい黄褐色土 10YR% 焼土粒微量、炭化物微量
- 第2層 赤褐色土 5YR% 焼土多量、炭化物微量
- 第3層 黄褐色土 10YR%
- 第4層 黄褐色土 10YR% 焼土粒少量

ピット2

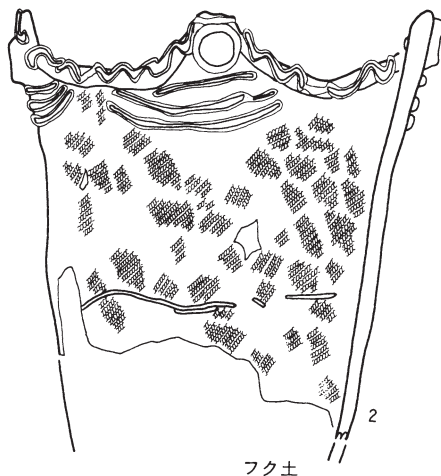
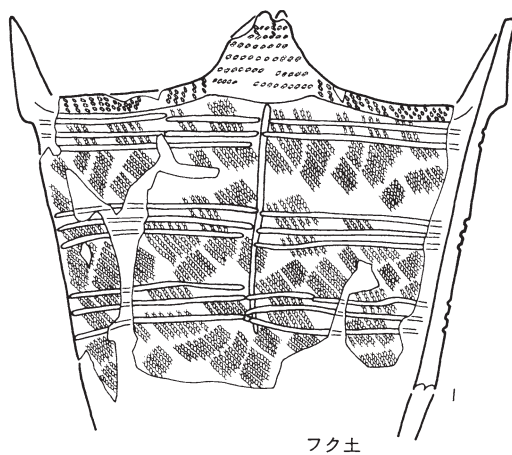
- 第1層 黒褐色土 10YR% ローム粒微量、炭化物微量、焼土微量
- 第2層 褐色土 10YR% ローム粒多量、炭化物微量、焼土少量

ピット3

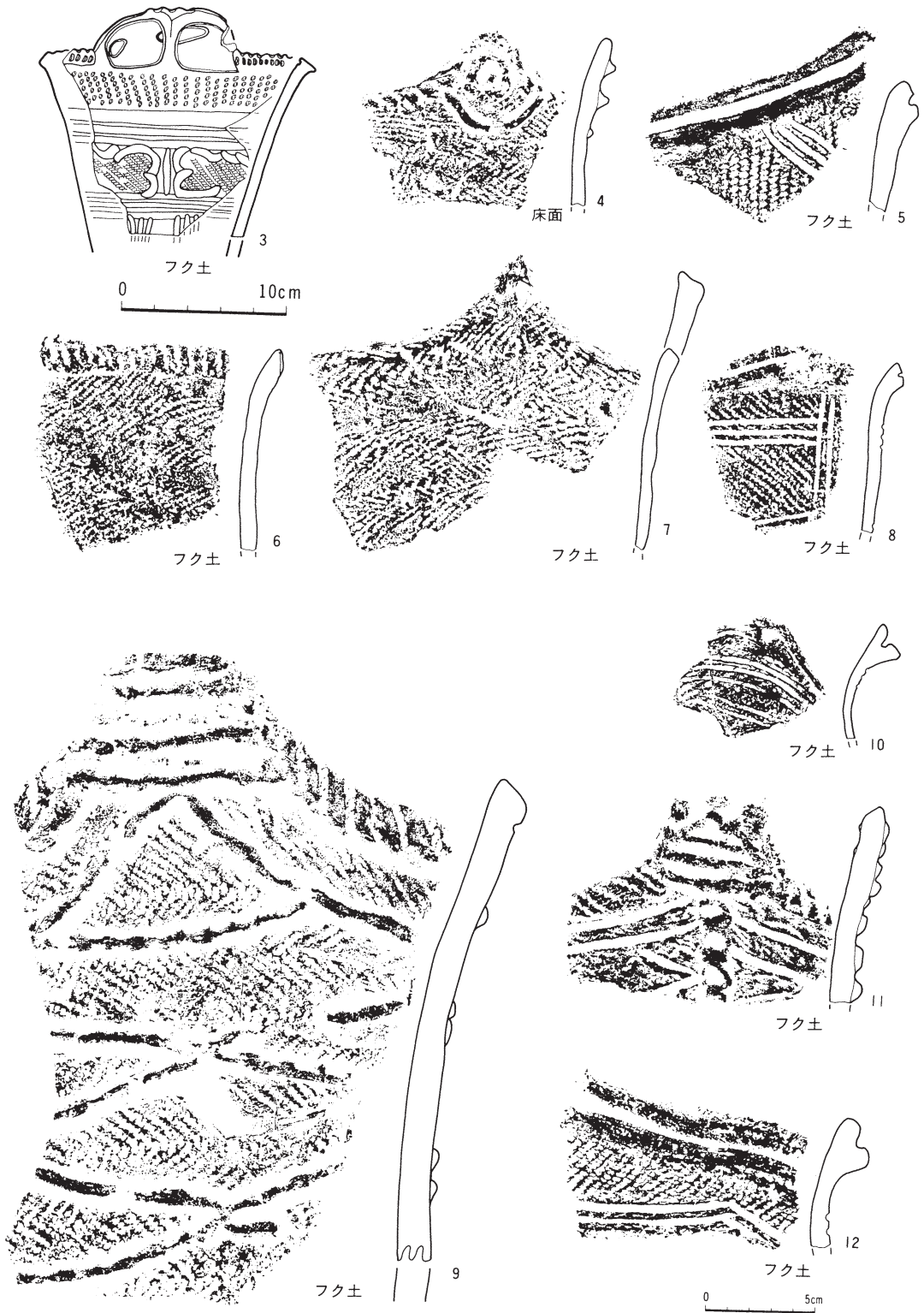
- 第1層 褐色土 10YR% ローム粒多量含む
- 第2層 黄褐色土 10YR%

ピット4

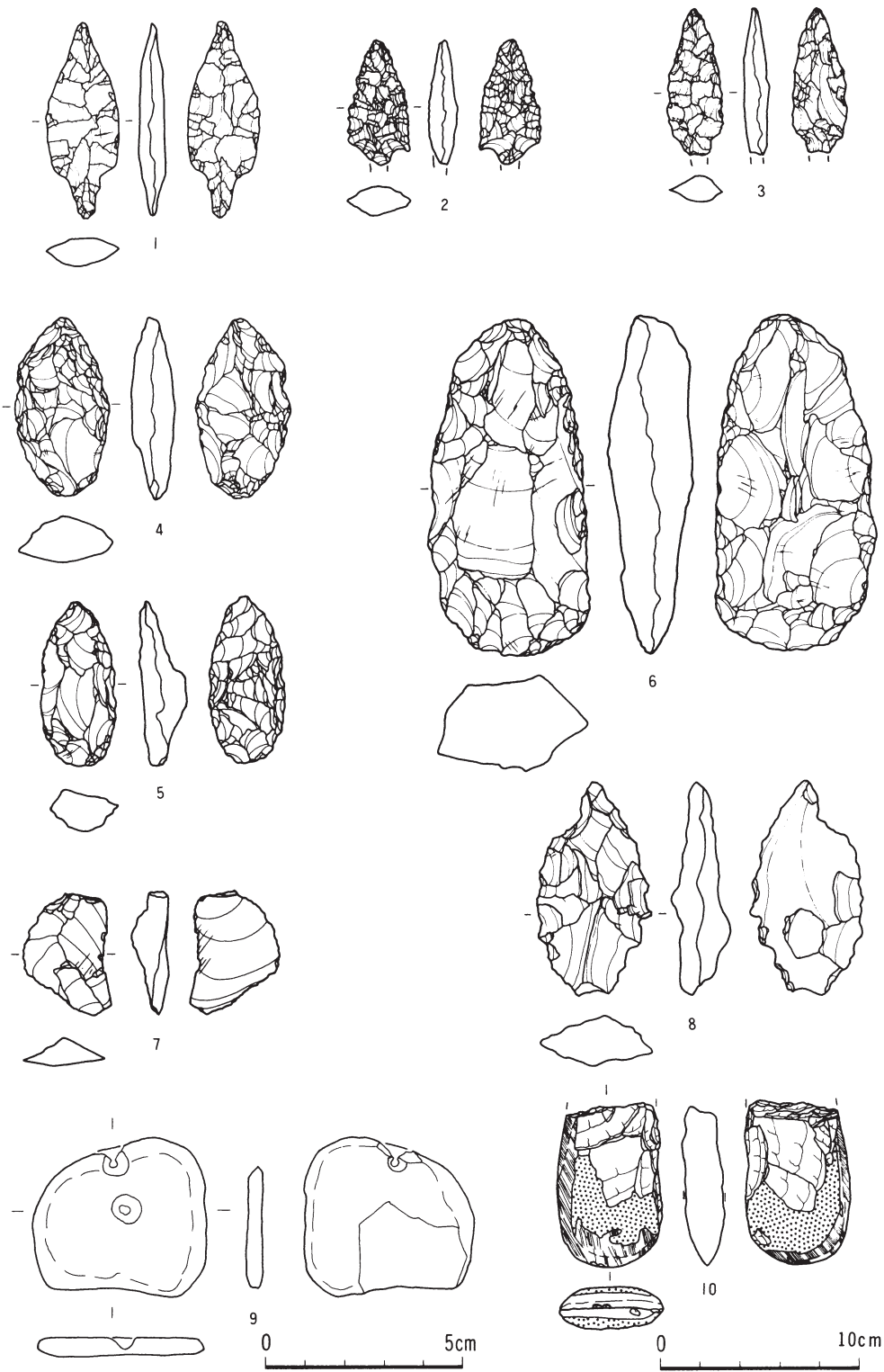
- 第1層 褐色土 10YR% ローム粒多量、炭化物微量、焼土微量
- 第2層 黄褐色土 10YR% ローム質



第765図 第314号住居跡(2)



第766図 第314号住居跡(3)



第767图 第314号住居跡(4)

<壁溝> 南壁際で確認され、幅8～12cm、深さ4～10cmである。東側からも一部確認された。

<柱穴> 床面及び床下から大小合わせて57個のピットが検出された。主柱穴はP₄-P₆・P₇-P₃・P₅-P₈・第294号住居跡P₁₀-第312号住居跡P₅の8本柱と考えられる。各ピットの深さはP₁…36cm・P₂…15cm・P₃…60cm・P₄…75cm・P₅…78cm・P₆…165cm・P₇…162cm・P₈…44cm・P₉…15cm・P₁₀…6cm・P₁₁…7cm・P₁₂…12cm・P₁₃…8cm・P₁₄…15cmである。また、床面・床下から直径4～14cmの小ピットが多数検出され5～20cmの深さである。

<炉> 長軸線上で4基の地床炉を検出した。一番西側にある地床炉は掘り方を有する。

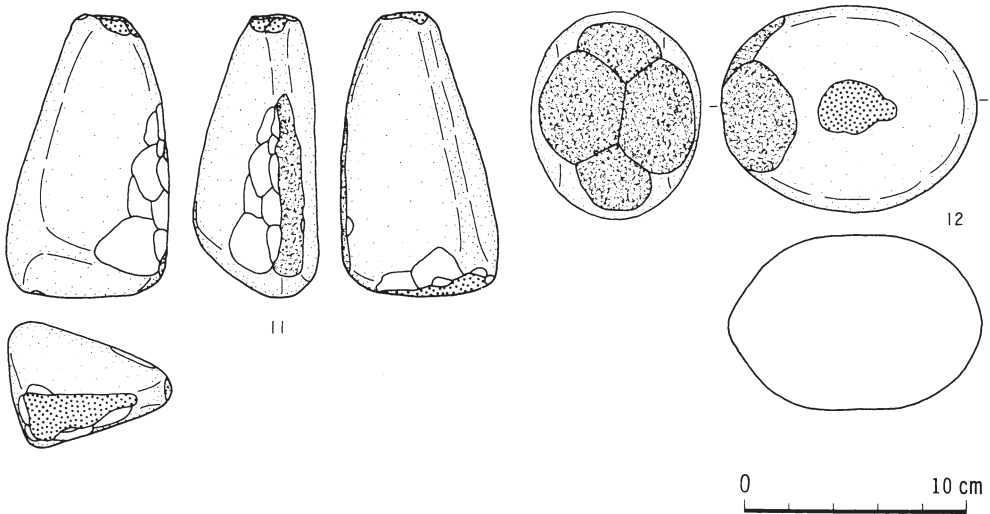
<特殊施設> 確認されなかった。

<堆積土> 壁際及び底面での堆積土で5層に分層され、暗褐色土を主体とするロームが多量に混入する土層である。

<出土遺物> 土器は床面から(4)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は床面から石鏃2点、石製品(9)1点、覆土から石鏃5点、石槍2点、石筥1点、不定形石器3点、磨製石斧1点、敲磨器類2点が出土し、総数17点である。

<小結> 床面出土の土器は円筒上層d・e式期とみられ、本住居跡はこの時期と考えられる。

(長崎 勝巳)



第768図 第314号住居跡(5)

第316号住居跡（第769～771図）

＜位置と確認＞ CU-113・114グリッドに位置し、第312号住居跡を精査中に確認した。

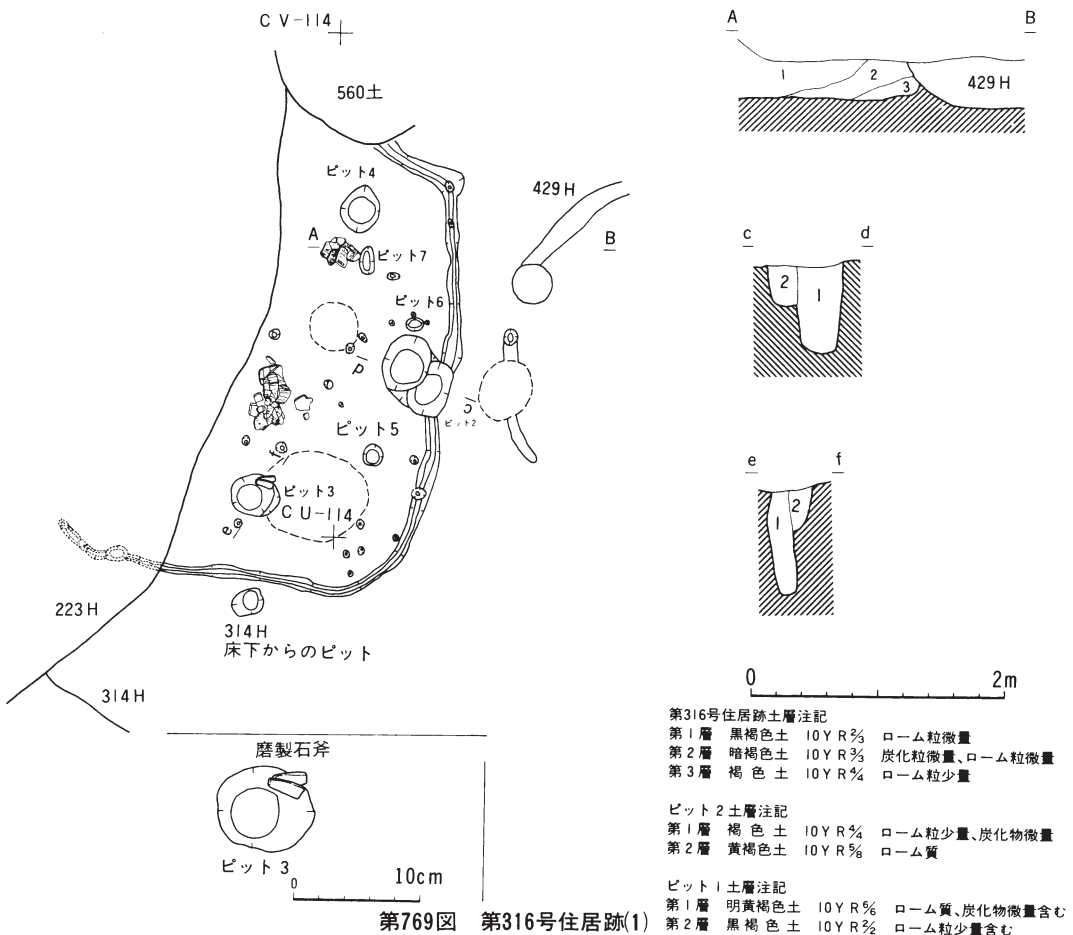
＜重複＞ 第223・314号住居跡・第560号土壇と重複し、第223号住居跡・第560号土壇より古く、第314号住居跡より新しい。

＜平面形・規模＞ 確認された規模は3.5×2.8mで、重複のため平面形は不明である。

＜壁・床面＞ 住居跡のほぼ四方が遺構との重複で、確認された壁は、北東壁のみで、第IV層を壁面としている。壁高は14cmである。床面は南西側がやや高くなり、堅緻なつくりでほぼ全面に貼り床が施されている。

＜壁溝＞ 東及び南側で検出された。幅は6～15cm、深さは3～8cmである。

＜柱穴＞ 床面及び床下から大小合わせて29個のピットを検出した。主柱穴はP₃とP₄が考えられるが、第223号住居跡のある西側では、対応するピットは検出されていない。各ピットの深さは、P₁…66cm・P₂…32cm・P₃…82cm・P₄…96cm・P₅…10cm・P₆…3cm・P₇…8cmである。



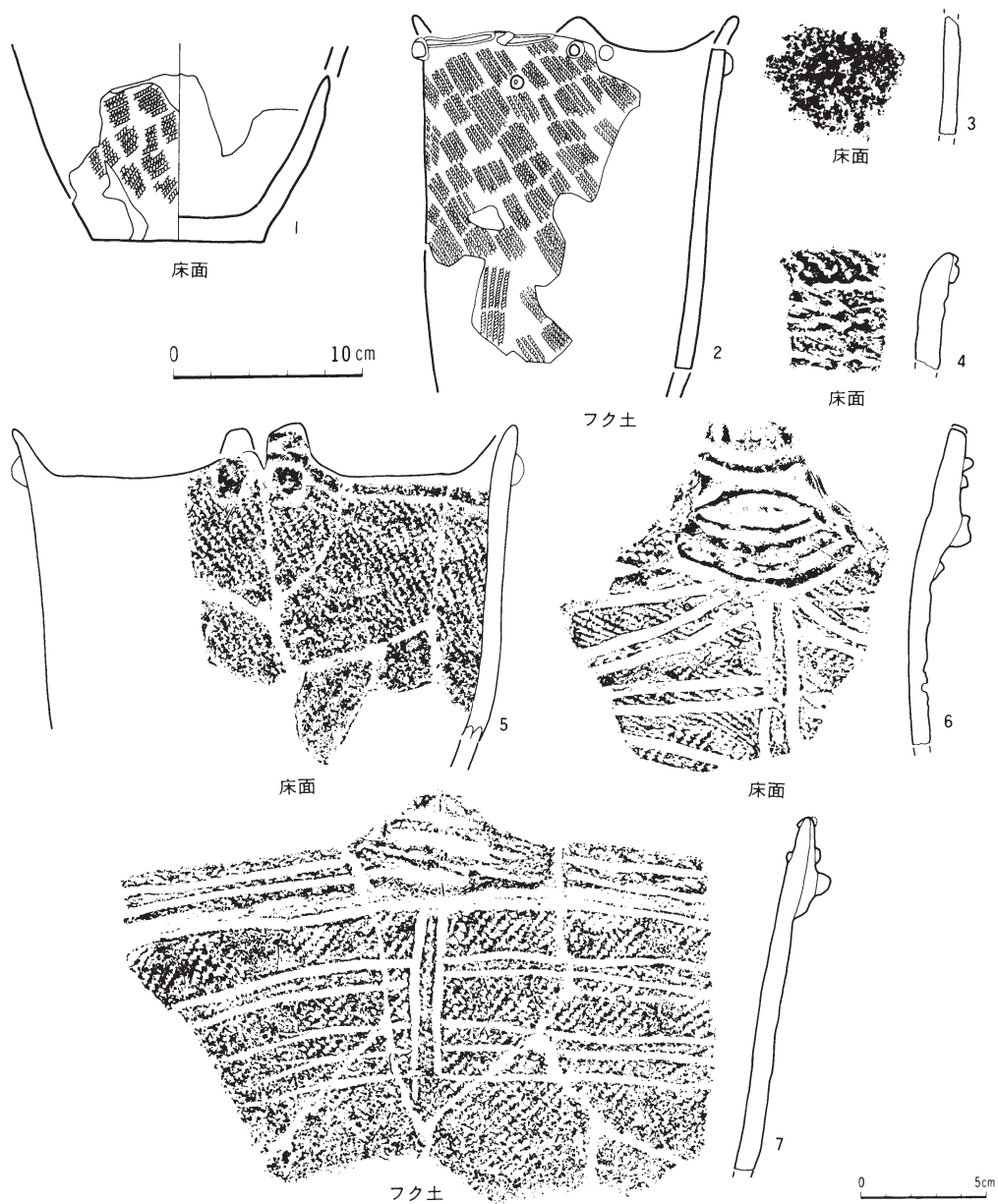
また直径6～8cmの小ピットの深さは3～12cmである。

<炉> 確認されなかった。

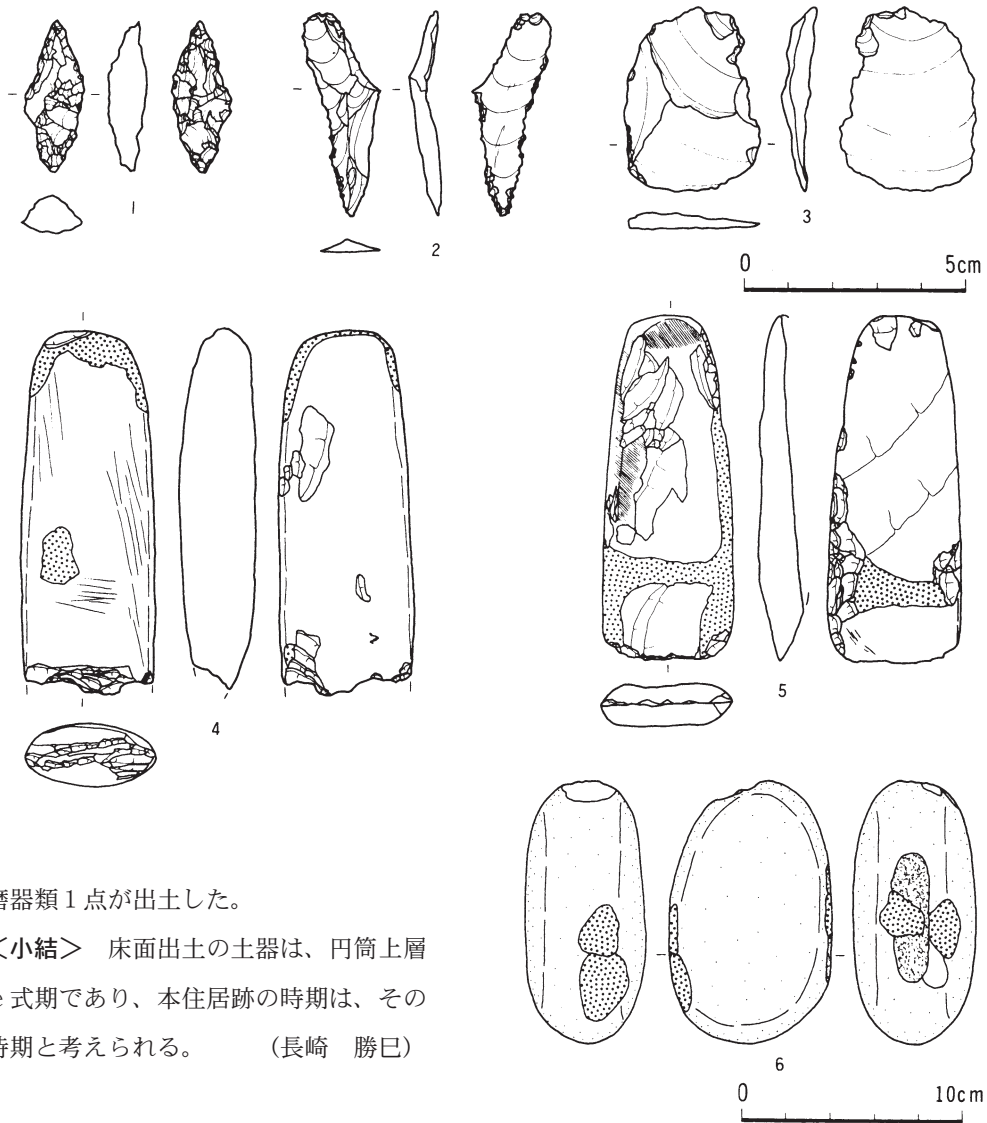
<特殊施設> 確認されなかった。

<堆積土> 3層に分層され、ローム粒が微量混入する土層である。

<出土遺物> 土器は床面から(1・3～6)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は床面直上から石鏃1点、P₃の掘り方から磨製石斧2点、覆土から石錐1点、不定形石器1点、敲



第770図 第316号住居跡(2)



磨器類1点が出土した。

〈小結〉 床面出土の土器は、円筒上層e式期であり、本住居跡の時期は、その時期と考えられる。 (長崎 勝巳)

第771図 第316号住居跡(3)

第317号住居跡 (第772~774図)

〈位置と確認〉 CU-115・116グリットに位置し、第223号住居跡精査中に確認した。

〈重複〉 第223・319号住居跡と重複し、第319号住居跡より新しく第223住居跡より古い。

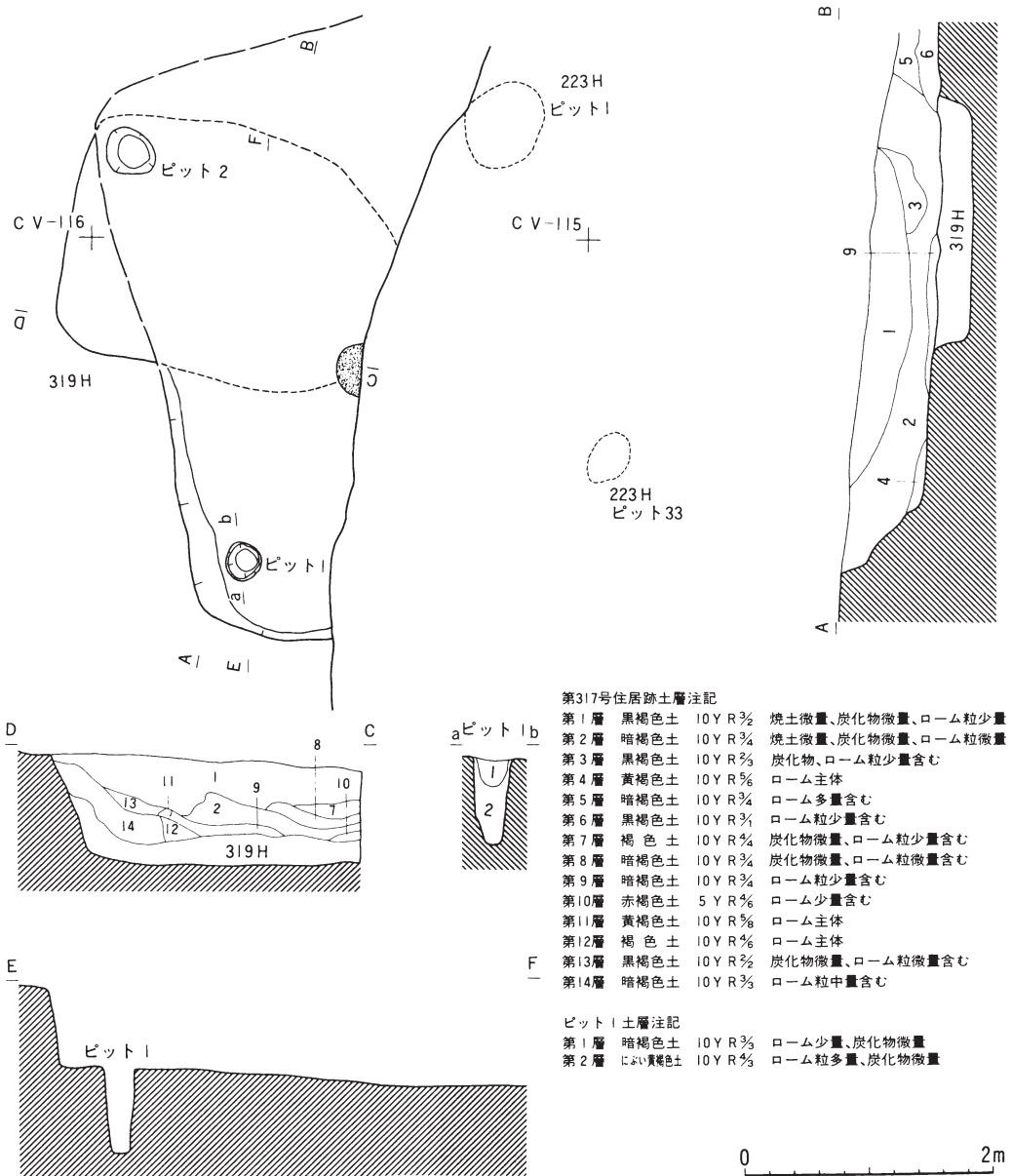
〈平面形・規模〉 確認された壁が南・西壁の一部で平面形は不明である。

〈壁・床面〉 第IV層を壁面とし、南壁63cm、西壁65cmの高さである。床面はうすい貼り床が施され、ほぼ平坦である。

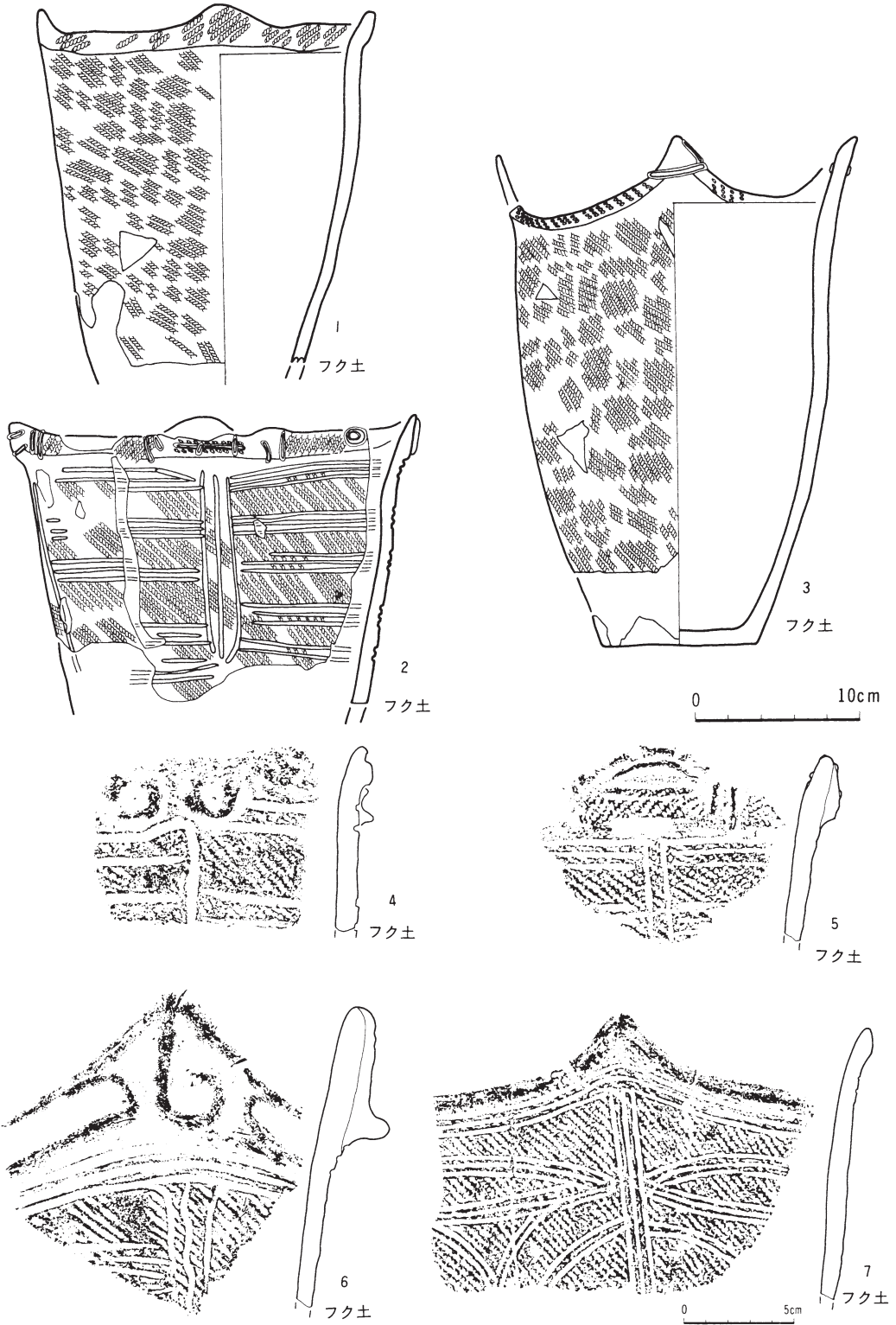
<柱穴> 床面から2個のピットを検出した。共に支柱穴と思われ深さは、P₁…69cm・P₂…49cmである。第223号住居跡のP₁・P₃₃が対応するものと考えられる。第317号住居跡の床面からの深さは第223号住居跡P₁…125cm、P₃₃…72cmである。

<炉> 第223号住居跡のピットを想定すると、住居跡の中央南側に位置する。ほぼ40cm程の円形になるものと思われる（半分は第223住居跡と重複し存在しない）。

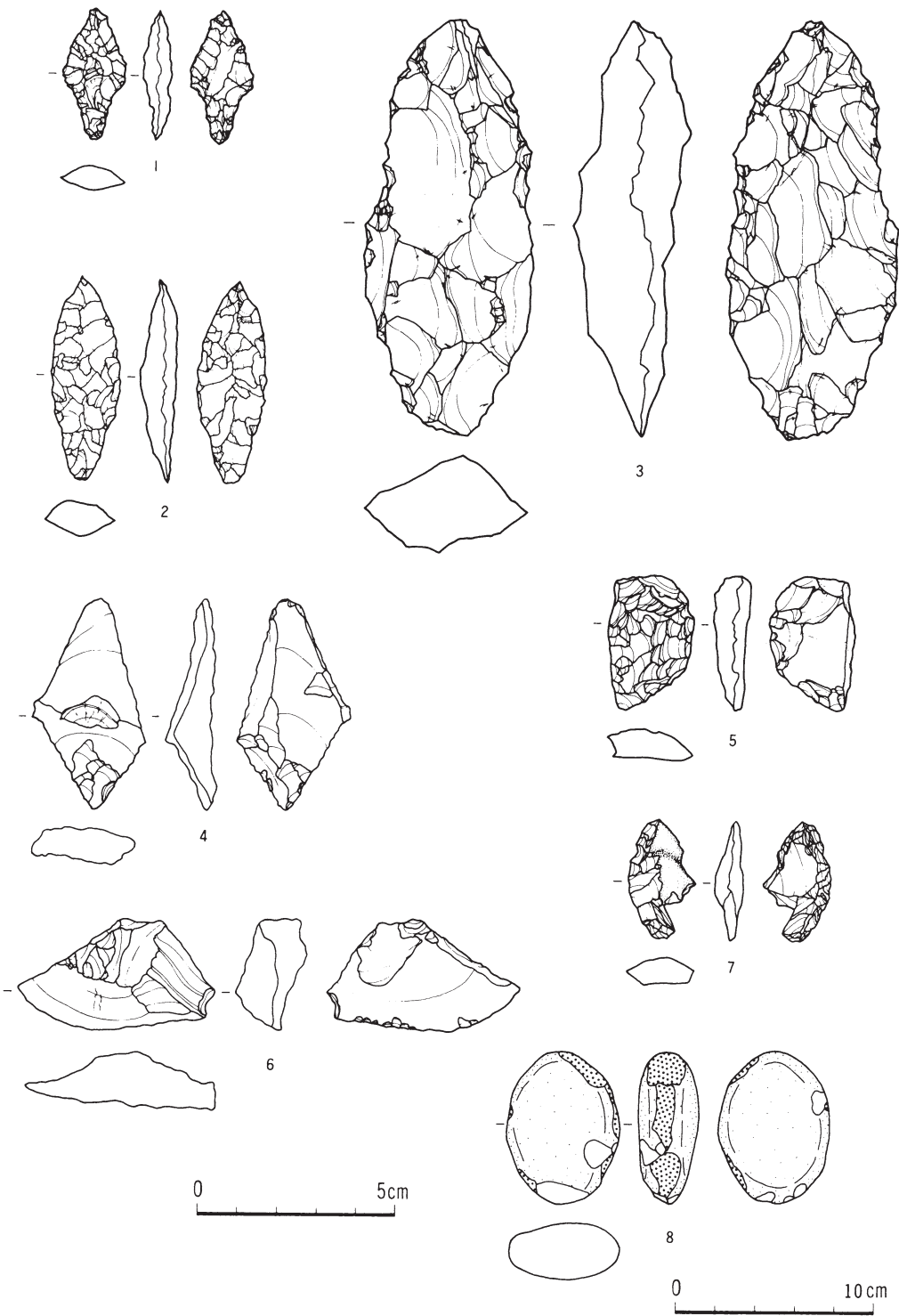
<特殊施設> 確認されなかった。



第772図 第317号住居跡(1)



第773図 第317号住居跡(2)



第774图 第317号住居跡(3)

<堆積土> 黒褐色土を主体とし、14層に分層した。

<出土遺物> 土器はすべて覆土から(1~7)の出土である。石器もすべて覆土から出土し、石鏃3点、不定形石器9点、敲磨器類1点、打製石斧1点が出土した。

<小結> 第223号住居跡が最花式期と考えられ、その時期よりも古いと考えられる。

(長崎 勝巳)

第318号住居跡 (第775図・第776図)

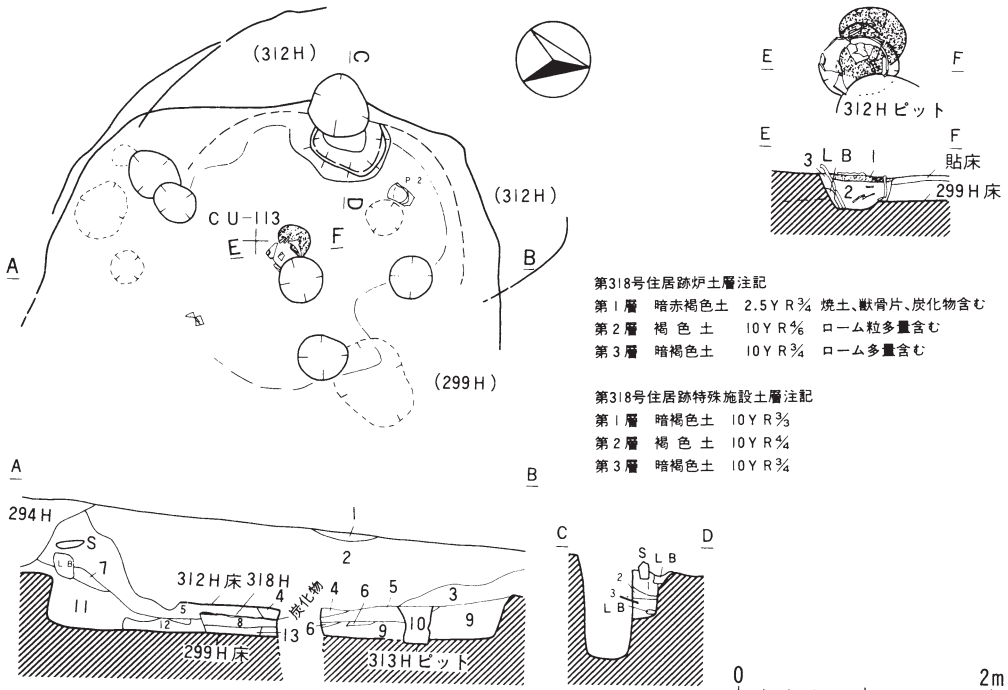
<位置と確認> CU-113グリッドで、第312号住居跡の調査中に確認した。

<重複> 第312号住居跡より古いが、第299号住居跡より新しい。

<平面形・規模> 平面形・規模とも不明である。

<壁・床面> 壁は北西壁のみ確認し、壁高は2~3cm前後である。暗褐色~黒褐色土を床面とし、部分的にロームの貼り床を施している。炉の周辺は平坦で、堅緻である。

<壁溝> 検出できなかった。



第318号住居跡炉土層注記

- 第1層 暗赤褐色土 2.5YR $\frac{3}{4}$ 焼土、獣骨片、炭化物含む
- 第2層 褐色土 10YR $\frac{3}{4}$ ローム粒多量含む
- 第3層 暗褐色土 10YR $\frac{3}{4}$ ローム多量含む

第318号住居跡特殊施設土層注記

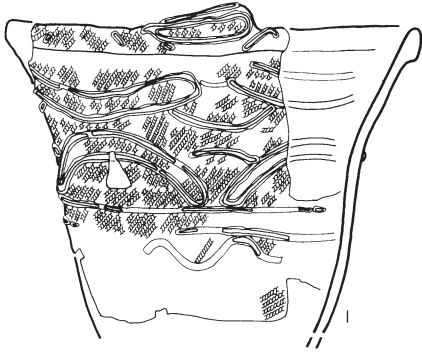
- 第1層 暗褐色土 10YR $\frac{3}{4}$
- 第2層 褐色土 10YR $\frac{3}{4}$
- 第3層 暗褐色土 10YR $\frac{3}{4}$

第318号住居跡土層注記

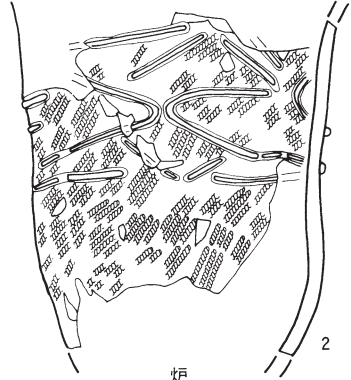
- 第1層 赤褐色土 5YR $\frac{3}{4}$ 焼土
- 第2層 褐色土 10YR $\frac{3}{4}$ 焼土粒少量、炭化物多量、ローム粒多量、ローム塊少量含む
- 第3層 褐色土 10YR $\frac{3}{4}$ 炭化物少量、ローム粒多量含む
- 第4層 黒褐色土 10YR $\frac{2}{4}$ ローム少量含む
- 第5層 暗褐色土 10YR $\frac{3}{4}$ ローム粒多量含む
- 第6層 黄褐色土 10YR $\frac{6}{4}$ ローム質

- 第7層 褐色土 10YR $\frac{3}{4}$ ローム質
- 第8層 黒褐色土 10YR $\frac{2}{4}$ 黄褐色土との混合土
- 第9層 褐色土 10YR $\frac{3}{4}$ ローム多量含む
- 第10層 黄褐色土 10YR $\frac{6}{4}$ 炭化物微量、ローム含む
- 第11層 暗褐色土 10YR $\frac{3}{4}$ ローム多量、ローム塊少量含む
- 第12層 暗褐色土 10YR $\frac{3}{4}$ ローム粒多量含む
- 第13層 黄褐色土 10YR $\frac{6}{4}$ ローム質

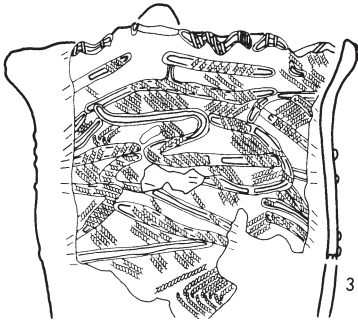
第775図 第318号住居跡(1)



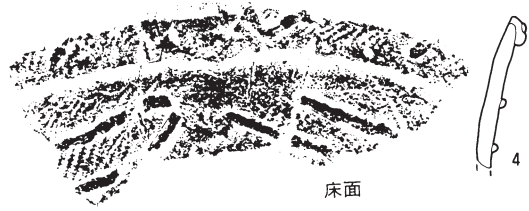
炉フク土



炉



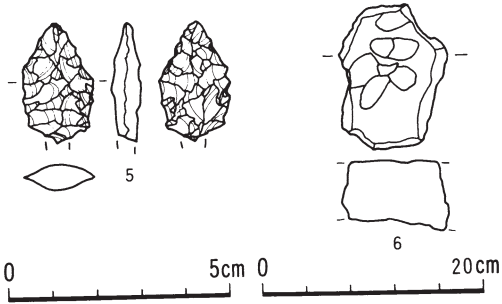
床直 P-2



床面

0 10cm

0 5cm



0 5cm 0 20cm

第776図 第318号住居跡(2)

<柱穴> 検出できなかった。

<炉> 土器埋設炉で、底部を欠いている。炉の内部から、別の個体の土器が出土した。床面から14cmほど掘り下げて埋設している。

<特殊施設> 北西壁に検出した。ロームの盛土が半円状に巡らされているが、第312号住居跡のピットにより一部壊されている。盛土の内側には、深さ40cmのピットを検出した。ピット内の上部には断面が四角形の柱状礫（長さ12cm）が縦位に埋められているような状況で検出した。

<堆積土> 上部の大半を第312号住居跡に切られているため不明であるが、黒褐色～暗褐色土の堆積が見られた。また床面直上には炭化物の薄層が見られた。

<出土遺物> 土器は、炉に使用されたものと、数片の土器片が出土しただけである。石器は、炉から石鏃1点、特殊施設内から石皿1点が出土した。

<小結> 本住居跡の時期は、炉に使用された土器から、円筒上層d式期と考えられる。

(畠山 昇)

第319号住居跡（第777・778図）

<位置と確認> CU-115・116グリットに位置し、第317号住居跡を精査中に確認した。

<重複> 第223・319号住居跡と重複し、それらより古い。

<平面形・規模> 平面形は、長軸2m70cm、短軸2mの楕円形を呈する。床面積は、3.78m²である。

<壁・床面> 第IV層を壁面とし、西壁80cm、南壁27cm、北壁17cmである。床面はほぼ平坦で第IV層を床面としている。

<柱穴> 床面及び床下から大小合わせて16個のピットが検出された。主柱穴は不明で各ピットの深さはP₁…5cm・P₂…20cm・P₃…10cm・P₄…31cm・P₅…18cm・P₆…19cm・P₇…10cm・P₈…13cm・P₉…13cm・P₁₀…9cm・P₁₁…20cm・P₁₂…17cm・P₁₃…13cmで、直径4～8cmの小ピットの深さは3～14cmである。

<炉> 地床炉で住居跡のほぼ中央に位置する。直径24cm程の円形で、掘り方をもつものである。

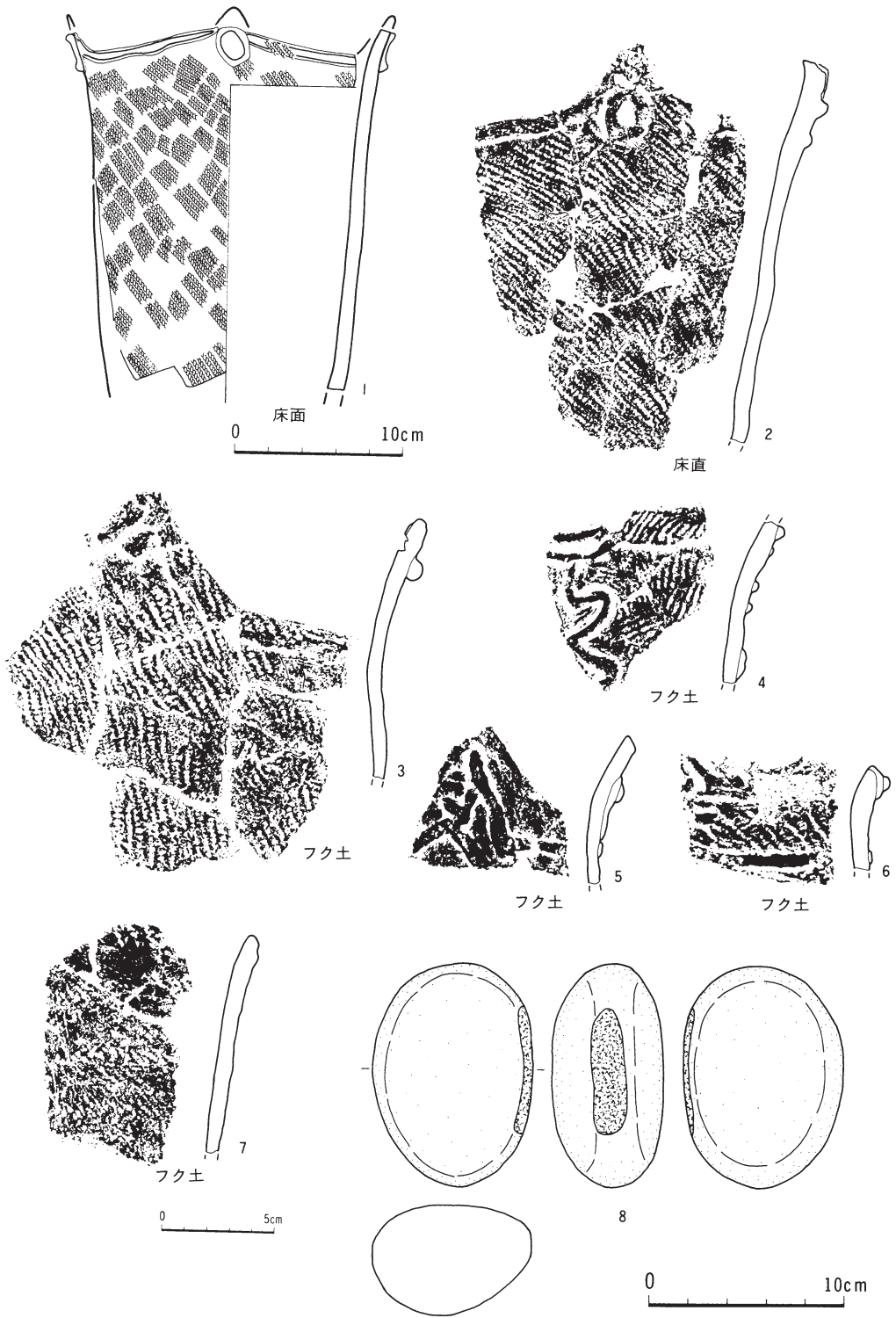
<特殊施設> 西壁中央部に直径36cm、深さ10cm程の凹みをもつものである。礫が1個出土している。

<堆積土> 6層に分層され、褐色土を主体とする。1層は人為堆積と考えられる。

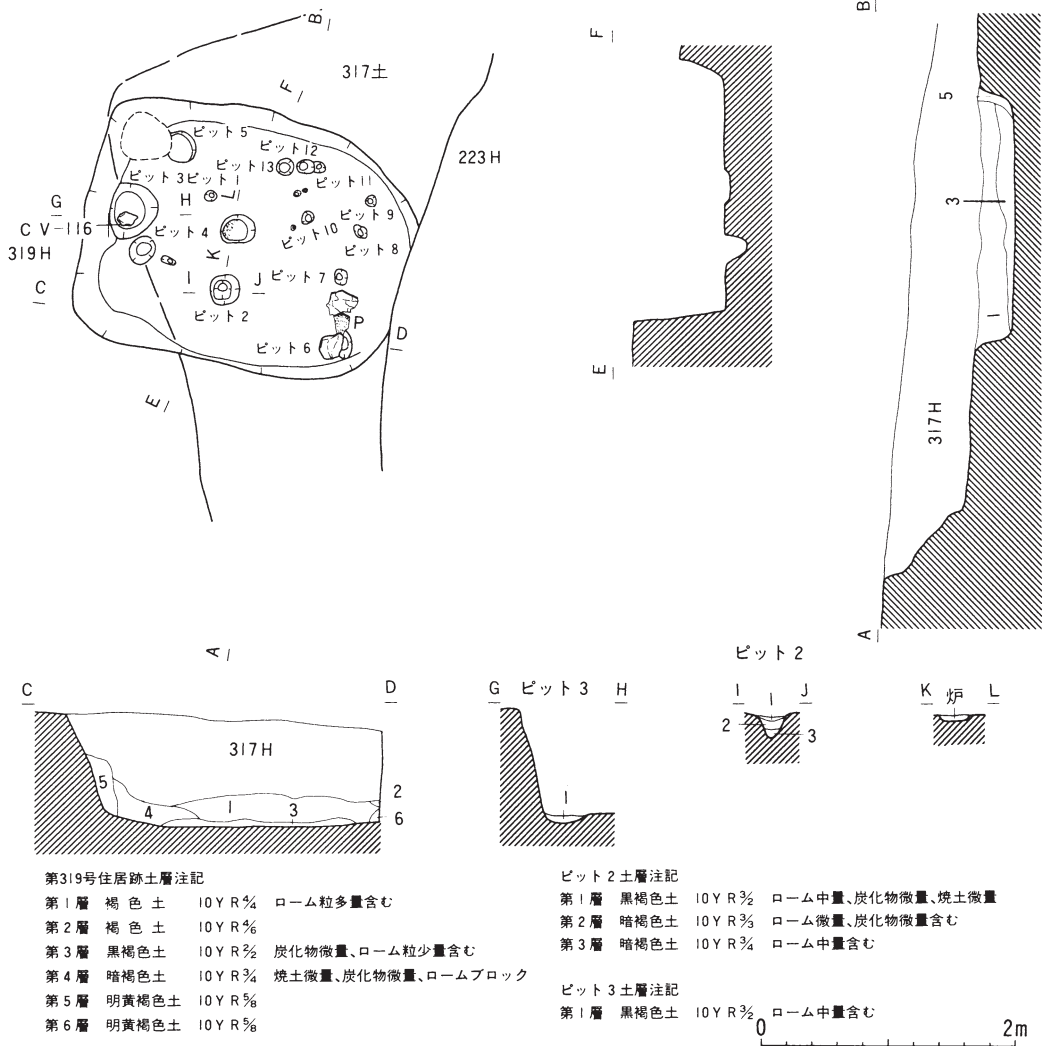
<出土遺物> 土器は床面・床面直上から(1・2)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は覆土から敲磨器類1点が出土している。

<小結> 床面・床面直上出土の土器から、円筒上層d・e式期の住居跡と考えられる。

(長崎 勝巳)



第777図 第319号住居跡(1)



第778図 第319号住居跡(2)

第320号住居跡 (第779・780図)

〈位置と確認〉 CU-114グリッドに位置し、第223号住居跡を調査中に確認した。

〈重複〉 第223号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〈平面形・規模〉 長軸2m20cm、短軸1m80cmのほぼ形状を呈する。

〈壁・床面〉 壁は第IV層を壁面とし、東壁50cm、西壁45cm、南壁45cm、北壁40cmの高さである。床面も第IV層を床面とし堅緻である。

<壁溝> 確認されなかった。

<柱穴> ピットは床面上からは確認されていない。施設の中にピットを検出した。

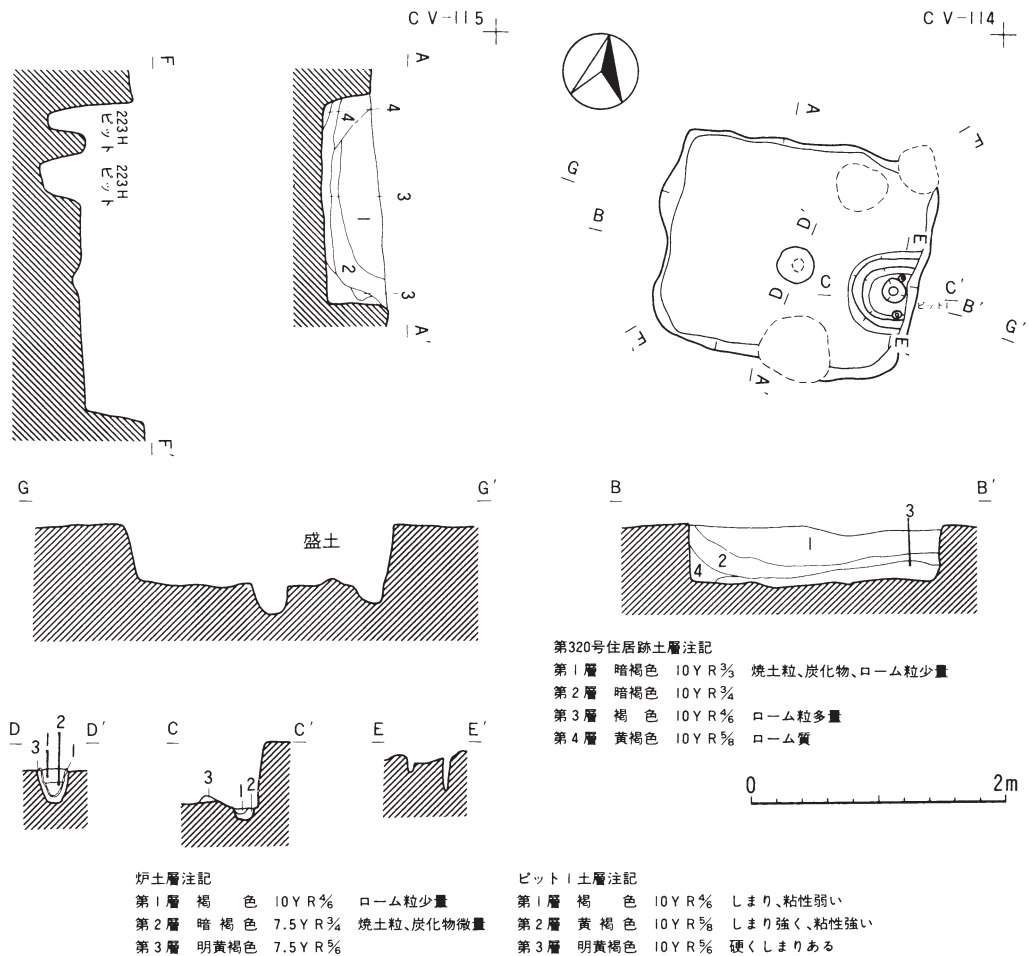
<炉> 住居跡中央部に土器埋設炉を検出した。掘り方は直径28cm、深さ27cmである。

<特殊施設> 直径70cm程の盛土を、馬蹄状に巡らした施設である。中央から直径18cm、深さ16cmのピットとその両脇から直径4cmと8cm、深さ14cmと26cmのピットが検出された。

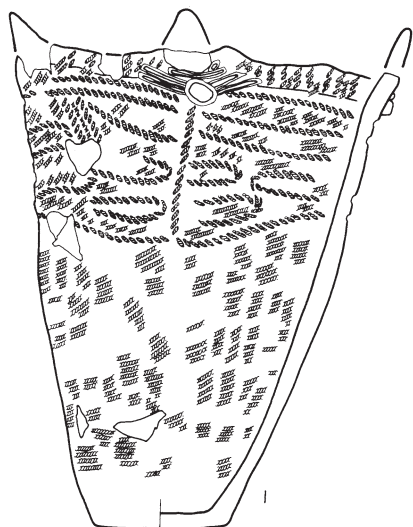
<堆積土> 暗褐色土を主体とし、4層に分層した。

<出土遺物> 土器は床面・床面直上から(3・4)、炉から(1)が出土し、他は覆土からの出土である。石器は床面から石鏃1点、覆土から不定形石器4点が出土している。

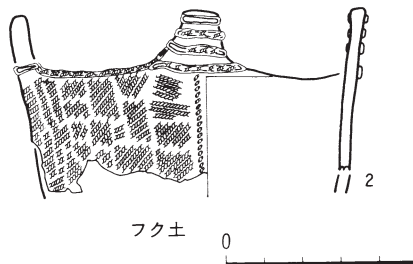
<小結> 土器埋設炉に使用された土器は、円筒上層d・e式期のものと考えられ、本住居跡もその時期に相当すると思われる。(長崎 勝巳)



第779図 第320号住居跡(1)



1 炉



2 フク土



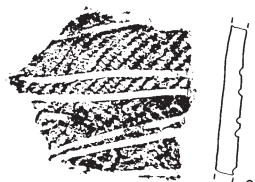
3 床面



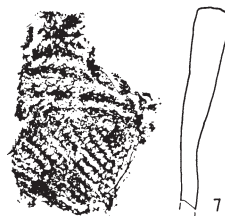
4 床直



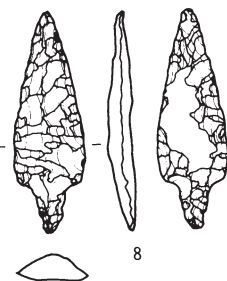
5 フク土



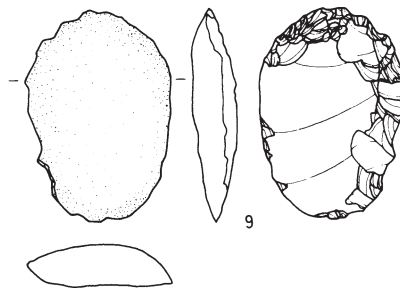
6 フク土



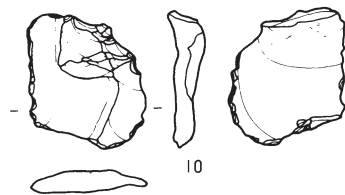
7 フク土



8



9



10



11



第780図 第320号住居跡(2)

第321号住居跡（第781～783図）

〈位置と確認〉 CW-120・121グリッドに位置している。第IV層中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 第534号土壌と重複しており、本住居跡が新しい。

〈平面形・規模〉 長軸2m70cm、短軸2m40cmの不整楕円形である。床面積は4.34㎡である。

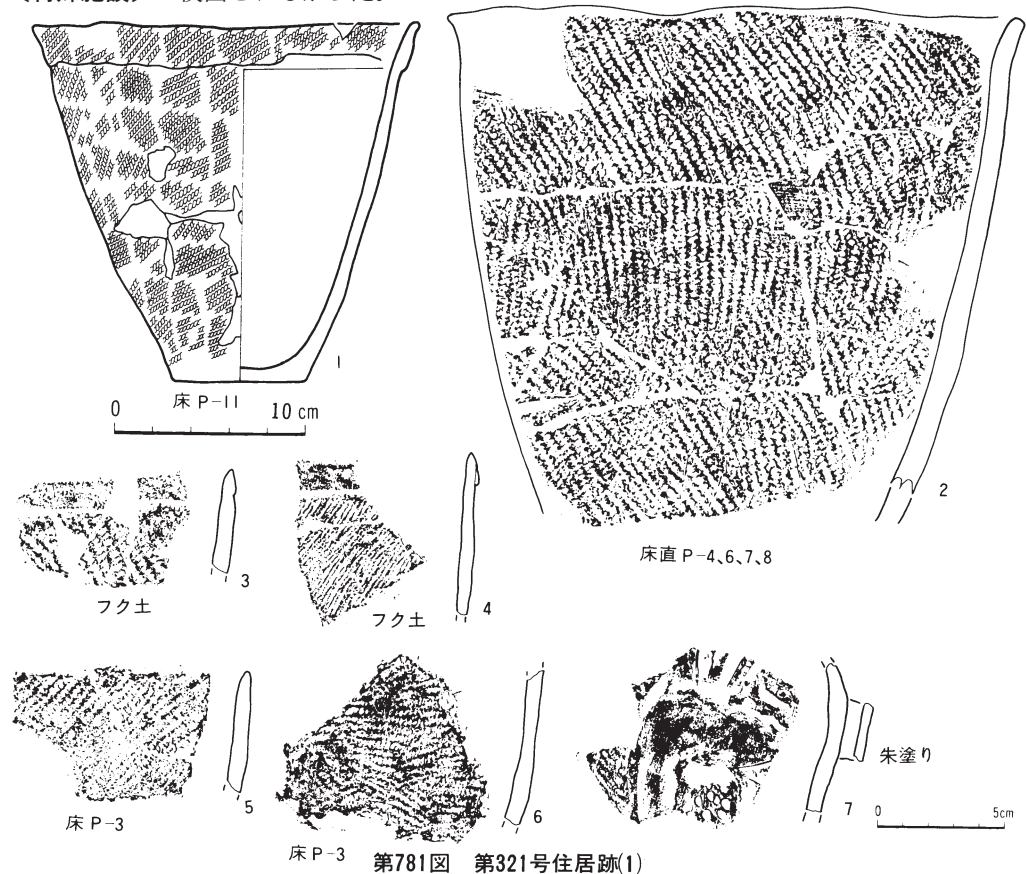
〈壁・床面〉 壁高は南側で約60cm、北側で約30cmである。床は南側がやや低い。

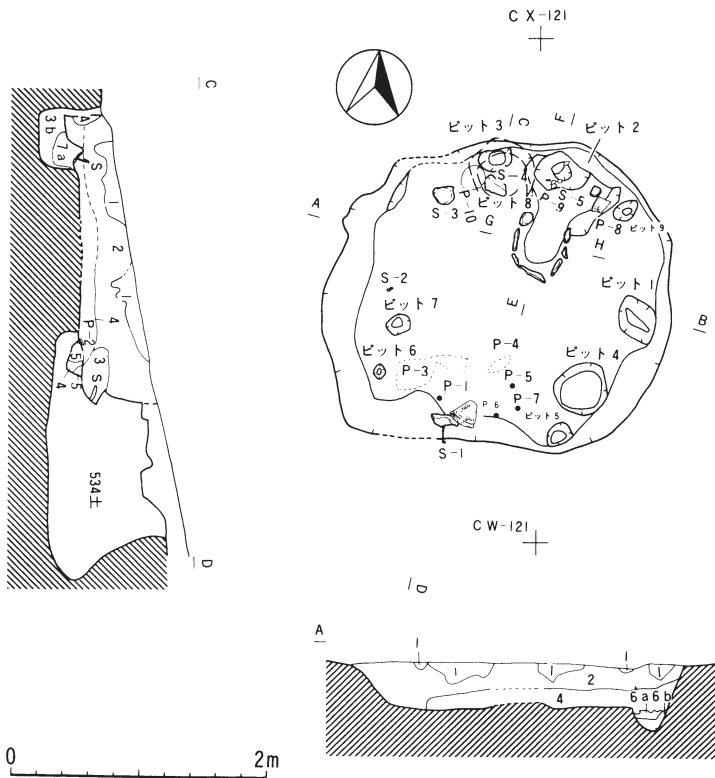
〈壁溝〉 検出されなかった。

〈柱穴〉 9個のピットを確認した。深さはP₁…20cm、P₂…20cm、P₃…10cm、P₄…28cm、P₅…44cm、P₆…13cm、P₇…7cm、P₈…25cm、P₉…15cmでP₅が柱穴と考えられる。このうちP₂は覆土上半に黒色土と硬い粒状のロームの層があり、下半には締まりの強い褐色土があった。P₈は床を剥してから確認された。

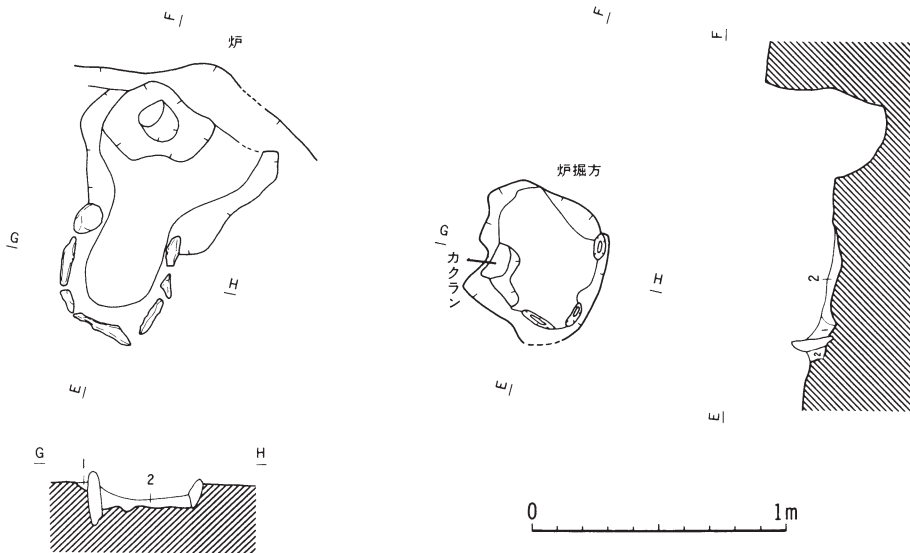
〈炉〉 中央北寄りにある。扁平な礫でコの字状に組まれた石囲炉である。炉の内部から北側にかけては緩く窪んでいる。

〈特殊施設〉 検出されなかった。





- 第321号住居跡土層注記
- | | | | |
|------|------|-----------|--------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10Y R 4/4 | ローム粒少量 |
| 第2層 | 褐色土 | 10Y R 4/4 | 焼土(〜10mm)微量、ローム粒多量 |
| 第3層 | 褐色土 | 10Y R 4/4 | L B少量 |
| 第4層 | 黄褐色土 | 10Y R 5/4 | ローム粒多量30% |
| 第5層 | 黄褐色土 | 10Y R 5/4 | ローム主体 |
| 第6a層 | 暗褐色土 | 10Y R 3/4 | ローム主体 |
| 第6b層 | 黄褐色土 | 10Y R 5/4 | ローム主体 |
| 第7a層 | 褐色土 | 10Y R 4/4 | 焼土微量、ローム粒多量 |
| 第7b層 | 黄褐色土 | 10Y R 5/4 | ローム主体 |



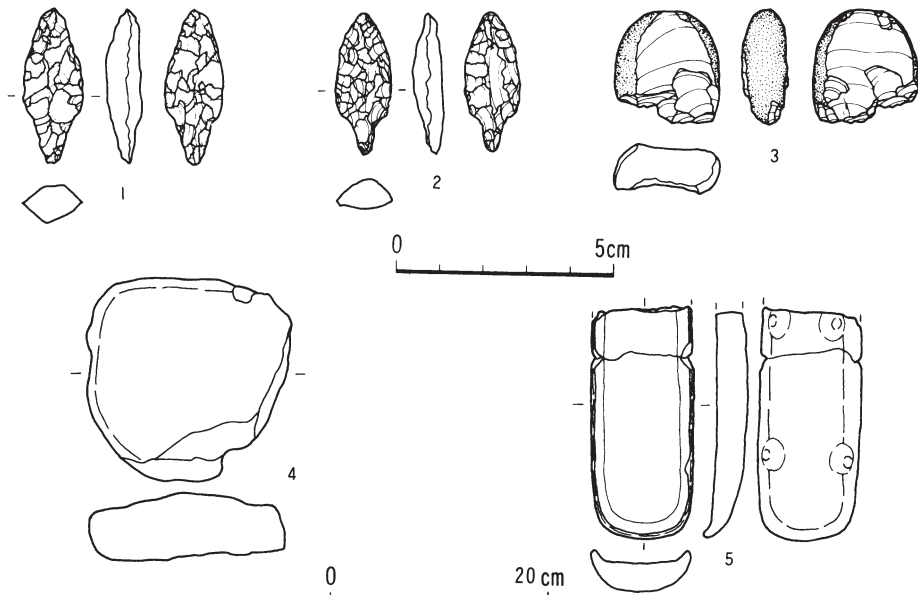
- 第321号住居跡炉土層注記
- | | | | |
|-----|------|-----------|--------------------|
| 第1層 | 褐色土 | 10Y R 4/4 | ローム粒少量 |
| 第2層 | 黄褐色土 | 10Y R 5/4 | ローム粒多量、焼土粒微量、炭化物微量 |

第782図 第321号住居跡(2)

＜堆積土＞ 上半はローム・焼土粒混じり褐色土で、下半はロームが多量に混じった黄褐色土である。

＜出土遺物＞ 床面に土器片や石器がかなり遺存していた。特に炉脇の壁際には土器下半部が倒立していた。南端部では小型の石皿が伏せてあり、その上に完形土器が倒立してあった。石器は床面から石鏃1点、石皿・台石類2点、床面直上から石皿・台石類1点、覆土から石鏃1点、ピエス・エスキーユ1点が出土した。

＜小結＞ 床面から出土した土器(1)は中期後葉～末葉の土器で本住居跡も当該期に構築されたと思われる。(坂本 洋一)



第783図 第321号住居跡(3)

第322号住居跡 (第784・785図)

＜位置と確認＞ ほぼCV-120グリッドに位置している。第IV層中に暗褐色土の落ち込みを確認した。確認面の中央には径70cm程の範囲に焼土の広がりが見られた。

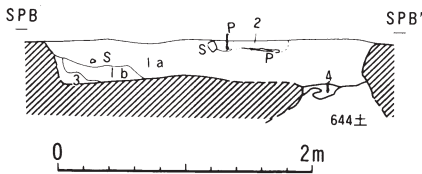
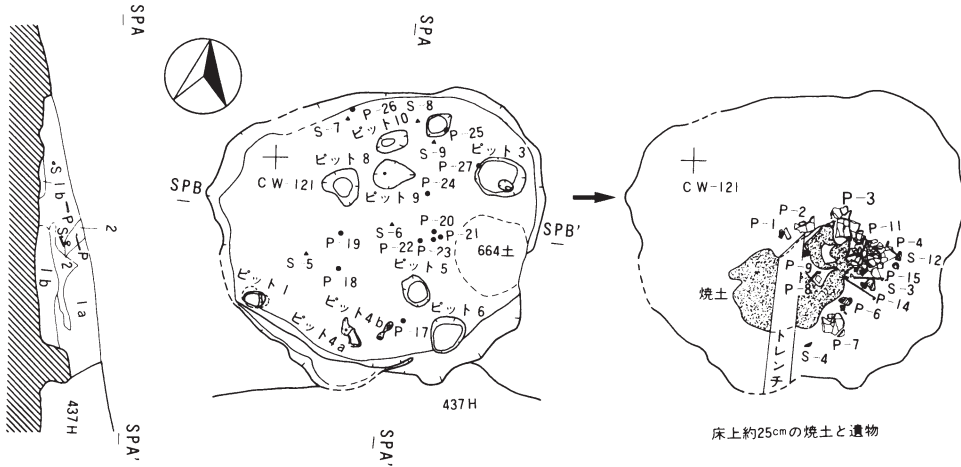
＜重複＞ 第664号土壙と重複しており、本住居跡が新しい。

＜平面形・規模＞ 北東側が土壙と重複しているため確認できないが、長軸2m60cm、短軸2m30cmの不整楕円形である。床面積は推定で4.09㎡である。

＜壁・床面＞ 壁高は南側で約50cm、北側で約5cmである。床面はかなり凹凸がある。

＜壁溝＞ 検出されなかった。

＜柱穴＞ 12個のピットを確認した。深さはP₁…49cm、P₃…10cm、P₅…23cm、P₆…74cm、P₇

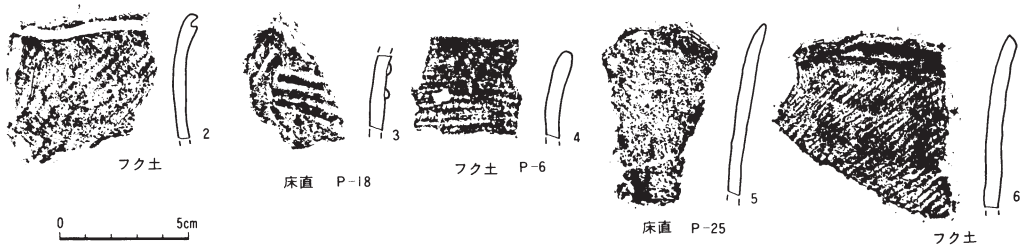


第322号住居跡土層注記

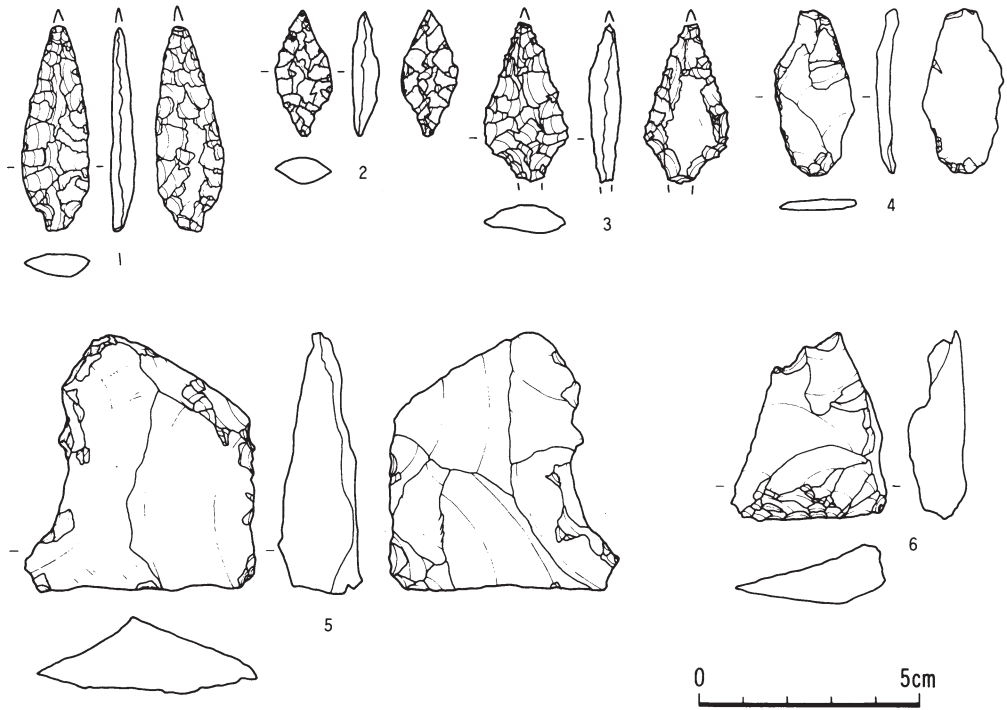
- 第1a層 褐色 10YR4% φ10mmローム多量
- 第1b層 褐色 10YR4% φ5mmローム多量
- 第2層 褐色 10YR4% 焼土多量
- 第3層 黄褐色 10YR5% ローム主体
- 第4層 黄褐色 10YR5% 褐色土多量



フク土
P-7



第784図 第322号住居跡(1)



第785図 第322号住居跡(2)

…7 cm、P₈…15cm、P₉…10cm、P₁₀…9 cm（深さ10cm程度以上のもの）で、P₁とP₆が柱穴と考えられる。

〈炉〉 検出されなかった。

〈特殊施設〉 P_{4a}とP_{4b}は深さ数cmの浅いピットであるが、八の字形の確認面の形態で覆土上部に焼土と炭化物が含まれており、何らかの施設の可能性がある。

〈堆積土〉 ローム混じりの褐色土であるが、中央の覆土中程に焼土層があった。

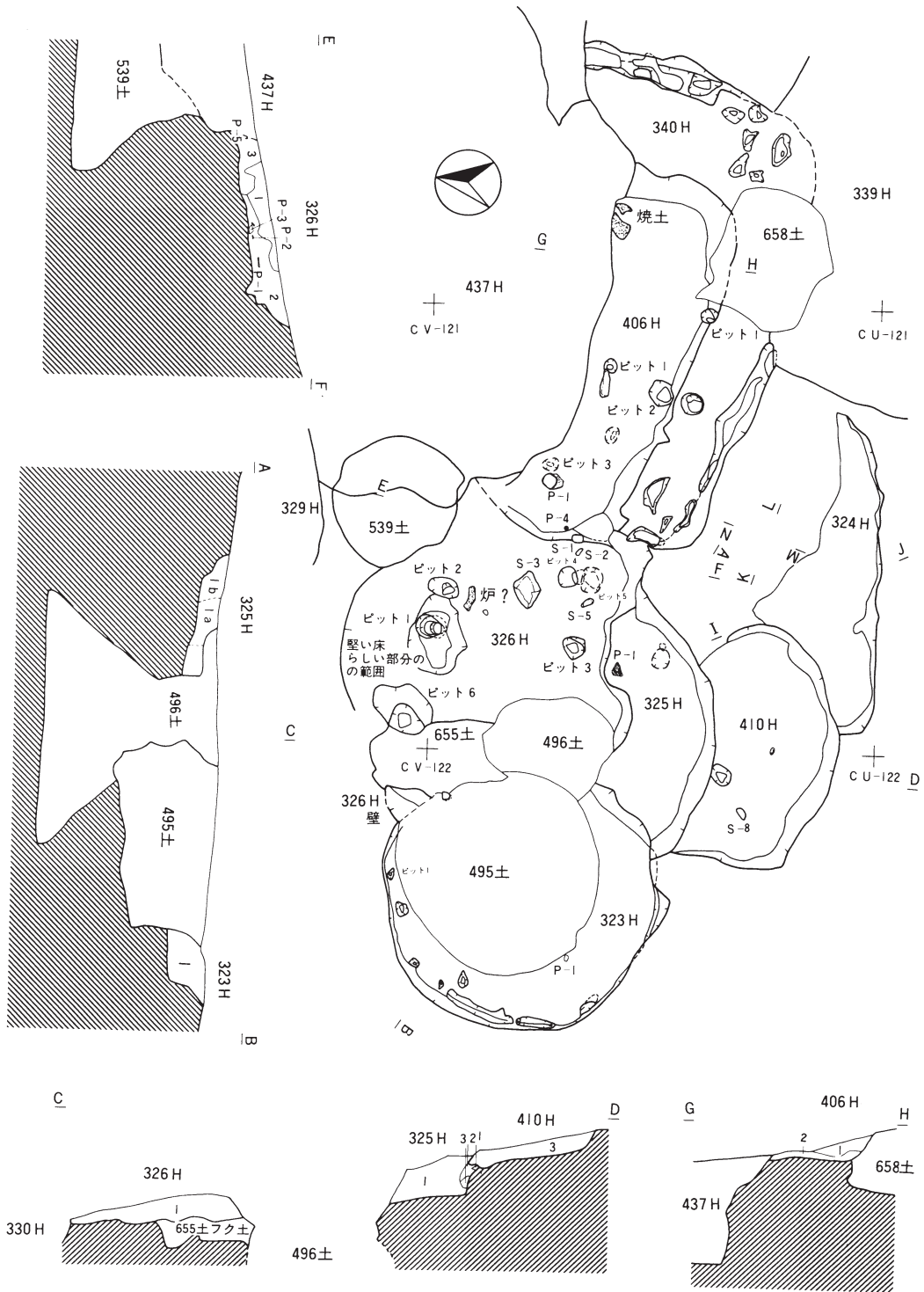
〈出土遺物〉 上記の焼土層の部分には土器の大型破片が多数あった。石器は床面から石鏃2点、不定形石器1点、覆土から石鏃2点、不定形石器3点、総数8点出土した。

〈小結〉 本住居跡は床面直上の土器から、円筒上層d式期か、それ以前に構築された可能性が高い。(坂本 洋一)

第323号住居跡（第786～788図）

〈位置と確認〉 CU・CV-122グリッドに位置している。この付近一帯の暗褐色土の落ち込みの中で確認した。

〈重複〉 第325号住居跡より新しく、第495号土壌より古い。また本住居跡の貼り床が見られ



第786図 第323・324・325・326・340・406・410号住居跡(1)

ないため、第496号土壌よりは古いものと思われる。第326号住居跡との新旧関係は不明である。

<平面形・規模> 直径2m40cm程の円形と考えられる。床面積は推定で4.42㎡である。

<壁・床面> 壁高は北側で20cm、南側で60cmである。

<壁溝> 西壁側に1m程確認された。

<柱穴> 6個のピットを検出した。P₁は深さ10cm程である。他のものは10cm未満である。

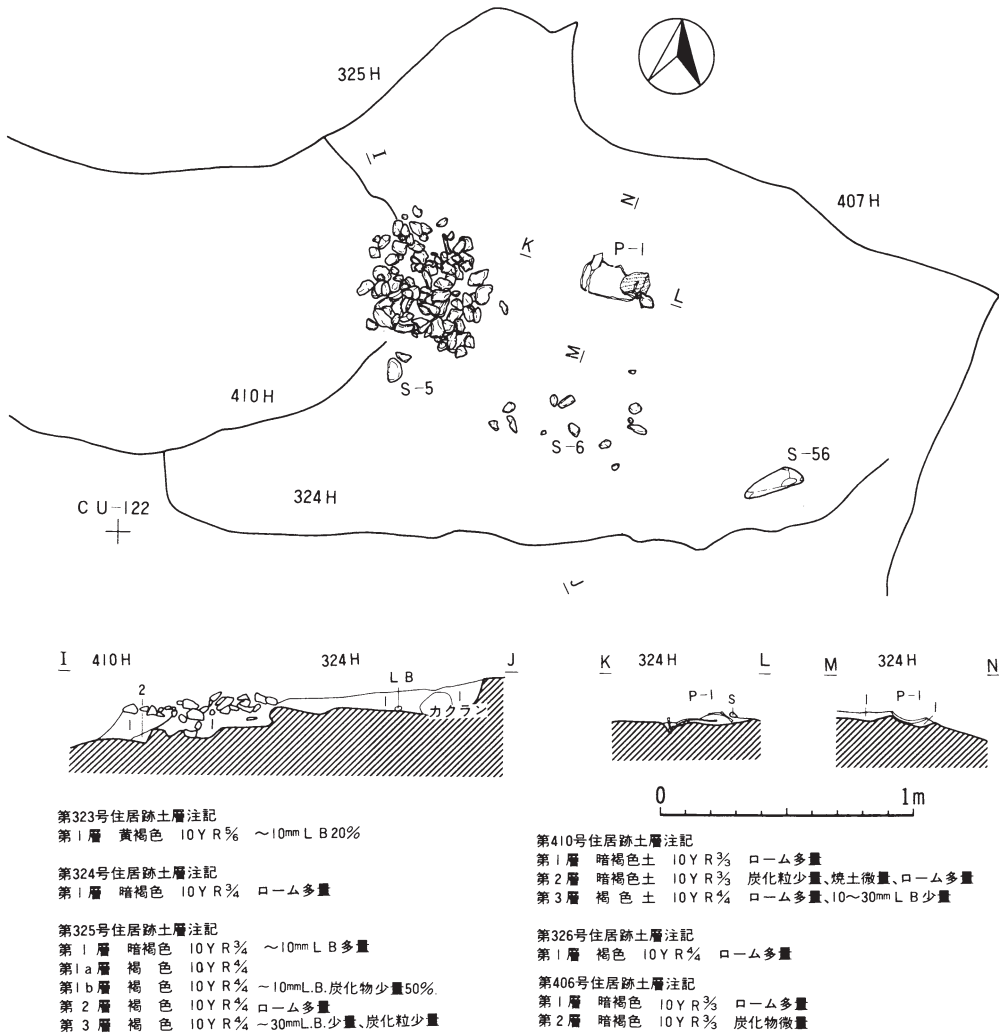
<炉> 検出されなかった。

<特殊施設> 検出されなかった。

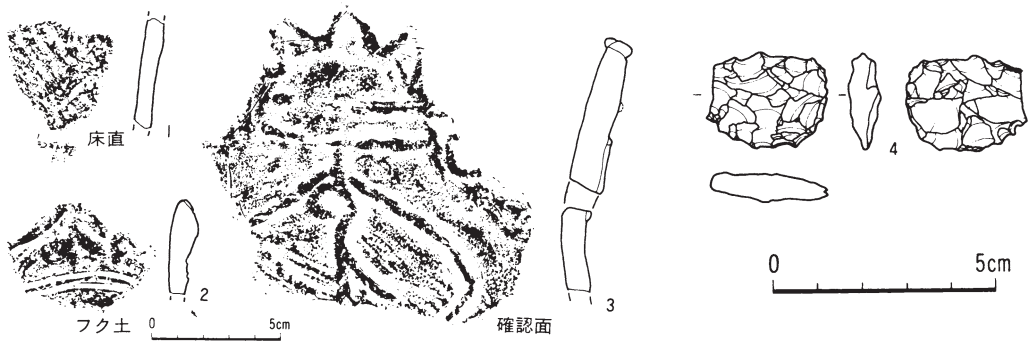
<堆積土> ローム混じりの黄褐色土が主体である。

<出土遺物> 覆土から円筒上層d・e式土器が出土している。石器は不定形石器1点、石斧1点出土している。

(坂本 洋一)



第787図 第323・324・325・326・340・406・410号住居跡(2)

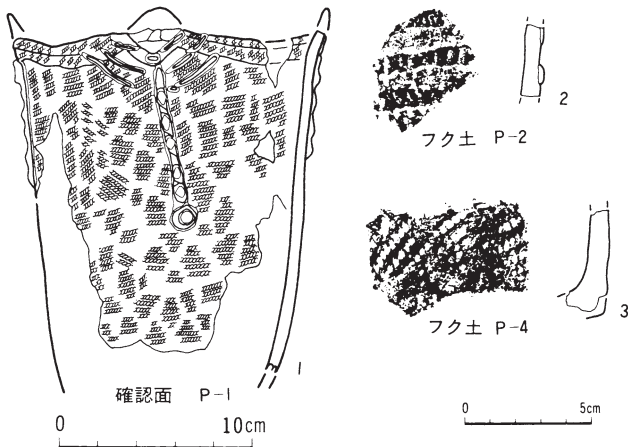


第788図 第323号住居跡

第324号住居跡 (第786・787・789・790図)

〈位置と確認〉 CU-121グリッドに位置している。この付近一帯の暗褐色土の落ち込みの中で確認した。

〈重複〉 第410号住居跡と重複している。新旧関係は不明であるが、覆土の礫群が本住居跡に



第789図 第324号住居跡(1)

伴うものとするれば、その遺存状態から本住居跡が新しいものと考えられる。

〈平面形・規模〉 残存部がわずかなため不明だが、南壁は2m 90cm程確認した。

〈壁・床面〉 壁高は10cm程である。床は北側が南側に比べて十数cm低い。

〈壁溝〉 検出されなかった。

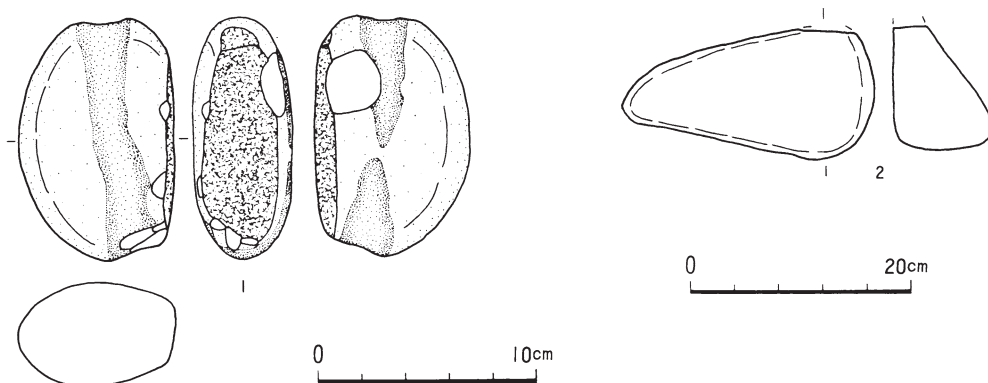
〈柱穴〉 検出されなかった。

〈炉〉 検出されなかった。

〈特殊施設〉 検出されなかった。

〈堆積土〉 ローム混じりの暗褐色土が主体である。

〈出土遺物〉 床面付近から数点の大形土器片と礫石器が出土した。また床からやや浮いて礫群が出土した。土器は覆土から円筒上層d式土器が出土している。石器は石皿・台石類1点、覆土から敲磨器類が1点出土している。 (坂本 洋一)



第790図 第324号住居跡2)

第325号住居跡 (第786・787・791図)

<位置と確認> CU-121・122グリッドに位置している。この付近一帯の暗褐色土の落ち込みの中で確認した。

<重複> 第323号・第326号住居跡・第496号土壌より古く、第410号住居跡より新しいと思われる。

<平面形・規模> 残存部分がわずかしかないため、不明である。

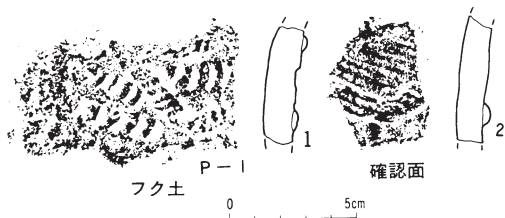
<壁・床面> 壁高は30cm程である。

床は北側が南側に比べて十数cm低い。

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 床面を削平してから1個のピットを検出した。深さは25cm程である。

<炉> 検出されなかった。



第791図 第325号住居跡

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> ローム混じりの暗褐色土が主体である。

<出土遺物> 床面から土器片が1点出土した。覆土から円筒上層c・d式が出土している。石器は出土しなかった。

(坂本 洋一)

第326号住居跡（第786・787・792図）

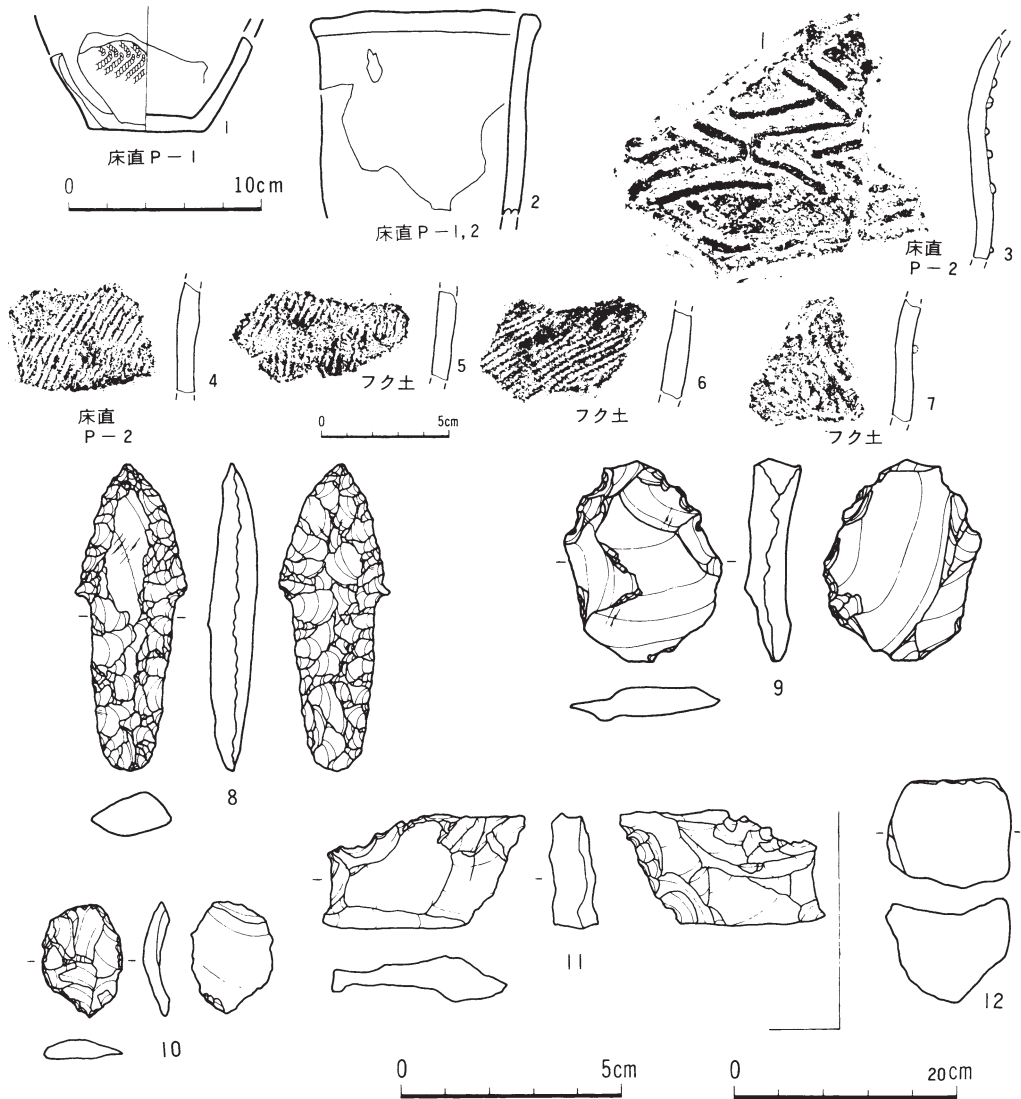
<位置と確認> CU・CV-121グリッドに位置している。この付近一帯の暗褐色土の落ち込みの中で確認した。

<重複> 第325号住居跡・第655号土壌より新しく、第406号住居跡・第469号土壌よりも古いと思われる。第539号土壌との新旧関係は不明である。

<平面形・規模> 壁の大部分が欠失しているため不明である。

<壁・床面> 壁高は数cmしか残存していない。床は北側が南側に比べて十数cm低い。

<壁溝> 検出されなかった。



第792図 第326号住居跡

＜柱穴＞ 6個のピットを確認した。深さはP₁…66cm、P₂…20cm、P₃…14cm、P₄…59cm、P₅…14cm、P₆…23cmである。P₁の上面は堅く締まっている。P₄の上面には焼土塊や土器片が含まれており、内部にはチップと小礫が多量に含まれていた。P₅は床を削平して確認した。P₁・P₄は柱穴と考えられる。

＜炉＞ 東寄りに床が赤変しているところがある。炉の可能性はある。

＜特殊施設＞ 検出されなかった。

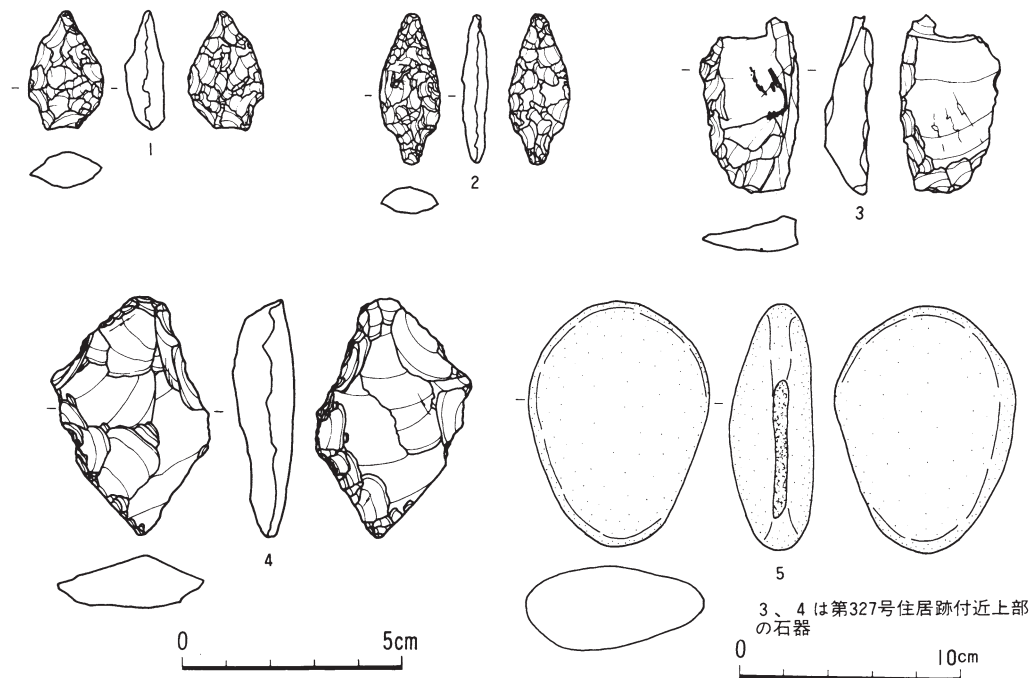
＜堆積土＞ 上部にローム主体の層があり、下部はロームと焼土混じりの褐色土である。

＜出土遺物＞ 床面直上から円筒上層d式土器が出土している。石器は床面直上から石槍1点、覆土から不定形石器1点、石皿・台石類1点、ピット1から不定形石器5点、総数8点出土している。

＜小結＞ 床面直上の土器から、本住居跡は円筒上層d式期か、それ以前に構築された可能性が高い。(坂本 洋一)

第327号住居跡 (第793～795図)

＜位置と確認＞ CU・CV-120グリッドに位置している。最初は本住居跡の存在を認識していなかったが、第437号住居跡を掘り進めていて、土層断面に堅い床状の部分があったため、確認に至った。



第793図 第327号住居跡(1)

〈重複〉 第336号・第437号住居跡と重複しており、本住居跡は第366号住居跡より古く、第437号住居跡よりも新しい。

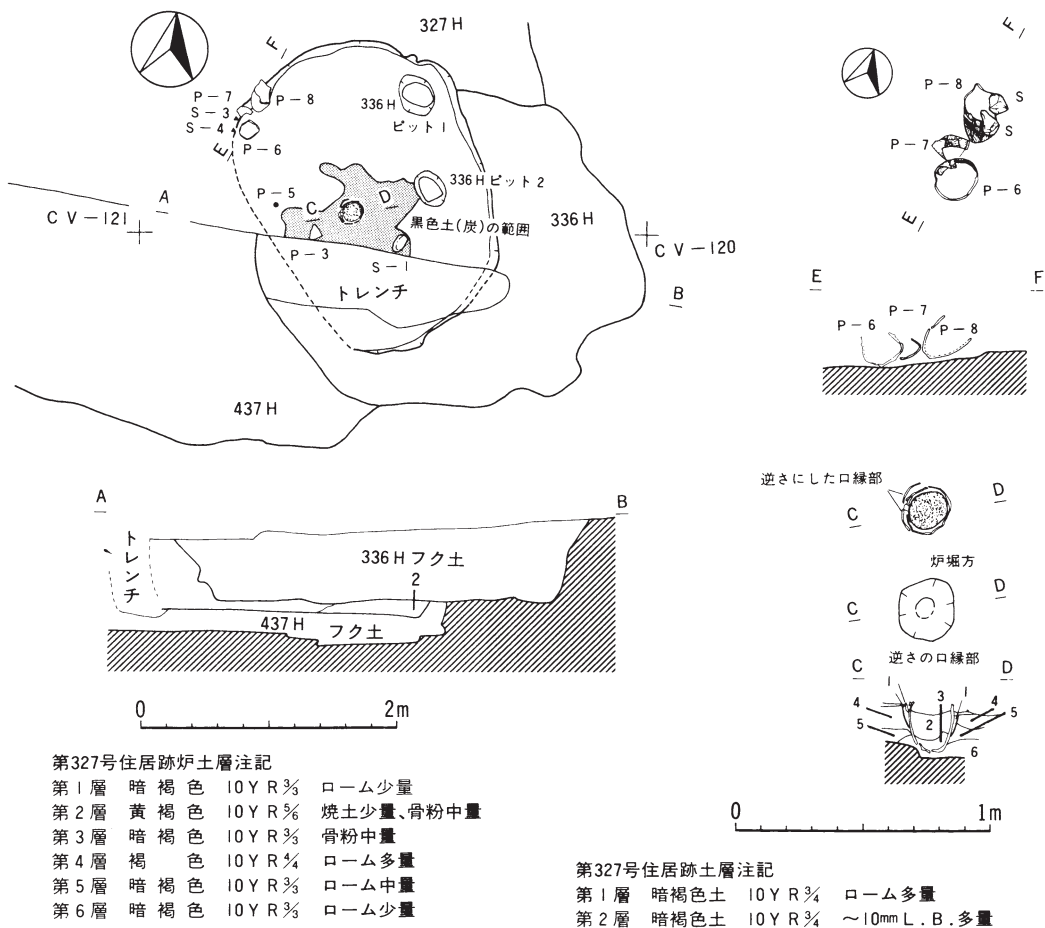
〈平面形・規模〉 南西側の壁はトレンチで切ってしまったこと等により不明瞭だが、長軸2m40cm、短軸1m80cmの楕円形と考えられる。床面積は3.86㎡である。

〈壁・床面〉 確認できた壁の壁高は10cm不足である。床は第437号住居跡の覆土上に造られているため、あまり堅くない。

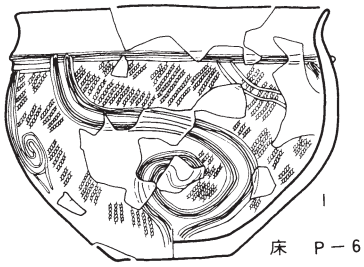
〈壁溝〉 検出されなかった。

〈柱穴〉 2個のピットを確認した。深さはP₁…15cm、P₂…6cmであるが、いずれも柱穴とはいいがたい。

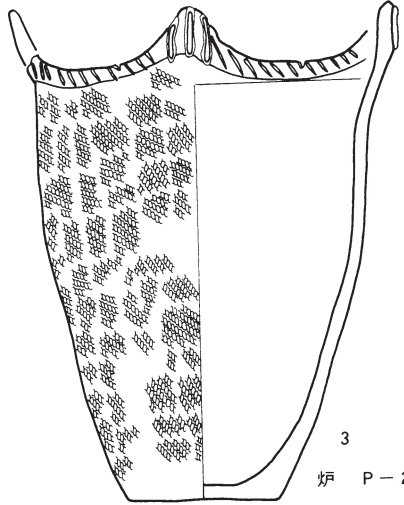
〈炉〉 土器埋設炉が床面のほぼ中央にある。胴径18cm程の口縁部を欠いた土器を20cm程正立させて埋めている。土器内部には骨粉・焼土及び炭化物混じりのしまりの弱い土が満たされていた。内部の土の上面は赤変していた。炉の周囲には炭化物様の土が分布していた。



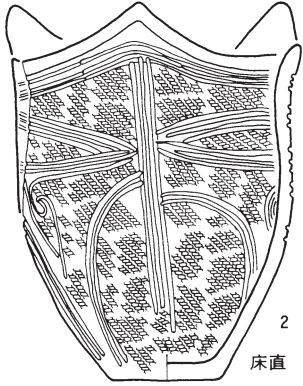
第794図 第327号住居跡2)



床 P-6



炉 P-2



床直 P-8



床面 P-7



床直



5



床直

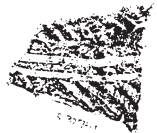


6

第327号住居跡付近上部の土器



7



8



9



10



第795図 第327号住居跡3)

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> 大部分が第336号住居跡に切られていて残っていないが、残存部分は暗褐色土である。

<出土遺物> 床面の炉付近に礫石器が、北西隅にはほぼ完形の土器が3個体あった。石器は床面直上から敲磨器類1点、覆土から石鏃2点、不定形石器8点、石皿・台石類2点、総数13点出土している。また軽石が1点覆土から出土している。

<小結> 本住居跡は床面の土器から榎林式期に構築されたと思われる。 (坂本 洋一)

第329号住居跡 (第796～798図)

<位置と確認> ほぼCV-121グリッドに位置している。第311号・第437号住居跡などと一体となって確認した。

<重複> 第331号・第437号住居跡・第665号土壇と重複しており、いずれよりも新しいと考えられる。

<平面形・規模> 重複している東西両端部が定かでないが、長軸4m40cm、短軸3m60cmの卵形と思われる。床面積は推定で9.33㎡である。

<壁・床面> 壁高は南側で約80cm、北側で約20cmである。床は西側が東側より10cm程低い。

<壁溝> 検出されなかった。

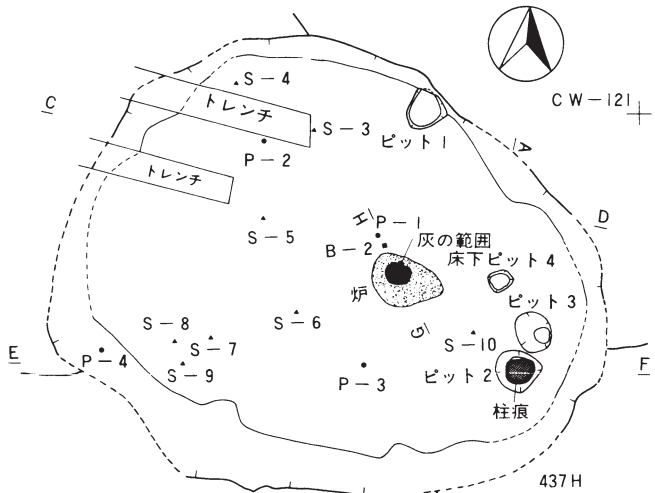
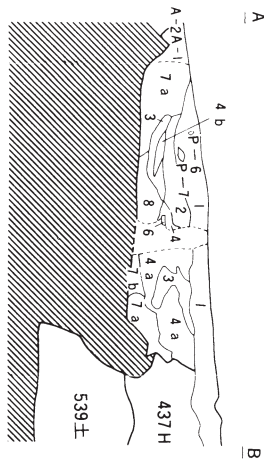
<柱穴> 床面の東側に4個のピットを確認した。深さはP₁…12cm、P₂…64cm、P₃…41cm、P₄…13cmでP₂・P₃が柱穴と考えられる。このうちP₂は柱痕が確認された。

<炉> 中央やや東寄りにある。地床炉である。炉の中央には灰が堆積していた。中央は緩く窪んでいた。

<特殊施設> 検出されなかった。

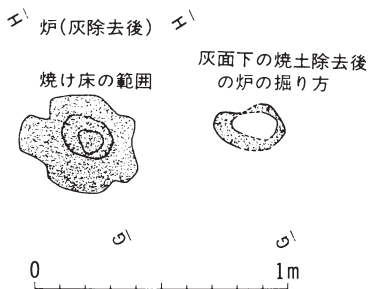
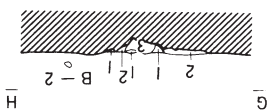
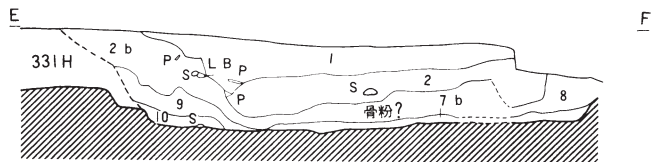
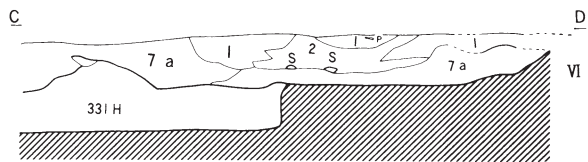
<堆積土> 主にローム混じり褐色土であるが、中位の層は乱れた堆積状態で、一部に骨粉・焼土混じりの層も見られた。

<出土遺物> 床面付近から土器、石器が出土した。石器は床面から石皿・台石類2点、床面直上から石槍1点、石棒1点、覆土から石鏃9点、石錐3点、石匙1点、不定形石器13点、石斧1点、敲磨器類3点、石皿・台石類1点、総数35点出土した。また覆土から軽石が1点出土している。また炉の脇からは骨粉も出土した。 (坂本 洋一)



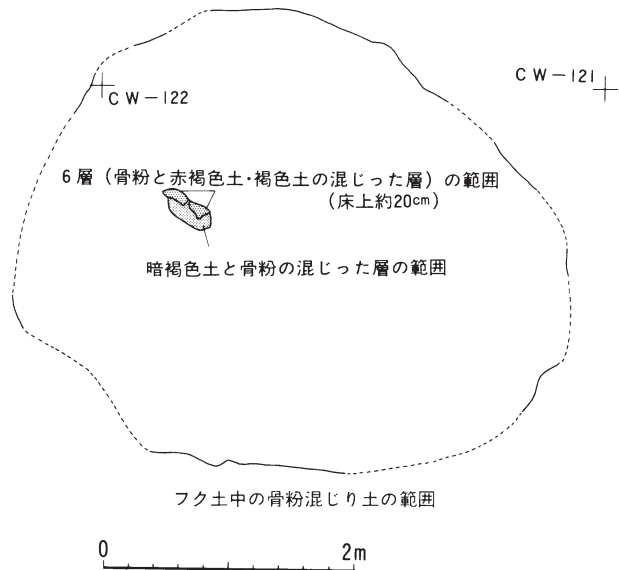
第329号住居跡土層注記

- 第1層 褐色 10Y R% 炭化物少量
- 第2層 褐色 10Y R% 炭化物少量
- 第2b層 褐色 10Y R%
- 第3層 暗褐色 10Y R% 炭化物中量
- 第4a層 褐色 10Y R% 炭化材少量
- 第4b層 褐色 10Y R% 炭化材少量
- 第5層 暗褐色 10Y R% 炭化物少量
- 第6層 褐色 10Y R% 骨粉。
- 第7a層 褐色 10Y R% 炭化物少量
- 第7b層 褐色 10Y R% 炭化材少量
- 第8層 褐色 10Y R% 炭化材少量
- 第9層 褐色 10Y R%
- 第10層 黄褐色 10Y R% ローム主体
- 第A1層 黄褐色 10Y R%
- 第A2層 黄褐色 10Y R%



第329号住居跡炉土層注記

- 第1層 灰白色 10Y R% 炭化物、焼土まじり
- 第2層 赤褐色 5Y R%
- 第3層 褐色 10Y R% 炭化物中量、焼土多量

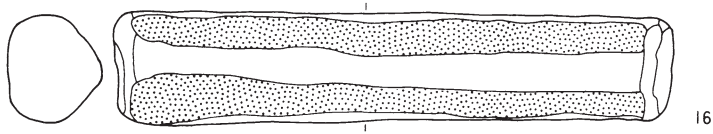
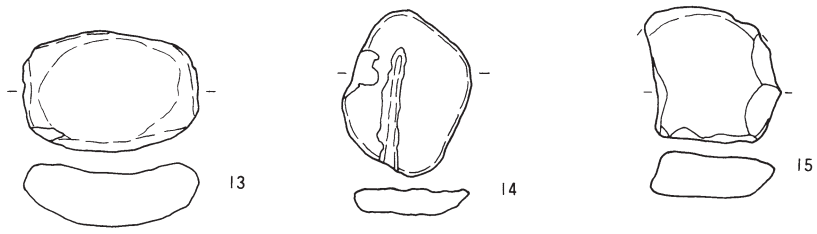


第796図 第329号住居跡(1)

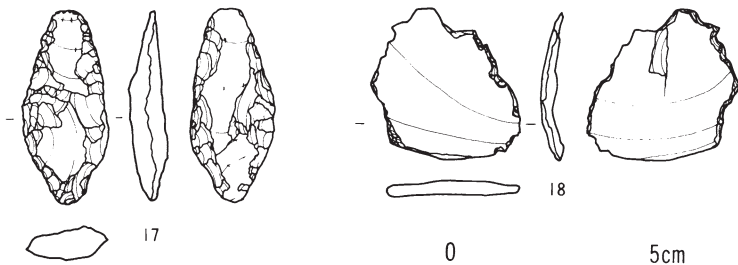


6、7は第329号住居跡付近上部の石器

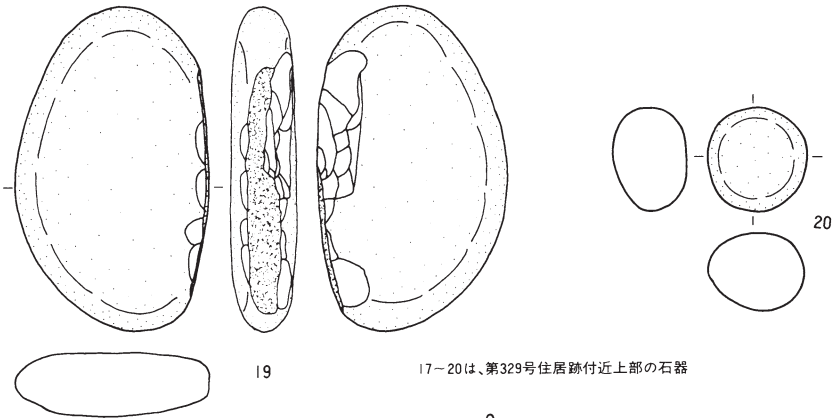
第797図 第329号住居跡2)



0 20 cm



0 5 cm



17-20は、第329号住居跡付近上部の石器

0 10 cm

第798図 第329号住居跡(3)

第331号住居跡（第799・800図）

<位置と確認> CV-121・122、CW-121・122グリッドに位置している。この一帯の暗褐色土の落ち込みの中にあり、トレンチにより確認した。

<重複> 本住居跡は第201号・第329号・第404号住居跡より古く、第665号土壌より新しい。

<平面形・規模> 長軸3 m80cm、短軸3 m40cmの隅丸長方形である。床面積は10.20m²である。

<壁・床面> 壁高は北側から東側南側にかけては30～40cm、南側の一部が50cm程あり、西側が10cm前後である。床は上部のものとその下の下部のもの2枚がある。上部の床は南側を除いて貼り床がなされているが、貼り床のない部分は拡張した部分ではないかと思われる。

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 32個のピットを検出した。深さはP₁…60cm、P₂…18cm、P₃…62cm、P₄…70cm、P₅…70cm、P₆…73cm、P₇…33cm、P₈…33cm、P₉…25cm、P₁₀…12cm、P₁₁…22cm、P₁₂…15cm、P₁₃…22cm、P₁₄…19cm、P₁₅…24cm、P₁₆…25cm、P₁₇…18cm、P₁₈…2cm、P₁₉…18cm、P₂₀…24cm、P₂₁…20cm、P₂₂…21cm、P₂₃…52cm、P₂₄…35cm、P₂₅…20cm、P₂₆…13cm、P₂₇…10cm、P₂₈…44cm、P₂₉…17cm（深さ10cm程度以上のもの）である。この内、P₁₆・P₁₈は柱穴ではないと思われる。P₁・P₃～P₁₉は上部の床面で検出されたもの、P₂₀・P₂₁・P₂₂は下部の床面で検出されたもの、P₂・P₂₃～P₂₉は下部の床を剥いでから検出されたものである。P₃・P₄・P₅・P₆が拡張後の主たる柱穴であり、P₁は特殊施設に伴う柱穴であり、柱痕が確認された。また、拡張前は、P₃・P₄・P₂₃・P₂₈が主たる柱穴で、P₂₄が特殊施設に伴う柱穴と思われる。

<炉> 床のほぼ中央にある掘り込まれた炉であるが、内部はあまり赤変していない。骨粉混じりの土が堆積していた。

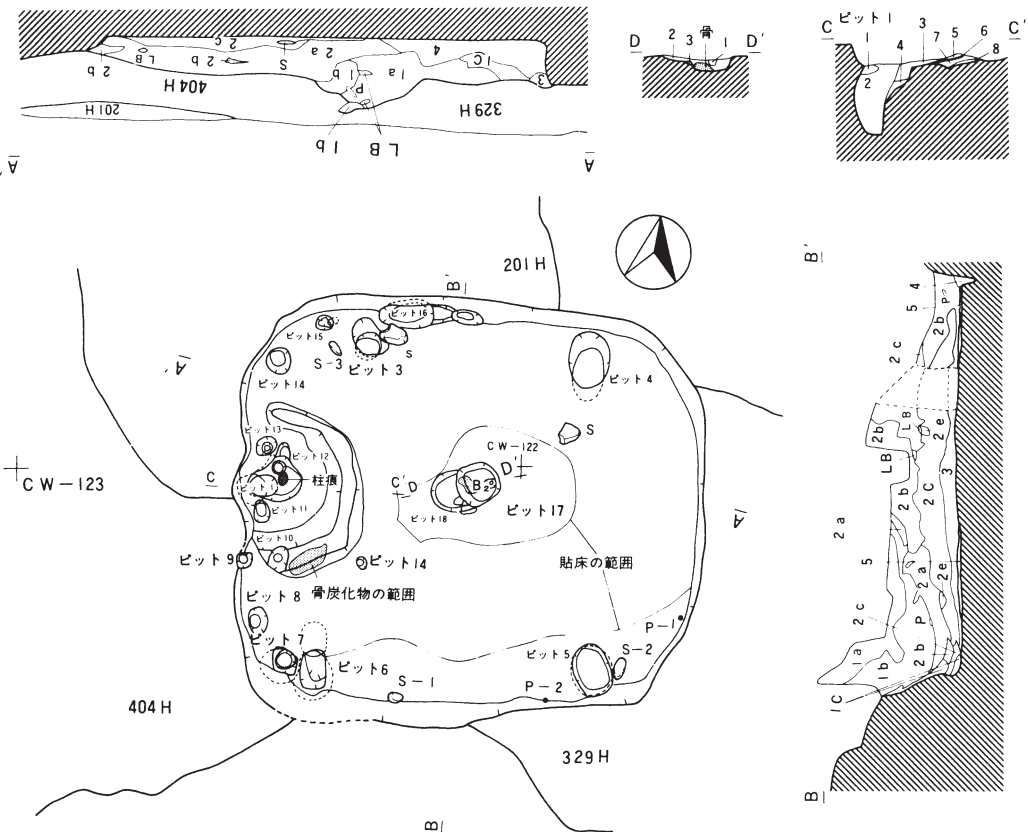
<特殊施設> 西側に半円状の貼りつけとピットをもつ特殊施設がある。

<堆積土> ローム混じりの暗褐色土ないし褐色土が主体である。下部の層の中央が盛り上がった不自然な堆積状態である。

<出土遺物> 床面から円筒上層d・e式土器が出土している。石器は床面から石鏃1点、覆土から石鏃1点、不定形石器1点、溝から不定形石器1点出土している。特殊施設の南側からは骨片や炭化材が出土した。

<小結> 本住居跡は床面の土器から円筒上層d・e式期に構築されたものと思われる。

（坂本 洋一）



第331号住居跡ピット土層注記

第1層	褐色土	10Y R $\frac{1}{4}$	ローム粒少量、炭化物少量
第2層	暗褐色土	10Y R $\frac{1}{2}$	ローム粒少量、炭化物少量
第3層	黒褐色土	10Y R $\frac{3}{4}$	ローム粒多量、炭化物多量
第4層	黄褐色土	10Y R $\frac{1}{4}$	
第5層	明黄褐色土	10Y R $\frac{1}{2}$	
第6層	褐色土	10Y R $\frac{1}{4}$	
第7層	黄褐色土	10Y R $\frac{1}{2}$	炭化物微量
第8層	褐色土	10Y R $\frac{1}{4}$	

第331号住居跡土層注記

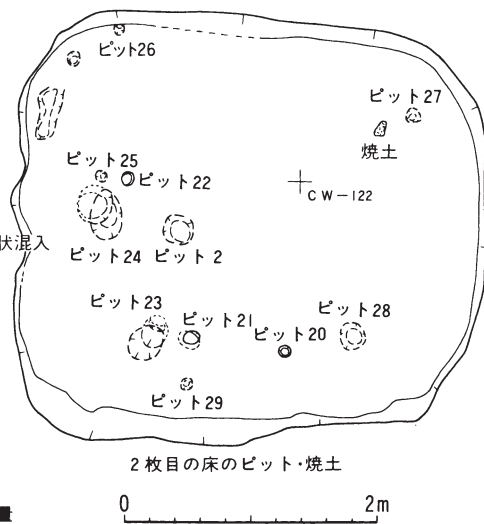
第1a層	褐色土	10Y R $\frac{1}{4}$	ローム多量
第1b層	褐色土	10Y R $\frac{1}{2}$	~15mm LB多量
第1c層	黄褐色土	10Y R $\frac{1}{4}$	ローム
第2a層	暗褐色土	10Y R $\frac{3}{4}$	~10mm L.B.中量・黒褐色土が斑状混入
第2b層	暗褐色土	10Y R $\frac{3}{4}$	ローム中量
第2c層	褐色土	10Y R $\frac{1}{4}$	ローム多量
第2d層	暗褐色土	10Y R $\frac{3}{4}$	~15mm L.B多量
第2e層	黒褐色土	10Y R $\frac{3}{4}$	ローム中量
第2f層	黒褐色土	10Y R $\frac{3}{4}$	ローム多量
第3層	暗褐色土	10Y R $\frac{3}{4}$	ローム多量
第4層	黄褐色土	10Y R $\frac{1}{4}$	にじんだローム
第5層	黄褐色土	10Y R $\frac{1}{2}$	

全層に微量~少量の炭化物混入

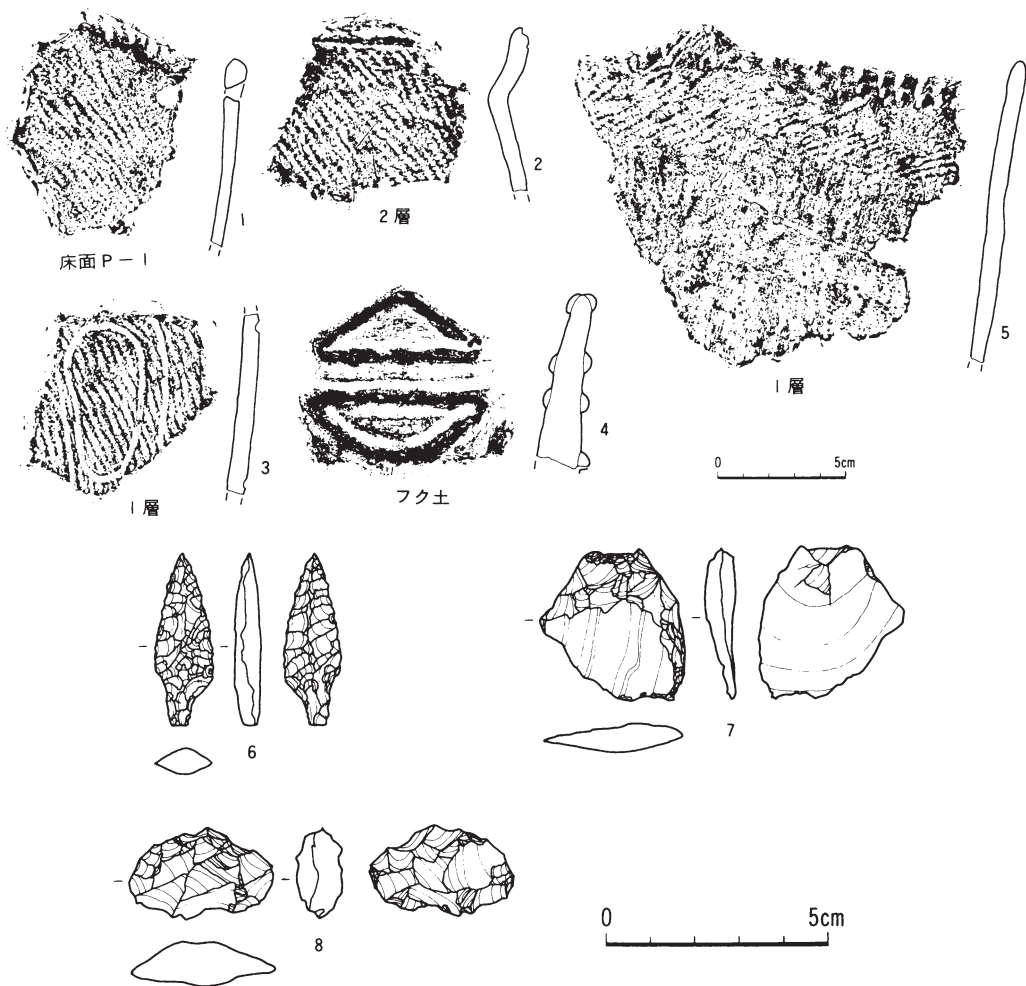
第331号住居跡炉土層注記

第1層	黒褐色土	10Y R $\frac{3}{4}$	
第2層	暗褐色土	10Y R $\frac{1}{2}$	焼土粒少量、炭化物多量、骨粉少量
第3層	暗褐色土	10Y R $\frac{3}{4}$	焼土粒多量、炭化物多量

全層ローム粒少量~多量混入



第799図 第331号住居跡(1)



第800図 第331号住居跡2)

第333号住居跡 (第801～806図)

〈位置と確認〉 CR・CS-120グリッドに位置している。第Ⅲ層中に褐色土の落ち込みを確認した。

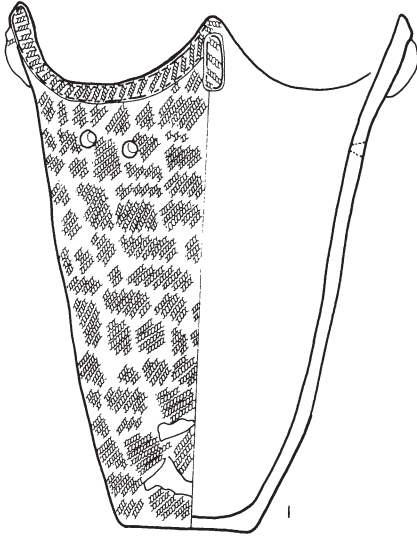
〈重複〉 第337号住居跡と重複しており、本住居跡が新しい。

〈平面形・規模〉 南側の壁は重複のため明らかでないが、セクションや壁溝から直径2m50cm程の円形である。床面積は3.9㎡である。

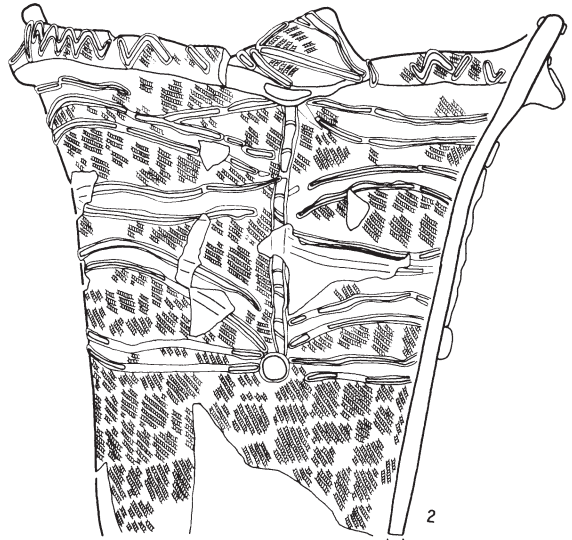
〈壁・床面〉 壁高は北側で35cm程である。床はほぼ平坦である。

〈壁溝〉 東側を除いて全体に巡っている。幅10～20cmで、深さは2～3cmである。

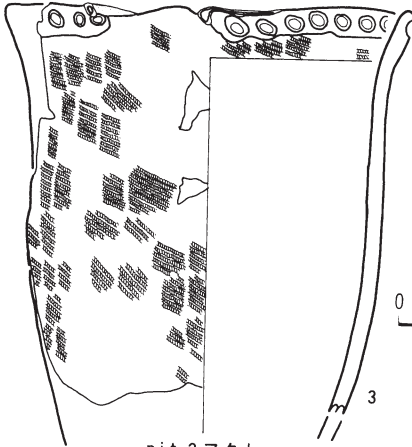
〈柱穴〉 24個のピットを検出した。深さはP₁…33cm、P₂…30cm、P₃…48cm、P₄…44cm、P₅…30cm、P₆…24cm、P₇…59cm、P₈…42cm、P₉…15cm、P₁₀…40cm、P₁₁…40cm、P₁₂…43cm、



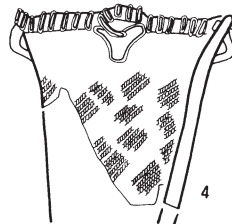
床直 P-54



床直 P-55

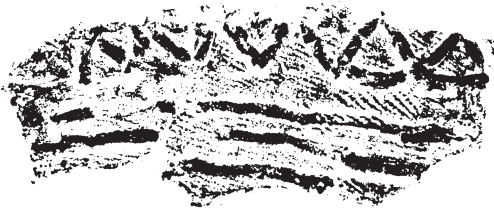


pit 2 フク土



2層 P-11、28

0 10cm



床直 P-55



床直 P-55



5



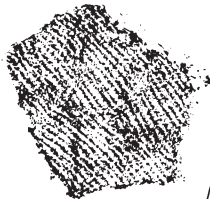
6



床直 P-55



7

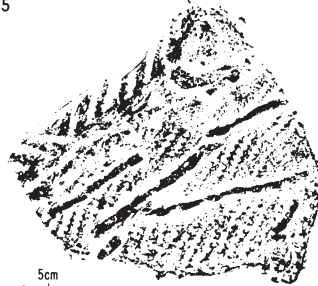


床直 P-55

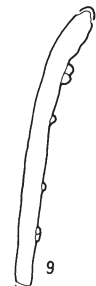


8

0 5cm



2層 P-44

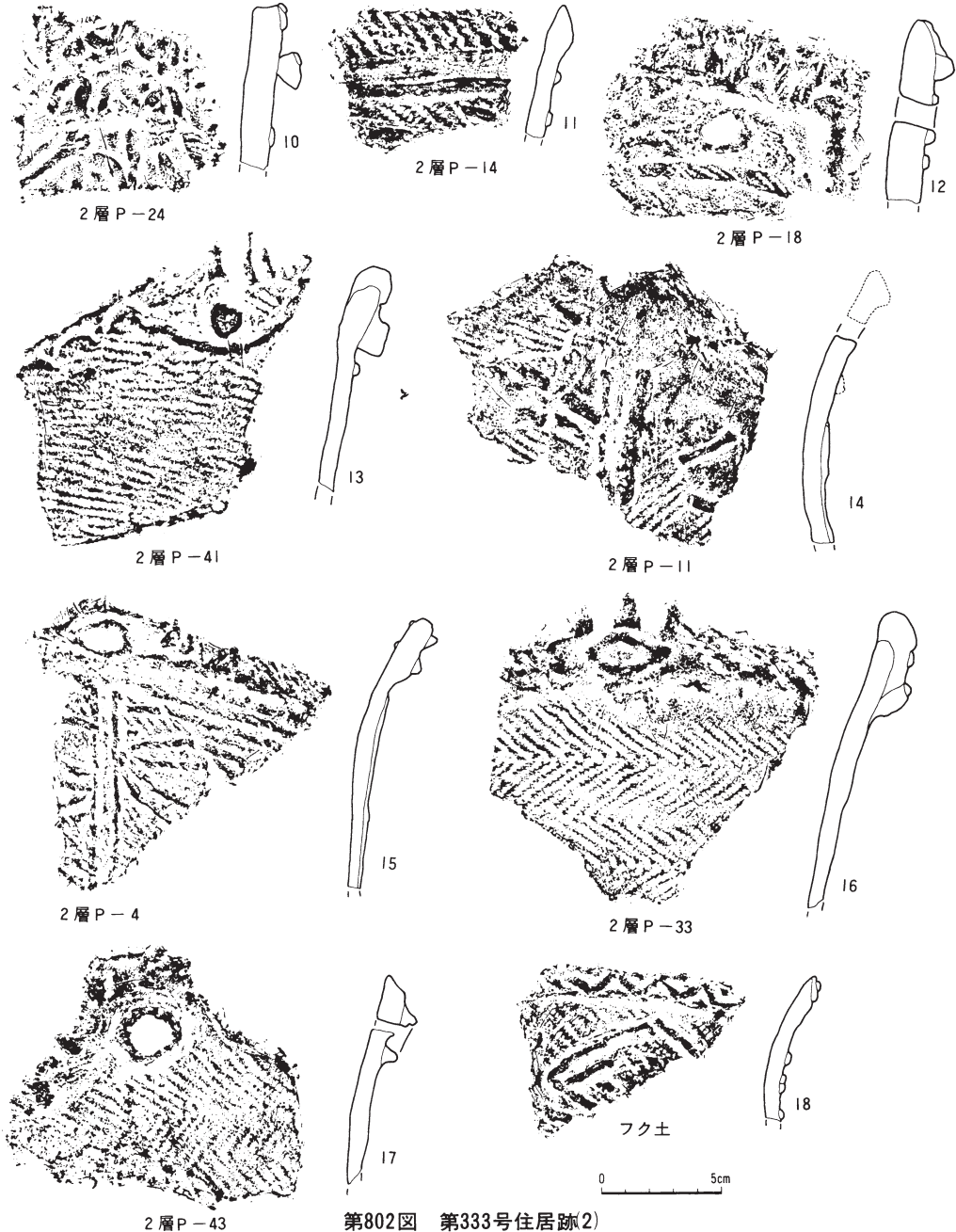


9

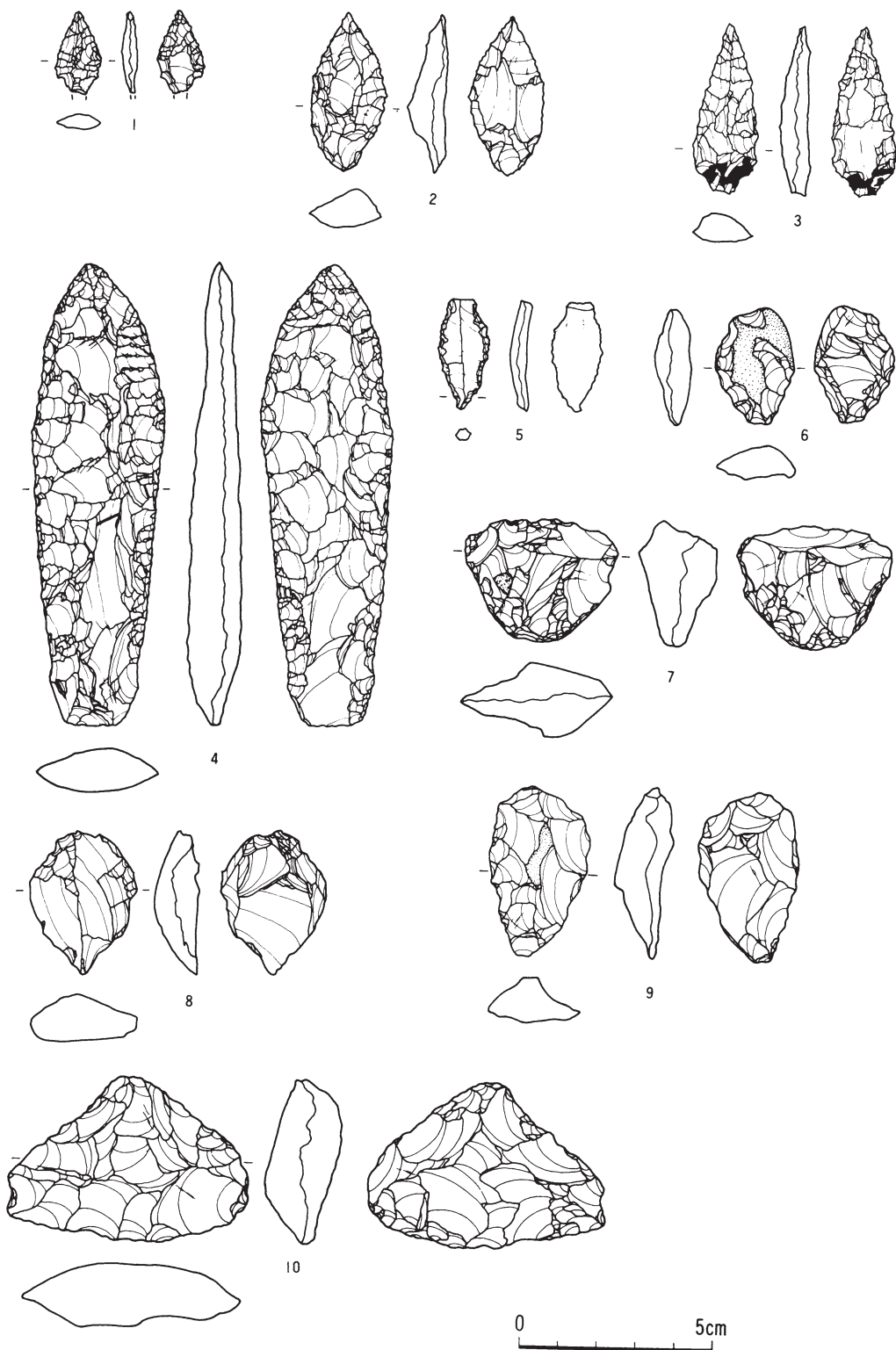
第801図 第333号住居跡(1)

P₁₃…65cm、P₁₄…13cm、P₁₅…15cm、P₁₆…14cm、P₁₇…14cm、P₁₈…10cm、P₁₉…12cm、P₂₀…11cm、P₂₁…17cm（深さ10cm程度以上のもの）である。以上のピットは、P₉・P₁₄・P₁₅を除き小さいものも柱穴様のものである。なおP₁₁は床を剥いで確認した。またP₃は上面に炉の焼土が被っていた。

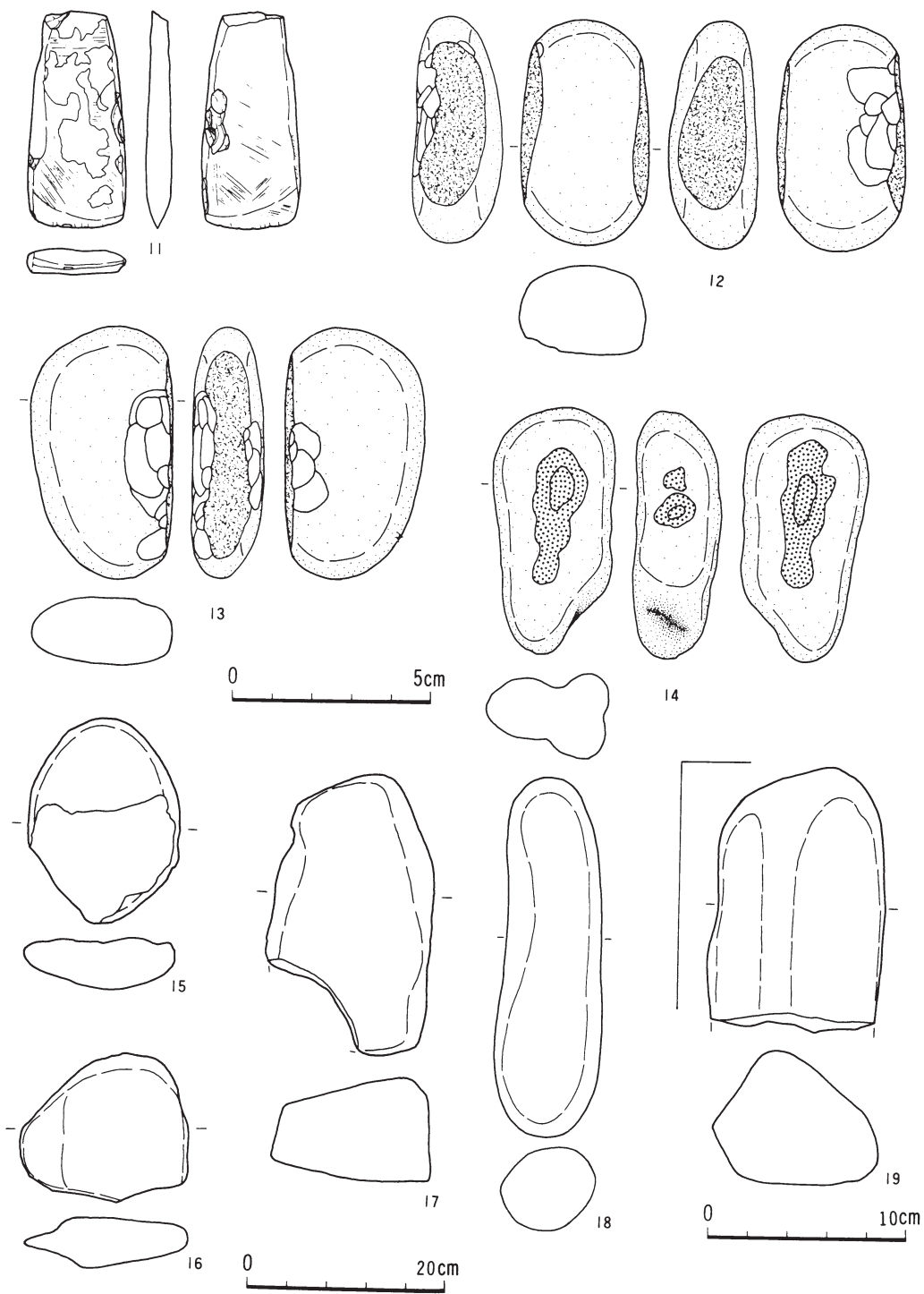
<炉> 床のほぼ中央に直径20cm強の地床炉が2か所検出された。



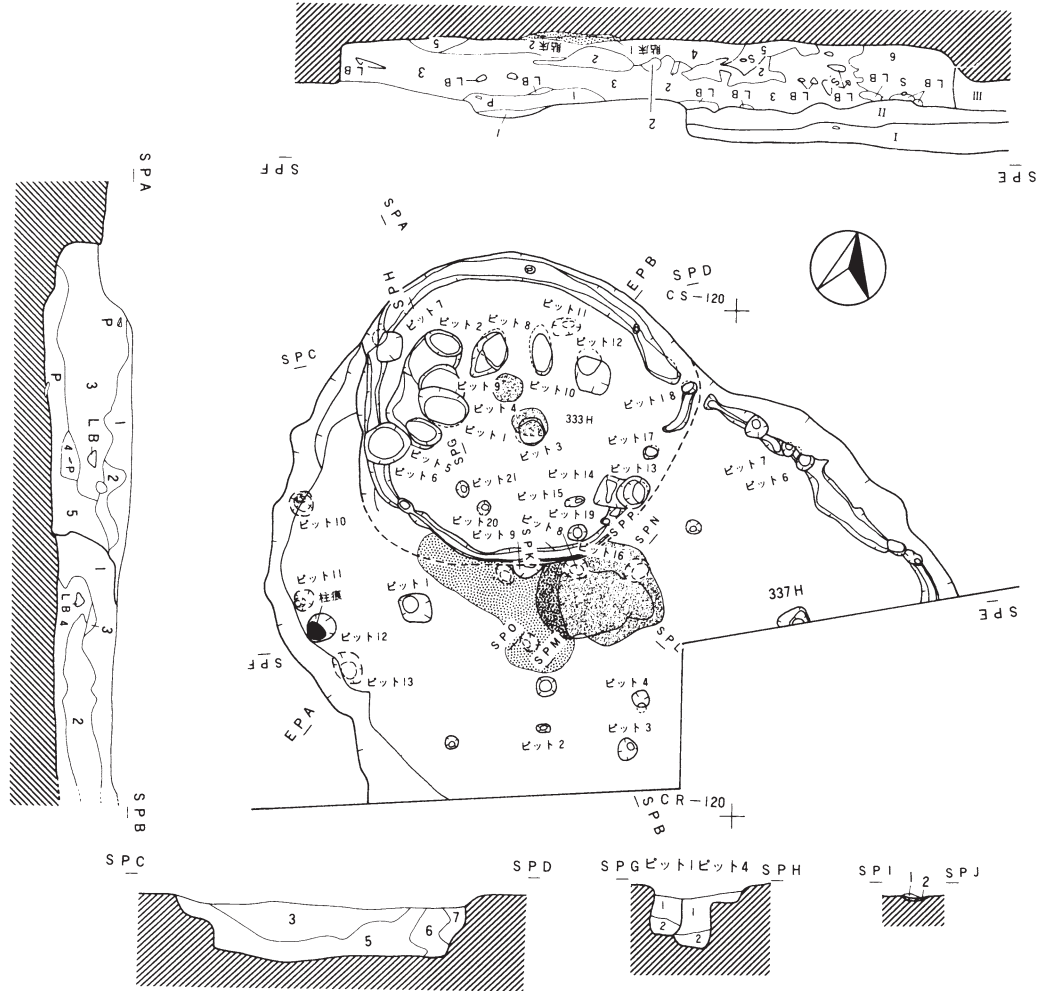
第802図 第333号住居跡2)



第803图 第333号住居跡3)



第804图 第333号住居跡4)



第333号住居跡土層注記

- 第1層 褐色土 10 Y R % 焼土粒微量、炭化物少量、ローム多量、浮石微量
- 第2層 明褐色土 7.5 Y R % 暗褐色土少量
- 第3層 黒褐色土 10 Y R % 焼土粒少量、炭化物多量
- 第4層 黒褐色土 10 Y R % ローム粒少量
- 第5層 暗褐色土 10 Y R % ローム粒多量
- 第6層 暗褐色土 10 Y R % 焼土粒少量、炭化物少量

第337号住居跡土層注記

- 第1層 黄褐色土 10 Y R % ローム多量、炭化物少量
 - 第2層 褐色土 10 Y R % ローム多量、焼土粒微量、炭化物微量
 - 第3層 暗褐色土 10 Y R % ローム多量、焼土粒少量、炭化物多量
 - 第4層 褐色土 10 Y R % ローム多量、炭化物微量
 - 第5層 暗褐色土 10 Y R % ローム多量、焼土粒少量、炭化物少量
 - 第6層 褐色土 10 Y R % ローム多量、炭化物少量
 - 第7層 黄褐色土 10 Y R % ローム多量、褐色土少量
- 1層から6層までローム粒少量～多量含む

第333号住居跡ピット1土層注記

- 第1層 褐色土 10 Y R % ローム粒多量
- 第2層 黒褐色土 10 Y R % ローム粒少量

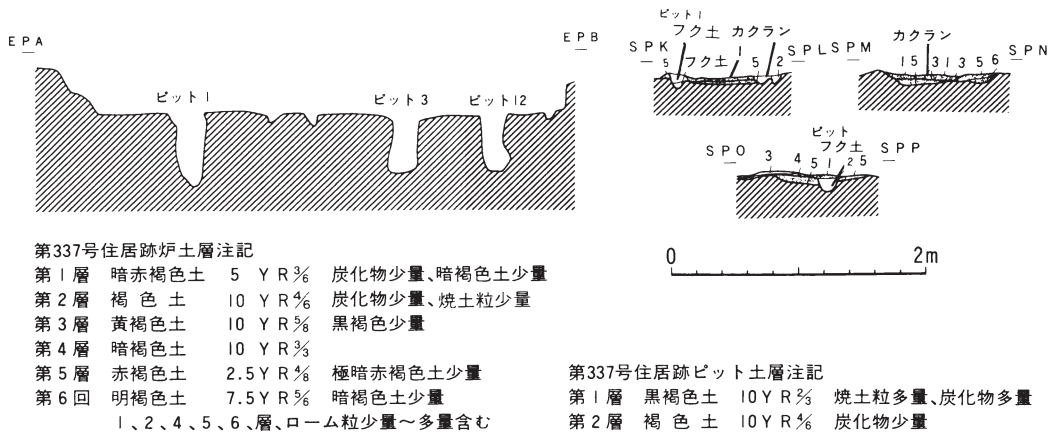
第333号住居跡ピット4土層注記

- 第1層 黄褐色土 10 Y R % ローム粒多量、暗褐色土多量
- 第2層 褐色土 10 Y R % (20～50mm) L B 少量

第333号住居跡炉土層注記

- 第1層 黄褐色土 10 Y R % にぶい黄褐色土少量
- 第2層 赤褐色土 10 Y R % 炭化物少量

第805図 第333, 337号住居跡(1)



第806図 第333、337号住居跡2)

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> ローム混じりの黒褐色土ないし褐色土である。

<出土遺物> 床面直上より円筒上層d式土器が出土している。石器は床面直上から石皿・台石類1点、覆土から石鏃7点、石槍1点、石錐1点、不定形石器13点、石斧1点、敲磨器類2点、石皿・台石類2点、石棒1点、ピットより不定形石器1点、敲磨器類1点、確認面から石棒が1点出土している。

<小結> 本住居跡は床面直上の土器より円筒上層d式期か、それ以前に構築された可能性が高い。
(坂本 洋一)

第334号住居跡 (第807・808図)

<位置と確認> CR・CS-122グリッドに位置している。第Ⅲ層中に黒褐色土の落ち込みを認めた。

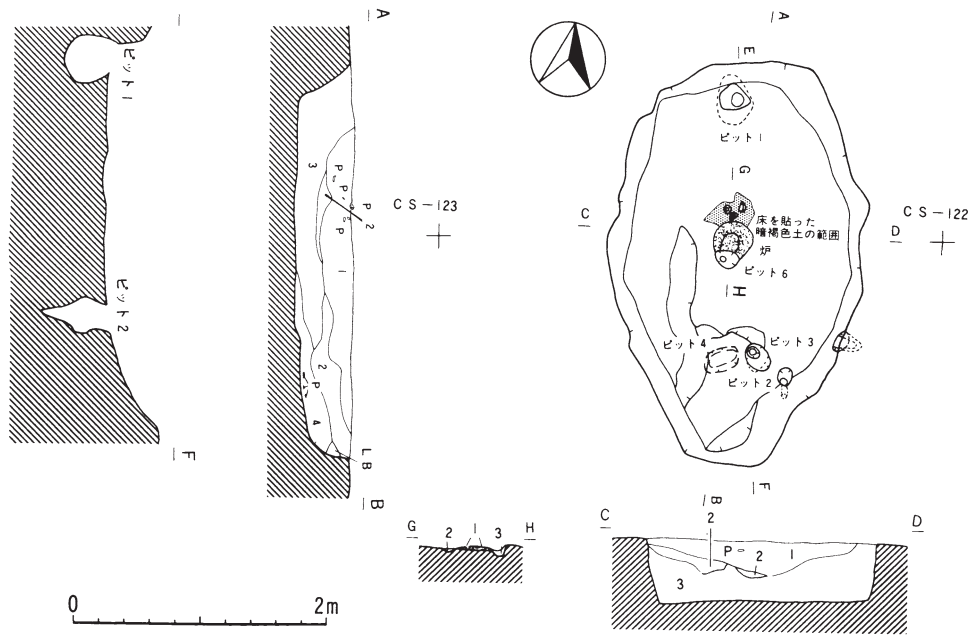
<重複> なし。

<平面形・規模> 南側の壁は調査区外にあり、北側は重複のため明らかでないが、長軸3m 20cm、短軸2m程で南側がやや突出する楕円形である。床面積は3.73㎡である。

<壁・床面> 壁高は北側で30cm、西側で50cm、南側で40cm、東側で45cm程である。床は南側がやや高くなっている。また、南西側には段差がある。炉の北の脇の床には褐色土が薄く貼られていた。

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 8個のピットを検出した。深さはP₁…37cm、P₂…50cm、P₃…12cm、P₄…3cm、P₅…8cm(深さ10cm程度以上のもの)である。P₁・P₂が柱穴と考えられる。P₄は床を剥いで検出した。

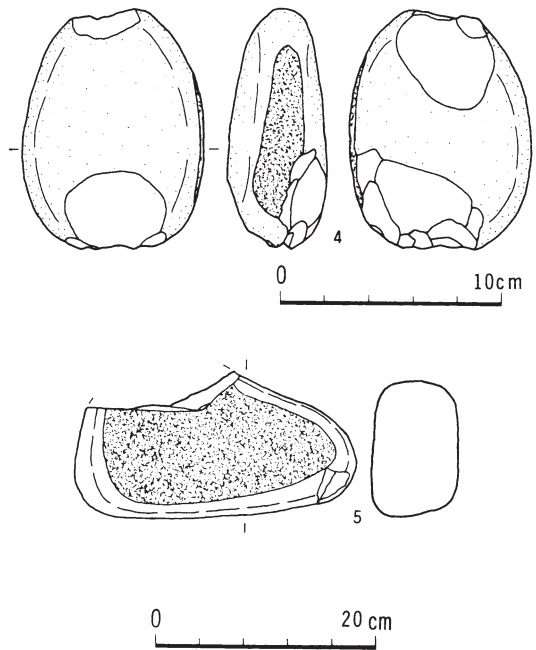
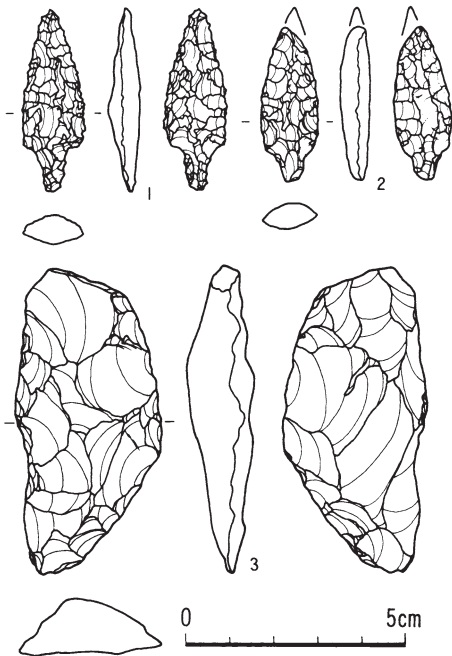


第334号住居跡土層注記

- 第1層 黒色土 10Y R 5/6 焼土粒少量、炭化物多量
- 第2層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物少量
- 第3層 褐色土 10Y R 3/4 炭化物少量
- 第4層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量

第334号住居跡炉土層注記

- 第1層 赤褐色土 5 Y R 5/6 褐色土少量、焼土
- 第2層 極暗褐色土 7.5 Y R 3/4 焼土粒少量、炭化物少量
- 第3層 褐色土 7.5 Y R 3/4 焼土粒少量、炭化物少量



第807図 第334号住居跡(1)

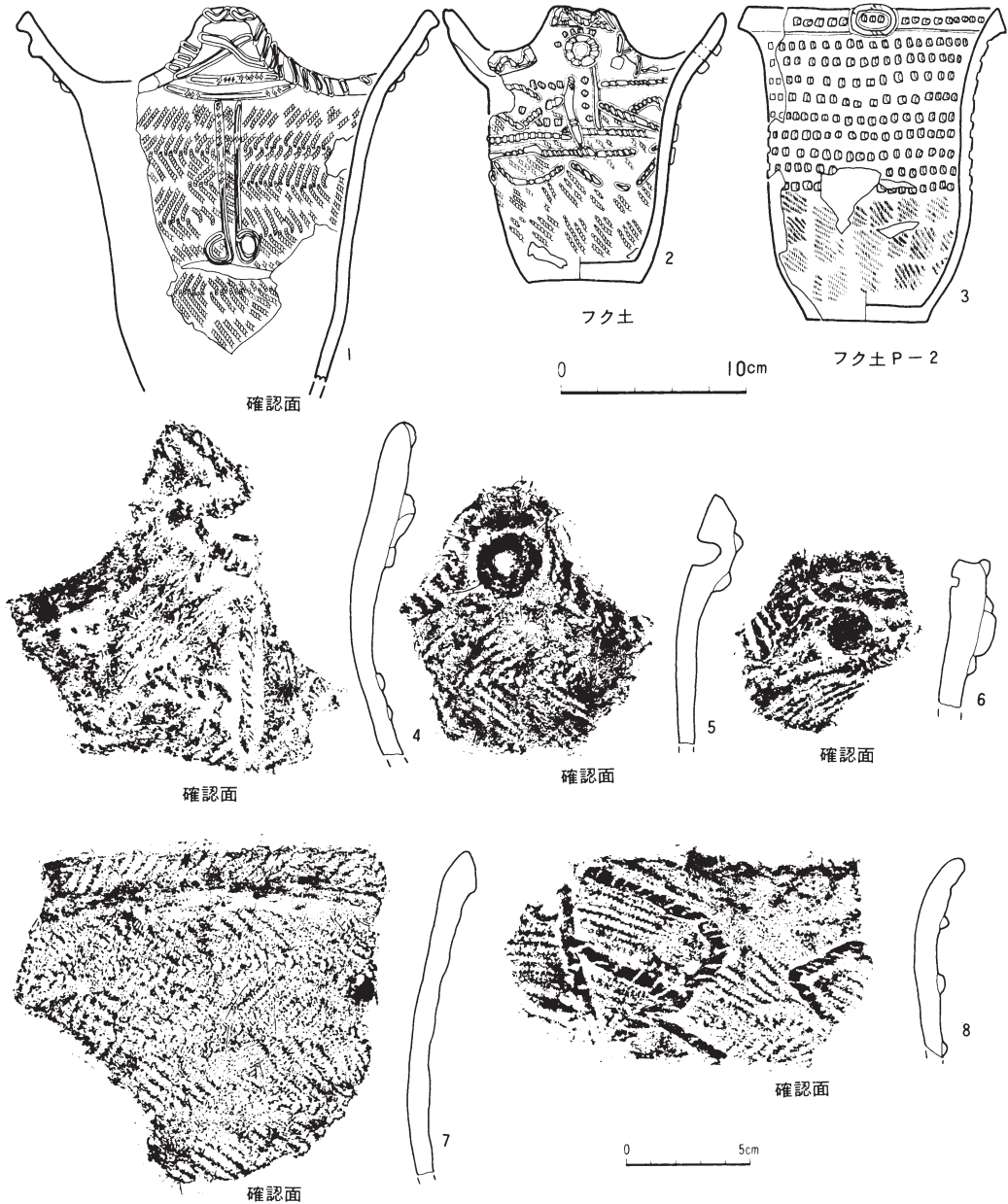
<炉> 直径30cm程の地床炉で床のほぼ中央にある。中央がやや盛り上がっている。

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> ローム混じりの黒褐色土ないし褐色土である。レンズ状の堆積である。

<出土遺物> 覆土から円筒上層c・d式土器が出土している。石器は覆土から石鏃4点、不定形石器2点、石皿・台石類1点、確認面から石鏃1点、敲磨器類1点出土している。

(坂本 洋一)



第808図 第334号住居跡(2)

第335号住居跡（第809・810図）

<位置と確認> CR-123グリッドに位置している。第Ⅲ層中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

<重複> なし。

<平面形・規模> 南側の壁は調査区外にあり、北側は重複のため明らかでないが、長軸2m70cm、短軸2m50cmの隅丸方形である。床面積は5.04㎡である。

<壁・床面> 壁高は北壁側で20cm、南側で15cm程である。床はほぼ平坦である。

<壁溝> 北東・北西隅を除いて検出された。幅10cm前後で、深さは2～7cmである。

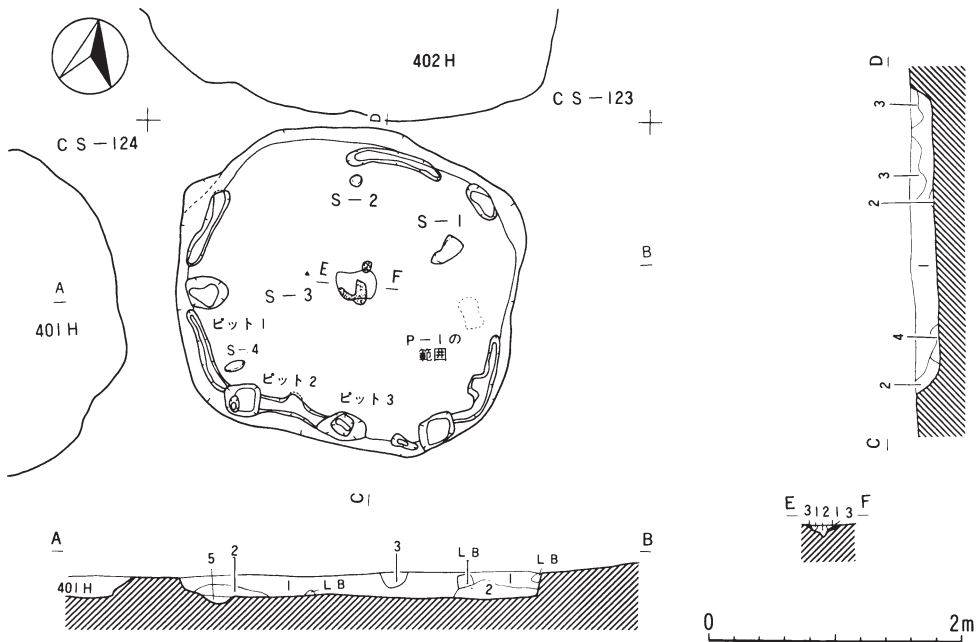
<柱穴> 5個のピットを検出した。深さはP₁…13cm、P₂…20cm、P₃…13cm(深さ10cm程度以上のもの)である。いずれのピットも柱穴とは言いがたい。

<炉> 床のほぼ中央に不整に広がった赤変する部分があり、これが地床炉と考えられる。

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> ローム混じりの暗褐色土が主体である。

<出土遺物> 床面直上から円筒上層e式土器が出土している。床面直上から石鏃1点、敲磨



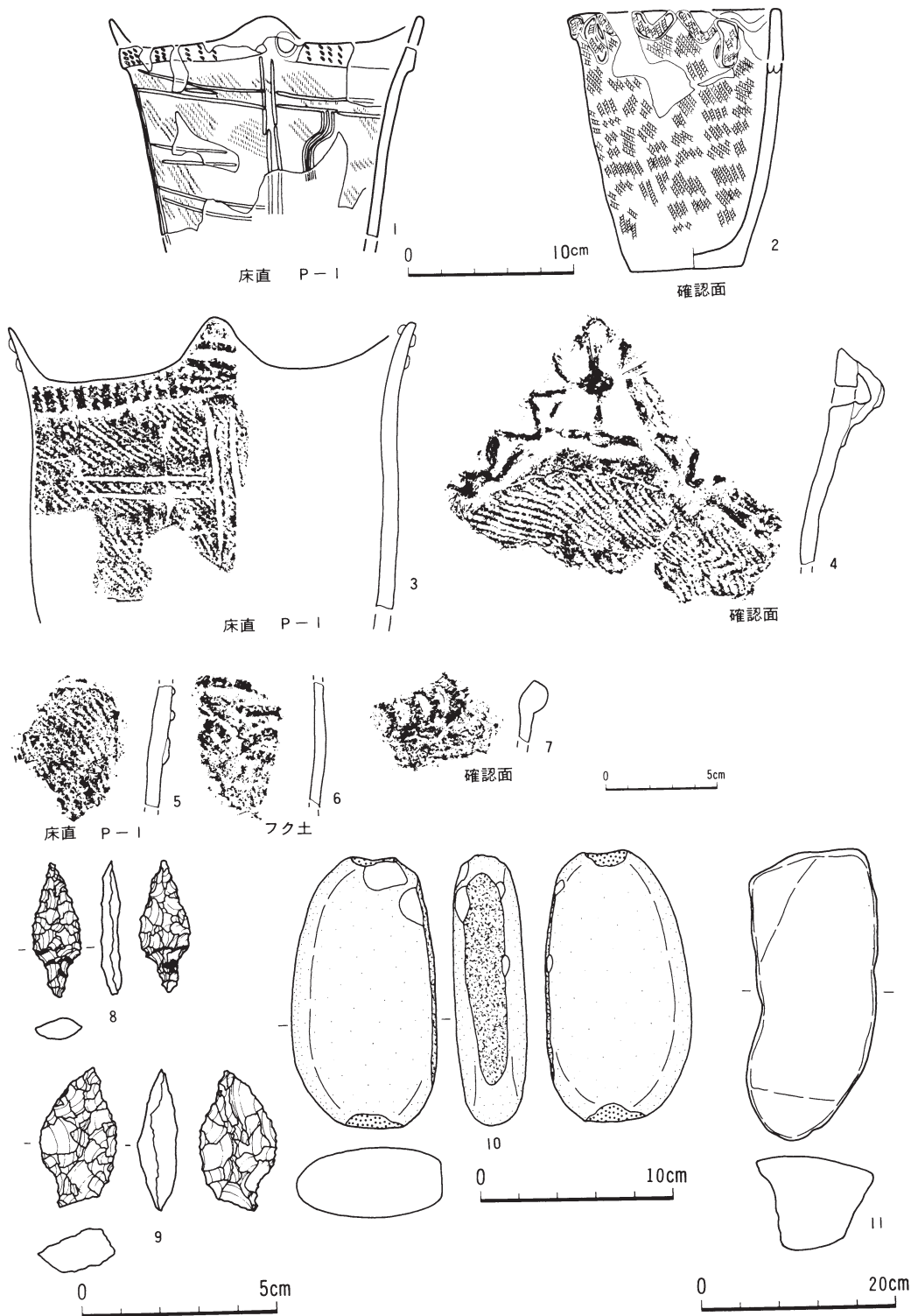
第335号住居跡土層注記

第1層 暗褐色土 10Y R 3/4 焼土粒微量 炭化物少量
 第2層 黄褐色土 10Y R 5/6 黒色土少量
 第3層 褐色土 10Y R 4/4 炭化物多量、黒色土微量
 第4層 黒褐色土 10Y R 3/3
 第5層 褐色土 10Y R 6/6 炭化物微量

第335号住居跡炉土層注記

第1層 暗褐色土 10Y R 3/4 焼土粒多量、炭化物多量
 第2層 褐色土 10Y R 5/6 焼土粒少量、炭化物少量
 第3層 赤褐色土 5Y R 7/6 褐色土少量、焼土

第809図 第335号住居跡1)



第810図 第335号住居跡(2)

器類1点、石皿・台石類1点、覆土から石鏃1点、不定形石器1点、総数5点出土している。

〈小結〉 本住居跡は床面直上から出土した土器から円筒上層e式期か、それ以前に構築された可能性が高い。(坂本 洋一)

第336号住居跡 (第811~815図)

〈位置と確認〉 ほぼCU・CV-120グリッドに位置している。第IV層中及び他の遺構の落ち込みの中に黒褐色土の落ち込みを確認した。

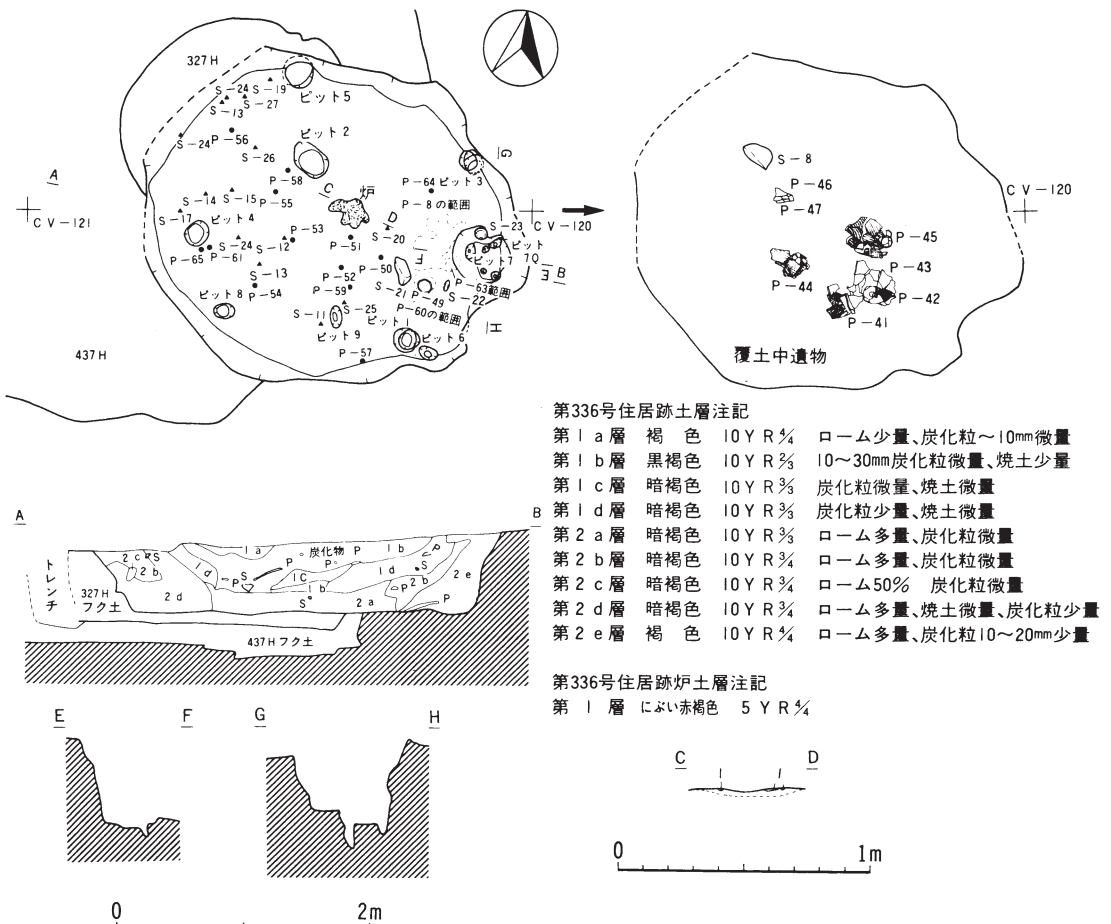
〈重複〉 第327号・第437号住居跡と重複しており、本住居跡が新しい。

〈平面形・規模〉 長軸3m20cm、短軸2m60cmの楕円形である。床面積は5.12㎡である。

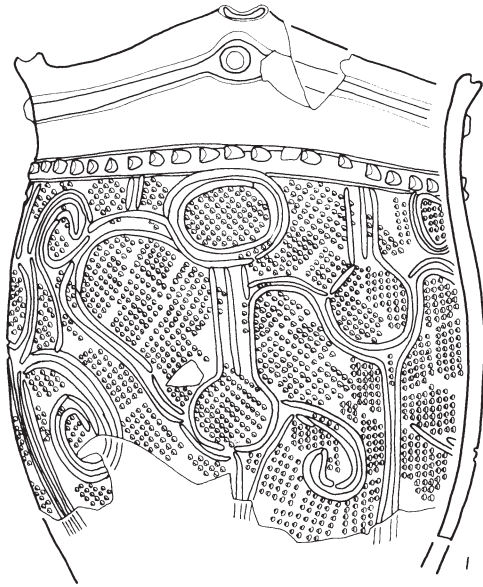
〈壁・床面〉 壁高は南側で約60cm、北側で約15cmである。床は南側が10cm程低い。

〈壁溝〉 検出されなかった。

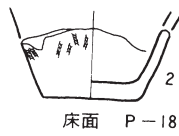
〈柱穴〉 14個のピットを確認した。深さはP₁…51cm、P₂…17cm、P₃…23cm、P₄…12cm、P₅



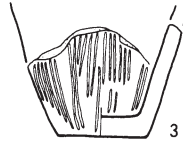
第811図 第336号住居跡(1)



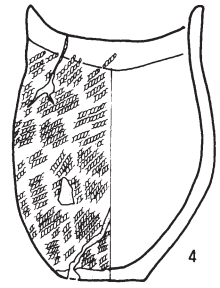
I層下部 P-41~43



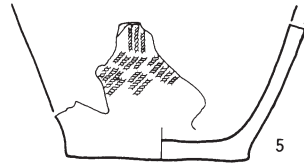
床面 P-18



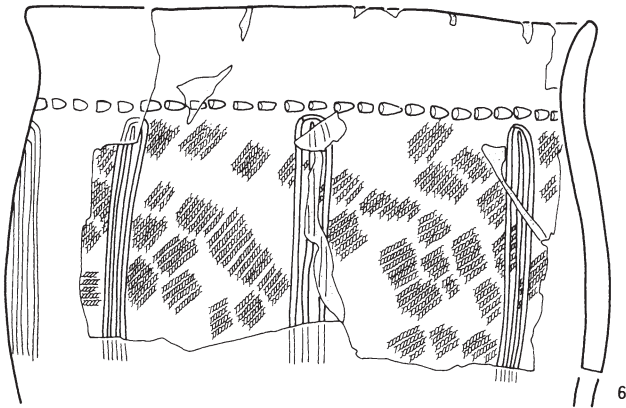
I層



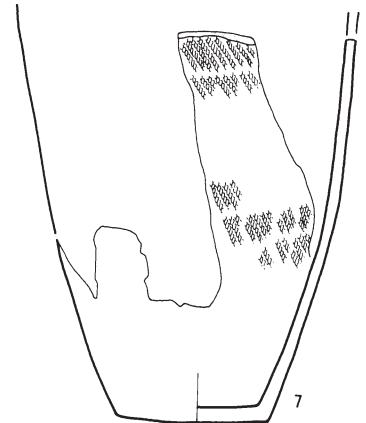
I層 P-5, 34



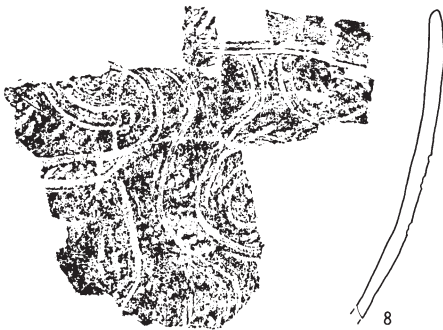
I層 P-45



I層下部 P-44



フク土 P-76



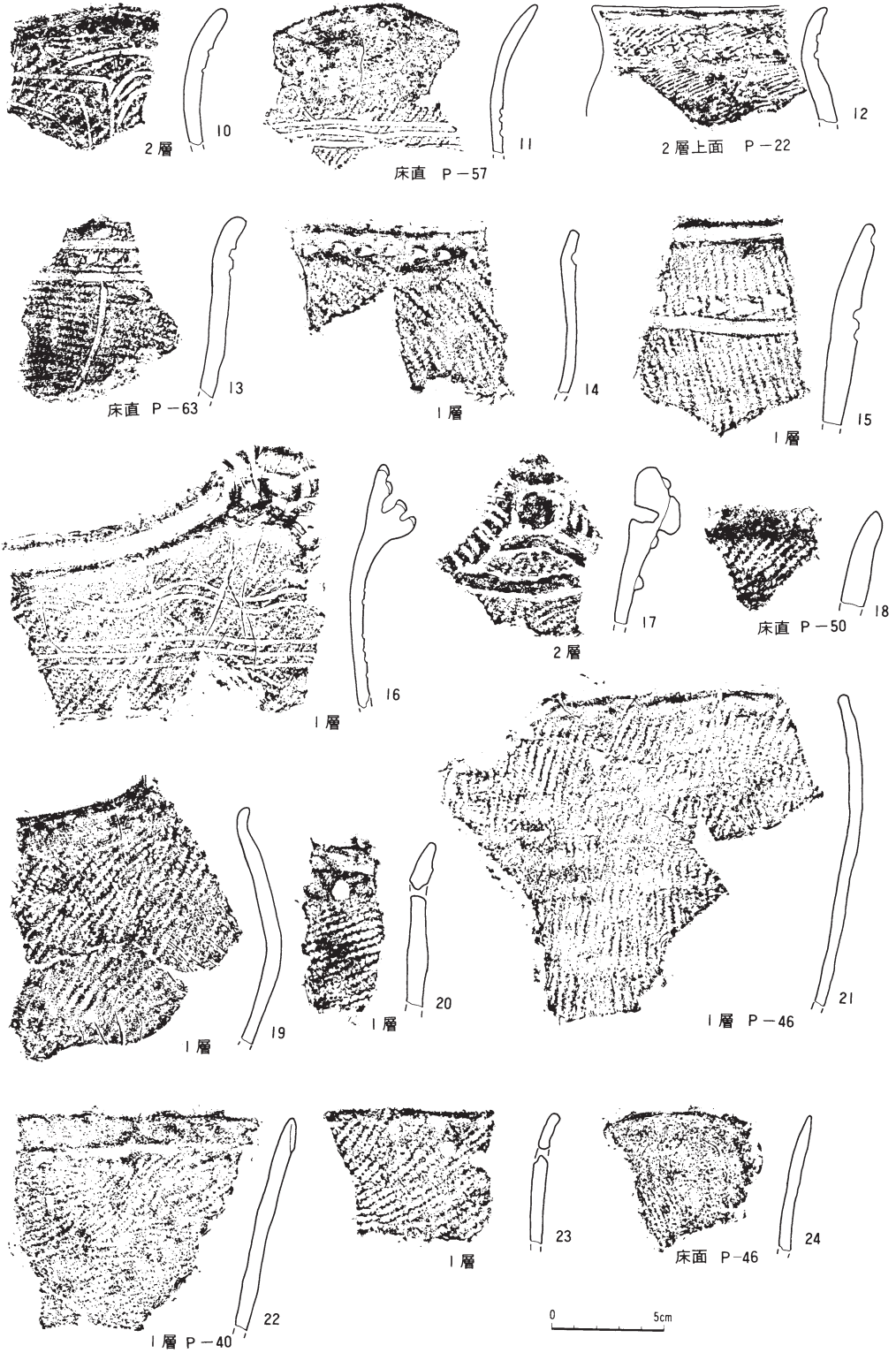
2層上面 P-27



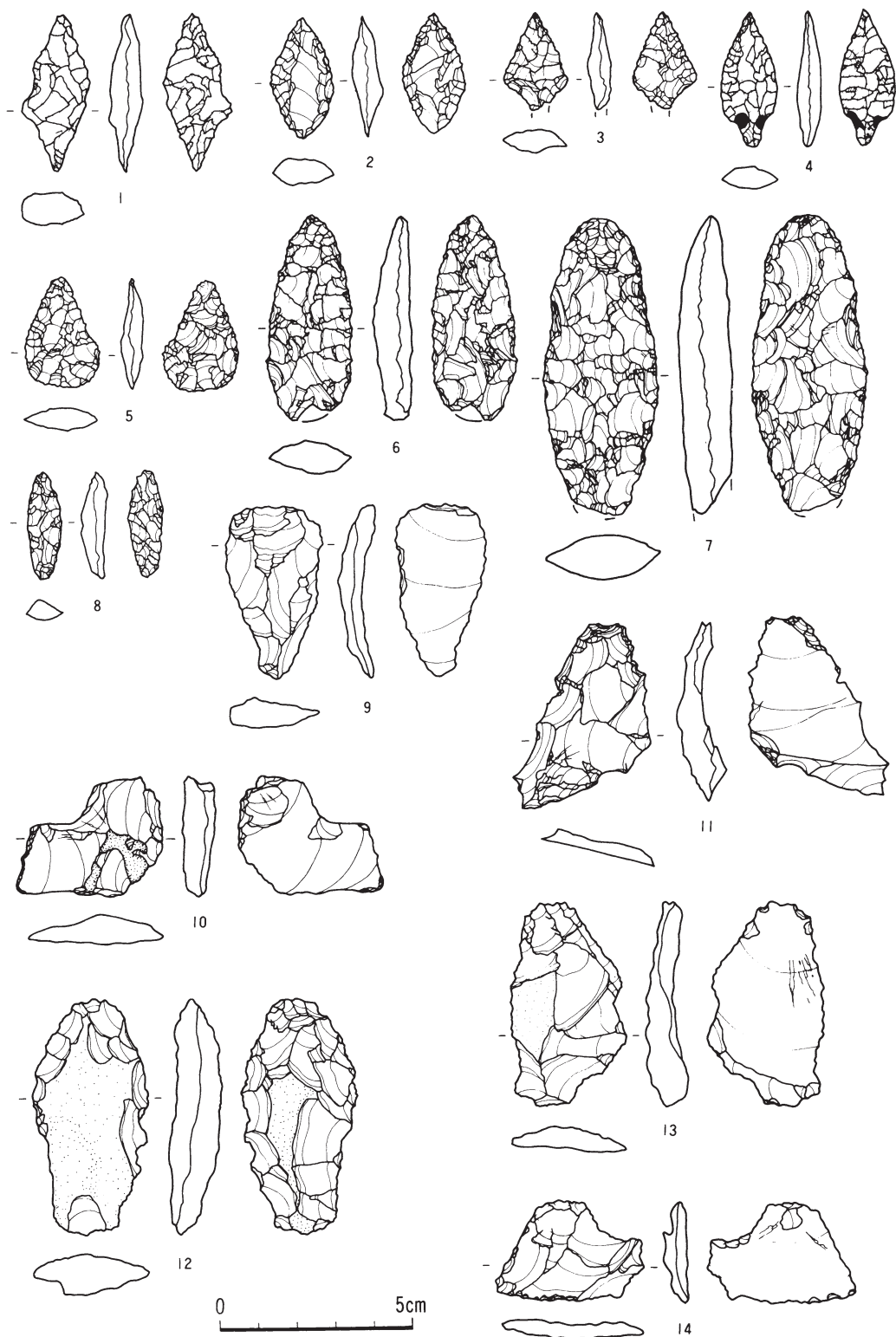
I層



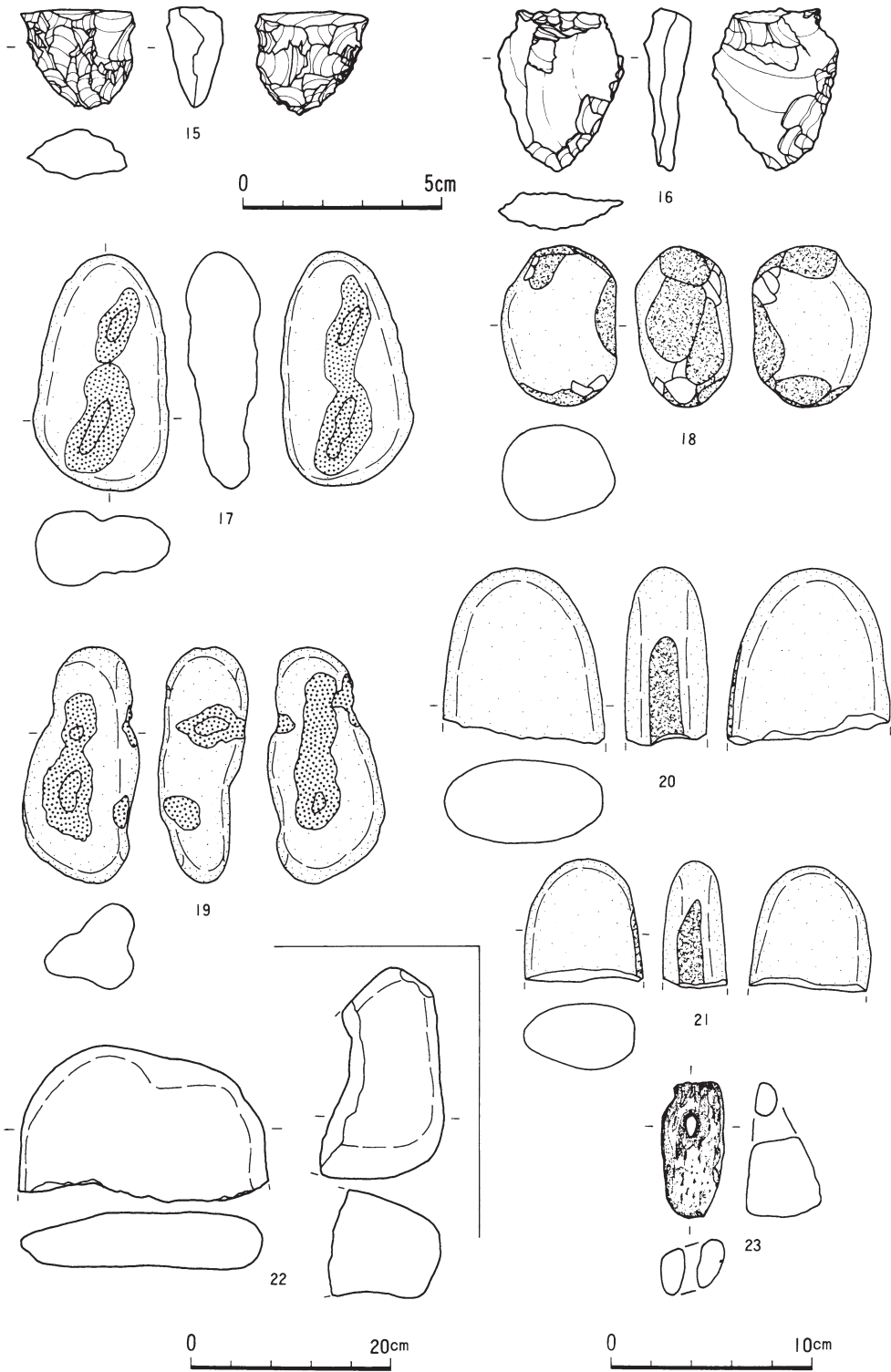
第812図 第336号住居跡(2)



第813図 第336号住居跡3)



第814图 第336号住居跡4)



第815图 第336号住居跡(5)

…31cm、P₆…10cm、P₇…5cm、P_{7a}…14cm（深さ10cm程度以上のもの）でP₁・P₃・P₅が柱穴と考えられ、配置から考えて、P₄も柱穴の可能性はある。

<炉> 中央にあり、30cm程の範囲に不整形に広がる地床炉である。

<特殊施設> 東壁際に小ピットを伴った緩い窪み（P₇）がある。

<堆積土> 上位の黒褐色土と壁際の褐色土を除き、大部分ローム混じりの暗褐色土であり、レンズ状の堆積状態を呈している。

<出土遺物> 覆土中位から床面にかけて、復原可能土器を含む多量の土器・石器が出土した。石器は床面から不定形石器1点、床面直上から石鏃2点、石錐1点、不定形石器1点、石斧1点、石皿・台石類1点、覆土から石鏃11点、石槍3点、不定形石器22点、石皿・台石類2点、また敲磨器類が第1層から3点、第2層から2点出土している。石器の総数は50点である。他に第1層より軽石が1点出土している。

<小結> 本住居跡は床面直上の土器から榎林式期か、それ以前に構築された可能性が高い。

（坂本 洋一）

第337号住居跡（第805・806図）

<位置と確認> CR-119・120グリッドに位置している。第III層中にロームの盛り上がる部分を検出した。

<重複> 第333号住居跡と重複しており、本住居跡が古い。

<平面形・規模> 南側の壁は調査区外にあり、北側は重複のため明らかでないが、長軸5m以上、短軸4m程の楕円形と思われる。

<壁・床面> 壁高は北壁側で20cm、西側で30cm程である。床はほぼ平坦である。

<壁溝> 北壁下で検出した。幅10～20cmで、深さは2～8cmである。

<柱穴> 21個のピットを検出した。深さはP₁…61cm、P₂…16cm、P₃…19cm、P₄…16cm、P₅…34cm、P₆…16cm、P₇…13cm、P₈…11cm、P₉…10cm、P₁₀…31cm、P₁₁…31cm、P₁₂…20cm、P₁₃…32cm（深さ10cm程度以上のもの）である。以上のピットは、P₈・P₉を除き小さいものも柱穴様のものである。なおP₁₀～P₁₃は床を剥いで確認した。また、P₁と対応するピットとして第333号住居跡のP₃が考えられる。これは上面に炉の焼土が被っていたため、第333号住居跡に伴わない可能性がある。

<炉> 床のほぼ中央で長軸1m、短軸80cm程の地床炉が検出された。これは非常に堅く締まっており、2層になっていて、下部の炉には西側の貼り床の一部が被っていた。

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> 上面の埋め戻されたようなローム層除き、ローム混じりの暗褐色土ないし褐色土

である。かなり乱れた層である。

<出土遺物> 第3層中からは剥片やチップが多く出土した。(坂本 洋一)

第338号住居跡 (第816～818図)

<位置と確認> CT-119グリッドに位置している。トレンチで確認した。

<重複> 第339号・第684号土壌、倒木痕と重複している。第339号住居跡・第684号土壌・倒木痕より古い。

<平面形・規模> 残存部分から推定して、南北両壁の間隔は2m 60cm程ある。

<壁・床面> 壁高は北側で10cm、南側で20～30cm程である。床は北側が南側より10cm程低い。

<壁溝> 検出されなかった。

<柱穴> 7個のピットを検出した。深さはP₁…69cm、P₂…21cm、P₃…11cm(深さ10cm程度以上のもの)である。P₁・P₂は柱穴である。

<炉> 検出されなかった。

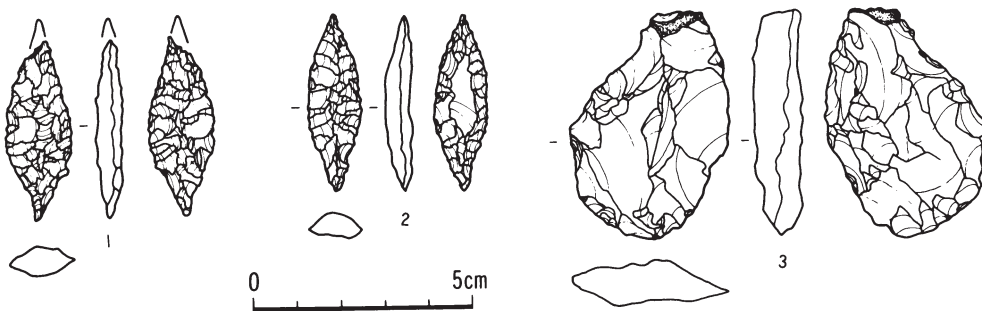
<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> ローム混じりの暗褐色土が主体である。

<出土遺物> 床面上には焼土と炭化材が遺存していた。石器は床面から石鏃1点、不定形石器1点、床面直上から石鏃3点出土した。

<小結> 本住居跡の構築時期は、重複関係から円筒上層e式期かそれ以前の可能性が高い。

(坂本 洋一)

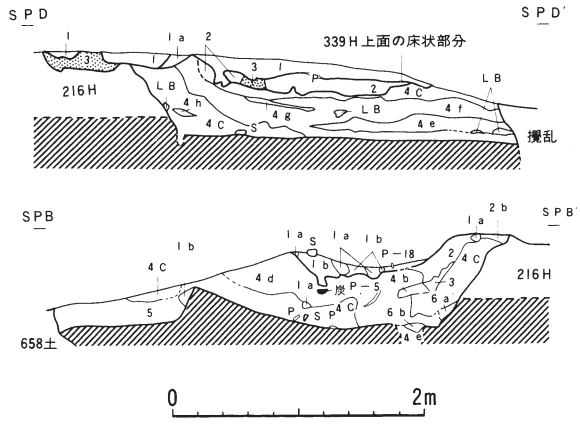
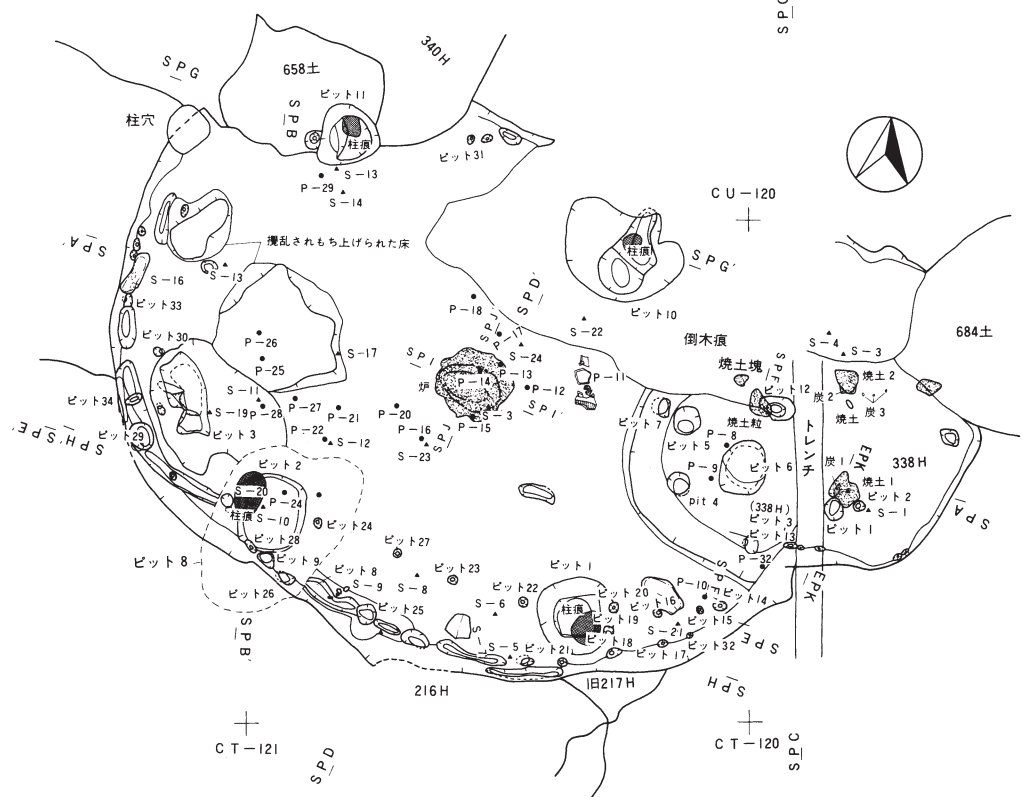
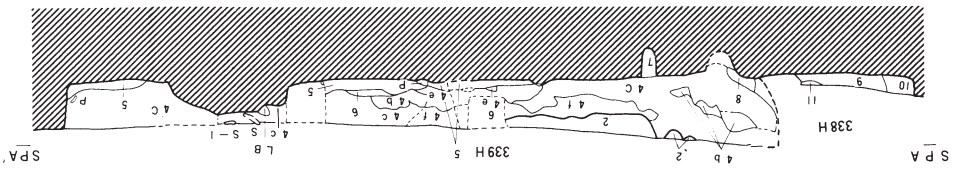


第816図 第338号住居跡(1)

第339号住居跡 (第819～823図)

<位置と確認> ほぼCT-119～121、CU-120・121グリッドに位置している。この一帯の暗褐色土の落ち込みの中にあり、トレンチにより確認した。

<重複> 第216号・第338号住居跡より新しく、第340号住居跡・第658号土壌・倒木痕より古い。

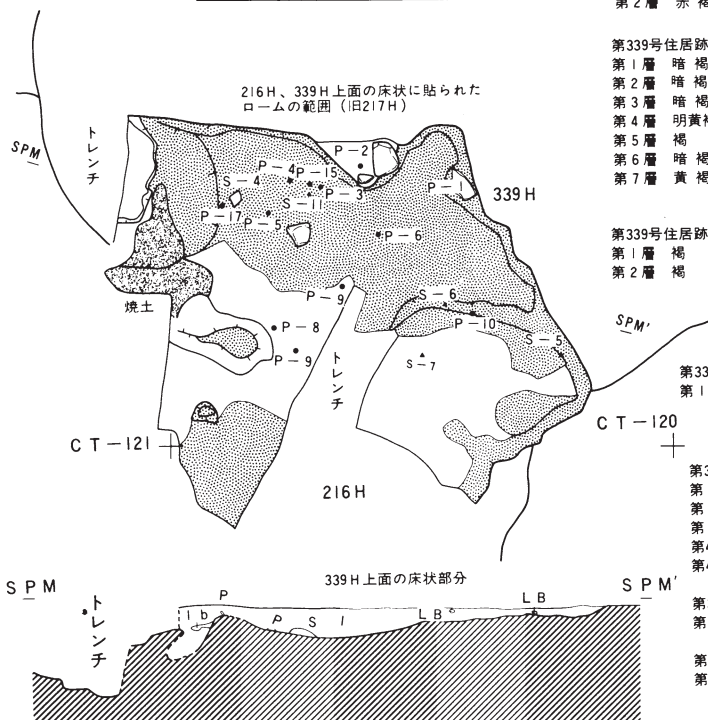
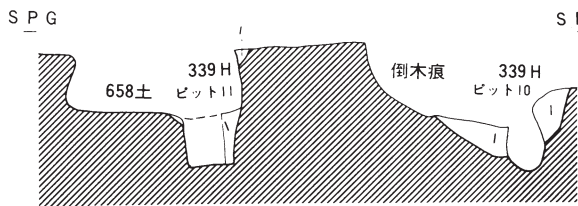
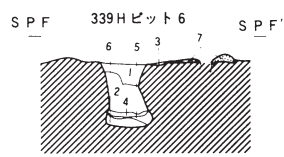
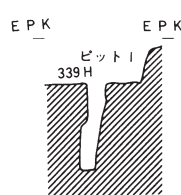
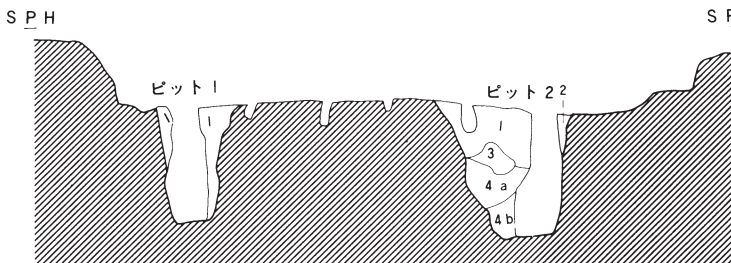
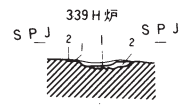
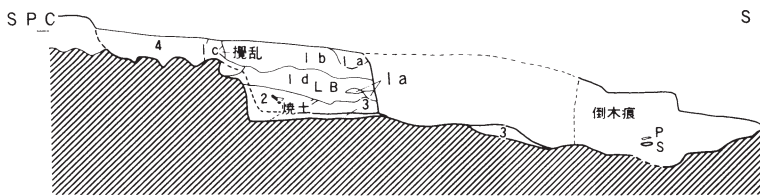


第338、339号住居跡土層注記

第1層	褐色	10YR 8/4	ローム粒多量
第1a層	褐色	10YR 8/4	ローム多量
第1b層	黄褐色	10YR 8/6	ローム多量
第2a層	暗褐色	10YR 5/3	ローム多量、焼土多量
第2b層	褐色	10YR 6/4	ローム多量、焼土多量
第3層	明黄褐色	2.5Y 8/4	ローム多量
第4a層	暗褐色	10YR 5/3	ローム多量
第4b層	暗褐色	10YR 5/3	ローム多量
第4c層	暗褐色	10YR 5/3	ローム多量、炭多量 ~10mm L、B 多量
第4d層	暗褐色	10YR 5/3	ローム多量
第4e層	暗褐色	10YR 5/3	ローム多量、4dよりしりまなし
第4f層	黒褐色	10YR 3/2	ローム多量、焼土微量
第4g層	黒褐色	10YR 3/2	ローム少量
第4h層	暗褐色	10YR 5/3	ローム多量、炭化物多量
第5層	黒褐色	10YR 3/2	ローム多量
第6a層	暗褐色	10YR 5/3	炭多量
第6b層	暗褐色	10YR 5/3	炭、ローム多量
第7層	暗褐色	10YR 5/3	炭多量
第8層	黒褐色	10YR 3/2	ローム中量、炭化物少量
第9層	暗褐色	10YR 5/3	炭化物少量、焼土微量
第10層	褐色	10YR 6/4	ローム中量、炭化物少量
第11層	暗褐色	10YR 5/3	炭化物少量、(~30mm)焼土多量

9、10、11層は、338号住居跡

第817図 第338、339号住居跡(1)



第339号住居跡 (SPC-SPC') 土層注記
 第1a層 暗褐色 10YR% ~20mm L : B 30%
 第1b層 暗褐色 10YR% ~10mm L : B 多量
 第1c層 褐色 10YR% ローム多量
 第1d層 暗褐色 10YR% ~10mm L : B 多量、焼土微量
 第2層 黒褐色 10YR% ローム中量
 第3層 暗褐色 10YR% ローム多量
 第4層 暗褐色 10YR% ローム多量

第339号住居跡炉土層注記
 第1層 暗褐色 10YR% 炭化物中量、焼土中量
 第2層 赤褐色 5YR% ローム少量、炭化物微量

第339号住居跡ピット6土層注記
 第1層 暗褐色 10YR% ローム多量、炭化物少量
 第2層 暗褐色 10YR% ローム多量、炭化物少量
 第3層 暗褐色 10YR% ローム多量
 第4層 明黄褐色 10YR% 炭化物微量、焼土微量
 第5層 褐色 10YR% ローム多量、炭化物少量
 第6層 暗褐色 10YR% 炭化物少量、焼土微量
 第7層 黄褐色 10YR% 暗褐色土中量

第339号住居跡上面床状部分土層注記
 第1層 褐色 10YR% ローム多量
 第2層 褐色 10YR% ローム多量、1層より粒径小

第339号住居跡ピット1土層注記
 第1層 黄褐色 10YR% 炭化物微量、焼土微量

第339号住居跡ピット2土層注記
 第1層 褐色土 10YR% 炭化物少量、焼土微量
 第2層 黄褐色土 10YR% 炭化物微量
 第3層 褐色土 10YR% 炭化物少量、焼土微量
 第4a層 黄褐色土 10YR% 炭化物少量
 第4b層 黄褐色土 10YR% 炭化物微量

第339号住居跡ピット10土層注記
 第1層 黄褐色 10YR% 暗褐色土微量

第339号住居跡ピット11土層注記
 第1層 黄褐色 10YR% 暗褐色土少量

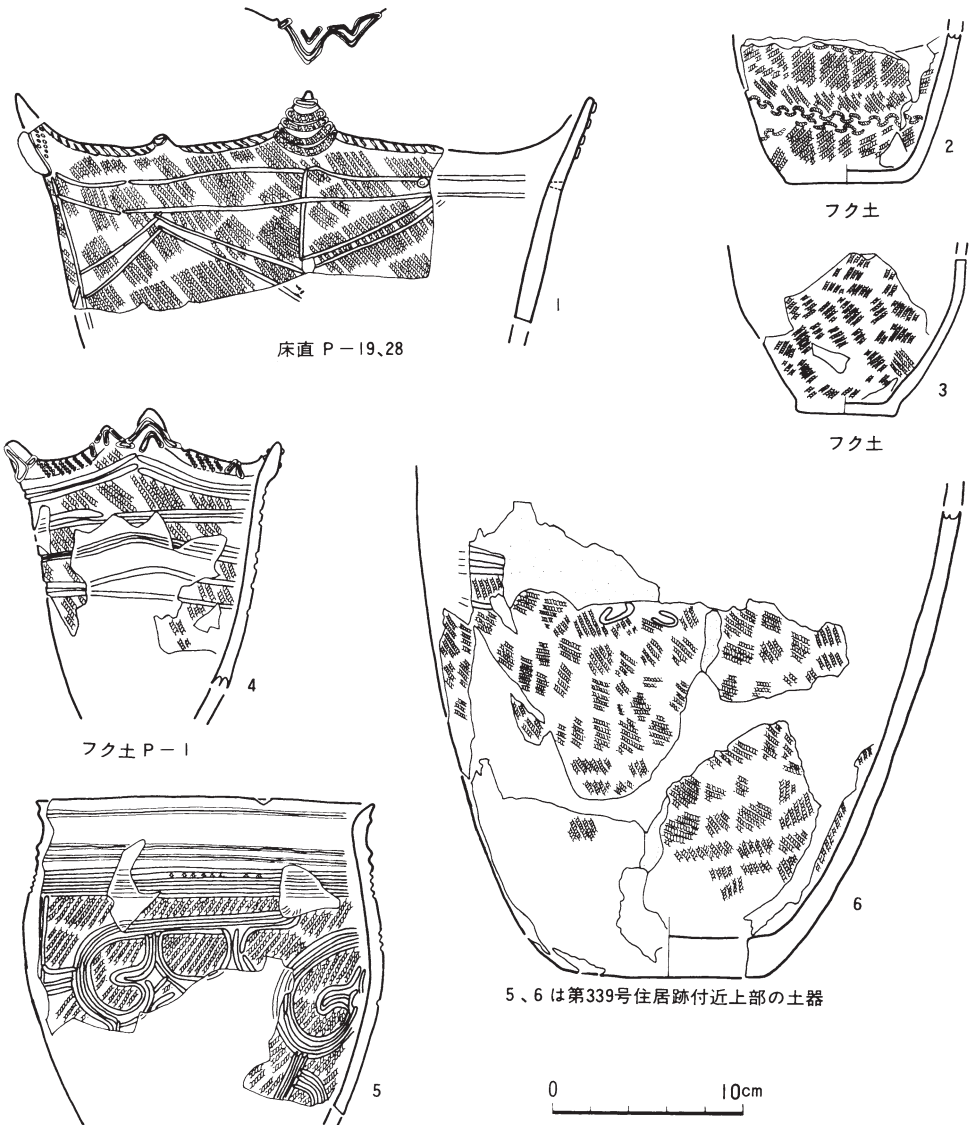
第818図 第338、339号住居跡(2)

<平面形・規模> 北側がかなり破壊されて不明であるが、長軸6 m10cm、短軸4 m10cmの楕円形と思われる。

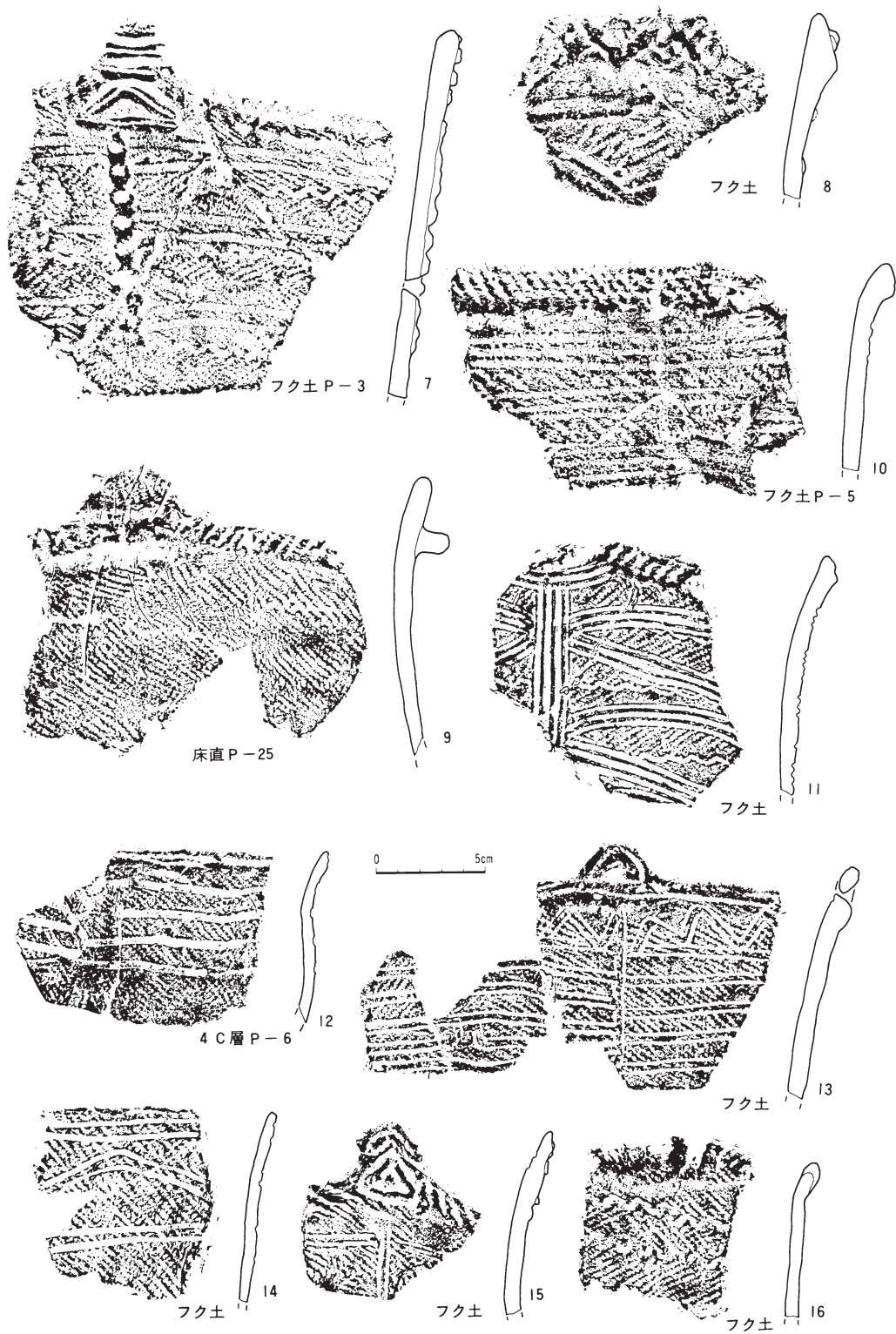
<壁・床面> 壁高は北側で10cm、南側で30~60cmである。床はほぼ平坦であるが、西側は攪乱により持ち上げられて盛り上がっている部分がある。

<壁溝> 南側と西側で断続的に検出された。幅5~20cm、深さ10cm程である。

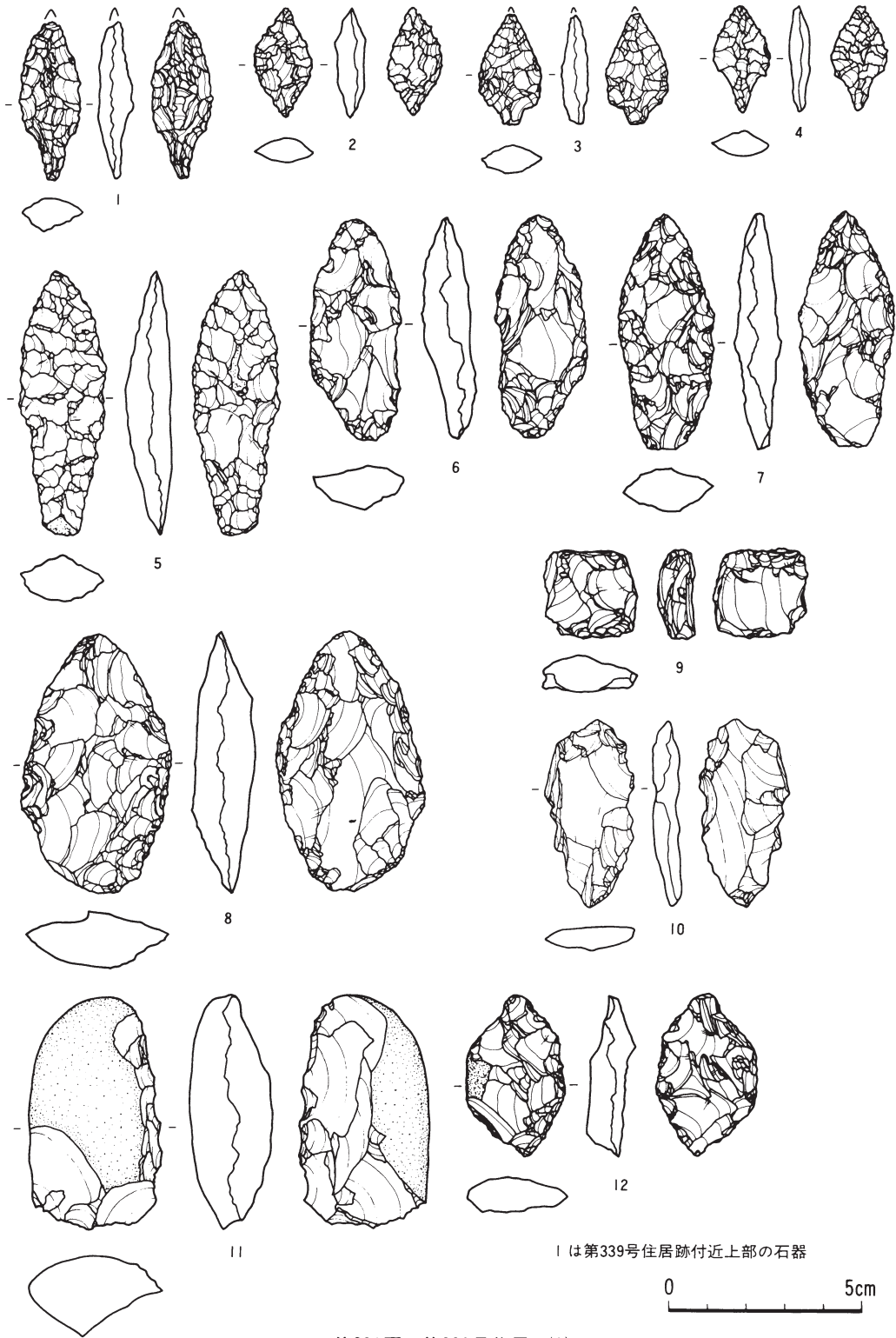
<柱穴> 45個程のピットを検出した。深さはP₁…100cm、P₂…97cm、P₃…5cm、P₄…20cm、P₅…22cm、P₆…51cm、P₇…27cm、P₈…19cm、P₉…16cm、P₁₀…100cm、P₁₁…95cm、P₁₂…21cm、P₁₃…22cm、P₁₄…10cm、P₁₅…17cm、P₁₆…10cm、P₁₇…8cm、P₁₈…10cm、P₁₉…11cm、P₂₀



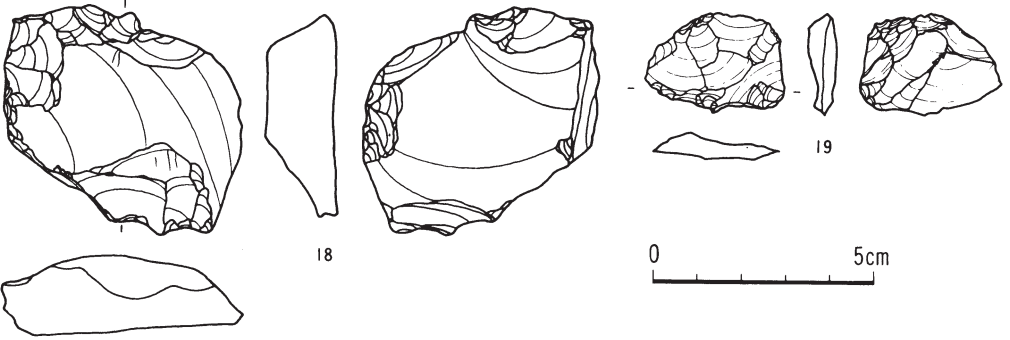
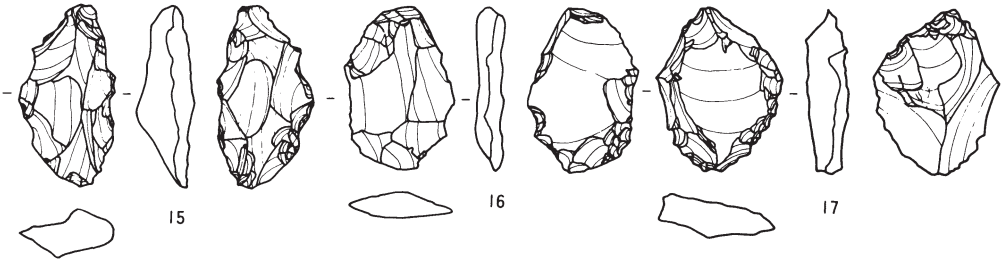
第819図 第339号住居跡(1)



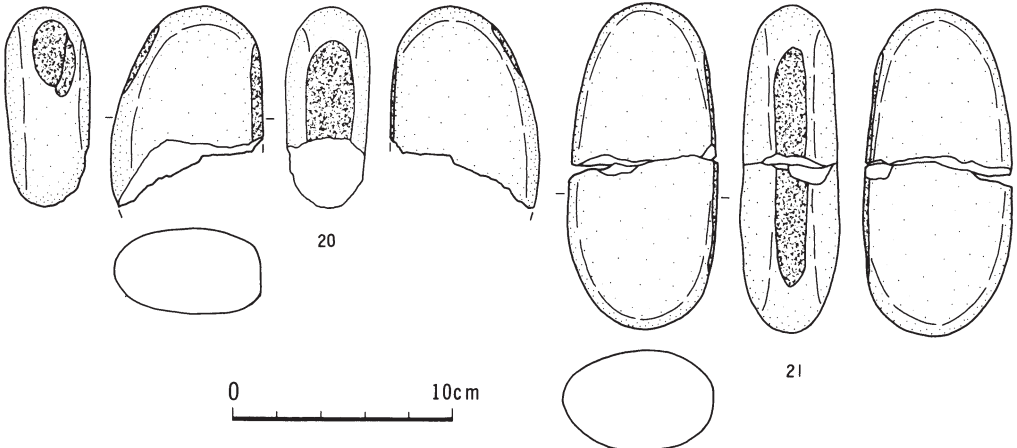
第820図 第339号住居跡2)



第821図 第339号住居跡(3)

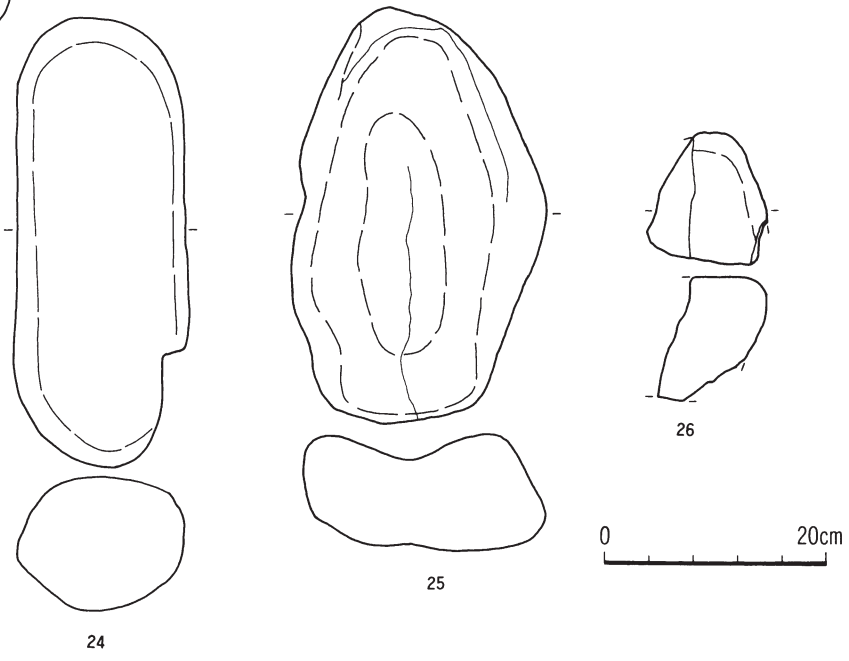
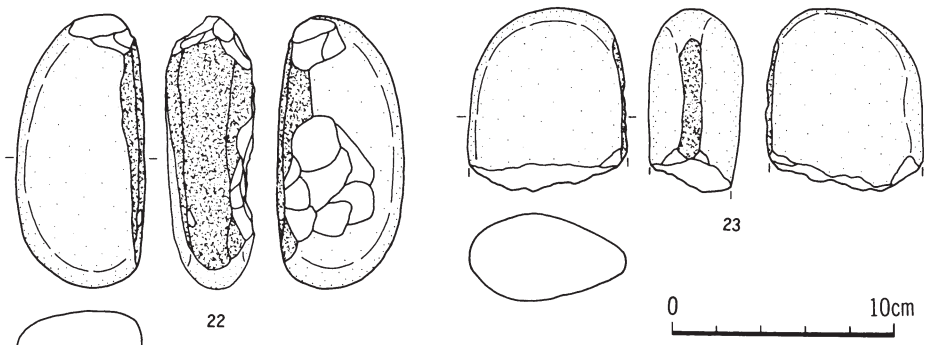


0 5cm

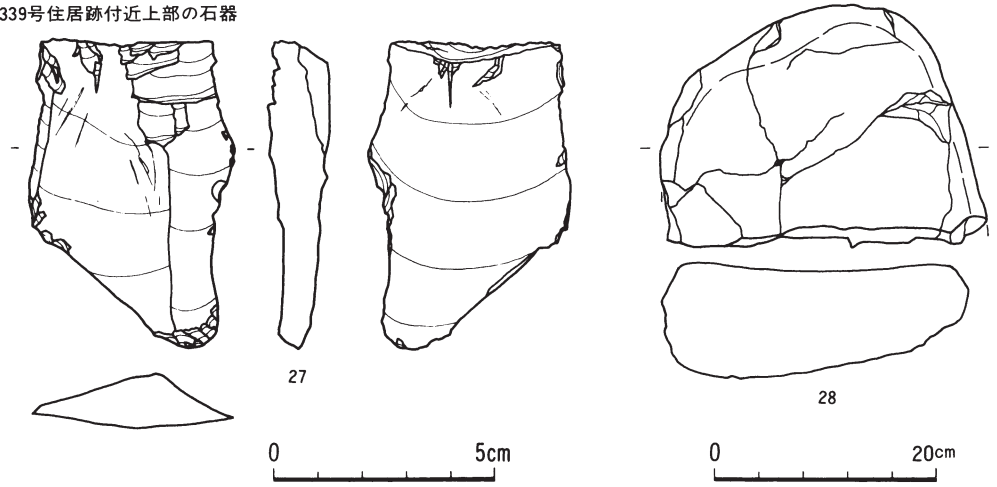


0 10cm

第822图 第339号住居跡(4)



第339号住居跡付近上部の石器



第823図 第339号住居跡(5)

…16cm、P₂₁…15cm、P₂₂…11cm、P₂₃…20cm、P₂₄…22cm、P₂₅…19cm、P₂₆…12cm、P₂₇…8cm、P₂₈…10cm、P₂₉…14cm、P₃₀…14cm、P₃₁…12cm、P₃₂…7cm、P₃₃…17cm、P₃₄…16cm（深さ10cm程度以上のものである。以上のピットは、P₃を除き小さいものも柱穴様のものである。なおP₁・P₂・P₆・P₁₀・P₁₁は柱痕が確認され、P₃₃・P₃₄は床を剥いで確認した。

〈炉〉 地床炉が床面中央にある。長軸60cm、短軸55cmの楕円形で、中央が5cm弱窪んでいる

〈特殊施設〉 東側に位置する。半円状の貼り付けと内部中央に大きいピット（P₆）があり、そのほかにも数個のピットがある。

〈堆積土〉 ローム混じりの暗褐色土が主体でおおむねレンズ状の堆積である。なお、本遺構及び第216号住居跡の上部にロームを貼って堅く締まった床状の部分（この部分は旧番号第217号住居跡）があった。

〈出土遺物〉 床面直上から円筒上層e式土器が出土している。石器は床面から石槍1点、石皿・台石類1点、床面直上から石鏃3点、石槍2点、不定形石器8点、敲磨器類1点、石棒1点、覆土から石鏃3点、ピエス・エスキュー1点、不定形石器16点、敲磨器類1点、石皿・台石類4点、第1層から敲磨器類1点、第4層から敲磨器類1点、ピット3より石槍1点、ピット6より不定形石器1点、総数46点出土した。南東側床面に石皿状の礫があり、南西側床面には棒状の礫が南に傾いて立っていた。

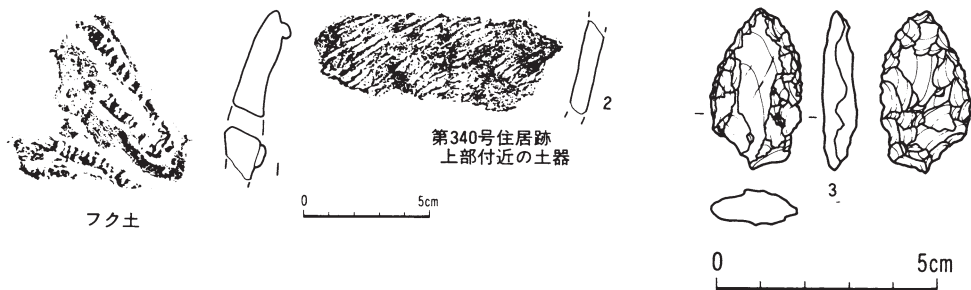
〈小結〉 本住居跡は床面直上の土器から円筒上層e式期か、それ以前に構築された可能性が高い。（坂本 洋一）

第340号住居跡（第786・787・824図）

〈位置と確認〉 CU-120・121グリッドに位置している。この一帯の暗褐色土の落ち込みの中で確認した。

〈重複〉 本住居跡は第406号・第437号住居跡・第658号土壇よりも古く、第339号住居跡より新しいと思われる。

〈平面形・規模〉 北半が欠失しているため全体はわからないが、南壁が4mの方形と思われる



第824図 第340号住居跡

る。

<壁・床面> 壁高は10～20cmである。床は北側が南側に比べて数cm低い。

<壁溝> 断続的に検出された。深さはほぼ数cmで、南側の中央は10cm程である。幅は数cm～20cmである。

<柱穴> 10個程のピットを確認した。P₁は第406号住居跡に伴う可能性もあるものであるが、深さ30cmである。他のものの深さは10cm未満である。

<炉> 検出されなかった。

<特殊施設> 検出されなかった。

<堆積土> 主にローム混じりの暗褐色土である。

<出土遺物> 覆土から円筒上層d式土器が出土している。石器は覆土から不定形石器1点出土している。

(坂本 洋一)

